

R903.3 - B898 7

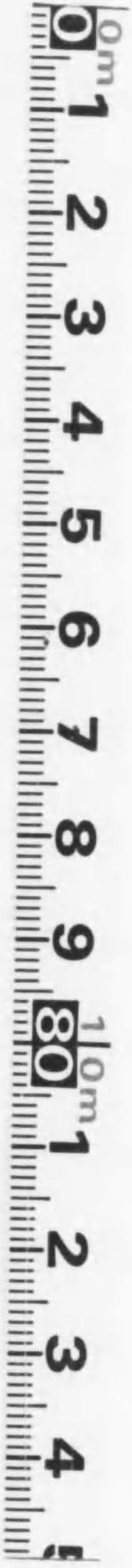


1200501501288

R903.3
B898
⑦

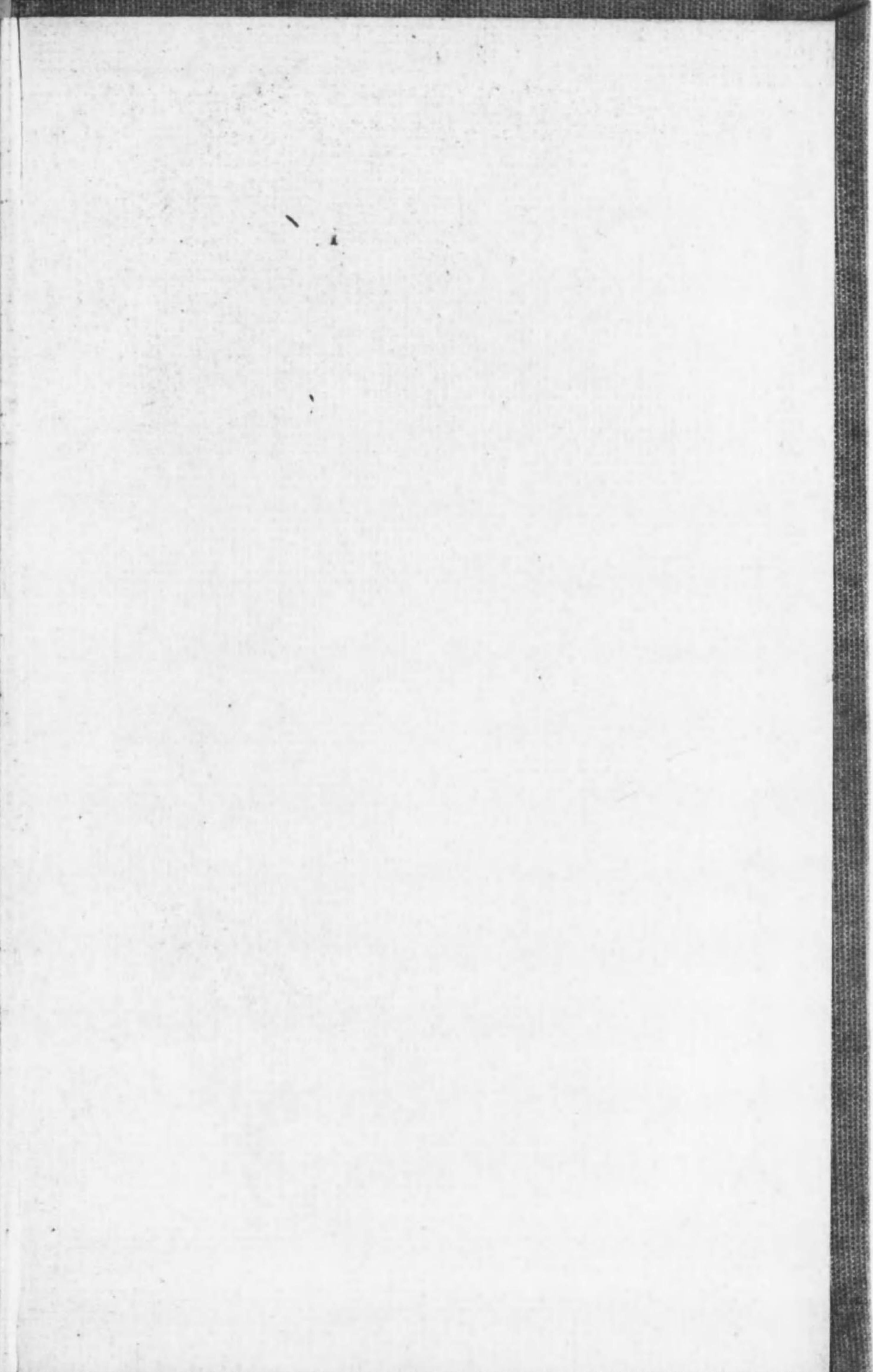
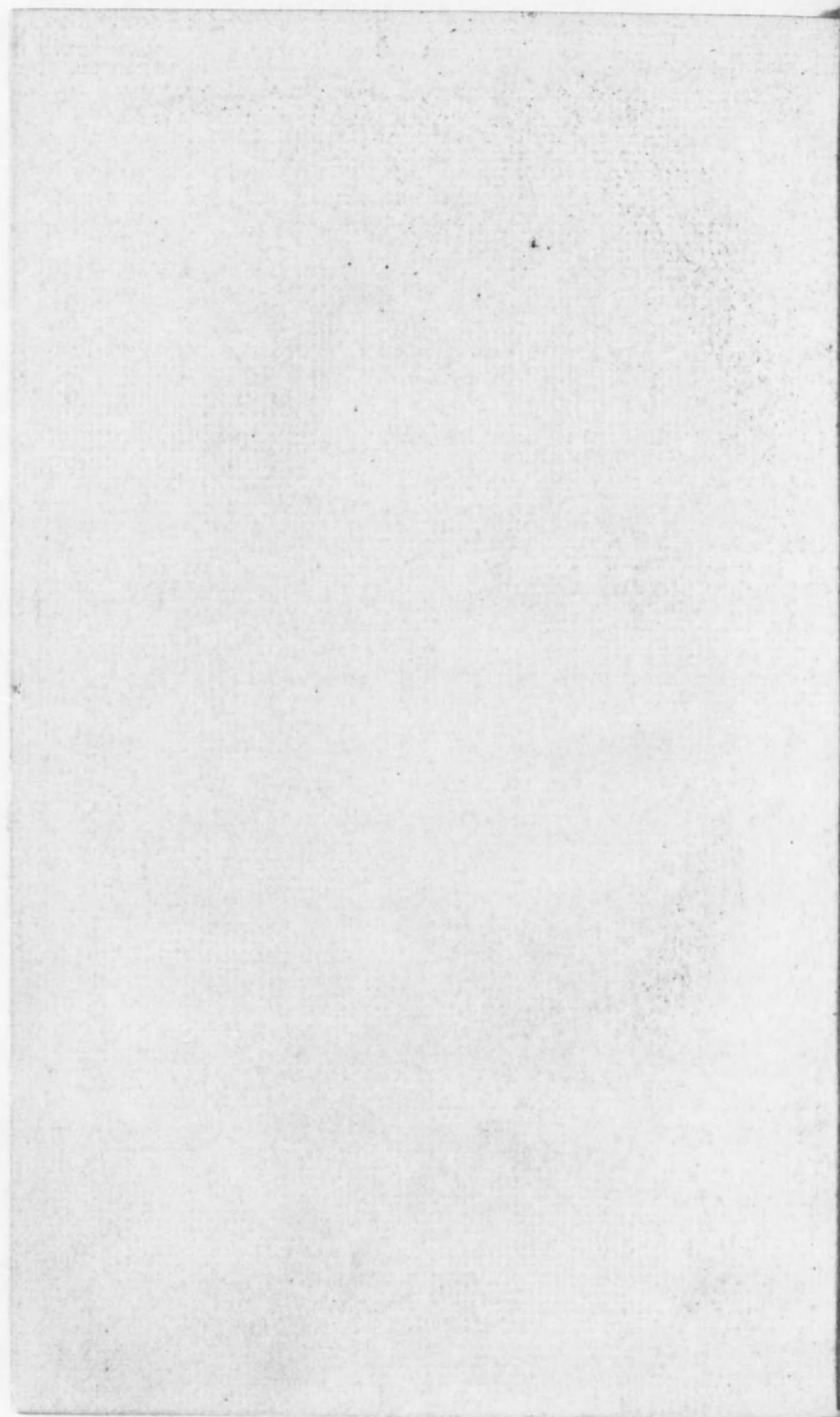
文藝辭典

創元社編



始



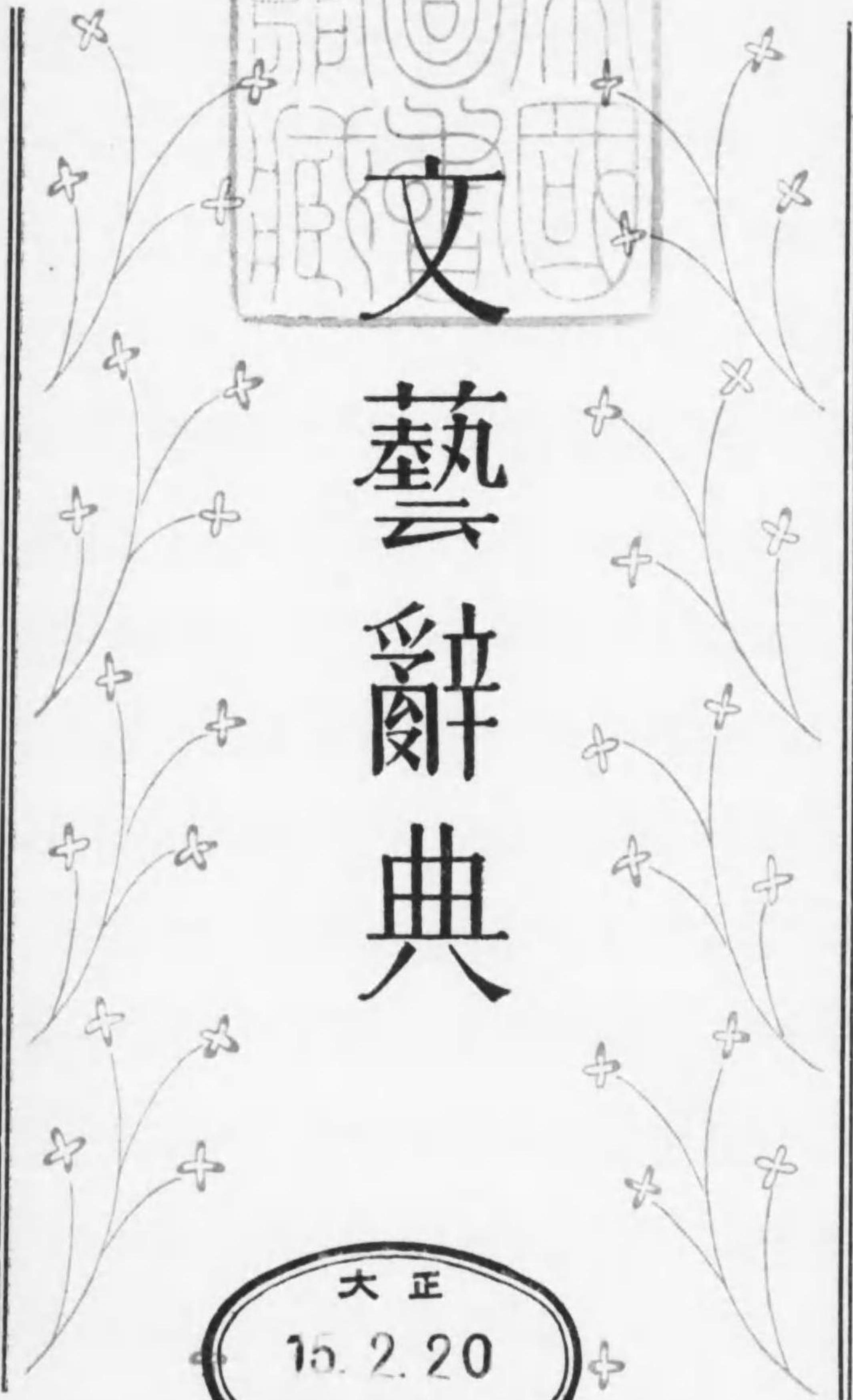


R
903.3
B898



文

藝
辭
典



大正
15. 2. 20
購求

770-31

凡 例

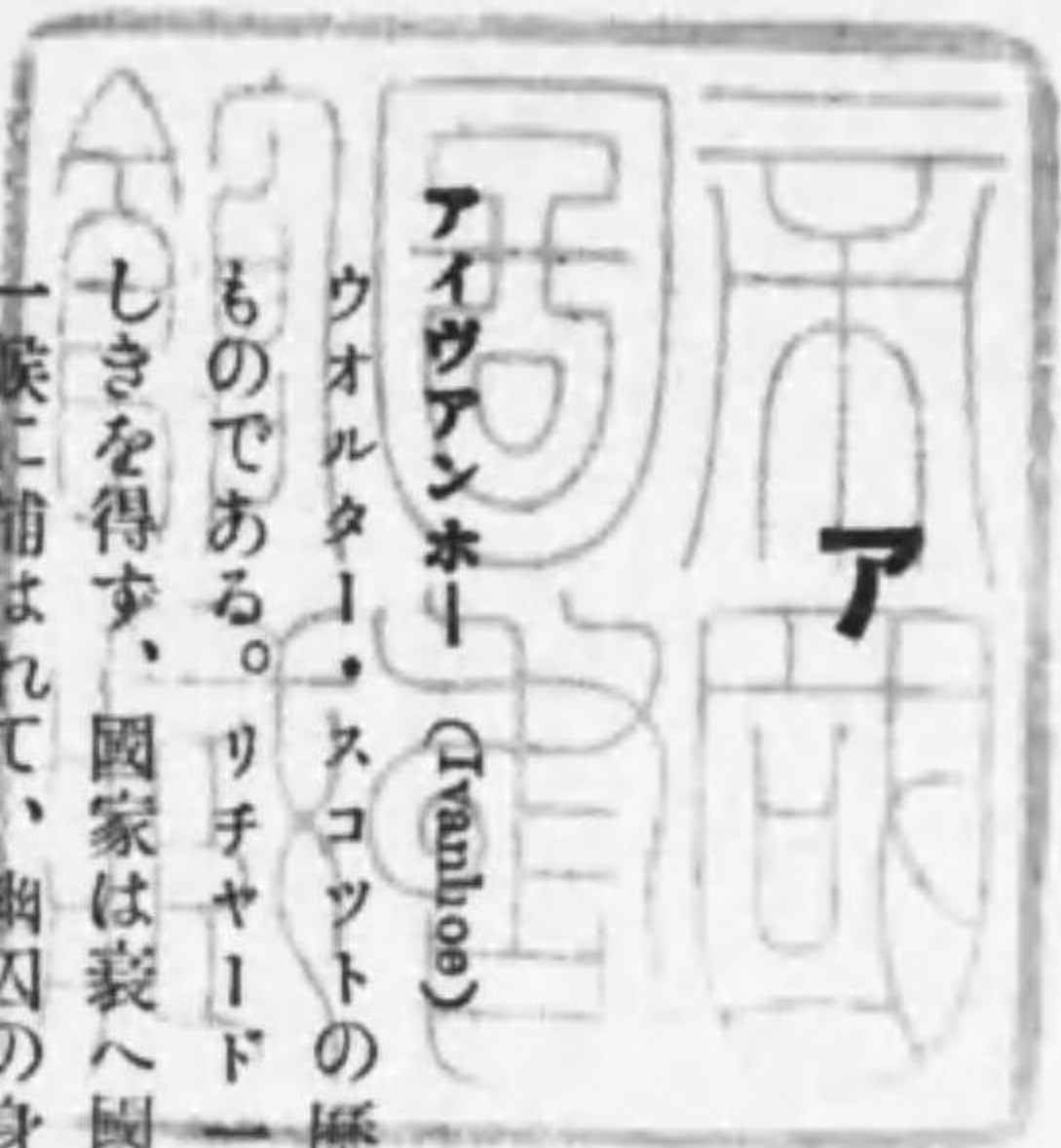
- 一、本書は近時藝術に關する智識的要求の著しく増加せるに鑑み、藝術上の主義、學說、流派等を廣く蒐め簡單な解説をほどこし、小藝術百科辭典として一般人の便に供せんとするものである。
- 一、音樂のみ、或は文學のみの辭典は我國にも數種あるが、一般藝術上の智識を一巻の中に網羅せる著書なきを省み、本書は、特に此點に留意し、藝術一般と云ふ廣い立場から此書を編んだ。
- 一、本書は文學、繪畫、彫刻、建築、音樂、演劇などより項目を蒐めたものであるが、其他、世界的な名作の梗概及思想上の重要な主義學說をも加へて大体の解説を試みた。
- 一、外國語は概ね英語を用ひたが、元來が獨逸語、佛蘭西語である言葉は其まゝ用ひ、下に獨、佛、伊等の略字を附した。

- 一、外國語の素養なき人の爲に普通用ひられる文藝上の外國語を特に「ア」或は「イ」項等の最後に蒐めて解釋を附した。
- 一、卷末に附録として「藝術家略傳」を加へた。世界的な文學者、美術家、音楽家は概ね網羅されてゐると思ふ。
- 一、本書一卷で廣汎な文藝一般の智識を收めんとすることは、かなり無理な計畫であり、又それだけ誤脱の個所もあると思ふ。しかし版を重ねる都度完備させて行きたいと思ふ。

大正拾四年五月

編者しるす

文藝辭典



アイヴァンホー (Ivanhoe)
 ウォルター・スコットの歴史小説中最も名高きものである。リチャード一世の時、政治その宜しきを得ず、國家は衰へ國王はオーストリアの一侯に捕はれて、幽囚の身となつた。其時、國を救ひ王を助けんとする者續出したが、本篇の主人公アイヴァンホーはその一人であつた。封建時代を背景として、代表的騎士なる主人公を

アイヴァンホー

描寫してゐる。

アイオ (Io)

アイオは又イオーとも云ふ。アルゴス市の創建者アイナカスといふ河神の女である。(希臘神話)

アイオニアン畫派 (Ionian Painting School)

希臘畫派の一で、紀元前六世紀頃から存在してゐたものである。ペロポネサス戦争後有名になつた。殊に有名なのは葡萄を描いて小鳥を欺いたツオイクス、幕を描いてツオイクスを欺いたバアラシオスなどである。

アイコノクラスト (Iconoclast)

偶像破壊者の意。歴史上に於てアイコノクラストは其名の如く偶像を破壊した。此の名が始めて用ゐられたのは、八世紀頃教會の偶像に反對して破壊した、ビサンチン皇帝に對してである。偉大なアイコノクラストとして知られてゐるのはフローレンスの傑作と稱せられる多くの像を

破壊したサボナローラーである。其後英國で、ヘンリー八世時代の宗教改革にたづさはり寺院の所藏美術品までも毀した人々も此の名を得、其後拾七世紀のアイコノクラストなる清教徒も再び前記の様なことを行つた。近代人間の自覺が高まり科學が進歩して昔の人が崇拜した偶像に何の價值も置かなく破壊してしまふ。又思想界に就て云へば、哲學宗教道德の絶對權威としてただ傳習的に崇拜してゐた神とか從來の道德又信條を無視する様になる。近代科學精神の勃興は各人に智識的覺醒を起さしめ此の事が盛んに行はれた、前述の意味から轉じて、近代此を行ふ人をアイコノクラストと云ふ。

絞開 (Iris-out) (映畫劇)

絞開の反對に、畫面の周圍から中央に圓く絞りながら閉ぢるか或は畫面の一方の端から閉ぢるを云ふ。即ち普通の芝居に於ける幕を閉ぢると

同様である。

絞開 (Iris-out) (映畫劇)

映畫中、或る最初的情景を現はすに畫面の中央、或は畫面の一方の端から次第に開けて行くを云ふ、即ち普通の芝居に於ける幕開きと同じ用をなす。

アイーダ (Aida)

伊太利のヴェルディ作曲に成る代表的歌劇。埃及軍の士官ライダメースが、敵國人なるアイーダと相愛の仲となつた。それと知た埃及女王アムネリスは怒り、士官を死刑に所した。アイーダはそれを聞いて、戀に殉ずると云ふ美しいローマンスである。

アイル (Aisle)

脇間。基督教寺院及其他同型の建築物では、中央の間をネーブと稱し、それに對し脇間をアイルと云ふ。

愛蘭劇 (Irish Drama)

愛蘭劇の起たのは最近の事で、これは政治上の運動と等しく、英國の習俗的羈絆から脱れやふとする運動である。愛蘭の素朴な現實生活と共に、傳説と歴史に傳えられた過去の榮光と神秘が、愛國的な國民的自覺に結びついて、ケルト文藝復興として現はれた(同項参照)其は詩に、論文に、研究に、そして最後は劇に高調された、此は飽まで人爲と華飾とから、自然にかへる運動であつた。

愛蘭劇の運動は一九〇一年に、イエーツやグレゴリー夫人等に由つて創められた愛蘭文藝座(後には愛蘭國民劇協會)に始まる。戯曲制作の氣分がこれに由つて昂められ、ポイル、コレー、シング、等の新劇作家が活動を始め、ジョウジ・ムーアは此運動を勵まし、又ダグラス・ハイド。その他古代ゲリック語復活に熱心な人達は、

アイル

愛蘭語の劇をも書いた。

劇の題材にも形式にも「自然に歸れ」との標語が高調され、一切の舞臺的技巧を無視し、眞率自然を以て劇の規範とした。イエーツの「理屈と目的の時代に、いゝ藝術の無邪清淨を高調する」といふのが、愛蘭劇の全部であると云つてよい。愛蘭劇には凡そ三種類がある。一は寓喩的哲理的な象徴劇で、イエーツに由つて代表される。二は國の史實を英雄崇拜の精神で取扱はれた劇、グレゴリー夫人に由つて代表される。三は農民生活の劇、重に喜劇でシングに由つて代表される。

イエーツの作品「心願の國」「暗い海」「見知らぬ人」「砂時計」等の韻文劇、及散文劇「何も無い國」等は有名である。

グレゴリー夫人の作品「牢屋の門」「マクドノアの妻」「噂のひろまり」「貧民院」「月の出」

アイル——アライ

喜劇「デヴォルジラ」國史劇「キンコーラ」等は有名である。

早世したシングの作品は、数は少ないが佳作が多い。「谷間の影」「海への騎士」「聖者の泉」「西の世界の鬼小僧」「鑄掛屋の婚禮」「悲しみのチーヤダー」等がある。

其他ロビンソンの作「十字路」「愛國者」「收獲」等。マレーの作「長男の権利」「モーリス・ハート」等もある。

イエーツ、グレゴリー。シング以後、愛蘭劇の新星として、ダンセニー卿がある。「きらめく門」「アルギメネス王と無名の戦士」「金文字の宣言」「アラビヤ人の天幕」「山の神々」等は有名な作である。其他農民劇「田舎の仕立屋」の作者フイツ・モーリス。「旅の唄うたひの子」の作者オケリー。「雑婚」「ジョン・ファガソン」の作者アーヴィン等も有名である。

愛蘭音楽 (Irish music)

アイルランド特有の楽器が二個ある。アイルランドハープ(縦琴)、バグパイプ(風笛)である。ハープは三角形で三十乃至五十の絃を有したもので、此は愛蘭國旗の圖案に用ゐられてゐる。パイプは風囊で風を送り、半音階になつて、音高はCからGまでである。

アインフェールンク (Ein Finn) (獨)

感情移入説(同項参照)

青い鳥 (L'Oiseau bleu) (佛)

ベルギーの文豪メーテルリンクの作。名高き童話劇である。幼い兄弟が夢の中に光明に伴はれ、幸福の象徴である青い鳥を探して歩くと云ふ劇

青い花 (Die blaue Blume) (獨)

拾九世紀浪漫派の詩人ノヴァリスが、最高の存在と、最高の戀愛とを「青い花」に象徴化して以來理想の代名詞の如く用ゐられる言葉である。

アヴェ・マリヤ (Ave maria) (音)

「祝福されしマリヤ」の意で、聖書の言葉である。七世紀頃より聖マリヤの徳を、讚美する聖歌の表題に用ひられ、シウベルト。グノーのアヴェ・マリヤはその有名な傑作である。

青騎士派

カンデインスキーを中心として、形造られた、「新藝術家同盟」が一九一一年、展覽會出品畫の審査問題から、団体は二分しカンデインスキーは、フランツ・マルクと共に、別の団体を組織して、青騎士派と稱へた(コンボジシヨナリズム参照)

アカデミー (Academy)

往古希臘の哲學者プラトーンが、弟子を教へたアテネ北西の地、所有者アカデマスの名に由つてかく名づけられた。彼の繼承者をアカデミクスと云ひ、其學派をアカデミー學派といふ。然し

アヴェ——アカデ

今は美術、文學、科學の會、又は學校の名によく用ひらる。歐洲に於ける最初の美術アカデミ

ーは一三五四年ヴェニス畫派の人々の創めたセント・リユーク會である。巴里にセント・リユーク會が出来たのは一三九一年のことで、後王の保護のもとに組織され美術學校の基をなした、

アカデミー・オブ・セント・ルーク (Academy of St. Luke)

聖ルカは、中世紀の人々より畫家として、同時に又畫家の保護者として尊敬された。故に美術家の最初の結社は、セント・ルークの名の下に設けられた。一三四五年、フロレンスにてヴェニス派の畫家に由つて創立され、一三九一年美術學校の基を成す同名の結社がバリーに設立さるるに至つた。

アカデミー式建築 (Academic architecture)

佛國に起つた建築の一様式である。拾八世紀の中葉、即ちルイ拾六世の治世に起り、ナポレオン

アカテ—アクノ

一世の時代、發達の頂點に達した。前世紀の自由な様式の反動として、生じたもので其特質は、アカデミツクな調つた様式ではあるが、創意や情操を缺いてゐると云はれる。

アカデミツク (Academie)

藝術の批評又は藝術の様式を表はす概念に用ゐらるゝ、傳統的な教訓を正確に守らせるを意味す。普通官學的、學究的なその意味に用ゐらる。

アガメンノン (Agamemnon)

希臘神話中の人物で、ミセニー國の王であり、トロイ戦争の時希臘軍の總大將であつた。彼は女神アルテミスに怒を宥めんため、娘を犠牲に獻じやうとした。其時彼女はアルテミスに由つて天に取去られたといふ。其後彼は妻と情夫アキレスの陰謀に由つて殺された。

アガメンノン (Agamemnon)

希臘の悲劇作家エスキュラスの有名な悲劇であ

る。アガメンノンは十年のトロイ戦争に勝利を得て歸ると、番兵が烽火をあげてそれを報じる。王妃クリテムネストラは、夫の戦勝を祈るため、一子イフィゲニアを神に犠牲とした事を聞いて王は憤る。王妃はエギスサスといふ男と姦通してゐたため、凱旋した王アガメンノンを欺いて殺害する。戦の捕虜となつて來たカサンドラ皇后が、其子オレステスに嚮て復仇さるべきを豫言する。といふ筋のものである。

アーキレス (Achilles)

希臘傳説の勇士。トロイ戦争にてアガメンノンと共にトロイ人を破る。後パリスにて踵を傷けられて死す。「イリヤッド」は此勇士を中心に書かれたものである。

悪の華 (Les Fleurs du Mal) (佛)

浪漫派の最後の人で、神秘象徵の始祖と稱へられた、佛人ボウトレエルの詩集「悪の華」をい

ふ。彼は常に、死、頹廢、暗黒、怪異、腐肉などの、不健全で醜穢な方面に詩境を求めた。彼は恐怖の美を歌ふ詩人であつた。それ故人々はこの詩集を「地獄の書」「罪惡の聖書」とするのであつた。佛蘭西詩人をはじめ、現代ゴッセルハレンに至るまで、歐州近代詩人で、彼の感化を受けぬ者はないと云はれてゐる。

悪魔派 (Dialolist)

唯美主義の一面を極端にしたもので、美を善惡の批判から超越せしむるのみならず、惡を讚美する思想を含んで來た。怪異、陰奇、悽愴、暗黒を好んで歌ひ、鴉片、アブサンの香に酔ひ病的、人工的、強烈な刺戟を求め、殊更に不健全な醜惡な方面に詩美を求め、「惡の華」の詩人ボードレエル等は此派の代表的人物である。然かし此の派の詩境を初めて開拓した詩人は「鴉の歌」の作者、米人ボウであつた、其の怪異な

アクマ—アクワ

病的傾向、短詩形の主張 詩の音樂的方面に重きを置くこと、など後に起つた英國の耽美派、佛のボードレエル一派に偉大な感化を及ぼした。

悪魔詩派 (Gothic school)

此名稱はサウジイ其他の評家か、バイロンの詩に對して附したものであるが、後日此名稱の下にシェリー、キーツの兩人をも併せて呼ぶに至つた。

アクロポリス (Acropolis)

城砦の義で、古代希臘都市に於ける城砦を意味する。後アクロポリスの上に都市の守護神を祀つた神殿を造つた。アテネのアクロポリスは、希臘建築の模範とされて居る最も著名なもので、フィニアスの彫刻を以て飾られたバルテノンの祠、プロペレア、エレクテウム等の建造物がある。

アクワチント (Aquatint)

アサカー—アシー

非常に鮮明に出来る一種の彫版法。彫刻針によらず専ら腐蝕液に由る方法である。

朝から夜中まで (Von Morgens bis Mitternacht) (獨)

獨逸ゲオルグ・カイザアの作、表現派の戯曲である。一小銀行の會計係が六萬馬克の建築組合の預金を拐帯して、女に走り、或は競馬場に走り、或は一流の料理店に豪遊をなしたが、その度ごとに金で報ひられるものの價が餘りに僅少であつた。その夜救世軍に加入せる或る娘に伴れて其營所に行き兵士達の懺悔話を聞いて、感激に満ちて、朝からの自分の犯した罪のざんげをなし、其無價値と信する金貨や紙幣を其處にばら散くと、今迄靜蕭であつた集會が忽ち滅茶滅茶に混亂する。只彼れを伴れて來てくれた娘丈がこの群れに加入せずおとなしく腰掛の中に立つて居つたので、彼女こそと傍に近付くと、彼女も戸の外に出でて警官に彼を示す、彼は只

無用の努力をなした朝から夜中まで一つの圓を一周したに過ぎなかつたと獨り言を云ふ、ついに彼は出口を死に見出すと云ふ筋である。

アーサー王 (King Arthur)

英國の古い傳説的物語に出て居る有名なブリトン民族の王である。王拾二世として選ばれサクソン民族と戦ひ、常に勝利をつゞけてゐるが遂に重傷を負ひ、アベロン島に行つたが、今尙死せず時機を得て再び世に出て來るといふ傳説を始め、これに關する物語を集めた詩歌の類頗る多い、アーサー王物語は英國の名高き古典の一とされて居る。

アシーナ (Athena)

此神は羅馬にてミナアプ(Minerva)と云ふ空氣を司る女神であつて、兼て知識、藝術、戦争、平和等を主宰し、又都府を保護する。ジュピターの先妻メチスの腦より出でた神であるから、智識の

神となつたと云ふ。(希臘神話)

校倉

材木を横に組立て造つた倉で、奈良の正倉院は其最も典型的なのである。

アダム (Adam)

舊約聖書創世記の人物で、神に象られて造られたといふ最初の男、人類の始祖。その妻イヴの誘惑に由つて禁斷の樹の實を喰ひ、エデンの園を追放された。

アタランタ (Atalanta)

希臘神話中の人物、アルカジヤ王イアシウスの娘で、其容姿實に美しかつたが、ヴィナス神の命を守り男を避けて狩獵して居た。求婚者のある毎に駢足をして「自分に勝たば諾す」と云つた。ミランオン謀畧をもつて競争に勝つた、兩人は結婚し、新婚の快樂に耽て神への奉仕を忘れた。それ故神怒にふれて兩人獅子に化せらる、

アゼク—アツシ

といふ傳説。スインバーンの有名な詩にこれを題材としたものがある。(希臘神話)

アチック派 (Attic school) (彫刻)

古代希臘時代アテネが繁榮に赴くと共に、種々の建築彫刻の需用増加したため、イオニヤ地方及近海諸島より此地に集まり、遂にアチック派を作るに至つた。其人等は細長く優美にして、衣服の皺の非常に巧妙なこと、又仕上げについて技巧的の注意を拂つたことなどは特徴である。

前六世紀頃が最も隆盛であつた。

アツシンの聖者 (The Saint of Assisi)

聖フランシスを云ふ。一一八二年伊太利アツシシ町の、富める呉服商の家に生れ、非常に享樂的生活をしたが、二拾三才の時改心してから、宗教的な強い使命を信じ、一生聖貧の生活をして福音の道を傳へた。彼をフランシスカン派の創始者とする。

アッス——アツリ

アッスリヤの建築 (Assyrian Architecture)

アッスリヤの建築に關しては、今は其發趾あるのみであるが、其に由つては考察が出来る。主なる特色は材料に煉瓦を用いた事、迫持(アーチ)を發明した事等で、王宮及寺院が重なる建築である。殊に前者はアッスリヤの諸藝術を蒐めた建築物で、後者は其附屬物となつてゐた。王宮は非常に廣大なもので、セナケリブ王宮の如きは殊に然りであつたと云ふ。凡ての點が城塞的性質を帯び飾りも浮彫も戦争に關するものが多かつた。重要建築は地壇上に造られ、入口には人面獸身の巨像が置かれた。壇上には殿堂があり、其屋上には露臺があつて、天休觀測をしたものである。

アッスリヤの彫刻 (Assyrian Sculpture)

アッスリヤ彫刻は、重に建築裝飾で、圓彫は少なく浮彫が大部分である。その彫題は、帝王の

狩獵、馬、獅子、犬等の動物類で、よく慘忍なものが撰ばれてゐる。代表的彫刻とさるる、ニネヴェエ王宮の雪花石膏の、薄肉彫(パレリーフ)を見るに、獸性を讚美し、慘忍を歡ぶ性質を知る事が出来る。

アッスリヤの繪畫 (Assyrian painting)

カルデヤ繪畫を見よ。

アツリビユート (Atrihute)

屬性、又は附屬物との意。繪畫彫刻に云ふアツリビユートとは、其風景なり人物などに特色を與へるやうな附屬物で、文學者の側には書籍、畫家の横には繪畫といふが如き其の例である。裝飾美術に云ふアツリビユートは、或る特有のアツリビユートのみ集めて一圖案にしたもので、獵銃、杖、獲物等を組合せた狩獵の圖案。楯、甲、刀、鎗等より成る圖案を戰のアツリビユートと云ふ如き例である。

アトモスフィーア (Atmosphere)

地球又は天休の表面に存在する空氣をいふ。又凡て周圍の氣分、情調等を云ふ。雰圍氣。地方には其地の地方色があり、其處に特有なアトモスフィーアがあり、時代には其時代のアトモスフィーアがある。

アトロポス (Atropos)

「酷婆」の義である、運命を司る妖精の一人で、鉄刀を以て生命の絲を斷つを務めると云ひ傳へられて居る。(希臘神話)

アドニス (Adonis)

希臘神話中の美男でヴァイナス神に愛せらる、或時その誠に背きたるため野猪の牙にかゝりて死ぬ。神、これを悲しみ傷口より流るゝ血に神酒を注げば、血は紅色の花となつた。風吹きて開き、又風吹きて散るによりアネモネ(風の花)と云ふ。(アネモネ参照)

アトモ——アナク

アドミータス (Admetus)

又アドミートス(Admetos)。希臘大陸部セツサリアの一州フィーニリを領し、アアゴナウツの一人である。婚姻の時女神ダイアナに犠牲を供する事を忘れ、その罰にて重病に罹つたと云ふ。(希臘神話)

アトラス (Atlas)

イアピータスの子で、プロミシユウス。エビミシユース等の弟である。西極にあつて、蒼穹の大地に接する處を負ふ、と云はる。英語にて地圖をアトラスといふは、もと其標題紙に、斯神の像を描いたに由來する。(希臘神話)

アナクロニズム (Anachronism)

希臘語の Anachronismos から出た言で、時代錯誤の意である。舊思想を新時代に適用せんとする如き錯誤を云ふ。又美術に用ふるアナクロニズムとは年代の順序を無視して表現した藝術品を

アナテ—アプサ

云ふ。例へば古代の人物を作者當時の服装背景の中に表すなど其の例である。

アナテマ (Anathema)

露國神秘的象徴主義の作家アンドレーフの戯曲である。悪魔アナテマが、キリストの象徴である主人公ダヴキツド・レイゼルを、自由自在に翻弄して平凡な一人間にしてしまふ筋の戯曲。

アネモネ (Anemone)

毛茛科に属する球根植物である。本科に属するアネモネは多種あるが、普通に知らるゝは「アドニス」傳説に由る花である。詩人に愛せられよく歌はる。(アドニス参照)

哀れなハインリヒ (Der arme Heinrich) (獨)

獨逸ハウプトマンが、一九〇〇年に書いた代表的な戯曲である。此は拾二世紀の詩人ハインリヒ・アウエの、殆んど國民的に有名な、宗教的叙事詩に、近代的解釋を加えた五幕の、美しい韻

文劇である。騎士ハインリヒは癩病の天刑を受けて、一度世間と絶つたが、再び少女の犠牲的な生血によつて救はるといふ迷信を信じ、最後に一切を捧げた少女の清浄な肉體を見て、神聖な靈感にうたれ、少女を助けると、それと同時に彼は神を見、病は癒され少女を妻として本國に歸る。

アブソルート・ミュージック (Absolute Music)

絶休音楽。此は標題音楽(其項参照)に反して、何等有形的な相像を與へんとすることなく、全く音そのものの効果に目的を置く音楽である。外物、又は智的作用を俟たず、直接心に感動せしめ、音楽其自身の靈感を主とするため、歌詞等は全く用ゐない、音その物の中にある美のみを主眼とする。

アブサント (Absinthe) (佛)

ニガヨモギの花や葉より搾取した液を混じた緑

酒で非常に強烈なものである。佛蘭西のデカダン派の詩人が、盛んに飲み刺戟を求めるのは此酒である。

油。繪 (Oil painting)

今日西洋畫の主位を占めるもので、畫布(カンバス)又は板の上に描かれるものである。其特點は、明暗の強い廣大な變化を表はし得る事、其描畫法が自由である事、耐久力を有する事、等を数へる事が出来る。其繪具は亞麻仁油を混ぜた顔料で、リンシー油。ナット油。ポツビー油。スパイク油等がある。

アブリヴィエーション (Abbreviation) (音)

省略記號。樂曲中同一の小節ある場合には、記譜の便宜上、其一を省略して繰返すことを得、又短音譜を記すに長音譜を用ふる事を得る場合之を指示する記號をいふ。

アブリー (Abley)

アブラ—アメリ

其基督教僧院で、特に僧院長の居るものをアペーと云ふ。又嘗て僧院であつた會堂をも斯く云ふ。ロンドンのウエストミンスター・アペーは最も名高きものである。

アポロー (Apollo)

又の名をフェーバス、希臘人の殊に尊信する神である、日輪と同体で、生命、技術、詩歌、神興など總じて優勝の司とせらる。傳説は極めて多い。

アポロ型 (Apollonian)

ニイチエの唱道した言で、ダイオニソス型に對して用ひらる夢幻的、想像的、繪畫的、意識的等の意に用ふ。(ダイオニソス型の項参照)

アマチュア (Amateur)

「好事家」。何等美術の實際を取扱はないけれども、美術に對して興味を持ち、鑑賞する人を云ふ。

アメリカ畫派 (American school of painting)

アラビヤ—アリア

拾八世紀コブレブ・ウエスト出で、其の基礎を成した。一八二五年以前を初期とし、それより一八七六年までを中期、其後三期に入りてサージェント、ホイットスラー等の世界的畫家が出たので、畫壇を賑はし盛んになつた。最近に於て技巧の進歩は、見るものがあるが未だ國民性の表現は薄弱であると云はれてゐる。ウインスタール・ホーマー。マリール・カザット。ロバート・ヘンリー。チャイルド・ハツサム。ジョウジ・インネス。等は此派の有名な畫家である。

アラビアン・ナイト (Arabian Night)

アラビヤ夜話。ペルシヤの王及其弟王子が、或夜妃の醜態を目撃してから、婦人の貞操を極端に疑ひ、毎日新しい處女を入れて妃とし、其日を過ぐれば殺して又新たな女を入れるのであつた。或賢き姉妹が妃となり、面白い斬を毎晩王に聞かせ、遂に自分の生命を保ち、王の悪習

を絶つたといふ。其夜物語を集めたものがアラビアン・ナイトである。

アラビヤ裝飾 (Arabian Ornament)

其裝飾様式より三大別する事が出来る。一、幾何學的。圓形、多角形、三角形等を基としたものである。二、唐草模様式。三、文字模様式。

アラベスク (Arabesque)

唐草模様。裝飾美術に用ふる一様式で、主に植物模様から成立してゐるが、其他空想的な生物を組み入れ、曲線を描いて自由に變化したものである。

アリア (Air) (音)

器樂の伴奏ある聲樂曲で、主に三樂章よりなる。歌劇、神事劇、カンタタの中に用ふ。その小さなものをアリエタ Arietta と云ふ。

アリアドニー (Ariadne)

シーシユースの妻となつたが、後ち事を以てサ

イクレーズ群島中最大島なるナキソスに棄てられた。然し又酒神バツカスに慕はれてその妃となり、七星を飾りたる冠を受く。この冠アリアドニーの死後、天にかゝりて七宿の星座となつた。(希臘神話)

アリストートルの悲劇に對する要求 (Aristotle's requirement for tragedy)

悲劇には感情を清むる悲哀と、恐怖の要素を感じるを必要とする、と云ふにある。

アレクサンドリン (Alexandrine)

拾二級詩の古い詩形の一つで、拾二世紀頃に起つた。佛蘭西詩人アレクサンドル、パリーより出たとも云ひ、或はアレクサンドリヤ大王の事を叙せるに由来すとも云はる。

アルカイツク (Archais)

藝術上原始的にして古拙なるを意味する。特に希臘藝術上に於て、技巧が成熟しない時代例へ

アリス—アール

ばフィデイアス以前の、藝術品に用ふる一術語である。

アルカチア (Arcadia)

希臘の地名で、現今は平和な田園、又仙郷を云ふ。田園趣味の人をアルカチアンと稱ふ。

アルセスチス (Alcestis)

一説には英雄ハアキュリーズ親ら冥府に下りてアルセスチスを救ひ還りし由に傳ふ。この傳説は伊太利、佛蘭西などの戯曲に度々仕組まれてゐる。(希臘神話)

アルファ、オメガ (Alpha and omega)

アルファは希臘アルファベットの最初の字、オメガは最後の字、故に始めであり終りであるとの意。聖書には神はアルファ(始)であり、オメガ(終)であると書いてある。

アール・ヌーヴオー (Art Nouveau) (佛)

新美術の意。一九〇〇年頃佛國に流行した美術

アレゴリー・アンド

上の様式である。其特色は色彩や線が軽く淡く、
貌曲線を自由に使用した事である。此様式は建
築、装飾、美術等、あらゆるものに應用された。
本邦では故人高田實の藝風をヌーヴォー式と云
つた。

アレゴリー (Allegory)

寓意。寓話。文字通りの他に、更に高尚なる
意味を寓するもので、それには散文形のも詩形
のものもある。前者を寓話と云ひ、後者を寓意詩と
云ふ。スペンサーの「仙女王傳」バンヤンの「天
路歷程」等は代表的アレゴリーである。日本に
て「兎と龜」或は馬琴の「里見八犬傳」などは
アレゴリーである。

又繪畫彫刻上で云へば、或意味を象徴する人物
の像、又は其他のものを云ふ。例へば「正義のア
レゴリー」「青春のアレゴリー」の如きである。
あんくろしや
暗黒描寫 (Description on dark-side)

浪漫的文學は人生の光明方面を書いたが、文學
は有の儘の眞を描かねばならぬといふ主張から
人生の暗黒面及悲惨な事實を描寫する様になつ
た。此を暗黒描寫と稱し自然主義文學の時代盛
んに唱へられた。

暗示 (Suggestion)

仄明はなやすこと。明確に理由又はその意味を告げず、
容姿舉動その他によりて、暗に其内容意味を示
して了解せしむること。文學上きはめて重要な
ものである。

アンセム (Anthem) (音)

聖歌。聖書の語を基として作られたる一種の讚
美歌 (Full anthem) フル、(Verse anthem) ベース、
(Solo anthem) ソロ、の三種がある。

アンドロメーダ (Andromeda)

古エシオピアの王女。エシオピアは今南埃及よ
りアアデン灣までの地であるが、昔はアフリカ

の東北海岸をも含めて呼んだ。バアシユースと
の間に數人の勇士を生み、死後星宿に入る。(希
臘神話)

アウデオリウム (Auditorium)

音樂會などの聴衆席。

アカデミア (Academia)

音樂學校。又音樂會にも用ふ。

アイボリー・タワー (Ivory tower)

象牙の塔 (項目参照)

アイデア (Idea)

理想、理想主義的の。

アイディル (Idyll)

田園詩と同性質のものであるが、も一層自由な
るものを云ふ。

アイコノクラスム (Iconoclasm)

偶像破壊を見るべし。

アイドル (Idol)

アウデー・アクト

偶像。

アウトライン (Outline)

外劃、梗概、あらまし。

ア、カプリッチョ (A capriccio) (伊)

樂曲の表現に用ふ。「狂想曲風に」との意。

アキウト (Acute) (音)

音の高さ、又鋭さを云ふ。

アクセント (Accent)

揚音。音樂上にては連続せる音譜中或部分を強
く奏し、強く印象せしめるの記號である。17

アクター (Actor)

俳優、役者。

アクティヴ (Active)

能動的。

アクト (Act)

劇又はオペラの一幕。

アクト・チューン (Act-tune)

アクトーアート

幕間音楽。劇的一幕より他の幕に移る間に奏する音楽を云ふ。

アクト・デ・カタン (Act-de cadence) (佛) (音) 終りの部、即ち静止部。

アクトレス (Actress) 女優、女役者。

アグノスチズム (Agnosticism) 不可知論を見よ。

アコースステイクス (Acoustics) 音響学。

アサイド (Aside) 「傍白」看客のみに聞ゆる如く云ふ獨白。

アツコンパニメント (Accompaniment) 伴奏。(其項参照)

アップ・ツー・デート (Up-to-date) 最新の、現代的の、時勢に遅れないとの意。

アーティフィシャル (Artificial) 人工的、人為的、技巧的。即ち自然的 (Natural) の反対。

人工的、人為的、技巧的。即ち自然的 (Natural) の反対。

アーティスト (Artist) 藝術家、美術家。

アテネ (Athens) 希臘の最も名高き都市、往古藝術の非常に榮えた所で、古典主義藝術の本源地である。

アディユー (Adieu) (佛) 左様なら、さらば、元來は佛語なれ共英語にても用ふ Fare Well と同意。

アトラクト (Attract) 引つける。誘惑する事。

アトリエ (Atelier) (佛) 畫工室。畫家彫刻家の製作場。

アート (Art) 藝術、技巧。

アート・フォー・アート (Art for Art) 藝術の爲の藝術」を見よ。

アート・フォー・ライフ (Art for life) 人生の爲の藝術を見よ。

アドレッセンス (Adolescence) 青年期、青春期、普通男は十四歳——廿五歳。女は十二歳——廿一歳を云ふ。

アナキズム (Anarchism) 無政府主義を云ふ。

アンバード (Anode) (佛) (音) 朝の歌。早天音楽。セレナードに對して用ふ。

アプレシエート (Appreciate) 鑑賞する。

アブソルート・ミュージック (Absolute music) 絶対音楽と譯す、同項を見よ。

アブノーマル (Abnormal) 病的の、變則の。普通の状態でない意。

アートーアレル

アートーアレル

アベントリッド (Ablentied) (獨) (音) 夕の歌。小夜樂。夕に歌ふ讚美歌。等を云ふ。

此を標題にした名曲は多くある。

アベント (Abend) (獨) 音楽夜會の意。

アムプロムチエ (Impromptu) (佛) (音) 即興の音楽。即ち即興的に作られたもの。

アリストクラチズム (Aristocratism) 貴族主義、貴族風、轉じて高踏主義。

アルト (Alto) (音) 中音部。ソプラノの次に位する女聲音。

アルバム (Album) 寫真帖、繪葉書帖、詩集等を總稱した言葉。

アルファベット (Alphabet) アルファベットは希臘語の第一字。(アルファ)第二字。(ベータ)より出來た言葉で歐羅巴語の A・B・C を云ふ

アルファベットは希臘語の第一字。(アルファ)第二字。(ベータ)より出來た言葉で歐羅巴語の A・B・C を云ふ

アレル—イ ヴ

アレルヤ (Alleluia) (音)

「主を讃へよ」とのヘブル語。Aevia も同語である。教會樂の詞句に用ゐらる。

アングロ・サクソン (Anglo-Saxon)

チュートン族の一分派で今の英國人の祖先となる種族である。

アンコール (Ancoor) (佛) (音)

再度の繰返し之意。音樂會等で聴衆が、主演者に番外の演奏を乞ふ時の言葉である。

アンダースタンディング (Undertanding)

了解、理解。

アンダンテ (Andante) (伊) (音)

「緩徐に」の意。これより少し遅いのを、アンダンティーチーノと云ふ。

アンティホーン (Antiphon)

教會又は禮拜堂で交互に歌ふ讚美歌。

アンニョイ (Annui)

退屈、倦怠、もの臭いの意。

イ

イオニヤ・オーダー (Ionian order)

イオニヤ式希臘建築。ドリヤ式よりも華麗でオリユウト(参照)のあるのが特色である。キャピタルに渦巻を有し、柱身はドリヤ式よりも細く、飾は華奢で色彩を用ゐず彫刻のみによりてなした。アクロポリスのエレクテオン殿堂、ニケ、アプロチスの殿堂など其の例として有名である。

イ ヴ (Ive)

舊約聖書創世記に出てゐる人物名。神に造られ

た人類の始祖はアダム(男)とイヴ(女)で彼等はエデンの樂園に住んでゐた。イヴは或時サタン(悪魔)なる蛇に誘惑されて、禁斷の樹の實を食ひ、夫のアダムにも食はせた。其の刑罰のため彼等はエデンの樂園を失ひ、種々なる苦しみに會ふ様になつた。其以來人間社會にも種々なる苦痛が生じたと云ふ。

イギリス劇 (English Drama)

イギリス劇は其の起原を中世の宗教劇に發してゐる。此は教訓劇となつたが、拾六世紀にヘイウッドが出て、從來の教訓劇より分れ、一種の滑稽劇を成した。それをインタールード(間劇)と云つた。此世紀後半エリザベス時代は、國運急に興隆すると共に、劇壇は古今無比の盛觀を呈し、正劇の他にバストラル・ドラマ(田園劇)マスク(假面劇)等も、盛んに演ぜられた。先づ此期に表はれたのは、ユニバーシチイ・ウィツ

イギリ

ト(大學才子派)のマーロー。グリーン。ピール等が出て、沙翁の先蹤をなした。特にマーローは、沙翁以前最大の劇詩家と云はれ、悲劇タンバレン・ゼ・グレートは、液韻律語を用ゐて英國戯曲の革命を成した。續てシエクスピアを俟つて、未曾有の發展を遂げ全盛期を作つた。其作を普通四期に分つ。

第一期は喜劇を主とし「戀の仕事損」「間違の喜劇」等の喜劇と、「夏の夜の夢」「ロメオとジュリエット」「リチャード二世」「リチャード三世」等がある。第二期は彼の最得意の時代で「ヴェニス商人」「奸婦ならし」「御意のまま」「ヘンリー四世」「ヘンリー五世」等多くの喜劇と共に悲劇が書かれた。第三期は悲劇の時代で「ハムレット」「オセロ」「マクベス」「リヤ王」等の大悲劇及「シーザー」「アントニオとクレオパトラ」等が此期の作である。第四期は身の上も安

らかになり極めて沈着いたものを出した。「冬物語」「あらし」「シムベリオン」等が最も傑れた作である。

沙翁の後にボーモント、フレッチャー、ウエプスター、等が出で、後は次第に衰へて行つた。一六四二年以来は内亂時代で、清教徒政府は演劇を禁止した。王政復古以後再び盛んになつた。一期はドライデンを中心とする古典派劇、二期及オレンヂ朝は佛國劇が旺盛を極めた時である。拾七世紀コングリーヴ出で、此世紀後半の牛耳を取った。他にヴァンブリー、フアークワー等の喜劇作家が出た。此時代も佛國劇の感化を多く受けたのである。

拾八世紀は散文學全盛期で、劇壇に數ふる程のものもないが、オペラの輸入、名優マックリン、ガリリック等の出た事が注目に足る。拾九世紀には、讀む劇と、演ずる劇が別れノールズが出

てから文學と、演ずる劇が絶縁した。此世紀の劇文學は立派なものが多かつたが、演ずる劇としては數ふるに足るものがなかつた。然し多くの名優が出た。そして當時の梨園を六期に分け得る。一期はケブレルの代表した時代。二期はキーンの時代。三期はマックレディーの時代。四期はフェルブス時代で其代表はキーン夫妻。五期はバンククロフト時代。六期はアーヴキンゲの時代で、其他多くの名優が出た。

最近に至りイブセン劇の輸入となり、イギリス近代劇の運動が始まり、問題劇の方面に伸びて行つた。拾九世紀より二十世紀にかけて、ジョーングズ、ピネロー、ストロ、等が表はれ間もなくグラインの獨立劇場が出現し、新劇運動のため途を開いた。その後を受けて舞臺協會が起り、此に由てバーナード・ショウ、ゴールスワージー等が現はれた。最近の劇壇はオスカー・ワイル

ド、ショウ、ゴールスワージー等に由て代表されてゐる。ワイルドは英國近代劇運動から獨立してゐるが、鮮かな足跡を残し、ショウ、及其系統に屬するゴールスワージーは社會劇作家として、近代劇運動の選手である。

イギリス畫派 (English School of painting)

最初は自國の作風と云ふものがなかつたが、拾八世紀に入り初めて、オランダ繪畫に基礎をおいた國民的な繪を出し、個有の作家を出すに至つた。漫畫家ホガースは英國繪畫の創立者である。後肖像畫家としてレイノウルズ、ロムネー、風景畫家としてウイルソン等が出た。拾九世紀にはコンステープル、ターナー、コブレ、クローム、等の風景畫家が出で、中葉にはラファエル前派(参照)の運動に由て革命が起つた。其代表的人物はダンテ・ガブルエル・ロセツチ。で猶ウキリアム・ハント、ミレー、ワッツの著

名なる作家が出た。此派の人々はラファエル前十五世紀の、伊太利に於ける新鮮なる作風を習ひ、其特點は畫に特殊な形式化ありとせらる。末葉には繪畫盛大をきわめ、水彩畫は最も大きな發達を遂げた。

イギリス彫刻 (English Sculpture)

サクソン及ノルマン時代の彫刻は、素朴な原始的な作品であつたが、拾三世紀頃から相當立派なものが出た。拾六世紀伊太利からトリジアーノが來て、ヘンリー七世の墳墓に、多くの像を作つた事は注目すべきである。拾八世紀にはストーンと、有名な木彫刻家ギボンスの二天才が現はれた。其後古典的傾向に進み、特筆すべくもなかつたが、突如拾九世紀末葉驚くべき盛觀を呈した。アルフレッド・ステヴンス、フレデリック・レイトン、ハーモ・ソルニークロフト、アルフレッド・ギルバート、オンスロー、フォル

ド等の優れた彫刻家が現れたのである。就中ステヴンスは、ウエリントン記念碑の作者としてレイトンは、「毒蛇と力士」の作者として有名である。

イギリス・ゴシック式建築 (English Gothic Architecture)

ゴシック建築時代イギリスに用ゐられた一様式で、ノルマン式建築から發達したものである。此を三期に分つ。一、古イギリス式。二、華麗式。三、垂直式。他國の其よりも細長くトランセプト(其項参照)を非常に突出させ、稀には二つのトランセプトもある。大寺院には中央に大きな塔、正面には二つの塔。小寺院には中央に一つの塔のみを建てるのが普通である。古イギリス式の代表はサリスベリー寺、華嚴式の代表はウエストミンスター・アペーのクロイスター、及ヨーク、リンコルン、リッチフィールド寺等。垂

直式の代表は同寺院のヘンリー七世禮拜堂を擧げる事が出来る。

イギリス・ルネサンス建築 (English Renaissance Architecture)

一五二〇年頃ルネサンス建築が英國に入り、其後を三期に大別して、エリサベス式、ジャコビニ式、純イギリスルネサンス式とする。エリサベス式は過渡期の建築、ジャコビニ式は非常に古典趣味を加味し、純イギリス式はクラシック・イギリス化されて来た様式である。(各項参照)

イギリス・ローマネスク建築 (English Romanesque Architecture)

アングロサクソン式と、ノルマン式とに區別する事が出来る。アングロサクソン式は、十七世紀頃ドイツ地方より英國に侵入した同民族が、其後一〇〇〇年頃まで用ゐた様式で、重に木造建築である。然しイギリスローマネスクの重

るものは、後者のノルマン式で、此は佛國ノルマンディ地方より来たものである。フランス及北部伊太利ローマネスクの感化を多く受けて居る。ジュミエーン教會は其最なるものである。

異教主義 (Paganism)

基督教の信仰的、靈的なる態度、或は其の教旨に反對の立場を以つて表れた主義乃至教理を云ふ。此の言葉は普通ヘレニズムと同義に用ゐられる。(其の項参照)

異國情調 (Exotic)

外國の風物や其氣分を作品の中に入れて、其國の一種獨特の情調をたゞえること。例へばピエール・ロッチの「お菊さん」は日本の長崎に於ける異國情調をよく現はしてゐる。

イージー・ゴイング (easy-going)

努力せずブラ／＼と渡世し、難事を忌避して一時ごまかしの安樂な道を行かうとする人生の卑

イギリ—イスバ

怯な態度を卑めた言葉である。此反對をステツデイ・ゴイング(Steady-going)と云ふ。

意識 (Consciousness)

吾等の眠てゐる時は無意識の状態である。其反對に吾等の心が醒めて活動し、或る統一を保ち、刺戟に對して感應する心的經驗の全部を云ふのである。意識の對照が異なるに依り、美意識、道德意識、宗教意識等の分類が出来る。

イスパニヤ劇 (Spanish Drama)

イスパニヤ劇も他の諸國と同じく、宗教劇に其起原を有してゐる。其に喜劇や田園劇等があり、作者にはセルヴァンテスがあつた。

相當名のある作を出したのは、拾六世紀からである。その最も著名なのはローベ・エガでイスパニヤ劇の凡ての標本を後世に傳へた。拾七世紀にカルデロンが出て、ローベの流を繼いで、イスパニヤ劇を大成した。彼は此世紀のイスバ

ニヤの全精神を代表してゐる。喜劇よりも悲劇に勝れてゐた。

拾八世紀はフランス文學の全盛期で、イスパニヤも其配下にあり、余り振はなかつたが、此間にラ・ウーエルタの「イスパニヤ戯曲集」が僅かに目を引く。

拾九世紀に浪漫主義運動が表はれ、劇壇にも一新時期を劃した。マルテイネス・デ・ラ・ローザの二劇詩はその最初の作例である。リヴス出て一層顯著な代表者となり、其作「ドン・スルプロ」は、佛國に於ける「エルニナ」と同じ結果を齎した。拾九世紀中葉の覇者はタマヨールである。最近に至て聊か乏しいが、劇壇にはエチエガライが重きをなし、世界に名聲を轟かせてゐる。彼の作品に「痴か聖か」「大きなガレオット」「マリアーナ」「ドン・フアンの子」等がある。此他に有名な郷土作家アンジェル・ギメーラ。喜

劇作家ベナヴェンテ等がある。

イスパニヤ畫派 (Spanish School of painting)

拾五世紀頃迄は伊太利畫家の模倣に過ぎなかつたが、拾六世紀にホセ・リベラ。エル・グレコ等出で、スペイン畫派の基を作つた。拾七世紀には此派の全盛期でデホ・ヴェラスケス。フランシスコ・スルバラン。バルトロメオ・ムリヨ。等の天才を出した。拾九世紀には有名なる天才ゴヤ出で、肖像畫、漫畫に其才を振つた。

此派の特色は寫實主義的傾向の著しい事と、黒色を使用する事である。

何處へ行く (Quo Vadis) (拉)

ポーランドの文豪センキウイチの代表作で、ネロ帝當時のローマ市を背景とし、貴族の青年ベトロニウスと、基督信者リヂアとの美はしい戀を描いたものである。

伊太利劇 (Italian Drama)

伊太利の國民劇は拾五世紀に始まる。初め僧侶に由てなされた宗教劇「ラブレゼンタチオニ」であつたが、それに滑稽分子を加へ「即座喜劇」「學者喜劇」を生んだ。拾六世紀にトリツシノが悲劇「ソホニスバ」を書いて、一時期を劃したのである。喜劇は一五〇八年に演ぜられたピビエナの「カランドラ」に始まる。その後名高いマキアヴェエリーが、政治界に敗れてから、立派な喜劇を出した。

拾六世紀に伊太利で最も榮へたのは、バストラル・ドラマ(田野劇)であつた。この代表的作家は、大詩人タツソーである。彼に次でデアリンが出た。常時幾つかの俳優團があつて、其中最も名高いのは、名優スカラ一座であつた。彼スカラ及びアンドレーニ、及其妻イサベラが代表的名優であつた。

拾七世紀は全く不振の時代で、數ふに足るもの

とてはないが、唯此時代にオペラの發生を見る(オペラ参照)。拾八世紀は伊太利劇が歐洲に名聲を馳せた時期で、始めにマツフェイの傑作悲劇「メローベ」それに續いて「ゼノー」が出た。前者が古典派の悲劇を、後者はオペラを代表する。喜劇もゴルドニ。カルロ。ゴツチ等に由て榮え、名優リッコボニーが出た。

拾九世紀は浪漫主義の運動が表はれて、劇壇に一新時期を作つた。この先導者として又代表者としてマンツォーニがある。ナボレオン没して後は振はず、劇壇も寧ろ僅かにコツサのみがある。最近に自然主義及イブセン劇が輸入されたが、強い影響としては受けなかつた。然しこの沈滞無力を破て、狂熱的な叫びをあげたのはガブリエル・ダヌンチオであつた。「春曉夢」「秋夕夢」「死都」「ラ・ジオコンダ」「フランチェスカ。ダ・クミニ」の作品を出した。彼は伊太利劇壇の

代者の人物であるのみならず、近代南歐文學は殆んど彼一人が代表してゐると云てもよい。此他に伊太利のイブセンと稱せられたエリニコ・ブツチ。カミルロ・ジャニ。及風俗史劇の名家セム・ベネリ等がある。名優にはダヌンチオ劇を演じて、世界第一の名譽を荷ふた、女優エレオノラ・ゾーゼがある。

イタリ古典樂派 (Marian Classic School of Music)

十六世紀の文藝復興、宗教革新等の影響と刺戟によつて、宗教樂及歌劇の發達を伊太利に見る様になつた。ベニス樂派、及ローマ樂派を参照せよ。

伊太利の四聖

ダンテ。ペトラルカ。アリオスト。タツソオの四名を云ふ。

イタリー・ゴシック建築 (Itarian Gothic Architecture)

ゴシック建築時代北方及ヴェニス地方に用ゐら

れた様式である。一般に屋根は勾配ゆるく、西側下面には屋根とは別に破風形の壁を造つた。窓は光線を防ぐために小さくされた。ミラン大寺院は其代表的のものである。

伊太利彫刻 (Itarian Sculpture)

伊太利には拾三世紀以前、未だ語るに足る彫刻も流派もなかつた。拾三、四世紀に優秀な作者が現はれ、特に建築裝飾に優れた作品が出た。伊太利彫刻は此處より創まる。拾五世紀、彫刻史上の黄金時代で、フロレンスを中心に、ドナテロ。ロビア。ピサネロ。ヴェロツキオ。ギベルチ等の名家輩出し、有名な作品を遺した。拾六世紀には彫刻界最大巨人ミケランジェロ出で其作ダビデ、モーゼの二像は今猶世界の驚異とされてゐる。繼で金工として有名なチェリニ。ボロニヤ出で、拾七世紀にはベルニンあり、拾九世のカノーヴァーは、拾八世紀頽廢期を代表

した。其後には最早や語る程の者は出てゐない。

異端 (Heterodox)

正統派に對して云ふ言葉である。即ち正統派の信ずる教理や信條に悖り、異つた主義思想を主張する者を云ふ。

一元論 (Monism)

哲學上の一説にて、宇宙萬有を以て一つの本体、又は實在より發するものなりとの説。一元の內容性質によりて説が種々に異なる。一元を物質とするものを唯物論、精神とする物を唯心論、精神も物質も同一の實在の現れであり半面であるとするものを、同一哲學と云ふ。

一語説 (Single word theory)

フローベル等が、言語を尊重し吾等が云ひ表はさうとする如何なるものにも、それを完全に表はすに唯一の言葉あるのみ、といふ説である。

一人稱 (First person)

イタン—イツヒ

元來は文法上の言で、自己及我等の代名詞を一人稱と云ふが、近來小説などで、一人稱の描法など云ふのは、自己の經驗感想等を、主觀的に描寫する場合を云ふ。

イツヒ・ドラマ (Ich-Drama) (獨)

自己告白劇と譯す。獨逸表現派の劇に屬すべきもの、その主張とする處は、主觀が其純情を披歴せんとせば、自己を告白し、自己を懺悔し、自己を哀訴する抒情詩的な、自叙的な傾向を帯びて來る。即ち自己告白劇となるは當然であると云ふにある。

故にこの劇は靈魂の奥深く探索した其自己體驗の表現を目的とするものであるから、其舞臺裝置も、ともすると無形式な場面や、象徴的な表現の舞臺轉換を要求する。代表作にはゾルゲの「乞食」、ウキルドガンスの「怒の日」、ヨオストの「寂しき人」等がある。

イドゥー—インク

移動舞臺 (The sliding stage)

日本の、押し出し、引道具と同種の舞臺装置である。伯林帝室オペラ座のフイリッツ、プラントの案出した (Friz, Pralats Schreibeöhne) が最初である。舞臺の両側に、本舞臺の外、次の舞臺を作て置て、車轉装置で舞臺を移動して、新舊舞臺の轉換を行ふ舞臺装置を云ふ。

イブセニズム (Ibsenism)

劇作家ヘンリック・イブセンの創作上に用ゐた主義思想で、その最も重要な要素は、絶體自由なる自我人格の向上完成といふ事にある。

イリアド (Iliad)

ホメロスの作。トロイの戦を題とした希臘の有名な叙事詩である。

イル・ドゥ・フランス派 (Il de France)

佛蘭西に於ける彫刻の一派で、拾二世紀頃ゴチックの發達と共に開展し、まもなく佛國彫刻界

の主權を握る一派となつた。

色 (Colour)

一般に云ふ色とは、色素に由て我等の眼に與へらるる印象である。而して太陽の光線あるに由て生ずるもので、光線全部を吸収する時には黒く見へ、光線全部を反射する時には白く見へる。プリズムで光線を分解すれば赤、橙、黄、緑、青、藍、紫の七色に別れる。色は音と共に藝術の最重要な材料で、殊に繪畫は色を生命とするものである。

因果

原因結果の略、奈何なる事も一定の因果の法則に依て生起するものである。一の原因があり其結果として其他の或物が起て来る。それを因果と云ひ其法則を因果律といふ。佛教は一切の自然人事を此の理に由りて、生成變化するものとする。

因習 (Convention)

昔から續いた習慣、コンヴェンションに同じ。

印象 (Impression)

或る事象、又は人に會つて、直觀的に心に受けた感じ、それが心の中に象となり、良かれ悪しかれ印象となるものである。

印象主義 (Impressionism)

之は作家が其對象物より直接感じた印象を重んじ、其儘作品に表現せんとし、其目的のために種々なる技巧を試みる藝術上の主義を云ふ。此は始めフランスの繪畫にマネー等を中心として起した傾向で、その後藝術の各方面、——文學、音樂、彫刻等——に影響を及ぼした。印象主義といふ名稱は、マネーの口役を描いた影畫の「印象」なる題名から來たと云はれてゐる。

印象主義 (繪畫上の)

或自然物に接した刹那、細部に拘定せず、全体

インシ

印象的自然主義 (Impressive Naturalism)

此を稱して印象主義とも云ふ。

自然主義の一派で、本来自然主義が純客觀を主張して居るが、吾人は自己を離れた純客觀といふものが有り得ないといふ主張の下に、ゴンクウル兄弟に由て主唱された文學上の一派である

此名稱は繪畫上の一派に名づけたものであつて、感覺から直ちに心に受け入れた印象を、そのまゝ繪の上に表はさんとするのである。ゴンクウルはこれを文學に採用したのである。繪畫と同様作者の印象を主とし、主観に映つたそのまゝ、即ち自分の氣分若しくは情調とともに、作物を再現しようとするのである。

印象の統一 (Unity of Impression)

米國の詩人ボオは「創作論」に於て「詩が、印象の統一より來る効果を收めんとせば、長きに失すべからず、約百行を以て足れりとす」と云ひ、詩に最も肝要なものは、印象の統一であると主張してより、屢々用ゐらる。即ち長文は漸次不統一になり易いが、短いものは印象が統一的に、深く印する事が出來ると云ふのである。斯る主張から近時は短篇小説が歡迎されるのである。

印象描寫 (Impressive Description)

自然主義文學が純客觀描寫を主張するに對して、斯派は印象描寫を主張する。自己の主観に寫つて印象された、事象を書くことを云ふ。從て其には自己の色彩又は氣分の交た現實描寫である。

印象批評

批評家個人の受けた感じ、心持ち、即ちその作品の印象を其儘發表する批評である。科學的に理智より或る標準を立て、それに由て批評するのでなく、主觀的立場から自己の直觀を通じて受けた感じを、自由に發表するのである。故に面白いとか好きであるとかの理由を示さない。感じが斯くあつたと云ふのみ。

印度劇 (Indian Drama)

此は何れの國からも感化を受けず、印度獨特の劇として發達した。印度人は印度劇の起原を、賢人バハラタが、神ブラマから受けたものだと

云ふ。此の起原は宗教的讚歌に始まると見るべきであらふ。祭事の場合に舞踊が演ぜられ、それに對話が加へられて、遂に獨立した劇を形成した。紀元五世紀頃には、この獨立した劇を見る事が出来る。この發達を三期に分つことが出来る。

第一期「起原—拾一世紀」

佛教の全盛期で、此時代を印度古典劇時代といひ、最も榮えた時期である。六世紀前半の人カリーダアサは、代表的劇作家である。彼の作品に有名な「シヤクンタラ姫」がある。此は七幕の勇壯な悲劇で、その戀愛物語の中に云ひ知れぬ美しさを表はし、詩文學に於て世界的の傑作と稱せられる。その他「勇者とニンフ」等もある。北印度の王ハルサデバの作と云はれる有名な「蛇の喜び Naganda」がある。之れは一の戀愛事件に始まり、高い自己犠牲の徳を、強く印

象すべく教へてゐる、佛教唯一の劇として有名である。

カリーダアサと共に此期を代表する劇作家は八世紀前半のバアブハヴァーティである。三つの代表的作品の中、「マハバラ・カリトラ」及び「ウツタラ・ラーマ・カリトラ」は、ラーマの冒險に關する勇壯な劇である。「マラテイロ・マアドハヴァ」は名高いメロドラマで、印度の「ロメオとジュリエット」だと稱せられる。此他ラアシャセクハラ。ヴィサアクハツダタ。ナアラアヤナ・バハタ等の著名な作家がある。

第二期「拾一世紀—拾四世紀」

回教の印度に侵入して來た時期で、此期は印度劇の多少衰へて來た時代である。作家には拾一世紀の人ハヌウマン・ナタカがある。其特色は神話的な「猿王ハアヌマン」によく表はれてゐる。神秘劇「ブラボドハーチヤンドロダヤ」の作

者クリシナミクラ。戀愛悲劇の作家ラットナヴァリ。又本期末に聖書のヨブ記やファウストに似てゐると稱せらるゝ「眞理の殉死 Arjehandra」といふタミル人の劇がある。

第三期「拾四世紀——現代」

印度劇は衰へながらも、其後數世紀つづいて來たが、之等は前代の模倣か、遺物であつて殆んど注目すべきものがない。最後に拾九世紀に始めて作られた「シトラ・ヤジナ」がベンガル劇の代表作とされてゐるが、極めて不完全なものに見えるべきである。

印度希臘式 (India-Greek)

印度の藝術がアレキサンダー王の東征以來、希臘藝術の感化を受け、一種の折衷的様式を產出した、その名稱である。

印度建築 (Indian Architecture)

此には印度固有建築と、印度回教建築の二があ

つて、固有建築を三期に分ける事が出来る。初期は木造で遺物なく、第二期は阿育王出でて佛教の盛大な時代、七五〇年迄の九百年間餘である此期の代表的建築がサンチー大塔である。第三期は其以後で、印度教の建築を主とし、俗にバゴードと云ふのは、其寺院の謂である。以上各時代を通じての特色は、量の大きい事及空想的である、といふ點である。次で回教が入り、前記印度式と回教式とが融合して出來たものが、印度回教建築である。それには種々雑多な分派が十餘にも分れて居る。我國で東京帝室博物館は、印度回教式建築の一様式であると云はれて居る。

印度彫刻 (Indian Sculpture)

印度彫刻は佛陀時代より在たとの傳説はあるが其頂點期は佛陀入滅二百年後の、阿育王時代であつた。殊に宗教美術及建築に於て代表され、有名なサンチー大塔は、此當時の美術の粹を蒐

めたものと稱する事が出来る。其後アレキサンダー大王東征以來、希臘、羅馬文明が漸次移入され、其結果は在來印度固有の様式を離れて、ガンダーラ地方から西方文明に感化された。それをガンダーラ式と云ふ。五世紀後佛教の衰微と共に印度固有、ガンダーラ兩様式も没落するに到た。然し六世紀後に、婆羅門教と共に宗教藝術も又興り、拾六世紀には回教式美術の全盛期を現出するに至つた。

イワノキツチ (Ivanovitch)

英國人を代表させてジョン・ブルと云ふが如くこれは露國人を代表させた代名詞である。

イーヴ (Eve)

夕、晩。祭日の前夜などを云ふ。クリスマスイヴは、クリスマス前夜との意。

イグノランス (Ignorance)

無智、愚昧。

イーゼル (Easel)

講架、作畫の際畫を立て懸けて置く爲めに用ふる臺を云ふ。

イースター (Easter)

復活節。キリストの復活を紀念する祭日。

イターニティー (Eternity)

永遠、永劫。

引用法 (Allusion)

修辭學上譬喩法の一法で、喩義と本義との區別を全く隠して、二事件を打ち混じて一つに云ふ法である。「文筆は劍よりも強し」「心に劍をふくんだ女」等の言の裏にある意味を持ち、「劍の如き悪心」とは云はず、唯劍のみを表はして語を強めんとする語法である。

インユュー——イター

イーバーインチ

イーバークルツツ (Eberkultur) (獨)

獨逸語にて教養過度の意。

イデオム (Idiom)

方言、訛り。地方特色の語風。慣用語。

イーブニング (Evening)

宵、晩。

イマジネーション (Imagination)

想像。イマジネーティヴ、は想像的。

イミテーション (Imitation)

模倣。

イムプロンプチュ (Impromptu)

ファンタジイの一種で、即座的性質を有する器樂の一形式である。(ファンタジイ参照)

イリュージョン (Illusion)

幻影、幻想。無いことを空想的に描くことを云ふ。

インスティンクト (Instinct)

本能。

インスパイア (Inspire)

靈感せしむ。鼓吹するの意。

インスピレーション (Inspiration)

靈感を見よ。

インタールード (Interlude)

間奏曲。幕間或は教會禮拜の間に奏せらるる器樂曲である。

インダクション (Induction)

歸納、歸納法。

インテリオル (Interior)

内部との意、寺院宮殿の内部、又普通には田舎生活を描いた世態畫を指す言葉。

インテルメツォ (Intermezzo) (伊)

インタールードに同じ。

インテレクト (Intellect)

智、智能、理解力。(Intellect) (獨)

インテレクチュアル (Intellectual)

智識的。智的の。

インテレスト (Interest)

興味。

インディヴィデュアリティ (Individuality)

個性。

インディヴィチュアル (Individual)

各自の、個々の、個人。

イントロダクション (Introduction)

紹介、緒言、緒論。

インナー・ライフ (Inner life)

内の生活、精神生活。

インノセント (Innocent)

無邪氣な、純潔なる。

インフルエンス (Influence)

感化、影響、勢力。

インプレッション (Impression)

インテューヴァキ

印象。

インプレッシイヴ (Impressive)

印象的。

インプロウイェーション (Improvisation)

即曲彈奏曲。

インポツシブル (Impossible)

不可能な、可能性がないこと。

インモータル (Immortal)

不死の、不朽の。

ウ

ヴァキオリン (Violin)

絃樂器の中最高音部に属するものである。表情

ヴァリ—ウエー

に富み、人聲に近く、強弱が自由で、合奏楽器としても、又獨奏楽器としても、常に主位を占むるものである。此の起原は東洋にあるとされ今日の形状をもつに至したのは、拾六世紀後半で北部イタリアが出生地である。然し今日の如く完成したのは、拾七世紀末の事である。此楽器は四絃より成り、最低の絃がG、D、A、Eの順に、各絃間五度の音程を以て離れ配列されてゐる。

馬尾毛を張つた弓にて絃を摩擦する外、指頭を以て絃を撥く方法をピチカトオと云ひ、弓を靜平に用ふるをレガトオ、斷音を奏するをスタッカトオと云ふ。

ヴァリユー (Valse)

繪畫用の術語で明暗と同義である。色彩を赤白等の差別より見ず、其色彩の濃淡より見た場合に用ゐられる言葉である。畫色に濃淡の明かな

場合、其畫はヴァリユーがあると云ふ。

ヴァリエーション (Variation) (音)

變奏曲。一定のテーマが與へられ、次に多くは其二次形式の樂曲として、テーマの旋律、和聲、拍子調性を様々に變改した樂章が、續けらるるを云ふ。變奏曲は主にソナータやシムフォニーの、ムーヴメントとして用ゐられるが、又獨立した一曲を成すこともある。パツソ・オスチナト (Passeo Oscinato) (伊)は最も簡単な變奏曲の形式である。

ヴィゴラス (Vigorous)

美術作品が大きく案出され、又強く大膽に取扱はれた場合、其を形容してヴィゴラスだと云ふ。

ウエーヴァーレー小説叢書 (Warverley Series)

ウォルター・スコットの書いた歴史小説を云ふ彼の最初の作品をウエーヴァーレーより出し

た。(最近六十年物語)

ウエークフィールドの牧師 (Vicar of Wakefield)

ゴールド・スマスの作になる小説である。ウエークフィールドの牧師が、とんだ災難から家庭の平和が破れ、其上に様々な災難に遭ひ、主人は牢獄に、家族は貧に泣く境遇になつた。其時慈善家にして、且つ財産家であるバーチミル氏に助けられ、同時に再び幸福に巡り會ひ以前の様な幸福を樂しむといふ筋のものである。

ヴェスタ (Vesta)

希臘名ヘスチア (Hestia) 竈の神である、希臘人は食事の時先づ此神に祈る。

ヴェニス派建築 (Venetian School of Architecture)

伊太利ルネサンス建築の一派で、ヴェニスを中心起つたものである。初期はゴシック式であったが、後正面が平坦で凹凸のないものが用ゐられ、優美、輕快、華麗な美術的建築が多かつ

ヴェー—ヴォー

た。拾五世に全盛し、大家としてはバラディオ。サン・ミケル。等がある。サリユータ寺院、ドーヂ宮殿、サン・マルコ圖書館等は代表的建築である。

ヴェニス畫派 (Venetian School of Painting)

拾五世紀頃伊太利ヴェニスにて、ジョバニ・ペリに由て創められたる畫派である。斯派の特色は世俗的で、華麗な裝飾や色彩を重じた點である。

ヴェニス商人 (Merchant of Venice)

沙翁中年の喜劇。ヴェニスの豪商アントニオがパツサニオのために、ユダヤ人シャイロツクより肉一磅を抵當として、金三千圓を借り其返済期が遅れたため、生命を失はんとせしを、パツサニオの妻ポーシャの計にて免がると云ふ筋の喜劇。

ヴォーティシズム (Vorticism)

ヴォリ—ウタ

此名稱は Vortex (旋風、渦卷等) なる言よりきた名稱である。此派の主張の要は「想像の力にて、自然を藝術的作品の中に、新らしく建て直し、別種の自然を創造する」といふ、極端な非寫實的傾向を有する一派である。その主領ウイリナム・リコイスの言によれば、種々異つた現象の底には、共通した一の永續的な單純性がある。其に徹する時に、尤も有効な表現が出来ると説く。例へば彼の「エズラ・ボウンドウ」の肖像を見るに、直線と角と鋭い面との、單純な組織に還元された表現である。

ヴォリエート (Volute)

普通螺旋狀の渦卷から成る裝飾の一様式をいふそれはイオニヤ、コリント、オーダ等の柱頭裝飾にはつきものであつた。時には又葉形、或は唐草で裝飾される事もある。

ウクラニアン派 (Ukrainian School)

譯

諸曲(ヨウキョク)の項参照。

ウバニシアツト (優波尼沙土)

印度哲學の精髓とされる古聖典で、梵の眞意義を釋明する、印度思想の寶典である。タゴールの「生の實現」は此書の近代的註釋であると稱せられる。シヨペンハウエルは、此書を「生前の安慰、死者の慰籍」と云て讚美したものである。

海の夫人 (Lady from the Sea)

イブセンの代表的な劇である。ノルウェー西海岸の、燈臺守の一人娘エリーダは父の死んだ後全く孤子になつてゐたが、醫師ワンゲルの後妻となり、夫の故郷山の方へ移つた。其より前彼女の娘時代、早く母を亡くした彼女は、海を母の如く親しみ、或る上陸中の亞米利加人の水夫と、婚約をしてゐた。家庭生活に充分満足を得

ウタヒ—ウミハ

ボーランドにて拾九世紀中葉の浪漫主義運動を始めた詩人の群である。

浮世繪

現實の風俗世態を、ありのままに描いたものをいふ。然し普通、徳川時代初期の菱川師宣、宮川長春、西川祐信、勝川春章、喜田川歌麿、歌川豊國、葛飾北齋等の諸大家と其門下に由て描かれたものを、斯くいふに限られたやうな有様である。

歌

語調を整へて、讀み綴つた一種の文詞の總稱である。大抵一句を五音又は七音に定め、其種類には長歌、短歌、旋頭歌、今様、神樂歌、淨瑠璃、琴琵琶歌、新体詩、俳諧、俗謡、等がある。「歌」と云ふ場合狹義にては「和歌」を指し、漢詩を「からうた」と云ふに對し、「やまとうた」と云つた。

ないエリーダは、山の町で「海へ海へ」と憧れてゐた。間もなく子供が生れたが、子供の目が不思議にも、彼の水夫の目と似てゐるので、益々海や水夫の事をのみ思ひ耽る様になつた。其處へ昔の水夫が現實に現はれて、エリーダに同行を迫る。海の娘エリーダは、強い力で水夫に引かれて行く。夫は遂に悲痛な面持で「完全な自由意志、自身の責任で何れとも選ぶ事が出来る、お前を愛するために」と告げた。エリーダは其處で、「一切が變りました、私は貴方のものです」と夫に縋り、水夫には「これでもう最後の……」と永久の別れをして、眞實の生活に入るのである。

海の騎士 (Rifles to the Sea)

愛蘭の劇作家シングの代表的な劇である。場面はアラン群島の一つ。母のモーリヤは、夫も夫の父も、五人の息子をも海で引きつゞき失ふ。

嘆いてゐるうちに又最後の息子、バートリーを失ふ。人生の最も悲しい、突きつめた切ない境地に置かれた、母親の哀れな心持ちは、非常に簡潔に、直裁な筆で描寫され、愛蘭孤島漁民の生活がよく描出されてある。

漆うるし畫え

元祿時代彩色に漆を用いた浮世繪の一種である丹畫にっくわが(其項参照)多少發達して、版畫の彩色に黒色を強調するため、例へば女の頭髮の如き、黒色の目立つ部分を選んで色漆を塗た。多量の膠を墨に交せて代用する事もあつた。之れと共に他の色にも、膠を多量に用いて、光澤を出さうと努めた。故に漆畫の作られた當時の物は、強烈な色彩をもつてゐた役者畫が主で、芝居見物の土産物として喜ばれた。大きさは堅一尺乃至二尺、横五寸乃至一尺程のものであつた。作家として有名なものは、鳥居流で清信(清信の

遺作が最も多い)近藤勝信、勝川輝重、岸川勝政、等である。

ヴァキオラ (Viola)

ヴァキオラの稍々大きなもので、形状は變らないが、各絃ともヴァキオラよりも五度音程が低い。合奏に於ては常にテノール(中音部)に當るもので、音色は憂鬱沈痛の趣があるが、獨奏に於ては、一種男性的熱情の迸るを覺える。

ヴァキナス (Venus)

ヂュピターの女で、希臘のアフロヂット(Aphrodite)に相當す。此神の傳説は極めて多端である。希臘の詩人にも、ホーマーとエジオットにて既に多大の相違がある。同じホーマーにても「イリヤッド」にはマアズの妃と歌ひ「オヂツシー」にはヴルカンの配となつてゐる。

「金星」をヴァキナスと稱ふ。

ウキルヘルム・テル (Wilhelm Tell)

シルレルの最傑作なる戯曲である。スキスの代官ゲスレルは、伊太利の權勢を傘にきて、凡百暴虐を盡し、果ては代官の兜を竿頭につけて、其に禮を強ふる等沙汰の限をつくした。

一日弓をよくするテルが、其子の手を引いて兜の前を通つたが見向もせず、遂に番兵に捕はれてゲスレルの前に引かれ、四拾間餘を距てて、愛子の頭上に林檎を載せて立たせ、それを射よとの難題を出された。テルの強弓はよく林檎を射貫き、去るに臨みて代官に向ひ「林檎を射損ぜば他の一矢は汝の胸を射つ」と云ふ、代官は怒つて自らの舟に載せて居城に送る途中暴風起り、テルは代官を射殺して仇を討つた。

ウンブクア畫派 (Unbuan School of Painting)

拾五世紀頃伊太利に起した繪畫上の一派で、シエナ派(其項参照)の影響を受け、其感情的な特色を繼承したが、後になつてフロレンス派(其

項参照)の影響を受けて、智的科學的になつた。

ウンブリア畫派 (Umbrian School of Painting)

文藝復興期にウンブリア地方に起した一畫派である。アレグレット・メーツ。ゼンチレイ・ダ・フアブリアーノ。ピエロ・デラ・フランチェスコ。及後に至てペルージノや其門下等は著名なる作家である。

ヴァイオレット (Violet)

香堇。

ヴァニティー (Vanity)

虚榮心、浮華。

ヴァージン (Virgin)

乙女、處女。

ヴァージニティー (virginity)

處女性。又處女の純潔を云ふ。

ヴァイクティム (violin)

ウィット——ヴァー

犠牲、生贄、被害者。

ウィット (Wit)

機智。頓才。一見相異なる様なことを巧みに結んで表現したもの、「帯に短かし褌に長し」又は警句、格言などもその例。

ウィル (Will)

意志。

ウオットマン紙 (Whatman Paper)

英国上製の紙、水彩畫、描畫用、印刷用などに用ゐらる。

ウエルツシユメルツ (Weltschmerz) (獨)

獨逸語で世界的悲哀、世界苦の意。

ウエルカム (Welcome)

歓迎する。

ヴォイス (Voice)

音聲。

ウーマン (Woman)

女、既婚婦人。

ウーマン・サツフリジ (Woman Suffrage)

婦人参政權。

ヴェュー (View)

觀察、眼界、意見。

ヴェライエテイー (Variety)

變化、多種多様。Unity of Variety は變化の統一。

ヴェランダ (Veranda)

西洋館などで室外の屋根を以て蔽はれた縁、又は廊下の如きところ。

ヴェール (Veil)

面衣。西洋婦人のよく用ふる薄絹の顔覆ひ。

ウェーター (Waiter)

給仕人。女給仕人はウェイトレス (Waitress)

ヴォルアンタリー (Voluntary) (音)

教會の禮拜前後に奏するオルガンの獨奏。

ヴァーソフヴェン (Warsowenne)

佛蘭西に起た緩徐な 3/4 拍子の舞踊。

エ

永遠の女性 (Die Ewigkeitweiblich) (獨)

ゲーテの作ファウストの、最後に出てくる言葉である。

言ひ知らぬひとことは

こゝに現れぬ

永遠の女性こそ

我等を翼け上ぐるなれ。

榮華物語

平安朝末期の作で、事實を日記に取り、結構を小説に倣つた、歴史物語である。作者不詳であ

エイエ——エイソ

るが、村上天皇より堀川天皇まで、記事を年代的に書き、特に道長一生の榮華を描くに努力し宮廷を中心とした當時の貴族社會の有様が描寫されてゐる。此は又世繼物語とも云ふ。

英國樂派 (English School)

ガリツクベルヂアン樂派よりも存在は古いけれども、歐洲音樂界に影響を及すこと少かつたため重視されなかつた。巴里樂派の刺戟を受くるところ大なるものがあつた。

咏嘆法 (Exclamation)

修辭學上の一法、切なる感情を表はさんとする時、文の前後に疑問体の言を用ゐて、文に趣きを添ふる法。例へば「嗚呼」「あはれ」「かな」「これはく」等の如し。「これはこれは」とばかり花の吉野山」の類である。

永續的快感 (Permanent Hedonism)

英のマーシヤル等が唱へた説で、一切の快感は

美的印象と云ひ得る。然し之が真に美となるには、美的判断の境を通るべきである、即ち快感を後に回顧した場合、尙始めの快感を持続する事が出来るもの、換言せば永續が美の條件なりと云ふ説である。

埃及音楽 (Egyptian Music)

今迄の音楽史は希臘音楽から始まつてゐるが最近、其以前既に埃及に音楽のあつた事が研究されて來た。前三八九二年頃「七つの聖なる音」といふ記録がある。主なる樂器はハープ(立琴)であつて、餘程發達してゐたらしい。更に今日と余り異らぬヴァキオリン系統の、樂器が存在してゐた事が發見された。それらと共に和聲樂があり、祭事には實に音楽は重要な位地にあつた。

埃及の繪畫 (Egyptian Painting)

此は世界最古のものである。今猶墳墓の内部扉、

卷物等に其遺物を見る。古帝國時代は彫刻と同じく、自然に忠實な原始的作品の良いものが出た。主に宗教上の目的から描かれたものである。テーベス諸王の時代、建築美術等大いに進み、繪畫も勝れた作品が多い。デル・エク・パアリの壁畫は此期の傑作である。アミノフィス四世時代の宗教改革期に、従來の形式を破り、靜止よりも活動を重する自由な畫風が起て來た。サイス時代には、彫刻と共に類典的な、生氣のないものに墮ちてしまつた。

埃及彫刻 (Egyptian Sculpture)

埃及帝國の變遷に従つて四大別する。

- 一、古帝國時代。(紀元前四五〇〇—三〇〇〇) 此時代の彫刻は寫實的で、個性がよく表はれ埃及彫刻の粹を出した期と稱せられる。カイロ博物館の「村長全身像」「書記」「王族夫妻」等は代表的作品である。
- 二、中帝國時代(前三〇〇〇

- 二〇〇〇) 徒らに外形的に走つたため、前代の純眞、生氣ある所を失ひ、類型的のものに墮した時代である。
- 三、新帝國時代(前一七〇〇—一一〇〇) 前代の惡風が益々甚しくなるばかりであつた。
- 四、サイス時代(前七二〇—二五) 今期に入て古代藝術の復興運動が起り、相當傑作も出た。

概して埃及彫刻は、平靜と、嚴肅と、單純を特色とし、上代の作品は何れも類典的であつた。題材は男女神、人間單群像、空想的や實際の動物像。そして其等にスフィンクスの如き巨像もあつた。

埃及建築 (Egyptian Architecture)

埃及建築は非常に古代に逆る。此地の民家建築は最原始的な家である。貧民等は窓もなく光も入らぬ煉瓦の粗末な小舎に住でた。然し宗教建築には大なるものがあつた。其種類は祠堂(テ

ンプル)と、ピラミッドである。金字塔は第四王朝より始まる。希臘のドリヤ式建築に似る所があつた。裝飾は單純で、重に繪畫裝飾であつた。時期を四大別して、

- 一、メンフィス時代(前六〇〇〇—四〇〇〇)
- 二、シイバイ時代(前三〇〇〇—一一〇〇)
- 三、サイト時代 四。トレミー時代。とする。各時代を通じての特色は、觀念の崇高、色彩の華麗、容積の巨大、等の諸點にある。此他に後代回教の移入と共に、埃及回教建築なるものが生じた。

エジプト (Aegon)

初め子なきことを思ひ、デルファイに赴いて巫女に諮り、神託を得てトロゼンに航し、遂にエストラと婚した。(希臘神話)

エスキエレーピウス (Aesoulapius)

アポローの子。死後天界に召されて次神の位を

エディ——エナメ

授けらる。(希臘神話)

エディボス王 (Edipus the King)

希臘悲劇作家ソフォクレスの傑作で、又同時に希臘に於ける凡ての悲劇の代表作である。或時國中に疫病起り、その退散方法を構じやふと、デルファイ宮の神託を受けた。神託には「先王ローイスを殺した下手人に復仇すべし」と云ふのであつた。王はその言によつて詮議するうち端なくも其下手人が王自身であること。王妃は先王妃、即ち王のためには母であつた事がわかり、王妃は縊死する、王は兩眼を抉出されて、漂泊の旅に出るといふ筋のものである。

繪所

朝廷に於ける繪畫の事を司る所であつた。平城天皇、大同三年に畫工部を内匠寮に合せられ、繪所と改稱された。其長を繪所預と云ひ最初の繪所預は、託摩爲成であつた。後代土佐、住吉

兩派の人々が繼承して、明治に到つた。

エトルスクの繪畫 (Etruscan Painting)

エトルスクの繪畫は、重に裝飾的繪畫で、墳墓の内部、瓶、其他物品の上に描かれたものである。他に特筆すべきものはないが、後代羅馬人に大きな感化を與えた。

エトルスク彫刻 (Etruscan Sculpture)

紀元前六世紀頃より、羅馬に征服されるまで——前三世紀——エトルリアは、文化の發達した國であつた。建築、繪畫、彫刻の立派な作品を多く遺した。彫刻には浮彫、塑像、石棺、テラコッタ等がある。其特色は剛健、粗豪で生氣に富んでゐたが後代希臘典型を追ふたため固有の色彩を失つたが、初代は實に強いローカル・カラー(地方色)を持てゐたものである。

エナメル (Enamel)

半透明の硝子休の溶解されたもので、金、銀、

銅等に用ゐる。それに酸化物を入れて種々異なる色彩を受ける。錫の酸化は白のエナメル、銅の酸化は緑のエナメル、となるが如きである。亦白エナメルとは、陶器の上に透明及半透明の彩色を旋すエナメルを云ふ。エナメル畫は拾六世紀の初葉に行はれた。

エピキュリアニスム (Epicurianism)

エピクロス主義、希臘の哲學者エピクロスの提唱により、其學徒の信奉せし快樂主義。

エピグラム (Epigram)

元來は墓碑及紀念碑等の上に誌されたる詩の銘を意味す。轉じて寸鐵詩、警句の如き詩を意味するに至つた。

エポック・メイキング (Epoch-Making)

劃時代的と譯す。新時代を開くこと、新時期を劃すること。例へば佛蘭西革命は世界史に於て貴族時代の終末を告げると共に、新しい平民

繪馬

時代を開いた。即ち佛革命はエポック・メイキングの出來事であつた。又藤村氏の「破戒」が出て文藝界に於て、古い寫實主義の時代を劃し新しい自然主義の時代を開いた。即ち「破戒」はエポック・メイキングの作品であつた。斯る出來事を Epoch-making event (エポック・メイキング・エヴェント)と云ふ。

エミール (Emile) (佛)

佛人ルツソウの作に成る教育小説。彼は「自然にかへれ」と叫び、人間生活を本能自然の姿に歸らしめんと主張し、斯る生活に依て人間の純なる生命を發展せしめやうと云ふのである。

エムメー・エン

エムメリヤ (Emmelia)

希臘の宗教的舞踊の一である。コルチス及サイアスの紀念としてオルフォイス神の授けた舞踊と稱せらる。神々に祈る場合などに用ふる舞踊で、静かで嚴肅な、祈の氣分に合致する様にしてある。コーラス及歌唱の助をからずに行はれた。

エリサベス式建築 (Elizabethan)

ルネサンス建築期にその様式が英國に入り、貴族富豪達の郊外住宅によく用ゐられた。ルネサンス式を英國に同化させた様な建築様式である。牛津、劍橋の兩大學は其最もよき例である。

エルナニ (Hernani)

ヴィクター・ユーゴーの作に成る戯曲である。一八三〇年、二百年來の古典主義に反して、新らしく浪漫派文學を主張し、フランス座に於て挑戦的に上演され、浪漫派の勝を得たといふ歴

史的に有名な作品である。梗概は、或る老候に

許嫁せられたソル姫が、青年エルナニを慕ひ、幾度か死を決するほど種々なる困難に遭遇したが、遂に二人の戀は成就して結婚式を挙げた。然し其當夜彼が誓の言葉に崇られて、同志の者から自殺を強られた。娘は之を諫めたが、エルナニは「スペイン魂の面目の爲」と許を願ひ、遂に姫と共に毒盃を飲んで自殺するのである。

エレジイ (Elegy)

沈痛、悲愁、悲戀等の内容を歌ふ詩の一様式を云ふ。グレーの「墓畔吟」の如きはその例である。

演繹法 (Deduction)

論理學上の言である。一の普遍的な根本原理を土臺とし、其原理から箇々の事實、又特殊な事實に原理をあてはめて行くといふ、推理の一方法である。例へば「人間は凡て死すべきものである。

ある「ソクテラスは人間である」故にソクテラスは死すべきものである」といふなど、之は人間から箇人に原理を及ぼしてゐる。

遠近法 (Perspective)

事物を一定の距離から見て吾人の眼に映るが如く、畫面或は彫刻面に描寫する方法を云ふ。十五世紀頃伊太利に於てフロレンス派(参照)などが初めて科學的に研究したものである。

演劇的本能

演劇の起原を成す一種の藝術本能である。假裝して物眞似を喜ぶ欲求の如きもので、人間凡ての遺傳性である。野蠻人にも小兒にも、斯る本能を豊かに具有するといふ説。

厭世主義 (厭生觀) (Pessimism)

樂天主義と全く相反する主義である。此世界及人生は生活する價値なきものとする主義である。此世に美がないではない、快がないでもない。

エンキ——エクス

然し此世は惡に充ちて何とも仕方がないといふ悲觀的な見方である。佛のヴォルテール、獨の哲學者シヨベンハウエル等は其最なる者である。

エール・タンドウル (Airs tendres) (佛) (音)

戀愛歌。

エクスプレッション (Expression)

表白、表情、表現。

エクスプレッションニスム (Expressionism)

表現主義と譯す(其項を見よ)

エキゾチック (Exotic)

異國的、異國情調(参照)

エクジステント (Existence)

生存、存在、實在物。

エーゲルリッド (Jaegerlied)

獵の歌。

エクスタシー (Ecstasy)

エゴ——エラボ

喜悅、法悦、恍惚、忘我。或事に心を奪はれ無
我の境にさまよう心持ちを云ふ。

エゴ (Ego) (拉)
我。

エゴイスト (Egoist)
自己中心主義者、自我主義者。

エゴイズム (Egoism)
利己主義、自我主義。

エジヤナ (Egina)
河神の女、エジイナ島に匿さる。(希臘神話)

エッセー (Essay)
論文、隨筆。

エッセンス (Essence)
要素、精髓。

エニグマ (Enigma)
謎語、隱語。

エピック (Epic)
エピック

叙事詩、史詩。

エピソード (Episode)
挿話。物語や小説等の本筋とは關係なく、織込

まれた或る小話を云ふ。

エフェクト (Effect)
効果、影響。

エホバ (Jehovah)
主との義、ヘブライ人が造物者即ち神を指した
名稱。

エポック (Epoch)
時期、時代。

エメラルド (Emerald)
綠玉石。綠色の光澤ある硬き寶石。

エモーション (Emotion)
感情、情調、感動。

エラボレート (Elaborate)
念を入れたる。丹精して作れる。細密なる。

勢を強める事、力を籠めて云ふ事。

オ

エレジイ (Elegy)
輓歌、悲歌、人の死を悼む歌。

エレメント (Element)
元素、要素、成分。

エロチック (Erotic)
戀の、戀愛的、戀愛歌又は詩。

エロース (Eros)
希臘語にて肉的感覺的な愛を意味す。

エングレーヴィング (Engraving)
彫版との義。(其の項を見よ)

エンゲージ (Engage)
婚約。即ち結婚の約束。

エンサイクロペディア (Encyclopaedia)
百科辭書。

エンジョイ (Enjoy)
楽しむ、享樂する。

エンフアサイズ (Emphasize)
強調する。

エレジ——オーヴ

追分繪

大津繪とも云ふ。往古は大津の追分、伏見大谷
の邊で賣られたもの。奉書紙に書いた堅の一枚
繪で、圖題には「鬼の念佛」「鎗持奴」「辨慶と
釣鐘」などが多く、時代は寛永頃から始まった
ものである。

オーヴァチュアー (Overture)

序樂。序曲。オペラ・オーヴァチュアーは、最
初聲樂のみであつたが、スカルチイに至て純然
たる樂器のものとなり、三樂章より成る。それ

オフキ——オーケ

は開幕準備のため、又劇の内容を暗示するものである。

コンサート・オーヴァチュアは簡単なソナータ形式のもので、最初は緩徐な短かい表情曲節が表はれ、續いて主題が開展する形式のものである。

押韻法

詩句の中、一定の間に同音又は類似音を反復させて韻を成さしめる方法である。韻を前に置くものを頭韻法、後に置くものを脚韻法と云ふ。

オウベルニコ派

文藝復興期に於けるフランスの彫刻の一派である。斯派は彫刻の題目に諷刺的なものを選び、善悪の戦ひ、悪徳の刑罰が、普通流行した基督の像、又は其生涯の有様等を題に取たのが多かつた。拾二世紀頃が最も盛んであつた。

オーケストラ (Orchestra)

管弦樂。希臘劇に始まつたもので、最初は觀衆と舞臺の中間にある、樂隊の居場所を指したものであるが近代では樂隊その者を云ふに至り劇場、オペラ、オラトリオ、音樂會等に演奏され、此に用ふる樂器を四種類に大別出来る。

- 一、絃樂器、ヴァイオリン。ヴァイオラ。セロ。ダブルバス。ハーブ。
- 二、木管樂器、フルイート。ピイコロ。イングリツシホーン。オーボエ。バスーン。ダブルバスーン。クラリオネット。
- 三、金屬樂器、フレンチホーン。トランペット。トロンボーン。サツクスホーン。バス。トウバ。コルネット。
- 四、拍擊樂器、ケツトルドラム。バスターム。スネアドラム。シンバル。トライアングル。ベル。ゴング。

此等の樂器を全部用ゐたものを、フル・オー

ケストラと稱し、一部使用したものを、或はピアノを加へたものをスモール・オーケストラといふ。

嗚呼繪

日本最古の狂畫の一種である。比叡山に住でた阿闍利が一種すね者で、講道に反して作り初めのもの云ふ。

オスマン建築 (Osman architecture)

オスマン・トルコ人の建築の謂である。期間をコンスタンチノーブル占領前後の二期に別つ。前期はベルシヤ式に負ふ所が多く、遺物にウール・チャイミがある。後期は範を東羅馬式に取たもので、トルコ第一の大寺院スレーマン寺、アーメド寺は其遺物である。

オセロー (Othello)

沙翁後期の作で四大悲劇の一である。伊太利ヴェニスヴェニスの干城と尊ばれた將軍、大功あれども單純素朴の人オセローが、奸人イアゴの術中に

オコエ——オーダ

陥り、最愛の妻デスデモーナを不貞と疑て殺した。逝て後其冤罪を知り將軍も又自殺するのである。

オセロ (Othello)

伊太利の作曲家ヴェルディの傑作歌劇。沙翁の悲劇オセロを骨子としたものである。

オーソドックス (Orthodox)

正統派と譯す。宗教上正しいと認められた教義を受け繼で來た派を、異端に對して用ふ。學術上にも系統正しく受け繼で來たものを云ふ。

オーダー (Order)

西洋古典建築に行はるる一種の典型である。建築の外部を構成する基礎から軒まで、柱及 *Entablature* (屋盤) の形狀構架の方形を云ふ。オーダーはギリシヤ人の創めたもので、ドリア、イオニア、コリントの三様式。ロマにてはその他にエルトリヤ、コンボジト、を加へた五様式があ

つた。
落窪物語おちくぼものがたり

平安時代の小説で作者は詳かでない。中納言某に多くの娘があつた、其中の一人は異腹であつた、彼女は容色才藝共に他の女達に勝れたが、繼母は彼女を憎み虐待した。彼女を落窪の君と云ひ、後少将某の夫人となつて幸福な生涯に入る。母も遂には善人にかへるといふ物語、繼子虐めの小説である。

お蝶夫人 (Mitsuko Butterfly)

伊太利の歌劇作者ブツチニの、日本を背景とした歌劇である。米國海軍士官ビンカートンが、お蝶といふ日本婦人と婚約したが、歸國後他の婦人と結婚し、新夫人と共に日本を訪ねた。それと知つたお蝶夫人は自殺をする。

オード (Ode)

高情曲。概して形式は短かく、感情の高揚、組

織は複雑で、構想が莊重である。ミルトンの「基督降誕のあした」(Morning of Christ's Nativity) シエレーの「西風によす」(Ode to the West Wind)等は其よき例である。

オーナメント (Ornament)

裝飾。藝術品を豊富に、効果を増大させるために描き又彫刻される裝飾の要素を云ふ。オーナメントは固定的模様か、又は人物模様、唐草模様其他表現の自由な連続よりなるもの、即ち藝術家の想像に従て變化する、直線曲線の自由な集合に由て成る。然し其等は又地方的、時代的にそれ々々特徴を有てゐる。重なるもののみを左に示す。

一、アラビヤ裝飾。多角形、三角形、菱形、圓形及其他を、幾何學的に組合せたもので、其等は非常に巧妙な色彩を施され、調和統一されてゐる。

二、エジプト裝飾。重なる組立は象形文字、甲虫、象徴的動物及蓮、棕櫚葉等より成てゐる。

三、ギリシヤ裝飾。重に葉飾を均齊的に組合せたもので、柱頭に用ふる葉飾などは其である。

四、ゴシック裝飾。拾二三世紀のものは地方的植物の忠實な表現、又は空想的動物より成立てゐる。拾四世紀は裝飾趣味は墜ち、拾五世紀には純眞を失て、無意味なものとなつた。

五、ローマ裝飾。希臘建築に用ゐた裝飾と異ならぬが、壁面の裝飾には壁畫を描き、鋪石にはモザイクを施した。

六、ローマネスク裝飾。ビザンチン時代には豊富であつた裝飾趣味は、ローマネスクに到て古典裝飾の悪い模倣に陥り、此時代には極めて不細工なもので、希臘時代の様な優美な點は少しもなかつた。

オーバースラップ (Over-lap) (映畫劇)

オーバ——オペラ

一つの映畫面から次の映畫面に、なだらかに、何時とはなしに、自然に變り行く方法である。

オブスキュランチズム (Obscurantism)

文明の普及に反對する主義、非教化主義、文明の弊に堪えず現狀維持を主張する主義。

オブロモフ (Obromoff)

露國の作家ゴンチャロフの最も名高き作品である。實行的でなく、頭の人、口の人で遂に無爲墮眠に陥た人間オブロモフを主人公として描いた小説である。其故無爲墮眠の中に世間をうか／＼と夢の様に送りたいと云ふ主義を、オブロモフ主義と稱す。

オペラ (Opera)

聲樂と器樂が最も重要な要素をなす劇の一種である。此は拾六世紀末伊太利に起たもので最初の作は、ペリ及カチーニ合作の Dafne で、非常な賞讃を以て迎えられた。拾七世紀末アレキサ

オペレ——オホカ

ンドロ・スカラアチイが出て、現在の伊太利派の基礎を作た。彼の時に歌手が主演者となつた。其感化は佛、獨國に及び、近代の所謂グラントオペラ(合唱、アリア、レシテーチヴ、其他の獨唱重唱より成る)を生成するに至た。浪漫的時代の獨逸作曲家を感化して、モザート、ヴェーバー、ベーンに至り、非常な盛觀を呈した。其後ワグネル出で、驚くべき天才をオペラに傾け、その改革は斯界を風靡した。彼は從來の主義に甘ぜず、劇的、詩的、舞臺的、音樂的の要素を渾然調和せしめ、一の音樂的大綜合藝術を現出した。佛蘭西に起たグラントオペラ、及ワグネル派オペラは、共に感化を及ぼす所多く、又現在に於ける最も代表的なオペラである。オペラの種類は、グラントオペラ(シーリヤスオペラ、ヒロイツクオペラ、トラシツクオペラとも云ふ)臺白のないオペラ、コミツクオペラ(又はオペラヴ

アツファ)に大別する事が出来る。コミツクオペラに就ては喜歌劇参照。

オペレッタ (Operetta)

小歌劇。歌劇に似たものであるが、もつと俗なもの、散文的な科白を入れる點がオペラと違ふ。題を主に喜劇的なものに求るを常とす。

オペリスク (Operisk) 方尖塔

希臘語では鉄串の意、原名をテヘンといふ。太古エヂプトにて神殿の門前に、一對の方形石柱を建立し、寄進者名又は功績等をしるしたものである。

オーボウ (Oboe)

フリユウトに似たもので、最高音部の演奏に用ゐられる。之は口に簧(シタ)を有し、その振動に依て音を發する。音色が憂鬱で人を引つける魅力があると云ふ。

大鏡 (Ogata)

平安朝末期の作で、歴史物語である。作者は爲業と云はれてゐるが不詳である。全篇の結構は大宅、夏山の二翁が對話の態とし、加祥より萬壽に至る年代の事蹟を記してゐる。宮廷を中心として貴族の生活を描寫し、特に道長の榮華の有様を寫さうとしてゐる。此は又世繼物語とも云ふ。

黄金時代 (Golden Age)

社會の狀態及其文明、文化の程度が最高に達した時期で、希臘のペリクレス時代、羅馬のオウガスタス時代などは其例である。此言は文學史上、又は美術史上、及人の一生涯中最も光榮ある時期をも云ふ。

黄金律 (Golden Rule)

新約聖マタイ傳七章拾二節「凡て人にせられんと思ふことは、汝等また人にもその如くせよ」。ルカ傳六章三拾一節「人にせられんとすることは、人にも亦その如くせよ」を一括して稱する。

ワウゴ——オウヨ

此は社會道德を代表するものとして用ゐられる言葉である。

黄金率 (Aurea Sectio) (羅)

A:B=A:A+B と云ふ數量上の割合を云ふのである。此關係は希臘時代から知られてゐるが、其を藝術の形式美の割合に應用したのは、獨逸の美學者ツアイズィングである。例へば或る形体を二分した場合に、其小なる部分と、大なる部分との比が、大なる部分と全体との比に等しければ、美であると云ふのである。吾等が見て美となすものは、悉くこの率に準ずるものであると説く。

大津繪 (Ohtsu-e)

追分繪に同じ。

應用美術 (Applied art)

純正美術を應用して作た器具裝飾などを云ふ、又工藝美術とも云ふ。

オラト——オラン

オラトリオ (Oratorio)

神事劇。オペラの一種で、舞臺動作がなく、獨唱、重唱、オーケストラ等に由る劇である。題材を宗教上の物語に取る。オペラと異なる點は舞臺動作、舞臺背景がなく、唱歌の中に劇の進行を話さしめるにある。此は拾六世紀頃僧フリップ・ネリが、聖書より題材を取て讚美歌を成したに始まる。其後中世紀の宗教家、慈善家が、病者老幼者を助けん爲、基督の事蹟を歌劇体として演じた。其後レシテイチヴを取入れる様になつた。現在のオラトリオはオーケストラ、レシテイチヴ、叙事的獨唱大合唱より成るもので、拾八世紀頃獨逸のハイドン及ヘンデル等の完成したものである。最大の特徴は宗教的莊嚴さにある。

オランダ劇 (Dutch Drama)

オランダに於ても其起原を、宗教劇に有するが

オランダ劇文學と稱することの出来るものは、獨立戦争前後に涵養せられた古文學研究の感化に由つて、コステルの古典劇に其端緒を開く。其と共にブレドロの傳奇劇及ホーフトの悲劇なども、此と同時代に出た。古典劇から轉じて、新しく自國特有の様式に移つた最初の劇詩人はヴオンデルである。其以來彼ほどの詩人は出なかつた。喜劇は著名な國民劇となる程のものを作り得なかつた。オランダの國民劇は、現今に至るまで永く、未だ世に生れないのである。

オランダ畫派 (Dutch School of Painting)

拾七世紀頃に發展した畫派である。主に風景畫、風俗畫、肖像畫等が多く、特に寫實的な風景畫には優れた點を持つてゐた。レンブラントを除く他は概して宗教畫は少なかつた。制作の中心はハルレムとアムステルダムである。拾六世紀にルーカス・ヴァン・レイデン出で、拾七世紀

にフランス・ハルス及び、最大の地位を占むべきレンブラントが出た。

風景畫家としてはジャコブ・ヴァン・ルイスダール。ボヘマ・ガン・デルニア。動物畫家としてはポール・ポツテル。風俗畫家にはアンドリアン・ブルワア。テルポールク・メエツウなど著名である。此の畫派も拾八世紀に至ては前世紀作家の風を摸倣するのみにて、非常に衰微した。

オリオン (Orion)

獵夫にして七女の美を慕ふ(七星参照)死後昇天して星宿に列した。獅裘を纏ひ、玉帯を佩ひ、棍棒を手にした「オリオン星座」はそれで今も彼の「六星」の後を追ひつゝ天空を駈るといふ。(希臘神話)

オリブ (Olive)

橄欖樹。地中海沿岸に多く産し、果實は食用及主に採油用とする。我國にても紀州の一部、四

オリオ——オリオン

國及九州の一部にはある。此樹の葉は平和の象徴として用ゐられる。

オリムパス (Olympus)

ギリシヤにてはオランボスといふ。光明又は美晴の義。希臘神話に有名な土地で、セツサリ州の北、マセドニヤとの境に聳ゆ。高九七五〇尺、古代この山は世界第一の高峯と思ひ、ヂュピター一族の住める、常春の天界に通ずるものと信じて居た。

オリンピク・ゲーム (Olympic game)

古代希臘にてゼウスを祭るために、四年に一度の大祭があり、エリスに於て餘興として大競技を催した。今は國際的競技を云ふ。

オルガナム (Organum)

復音樂の發達に由り、原旋律に對して五度もしくは四度の音程を用ゐたるものを云ふ。ハックバルド (Hucbald) の創設に成り、聖オルガナム

オルガン—オーロ

と稱す。之に對して俗オルガナムあり、三度もしくは二度の音程を用ゐたものである。

オルガン (Organ)

此にはパイプオルガンと、リードオルガンの二種がある。前者は幾十百の管を装置し、機械を以て風を送り、それに由つて音を出す。ストツプで音色の強弱を加減する。大きいものに至つては、宛然大オーケストラを聞くが如くである。此は重に教會寺院用として用ゐられる。我國で普通用ゐられるのは後者のリードオルガンである。パイプの代りに金屬性の小さい辨を用ゐる、装置も簡單にしたものである。

オルフォイス (Orpheus)

グルツク作曲の代表的歌劇。希臘神話から材を取たもので、オルフォイスは愛妻ユーリディチエの死を悲嘆し、神にその再生を祈る、神は憐みて冥府から甦らせるといふ筋の、四幕物幽玄

なる歌劇である。

オルレアンの少女

獨の文豪シルレル晩年の作に成る悲劇。フランスの女傑で母國の危急を救た、ジャヌ・ダルクを主人公とし、其生涯を戯曲化した五幕物である。神秘的な中世紀を背景として、奇蹟や信仰が美しく描かれて居る。

オーレ・コンクール (Hors concours) (佛)

競争除外の意、巴里のサロンにて二等賞以上を得た美術家は、無審査で出品することが出来る。之はH、O、の略字を用ふ。

オーレオル (Aureole)

繪畫又はステインドグラスなどに用ゐらるるものは、基督、聖母、聖徒の頭に光輝ある圓環を云ふ。

オーロラ (Aurora)

極光。地球の極に近き地方は、大空に夜中空氣

が稀薄な爲めに生ずる、莊麗なる一種の光がある。又希臘神話にて曉の神をオーロラと名け、莊麗なる白馬の車に乗て往來すると云はれて居る。

音位律

押韻法に同じ。

音畫

(Klang malerei) (佛)

近代一般藝術の著しい一特色は、詩も音楽も繪畫彫刻も、各種の藝術の境界が混亂してゐるといふ事である。其著しい例は、ヴェルレイヌ一派象徴詩人の、所謂詩と音楽との接近に見ることが出来る。彼等は言葉で以て、音楽や繪畫と同一の効果を收めんとし、又同時に音楽によりて、繪畫と同一の効果を收めんとする。彼等は音を以て描くものである。斯る主張の下に「音畫」の名稱が用ゐられる。代表的な例はカンデンスキの藝術に見られる(コンボジシヨナリズム)

オンキ—オンガ

ム。参照) 佛のゴオチエは此を「藝術の轉換」(其項参照)と云つた。

音樂 (Musio)

律動(リズム)と調和(ハーモニー)の原理に基いて、音の強弱、高低、音色等をもつて旋律より成さるる藝術の様式である。これは繪畫、彫刻に於ける藝術の如く、事物を通じてなく、直接に人の感情に傳ふるものである。器樂、聲樂、軍樂、劇音樂、教會音樂等がある。

音樂極致論

英國の批評家ウォルター・ペーターの説く所で、其主張の一端を示せば「凡百藝術は常に、音樂の調和状態に憧れる。何故ならば、凡て他の藝術では内容を其形式から分離することが出来、其藝術を了解するために、此區別をするが、區別を無くするといふことは、藝術の當然の努力であるからだ。例へば詩の内容即ち題目、與へら

オンシー—ランナ

れた出来事、又は情況、或は繪畫の單なる内容即ち、事件の實際的地理情況、景色は、此を取扱ふ精神と、形式とがなければ何等の藝術品も構成しない。この形式、取扱の様式が、其自ら目的たるべきこと、内容の凡ての部分に貫くべし、といふこと——斯の如きはあらゆる藝術が常に憧れを以て、各々異た態度で幾らかづゝ成功するものである。

音 色 (Tint Colour)

音、個有の性質である。

音 数 律

造句法に同じ。

音 性 律

平仄法に同じ。

女歌舞伎

足利時代の末期、出雲のお國といふ女が——出雲大社の巫女であつた——當時文化の中心であつた。

味線を、その樂器の中に用ゐる愈々長足の進歩をしたものである。併しこれに伴ふ弊害も甚しくなつたため、徳川三代將軍家光の時に、令してとどめられた。

音 律 的 藝 術 (Rhythmical art)

時間的藝術に同じ。

温 色 (Warm colour)

赤色、黄色、又は此色が主調となつてゐる色彩を云ふ。之に反するものが寒色(参照)

オアシス (Oasis)

砂漠の中にて樹木及湧泉ありて、隊商などの休息する綠地を云ふ。

オカリナ (Ocarina)

古代に用ゐられた土製半月形の小笛。悲しい音を發す。

オーサー (Author)

作者、著述家。

オンリ—オペラ

つた京都に来て、物見高い加茂川の河原に、他の幾多の興行物と共に演技した。その中殊に彼女の技藝が評判となり、忽ち畿内を始め六十余州偏僻の地まで擴つた。之を以て我國の演劇の濫觴とする。

お國の技藝は、最初の頃は一種の念佛踊であつた。黒絹の僧衣を着、眞紅の唐織の長く細い紐二筋を以て紐を襟にかけ、佛號を唱へながら、それを叩いて踊るのであつた。處が其頃艶名を歐はれた名古屋山三郎と相識る様になつてから彼より早歌(當時の俚歌)を學び、歌曲を新らしく作り、今迄の佛具を脱ぎ捨てて、刀を差し頭を包むで舞つた。これより益々お國の歌舞伎が流行し、多數の摸擬者も出來、いつしか此の女歌舞伎は、全國到る處に興行せられるやふになつた。これと同時に遊女で歌舞伎をする者もあり、能の手を加味して當時琉球から渡來した三

オーソリテイ (Authority)

權威。

オートクラシー (Autocracy)

專制政治。獨裁政治。

オブチミスチック (Optimistic)

樂觀的。樂天的。

オープン・ハートッド (Open hearted)

あからさま。心に隠すことなき有様。

オブゼクト (Object)

目的物、對象。

オブゼクティブ (Objective)

文法上では目的格、又主觀的に對する客觀の意に用ゐる。

オブレビオン (Oblivion)

世に忘れられること。埋没、煙滅。

オペラ・ブッフア (Opera Buffa) (伊)

喜歌劇。

オミツ——カイセ

オミツシヨン (Omission)

省略。

オムニツセンス (Omniscience)

全智

オリエンタル (Oriental)

東洋の。東の。東洋人。

オリジン (Origin)

起原。

オリヂナリテイー (Originality)

創意。獨創。(其項を見よ)

オルガニズム (Organism)

有機体。

カ

概観 (Outline)

美術上其他に用ふる言、輪廓、明暗、色彩、構圖等大体の結構を云ふのである。

外光派 (Plain Air) (佛)

近代フランスに起た一畫派である。従来は室内でモデルを用る制作をしてゐたのであるが近代寫實主義の勃興と共に、凡ての繪を、強い直接光線のある、四方から其反射も集る、戸外の複雑な光線の中に、描かんとする一派である。印象派は之れに屬する。

海戦 (Seeschlacht) (獨) (劇)

獨逸表現派の戯曲、ラインハルト・ゲエリングの作である。海戦に向ひつゝある、或る戦艦の砲塔内に、戦争の豫感と緊張とで慄えてゐる七人の水兵に依つて演じられる。彼等の簡性は各異り、勝利を期待してゐる生命の熱愛者、祖國のため死に殉じ得る義務觀念の

強い者、神に對する信仰を有せない者、不幸を

知悉してゐる男、只管生命の安全ならん事を願

ふ者、それに詩人である第一の水兵、祖國の爲

めに犠牲となるを無意義とする反逆者の第五の

水兵、とで戦争が開始せられるまでは他の水兵

は第五の水兵を謀反人として縛らうとするが、

戦争が始まるや、爆發、喧騒、命中、の中で最

後迄第五の水兵は勇敢に戦ふと云ふ筋で、人間

の好戦性を皮肉に、如實に現してゐる。我國で

は、土方與志の演出で築地小劇場に上演されて

以來有名になつた。

解剖 (Anatomy)

文學上に用ふる解剖とは、或る事件、人物等を科學的に精査して明かにするを云ふ。自然主義文學の時代によく用ゐられた言葉である。美術上に云ふ解剖は、身体の形及筋肉に關する研究である。其に最も大切なるは、骨學(骨の研究)

カイボ——カヴァ

概念 (Concept)

筋學(筋肉の研究)等である。概念とは種々なる事物中、共通した内容を抽象し總括して、其種類全体を代表する觀念である。例へば人は各々異つた個性を有する人格者で、容貌も性格も異なる。然し人は一様に共通した點、同じ骨格を有し、皆同様に智情意を有する。斯くの如く其共通した性質のみを抽象して、人とは如何なるものなるかと云ふ觀念を作る。それが即ち概念となるものである。故に概念には簡性はないのである。

外面描寫 (Description)

人物を描寫する時、其人の精神生活、その氣分の如き、内部生活を描くに對し、容貌、動作態度等の如き、外部生活を描くをいふのである。

カヴァレリア・ルステカナ (Cavalleria Rusticana)

伊太利の歌劇作者マスカーニの名高き出世作で

カウキ——カウダ

ある。シシリー物語より材を取つたもの。娘サントウツツアは、トウリドゥと戀仲になつたが、青年は又馬車屋アルフィオの妻と密かに通じた。娘は男の薄情を恨んでアルフィオに告げた。アルフィオはトウリドゥと決闘して遂に殺してしまふ。

高級象徴 (Eooh-Symbol) (獨)

氣分象徴に對して用ふ。作者の思想を或る象徴を以て表現するを云ふ。イブセンの戯曲、「野鴨」の中に深い或思想を暗示してゐるが如き、ハウプトマンの象徴劇「沈鐘」に、現實界の苦惱と、天國の憧憬との間に、苦悶する人類を象徴してゐるが如き、は其例である。其他ダンテの神曲が、中世紀基督教思想を、沙翁のハムレットが懷疑苦悶を表はしてゐるが如きも、又高級象徴である。(象徴主義参照)

高級概念 (Superordinate Concept)

上位概念とも云ふ。低級概念に相對の言である。

或る概念が、他の概念よりも更に大なる外延(從て内包は小)を有する場合に用ふ。例へば「生物」は動物、植物に對して高級概念である。

考古學 (Archaeology)

主として遺物遺跡等に由て、古代の事物、特に其國民、社會狀態、風俗習慣、文化程度、生活狀態、等を研究する科學である。其研究材料により時代を三大別にする。一、先史時代(石器時代)二、原史時代(古墳時代)三、歴史時代である。猶此部門に藝術考古學(其項参照)も含まれてゐる。

講壇社會主義 (Socialism of Chair)

社會政策上の一主義である。主張者が大抵獨逸諸大學の教授であつたから、斯く綽名されたものである。自由放任主義に反し、國家の權を擴張して、社會を改良せんとする說である。

高蹈派 (Tarrasiers) (佛)

佛語 (Tarrasiers) の譯である。希臘のバルナツソス山上に集つた、所謂高蹈派と名附けられた人々の流を汲で起た、佛蘭西に於ける文學上の一派である。斯派の人は、此社會は俗惡にして顧るに足らずと云ひ、獨り自己を世に超然として高遠の境に置き、社會より全く離れて藝術の境に遊び、その技巧を鍛錬し完全なるものを作らふとするのである。現今では藝術上の貴族主義を指して云ふ。

巧利的藝術觀 (Utilitarian View of Art)

藝術とは、藝術其自身の獨立した價値を有してゐないが、吾等の實生活に何等か益するところがあつて、始めて價値を生ずるものであるといふ説である。此に二種あつて一は實用的藝術だといふ、即ち實用的巧利觀。一は藝術は人生を高きに導くとか或は、社會改良に役立つ等に用ひ

カウト——ガクキ

られて、始めて價値あるとする觀說的巧利觀である。

雅歌 (Song of Solomon)

舊約聖書に收められる詩の一卷である。相思の愛を歌へる戀愛歌で、作者はイスラエル王ソロモンと云はれて居る。

畫劇 (Scene Painting)

シーン・ペインティング(背景畫)とは、演劇の舞臺上に、俳優演技の背景を成す風景、或は室内等を模寫した、劇舞臺の背景畫を云ふ。ド・ルイテルブルは此を著しく進歩させた人である。ナシムス。ロバーツ。スタンフィールド。ベヴァーレー等斯道の大家である。日本に於ては能舞臺の背景に用ゐたのに始まり、美術家の手に成たのは明治三十七年、洋畫家山本芳翠氏が始めてである。

樂器 (Instrument, Gewert の分類による)

此を大別して、絃楽器。吹奏楽器。拍撃楽器とする。

一、絃楽器。

A、摩擦によるもの

甲、弓にて奏するもの

A、四絃楽器、ヴァイオリン。ヴァイオラ。

ヴァイオロンセロ。ダブル・バス。

B、四絃以上の楽器。ヴァイオラ・ダモア。ヴァイオラ。

乙、金属で奏するもの。ハーデイ・ガーデイ。

ピアノ・ヴァイオリン。

B、搔摺によるもの

甲、指にて奏するもの

A、フィンガーボードなくして奏するもの

ハープ

B、フィンガーボードを有するもの、ギター

1。マンドリン。リュート。

乙、鍵盤によるもの、ハープシコード。

C、打撃によるもの

甲、奏者直接に弾するもの、ジンバロン。ク

シロホーン。

乙、鍵盤によるもの、ピアノ。

二、吹奏楽器。

A、吹穴あるもの

甲、横に穴あるもの、フリユート。ピッコロ。

アアイフ。

乙、口笛的のもの、フラジオレット。

B、吹口に辨あるもの

甲、圓筒のもの、クラリネット。バス・クラ

リネット。バセット・ホルン。

乙、圓錐筒のもの、サクソホーン。オクタヴ

イン。

丙、圓錐筒にて復辨のもの、オーボエ。イン

グリツシユホルン。サラスホーン。バ

スーン。クイント・バスーン。ダブルバ
スーン。アルトオーボエ。

C、盃状吹口のあるもの

甲、自然音のもの、ナチュラル・ホルン。信

號喇叭。オスト・ホーン。ミリタリー・

ビュイグル。

乙、半音階的のもの

A、スライドあるもの、トロンボーン。ス

ライド・トランペット。

B、穴あるもの、サーベント。キー・ビュ

イグル。キー・トランペット。オフイ

クレード。

C、ヴァルブあるもの、ヴァルブホルン。

ヴァルブトランペット。ヴァルブトロ

ンボーン。コールネット。ヴァルブピ

ユイグル。ヴァルブサクソホーン。

D、多音的のもの

ガクキ

甲、鍵盤なきもの

乙、鍵盤あるもの

A、管あるもの、オルガン。

B、管なきもの、ハーモニカ。ボーカリオ

ン。

三、拍撃楽器。

A、撥にて叩くもの

甲、音高の定まれるもの、ケツトルドラム。

乙、音高不定のもの、バスターラム。サイドド

ラム。

B、自動的のもの

甲、音高の定まれるもの、ベル。カリロン。

グロツケンスピール。

乙、音高不定のもの、トライアングル。シン

バル。タム・タム。カスターネット。

猶此の他、玩具楽器として、ハーモニカ。パン
バイブ。オカリイナ。自動的器械楽器として、

ガクキ——カクク

オーケストラホーン。自働ピアノ。蓄音器。オルゴール等を数へる事が出来る。

楽曲の要素及形式

音律の一個をモータイブ(樂素)といふ。數個のモータイブが集つて、簡單な旋律を形造る。これをセクションと云ふ。此が連続して一のフレーズ(樂句)を作り、初めて楽曲にある情緒が表現される。樂句の變化ある纏つたものが、一のセクション(樂章)を作る、樂曲と稱し得る最短期間のものである。樂章は單一な情緒を表現したものであるが、二の樂章が出来て統一される場合を二次樂式(Binary form)といふ。前記のものに結尾を付けて三章にしたものが、樂曲中最も簡單なもので、小謡式(Song Form, or Lied Form)と云ふ。第二樂章の次に新奇な、對照的樂章即ちエピソードを加へた結尾に、第一或は第二樂章を繰返すものを、三次樂式(Ternary form)といふ。

メヌエツト。ロンド。ソナタ形式は此複雑なものである。

樂音 (Musical tone)

音樂的な即ちリズムミカルな音、調音とも稱す。噪音と對立して用ゐらる。

客觀 (Object)

主觀(參照)に相對して用ゐらる。外物客體對象などを意味し、智覺さるるもの、情感さるるもの、意慾さるるもの等、主觀の對照となるものは、精神物質の別を問はず客觀と云ふのである。

客觀主義 (Objectivism)

個人的な主觀を排し、客觀的な科學方法に依り、實驗觀察にて一切の事物を判斷せんとする主義である。自然科學も此意味に於て客觀主義であり、自然主義(參照)も一つの客觀主義であると云へる。

客觀的美學 (Objective aesthetics)

客觀的な美的事象の方面から美を研究するを云ふ。例へば美は比例、調和、變化、統一等ありとする形式美學の如きものである。

此は美を人間の感情や心理の方面より研究する美學を主觀的美學と云ふに相對する。此と共に美を社會學的、人類學的、歴史的に研究する美學をも含む。

客觀的形式論 (Objective formalism)

美學に於ける一説。古代のプラトニー、アリストテレース等、近世には英のホーガスに由りて説かれたる美の本質論である。一言に云へば美とは客觀的事象が、變化あり統一ある處に、即ち客觀的事象そのものの完全さの中に、美が存在するといふ説である。

革新文學 (Enlightening Literature)

拾八世紀の初、佛蘭西に於て平民的で直裁明晰な韻文文學が盛んになつた。斯の要旨は從來の

カクク——カクク

社會上の封建的弊風を一掃し、人民の自由平等を要求するにある。斯る形式と主張の本に起た文學を革新文學といふ。有名なるボルテールは「革新文學の王」と稱せられた。

額縁的舞臺 (劇)

希臘劇の半圓劇場舞臺の如くに大廣場ではなく舞臺前部を畫額縁の様式を取り、其中で種々なる装置をして演劇するのである。イブセン劇以來此の舞臺で演せられて來た。

神樂

神祇を祀るために奏する雅樂の一種である。太古より傳はれるものとし、傳説に由れば、天照大神天石窟に入らせられた時、天鈿女命がその前に歌舞して、大神を出したといふ古事記に起因してゐる。奈良朝以前は朝廷の清涼殿に行はれたが、一條天皇の御宇から内待所の庭中で、隔年拾二月に行はるる様定められた。歌謡と、樂器

カケコ—ガツシ

と、舞踊に由て成るもので、現今宮中に行はるるは、本末拍子二人、和琴、笛、箏、人長各一人、歌の助音十数人から成る。毎年拾二月及紀元節には、必ず夕より曉にかけて奉奏される。

悪詞

和歌謡曲淨瑠璃等に用ゐられる句法。詞それ自身の意味を表はすと同時に、音を同うせる他の詞の意味をも表はす「たちわかれいなばの山の峯に生ふるまつとし聞かば今かへり來む」いなばは「因幡」「去なば」、まづは「松」「待つ」の兩様に解せられる。

薩廻し (劇)

廻り舞臺の項参照。

春日派

藤原時代の末期、春日神社の繪所を預かる畫家及其の系統を春日派と云ふ。藤原隆親に由て始まり、其子經隆は土佐權守となり、後に一派を

成して土佐派と云ふ。然し畫風には殆んど變る點はない。(土佐派参照)

カセードラル (Cathedral)

元來は僧正又は主教の座席が置かれてある寺院を云ふ。然し今は本山、又は大きな殿堂、大伽藍を意味する。

カタコーム (Catacomb)

地下に掘られた墓場。初代基督教徒が、迫害を避けて禮拜した所は、ローマのカタコームであつた。羅馬のカタコームには、多くの繪畫が発見される。それらは初期基督教美術と稱せらるるものである。作者は不明であるが、主に象徴的な繪畫で、錨を平和、鳩を靈に象徴してゐるなど其の例である。

合唱 (Chorus)

デュエット Duet 二重唱。

トリオ Trio 三重唱。

クワオルテット Quartet 四重唱。

セクステット Sextet 六部。セプテット Septet 七部。オクテット Octet 八部。

クワイヤー Choir 合唱隊。

混聲合唱 mixed voice

パート・ソング Part Song 四部即ちソプラノ、アルト、テノール、ベース。

グリリー Glee 男性のみのパート・ソング。

尚コラスの項参照。

活人畫 (Living picture)

歴史的背景及その他の場面の前に、背景の主となる人物を置き、場面の如實を感じせしめやうとするものをいふ。之に合唱、又は獨唱を加へる事もあるが、一切の動作を止めて、繪畫と同様に人物を静止せしめ、數分間で幕を閉ぢる。例へば桶公父子の活人畫の場面は、當時を偲ぶ背景の前に、當時の服裝をつけた二人を適宜父子

カッジ—カテイ

に仕組みて配置するなどの如きである。

カッラ (髮髻)

野郎歌舞伎(同項参照)に與へた影響は、カッラの制作を促し、今迄の技藝は唯耳目に訴ふる歌舞、單純で滑稽な狂言づくしであつたが、その域を脱して眞の演劇に近づく楷梯の第一歩を、これに由てふみ入れた。

活喙法 (Personification)

擬人法に同じ。

家庭小説

明治三十五六年頃から、四拾二三年頃まで、全盛を極めた小説で、作品は何れも倫理道德觀念を基礎として、波瀾曲折に富む中流以上の家庭の葛藤を描寫したもので、重に婦女の同情を惹き易きものである。著名な作家としては、徳富蘆花、中村春雨、菊地幽芳、田口掬汀等の諸氏で、代表的作品には蘆花の不如歸。黒潮。幽芳

カーツ—ガボツ

の己が罪。乳姉妹。春雨の無花果。掬汀の伯爵夫人。春葉の生さぬ仲。等がある。

カーツーン (Cartoon)

下圖。油畫、フレスコ畫などを描く前に、下圖をすることを云ふ。伊太利の畫紙カルトローネより來た名である。又戲畫、諷刺畫をも云ふ。

歌舞伎

「カブキ」の語源を遡れば「諧謔」又は「好色」等の意味に用ゐられた俗語であるが、天正年間、名古屋山三郎が出雲の「お國」に、早歌を教へて自ら歌曲を作り、女歌舞伎(同項参照)を演じたのが始めである。女歌舞伎が衰えてから、若衆歌舞伎(同項参照)となつたが、當時の風俗に悪影響を與へたため、徳川幕府は風俗を猥すを理由として、若衆の前髪を剃落させた。これが野郎歌舞伎(同項参照)と稱せらるるに至り、其後種々の變遷を経て、今日の歌舞伎劇になつた。

今日の歌舞伎劇は、我國古來からの傳統的芝居を意味し、それに對して壯士芝居、新派劇、現代劇等がある。

狩野派

元は藤原姓を名乗てゐたが、三代景世の時代に、伊豆國狩野村に住むやうになつてから、狩野を姓とした。其子孫は皆、繪畫をもつて著明である。織田、豊臣の兩代に歴任し、又徳川家にも仕へて、幕府の繪師となつた。

狩野家は中橋を宗家とし、鍛冶橋狩野家、木挽町狩野家、濱町狩野家、駿河臺狩野家、等の別家があつた。

カプレット (Coriella) 對句

押韻せる二行の對句、普通二行のみで獨立した觀念を表はすものを云ふ。

ガボツト (Gavott)

稍急速な2拍子の舞踊。

神の國 (Kingdom of God)

基督教に於ける重要な一觀念である。神の全き支配の行はるる國土、又は人の心的狀態を云ふ。

假面劇 (Mask)

西洋にて拾四世紀より拾六世紀頃まで盛んであつて特に祭禮などによく演ぜられた興行物の一種。此は景、樂、歌の混合より成り、時としては舞踏をも用ゐ、日本の能樂に類したものである。結構は單純で衣裳や裝飾の美を特徴としてゐる。劇の主題は偶意的な教訓又は神話的のもので聲樂及器樂共に用ゐられた。之は實にオペラの先驅をなすものである。

假面喜劇 (Comedy of Masks)

假面をつけて演ずる、にわか式のもので、文字に書かれず、座長が座員に脚色を説明し、其を道化役者が演ずる、非文學的の劇である中世紀

の頃村落の祭禮に行はれた道化芝居から來たものである。

かもめ (The Sea Gull)

露西亞チエーホフの作に成る、有名な戯曲である。主人公、青年文學者コンスタンチンは、藝術界の低調平俗な、現實主義的思潮に對して、創造と天才を呼號する小天才である。彼の刺戟をうけ、田園生活を抜け出し、華美な都會へ女優を志願して、憧れ出た娘のニーナは、現實生活の暗礁と激浪に、休も心も打ち碎かれて、眞面目な諦念と努力の女性になつて歸て來る。然し此女だけの、消極的安心の境地をも見出さないコンスタンチンは、周囲の何物にも愛と信頼とを失て自殺すると云ふ筋の寫實劇。

唐繪

支那の系統を引いた繪で、多くは宋元の感化を受けたものである。延慶年間の可翁、歴應の明

カラケ—カラー

兆、拙周文等之に屬す。又雪舟は明の畫法を傳えた。

唐草模様 (Foliage)

蔓模様の總稱であつて、その草の種類には、忍冬唐草、寶相花唐草、菊唐草、牡丹唐草、等の別がある。

硝子繪 (Glass Painting)

異にした二様式がある、一は拾六世紀頃まで盛んに用ゐられたもので、種々な色硝子をモザイク方法に寄集めて畫たモザイク・グラス・ペインティングである。其後これに代つてエナメル畫の畫法をもつて、硝子に描く方法が一般的に用ゐらるゝやうになつた。

カラマイカ (Kalamatika)

ハンガリアの國民的舞踊で、2・4拍子の稍急速な調子、熱情的な舞踊である。

カラマーゾフの兄弟 (The Brothers of Karamazoff)

露の文豪ドストイェフスキの代表的な小説で其の最も高名なものである。淫蕩亂酒の父を持つカラマーゾフ一家の兄弟ドミートリーやイヴン等が其の血を受継ぎ病的で、父フョードルと共に戀の亂闘を續け、イヴンは父を殺して發狂し、ドミートリーは父殺の冤罪を受けて西比利亞に送らる。斯うした中にも純な人間の感情が叫ばれてゐる。ロシア人の心理を深刻に描寫したものである。

カラーリスト (Colourist)

「色彩派」色彩の效果に重きを置き、光彩と調和に秀でた畫家に用ふる言。ヴェニス畫派の光彩は、カラーリストとして名高く、降つてスペイン派のリベラ、ブラスクエズ、和蘭派のルーベンス、レンブラント、佛蘭西のデラクロワ等。又近代に於て英國派は色彩畫家を出し、特にラファエロ前派は有名である。

カリケ—チュアー (Caricature)

諷刺畫、戲畫。形式に拘泥しない可笑的な繪畫を凡て云ふ。此には必ず何等かの誇張が伴ふ。諷刺を主とするものと、無邪氣なユーモアの伴ふものがある。其は各時代を通じて諷刺の方法として用ゐられた。近代に在りてカリケ—チュアーは政治的な武器として用ゐらる。英國には著名な諷刺畫家が多く出た。

ガリツク・ベルチアン樂派 (Gallic-Belgian School)

本派ネザランド樂派の先行として巴里樂派より生れたものである。フランス北部、ベルギーの南部に互つて、一三六〇年から一四六〇年の一世紀間榮えた。從來の材料を使用するに自由輕快巧妙流調なる發展を促したのが、此一派の特徴であつた。重要樂家としては、エツチ・デ・ゼーランチア。ダアフエ。ギレス・デ・ピンス等が初期の大家である。

カリケ—カルメ

カルデヤの繪畫 (Cardean painting)

チグリス、ユーフラテ河畔に産れた、カルデヤ、アツスリアの繪畫は、埃及と等しく裝飾的な、説明的のものであつた。宮殿内には彩色された浮彫を、壁の下部に用ゐる、上部には壁畫又はモザイク式模様風の繪畫を以て裝飾した。色彩にも多様あるが、黄色と青色とが最も多く用ゐられた。斯る文化の發達したのは紀元前九〇〇年——五百年間で、非常に優秀なものがあつた。前五三六年波斯王サイラスが、バビロンを滅すとともに、此藝術も亡びたのである。

カルメン (Carmen)

メリメエの小説カルメンに基いて佛國の歌劇作者ビゼエの作つた最も代表的な作である。浮氣なジプシイ娘カルメンは、伍長ホゼと戀仲となつたが、闘牛士エスカミリオと亦戀に陥りホゼを捨てて彼は怒つてカルメンを刺殺すと云ふ筋

カレールーカンジ

の、寫實的な劇で人氣を世界に得たものである。近代佛蘭西オペラの傑作の一である。

カレールの市民 (Die Bürger Von Calais) (獨)

獨逸表現派の代表的作家ゲオルグ・カイゼルの傑作であり同時に表現派の代表作、材を百年戦争に於ける英軍のカレール市包圍の際の市民の勇敢なる献身的行爲に取つたものである。

戦は佛の敗北に歸してカレール市は包圍された、英軍は使を送り六人の市民を犠牲者として英王に送るかからずば全市及港を破壊すと告ぐ。一軍國主義者は斯かる不名譽を忍ばんよりは戦死せんと主張す。これに對しエスターシユ等市民のため犠牲を拂はんと主張し自其一人たらんと申出で、此に勵まされ六市民犠牲とならんと申出た。一人餘計になるので翌朝一等遅れて来たものを犠牲者の中より除外せんとす。翌日エスターシユ一人來ず、其の心事を疑つてゐるほ

どに彼は屍となりて運れた。

間もなく六人の犠牲を特赦せんとした使英軍より來る。市民の前にエスターシユは征服者なる英王よりも偉大であつた。

ガロップ (Galopp)

急速輕快な二拍子のラウンドダンス、獨逸に起つて拾九世紀の初め、フランスに傳はる。

漢畫

支那畫を總稱して漢畫と云ふ。和畫に對して用ゐられる言葉で、唐畫よりも意味が廣い。

間劇 (Interlude)

日本の合間狂言の如き劇を云ふ。英國にてエリサベス朝の劇作家、ジョン・ヘイウッドに由つて初めらる。宴樂又は他の遊戯の間に、餘興として短時間の中に演ぜられる一種の劇。

感受性 (Sensibility)

或事物に遭遇し、事象の意味に觸れるや直ちに

其物の真相に徹する直觀的の力を云ふ。

川勝派

川勝春章に創められた浮世繪の一派で、次のやうな系圖を有てゐる。



元來は獨逸の美學に用ゐた言葉である。最近日本文壇に此言葉を用ゐるやうになつたが、意味は異て居る。即ち人生に表はれる種々なる事件を、自己の心に充分活現させて、其を靜かな冥想的態度で見、又その意味を深く味て見ることを觀照と云ふ。人生觀照とは斯うした態度で人生を觀る事である。之は觀察よりも鑑賞よりも意味が深く、斯うした觀照から藝術は生れて來る。

感傷的喜劇 (Sentimental comedy)

拾八世紀英國に起つた一種の劇である。之れは純喜劇にあらず。又眞の悲劇にもあらず。たゞ民間の俗な事件を、哀愁的に取扱つた不規則な種類の劇である。此作者にステイール、代表的作品にリローの「ジョージ・バーンウエル」、ムーアの「賭博者」等がある。此劇は同時代に起つたフランスの多淚的喜劇と同種類のものである。(其項參照)

感傷主義 (Sentimentalism)

觀照 (Contemplation)

カハカ—カンシ

カンシ——カンジ

センチメンタリズムの項を見よ。
鑑賞批評 (Appreciative Criticism)

公平なる態度をもつて、作品に對する正當なる理解と、同情をもつてその缺點と共に、美點長所を認めて批評するを云ふ。

感情 (Feeling)

昔から智と意と共に心の一方面の表はれとされ、藝術は此感情の發現であるとされて居る。此には單純、複雑がある。即ち感覺に伴ふて起る好惡の感など其の最も單純なものである。猶之れに智的分子が加はると稍々複雑となり、之を情緒といふ。例へば勇壯なる行爲を見て感激するが如きである。之は一時的であるが、此に更に智的分子が加はり複雑になつて來たものを情操といふ。藝術又は宗教に表はるる感情はこれである。

感情移入 (Einfühlung) (獨)

哀しいメロデーをもつ音楽が聞えるとせよ。然しその音自身から云へば物の振動である。それが空氣を通して耳の鼓膜を振動せしめて音の感覺を生ぜしめてゐるに過ぎぬ。けれ共音が悲哀の感情を起さしめ、その感情や印象を受けるといふのは、皆心中の経験なのであるが、此場合メロデー自身が悲哀を持つて居るかの如く感ぜられる。此現象は即ち吾人の感情を、對照たる音楽に移入してゐるわけである。音ゆゑに興奮、沈靜、喜悅、悲哀等を感じるのには皆この感情移入である。此は又美學の根本問題の一で獨逸のリップスなどは、此によりて美學の系統を立てた大家である。

感情倒錯 (Perversion of feeling)

感情が普通人と異つて、異常の性質となることを意味する。例へば他の人が不快の感を起すものに對し、快感を來すとか、慘虐を喜ぶとか、

色情の異常なども之に類する。(マズヒズム及サ

アイズムの項参照)

感情美學 (Aesthetics of Feeling)

美の説明に感情移入説や、美的快樂説の如く感情に重きをおく美學を云ふ。(各項参照)

カンタータ (Cantata) (音)

元來は聲樂曲を云ふが、現今は器樂の伴つたソロ(獨唱)、コーラス(合唱)、ジュエット(二部唱)、レシタチブ(朗吟)等より成る劇的宣叙調の聲樂曲を云ふ。オラトリオやオペラに似てゐるが、此は演技者背景などの劇的要素がない。主に教會音樂として用ゐらる。其の題材は重に宗教上の有名なる事跡、神話、傳説より取つて演んぜられる。

カンタベリー物語 (Canterbury Tales)

拾四世紀英の文士チヨウウサーの作になる物語でカンタベリー詣でに集つた各種階級の男女が、

カンジ——カンネ

途上の退屈凌ぎに、各人一種あての物語をするといふ筋の物語である。

含蓄的 (Implicit)

外面に現はれないで、内に深い大きい意味を潜めてゐる如きものを稱して云ふ。

勸懲小説 (Didactic Novel)

専ら教訓勸懲を主眼に、人物を作り脚色した小説を云ふ。之は正義、孝行、勇氣等を主に描きて、敬慕の念を起さしめんとするものと、非行、暴虐等を表はして、耻づべきを教へんとするものとの二様式がある。馬琴の「里見八犬傳」などその例である。

觀念小説 (Idea Novel)

觀念小説とは作品の中に或一つの中心觀念——例へば「個人と社會の衝突」の如き——概念を寓した小説である。即ち作者の人生なり社會なりに對する意見を、露骨に表はした小説である。

カンペ——カッチ

日清戦役後盛んになり、眉山、鏡花など代表的作家である。鏡花の「夜行巡査」は此型の作品である。概念小説とも云ふ。

鑑別 (Discrimination)

藝術品の美醜、善悪等の差別と、価値とを定める事を云ふ。

換喩法 (Metonymy)

修辭學上の一法、其物と關係ある一物を以て其物を代表せしむる法である。例へば「近松の淨瑠璃」「馬琴の小説」を讀むに、「近松を讀む」「馬琴を讀む」と云ふ如く、名を以て代表せしめる。又勉強するを「螢雪」と云ふもその例である。

ガイド (Guide)

案内者、案内記。

カイロン (Chiron)

サターンの子で半人半馬の神、有名なる弟子多しと云ふ。(希臘神話)

ガウン (Gown)

婦人の上衣。僧侶、法律家、教授等の制服。

カスタム (Custom)

習慣、風習。

カセドラル (Cathedral)

大伽藍。本山又は殿堂。

ガゼット (Gazette)

新聞、新報、官報。

カタストローフエ (Catastrophe)

大團圓。小説、劇などの最後を云ふ。又普通人事一般の終りをも意味する。(殊に不幸の)

カタログ (Catalogue)

目録。

カット (Cut)

挿畫、木版其他の版で印刷される挿繪を云ふ。

カツチング・シエーブ (Cutting slape)

印畫を切る爲に用ふる硝子製の切型。

カテゴリー (Category)

範疇、種類。Kategorie (獨)

カーテン (Curtain)

幕、帳。

ガーデン (Garden)

花園、庭園。

カドリール (Quadrille) (佛)

佛蘭西のスクエアダンスの一種で6/8拍子、或は2/4拍子である。

カーネーション (Carnation)

和蘭石竹。

カノン (Canon) (音)

追走曲。(同項参照)

カフェー (Cafe) (佛)

珈琲店。

カピタリズム (Capitalism)

資本主義。

カテゴリー——カール

カラー (Colour)

色。

カラータ (Catala) (伊) (音)

伊太利の活潑なる舞踊曲。拍子は2/4。

カリアチイド (Caryatid)

柱に使用された女の立像。

カリストー (Callisto)

女獵師、死後星宿に列す。(希臘神話)

ガール (Girl)

少女、處女、下婢、愛人、

カルチュア (Culture)

教化。文化。修養。

ガレリー (Gallery)

畫堂、美術展覽會場、廊下。(Galerie) (獨)

カレンダー (Calendar)

曆、日めくり。

カーレント (Current)

カロー——キウヤ

思潮、趨勢、現代、當時の。

カローラ (Carola) (伊)

一種のサークル・ダンスを云ふ。

カロール (Carol) (音)

祝歌。又クリスマス及イースター等に歌ふ民謡 (バラッド)を云ふ。

カンゾーネ (Canzone) (音)

民謡風の歌、或は小唄形式の器楽曲。

カンチレナ (Cantilena) (音)

「小さき歌」の意。民謡流行小唄等。

カントリー (Country)

國、田舎。

カンニング (Cunning)

狡猾なる。巧妙なる。

カンパニール (Canpanile) (佛)

基督教寺院の鐘の置かれた塔。普通寺院の近くに屬して居る。

キャンバス (Canvas)

畫布。油繪などに用ふる畫布。帆布。

キ

キアロスクロ (Chiaroscuro) (伊)

繪畫に於ける明暗の配置を云ふ。彩畫にも、單色畫にも用ふるが、キアロスクロの繪とは明暗のコントラストを利用して、繪畫の効果を收めんとする單色素描畫を云ふ。和蘭派のレンブラントは、此効果を最もよく表はした畫家である。

舊約聖書 (The old testament)

伯來人の宗教が産出し、基督教に傳へられ、其の聖典の第一部を成すものである。三拾九卷あつ

て其内容は極めて複雑である。一、歴史(宇宙創

造より、猶太王國の歴史を含む) 二、物語(父祖

傳、王の傳、預言者傳) 三、詩(エレミヤ哀歌の

如き短詩。詩篇の如き抒情詩。ヨブ記、雅歌の

如き劇詩) 四、智慧文學(其項参照) 五、預言

文學。等が主なるものである。

機織工 (Die Weber) (獨)

ハウプトマンの傑作で、同時に彼の名を世界的ならしめた、五幕の戯曲である。一八四四年シエレージエンに起つた、麻機織工一揆を主題にしたものである。

技巧歌 (Art Song)

民謡に反し作曲者、作歌者が知られ、個性を具へた歌のことを云ふ。

幾何學的模様 (Geometrical Pattern)

方形、八角形、六角形、三角形、菱形、等を基として作られた模様を云ふ。此模様は裝飾中、

キカイ——キカダ

最も原始的なものである。

幾何學派 (Geometrist)

英國に起た一畫派である。靜的な立体派の表現法を取り入れて、最も露骨に三角形、圓形、平行四邊形、十二角形、四錐形等で、物象を描くのである。ロビンソン。ペートマン。リートチュー等は此派の畫家で有名である。

喜歌劇 (Comic Opera)

拾八世紀の初葉オペラ・ブウファと稱へて、伊太利ナポリに於て、リベルゴレシー、及キマローサ等に由て創められ、次で佛蘭西に至り、又獨逸にてはモザート等に由て盛んになつた。現今では歌唱のみでなく、對話も加つて來たが普通のオペラとは異なる。ゼビルの理髮師、チヨコレートの兵隊等は有名なるものである。喜歌劇は Opera Comique (佛)。

Comic Opera, Musical Comedy, Light Opera, Opera

キゲキ——キノク

Drifa, (伊) 等と稱せらる。
喜劇的舞踏 (Comedies ballets)

滑稽的の舞踏と歌謡とを兼ねたもので、モリエールはルイ十四世王朝の時代に多く作つた。

戯曲 (Drama)

劇の項を見よ。

記述音楽 (Descriptive music)

標題音楽に同じ。

記述的科學 (Descriptive Science)

説明科學の對語で、動物學、植物學、礦物學の如く、事實の記述にとどまつて、未だ説明の域に達せない科學をいふ。

擬人法 (Personification)

こは非人格的の事物をも、自分と同様有人格者の如く言ひ、又死物無生物をも生物化せしめて云ふ。「歲月人を待たず」「蒲團きてねたる姿や東山」等の如き、修辭學上の一法である。又繪

畫で云ふ擬人法は人以外の動物や樹木草等に人の形式を與ふるを云ふ。例へば花卉草木の戰爭、猿猴が人の如く活動するなど其の例である。

擬聲法 (Onomatopoeia)

修辭學上の一法、物の音聲を記して、これを活現せんとする法である。例へば「鳴る神のおどろおどろ……」「下駄ころりからり彼奴等が夕涼み」の如し。

奇蹟劇 (Miracle play)

古代歐洲地方で、宗旨宣傳のために僧徒が工夫したもので、主に題材を聖書の事件に取つた。又普通舊約聖書の事件に題材を取たものを奇蹟劇と稱し、新約聖書に題を取たものを神秘劇と云つた。

貴族主義 (Aristocratism)

希臘語の Aristos (最善) Krati (支配)なる語から出た言葉である。卓越せる少數者若くは其特

惠を可とする主義で、平等、民主、凡庸等の主義に相對する。バルナシアン(高踏派)等は所謂藝術上の貴族主義である。

ギター (Guitar)

形はヴァイオリンに似て大きく、六絃を有し指頭で絃を撥いて奏す。イスパニヤに最も多く愛用されてゐる。普通オーケストラには用ゐられない樂器である。

歸納法 (Inductive method)

個々の事物に就きて研究し、それらより一般に通ずる普遍的法則、又は原理を發見せんとする研究法である。ソクラテスに始まり、ジョン・ステュアート・ミルに至て完成した。

規範 (Norm)

行爲、思想、感情等の支配原理を云ふ。例へば論理學は思想の規範を示す科學であり、倫理學は行爲の規範を示す科學である。又美學は感情

ギター——キボン

の規範を示すものである。故に之等を規範科學と云ふ。

繡綉藝術

實用の爲に作られる藝術である。自由藝術に相對して用ふ。

氣分象徴 (Symbol)

情緒象徴とも云ふ。象徴主義文學に用ゐらるる言葉である。普通の方法では表現し難い、氣分、情緒等を、或る象徴をかりて現はすものである。一例を示せば、葉舟の文中に月夜の凄い情緒を書いたところがある。「……歩きながら、もう此世界中に生きたものが、凡て目を閉ぢてしまつたと思つた……と思ふと眼前の景色は瞬く間に變つてゐる。冷たい灰色をして見えたのは、果々と横はつてゐる裸体の死骸であつた。……自分分は其死骸の上を歩いてゐたんだ。そして現に其死骸の上に立つてゐる」文中の裸の死骸は、

勿論あつたのではなく、冷たい月光の下に、物凄く現はれた自然の姿から、作者の感じた気分を象徴したのである。(象徴の項参照)

気分描寫 (Mood)

静かな気分、寂しい気分、といふ様に、その時々々の心持を偽らずに描寫するものである。例へば「小さな聲で虫が鳴いて居る。家の中は何時の間にか寂然となつて、庭の先で卉の葉が風にすれる音がする。室の中ばかりに、電燈が明るついてゐるのが却つて寂しく思はれた」此の文章などは静かな寂しい気分を描寫したものである。

詭辯派 (Sophist)

紀元前五世紀頃、希臘にてピタゴラス。ゴルキアス等に由て唱へられた哲學の一派である。絶對不易の眞理なるものはなく、一切の現象の究竟原理は、不可知なりとする説である。ソクラ

テスが出て道德論を唱ふる迄、一世を風靡した過渡期の哲學である。

ギムナシウム (Gymnasium)

古代希臘に於て、青年が体操や競技を行ふ、建築物の一組を云つた。此には柱廊、浴場、などあつて立派な構造であつた。

狂言

猿樂、田樂より轉じ、足利時代の能とともに發達して來た、喜劇の一種である。大藏。鶯。和泉。等の流派がある。

驚異の復活 (Renaissance of Wonder)

英國の作家批評家であるワッツ・ダントンの用ひた言。近代科學の影響に由り、その文藝が現實的で平凡、熱情も生命も幻もなく、たゞ冷たく科學的又智のみあるに反對し、自然及人生に新しい生命を見出し、その神秘偉大等に驚異を見出すといふ、思想的傾向を名けたものである。

る。ラファエル前派の運動などは、一面驚異の復活と云ふことが出来る。

共產主義 (Communism)

經濟上に於て私有財産を禁じ、其總財産を社會の共有に歸し、社會に於ける個人的特權に反對して、權利、消費、勞働の平等を主張する主義である。

郷土文藝 (Heimatkunst) (獨)

Heimatkunst の譯である。拾九世紀末獨逸に起つた文藝上の新運動。從來の自然主義文藝は都會の文藝であり、憂鬱的、厭世的に流れたに反し、作品の舞臺を郷土に取り、その田園生活を地方語にて記し、成可く地方色を表はさんとする藝術である。ラングベーンに由て初めて呼ばれ、リエンハルト。フライシユライン等に由て主張される。斯派の文藝にてフレンセンの小説「イエレン、ウール」「ヒリゲンライ」等最も有名で

ある。

脚本

脚本の他の讀物と異なる樂は芝居の臺帖であることである。故に脚本の本當の價値は、舞臺で上演された上で生じて來る。讀んで面白くとも上演されて觀衆の興味を引かなければ脚本として價値が少ない。恰度音樂に於ける曲譜と同じく演奏せられて、初めて其曲譜の價値が生じて來ると同じである。

役割 (Cast) (映畫劇)

映畫の始めに出て來る題名 (Heating) の次ぎに出る出演俳優の役名及び藝名を記したものである。

キヤピタル (Capital)

柱頭。柱の最上部で、そこには種々な彫刻的裝飾が施された。其形に由てドリュヤ式、イオニヤ式、コリント式、ロマネスク式、ゴチック式等

の種類がある。

享樂主義 (Dilettantism)

享樂を以て人生の目的とするもので、倫理學では快樂主義となるが、藝術の方では唯美主義と相通するもので、デカダンの傾向に由て生れたものである。人生を解決するに何物をも見出すことを得ず、絶望に落ち遂に快樂といふものに人生の安住を見出した。現社會は無趣味で醜惡で堪へ難い、故に自己の快樂だけでも満足させやうとするのが此派の心持ちで、ひたすら官能上の快樂のみを追求する主義である。オスカー・ワイルド等は其第一人者である。

キユーリズム (Cubism)

立休派に同じ。

キユービッド (Cupid)

希臘名はエロース (Eros) ヴァキナスの子にして常に母に随ひ愛を司る。その舉動盲目的なるを以

て多く目を隠せる姿に描かる。弓と矢とを携へ、成年の男女を見れば神人の撰びなく矢を放つ、その矢心臓に當れば、忽ち物のあはれを覺えて、美妙の痛み堪え難く晝夜苦悶す。此矢は戀人の手にあらざれば抜くあたはずと云ふ。

虛無主義 (Nihilism)

哲學上では外界一切の存在を否定する説である。普通用ゐらるる虛無主義とは、神をも宗教をも信ぜず、傳統、權威など一切を疑ひ否定し、何等信賴するに足らずとする。たゞ自由意思より出づる生活に歸らんとする主義である。政治に現はれて無政府主義となり、人生觀上に表はれて、極端な自然主義的思想となつた。ツルゲネーフの小説「父と子」の中に始めて用ゐられた言葉に、起因する。

清元

富本初代豊前大椽の弟子、齋宮太夫は、二代目

豊前太夫と仲が悪く、富本を去つて本姓清水を藝名に附て清水延壽齋と名乗つたが其弟子二代目清水清海太夫に到つて、清水の清の字と、富本の木の字を元に換へて『清元』と稱へたに始る。時は文化十一年。主なる歌曲に「梅の春」「權八」「神田祭」「十六夜清心」等がある。節廻しは江戸の粹を極めたのを生命として居る。

希臘主義 (Hellenism)

ヘレニズムを見よ。

希臘音樂 (Greek Music)

神話時代を通算して千三百年間の久しきに涉つて、音樂史上著名なる事蹟を多くあらしめた。發達史を區分して、一、神話時代、A 第一期、紀元前千三百年より千六十八年に至る。B 第二期、紀元前一千年より七百六拾年に至る。此時代は神話に現はれたる如く、傳説の詩的描寫から歌謡となり、音樂の發達を見るに至たもので

ギリシ

ある Dionysos 神(バッカス神)は音樂の感覺的感化の方面を代表するものとされて居る。二、歴史時代、A 第一期、紀元前七百七十六年より六百七十六年迄。即ち第一オリンピック祭よりテルバンダー時代に至る。B 第二期、紀元前六百七十六年より五百八十年迄。即ちテルバンダーより、ピタゴラス時代に至る。C 第三期、紀元前五百八十年より三百五十年迄。即ちピタゴラスより、アリストクセメスに至る。D 第四期、紀元前三百五十年より、紀元後八百六十一年迄、即ちアリストクセメスより、トレミーに至る。此時代の發達は主としてドリア人に由る。オリムフス時代より次第に優秀なる樂人を出し、メッセネア戰爭には、スパルタ人の勇氣を鼓舞せしめ、テルバンダーに至りて七音階より成る音曲の基礎を建設した。時代の移ると共に戯曲、舞踊、唱謡、幻想樂など多方面の發達を見るに至

つた。
要するに希臘音楽は同音の發達で、多音的ではなかつた。ホーマーはコーラスに就て言及してゐるけれど、今日に於ける多數人より成る和聲のコーラスではなかつた。(其項参照)

希臘繪畫 (Greek Painting)

希臘繪畫遺品の現存するものは僅少である。古代の繪は重に墳墓裝飾、陶器畫等でテラコッタに描かれたものや、壁上直接にフレスコや胡粉繪が書かれたものもあつた。畫法は最初フイニシヤ人から習得したと傳へられる。其發達は彫刻よりも後で、一般に前五世紀頃までは極めて幼稚であつた。然し其時代から相當立派な作品があり、畫家の群もあつた。其著名なものを記せば

一、古アテイツク派。此派の最も著名な畫家は希臘繪畫の始祖と稱せられる、ポリグノートス

(前四七五—四五五)であり、有名な作品はトロイの戦争と、コリスの冒險を描いた、デルファイ神殿の壁畫である。遠近法、光學に明るかつたと云ふアガサコス。肖像畫家で寫實的傾向のあるアポロドラス。等は此派で有名な畫家である。

二、イオニア派。前六世紀よりあつたと傳へられる。葡萄を描いて小鳥を欺いたゼウキレス、幕を描いてゼウキレスを惑はしたパアラシオス等は、此派に属する人達である。

三、シキョーニアン派。イオニア派と殆んど同時代に属するもので、コーボスに由て創められ、其弟子パンフィロスに由て完成された。嚴正を旨とする院畫的畫風が、此派の特徴であつた。亦蠟畫法は、パンフィロスに由て始められた。

四、テーバン・アテイツク派。ニコマカスを主

領として、非常な光景を描いたアリスチデス。神話的人物を描いたマールノール。婦の肖像を畫いた。ニカイヤスは此派の有名な畫家であつた。

其後希臘時代の末期に至り、アレキサンダーの宮廷に仕へ、帝の肖像を描いて名高くなつた、アペレスがある。此時代は希臘繪畫の頂點と稱せられる。それ以後、摸倣的になつて少しも振はないやうになつた。

ギリシヤ劇 (Greek Drama)

ディオニサス祭典に、希臘劇の起原がある。恰度我國の神樂から、猿樂が起つたやうに、殆ど同徹を経てゐる。トラセディ(悲劇)は、祭典に献けられるトラゴス(山羊)から、その名稱を得たもので、コメディ(喜劇)は元來、在郷歌の意味でディオニサス祭典に、俗市民間に行はれた滑稽諧謔の、道化劇から始まつたものである。悲劇

の創始者はエスキラスと稱へられ、彼以前にはアリオンテスピスがあつて、音楽と合唱隊のみで演じてゐた。俳優を用ゐて劇の形式を成したのは、エスキラスであつた。彼は七拾篇の悲劇を作たと云はれて居る。次でソフォークレース出で、多くの傑作を成した。その中有名なものは「エディポス王」「エディポスコロナス」「アンチゴーン」等である。

次で又ユーリピデスが現はれた。この三人を——エスキラス。ソフォークレース。ユーリピデス。——三大悲劇家と云ふ。紀元前四八四年、即ちエスキラスが賞を得た年から起算してユーリピデスの死去した年まで凡八十年間は發達の絶頂にあつた。古來幾多の文明國に、劇と稱ふるものはあつても、斯くも古代に於て、完全の域に達したものは他に類例を見ないのである。然しそれ以後の悲劇には、見るべきもの

は殆んどない。

喜劇の最初はメガラ人に創まり、後アデンス人の手におちて、完全なものとなつた。希臘喜劇を普通、別けて、古、中、新の三期とする。古期(起原—アリストファネス。即ち前四七〇—三九〇年)アリストファネスは此期の代表者であるのみならず、希臘喜劇の重鎮をなす作家である。本期の喜劇は主に政治上の批評、又は諷刺を目的として書かれたものである。中期(前三九〇年—三三〇年)政治的喜劇から、純社會的喜劇に移る過渡期である。アンチファネス。アレキシス等の作家がある。新期(前三二〇年—二五〇年)此間七十年である。アリストファネス時代の如き隆盛を見る事が出来た。メナンドロス。ファイルモン。ゲヒラス等は主要の人々である。就中メナンドロスは、喜劇界のソフォクレースとさへ云はれる程の天才であつ

て彼の作風はローマ劇の模範となつた。

ギリシヤ劇の劇場は野天で、摺鉢形に築いた半圓形の場所、中に圓形のオーケストラ(舞場)があり、コーラス(歌唱隊)と俳優は此上で演ずる。中央に祭壇があり、舞場圓周の半以上を圍て観客席がある。他の一面には樂屋があつた。政府は劇の興行、監督をなし費用は政府と、富豪の或者とが支出して、一般人民は無料で見物する事が出来た。

ギリシヤ建築 (Greek architecture)

神の住居としての神殿建築に始まる。其建築が獨立して美術品となつたのは民族移動後である。其特徴は時代に由て異なるけれ共、一、有機的な統一を基礎として構成された事。二、形式上の法則(均齊、比例等)を嚴守された事が擧げられる。普通建築構成の様式を、ドーリヤ。イオニヤ。コリントの三に別ける。ドーリヤ式は壯

重を、イオニヤ式は典雅を、コリント式は華美な感じを表はすものと評されて居る(各項参照)發達を時代別にすれば、

第一期、ベルシヤ戦役に至るまで。ドーリヤ式全盛の時代で、此期の建築としては、バエストウームのポセイドン神殿など。

第二期、ベルシヤ戦役よりマケドニヤ王權の確立まで。ペリクレス時代を作つた時期で、前記の三様式共に用ゐられたギリシヤ建築の全盛時代である。バルテノン(ドーリヤ式)エレヒテイオン。ニケの殿堂(イオニヤ式)は傑作である。

第三期、マケドニヤ王權確立よりギリシヤ滅亡まで。此期は頽廢期である、後期になつては、餘程東洋風が加味されて來た。

ギリシヤの彫刻 (Greek Sculpture)

其發達の時期を歴史的に劃すると、左の四時期となる。

第一期「前七世紀頃よりベルシヤ戦役まで」此時期はギリシヤ彫刻の黎明期である。

第二期「ベルシヤ戦役よりペロポネサス戦役まで」此期は定成期で、ミューロン。フィデアス。ポリュクレトス等の、偉大な彫刻家が多く出て傑作を遺した。

第三期「ペロポネサス戦役より亞歴大王の死まで」此期に至て前期の壯嚴な風がなくなり、風雅な快活な風が加て、肖像、彫刻が盛んになつた。プラクシテレス。スコパス。リュシツポス等は代表的人物である。

第四期「亞歴大王の死よりギリシヤ滅亡まで」此期に至ては固有の純粹性を失ひ、東洋風の要素を加味して來た。ルーブル。ワテイカノ等の人物が出た。

ギルド・ソシアリズム (Guild Socialism)

最近英國に起つた一社會主義學說。從來の集産主

義(殊にフエビアン社會主義)物質的制度(殊に富の分配を主要問題とし、人格の自由尊重を無視せる)に由れる近代社會の根本弊害は、貧困そのものに非ず寧ろ奴隸的境遇にあるを力説する。範を中世時代のギルド(組合)に取り、消費者を代表する國家と、生産者を代表する團体と相提携して、管理の問題を解決せんとする主義である。勿論この場合團体は、産業に従事する者全部を網羅する、産業別組合即ちナショナル・ギルドである。サンヂカリズム及集産主義の影響を受けてゐるが、生産者専制の故を以て、サンヂカリズムを排斥する。又生産者の自由を無視し、消費者専制に陥れる、集産主義をも非とする。故にギルド・ソシアリズムは、集産主義とサンヂカリズムとの折衷より生れたものと見得られる。一九一二年ホブリンが、雑誌「新社會」にギルド・ソシアリズムを掲載し、又別に

コールが「労働の世界」を著したに始まる。均衝 (Balance)

美學上の形式法則の一で、建築、彫刻、繪畫の組立をするに、最も重要な條件である。左右を同様にすれば最も均衝を保つが、それはシムメトリーで、均衝とは左右不同の時、即ちアンシムメトリカル(非左右均齊)の場合に、よく均衝を保つのである。これは又釣合とも云ふ。

近代人 (The modern)

近代精神の感化を受けた人々を云ふ。

近代精神 (Modern Spirit)

何れの時代に於ても時代思想、時代精神の主流がある。近代とは凡そ佛蘭西革命から現代に至るまでの間、其間の時代を支配して來た精神がそれである。注意すべき事は近代交通の發達から、何れの國も殆んど同じ文明に達して來たので、近代精神は世界共通の思想である。斯思想

を一言に盡すことは不可能なるも、自由平等を主張し、物質的、科學的、個人的、主我的、懷疑的等が其特征である。此をモードニズム(近代主義)とも云ふ。

金字塔 (Pyramid)

ピラミッドを見よ。

禁慾主義 (Asceticism)

此には倫理的乃至哲學的のものと、宗教的の禁慾主義とがある。倫理的のものは、人間を感性和理性とに別ち、感性即ち動物的慾望は不幸罪惡の起源なれば、此より來る一切の快樂を斥け、理性の支配にある生活を主張するのである。ストア學派、近世に於てはカント。シヨウベンハワー等之を唱へた。宗教的のものも之と同じく肉慾を斷ち、情慾より離脱するを救済の條件とするもので、印度宗教の苦業、及び中世紀基督教の宗教生活等はそれである。

キンジー—キヤラ

キー (Key)

鍵。鍵盤(オルガン、ピアノ等の)

ギタラ (Guitar)

(西) ギターと同じ六絃琴。

キーノート (Key-note)

主調音。基調。中心となる思想。

キーノートイック (Quirkie)

スペインの諷刺小説。ドンキー・ホーテより出ず、道化的人間をさして云ふ。

キヤップ (Cap)

裂目。隔り。

キヤピタリスト (Capitalist)

資本家。

キヤビン (Cabin)

船室。

キヤラクター (Character)

性格。

キヤン—グウザ

キヤンドル (Candle)

蠟燭

キユーリオシティー (Curiosity)

好奇心

ギロティーン (Guillotine) (佛)

斷頭臺。フランス革命中恐嚇政治の時に、よく用ゐた斬首の器具。

キング (King)

王、皇帝。

ク

寓意小説 (Allegorical Novel)

アレゴリーを見よ。

空間藝術 (Raumkunst) (獨)

空間を占領して成立する藝術で、繪畫、彫刻、建築等を云ふ。造形美術と同意義に用ふ。

普通藝術を別ちて、造形美術と音律的藝術と稱せらるるが場合によつては前者を空間藝術とし後者を時間藝術と云ふ。

偶像破壊 (Iconoclasm)

英語のアイコノクラズムから來た言で、アイコン「像、又は偶像」を壊すの意である。偶像とは木や石等で作た象で、何等生命なきものであるが、昔の人は崇拜して居つた。人間の自覺が高まり、科學が進歩して來ると、其等に何の價値をも置かなくなり破壊してしまふ。又思想界に就て云へば、哲學宗教道德上、絶對權威としてたゞ舊來傳習的に崇拜して居た神とか、從來の道德又は信條を無視するやうになる。十九世紀に至て科學の非常な發達は、物質萬能又自然

主義的傾向を來し、各人に智識的覺醒を起さしめ、此事が盛んに行はれた。此を行ふ人をアイ

コノクラストと云ふ。

具象藝術

具象せる藝術にて、空間藝術に同じ(参照)建築

繪畫、彫刻、演劇の四種がある。

具象美 (Concrete beauty)

象を具へた美で、自然美、人体美など此の具象美である。藝術に於ては建築、彫刻、繪畫、工藝等皆具象美である。

具象理想説 (Concrete Idealism)

ヘーゲル。ハルトマン等の唱へ出した美學の一説で、美とは理想を具象するものであるといふ。

句讀法 (Punctuation)

修辭上の一法であつて、句の長短に由て文辭を修飾するものである。例へば「朗々として笛聞ゆ」と云ふよりも「朗々として笛の音聞ゆ」の

グシヤ—クライ

方口調よく、又美しとせば其は「の音」を加へしに由る。如斯七音句を重ねて用ゐる又他に五音句三音句を用ゐる、其音句の長短に由て文を修飾せんとするものである。

句拍子

こは略々似たる句法を重ねて口調を美しくしたるを云ふ。例へば「こせ山のつらつら椿つらつらに見つつ思ふなこせの春野を」(萬葉)の如く「つらく椿」といひ「つらく」に」と云ひ「見つつ」といふつ音の重積に一種の音樂的な調子を有してゐる。

クライマックス (Climax)

修辭學上の漸層法を云ふ。同じ様な語法を重ね行きて、次第に文意を強むる法。例へば「獅子に勝つ者は勇者なり、世界を征服する者は勇者なり、己に克つ者は更に勇者なり」の如く次第に最高點へ導く修辭法の一を云ふ。

クライ——クロツ

クライマックス (Climax) (音)
最高調を云ふ。曲としての最高點となるところである。

クラシック (Classico)

古典。文藝物に就て云へば「源氏物語」「萬葉集」等はクラシックなもの、と云ふが如きである。

クラブ・キャリアー (Club-Carrier)

本名をベリフェテスといふ。鍛冶の神ヴルカンの子にして、アアゴリス地方の山賊である、(Club-leaver) とも英譯す。(希臘神話)

クリスマス (Christmas)

基督教にてイエスキリストの降誕を祝ふ祭。初代教會には此習慣はなかつたが、四世紀の頃羅馬で始めて十二月廿五日に行ひ、東方教會も之に習つた。此起原は詳かではない。又此祭に用ふクリスマス・ツリー(樅の木が普通)は拾七世紀頃、獨逸のストラスブルヒ地方より起たと云

ぶ。

グレース (The Graces)

ヂュピターの女にして、ユーフロシニー。アグライア。サライア。の三神を總稱して云ふ。婉美の女神なり。ヴキナスに侍し、夜宴舞踊を主り公會の興を助く。

クラリネット (Clarinet)

木製管楽器の一種で、形は日本の尺八と稍々相似てゐる。クラリネットと、バスクラリネットの二種ある。調子によつてAクラリネット、Bクラリネット、Cクラリネットの三種に別れてゐる。音色は篤篤の如き音を有し、強弱が自由で、人の表情も豊かである。

クローソー (Clotho)

「紡女」の義、アトロポスの妹で、生命の糸と運氣の糸を紡ぐ。(希臘神話)

クロツキイ (Croginis)

寫生畫でも畧畫でも手早いスケッチを意味するもので、多くの場合五分とか十分とかで作られ姿勢や形態の感じを印象的に捕へるを主眼とするを云ふ。

グロテスク (Grotesque)

語原は羅馬時代の人工的洞窟 Grotto より出で、元來はその内の裝飾様式を云つた。轉じて廣義には凡て、不自然、不合理、荒唐、怪異等の形象を云ひ、又藝術作品に現はれた、荒唐無稽の空想的形象を意味する。

懐疑論 (Scepticism)

狹義に解する時に、人間に絶対の認識は不可能であり、絶対の眞理、原理を否定する學説を云ふ。その代表的哲學者はヒュームである。廣義に解する時に、從來の思想や傳統に對して満足せず、疑を有つ懐疑的態度、又は主義を云ふ。

廻轉舞臺 (The revolving stage)

グロテ——クワイ

日本の所謂廻り舞臺から考を得て作り出した舞臺裝置。フランスには早くから此裝置はあつた。一八九六年ミュンヘン・レジデンツ・テアテルのカルル・ラウンテンシュレーゲルの廻轉舞臺(Die Rauteinschlagers Die Dreuhhne)が最初の裝置であつた。普通は幕を下した後で、舞臺を廻すのであるが、ラインハルトの「ロミオとジュリエット」の如く、日本の歌舞伎式に觀客の目前で舞臺を廻した事もある。

過渡期 (Transition Period)

或る状態より他の状態に、移り行く途中の時代を過渡期といふ。例へば資本主義文明から無産階級文明への過渡期、又は浪漫主義から自然主義への過渡期、等云ふが如し。

繪畫 (Painting)

造形美術の一種である。畫布、パネル、其他の平面上に線と色彩に由て自然界の現象を描き、

輪廓と色彩に於て實物の幻影を表現し、更に色彩と遠近法と、明暗に由て其目的の効果を得るものである。

繪畫の起原 (Origin of Painting)

藝術本能及社會的需要によつて起つたものであるが、其確かな起原は不明である。併し第四紀地層中に發見された、石文の刻畫、又角骨などに粗刻された動物の形態、等を見て、既に有史以前の、原始社界にも繪畫はあつたものと云ふ事が出来るのである。

繪畫の種類 (Classification of Painting)

主題となる對象の種類より見れば次の如し。

1. 歴史畫 (Historical Painting) 此には宗教や、神話の題材を取扱たものも含まれる。
2. 人物畫或は肖像畫 (Portraiture)
3. 風俗畫 (Genre)
4. 動物畫 (Animal Painting)

5. 靜物畫 (Still life)

6. 風景畫及海濱畫 (Landscape and Seascapes)

又これを表現の材料から見れば、油畫、水彩畫、エクロリック、膠繪、テムペラ、バステル畫、クレヨン畫、蠟畫、鉛筆畫、ペン畫、木炭畫(擦筆畫)、單彩畫(煤橄欖畫)等である。其他壁畫、陶器畫、磁器畫、硝子畫、等がある。印畫の方面では印版、寫真版、腐蝕版、エッチング、三色版、オフセット、グラヴユーア等である

繪畫的見方 (Picture's Point of view)

これは視感中心の見方で、彫刻の見方即ち觸覺中心の見方に對して云ふのである。即ち平面的見方である、或立体的な對象物を一定の距離から色や形だけを見る、斯る見方は彫刻や建築に取つては、第二次的であるが、繪畫にとつては本來の見方である。

快樂說 (Hedonism)

美學上の一説で、快感に何かの條件を具備すれば、快感は即ち美感であるといふ説。その條件に由て無私的快感説、遊戯的快感説、永續的快感説、遊離的快感説等の別がある。

皇帝とガリラヤ人 (Emperor and Galilean)

イブセンの戯曲である。美至上主義の希臘思想と、武俠主義的な羅馬思想を合した、異教主義と、肉を輕視し、精神を過重とすると見らるる基督教思想上の争ひを、歴史上著名な羅馬皇帝ジュリアンの基督教徒迫害の事實に配して、戯曲的に描寫したものである。イブセンは最後の解決として靈肉一致の第三帝國を説いてゐる。

皇帝の爲の生命 (Life for the Czar)

露國の作曲家グリンカの歌劇。農夫スザンニンが、皇帝暗殺の秘密を知り、一身を犠牲にして帝を救ふといふ筋のもの。

科學的批評 (Scientific Criticism)

クワウ——クワガ

文藝上の作品を科學的に批評せんとする文藝批評の一様式で、佛人テームの主唱に由る。其作品を味ふ前に、作品及作者の所屬する人種、周圍、作者作品の生れた時代等を科學的に精査し其を基礎として作品の價値を定めんとする批評である。

科學の破産 (Bangrieroute de La Science) (佛)

十九世紀後半科學的精神勃興し、一時は所謂科學萬能説に由て思想界は風靡されてゐた。然し近來唯心的傾向が現はれ、迷夢より醒めたかの如く、科學は萬能を誇ても或る限界を越へると説明し得ない事柄がある。獨の學者デボン・レエモンは「世界の七不思議」なる論文を記し、佛のブリュンチエルは「科學の破産」と唱へた。斯うした思潮の起て來たことを科學の破産といふ。

科學萬能主義 (Science)

クワイー—クワン

拾九世紀後半に於ける、最優勢な時代思潮である。一切の現象は科學に由てのみ、解釋する事が出来る。即ち一切の眞理は科學より來り、吾人の信賴し得るものは、科學の教ふる所より他なし。宇宙は物質と勢力とより成ると説き、靈魂の世界を認めなかつた。然し現代は余程衰へてゐる。

回教建築 (Molametan Architecture)

回教は紀元六二二年、教祖モハメットの創めたもので、一二五八年迄は其子孫が教主として後繼した。回教建築は此間に、埃及、北部アフリカ、スペイン、ペルシャ、トルコ、印度等に、其宗教ともどもに建てられたものである。殿堂をモスクと稱し、常に蒼穹狀のドームと、細長いミナレットを備へ、堂の後部にはメッカの方向へ、ミラードと云ふ禮拜龕があり、其傍にミンバと云ふ説教堂がある。裝飾はアラベスクと

いふ植物模様、又はアラビヤ文字を用ゐた。光琳派

尾形光琳の畫風を繼承した畫家の一派である。光琳の弟乾山を始め、渡邊、立花、酒井、池田等の畫家は此派の人々である。

化感法

修辭學上の一法であつて、例へば「風が鳴る」といふ場合に「風、物を鳴らす」の如く、情の高まるに従て、宛然生ある物の如く扱ふ。即ち無生物を生物化せんとする方法である、此を擬人法、頓呼法、現在法、誇張法、情化法等に別ける事が出来る。

官能の交錯 (Transposition of Senses)

象徴主義の藝術によく用ゐられる言で病的な神經過敏から來た現象である。例へば耳に聞く音に色があるとか、味覺に或刺戟を加へると音樂と同じ感を得るとか、即ち視覺、味覺、聽覺等

が交錯して來るを云ふ。

クイーン (Queen)

皇女、女王。

クインテット (Quintet)

聲樂五重唱。器樂五重奏。

クオーテーション (Quotation)

引用法。引用文。

グッド (Good)

善、有徳の人々。

クー・デター (Coup d'etat) (佛)

斷行政略又は非常手法——革命などの時非常な手法を用ゐて其の政略を實行すること。

クライシス (Crisis)

危機。

クラロビーン (Claroivienne)

波蘭の多人數でなすダンス。

グラディエーター (Gladiator)

クワイー—クロー

格闘者古羅馬に於て公衆の觀覽に供せん爲の劍又は其他の武器にて闘つた劍客。

クラス (Class)

學級。類。同級生をクラス・メイトと云ふ。

クラヴィール (Clavier) (獨) (音)

鍵盤樂器即ちピアノ、ハープシコルド等を云ふ。

クラング・カラー (Klang Colour)

音色。(同項参照)

クランテ (Co rante) (佛)

佛蘭西に起たさる拍子のダンス。(舞踏曲参照)

グランデュア (Grandeur)

壯嚴、偉大。

グランマー (Grammer)

文法、文典。

クリエーション (Creation)

創造、創作、創作物。

クリーグス・リード (Kriegs-lied) (獨) (音)

グリー—グロー

軍歌。

グリークラブ (Glee Club)

合唱隊。音楽團。(主として學生の)

クリスマス・カロール (Christmas Carol)

祝歌。クリスマスに歌ふ讚美歌。

クリスマス・ツリー (Christmas tree)

クリスマスには樅、梅などの常盤木を立て、それに裝飾し、蠟燭をつけ、贈物を吊下るなどする。

クリティサイズ (Crisisize)

批評する。

クリティック (Critique)

批評的の。批評家。批評論。

クリティシズム (Criticism)

批評。

グラフィック (Graphic)

畫報。

クリヤー (Clear)

明瞭なる。

グリーフ (Grief)

悲、哀傷。

グループ (Group)

群團。一群。「藝術家のグループなど」

グルーミー (Gloomy)

陰鬱な、暗き。

グレー (Gray)

灰色の。

グレート (Great)

偉大なる。

クロス (Cross)

十字。十字架。(The Cross Society は赤十字社)

クロニクル (Chronicle)

年代。年代記。

グローリー (Glory)

榮譽。光輝。偉大。

クワァーテット (Quartet)

聲樂の四重唱。器樂の四重奏。

ケ

桂冠詩宗 (Poet Laureate)

此の譯は又、勅選詩宗、欽定詩宗等とも云ふ。英國にて勝れたる詩人を皇帝自ら勅選し、此をして毎年國王の誕辰を賀する詩と、新年の祝賀詩とを作らしむるを例とした。ウォーズウオーズ。テニソン等は桂冠詩宗の一人であつた。

警句法 (Epigram)

修辭學上の一法にて、極めて簡單なる語句の中

クワァー—ゲイジ

に、最も多くの又深き意味を含ませんとするものである。例へば「水清ければ魚住まず」「盲者の垣のぞき」等の如し。

形式法則 (Formal law)

藝術上の形式法則の一大原則は「多様の統一」である。猶、内延的形式に關する法則として、統調、漸層調、調和、對照等の法則があり、外延的形式として、繰返、均齊、權衡等の法則がある。

形式美學 (Formal Aesthetics)

美の原理を形式にありとする美學である。美とは「多様の統一」と云ふが如き、美の原理に統一された形式がある。此には主觀的な見地に立つ、ヘルバルトや、チンメルマン。又客觀的見地に立つヒルデブランド。コルネリウス等の論がある。

藝術 (Art)

藝術とは意識、或は思想感情の表現で、審美上
 価値を有する一切の作品を云ふ。即ち、文學、
 音楽、繪畫、演劇、建築、彫刻、舞踊等の如し。
藝術學 (Kunstwissenschaft) (獨)
 藝術を科學的に研究する學問。近代は美學と殆
 んど同意味に用ひらる。

藝術活動 (Art Activity)
 藝術活動は、精神運動の一で主に感情として活
 動し、藝術品創作、鑑賞する等に役立つもの
 ある。

藝術現象
 藝術的に價値のある、換言せば審美上價値ある
 現象を云ふ。もつと平たく云へば美といふ事
 ある。

藝術考古學 (Archaeology of Art)
 考古學(同項参照)中の一部門で、古代、中世紀、
 文藝復興期の美術に關する研究である。建築、

繪畫、彫刻、古錢、メダル、像などの研究を含
 み、又最も古い時代よりの、美術史をも含む。

藝術至上主義 (Art for Art)
 所謂「藝術の爲の藝術」(同項参照)を主張する
 主義で、英のオスカー・ワイルド、佛のボード
 レール等は代表的人物である。

藝術衝動 (Art impulse)
 單一な衝動でなく、摸倣、遊戲、表現、裝飾(各
 項参照)等の衝動が、藝術製作のために働く場
 合に、それを藝術衝動と云ふ。

藝術即人格
 藝術とは單に筆先きの巧不巧ではない、藝術の
 背景には作者の人格を要す。作者の全人格を背
 景とし、血を以て書かれた作品は、即ち人格の
 表現である、藝術即人格とはこの事である。

藝術的人格
 觀照(参照)は藝術家の第一事である。實行に熱

しては觀照の餘裕がない、實行を離れて觀照の
 世界あり藝術の世界がある。藝術家は道德とか
 實際上の利害、地上の一切から自由になり、小
 さき自己を捨てねばならぬ。斯うした態度の生
 活は即ち傍觀生活である。傍觀者の生活を送る
 觀照の人を、藝術的人格と云ふ。

藝術の起原 (Origin of Art)
 文學美術等の藝術は、人類の社會現象として重
 要なものであるが、何時頃から存在したものか
 と云ふに、太古未開時代にも、其生活状態に相
 應した藝術が、必ず存在したと推察し得る。然
 し此藝術起原に就ては、種々なる説がある。其
 中代表的なものを掲ぐれば、一、人間は其本性
 の底に藝術を産み出す傾向があつた、即ち藝術
 本能があつた。二、人類學、考古學等が発達し
 科學的に研究された結果を主張する説で、必ず
 しも藝術本能に由て出來たものでなく、實用の

目的から作出されたものである。三、兩者の折
 衷説、即ち一は藝術本能より、一つは巧利實用
 主義よりの結合に藝術の起原を説く。

藝術の製作 (The Creation of Art)
 凡ての藝術の製作には徑路がある。而して其徑
 路たるや、何れの藝術に於ても略同一である。
 一、自然摸倣。藝術は自然物を通じて表はさ
 るもの故、第一歩に於て創作の標準を自然に置
 き、その摸倣より始まる。二、撰擇。材料を比
 較對照し、美醜を判別し、醜を棄て、美を採用
 するわけである。三、分折。撰擇された材料に
 就て、美の要素と棄つべき醜を識別して、前者
 のみを集める。四、綜合。分折された美分子を
 統一したものに作る。五、理想化。四までは美
 の蒐集に過ぎぬが、藝術の特質は新しいもの
 を創作するにある故、その材料を作者の美的理
 想に従ひ、理想化するのである。六、着想。所

謂思着きで藝術的氣分が一つの纏りを得る事にある。七、感興。感興の湧く事にある。八、技巧。此には表現と、表現して後に構想や、表現の不完全な箇所を修正する推敲が含まれてゐる

藝術の爲の藝術 (Art for Art) 「人生の爲の藝術」に對して用ふ(参照)藝術は其自身獨立した價值がある。即ち藝術は藝術そのものの爲にあるといふ。藝術至上主義、唯美主義、耽美派などは斯派に屬す。

藝術の定義 (Definition of Art) 希臘時代以來最も長く通用して來たものは、アリストートルの「藝術は自然の模倣なり」である。レツシングは「美を理想として自然を完成するもの、即ち藝術は自然の完成なり」と云ふ。シルレルは「藝術は理想と感情の調和なり」と云ふ。シェーリングは「藝術とは有限の材料、即ち自然の中に無限の精神を宿すことなり」と

云ふ。ヘーゲルは「藝術は絶對的精神を、直觀的に表現したるものなり」と云ふ。厭世論者シヨペンハウエルは「藝術は現世の苦難を一時忘れしめる、忘我的のものなり」と云ふ。トルストイは「藝術は人の感情を傳達する手段なり」といふ。如斯古來より幾多の定義は立てられたが今日も絶對的に定義されたものはない。然し現今最も妥當と思はるる藝術の定義は「藝術は創造の歡びに於て生れる、人生及び自然の美的表現なり」とも或は「自然及び人生の眞及び美に於ける表現なり」とも云ひ得る。

藝術の轉換 (Transposition of Art) 象徴主義の藝術家が、音を以つて繪畫に對する感じを、色彩を、音樂的感動に由て與へやうとする。即ち各種の藝術境が混亂して、詩も音樂も、繪畫も彫刻も相混淆した傾向を取つて來たが、ゴッテは即ち「藝術の轉換」と稱へた。

これは感能の交錯(参照)より來る現象である。藝術的良心

藝術家が藝術創作に當て、有すべき良心である。藝術上の主義主張が何であらふと、藝術的良心は純なる藝術衝動によつて製作を命ずるもので金錢、名譽のための製作は、藝術的良心を失つたものである。

藝術の宮 (Palace of Art)

詩人テニソンの用いた言葉で「象牙の塔」(同項参照)と同じ意味である。

藝術派 (Art for Art School)

藝術の爲の藝術を主張する徒を云ふ。

藝術美 (Beauty of Art)

人類の作つた藝術の中に存在する美であつて、自然美と人間美(各項参照)を兩方面兼ねたものである。音に兼ねたのみならず、自然や缺點多き人間を以て満足することなく、更に高き理想

美を示したものと云へる。其故一層價値の高いものとも云ひ得る。

藝術の分類 (Classification of Art)

ヘーゲルの分類法を左に示す。藝術。

- 一、主觀的、A. 視覺に由るもの(建築、彫刻、繪畫) B. 聽覺に由るもの(詩歌音樂)
- 二、客觀的、A. 形体より來るもの(建築、彫刻、繪畫) B. 音響より來るもの(音樂) C. 言語より來るもの(詩歌—劇をも含む)
- 三、歴史的、A. 象徴主義。B. 古典主義。C. 浪漫主義。

其他普通に行はるる分類法は

- 1. 空間藝術(建築、彫刻、繪畫)
 - 2. 時間藝術(音樂、文學)
 - 3. 綜合藝術(劇、舞踊)
- の如く、更に次の如くになす事も出来る。

- I. 自由藝術(實用に束縛されることのないもの
即ち彫刻、繪畫、音樂、文學、劇)
 - II. 羈絆藝術(實用の爲になす藝術、即ち建築、
工藝美術、應用美術)
- 或は亦宗教藝術と、俗藝術の二大別にもなし得
らるるのである。

藝術本能 (Art impulse)

人間には太古未開の時から、その本性には廣義の藝術要求性があつた。此が表はれて藝術の萌芽を成すので、即ち藝術本能の發露が藝術となるのである。此に關しては遊戲本能、模倣本能、表現本能等の各説(各項参照)がある。

形而下學 (Concrete Science)

有形のもの即ち吾人が知覺し得る、現象界の科學、理化學、生物學等一切の自然科學を云ふ、形而下的と云へば、物質的、科學的などの意である。

形而上學 (Metaphysics)

現象以上の存在、即ち宇宙の本体、實在等、及吾人の靈魂、神などに關する學問。哲學、特に純正哲學等は此に屬する。

輕文學 (Light literature)

硬文學に反し輕文學は、主として小説、美文等を指す。然し輕文學とは文學的價値の低いといふ意ではない。大文學を成すものも少なくはない。拾九世紀中の大作は、疑もなく小説であつた。

癡癡派 (Sparnoffie)

スバスマヂツク派の譯語で、初めは評論家カアライルが、バイロンを評するに用ゐた言葉である。其を詩人エイタウンが借りて來て、近代詩人の一群が極めて神經過敏で興奮的などころを、諷刺的に稱んだのである。

教訓劇 (Moral play)

此劇は神秘劇(同項参照)が變化して出來たもので、常に善徳が遂に勝ち惡徳が亡ぶるを劇の筋にして居る。

共產主義 (Communism)

一切の罪惡は私有財産より來ると説き、階級制度の破壊と、凡ての人の平等と、財産の共有を主張し、博愛主義の精神を以て、互に扶け合はねばならぬといふ主義である。

劇の起原 (Origin of Drama)

他の藝術と等しく、人間の感じ及び描象的觀念に表現を與えやうとする、人間性と離すことの出來ない藝術的慾求に起原がある。人間は音、身振、言葉、文字だけでなく、其等に加ふるに模倣を以てせんとする。アリストテレスは曰ふ。「模倣は小兒期より人間にある本能性であつて、模倣に由て得る快樂ほど、人間に普遍的なものはない」と。衣服や裝飾が手近にあり、舞踊や

劇 (戲曲) (Drama)

音樂、歌謡が既に備つてゐる時に、歡喜の時とか祭事の場合には、何れの民族でも劇に向て一步を踏み出す。然し之等が集合したのみで、劇が出來たのではない。——子供の兵隊遊は其中に劇的要素を含んでゐない。——模倣又は表現に一定の劇的動作(Dramatic Action)が加はらねばならぬ。之れは原因より結果への進行を物語る動作を意味する。或目的を持たなされた動作が、遂けられるか否か、兎に角一定の目的と其結果を持たねばならぬ。其動作の起原は人の意志に起因するのであるが又その意志がより強い意志とか、或は運命に操られるとしても、此要素、換言すれば結構(Plot)がなければ劇ではない。この劇的要素が加はる時にそれが如何に單純であつても、完全な劇と稱することが出来るのである。

通常舞臺に演ずる爲に書かれる、散文又は詩の形式の所作を云ふ。劇は獨白、對話、役者の動作、背景、事件、人物の性格の發展等に由て成立つものである。此を悲劇と喜劇に大別する。悲劇は悲壯美を表はさんとし、喜劇は滑稽美を表はさんとする。劇の起原は、模倣を愛する人間の本能性に基くもので、文明人と野蠻人とを問はず、亦歴史に於ても、餘程古代から劇文學なるものがあつて、舊約聖書の「ヨブ記」「雅歌」等は其れである。

歐洲の劇は希臘劇に始まる。最初バツカス神への祭事の一として行はれたコーラス、及三一致(時、場所、動作)(其項参照)が希臘劇の特色である。之は其目的とする所、道德的教訓のみでなく、宗教的意志より出で、神々への畏敬を教へるにあつた。エスキュラス。ソフォクレス。エリピデス。は其最も代表的な悲劇作家で

ある。喜劇も前者と共に發達し主に諷刺的結構のものであつた。アリストファーンネスは有名な喜劇作家である。

次で現はれた羅馬劇は、希臘劇の模倣と云て宜しい。近代劇の起原は中世紀の神秘劇、奇蹟劇、道德劇であるとされる。最も早く始まつたのは伊太利である。悲劇がトリシノールに始まり、喜劇はアリストー。マキアベリー等に由て始まり、殆んど同時に牧歌劇が創始され、後にオペラの起原をなした。拾九世紀に至て新らしく、古典悲劇が、モンチ、ニコリニ。マンゾニ。等に由て復活され、喜劇もゴルドニ等に由り盛んになつた。最近劇壇の中心はダマンチオである。伊太利劇に次で、スペイン、英國劇が現はれた。スペインはカルデロンに於て頂點に達した。英國の劇はチャールズ二世時代を境として、二分する事が出来る。前期の頂點がシエクスピアー

である。近代に至てテニソン。プロウニング。ワイルド。シヨウ。ゴールスワージー。等及愛蘭劇の諸星等、有名な作家を出したが、其は劇としてよりも、主に文學的價値に重きをおいてゐる。

佛蘭西劇は拾七世紀のコーネルに始まる。モリエール。ボルテール。ユーゴー等は其最も傑出した作家である。一八二〇年古典劇に反對してローマン派の劇が始められ、遂に後者の勝利に歸した。ユーゴーは其代表的人物である。近代に於てはスクリーブ。ヂュマ。メリメエ。サルゾー。エドモン・ロスタン。等が有名である。之等の次に獨逸劇が始まる。長い間フランス劇の支配下にあつたが、レッシングによりて國民劇が確立せられ、ゲーテ。シルレル。の二大天才に由て大進歩を來した。現代に於ける有名な作家はズウデルマン。ハウプトマン。ウエデキ

ント。等である。

此他北方劇壇には、近代劇の創始者と稱せらるるイブセンあり。又ビヨルンソン。ストリンドベルグ。白耳義の象徴派劇作家マーテルリンク等がある。猶此等の他に、獨逸に於ける表現主義の劇、伊太利の未來派劇。愛蘭に於ける最近の新興劇或は、新ロシアの革命期の劇等がある。

劇場 (Theatre)

演劇を目的として建築されたもので、觀覽席と舞臺との二大區分から成立てゐる。西洋の古代劇場には屋根はなかつた。近代に到て屋根天井を張り、電燈及瓦斯の應用が盛んになつた。觀覽席は往古と同じく、普通半圓形である。近代の舞臺は科學の應用が著しくなつたが、凡略同形である。舞臺前には觀覽場と區分する幕がある。舞臺の後には種々な背景畫が描かれる。花道、廻舞臺等は日本の特色で西洋にはない。日

本の劇場建築は、江戸芝居の起源となつた中村座(寛永元年)が嚆矢とされてゐる。世界で著名なものは、巴里の国立歌劇場、維納の皇室劇場、紐育のメトロポリタン・オペラ座、倫敦のコリシウム座、伯林の皇室劇場、露國の皇室劇場等が、美術的建築として有名である。

劇詩 (Dramatic poetry)

叙情詩は主観を、叙事詩は客観を主としたが、劇詩は此両面を兼て居る、かくして戯曲を詩の形式に由て歌つたのを劇詩といふ。

劇的經濟 (Dramatic economy)

七八間内の一定の場處、二三時間に過ぎぬ一定の時間内に、演じなければならぬ演劇は、小説の様に自由ではない。又見物者はその耳目を間斷なく働かせて居る故、緊張して少しの弛みがあつてはならぬ。従て其筋の焦點を選び、強く描かねばならぬ故、少しの濫費も許さない。此

を劇的經濟と稱し、非常に大切なものである。

決定論 (Determinism)

宿命論と同じ、(同項を見よ。)

ケーデンス (Cadence) (音)

靜止法。樂章、樂曲の終りに安定を感ぜしめるため、一段落を終らねばならぬ。此を靜止法と云つて、中間靜止法、完全靜止法、半靜止法、轉回靜止法等がある。

教會音樂 (Sacred Music)

一、アンセム Anthem 聖句を作曲した讚美歌の一種である。此には交唱アンセム(二分された合唱隊が交互に歌ふ)。フルアンセム Full anthem (全部合唱によるアンセム)。Full Anthem With Verse (合唱と獨唱によつて成るもの)。Verse anthem (獨唱、二重唱、三重唱、四重唱が重なる部分になるアンセム)。Solo Anthem (合唱、獨唱より成るが、後者を主とするアンセム)。

Instrumental Anthem (オルガン以外の樂器に伴奏されるアンセム)等の別がある。

二、アンチホーン Antiphone 二組の歌唱者が交互に歌ふ讚美歌、又は詩篇朗讀の前後に歌ふ讚美歌。

三、アヴェ・マリア Ave maria 讀むべきかなマリヤの意。聖マリヤに奉る祈禱又は讚美歌。

四、カンタータ Cantata レシタイブ、ソロ。器樂の伴奏より成るオラトリオの一種。

五、チャント Chant 詩篇を朗讀する讚美歌の一種。

六、ドキシロジイ Doxology 頌榮歌。集會の始め、又終りに歌ふ。

七、ミサ又はマス Mass 加特利教會の行ふ聖餐式の音樂。

八、モテット Motet 對位法式の聲樂の讚美曲で、これには器樂の伴奏はない。

ケウカ

九、オラトリオ Oratorio (其項参照)

教會劇 (Church Drama)

中世紀頃西班牙なぞ基督の聖休節に、街上で演ずるため作られ、聖餐式の行事となつた劇で、中世の奇蹟劇及道德劇より出でたる、一種の宗教的假面舞踏の如きものである。カルデロンの「十字架の献身」「驚異を行く魔術師」等は代表的作品である。

教訓詩 (Didactic Poem)

教化又は教導のために書かれた、主に道德上、哲學上、宗教上の事柄を歌へる詩。形式は叙事的、内容は主に主観詩である。此を三種別にす。一、純教訓詩、例へば希臘のエンペドクレースの農事及其の季節を歌へる詩。英國のポーブの人間、ヤングの死及不滅に關する詩などである。二、象徴的教訓詩、或事物を借りて教訓的思想を現はさんとする詩。三、傾向的教訓詩、

機智、諧諷を用ゐて教化せんとする詩、諷刺詩、パロジ、エピソード等も之に屬す。

ケルト文藝復興 (Celtic Renaissance)

拾九世紀末から最近にかけて、愛蘭を中心としケルト民族の國民的自覺に伴ひて、民族性に根柢をおく藝術を起さんとの文藝運動である。元來愛蘭人は往古英人のために放逐されたブリトン人の子孫でケルト民族である。彼等は英人の奴隸の如く虐待されてゐた、加ふるに佛蘭西革命以來、自由民權思想に影響され、政治上にも自由を求むる様になつた。此は愛蘭自治法案となつて現はるゝと共に國民的自覺が益々高まつて來た。國民に自覺を生ずる時は、民族に覺醒のある時で、そこに激潮たる生命に満ちた新興藝術の現はるゝものである。ケルト民族は詩的な又神秘的な民族性を有してゐたから、斯運動は必然的に生れて來たのである。

拾九世紀末の英詩壇は殆んど行詰りの状態であつた。それに自然主義文藝に反抗して、佛に於て新興した神秘象徴の文學と相俟て、英文壇に新しい叫びを上げたのが、ウイリアム・バトラア・イエツである。機雲に乗じイエツは一九八一年ダブリン市に國民文學會を設け、二年後ロンドンにて愛蘭文學會の發會式を擧げた詩歌、小説類を盛んに出した文士は、詩人イエツを始め、小説家ジョージ・ムウア、ゼエン・パアロウ女史、ジョージ・バアミンガム(本名はハイネといふ牧師)、ダグラス・ハイド。等である。一方ハイド等が重になつて *The Celtic League* といふ團體を組織し愛蘭固有の言語文學を保存しやうとしてゐる。

亦劇の方に於てもイエツを始め、グレゴリー夫人やマアテン等と、愛蘭文藝座を創設して、純粹の郷土藝術としての愛蘭劇を立て、後に愛

蘭國民劇協會となり非常に成功した。劇作家の主なる人物はイエツ、シンダ、ラツセル・グレゴリー夫人、ダンセニイ、マアテン等である。斯る運動がケルト文藝復興の中心であるが、此他に注意すべきは、蘇蘭に於て「常盤」と題する雑誌を中心に活動したシャープ一派、又 *Yard School* の一派作家の活動である。

鍵盤樂器

オルガン。ピアノ。等。ピアノの前身としてハルプシコルド。クラフキルド。などがある。

言語曖昧説 (Theorie de jolsseurete) (佛)

デカダン派文學者に由て唱へらるる文學上の一説。言葉は不完全なもので到底深い思想、複雑な感情を表はし得ぬ、言葉はたゞ暗示し得るのみといふ説。(一語説参照)

言語學 (Philology)

言語の構造發達等を研究する科學で、古代文法

ケンガ—ケンサ

學者が文獻學の一部門としての研究に始まる。拾八世紀梵語が歐洲語と同語系なる事が發見され、比較言語學が非常に發達し、所謂近代の言語學が此基礎の上に置かれた。

原始藝術 (Primitive Art)

原始時代の藝術は、概して幼稚、簡單、拙劣であつたが、原始人の感情は強い、單純をもつて自然物を見た故、粗ではあるが強く、生々とした表現を見る事が出来、他に得られぬ面白味がある。小兒や未開人の藝術は、之によく類似してゐる。近代は斯る藝術に興味を感じ、其氣持を學んだ作風が行はれて來た。佛國のアンリー・ルソーなどは、原始的熱情の表はれた近代畫家である。

現在法 (Vision)

過去に起きた事物、將來起らんとする事物、眼前にあらざる事物を、眼前に在るが如くに描寫

ケンジー—ゲンツ

する、修辭學上の一詞法である。

現實感又ハ實現味 (Wirklichkeitsinn) (獨)

浪漫主義の盛んな時代が方に過ぎ、自然主義の時代に移らんとした時、人心は著しく自然科学の新精神に覺醒された。前代の夢想の中に彷徨ひ美しい理想に憧れるよりも、直接經驗に重きをおき、此地上の現實生活を尊重して、此の苦しい、醜い現實を、忘れまいとするの傾向が著しく強くなつた。之れ現實感の強くなつたことである。又この現實を生々しく描き、現實感を強める様な文章を、現實味のあるものと云ふ。

現實暴露の悲哀

自然主義文學の盛んな時代に、頻りに用ゐられた言葉である。當時の文學がどこまでも現實即ち有のまゝを描寫せんとして、人生の暗黒面をも赤裸々に描く時、今迄は知らずに美しいと思つてゐたものが「醜」となり、前の幻が消えてし

まふ。其時の悲哀を云ふのである。

現實法 (Vision)

修辭學上の一法。過去、將來の事を、現在目前に起る事の様に記すもの、普通過去及未來動詞の代りに、現在動詞を用ふ。現在法に同じ。

原色 (Primary colour)

赤、黄、青の三色を云ふ。此等は他の色との混合によつて得られぬ色で、プリミチグ色と稱せられる。

源平盛衰記

鎌倉時代の作で、源平兩家の興亡盛衰を記したものであるが、平家物語の如く想像的加筆がこれにも又多くある。一面佛教思想が強く現はれてゐるのを見る。

幻想美學 (Illusionsästhetik) (獨)

コランド・ラングー派の主張する美學で、意識的自己幻想に、美的觀賞の原理をおく、即ち意

識せる故意の幻想である。意識が非幻想と幻想の間を、故意に自由に變轉する事に由て、美的快感が生ずると云ふ。故に藝術は幻想を助成する分子と、幻想を亂す分子との要件を有すと説く。

建築 (Architecture)

建物の設計及工事を含むもので、空間美術の一種であると同時に、造形美術の一種でもある。建築には其耐久力と、用途を考慮すべき實用的方面がある。建築は藝術の部に屬すると同時に科學に屬して其束縛を受けるものであるが、然し又、建築物を實現さす科學的智識は、藝術的要求に附隨するものである。

建築家 (Architect)

建築を設計し、其建設を監督する藝術家を云ふ。換言すれば、藝術としての建築を設計する人で、大工や、建築師とは異なる。彼等は職人である

ケンチ

が、此は藝術家である。

建築畫家 (Architectural painter)

繪の主題を建築物にのみ限る畫家を云ふ。和蘭のバン・デル・ヘイデン。ルデエ・ウイテール。伊太利のビリニ。カイレティー。英國のサムエル・プロウト等は著名の建築畫家である。

建築師ソルネス (The Master builder Sohnnes)

イブセン晩年の作に成る象徴劇である。

建築師ソルネスは、一代の名匠と立てられた成功者である。然し今までの事に不満を感じる心は癒されぬ。彼は自分のために、大空の家を建てやうと決心し、新宅の上に更に空にそびゆる高い塔を建てた。其處へヒルデと云ふ無邪氣で快活な少女が現はれ、現世の事業に離脱するの愚を感じしめ、永遠の殿堂を建設するに向ふやう勵ます。新塔落成式の日風見に花環をかけた後、眞逆様に落ちて慘死した。然し彼は其時に

ダンメーセント

未來の世界を得た。「あの人は天まで昇て行た」とヒルデは云ふ。

幻滅 (Distinction)

自然主義文學時代の新造語で、幻影消滅の意である。以前は科學の進歩なく、現實を知ることが尠かつた。人々は理想に憧れ、空想に耽つて大きな希望を夢見てゐた。處が科學の進歩に由て人々は現實に醒め、それを突きとめて見る時に、前の希望も理想も一の幻影であつた。その幻影が悉く消へ去た状態を幻滅と云ふ。例へば結婚といふ事に美しい幻を描いてゐた青年が、偕て結婚生活の現實に這入つて見ると、今まで知らなかつた現實の醜くさがさつて美しくい今までの幻は消へてしまふ、など其例である。

元祿時代

元和偃武以來續いた太平時代を云ふ。此時代は特に文化が發達し、物質文明が進歩した。學問、

美術、文藝等あらゆる方面に其才を出し、國學

には長流、茂睡、契沖。漢學には仁齋、徂來。

繪畫には光琳、一葉。蒔繪には山本春正、青海

勘七。歌舞伎に坂田藤十郎、荒行師の元祖市川

團十郎、「猿隈」で有名になつた中村傳九郎。文

藝では竹本義太夫、淨瑠璃で名高い近松門左右

衛門。人情本で有名な井原西鶴。俳句では宗因、

芭蕉。等が出て活氣横溢し、總てが脱套を脱し

て自由な創造の時代であつた。

ケビン (Cabin)

船室。

ゲベト (Gavel) (獨)

祈禱曲。

ケント (Kent)

英國ケントから産出する、繪畫、製圖用紙。

コ

古アチック繪畫派 (Old Attic School of Painting)

ペロポネサス戦争前、最も著名であつたギリシヤ畫派の一群を云ふ。其中最なる者は、ギリシヤ繪畫の始祖と云はれる、ポリグノートスである。其他アガサコス。アポドロラス。等の著名作家がある。

工業美術 (Industrial Art)

實生活の要求より來る器物調度の如きもので美術的技巧を施した工藝品である。これを大別して、一、建築工藝美術。二、陶器工藝美術。三、金屬工藝美術。四、織縫工藝美術。の四種類とする。又美術を應用したものとの意味で、應用美術とも云ふ。

コアチー—ゴガク

後期印象派 (Post-Impressionist)

印象主義が本來の立脚地から離れて、視覚のみには囚はれ、其精神を忘れた反動として起た繪畫の一派で、視覚は單に手段として用ひ、自己の精神の感動を表現せしめんとする。此派はラフワエル前派の様に、特に主義に由て團結を作たのでなく、一つの繪畫の傾向に第三者が斯る名稱をつけたのである。ヴァン・ゴッホ。ポール・ゴッガン。ポール・セザンヌ等は代表的人物である。此の畫風は近代歐洲畫壇を風靡した。

硬文學

軟文學に對して用ふる言。昔文學を別けて、天下國家を益するものと、人々の娛樂になるものとの二種にした。前者を硬文學、後者を軟文學と云ふ。評論その他比較的、硬く感ずる文學を云ふのである。

古學派

我國の儒學にて程朱と陸王との學は、孔孟の眞意を得たものとせず、孔孟に歸て儒教の眞意を發揮せんとする一派で、素行、仁齋、徂來などは其代表的學者である。素行は武士道と儒教を結びつけ、仁齋は個人的道徳と實行を期し、徂來は巧利主義を説いた。而して何れも靜寂主義を排して活動主義を主唱した。

五 經 (The Pentateuch) (モーセの)

舊約聖書の最初の五書、即ち創世記、出埃及記、利未記、民數記略、申命記である。(舊約聖書參照)

極彩色

濃厚な繪具を用ゐて描くこと。日本畫にては其描いた繪を、極彩色と云ふ。此は淡彩色に比して、餘程濃厚で従て多くの繪具が重ねて用ゐられる。鎌倉以前には此種の繪が多く出た。建築裝飾としても、天平時代後極彩色が賞用された。

國家社會主義 (State Socialism) (社會政策)

十九世紀後半獨逸に起り、ビスマルク等のとつた主義である。社會主義の多くが過激な革命的手段に由て社會制度を覆へんとするに反し、社會はさう手取早く改める事は出来ぬから、國家の政策を社會主義の目的と一致させて、貧富の差を無くし、社會を平等に改革せんとする主義である。

湖上派詩人 (Lake school poets)

十九世紀の初葉、英國の湖の多いウオーズウオースシエイヤの地方に住んでゐた、コレリツジ、ウオーズウオース。サウシー等の一派に名けた名稱である。

ゴシツク結社 (Gothic Union)

拾九世紀スエーデンにて、フォスフォリストと共に、浪漫的運動を起し、其中堅となつた文學的結社である。最初十一人の青年に由て結ばれ、機關雜誌「Iduna」に由り、此派の中心であり最

大詩人テグネルを始め、此派の作品が發表された。テグネルの他に、ガイエル、ベスコウ、リンデブラット、リング等がある。

ゴシツク建築 (Gothic Architecture)

ローマネスク建築について起つた建築様式の一で、拾二世紀頃始めて佛國に萌芽を生じた。次で歐洲諸國に傳播し、國に由て期を異にするが、大体拾三四五の三世紀間、建築界を支配したものである。各國を通じこの特色は尖頭持(ポインテット・アーチ)の様式、後には尖頭式(ポインテット・スタイル)とさへ稱ばれたを用ゐたこと。其他交會(クロス)、穹窿(ヴォールト)、控壁(バットレス)、東柱等にも特徴がある。此様式は飽迄で構造的で、有機的力の美が現はれて居る。構造は垂直の方向を重じ、外觀も上へ上へと高まる表現を有て居る。總じて復雜で活動的である。大別して次の如くなる。イギリ

スゴシツク式。フランスゴシツク式。ドイツゴシツク式。イタリーゴシツク式。スペインゴシツク式。(各項參照)

ゴシツク彫刻 (Gothic Sculpture)

ゴシツク彫刻は其建築と共に、ローマネスクに繼で起り拾三世紀頃完成された。ローマネスク彫刻が雄大で力に富み、裝飾的ではあるが現實味の缺けてゐるに反し、ゴシツク彫刻は自然を忠實に研究し、立派な寫實主義を示してゐる。

個性 (Individuality)

個性とは藝術家の獨創性、及其作品に與へる個人的特質を云ふ。強く個性を体现した作品は、大なる價值を有し、個性なき作品は類型的として卑しまれる。藝術上獨創と、簡性に最上の價值が與へられる。特に近世個人主義的思想の發達とともに、此點が強く唱へられた。美術史上個性が明かに認められたのは、西洋では

文藝復興期以後、日本では桃山時代以後とされてゐる。

巨勢派

藤原初期の畫壇の大家、巨勢金岡を祖とする一畫派である。鎌倉時代迄相當勢力を有し、唐の古風に習て佛畫を描いた。其後次第に衰頽し平安朝末期に土佐派崛起するに及んで、同派の中に包含されてしまつた。金岡を始め、廣高、惟久、光康、行忠など有名である。

語族 (Family of Languages)

重なる語族は左の如し。

一、印歐語族 (Indo-european language)

- A. アジア部
 - イ、インド語族(サンスクリット語など)
 - ロ、イラニヤ語族(ツェンド語など)
 - ハ、アルメニヤ語族
- B. ヨーロッパ部

イ、ギリシヤ語族

ロ、アルバニヤ語族

ハ、イタリヤ語族

イタリヤ語、プロヴアンス語、フランス語、イスパニヤ語、ポルトガル語、ルーマニヤ語

ニ、ケルチツク語族

アイルランド語、ウエールス語、スコットランド語の一部

ホ、スラブニツク語族

ロシヤ語、ポイランド語、ボヘミヤ語、セルビヤ語、ブルガリヤ語

ヘ、バルチツク語族(リスニヤ語など)

ト、ドイツ語族

ゴチツク語、水鳥語、ノルウエイ語、スエーデン語、デンマルク語、古代サキソン語、オランダ語、ドイツ語、英語

二、セミチツク語族 (Semitic languages)

イ、アツシリヤ、バビロニヤ語族

フイニシヤ語、ヘアラヤ語、シリヤ語

ロ、アラビヤ語

三、ハミチツク語族 (Hamitic language)

- イ、古代エチプト語
- ロ、リビア語
- ハ、エテオピア語

四、ウラルアルタイ語族 (Ural-Altaic language)

- A. 西アジア部
 - アカシヤ語(スメリヤ語など)
- B. ウラル部
 - イ、フィンランド語
 - ロ、ラブランド語
 - ハ、ウオーチヤツク語
 - ニ、モルドウイン語
 - ホ、マジヤル語
- C. サモエド部
 - イ、コラツク語
 - ロ、オスチヤツク語
 - ハ、エニセイ語

ゴソク

D. トルコ部

イ、ヤクト語

ロ、ウイグル語

ハ、ノガイ語、キルギシ語

ニ、西部トルコ語

E. 蒙古部

イ、東部蒙古語

ロ、カルマツク語

ハ、ブリヤツト語

F. ツングース部

イ、ツングース語

ロ、滿洲語

ハ、日本語

五、單綴語族 (Monosyllabic language)

イ、支那語

ロ、安南語

ハ、暹羅語

ニ、縮句語、西藏語

六、マレイポリネシヤ語族 (Malay polynesian language)

A. マレイ部

イ、フィリッピン語

ロ、ジャワ語(マレイ語、ボルネオ語)

B. ポリネシヤ部

ニウ・ヘブリード語

七、中部アフリカ語族 (Central African language)

八、バンツ語族 (Bantu language)

古代楽器 (Ancient instrument)

バンドーラ Bandola リユート属の絃楽器である
ガンバ Gambe (Viola da Gamba の略) 低音のヴァ
イオラである。

ライアー (Lyre) 希臘の古代楽器でマアキユリー
が發明したと云はれてゐる。ハープに似てゐる
が、其よりも絃が少ない。

リユート (Lute) 非常に古くからあつたギター属
の楽器で、六乃至拾三の絃がある。

スピネット (Spinnet) 搔絃楽器でハブシユートの
小さなものである。

タボール (Tabour) タンボリンのジングのない様
な、小太鼓式の楽器で右手で打つもの。

ヴァイオル (Violin) ヴァイオリン属の原形楽器、絃は
ヴァイオリンよりも太く、五絃乃至八絃のもの
もあるが普通を六絃とする。高低に四種類ある。

1. ヴイオラ・アルタ (高音部) 2. ヴイオラ・

テレノ (中音部) 3. ヴイオラ・バスサ (低音部)

4. ヴイオロネ (コントラ・バス部)。

誇張法 (Hyperbole)

修辭學に用ふる比喩法の一である。誇張法とも
云ふ。事物を實際よりも誇張し、過度の表現を
なすもの「青天を紙となし海水を硯に湛ふ」等
の如し。

古典 (Classico)

クラシツクに同じ。

古典主義 (Classicism) (クラシシズム 英)

拾七八世紀頃、歐洲の文藝は佛蘭西を中心とし
て、専ら範を希臘、拉典の藝術に取り、内容と
か感情よりも寧ろ、統一、スタイル、正確、規
律等の形式的、知巧的傾向を持つに至つた。其
當時の藝術を總稱して古典主義と云ふ。更に又
擬古主義、或は尙古主義なども稱す。

コーネット (Cornet)

形は軍隊喇叭に似てゐるが、これにピストンを
加へて音階を自由にしたものである。Aコー
ネット、Bフラット・コーネット、Cコーネッ
ト、等の別がある。普通尤もよく用ゐられるの
は、Bフラット・コーネットである。音色は柔か
く、極めて快活である。

古風主義 (Archaism)

コテン——コーラ

胡粉繪 (Distemper)

繪具が水と膠とに混合されて、壁など塗るによ
く用ゐられる方法である。

コーマス (Kornas)

ミルトンの有名なる假面劇 (其項参照)。

一人の處女が弟を途中にて失ひ、彷徨するところへ魔神コーマスが牧羊者に化けて出現し、言葉巧みに乙女を妖魔に誘ひ、妖術にて全身を縛し獸慾を遂げんと乙女に魔酒をすゝめたが、乙女は操固く激しく拒んだ。其處へ女神現はれて縛を解くといふ筋のものである。

コーラス (Chorus) (ホーロス Chorus) (希)

元來は舞臺即ち舞の場所を意味し、後變じて舞臺に於ける舞踊者を意味す、圓狀舞踊、歌謡付の舞踊等である。紀元前六二〇年スバルタに黒死病盛んなりし時、詩人タレタス讚歌を作り神に捧げた、此時代より多人数の合唱をコーラスと稱ふに至つた。希臘悲劇にありては十二人又は十五人の團体合唱をコーラスと云つた。これに三種あつた。一、バロードス(入場唱歌)。二、スタシマ(舞臺上の唱歌)。三、アフオドス(退場唱歌)。斯る多人数の合唱はアルクマン(Arkman)の創建であると云ふ。最近で云ふ合唱コーラスに就ては「合唱」の項を見よ。

コーラン (Koran)

回教の教典。此教徒はモハメットが直接に、アラ一神から授かつたものだと思はれてゐる。

コリント・オーダー (Corinthian Order)

イオニヤ式よりも、一層細密優麗である。柱頭

部の四隅には突出されてゐる。紀元前四百年以降盛んに用ゐられた。此式の模範的のものとしてアテネのリシクラテスの記念塔がある。

コールド・カラー (Cold Colour) (寒色)

色を温、寒に區別し、青及それに近い色を寒色といふ。

ゴルゴンズ (Gorgones)

姉妹三怪の中、長をユーリエールといひ、次をシーノーと云ふ。ミルトンの詩篇コーマスにもダシテの神曲にも此怪物のことを引いた。爾來すべて醜怪にして畏怖すべき者の形容詞となつた

コレクション (Collection)

普通一箇人が蒐集した多數の繪畫、彫刻、素畫、又は工藝美術品などを云ふ。

コロタイプ (Colotype)

寫眞製版の一種、重クローム酸鹽の感光性を利用して、印刷したものである。この印刷は殆ん

ど寫眞と異ならず、且つ寫眞の如く變色の處がない。一の版で三四百枚を造ることが出来る。

コロツサス (Colossus)

巨像。非常に大きな彫像を云ふ。例へば埃及のスフィンクス。ロドスに立てるアポロ像。米國の自由の女神。の如きものである。

コロッセウム (Colosseum)

羅馬建築の最大なる遺物で、楕圓形、圓形劇場の好適例である。希臘建築の三種の柱を巧みに裝飾的に用ゐる(一層ドリュヤ式、二層イオニヤ式、三層コリント式)七八萬人を入れる事が出来る。

コンヴェンション (Convention)

慣習、因襲、などと譯す。藝術上にては一般に典型若しくは傳統等に依り、獨立した個性等に重きを置かぬ場合を云ふ。

今昔物語

平安朝末期の作で、當時の迷信傳説等が多く含

コロツ—ロンボ

まれてゐる。大納言源隆國の作と云はれ、宇治大納言物語とも云ふ。

コンサート (Concert) (音)

器樂獨奏の重要な形式で、重にピアノ、ヴァイオリンの獨奏曲に管絃樂の伴奏を附したものである。

コントラ・ダンス (Contra dance) (佛)

舞踏者が向合て踊る2+4拍子のダンス。佛國に起つたもので、最初は踊手が二人であつたが今は八人、英國にてカドリル (quadrille) として知られてゐる。

コントラスト (Contrast)

對照、對比等と譯す。二の異つたものが相對し其間に一種の調和を有し、美感を起さしめる場合を云ふ。

コンポジションナリズム (Compositionism)

コンポジションは構圖又は組立の意で、組立繪

コサツ——コツビ

畫主義とでも譯すべきか。此は露西亞の畫家カ
ンヂンスキーが主張した畫風で、最も極端なる
主張を有するものである。彼の論ずる處に由れ
ば藝術の發達に三時期がある。

第一期、肉体的要求から出る、全然實用的藝術
の期。

第二期、實用的目的から發達して、次第に精神
の要求が加はる。

第三期、此期に於て藝術に於ける實用的目的は
全くなくなり、純粹藝術の域に達す。

純粹藝術は彼の唱導する所で、藝術家の主觀—
—他の言で表せば作家の情緒——を、具體的形
式を以て人に傳へるのが目的である。而して自
然外物によらずして、作家の中より新らしく表
現せんとするのである故に、繪畫もその情緒を
純粹な形式に由て表はさんとし、外界自然とは
全く没交渉に、たゞ何等自然の對象もなく、作

家の頭から作出されるものである。これは言葉
通りの色彩音楽である。

コサツクダンス (Cossack dance)

コサツクの國民的舞踊。輕快な2/4拍子のダン
スである。

ゴシップ (Gossip)

無駄話。

ゴースト (Ghost)

化物。幽霊。

コスモス (Cosmos)

秋咲く花の一種。世界。宇宙を意味す。

コスモポリタニズム (Cosmopolitanism)

世界主義。

ゴッド (God)

神。

コッピ— (Copy)

雛形。寫し。原稿。

コティロン (Cotillon)

佛國の舞踊。克蘭テの樂曲に合せてする6/8
或は2/4拍子のダンスである。

コミック・オペラ (Comic Opera)

喜歌劇。(同項参照)

コンヴァーゼーション (Conversation)

會話。

コンヴェンション (Convention)

慣習、踏襲、因襲。

コンクリート (Concrete)

具體的。具象的。

コンクルージョン (Conclusion)

決定。斷定。結論。

コンサヴァートリー (Conservatory)

音樂學校。音樂院。

コンサート (Concert) (音)

音樂會。特に箇人の獨奏會をレサイタル (Recital)

コティ—コンフ

と云ふ。

コンストラクション (Construction)

構造。組立。結構。

コンディション (Condition)

條件。境遇。位置。

コンテンツ (Contents)

目次。内容。

コント (Conte) (佛)

短篇小説。(同項参照)

コントラスト (Contrast)

對比。對照。

ゴンドリラ (Gondoliera) (伊)

ゴンドラの歌。バンカロールに同じ。

コンネスール (Connaisseur) (佛)

美術に通ずる鑒識家を云ふ。

コンフエッション (Confession)

懺悔。告白。

コンポーザー

作曲家。

コンポジション (Composition) (音)

作曲術。

コンポジション (Composition) (繪畫)

構圖、圖取り。

コンミューニズム (Communism)

共產主義。

コンモン (Common)

普通の、尋常の、一般の。

コンモンセンス (Common-sense)

常識。

サ

罪惡の聖書 (Bible of sins)

佛國のボードレールCharles Baudelaireの詩集「惡の華」を、罪惡の聖書とも云ふ。

サイクロピーズ (Cyclopes)

鍛冶の神ヴルカンに隸屬す。又サイクロツプスとも云ひ「アラビヤン・ナイト」の中にも見ゆ。

最後の晩餐 (The Last Supper)

基督が十字架の前夜、弟子達とエルサレムにて最後の晩餐をとり給ふた。此を繪畫や、薄肉彫に屢々表現されたる、美術家の好題目である。

レオナルド・ダ・ヴィンチの有名なる傑作「最後の晩餐」は、其最も著名なるものである。

裁斷的批評 (Judicial Criticism)

文藝批評の一種である。批評家が作家乃至作品よりも、一段高き地位又は或る標準を定めて、裁判官の様な態度でする批評を云ふ。

催馬樂

奈良朝末期の俗樂で、神樂の餘興に用ゐられ上流社會に翫ばれた。之に二派あり、一は左大臣雅信の傳で藤家と云ひ、今一は式部御敦實親王の傳で源家と云ふ。

材料美 (Material beauty)

材料の美とは、單なる色の美、單なる物の美を云ふ。材料を調和統一した時の美は、形式美となるが、その形式を造る前、材料のみの美。例へば赤と緑の色を並列すれば、對照といふ一種の形式美が生ずるが、赤そのもの、又緑そのものの美は、即ち材料美である。

サイリーネス (The Sirenes)

ミューズの女で、女面鳥身をもつた三人の總稱である。歌をよくし、海のミューズと稱せらる、人海上にてその歌を聴けば、恍惚として死に至るを忘るといふ。

相對 (Relativeness)

ザイレ——サウピ

想像 (Imagination)

絶對に對比して云ふ言である。二つ或は其以上ものが、互ひに對照、比較の中にその存在を明かにする關係を云ふ。例へば美に對して醜のある如き、即ち美醜は絶對ではなく、美あるが故に醜がある、と云ふ。之を相對と云ふ。

過去の經驗、既知の事實、觀念を基として、新たな思想、觀念を作り出す心の作用を云ふ。之は次の三過程より成る。一、過去に對する觀念を再現する事。二、此を其要素に分折する事。三、分折せる要素を綜合すること。

藝術には最も重要な要素で、これあつて着想が出来るのである。

創作 (Creation)

始めて造り出す意。小説小品叙事抒情詩文などすべて、翻譯にあらざるものを云ふ。

壯美 (Sublime)

美の一種で偉大、深刻の感を含み、時には恐怖の念を交へる事がある。悲劇のキヤタストルフィーを見る時など。又自然に接して此を感じる事が多い、巨瀑を見る時、巍然たる高嶺を仰ぐ時等、それである。

サクラメント (Sacrament)

聖晚餐式。基督が十字架の上に死する前夜、十二の弟子と共に、最後の晚餐をとられた。その古事に従ふた聖典である。

サクンタラ姫

六世紀に印度の詩聖カーリダーサの作に成る三大戯曲中の一である。或る波羅門の家の一美女サクンタラは、貴族某と戀仲となつたが或者の呪咀に由て、男子の熱情が冷め、サクンタラとの同棲を拒む。彼女は夫に棄てられたが、二人の仲に生れた子供を育て、悲しみのうちに生活する。後年夫の心が前の如くになり、楽しく相和

するに至る。といふ筋のもので、印度文學の精華と稱せられるのみならず、千古に傳ふべき世界的傑作である。

挿繪 (Illustration)

寫本又は印刷本の中に挿まれた、説明的の繪を云ふのである。

惡魔派 (Satanist) (繪畫上)

文學上に主張されたところを、轉じて繪畫に行はんとするもので、其間に多少の無理がある。

二三の天才畫を除く外は、數ふる程のものもない。此派の代表的畫家は、佛蘭西に於てツールーズ・ロートレク、英國に於てオーブレイ・ベアズレー、白耳義に於てフェリシヤン・ロップ。ヂエームス・アंकナル。等である。

サターン (Saturn)

羅馬に入りて農耕及文化の神と崇めらる、希臘にてはクロノス (Kronos or Cronos) と云ふ。「時」

の義である。

「土星」を呼ぶに此稱を用ふ。

サチルス (Satyr)

半人半羊の神で頭に角がある、概ねバツカスに隨ふ。希臘にて果實成熟すれば先づ此神に捧ぐるを例とする。

薩摩琵琶

荒神琵琶より發達したもので、鹿兒島地方より流行した。材を勇壯な軍談物語に取る。島津藩にては之れを弾じて士氣を鼓舞したといふ。城山、形見櫻、本能寺、等は其の有名なるものである。正派、錦心流、錦光流、篁流、岳城流、等の流派がある。

サディズム (Sadism)

マズツヒズムの反對に、異性に苦痛を與へて性的満足を得るといふ、病的性慾である。拾八世紀の佛人ドウ・サッドの作品に此が多く描寫さ

サチル—サフォ

れてあるところから「サディズム」といふ名稱が生じたものである。

里神樂

民間の諸神社にて行はるる俗曲。假面を冠り無言にて、神武天皇一代記、天孫の降臨、八雲神詠、等の神代物語のみを演ずる。囃子は太鼓、メ太鼓、笛等を使用する。

サニズム (Satanism)

露國の作家アルツバセフの小説「サニン」の主人公サニンより來る。肉慾讚美主義的思想で其前には社會も道徳も國家も認めず、吾等の生活の全意義を自由戀愛に生き、その情慾を飽滿せしめるところに認めるといふ。此を主張する人をサニストと云ふ。

サフォイズム (Saphroism)

希臘の歌女サフォーから生じた言葉で、婦人同性間の變態性慾の一種を云ふ。

サブタ—サロメ

字幕 (Sub-title) (映畫劇)

映畫面の各景の最初、或は諸所に挿入してある説明的文字を云ふ。

三味線

俗曲に用ふる樂器である。泉州堺の琵琶法師中小路、蛇皮線を改作せしに始まり、寛永年間柳川八橋が大成した。長さ三尺餘、胴に猫の皮を張る。細棹、中棹、太棹の別がある、普通長唄小唄の類は細棹を用る、淨瑠璃には太棹を用ふ。

サモス派 (Gamosian School of Sculpture)

古代希臘サモス島に於て起た彫刻家の一派である。最初に起たのはクロスで、其子孫は彫刻に従事した。特にテオドールは初期大家の一人として著名である。此派に由て石の彫刻始めらる。

小夜曲 (Serenade) (音)

夕暮に於ける戸外の意。黄昏の頃戸外に演奏する音樂。

サラセン建築 (Saracenic Architecture)

サラセン獨特の建築様式に、ビザンチン様式の感化を受けて成た、寺院を中心とする建築である。其特徴は穹窿天井と、馬蹄形のアーチと、特殊な建築裝飾である。裝飾は全面に施され、植物模様、幾何學的模様より成る。此は此民族の征服したアジア、エジプト、スペイン一帯に擴がつた。

猿樂

歌舞音樂を備へて演ずる一種の伎で、散樂より轉じたもの。神代の猿女(さるめ)の故事に起ると云ひ、或は戲樂(げがく)の轉化ならんと云ふ者もある。觀世、今春、金剛、寶生を猿樂の四座と云ふ。能樂の鼻祖である。

サロメ (Salome)

英國のオスカ・ワイルドの作で、有名な戯曲である。新約聖書マタイ傳拾四章一—十四、の

物語を、フローベルが小説に改作し、ワイルド

が脚色したものである。原文はフランス語である。自己の過去に於ける悪虐の幻影におびえつつあるヘロド王、豫言者ヨカナンを殺した淫婦、病的性感者王妃サロメ達の、醜惡怪奇な場面を描寫した劇である。此臺本は各國語に譯せられ、世界的に流行したものである。

觸手ある都會 (Les Villes Tentaculaires) (佛)

白耳義の詩人エルハアレンの詩集「觸手ある都會」から出た言である。近代工業都市が膨脹して、漸次田園の清境を穢し、鐵道や工場等が、切りに美しい山野を喰ひ込んで、荒して行くを云ふ。詩の一節に

田園はうらさびて 疲れ果てたり

野守る者なし。

田園はうらさびて 疲れ果てたり

都會これを喰ふ。

サワリ—サンタ

三一致 (Three Unity)

劇に用ふる言。劇は「時」「處」「動作」の三つが一致してゐなくてはならぬといふ、劇の形式である。希臘時代の古典劇にあつては金科玉條として守られたが、其後沙翁の出現に由て悉く破られ、拾九世紀ローマンチズムの勝利と共に此形式は無視された。然し近代のイブセン劇になると、再び三一致が用ゐられてゐる。

三色版

三の異なる版を作り、之を黄、赤、青のインキで重ねて刷り、原畫と同様の色彩を出す印刷術である。此は米國のフレデリック・アイヴスが總ての天然物の色彩は三原色の調合によつて現れる、といふ原理に基いて、一八八〇年發明した方法である。

サンタクロース (Santa Clause)

クリスマス・イヴに、北國から雪の中を橇に乗

サンダー—サンブ

て来て、兒童の睡てゐる間に、種々な贈物をし
て行くといふ、傳説の老爺である。聖ニコラス
の博愛、慈善の行爲に基因してゐると云はれる。
三段論法 (Syllogism)

形式論理に用ふる言。推理の形式が次の様に三
段になるものを云ふ。

動物は生物なり……………大前提
犬は動物なり……………小前提
故に犬は生物なり……………断案
之を三段推理とも云ふ。

サンチカリズム (Synicalism)

集産主義の反動として佛蘭西に起た一社會主義
である。労働者の團結即ち大労働組合により、
労働者の支配する經濟組織を造らんとし議會又
は國家の力によらず、總同盟罷業の如き、所謂
直接行動に依り目的を達せんとす。政治的國家
を否定し、唯一の政治形式は、労働者をして産

業管理に任せしめんとするにある。
三人稱 (Third person)

文法上の言で「彼」「其れ」を云ふ。小説を書く
時に「彼は」…………と云ふ風に、作者は傍に立ち、
作中の人物と離れ——即ち第三者として——客
觀的に取扱ふことを、三人稱の描寫と云ふ。復
雜した事件や、多くの人物は此方法が最もよく
又長編ものは大底三人稱で描かれる。

サン・ピエトロ寺 (Massica de S. Pietro) (伊)

羅馬のヴァチカン大寺院にある大伽藍である。
伊太利文藝復興期ブラマンテが始めて設計をし
前後二世紀に亘て完成した建物である。有名な
ミケランジェロは、其主なる建築家であつた。

散文劇 (Prose Drama)

世界第一の大伽藍として名高い。
古典劇、浪漫劇が、韻文にて臺詞を綴れるに對
して、散文にて綴れる劇を云ふ。拾九世紀後イ

ブセン。ハウプトマン等の自然派の戯曲に始ま
つたものである。

散文詩 (Prose Poem)

普通詩は韻文の形式をとるが、之れは散文体の
詩を云ふ。佛國惡魔派のボドレイルが始め、
シユールフォルグが踏襲して作た。露國のツル
ゲネーフも散文詩をよく書いた。

サイコロジイ (Psychology)

心理學。

サイレンス (Silence)

沈黙。靜肅。

サイン (Sign)

記號。署名捺印。

サーヴァイヴァル・オブ・ザ・ファイittest (Survival of the fittest)

適者生存。

サーヴァント (Servant)

サンブ—サチス

下僕。下男。召使。

サヴェージ (Savage)

野蠻なる。慘忍なる。野蠻心。

サウス (South)

南。サウサアナは南國人。

サークル (Circle)

圓。圈。仲間。黨派やグループ等を意味す。

サジェスト (Suggest)

暗示する。

サタイアー (Satire)

諷刺。皮肉。

サタン (Satan)

惡魔。惡鬼。

サタニズム (Satanism)

惡魔派を見よ。

サチスファイ (Satisfy)

満足せしむ。

サツバー—サンド

- サツバー (Supper) 晚餐。
- サポート (Support) 保持する。供給する。
- サボース (Suppose) 想像する。
- サツファイアー (Sapphire) 青玉、藍寶石。
- サイエンス (Science) 科學。
- サーフェース (Surface) 表面。
- サブスタンス (Substance) 本體。實體。
- サブジェクト (Subject) 主題。主觀。
- サープライズ (Surprise)

驚愕。

- サムシング (Something) 或物。何物。
- サラバンド (Saraband) スペイン風の三拍子舞踊。
- ザー (Zar) 露國皇帝。
- サツフレンジ (Suffrage) 参政權。
- サルヴェーション・アーミー (Salvation Army) 救世軍。組織を軍隊式にした、基督教教派の一である。
- サンドウィッチ (Sandwich) バンの間に冷肉其他のものを入れた食物。
- サンドウィッチ・マン (Sandwich Man) 眞中が肉、両面がバンのやうに胸と背とに廣告をブラ下けて、往來を行く人。

サンマー (Summer)

夏。サンマーハウスは四阿^{アツキヤ}、夏別荘。

サラリー (Salary)

俸給。月給。給料。

サロン (Salon)

客間、又は美術の展覽場等を云ふ。佛國にて例年開かるる、帝展の如きものを斯く云ふ。

サイアノタイプ (Cyanotype)

靑酸印畫法。一八四二年サー・ジョン・ホーセルの發明に由る印畫法である。機械師、建築家等の、製圖を複製するに使用されてゐる。

サウエジオパシー (Savagepathy)

半獸主義。(同項参照)

サンティマンタル (Sentimentale) (佛)

英語のセンチメンタルと同じ。感傷的。主情的

サアン (Sun)

太陽。日。サアンバスは日光浴。

サンマ—シノキ

サンスクリット (Sanskrit)

梵語。

シ

詩 (Poetry)

詩とは主として人の感情及情緒等を、律語に托して表現したものである。此には叙事詩、抒情詩、劇詩等の別があり、日本には和歌、俳句、新体詩等、支那には漢詩等がある。

詩の起原 (Origin of Poetry)

詩歌と稱する藝術は、文學のあらゆる種類の中で最も古い起原を有してゐる。何れの國でも太初の文學的産物は詩歌である。音樂、舞踊等と

同じく詩も又感情自然の發露によるものであるから、感情が高潮に達した時に、溢れ出て音楽となり、舞踊となり、詩ともなるのである。自然に對し又は人間相互の接觸に由て、様々な感情や空想を逞しくした古代民の感嘆の聲、空想の發現、此が即ち詩の始めである。然し實際生活に於て、發する凡ての感激の聲が、直ちに詩歌とはなり得ない。詩歌に於ける感情は、實際上の目的なき感情、實際上の欲求とならざる、又行爲として表れざる感情、即ち自ら擴充した感情である。

此を美的感情、或は美感と名けてもよい。斯うした感情を以て、様々な自然現象、又神話を構成して物語詩を産出した。神、勇士、等を讚美する詩、又は軍歌等感ずるに任せて歌つた。詩の起原は文字よりも古い、最初は口より口に歌ひ傳つたものである。それが次第に技巧的な

り、文字の發明を得て獨立した一境地を開いて來た。猶劇詩の起原をたづぬれば、一は詩が美的感情の發現たる音楽、舞踊に伴て發展して來た事、二は物語詩即ち叙事詩のあつた事である。この二個の流が合して劇詩を成すに至たものである。

詩の形式 (Forms of Poetry)

詩の形式の中心は律格である。律格とは語音を音樂的に利用する事である。律格の種類は國語の差異に由て異なるが、大体は一、音度若しくは音長、即ち音律性に基けるもので平仄法。二、音位、即ち音位律に基ける押韻法。三、音數、即ち音數律に基ける造句法である。其他劇詩にては、對話体を用ひ又劇的要素が加味されてあるを常とする。

詩の分類 (Classification of Poetry)

一、歌ふ詩即ち聲樂のついた詩、これは其起原

最も古く、童謡とか民謡とか創りである。此には日本の俗曲、支那の樂府、西洋のシング・ソング (Sing-Song) オード (Ode) エレジー (Elegy) バラッド (Ballad) 基督教讚美歌、佛教和讚詠歌、等音樂又は聲樂の附随したもの凡てである。

二、動作、若しくは音樂舞踊の附随した詩。劇詩、オペラ、日本の狂言。能樂、淨瑠璃、等を總括して云ふ。

三、何等の附随的要素のない獨立の詩。普通いふ所の詩は之れを指し、又詩の中心となる處のものである。此を内容より分類すれば、主觀を主とする抒情詩 (Lyric)、客觀的事象を主とする叙事詩 (Epic)、主觀客觀共に取入れた劇詩、の三種にすることが出来る。これが最も普通の詩の分類で、此他形式上の性質から、西洋の短詩 (Epicran)、拾四行詩 (Sonnet)、支那の七言絶句、五言絶句、五言古詩、七言古詩、七言律詩、日

シアト—ジイウ

本の和歌、長歌、俳句、今様、等の種類に別ける。作者の主義又は作風から、古典派の詩、浪漫派の詩、象徴派の詩、神秘派の詩等の區別も立てられる。

シアトリカル (Theatrical)

芝居的の意。繪畫、彫刻等に表はれた人物の態度が、不自然で誇張的な場合に、此作品は姿勢がシアトリカルだ、と云ふが如きである。

自由射手 (Der Freischütz) (獨)

ウエーベルの最大傑作たる歌劇で、惡魔に力を借りる自由射手の傳説に材を取り、民謡を基として作つた、獨逸國民的歌劇である。

自由藝術 (Free Art)

實用に束縛されぬ藝術、即ち繪畫、彫刻、文學、音樂、演劇、建築等之れに屬す。此は又純正美術とも云ふ。

自由劇場 (Free Theatre)

佛國アントアンの創始による、娛樂本位の劇を捨て、現實の生活、社會問題を眞面目に、忠實に寫して、人生を觀照せんとする、劇場の謂である。「自由」は從來の演劇的習慣より脱して、自由人生の眞を表現せんとする意である。

自由詩 (Verse libre)

從來の詩の形式——七七。七五調、音律——を打破し、自由な調子で生命力を溢るゝまゝに歌ふ。形式に囚はれてゐない。一名無定形詩とも云ふ。本邦にては「スバル」一派「自由詩社」等の運動に由て始められた。

修辭學 (Rhetoric)

レトリックの譯で美辭學とも云ふ。言語文章の美を研究するものである。島村氏は美辭學に就て次のやうな定義を下した。「美辭學とは辭の美なる所以を研究する學也、辭とは思想に言語を装着せるものなり。辭の美なる所以とは修辭的

ナよりその名が出た。斯派は感情的で、雅醇な所が特色である。

シオター (Tota) (西)

北イスパニヤ地方の國民的舞蹈。稍急速な三拍子の二人踊るダンスで、ウアルツに類似したものであるが、それよりも不規則である。カスターネット及マンドリンの伴奏と共に踊りその間に歌唱する。

自我實現說 (Self-Realization)

國家主義とか其他從來の傳統に支配されず、凡てから解放されて、出来る限り自己を自由に發達させゆく事を、人生の目的とする學說である。自己可能性を飽迄發展せんとするのである。英のグリム、獨のバウルゼン等によつて唱へられ我國にては大西操氏等斯說を唱へた。

時間藝術 (Teikunstu) (獨)

時間を要する藝術で、音樂及詩文の如きを云ふ。

シオター——シキサ

現象に依りて、情を刺戟するの謂なり。學とは科學的に之れが理法を推論するの謂也」と。

シイバン・アチツク畫派 (Theban-Akto School of painting)

ギリシヤ畫派の一種、紀元前三世紀の頃ニコマカスに始められたものである。著名な畫家として、悲壯の光景をよく描いたアクスタイデス、神話を描いたユーフラノール、婦人の肖像を描いたニイカイヤス等があつた。

獸的自然主義 (Bestial Naturalism)

ホイットマンが初期に於て、ゾライズムを奉じ、ゾラよりも更に精細に又大膽に、人間の獸的生活を描いた處かう、此の名を彼は得たのである。

シエナ畫派 (Sienese School of Painting)

拾四世紀伊太利に於て、ピサンチンの舊風から脱れやうとした繪畫の一派である。キドオシエ

色彩 (Color Note)

音符の色は有量音符に用ゐらるるものであつて赤色及白色音符は十四世紀に行はれ、黒色音符は十五世紀に盛んに用ゐられた。元來赤色は時間を指示して、時量の變化を示すために用ゐられたのが、後には變じて不完全時を指示するものとなつた。十四世紀に於ける白色音符、十五六世紀の黒色音符も同じく不完全時を指示するものとされた。此色彩音符は十七世紀初期に於て全然廢棄された。

色彩の樂人 (Colour Musician)

ホイストラの風景畫は其色彩を以て、音樂の感じを表現しようとしたものである。批評家は彼を「色彩の樂人」と云ふ。即ち「目で見る音樂」を現はさんとするものである。

色彩聽覺 (Audition colour)

色と音との感覺の交錯する事を、心理學で色彩

聴覺と云ふ。日本で俗に云ふ「黄色い聲」などの如きは、此類であらふ。戦争の慘劇を描いた「赤い笑ひ」なども此類である。デガダン藝術で特に之が著しくなり、「藝術の變換」となり、味覺も、視覺も、聴覺も、錯綜してしまふ。ノルダウは大脳障害に起因すると云ふが、兎に角非常に鋭敏な感受性を有する者でなくば、見られぬ現象である。

シキョーニアン畫派 (Sikyorian School of Painting)

ギリシヤ畫派の一で、イユーボンボスに始められ、其弟子バンフィロスに由て大成されたものである。嚴正を旨とする院畫風の畫法が此派の特色である。

シクロプス (Cecrops)

婚姻の法を定め、人身犠牲を禁じ、清き信仰を教ふ。(希臘神話)

自己告白劇

イツヒ・ドラマ (Ich-Drama) の項を見よ。

自己表現本能 (Self-exhibiting impulse)

藝術の起原に關する一説で、人間は自己を表現しやうとする本能を有して居る、其處に藝術の起原があると説くものである。

シーシユース (Theeues)

希臘人の理想的英雄なり。偉業ハアキュリーズに類せるを以て「アツチカのハアキュリーズ」と稱せらる。(希臘神話)

シシリアナ (Siciliana)

シシリア島の農民舞踊、其曲は緩徐なり18或は12拍子である。

シースケープ (Seascape)

海景。海又は海濱の現象を表現した繪畫。

自然主義 (Naturalism)

拾九世紀の中頃自然科学の勃興と共に、科學的精神が盛んになり、その萬能が主張され、一切

自然に歸れ

拾八世紀佛國に於ける革命思想家、ジャヌ・ジャック・ルツソオの叫んだ言葉である。文明社會は人類を墮落せしめた。然し原始の自由と平等、親愛の思想に立ち返りて幸福を得よ。純眞な人間の自然に歸れ。愛兒のためには乳母を捨て、都會を去りて田舎に歸れ、自然の中に愛育を怠るな。エミールにも此を高調してある。

自然人と倫理人 (Natural man, Ethical man)

ハクスレー曰く「人間は一方に於て自然人として、他方に於ては倫理人として生活してゐる」。即ち人間は一方に本能的な、動物的な性情を有するが、一面高尚な倫理的慾望を有してゐるとの謂で、換言すれば靈と肉との問題である。近代人の悩みの多くは、此の一致し難い、反對の性情の不調和より來るものである。

自然の無關心 (Indifferentness of Nature)

の解決が科學にあるかの如く考へられ、物質主義の全盛時代であつた。ロマンチック色彩を帯びた理想的、空想的、主觀的、精神的の考へは破られ、この精神に感化せられた哲學文藝が起つて來た。これが自然主義なのである。廣義には哲學及倫理學にも用ひられ、前者は唯物論、實證論として、後者はミル等の説いた功利的道徳論や、ニイチエの本能主義として表はれた。又、「自然にかへれ」と叫んだルツソオの説も自然主義と云ひ得る、然し文藝上の運動として明かに唱へ出されたのは、エミール・ゾラによつてである。此は前記科學的態度を、文藝に取入れたものであつて、一言に云へば、人間と其事象を純科學者の態度で觀察解剖し、現實の真相を有のままに描かんとするのである。拾九世紀後半は思想界、文藝界を風靡した。これをゾライズムとも云ふ。

自然主義文明の盛んなりし頃、純客観的立場から、現實の眞その儘を、恰も科學者の様な態度で描かんとした時に、用ゐられた言である。即ち作家が或事象を描寫する時に、自然が事物に對して、無頓着無關心である如く、作家も又自然と同じ様な態度で、事象に向はねばならぬといふ意である。

自然美 (Beauty of nature)

自然美とは日月星辰、山岳河海、花鳥風月等に表はるる美しさである。即ち凡ゆる自然現象に於ける具體的な美である。一、風景美、山野森林、又川や空の連続交錯に由て現はるる美で、繪畫の材料となるに尤も多きものである。二、動物美、動物に表はるるもの。三、植物美、植物に由て表はるるもの。等に分類することが出来る。

時代錯誤 (Anachronism)

アナクロニズムを見よ。

時代思潮 (Current thought)

各時代に於ける一般の思想、即ち其時代の共通となり、主潮となる思想を云ふ。如何なる時にあつても、其時代的特徴があつて、當時の文明文化を彩るものである。例へば十九世紀前半の時代思潮は浪漫主義、其後半は自然主義であるが如きものである。

時代物

日本劇に用ふる名稱で、古代の事蹟を演ずる劇をいふ。

室内樂 (Chamber music)

ヴァイオリンを二つ(第一ヴァイオリン。第二ヴァイオリン)ヴァイオラ一つ、セロ一つより成る絃樂四重奏 (String quartet)。或はピアノ、ヴァイオリン、セロの三つより成るピアノ三重奏。又はピアノ四重奏。その他管樂器を入れた五重

奏、六重奏等を總稱して云ふ。

實驗美學 (Experimental aesthetics)

美的事實個々の實驗的研究に由り、総合的に進んで原理に達せんとする美學である。

實驗小説

佛蘭西のエミール・ゾラ等に由て始め唱へられた小説で、科學者が種々なる實驗をする如く、人生も實驗に由て觀察解剖し、その結果そのままを報告する小説を云ふ。即ち空想、想像を全く廢し、純客観的の立場から現實そのままを、精細に描寫するのである。

實在 (Reality)

此言は種々な意味に用ゐられるが、一般にいふ所の實在とは、我等の主観以外に客観的事實として存在するものを云ふ。換言すれば、我等の主観的觀念とか想像とかに對し、其の觀念、思想に對應する客観的事實を指して實在といふ

ジツケ—シツラ

哲學上の實在とは、常住不變の生滅變化なき實體、亦轉變する現象界の上にある事物の不變、眞隨、即ち宇宙の本体を云ふ。

實用主義 (Pragmatism)

哲學上殊に倫理學上の一説である。ベルグソンの哲學と共に、最もよく近代思想を代表するものと云ふ事が出来る。米國にて拾九世紀末ジェームスに由て主唱された。眞理とは不變絶對のものでも、既成的、靜的性質のものでもない。吾人の人生をより立派に、高くする爲の手段として、實際に役立つものが眞理である。即ち眞理は人生を、益するか否かの實用問題に由て決せられる。故に眞理は時代により、人によりて異なり發達もする、動的のものであると云ふ説である。

失樂園 (Paradise Lost)

パラダイス・ロストの譯。ジョン・ミルトンの

最大傑作である。此は拾二巻より成る叙事詩で、題を舊約聖書の、アダムとイブが禁断の樹の實を食つて樂園を放逐さるといふ事件を取り、共に種々なる人物や事件を配色して物語としたものである。

詩と散文 (Poem and Prose)

詩と散文とは兩者錯雜して、嚴格に區分する事困難である。然し概念的に區別を説明すると、其形式及内容に由る。即ち形式に於て、詩の中心を成すものは言語の律格的結合であるが、散文は其形式が如何なるとも、其根本は論理に支配されてゐる。又内容に於ては各の特色を、主觀的客觀的に大別し得る。詩は自己主觀による感情の發現、又は詠嘆であるが、散文は客觀的の事物を主とし主智的である、これは智識の表現なるが故、論理的、説明的、描寫的である。

使徒 (Apostle)

基督の使徒は拾二人あつた。普通それを云ふのである。基督教藝術の中に、多くの題材として用ゐられる。其人名は、ペテロ。アンデレ。ヤコブ。ヨハネ。ピリポ。バルトロマイ。トマス。マタイ。ヤコブ。タツガイ。シモン。ユダ。である。

シート・ミュウジック (Sheet music)

一曲を一枚か二枚の紙に、別々に印刷した樂譜、流行曲等を云ふ。

支那劇

支那では「聽戲」と云ふ。即ち觀るといふよりは、謠ふのを聴く芝居である。その起原は元時代の元曲から來たもので、日本の能と甚だ類似し、舞臺も能舞臺に等しく青天井の下に建てられた、方形舞臺で見物人、即ち聽戲人は、舞臺前の土間と周囲の廻廊に居る。能舞臺と聊か相違せる點は橋掛りがない。

現今營業としては、それを大建築の中に收めて

る。其仕組は唱と臺詞の二種があつて、謠は地謠がなく、オペラに酷似して潑刺とした快味のあるものである。音樂には胡琴(胡弓に似たもの)月琴、絃子(三味線の如きもの)夾板(拍子木の如きもの)單皮鼓(カチノ)と云ふ小さい太鼓)堂鼓(太鼓)鉦、笛、笙等である。扮装は女形は厚化粧、男役では若役は普通の化粧、壯年、老年の役は鬚をつける、その鬚は針金に毛を並べたものを耳からかけて、鼻の下、上唇の上で留めてゐる。敵役は隈取り、道化役は眉の間から鼻の上部に白粉を塗る。

尙支那劇の特徴としては、約束的の眞似が舞臺上で屢々行はれる。例へば馬に乗る場合には、唯鞭を上げるのみで其意味を説明し、亦體形の棒に布をつけて、それを兩手に執つて船中の心地を表はし、黒い紗の布を被ると幽明界をへだ

シナケ シノシ

てた人と對話してゐるが如きである。

支那建築 (Chinese Architecture)

東洋建築の重なる一で、材料は木及磚造を用ゐる、様式は木造櫺式が主で、其他拱式磚造が用ゐられる。裝飾は濃厚な色彩を喜び、木材及瓦に極彩色を施す。建物の形状は直角形か多角形で、圓形は極めて稀である。普通支那建築の時期を左の四期に別つのである。

- 一、漢人固有の建築時代(太古—六八)
- 二、佛教建築勃興時代(六八—六一八)
- 三、佛教建築全盛時代(六一八—一二六〇)
- 四、喇嘛教輸入時代(一二六〇—現今)

死の勝利 (Triumph of death) (伊)

伊太利の文豪ダマンチオの作品である。ヂオルチオといふ懷疑的な青年と、イボリタといふ女の戀愛生活を題したもので、ヂオルチオは得た戀愛にも満足なく、人生を無意義に感じ遂に女

の手に取て、唾から落ちて死ぬ。
死の舞踏 (The Dance of Death)

ストリンドベルグの代表的な戯曲である。主人
公エドガル大尉と、其妻の間の醜い性的争闘を
描寫したものである。

芝居の幕

寛文年間、江戸の市村座で引いたのが、始めの
幕である。その頃から染模様は種々あつたが、
凡て片幕のみで、舞臺の左右に幕を絞り左右か
ら引いて中央で合せたのは、京阪地方の大芝居
に源を發してゐる。

シバリチズム (Sybaritism)

淫樂主義、淫蕩主義、所謂遊蕩文學は之れであ
る。

シムメトリー (Symmetry)

左右均齊。美學上形式法則の一で、上下左右鈞
合ひのよくとれてゐる事を云ふ。古典主義藝術

で最も重ずるところの法則である。

城廓文明

詩聖タゴールが、西歐文明を批評した言である
「西洋文明は其昔、希臘の城廓から生れたもので
城に立籠て奪ひ取る文明、所有の文明である。
それに反し東洋の文明は、森林の文明、靜かに
自然を休得する文明である」

象形文字 (Hieroglyph)

古代埃及人の用ゐた文字或は、漢字の起源をな
すもので、人の形、動物の形、植物の形等から
取つた、單なる記號より成つてゐる。

象徴 (Symbol)

象徴とは比喩の最も進んだものである。比喩に
は聯想作用に由て成立つ、直喩、暗喩、諷喩の
三階級がある。

直喩、とは例へば「彼女の眼は魔女の眼のやう
だ」の如く、二つのものを比較して「やうだ」

と云ふ様な言葉で結びつける。

暗喩、とは唯「魔女の眼だ」と云つて、譬へら
るるものはその裏に隠して示すもの。

諷喩、とは暗喩の一層組織的になつたものであ
る。

即ち象徴とは、此比喩から一步を進めて、喩へ
るものと、喩へられるものの區別がなくなり、
有機的に混合されたもので、例へば花を以て美
人を、筆を以て言論を、劍を以て武を表はすな
ど、皆象徴である。又無形のもの象を以て現
はす場合、例へば白を以て純潔清淨を、黒を以
て悲哀又は死を表はすなども象徴である。更に
復雜なものになると、ダンテの神曲が中世紀の
基督教思想を表はし、沙翁の「ハムレット」が
懷疑苦悶を表はす等も象徴である。如斯一思想
を象徴するを、高級象徴(参照)と稱す。イブセ
ンの「鴨」など好適例である。又普通の云ひ方

では、表はし難い氣分とか情調とかを、或る象
に借りて表はすものを、高級象徴に對して、氣
分象徴、情緒象徴など云ふ。

象徴主義 (Symbolism)

神秘的な、普通言葉で現はし難い深い意義を、
具体的な象徴に由て現はさんとする、主義、傾
向、及其作風を云ふ。其起源は、象形文字を用
る、又人と動物を寄せて奇異な形で神を象徴し
たエヂプトであつたと云ふ。

象徴主義は先づ宗教に現はれた。宗教は其對照
が精神的、神秘的なもの故、その思想及感情を
表はすに、象徴によらねばならぬ。基督教の洗
禮、聖餐式、又は十字架等は一種の象徴である。
宗教上の象徴主義と並らんで古代よりあるのは
藝術上のそれである。中世紀になつて神秘劇、
宗教劇(各項参照)が起たのも、宗教的思想、感
情を、象徴的に現はしたものに過ぎぬ。其後科

學的精神の勃興とともに、一時この主義は衰へたが、近代に至り再び神秘的、象徴的傾向が起り、此が近代人の官能的、神經的な現象に伴ひ近代文藝特色の一傾向を來した。

象徴主義 (Symbolism) (文學上の)

象徴とは形のない、作者の思想、心地、氣分などを、形を具へてゐる客觀の事象に由て表現する事であるが、此主義は表現に象徴を用ゐることを旨とする主義である。故に客觀的事象の描寫に重きを置かず、専ら情調を象徴化して表はすに努む。即ち情調はこの中心を形づくるもので、情調藝術と云てもよい。

近來は神秘的傾向が著しい、一休神秘世界を表はすには描寫では駄目で、漠とした情調の中に暗示されねばならぬ。故に神秘主義と此主義は相結して、神秘的になるといふ特點を有してゐる。又著しく技巧的な特徴をも有してゐる。此

を詩作上の主張としたのはマラルメ、エルレイヌに始まり代表的な作家として前記二詩人及メーテルリンクなどである。デカダン派は此主義である。(デカダン派参照)

象徴主義 (美術)

繪畫上の象徴主義は、古く埃及の藝術にもあつた。古代基督教藝術は、象徴に由て表現され、ゴシック建築にありては、人物及怪異な動物に由て、美德、惡徳が表はされた。

最近佛國の寫實主義より轉じて、マナーの印象主義が起り、事象の精神を捕へんとした結果、象徴的傾向を帯びて來た。モローやシヤヴァンヌは、正義を權衡に、詩を月桂樹又は七絃琴に、其他人生自然の意義を、象徴に由て表はさんとした。ヘックリンは奇異な畫題に由て、自然人生の神秘を象徴的に暗示した。その傑作「波の戯れ」は自然の絶大なる威力を、「死の鳥」は死

の幽幻なる神秘を象徴してゐる。歐洲に於ける近代の象徴派畫家として、佛國のギュスターヴ・モロー。オシロン・ルドレ。白耳義のフェルナン・クノツフ。フェリシアン・ロツプ。奥國のグスターフ・ワリムト。英國のバーン・ジョンズ。瑞西のベックリン等が有名である。

象徴主義 (音樂)

音樂自身がすでに象徴的のものなるが、近代人の氣分、經驗、思想を表はして、一種の象徴主義的音樂を創始したのは、獨逸のワグネルである。彼は「綜合藝術は、詩歌と音樂を調はした、オペラに由て實現さる」と説き、其オペラに由て、シヨペンハウエルの人生觀を象徴してゐる。

情緒象徴

氣分象徴に同じ。(同項参照)

情緒説 (Emotionalism)

美學上の一説で、英のベイン、獨のキルヒマン

シヤウ

等が説いた。美とは快感な情緒を充實せしめた場合、即ち快感的情緒が充分活動して居る時に生ずる心理作用であるといふのが要旨。獨ではこれを感情美學 (Gefühl ästhetik) と云ふ。

象徴詩 (Symbolic poetry)

之れを略言せば、思想や感情は、詩の根本的な内容でなく、感覺より生じた其瞬間の情調を表現するのが本質である。此を得るために音樂の與へる、神經の刺戟を必要とする。詩とは即ち神經に與ふる言葉の刺戟である、故に詩と音樂とは密接な關係を有し、よし詞句が意味をなさなくとも、官能を刺戟する言の響きさへ、作者の情緒を表現して居れば、其は象徴詩である。と云ふ。故に象徴詩は官能の藝術である。

象徴的藝術 (Symbolic Art)

獨逸のヘーゲルは藝術を別けて次の如くにした

一、象徴的藝術——建築。二、古典的藝術——

彫刻。三、浪漫的藝術——繪畫、音樂、詩。此に由れば象徴的藝術は、外形的方面感覺的方面に勝れた建築の如きものである。

象徴的色彩 (Symbolic Colour)

種々な精神状態の象徴に用られる色彩、例へば赤は熱情、青は沈静、白は純潔を象徴するが如きものである。

情操 (Sentiment)

眞理を尙び、美を愛するが如き感情で、最も複雑なものである。學理上の疑問解決、道德的行爲の遂行、藝術の鑑賞、宗教的信仰に伴ひ起る、複雑な感情等の如きものである。此を知的情操、倫理的情操、美的情操、宗教的情操に別つ事が出来る。

情緒 (Emotion)

感情には單純なものと、複雑なものとある。例へば感覺に伴ふて起る感情は、極めて單純なものである。

ので、美味な食物に接して快感を感じ、汚臭に接して不快を感じる。この單純な感情が、智と結び付いて稍々複雑な感情となる。之を情緒といふ。即ち恐怖、憤怒、悲哀、怨恨、愛情、同情、の如きがそれである。更に複雑な感情が情操となる。(其項参照)

情熱派 (Passionist)

獨のシユミットボン、オイレンベルヒ、等に由て代表される一派である。愛を基調とし、無智と惡を征服して、人類に積極的新らしい力を喚起せんとし、藝術を其の教文に資せんとする態度をとる。その熱情的な作風から此の名を得たのである。

審美小説

伊太利の有名な作家ダマンチオの作品「死の勝利」以下三篇の作品に名付けられた名稱である。各篇中の人物、事件共に少しも連絡關係もない

ものであるが、其作風は濃艶芳烈色彩豊かに、香氣高く咲き亂れた薔薇の花の形容に適はしいものである。

社會の支柱 (The pillar of Society)

イブセンが一八七七年に書いた社會劇で、「青年同盟」と對立して、同じく意味深長な時事問題を取扱た作品である。主人公カルステン・ベルニツクは造船所長で、或海岸都市第一の名望家である。市長に推されて永く「社會の支柱」と仰がれてゐた。然し彼の高い名譽は、罪惡の礎の上に立てられた虚偽であつた。といふのは彼は人妻と不義な關係を持ちながら、其をアメリカに行つた義弟のヨハンに負はせ、その上金庫盜賊の惡名をもかぶせた。又彼の持船が運轉不能であるに拘らず損失を怖れて、正直な船大工アウネを威嚇し出帆せしめやふとすると、そこへヨハンが歸て來て、憶えのない罪を聞いて驚

く。

ベルニツクは復讐を怖れて、彼を自分の廢船に乗せ再びアメリカへ行かせやふとする。その船が航海中に沈没する事を、ベルニツクは知てるのだ。市では其夜、市長の表彰式を開いた。其席上でヨハンは乗船せずに、ベルニツクの愛兒が隠れて其廢船に乗込んだといふ報をうけた。然し愛兒は母の献身的努力で漸く助かつた。茲に於て市長は急に覺醒し、公衆の前に過去の罪惡一切を告白した。久振りに赤裸な身軽さとなり、妻や、ヨハンの姉ローナに向て感謝に溢れ「婦人こそ社會の支柱だ」と云ふ。するとローナが「否、眞實こそ、自由の精神こそ社會の支柱です」と答へる。

社會主義 (Socialism)

各個人の平等を主張し、現今の社會組織を改め、貧富の懸隔を除き、各人同一平等の利益を得ん

シャク——シャジ

とする主義である。

社會連帯主義 (Solidarity Socialism) (佛)

マルクス主義ボルセキズムの如き破壊を手段としない、人類と社會との關係を法律上の債務と辨償の如き關係に見立て、人間は社會に對して何人もその生存上に必要な種々なる債務を負ふてゐるものと見る、而してこれを辨償することとは、人間が相互に協力連帯してその責任を負ふべきで、吾ら人間に争闘を毫も必要としないと説く。

ジャコブソン式建築 (Jacobin Architecture)

拾七世紀頃ルネサンス建築期に、エリサベス式に次で英國に起た様式である。エリサベス式が進歩し、ゴシック式を脱して餘程クラシック趣味が加つてきた當時の建築を云ふ。ハットフィールド・ハウスは代表作である。

シャロンヌ (Chaconne) (佛) (音)

3-4拍子の古風な舞曲である。

寫實主義 (Realism) (文藝上)

理想主義が理想を歌歌せるに反し、現實其儘を寫さんとするの傾向を主とする一派で、文藝上の一運動として起たのは拾九世紀後半、自然主義勃興の時である。浪漫主義は、古典主義の理智的、形式的な無味乾燥なるに反して、感情的で想像の自由を唱へ、客觀的、普遍的に反して、簡性的、主觀的に傾いた。

寫實主義は古典主義と同じく、客觀的であるが、前者が理想的、抽象的なるに對し、之れは飽近現實的な點に於て異なる。又浪漫主義とは、簡性を重する點で一致するが、浪漫派の主觀的、感情的なるに對し、之れは客觀的である。

一の自然に對する態度に於ても、古典派は何等かの修飾改造を加へんとし、浪漫派は自然の美に憧れて、自己を之れに同化せしめやうとする。

然るに寫實派は自然其儘を客觀的に表現せんとする。前者が美を求むるに對して、之れは眞を

求める。故に寫實派は客觀的、理智的、常識的で事實を重じ、觀察と分析を其基礎とする自然主義に相似てゐるが、それよりも稍範圍は廣い

——自然主義は科學的、唯物的を其特色とするが、寫實主義は必ずしも之れを伴はぬ——。代表的な作者として、バルザック。ゴーッセル。

フローベル。ゾラ。モーパッサン等自然主義的作家に多く、フローベルの「ボワリー夫人」は、寫實派の一例である。

寫實主義 (Realism) (美術上)

寫實主義に就て二の意味を考へる事が出来る。

一は理想主義——理想畫など——に反し、實在のものを其儘に表現する事である。歴史畫等を描く場合、以前からの因襲的に定まつた型に肯定せず、其事件、人物、場所等を出來るだけ、

シャジ——シャツ

實際のまゝ描き出さうとする一派である。他の

一は、表現の眞實といふ事を、極度に嚴守し、實際目に見ゆるもののみを、事象の美醜の問題に拘はらず、描かうとする一派である。近代寫實主義は佛國のミレー等に由て始まる。

ジャズバンド (Jazz Band)

アメリカを本場とする景氣のいゝ舞踏音楽で日本のかつほれやすくてこの類に近い感じを持つて居る。しかして普通舞踏場で使はれるバンドの編成は

- サクソフォーン
 - コーネット
 - パンヂョー
 - ピアノ
 - 太鼓類各種
- 各一人宛合計五人

で、これにヴァイオリンが這入つたり、トロンボーンが這入ることもある。

ジャーナリズム

ジャーナリズム (Journalism) 新聞調、雑誌式。文藝上の運動又は傾向が、新聞雑誌に由て動かされる事を、ジャーナリズムの支配と稱す。即ち眞面目な藝術要求からの影響ではなく、新聞雑誌に由て流行を作らるる、低級、不眞面目な文藝を云ふ。

謝肉節劇 (Fastrichspiel) (獨)

拾五世紀頃獨逸に於て、宗教劇に對し世間劇とも云ふべきものが出た。これを謝肉節劇(ファストナハツシユピール)と云ふ。此は宗教劇が寺院で演ぜられたに對し人家で演ぜられた。舊教では復活祭前六週間は、肉食及嗜好物を禁ずるから、その前の一週間に來るだけ慾に耽つたので、謝肉節なる名が出たのである。

車輪舞臺 (The Wagon Stage)

複雑な舞臺装置を幾つかに切つて、車輪の上に載せ、それを澤山押出に繰ぎ合せて統一した様

式である。獨逸のアルベルト・ローゼンベルグ (Rosenberg Palmenwagen) 又ドレスデン王宮劇場の、アドルフ・リンネバッツハは、此の装置に、他の移動舞臺を折衷集成して、非常に良い成績を収めた。

シャーロック・ホルムズ (Adventure of Sherlock Holmes) (英)

英國の有名なる探偵小説家コナン・ドイルの、代表的探偵小説である。

ジャン・クリストフ (Jean Christophe)

佛のロマン・ロオランの有名なる作品である。此はベエトオベン傳、ミケルアンゼロ傳、トルストイ傳の三篇が基調となつて、其主人公クリストフが、彼の所謂新英雄主義(其項参照)の最もよき實行者として表はれて居る。

ジャンル (Genre) (佛)

人事繪。風俗繪。浮世繪。

宗教樂 (Religious Music)

最初は聲樂の發達であつたが、ヘブリウ樂、希臘樂の感化を受けて、紀元二百二三十年頃から禮拜式用讚歌が發達するやうになつた。羅馬教の東西分裂に由て、其用ゐらるる音樂も異なるやうになつた。ゲロリア。マグニフキカット。等が西教の儀典中に採用したる如きである。東教には殆んど樂史がない位であるから、宗教樂の發達は西教に由らねばならぬ。寺院禮典に適用した一切の音樂を簡易唱歌と云つた。其中には前歌、聖詩唱歌、答讚、(續句)等が含まれてあつた。簡易唱歌をグレゴリ唱歌とも云つた。グレゴリ法王の編纂に成るといふ誤認から生じた名である。

宗教樂は中世史に於ける白眉である。

宗教藝術 (Religious Art)

宗教と藝術は最も關係の深いもので、過去に於

て此二つは常に伴つて來た。そして藝術の最も重なる主題は宗教に關するものであつた。斯る宗教を題材としたものを、宗教藝術と云ふ。此を宗教別によつて分けると、基督教藝術。佛教藝術。回教藝術。印度教藝術。道教藝術。儒教藝術等があり、藝術の種類から云へば、宗教畫。宗教建築。宗教彫刻等である。宗教藝術に對して、普通の藝術を俗藝術と云ふ。

主觀 (Subject)

一般客觀と對比して用ゐられる言である。知らるる所のものに對し、知る所のものそれ自身を意味する。例へば或事物に對した時、其事物を意識する自己は主觀で、意識される事物は客觀である。藝術に於ては、制作は其作家にとつて主觀的、又鑑賞も觀者の精神的趣味に關した事である故主觀的であるが、作品なるものは客觀的存在物である。

シユウ——シユク

シユク——シユナ

主観主義 (Subjectivism)

主観に基いた態度主義、又は非物質的唯心的態度を云ふ。

主観的形式説 (Subjective Formalism)

美學の一説で、ヘルバルト。チンメルマン。リップス等の唱へた説である。一言に云へば美の觀念の起の因は客観にあり、その物の調和的關係にあるが、美としての快を感じるのは主観にあるといふ説である。

主観の燃焼

茲に云ふ主観は、心と云ふ程の意で、自己の心が或事に由り、又或る對象物に向て吸收され、全力的に熱中した様を云ふ。

宿命論 (Fatalism)

これは自由意志論と全く相反する説で、人には既に定まつた運命がある、即吾人の境遇、遺傳などに支配されて、人力を以ては如何ともなし

在し受難週間には、いと華々しく行はれるやうになつた。

シユライ・ドラマ (Sohrei-Drama) (獨) (劇)

叫喚劇と譯す、表現派の劇に屬するものである。人が心の内奥から迸る熱情を表示せんとする場合、詞が如何に不完全であつて、卒直に偽りなく云ひ現はされる事が出来ないかを屢々吾人は体験することがある。かゝる拘束的な詞に依頼せず、靈魂の原始語たる「叫び」そのもの完全なる自己表現の方法を見出さうと云ふにある故に此劇にあつては、臺詞は非常に純粹化され、重大な責任を有すると共に音響や身振、或は廻り舞臺の急速な轉換や、象徴的な照明、其他小道具等の總ての調和に因つて、シユライ・ドラマを形成するのである。

シユライ・ドラマの代表的のものとして、アウグスト・シユトラウムの「カ」(Kraffe)「出來事」

シユラ——シユワ

得ないといふ説、定命論、決定論とも云ふ。

受難劇及受難樂 (Passion and Passion-music)

キリストの受難及死を主題とする、宗教的な歌劇と其音楽である。四世紀頃既に在たと云ふが、それは歌唱に由て受難を歌たにすぎない。劇的要素の加つたのは後代で、其は受難週間に於ける、聖書の句を歌唱したに始まる。拾三世頃には、キリストの言、物語の部分、弟子の言葉が、三人の異な歌に唱へられた。其より劇の形式に改革せられたのは、拾六世紀後の事で、オラトリオと共に進歩した。然して屢々パッシオン・オラトリオと云ふ形式が取られた。然し其異なる點は敬虔な、瞑想的な要素と、聖歌、カロール、敬虔なアリア及合唱による主観的な感情にある。其最も有名なるものは、パツハの「聖マタイに由る受難劇」である。此劇の完全な形式が、今猶獨逸のオーベル、アンメルドゥに存

(Geschehen) が有名である。

シユレジャ詩社

拾七世紀の末、獨逸に起つた詩社。オーピッツがその郷國シユレーセンに於て、同志と共に作つた詩社で、まもなく文壇の中心勢力となつた。

シユルミニー・ラセルトウ (Geminio Laerleus) (佛)

ゴンクール兄弟の代表作である。題材を下層社會にとり、一下僕シユルミニーが、肉慾の淵に沈み行く有様を描いた小説である。

シユワーブ派詩人

ウーランド。シユワーブ。ケンネル。メエリケ。ハウフ等拾九世紀に起つた獨逸の一群の詩人を云ふ。此派に一主義、又は主張とかあるにあらず、唯シユワーブの山川の美を愛し、詩材をシユワーブ地方に取りしより此名來りしなり。

シユワーベン詩社

浪漫時代の末期、獨逸に起つた詩人の群で、ウー

ランドを師とし清婉なる抒情詩を後世に残した此詩社に屬する詩人で神秘的なケルネル・シユワーブ。又詩社最大の詩人と評されたメエリケ等を出した。

純イギリス・ルネサンス建築 (Pure English Renaissance architecture)

イギリス・ルネサンス後期の様式で、古典建築がよほど英國趣味に同化されたものである。有名なインゴ、ジョン、クリストフ、アーレン等の建築家を出した時代である。バンクエチング・ハウス。セント・ポール寺院等は此期の代表作である。

純正藝術

自由藝術に同じ。(同項参照)

純文學 (Pure Literature)

純粹の文學で、雜文學、應用文學等に相對した言である。政治論、教育論の如く、何らかの目

的のために手段として作られたのではなく、獨立した目的を有つ文學で、小説、戯曲、詩歌等である。又時としては硬文學に對して軟文學の意にも用ゐられる。

初期基督教繪畫 (Early Christian Painting)

最古の基督教繪畫は、羅馬のカタコーム(参照)に發見される。此等は内部の壁畫で——當時は迫害が強、自由に信仰を表現する事が出来なかつた——蔓草、果實、花等の如きものであつたが、其後魚を以て基督を、鳩を以て平和、其他小羊、舟錨など、その信仰を表白したものである。進んでは羅馬風の人物、希臘神話人物を借りて、聖書の事蹟を描き表はすやうになつた。コンスタンチヌス帝の時より、基督教が國教となつて、モザイクの壁畫が作られたが、九世紀になつて、偶像破壊者アイコノクラスト、參照)の打撃をうけ、伊太利の繪畫は殆んど滅亡

した。ビザンチン繪畫は、力強い宗教的感情の表現をしたが、表現法は極めて幼稚なものであつた。

初期基督教建築 (Early Christian Architecture)

初代教會は迫害されて、カタコームを寺院の代用としてゐたが、四世紀の初めコンスタンチヌス帝により公認されて以來、基督教建築が起り今日にまで到つた。八世紀末までを初期基督教建築と稱し、主として伊太利に於て發達した。其様式は主にローマ式から來たもので、長方形、圓形の二型がある。長方形型をバジリカと稱し、主に此種のもので建てられた。羅馬のサン・ポロ。古サン・ピエトロ等は其である。

序曲 (Overture) (音)

劇音樂即ちオペラ、オラトリオ、バレエ、又は普通演劇の最初に、前奏する曲である。近代のオーヴァチュアは獨逸のクルツクに由て創めら

シヨキ—ジヨシ

れ、劇中に表はれ來る旋律に多少關係あるシンフォニー風の曲であつたが、メンデルゾ、シユウマン、ワグネルに至りて發達し、全劇の梗概を描寫する大曲となつた。

抒情詩 (Epic)

叙情詩が自己の感情を歌ふに反し、これは客觀の事象を主として歌ふ。即ち歴史、傳説、神話等を題としてよく歌はれてゐる。最初はギリシヤ語(Epic)「神の託宣」で、神の託宣は六音歩の韻語を以て授けられた處から(Epic)(エボス)は詩を意味する事になつた。此エピックは詩の形式最古のものである。ホーマーの「イリアド」は此例である。

叙情詩 (Lyric Poetry)

初はギリシヤの樂器、七絃琴(Lyre)に合せて歌ふ詩歌を云たものである。叙事詩や劇詩が、客觀的事件や外の事物を歌ふに反し、叙情詩は自

己の情を抒べる詩である。即ち主観的詩である。オウド(Ode)やソネット(sonnet 拾四行詩)は此一種である。

女性中心説 (Gynaeocentric theory)

米國の社會學者レスクー・ウオードの主唱した學説である。一言に云へば、現在の婦人の状態性狀が、人間本來のもので、現在の男性は變則的状态にある。従て女性の方が、社會各方面の中心とならねばならぬ、と主張するのである。

シラ (Syllin)

頭が六つの狗で、胴より下は蛇体である。伊太利本土とシシリ島との間なるシラ島に棲み大いに舟夫たちに怖れらる。(希臘神話)

白樺派

明治四十三年に創刊された雑誌「白樺」に由て武者小路實篤、有島武郎等を中心として起た、新理想主義を標榜する貴族、富裕なる人々の間

に起た一派である。此時期を劃して文學界の主流は、自然主義からネオローマンチズムに、即ち客観から主観、實観から直覺、物的から心的、無理想から理想、智識から情意へと移つた。

眞 (Reality)

眞は知の理想又は對象である。然し此眞は、自然主義時代には藝術の本領とされて、作家は現實の眞を描いた。其以來眞は藝術の要素とするのが近代の傾向となつた。藝術に於ては飽まで美が主で、眞は副であるべきである。

新アチック派 (Neo-Attic School)

紀元前四世紀の頃、フィヂアス系彫刻の終た頃希臘のアテネに於て起た一派である。スコバスとブラシキテレスの二人は、代表的作家である。此頃は前代の剛健風が失はれて、優美な傾向を有して來た。スコバスの「勝利の女神像」「ニオベの像」は世に知られた作である。ブラシキテ

レスはスコバスを凌ぐ代表的作家で「エルス」の像「アフロテイト・ヴィナス像」「アポロ像」「ヘルメス立像」等は入神の作とされてゐる。

新印象派 (Neo-impressionist)

印象派の原理を理論的に押進めて、點彩派の分割主義を行ふ人の一派である。スウラー。ピサロ。シニヤーク等は其代表的の畫家である。

新維納派 (Young Wien)

塊太利の詩人 Hoffman、ジュタール等の組織するもので、其主張を一言に表はせば、世界は永久的存在ではなく刹那の感覺が、次から次へ連続したものである。其主張する新藝術は、舊文藝の取扱ふやうな思想感情でなく、この刹那の感覺を取扱ふのである、と云ふ。

新英雄主義 (Neo-Heroism)

理想主義的な主張で佛のロマン・ロオランが主唱した。現實の世界は醜い、此世は多く争鬭に

満ちてゐる、吾等は一切のものに打勝たねばならぬ、人生は戦ひである、運命に、虚偽に向て戦ひ、愛と眞理の旗を立て、進むべきである、と唱ふ。ペトオベン等は斯主義の理想的典型だと彼は云ふ。彼の著作ジャンクリストフ、ペトオベン等その代表作である。

神歌

古代希臘の神に捧げる歌で、バイアンと云つた。一の長言と、三の短言との四音節を、四種に配列した、音脚から成立してゐるので、ホメーロスに據ると元來は、アポローや、アルテミスに捧げる感謝の歌であつたが、漸次にアポローに向ふて歌ふ凱旋歌、軍神アヒレスに捧げる軍歌となり、後には事業や宴會を始める祝歌となつた。

神曲 (Divine Comedia)

伊太利ダンテの作で世界的傑作である。此は中世紀の精神、又その思想象徴と稱せられ、當時の

産出した最高の文學である。神曲は、「地獄」「煉獄」「天國」の三部より成り、意を自己の幻影に托して、彼岸の三界を描いたものである。「地獄」「煉獄」を詩人井ルギリウスに導かれ、天國へは若年で他界した戀人、ペアトリチエに導かれ、三界を廻歴したといふ筋を描いてゐる。然して全体を示すところは、罪惡の離脱と天國の獲得と云ふ事にある。

新傾向句

明治の末葉、日本の俳句界に起つた新運動で、今まで俳味とか、俳趣などいふ、あるものに囚れてゐた俳句を自由なものとし、季、切れ字、十七字等の制限をも破り、全く自由に人間自然のあらゆる現象を、思ひのまゝに吟じやうといふ一派である。俳句界の自然主義運動と見る事が出来る。碧梧桐の「輪に坐つてこの砂原のわれらの土筆」「足袋干せる籬の家教員が下宿せり」

等の如し。

シングスピール (Singspiel) (獨)

拾八世紀後期、獨逸のヒレルに由て創められて歌劇界を風靡した、歌劇の形式である。その主義は歌手に單純な、民謡的歌謠を唱はしめて主演者となし、音樂はたゞその伴奏として用ゐられる。

人生派 (Art for Life School)

「人生の爲の藝術」を主張する徒をいふ。

神經描寫

尖つた鋭い神經で少しの刺戟に對しても、ピリ／＼と常に震ひ戦くやうな、神經の漂ひが文字の間に表はれてゐる描寫を云ふ。露西亞の作家の作品には神經描寫の勝れたものが非常に多い。「其の小供の泣聲はいつまでも止まなかつた。頭が其の泣聲に掻き亂されて、いつしか目に見へてゐる自然も其の苦しさうな泣聲と同じ色の

赤色で、彩られて今にでも、火が附いて木も草も燃え始めさうになつて見へて來た。而して、耳にはびり／＼と針線が刺す様に、ます／＼鋭く感じられて自分までが、氣が茫然として來るを覺へました」(未明氏)之など勝れた神經描寫である。

人生の爲の藝術 (Art for life)

「藝術のための藝術」が、藝術はそれ自身が獨立した目的を有すと主張するに對し、藝術は人生に何かなす事があつて、始めて意義のあるものである、即ち藝術は人に從屬すべきものであると説く。自然主義文學は頻りにこれを主張した。

人生の斷片 (Tranches de Vie) (佛)

自然主義文學に用ひられる言。血肉ある人生そのもの、それが惡にまれ醜にまれ、たゞ有の儘に記録する。それが人生の斷片である。

人道主義 (Humanism)

ジンセー—ジント

人文主義とも云ふ。拾五世紀末歐羅巴の文藝復興に伴ひ、希臘、羅馬の古典文藝研究を主として、伊太利のエラスムス等の主唱した運動である。主張は教權の拘束に反對し——當時の基督教が現世の價値を認めず、罪を滅し天國の準備にのみ價値ありとするに對して——飽まで本然たる人間性に立脚し、自由に活動せんとするものである。其主張者をヒユウマニスト (Humanist) と云ふ。

新日本畫

西洋畫の影響を多く受け、從來の日本畫の因襲的畫法、畫風等を破り、束縛されずに自由に描いた日本畫を、從來のものに對比して新日本畫と云ふ。

審美學 (Aesthetics)

美學に同じ。

神祕 (Mystery)

靈的不思議で、吾人の智識にて説明、解釋の不可能な事象を云ふ。不思議とほど同意であるが、普通不思議は智識の不思議に因し、神秘は絶對のもので、人智に理解の出來ぬ事、理論、科學の外に超越した事柄を云ふのである。

神秘主義 (Mysticism)

事象の眞相は現象界の奥に、又理論、認識に超越してあるが故、此に達せんとせば、現實の理論、形式等を超越した深い直観によらねば、絶對に徹し得られないといふ精神的傾向である。ブローチノス、ヤコブ、ペーメ等は其代表的人物である。文學上にては白耳義のメーテルリンクなど、此代表的作家である。又象徴主義の藝術も、神秘主義的傾向を最も大きい特色の一つとしてゐる。

神秘劇 (Mysterias)

拾三世紀頃僧侶の手に由て、主に聖書の記事よ

り題を取て行はれた一種の劇。聲樂器樂共に用ゐられた。其特徴は抽象的思想が擬人化された事である。之は又オラトリオの先驅をなすものであつた。(奇蹟劇の項参照)

審美的藝術觀 (Aesthetic View of Art)

藝術は藝術として獨立した價值を有す、其以上問ふ必要はない、藝術を作り出し、其を享樂する處に、重大なる意味と満足があるとの説である。此に二種ある。一は遊戯的審美觀で、一は藝術的審美觀である。前者はスペンサー、後者はオスカーワイルド等の主唱したものである。

シンフォニー (Symphony)

交響樂。古くはシンフォニアと稱して拾六世紀末に行はれたが、管絃合奏樂に用ゐられたのはハイドンに始まる。モツアルト。ベートーベンに至りて大ひに發達し、殊にベートーベン第九シンフォニーは、其王と云はれてゐる。ソナー

タが一個の樂器に向て作曲されたのに反し、シンフォニーは多くの管絃樂器を合せて演奏する様に作られたもの故、和聲の變化、旋律の多趣等表情の變化に富んでゐる。

シンフォニック・ポエム (Symphonic Poem)

詩風交響樂。近代交響樂が發達して、或物語を音樂のみに由て現はんとする一方法で、一種のプログラムミュージック(標題樂)である。ストラウスは此に就ての有名なる作家である。

シーン・ペンチング (Scene Painting)

書割と譯す。(其の項を見よ)

シンボル (Symbol)

象徴。象徴。(其の項を見よ)

シンボリズム (Symbolism)

象徴主義。(其の項を見よ)

新約聖書 (The New Testament)

基督降臨後に書かれた、基督教聖典の第二部を

シンフーシンラ

成すものである。一世紀の後半教會の使徒等に由て記述されたもので廿七卷より成る。キリスト傳(四福音書)。初代教會歴史(使徒行傳)。使徒の書翰(廿一卷)。預言書(默示録)が其内容である。原本は一二を除く他ギリシャ語である。今日の如く新約聖書として集められ、教會の正經として確定したのは、三九七年カルセーヂの宗教會議に於てである。

新ラファエル前派 (Neo-Prerafaelites)

ラファエル前派の解散した後、ロセツチイを中心としてバーン・ジョンズ。モリス。フューズ。スタンノーブ。クレーン。ウオッツ等が集り、一サークルを造つた。彼等は繪を書くと共に、文學的作品をも發表した。彼等は一様にラファエル前派の、寫實主義の洗禮を受けてゐるが、前者と異た點は殉情的で、浪漫的な空想の世界に没り、詩情或は文學的興味を畫的表現の世界

に導き入れたことである。彼等の中ジョンズ、モリス、クレーンの三人は、工藝美術家として名高い。斯る人々をラファエル前派と別けて、新ラファエル前派と稱ぶ。

心理學的美學 (Psychological Aesthetics)

或藝術が心理學的事實に外ならぬとなし、これを心理學的方法に由て解釋せんとする美學である。一は思辨哲學的美學の反動として、一つは近世科學的心理學の發達と共に、成立した美學であつて、近代美學の主流を成すものである。

新理想主義 (Neo-Idealism)

自然主義が一世を風靡してゐた時代は、社會人生に對して消極的悲觀主義であつたが、最近の思想界は其に満足せず、積極的に人生を肯定し、精神的方面に重きをおき、或理想を認めそれに向て努力し、高く導いて行かうと努めて居る。かうした主義を基とした藝術では、露西亞のト

ルストイや、佛蘭西のロマンロオランなどは、其最たる者である。

心力調和説 (Theory of the Harmony of mental faculty)

吾等の心中、智情意一切の能力が一になつて調和的に作用する處に、美が成立するといふ美學の一説である。

心理描寫 (Psychological description)

人物描寫の際、表情、會話、舉動等に由らずして、直ちに内面に入り、いかに心が動いたか、即ち心理そのものを描くのである。人物の内面描寫と見て差支へない。

森林詩社 (Forest poetry society)

巖興勃起時代(スツルム・ウンド・ドラング)獨逸に起り、自然復歸を叫んだ詩社で、又一名ゲツチンゲン詩社とも稱す。

森林の文明 (Civilization of the forest)

城廓文明の項参照。

新羅馬式 (Neo Roman style)

建築様式の一である。拾八世紀から拾九世紀に續いた、古典主義の建築から、新希臘式と共に別れ出た様式である。巴里のバンテオンは此の好適例である。

シヴィリゼーション (Civilization)

文明。教化。

シエーク・ハンド (Snake-hand)

握手。和睦する。

シガー (Cigar)

葉卷煙草。シガレット(紙卷煙草)

シークレット (Secret)

秘密。

ジグ (Gigue) (佛)

急速な三拍子曲で、3/8又は6/8の舞踊曲。

シグニフィケーション (Signification)

シンロー——シール

意味。重要。

シグナル (Signal)

信號。目標。

シスター (Sister)

姉妹。姉を「エルダー、シスター」妹を「ヤンガー、シスター」

シーズン (Season)

季。期節。時期。時候。

システム (System)

組織。系統。

シチュエーション (Situation)

位置。

シツク (Sick)

病氣。ラブシツクは戀患ひ、シイシツクは船暈。

シティー (City)

都會。都市。

ジーニアス (Genius)

シブシー—シヨツ

天才。特殊の才ある人。

ジブシイ (Gyler)

英國其他で放浪して歩く一民族。常にト占、符賣、鑄掛屋等を業としてゐる。

ジヤイアント (Giant)

巨大漢。巨大な怪物。

ジヤステイイス (Justice)

公正。正道。正義。

ジヤパン (Japan)

日本。ジヤバニース (Japanese) 日本人、又日本語。

シャープ (Sharp)

鋭利な。敏い。

ジャーナリスト (Journalist)

新聞記者。雑誌記者等を云ふ。

ジャーナル (Journal)

雑誌。新聞。

ジャーマン (German)

獨逸の。獨逸語の。獨逸人の。

ジュー (Jew)

猶太人。俗に涙のない強慾非道な人を云ふ。

ジュアン (Juhn) (佛)

六月。英語はジューン June

ジュイエット (Juillet) (佛)

七月。英語はジュライ (July)

スーパーマン (Superman)

超人。獨逸語のユーベルメンシユ。

シユメルツ (Schmerz) (獨)

苦痛。悲痛。憂苦。

ショウ・ウインドウ (Show Window)

陳列窓。商店の商品等を裝飾せる窓。

シヨック (Shock)

打撃。衝動。

シヨップ (Shop)

店。工場。シヨツピングは買物。

ジョン・ブル (John Bull)

英國人のことを云ふ。

シリアス (Serious)

嚴肅な。眞面目な。重大な。

シリーズ (Series)

組。部。叢書。文庫。

シルヴァー (Silver)

銀。銀貨。

シールズ (Ceres)

希臘のデミタア (Demeter)、農田、果樹を護る。

シーン (Scene)

場面。舞臺。風景。情景。特に劇にては、一幕、第一、三場等の如く場面をシーンと云ふ。

シンガー (Singer)

唱歌者。歌心手。

シンセリテイー (Sincerity)

シヨーン—シンプ

眞實。眞面目。眞摯。

シンヂケート (Syndicate)

聯合。企業組合。理事会。

シンパシー (Sympathy)

同情。

シンプリシテイー (Simplicity)

單純。簡單。

シンプル (Simple)

單純なる。簡單なる。質素なる。

シンプル・ライフ (Simple-life)

單純生活。

ス

スアン——スカン

圖案 (Design)

建築、機械類の設計圖、又美術家が種々なる工藝美術の下圖など、皆圖案と稱せらる。建築圖案、陶器圖案、染織圖案、廣告圖案、裝飾圖案等がある。又裝飾圖案の中に、立体圖案、平面圖案等の別がある。

水彩畫 (Water Colour)

邦語にて「みづゑ」とも云ふ。此は近世の發明にかかるもので、拾八世紀頃まではなかつた。繪具を水に溶かして用ふるため、油畫に對比して斯く水彩畫と稱するのである。

スイト (Suite)

舞踊組曲、多く異つた舞踊曲を、巧みに組合せて作られたもの。

推理 (Reasoning)

一定の事實より理論を辿つて、次の事實を思出す事で、論理學上の推理は或斷定より、他の斷定

を推知すること、即ち既知の事實より、未知の事實を推論する事である。定まつた既知の事實を前提と云ひ、未知の事實の推定を斷案と云ふ。例へば「Aも死んだ、Bも死んだ、Cも死んだ」と云ふ事實から、「AもBもCも人である。故に凡ての人は死ぬ」と云ふ事實を見出すが如きを推理と云ふ。此に歸納と演繹の區別がある。

透彫 (Open Work)

木をくり抜いて、それを圖案化したものをいふ。此は又金屬にも行はる。日本室の欄間の彫刻は透彫である。又鏝、金燈籠等にも透彫を行ふ。西洋にてはゴシック建築によくある欄干などは其例である。

スカンチナヴィアの繪畫 (Scandinavian Painting)

スカンチナヴィア、即ち諾威、瑞典の繪畫の勃興したのは最近の事である。歐洲の各國から感化されて、拾九世紀頃から著名の畫家が出た。

諾威には世態畫家として有名なクリスチャン・クログ。又北國の雪景色をよく描いた風景畫家フリツ・タウローがある。其後エドワード・ムング出で、立派な作品を描いた。瑞典には驚くべき筆技を有せる寫實主義の畫家アンデルス・ツオルン。オスカー・ビョルク等の有名な人があつた。其他一特色ある畫家としてはグスタフ・フェスタがある。彼は北國の雪景色を裝飾の目的に利用した特色ある畫家である。

スカンチナヴィアの劇 (Scandinavian Drama)

スカンチナヴィア半島の劇は、其起原を外國に有するものである。最初の劇作家は、一學校教師ハンセンと云ふ人である。拾八世紀には全く創意あり又、純粹な國民的喜劇詩人であるホルベルグが出た。彼は近世文學に於て、最も著名な滑稽詩人の一人で、此國の劇壇に一時期を劃した。拾九世紀浪漫派の影響は、此國の如

く永續した所はない。此下にあつてエーレンシユレーゲルは、丁抹文學に時期を作つた。ところが近代のローマンチズムに對する反動は著しく表はれ、殊に劇に其効果を現はすに至つた。其はイブセン。ビョルンソンの二大劇詩人に由て、代表される。拾九世紀後半より最近にかけて、イブセンに由て此國の劇文學が、全歐の覇者となつた時代である。彼に次での文豪はビョルンソンで、ブランドスは前者が歐羅巴的時代精神を代表するに對し、後者は諾威の國民精神を發揮すると云つてゐる。イブセンの影響は極めて廣く、最近の劇作家で彼の影響を受けないものはなく、歐洲最近の社會悲劇は、殆んどイブセン式と云ふべき程である。猶前記の作家に並んで瑞典の沙翁といはれるストリンドベルヒが出て近代の懷疑を中心とした劇を作り、大陸、殊に獨逸に大きな影響を及ぼした。

スカン

スケール——スタイ

スケール (Scale) (音)

音階 七個の高さの異なる音から作られ、八ツ目の音は最初の起点の音と同質の音に還える様に造られた音の列をスケールと云ふ。長音階、半音階、短音階の三種が普通に用ひらる。

スケッチ (Sketch)

写生。自然から受くる畫的印象を、そのまま細末に拘泥せず簡潔に、單時間に描寫するものを云ふ。普通の繪畫は最初この形式を基礎として仕上げられるのである。彫刻に用ゐられるスケッチは、丸彫、浮彫を問はず、人物、動物、物象等その彫刻せんとするものを、大体の姿と線とにて暗示し得る程度の粗作をいふ。彫刻家はスケッチから、別に異つた塑像を始めて仕上げることが時としてはスケッチより完成する事もあ

スクエアー・ダンス (Square Dance)

舞踏の一種。ラウンドダンスに對し、通常八人一組となつて、方形を造るダンスをいふ。カドリール。カレドニアン。ランサーズ。コロチン等は之に屬す。

スケルツォ (Scherzo)

諧謔曲。軽い諧謔的な性質を有する獨奏曲を云ふ。又快活で急な、強いコントラストのある曲をも云ふ。

スコラチズム (Scholasticism)

煩瑣哲學。歐洲にて中世紀即ち、九世紀より拾五世紀の間、學界を支配してゐた哲學の稱で、其は重に基督教の教義を説明するために用ゐられた。文藝復興後ベーコン。デューカルト等が出で近代哲學が其に變つた。

スタイル (Style)

様式。藝術上此の言葉は或る藝術家又は或時代に特有の風格を指す、例へばラファエロのスタ

イル、ゴシック・スタイル、伊太利のスタイル、などと云ふ。長い時代に關して云ふ場合は、同じゴシック・スタイルと云つても各國又短日月で異り、遂には一個の藝術家のスタイルに分れるのである。此言葉は又高尚な風格を備へた作品に關しても用ひらる。即ち高尚なる情操を基調として作られた彫刻又は繪畫を指してスタイルがある云ふ。即ち「偉大なるスタイルの作品」だとか「スタイルのない人物畫」などと云ふ。

スタチュイー (Statue)

肖像。彫像。

スタジオ (Studio)

畫室、工房、佛語のアトリエに相應する。畫家、彫刻家等の制作場である。

スチグマ (Stigma) (聖痕)

宗教熱心者にある神秘的な方法にて、身体の一

スタチ——ステ

部にキリストの傷痕に似たるものを生ずるをいふ。聖フランシスは手に此を受けたと傳ふ。

スチル・ライフ (Still-life)

靜物畫。(參照)

スツールム・ウインド・ドラング (Sturm und Drang)

(獨) (狂風勃起)

一八七〇年頃獨逸に起つた文藝上の浪漫主義運動を云ふ。藝術及人生に於ける舊來の形式、習慣及一切の束縛を打破し、新生活を建てんとする運動である。此時代を「天才時代」とも云ふ。ゲーテ、シルレル、ハイネ等はその中心人物である。

ステインド・グラス (Stained glass)

硝子繪の項參照。

ステージ・ダンス (Stage Dance)

舞臺舞踊。

ステール (Steele)

ストリー—スナト

ステールとは垂直に立てられる一本石の記念碑で、歴史的事件、若しくは故人を記念す可き文字が其上に記される。希臘又は羅馬の藝術中、最も興味ある遺物の一種は、故人の姿を浮彫にしたステールである。近代に至り、此の語は墓碑として用ひられる四角な石、若しくは小像又は瓶のやうな裝飾物を乗せる小さなコロネット等にも漫然適用される様になつた。又埃及墳墓内の擬扉をもステールと云ふ。

ストリング・クワルテット (String quartet)

絃樂四部合奏。第一ヴァイオリン(ソプラノ—高音部)、第二ヴァイオリン(アルト—次音部) ヴァイオラ(テノール—中音部)、セロ(バス—低音部)、に由て成立つもので、室内音楽として効果の最も大きいものである。

ストール (Stall)

基督教寺院内に設けられた、高い寄りかゝりの

ある、木造の腰掛である。之は寺院内で普通コワイヤーの周圍に並べられる。拾三世紀から拾六世紀に至るまで、ストールは普通木造で、美しい彫刻が盛んに裝飾された。英國のカセドラルにあるものには、皆壯麗な彫刻が施されてある。

砂時計 (The hour glass)

愛蘭文學の中心人物ウキリアム・バツラー・イーエーツの象徴劇である。或賢者が感覺の他一切の智識を信用するなと教えた。其後天國に誰も昇る者が無い。或時賢者の前に天使が来て云ふには、「一時間の中に死ぬが、お前は天國を否定したから天國へは行けぬ、又煉獄も否定したから煉獄へも行けぬ」とすると賢者は自分は地獄も否定したといふ。天使は「地獄は否定する者の居る所だ。若しお前が一時間の中に一人でも、目に見へない物を信する人を得たならば天國に

行ける」と告げて、砂時計を壊して行た。賢者は遂に阿呆に救を求めて助けられ、最後に「阿呆よ、學者を助けてやつてくれ」と云て死んだ。

スパイヤ— (Sparre)

西洋建築に於ける、尖たピラミット形の塔で、多くは木造で、其上を亜鉛、銅、瓦などを以て覆ふ。時には石造のスパイヤ—もある。

スパスモチック派 (Spasmotic)

癡癲派を見よ。

スパニッシュ・ルネサンス建築 (Spanish Renaissance architecture)

ルネサンス建築期西班牙に興つた建築様式で、三期に分つ。前期をプラテレスコ式と云ひ、ゴシック、ムーア、アラビア等の様式を交へた不統一建築で、中期はクラシック、ルネサンス式の榮えた最もよき時代、後期はロココ式に感化されて、拙い建築を出した。

スパイ—スベリ

スフィンクス (Sphinx)
古代埃及メンフィス時代に盛んに造られたもので、王、女王、羊などの頭を有し、体軀は獅子の形を成した彫刻の像。大部分は天然岩石で出来てゐる。守護像として殿堂、墳墓の前に置かれた。体軀百八十呎餘のものもある。此像は近代理想派畫家に、神秘の象徴として屢々用ゐられる。

スペクトラム (Spectrum)

三稜鏡を通して見た光線の色帯である。紫、藍、青、緑、黄、橙黄(樺)、赤の七色である。

スペイン・ゴシック建築 (Spanish Gothic architecture)
ゴシック建築時代スペインに用ゐられた一様式である。ブルゴス寺院セヴィユ寺院の如き有名な建物をのこした。

滑り舞臺

廻り舞臺の項参照。

スポー——スケブ

挿入臺詞 (Spoken title) (映畫劇)

映畫劇に於ける役者の臺詞を文字にして映畫の間に挿入するを云ふ。
住吉派

鎌倉時代初期の畫家、住吉慶恩を祖とした一派である。徳川時代廣通、廣澄父子を出した頃が尤も榮えてゐた。住吉慶恩——(中絶)——廣通(如慶)——廣澄(具慶)——廣保——廣守——廣行——廣尙——弘貫——廣賢——廣——

スラブ (Slav)

歐羅巴北部の住民で、ブルガリヤ人、ポーランド人、セルヴィヤ人、ロシア人等が此種に屬する。最もスラブの民族性を代表せるものはロシア人で、感情が激しく、憂鬱、厭世的で、時々全く意外な事件を惹起するやうな性質がある。近代スラブ族は、其國特色の憂鬱深刻な立派な藝術を出して、世界を驚かせた。

スラブ派又はスラブ主義 (Slavism)

ロシアに於て西歐主義に反對し、傳統主義を主張する一派である。其代表的人物はホミヤコフ、アクサーコフ兄弟、キレエースキー兄弟、サマーリン、オストロフスキー等が有名である。此派の主張を其根本信條たる三の範疇に總括する事が出来る。一、王の獨裁權を主張すること。二、宗教として正教會を最も純正なる基督教として熱心に擁護すること。三、露國の國民性を重んじ其完成を期すること、などである。

スウキート (Sweet)

甘い。芳香の。可愛ゆき。スウキート・ハートは戀人。

スキルフル (Skillful)

巧みな。熟練した。

スケプチシズム (Scepticism)

懷疑説。

スコア (Score) (音)

譜表に書いてある樂曲。

スター (Star)

星。明星。星標。花形女優。

スタディー (Study)

書齋。勉強。試作。

スタンザ (Stanza)

詩の節。韻節。

スチジアン (Slygian)

三途の川。

ステージ (Stage)

舞臺。演劇場。上り場。ステージ・マネジャーは舞臺監督。(俗に)

ステート (State)

有様。光景。位置。國家。

ストイシズム (Stoicism)

ストア哲學。克己説。

スコー——スユバ

ストーム (Storm)

暴風雨。大あらし。

ストライキ (Strike)

同盟罷業。同盟休業。

ストラツグル (Struggle)

闘へる。苦しむ。骨折る。

ストラツグル・フォア・エキジステンス (Struggle for existence)

生存競争。

ストーリー (Story)

話。物語。噺。

ストレンジヤー (Stranger)

外國人。見知らぬ人。

スパイ (Spy)

探偵。密偵。間者。

スエバーナチュラリズム (Supernaturalism)

超自然論。

スピリ—セイキ

スピリット (Spirit)

心霊。精神。スピリチュアルは精神上の。心霊的の。形而上の。

スプリング (Spring)

春。泉。バネ。

スペース (Space)

空間。

スペル (Spell)

呪文。綴字。

スレーブ (Slave)

奴隷。ホワイトスレーブは醜業婦。スレーブス。オブ・ファッションは、流行に浮身をやつす人。

セ

生活意志 (Wille zum Leben) (獨)

人の先天的に有する「生きん」とする本能的願望である。即ち唯何となく死を厭ひ、「生きたい生きたい」と云ふ慾望である。之をシヨペンハウエルは非理性的、無意識的、盲目的な生活意志と云つた。

世紀の痼疾 (Fin de siècle disease) (佛)

十九世紀初葉から、人々の心に萌芽した厭世懷疑的の傾向に名づけたもので、近代精神の基調をなすものである。即ち科學の勃興其他の影響に由り、従來の信仰を失ひ、一切を疑ひ人生を厭ひ呪ふ傾向を有してゐる。これは又「世紀病」とも云ふ。

世紀末 (Fin de siècle) (佛)

佛語フアン・ド・シエクルの譯語で、世紀の終り即ち拾九世紀の最後といふ意。その頃に表はれた懷疑、厭世、不安等の時代的特徴を云ふ。

斯世紀に於ける科學萬能の結果、以前あつた信仰、又は理想などを失ひ、非常に懷疑的になり、自然主義の思潮は現實の醜さを大膽に暴露し、その果ては絶望と悲哀との中に沈み、所謂頹廢的傾向を示して、暗澹たる色調を帯びたるを世紀末といふ。

世紀末的恐怖 (Fin de siècle Exotic) (佛)

此に就てマクスノルドウは次の如く記してゐる「現代の心的傾向は奇しくも混亂せり、熱病不安と、疲れたる落膽と、恐怖に充ちたる豫想と、卑怯なる諦めとが錯綜して、復合的心理状態を呈しつゝあり。其處に瀰漫せる共通の感情は、今にも來るべき滅亡の感情なり。世界の滅亡に對する恐怖が人心を襲へるは、之を以て始とするに非ず。紀元一〇〇〇年の近づける時、基督教徒は同様の恐怖を感じたり。然れど其時の基督教徒の恐怖と、現代に於ける世紀末的恐怖と

セイキ—セイゲ

の間には、重要な相違點あることを知らざるべからず」。

清教徒 (Puritan)

基督教新教徒は、英國に於て拾六世紀、エリザベス女王の迫害を受けたため、和蘭にのがれ、又一群はメーフラワー號に乗じて、アメリカに渡航し現米國の基礎を成した。その一團を云ふ。

成型美術 (Plastic art)

彫刻美術にして、自然物を立体的に摸寫して浮彫、又は圓彫等にする美術である。此言は常に繪畫美術から區別した意味で用ゐられる。

靜劇 (Statio theatre)

メーテルリンクの實行し、又用ゐた言葉である従來の劇は舞臺上の「動作」が最大要素であるとせられてゐるが、其動作を取り、情調ばかりで出来たもので、之に由て幽幻、神秘の氣分思想を表はさんとする劇である。故に物質的要素

セイシー—セイネ

の極めて乏しいもので、見る劇ではなく感ずる劇である。静劇には科白を用ゐるものもあるが、其を極端にまでしたものを「默劇」と云つて、何等の科白も用ゐない。

靜止法 (Calonee)

ケーデンスの項参照。

政治劇 (Political Drama)

政治的な劇でシルレルのウイリアム・テル・フイエスコ。イブセンのロスメルスホルム等の一部は此類である。

星畫派

明治三十三四年後、鐵幹氏を中心として雑誌「明星」に集つた詩人一派を云ふ。よく野董を歌つたところから此名が出た。此派の人はハイカラ味が豊かで、よく戀愛を歌つた。

聖書 (Bible)

バイブルを見よ。

青踏派 (Pine stocking)

ブリウ・ストッキングの事で、一八五〇年ロンドンで開かれた、文學者、美術家の會合に、或女流文學者が青色靴下を穿いてゐたため、會員中女流文學者連に綽名して稱んだのが始めてである。我國に於ても女流作家を青踏派と云ひ、青踏社と名ける此派の會合も出来たことがある。

青年同盟 (The League of Youth)

イブセンの散文社會劇である。南ノルウェーの或都市に、貴族と富豪の二黨派が對立して社會上の勢力を争つてゐた。時に平民から出身した此劇の主人公、ステンスゴールドが第三黨を作る。彼は飽まで利己的な現實論者である。彼は富と高き地位とを得んものと、富豪黨の主領に通じて斥けられ、貴族黨の主領に通じて斥けられ、憤慨して民主黨にかへり二黨の攻撃を始めた。世間では、彼は間もなく議員にも大臣にも

なるであらふ。然し其時は「青年同盟」の主領でなくなるだらふ。といふ。自我の道德的墮落を描いた五幕物である。

正反合

ヘーゲルは思想の發展して行く徑路を三段に分けて説明した。一の思想が出ると、又それに反した思想が出て對立する。が後には調和して一の思想になる。斯如く正、反、合の三状態が鎖の如くつながつて、思想は發展して行くものであると云ふ。

靜美 (Static beauty)

靜止状態の美で、山川草木等の自然、詩畫彫刻等之れに屬す。

靜物畫 (Still life)

生物畫に對比して、果實、花卉、瓶、死んだ魚鳥、及他の動かぬ物を題とした繪である。シャルダン。クルーベ。フアンタン。ラツール。マ

セイハ—セウセ

ネー。ルノアル。セザンヌ等は立派な靜物畫の作品を出した。

聖母 (Holy Mother)

基督の母マリヤを云ふ。古くより基督教藝術の主なる題目であつた。繪畫に於ても「聖母昇天」「聖母受胎」等は最もよく見る畫題である。

西洋建築 (Western Architecture)

東洋建築に對比して云ふ言で、希臘建築、羅馬建築、ビザンチン建築、ローマネスク建築、ゴシック建築、ルネサンス建築、及其以來の歐洲建築を含む。

セヴィリアの理髮師 (Barbiere di Siviglia) (伊)

伊太利の歌劇作者ロッシニの手に成る喜歌劇である。アルマヴィヴァ伯は、醫師バルトロとロジナとの戀を競つたが、理髮師フィガロの智慧に由て、勝利となるといふ筋。

小説 (Fiction)

詩の形式でなく自由な形式で書いた文學、所謂散文の文學である。クロイフォードに由ると小説を二種に別ける。ローマンス (Romance) とノヴェル (Novel) である。兩種とも人生叙寫と云ふ點は同一であるが、前者は事件を主とし人物を客とする。後者は人物を主として、事件を客に寫すものであると云ふ。即ち浪漫主義的小説と、自然主義的小説と稱しても差支へないわけだ。

其の他長篇 中篇、短篇(各項参照)の三種に區別する事が出来る。特に短篇小説は英語のショート・ストーリー (Short-Story) と稱せられるもので米國のエドガア・アラン・ポウをもつて祖とせられ近代盛んになつたもので印象の統一及其強烈と云ふ點より重んぜられてきた。

小説の四期 (Four periods of the Novel)
米國のブランダー・マシューズ教授は、小説の

發達を四期に分けて論じてゐる。

一、荒唐無稽な、全く不可能な事件を書いた古代である。二、可能な事件を小説に取扱つた時代。三、實際あり得べき事を描寫するの時代。四、或事情の必然の結果として、必然的に斯く成らねばならぬと云ふ性質のこと、即ち避くべからざる事物を寫す時代。

第一期、第二期は昔伽嘶の時代。第三期は文藝上、所謂浪漫主義の時代。第四期は自然主義の時代に相當すると云ふのである。

少女小説

お伽嘶の如き物語でなく、事實を基とし、少女の眼に映た世態人情を、少女の理解し得る程度で、小説風に描いたものである。それ故主人公は主に少女であり、又少女の周囲の状態を題材とするのが常である。

少年ドイツ派 (Junge Deutschland) (獨)

拾九世紀中葉獨逸に起る。當時自由の精神盛んになり、革命の空氣漲り、この影響を受けて破壊と懷疑を主張する文學的運動の一派をいふ。斯派の人は舊來の理想とか信仰を貶して、本能の解放と戀愛の自由を主張した。ゲッツユー、ムント、ベルネ等斯派の代表的文士である。

小主觀 (Minor Subject)

省察が深くなり經驗が廣くなる程、主觀は廣く大きくなるのであるが、省察が淺く、自己の周圍のみを見、自己の趣味や人生に囚はれて、小さな經驗では、深く正しい判斷は下せない。それ等を小主觀と云ふ。

省略法 (Ellipsis)

修辭學上の一法、要點のみを記し、他は省略して相手の想像に任す法、例へば「それ人は心にて候なり」の如し。

世界主義 (Cosmopolitanism)

セウシ—ゼスイ

國家主義、軍國主義、帝國主義に反對して、廣く人類全体の幸福安寧を理想とする、世界的の主義である。藝術上に就ての世界主義は今後の藝術は國家の境界を無視し世界各國の國民的特色は失はれるだらふと推定し、従つて國民的特色に重きを置かない主義。

世界の四大詩聖 (The Greatest poets of the world)

ホーマー。ダンテ。シエクスピア。ゲーテ。

世界の醜化 (Verlasselung der welt) (獨)

獨逸のフォルケルトが、自然派の特色として表はした言。人間社會を暴き獸性的方面、暗黒面から描いたことに由る。

ゼスイツト派 (Jesuit)

ルーテルの宗教改革に對し、舊教主義の反動として、紀元一五三四年イグナチエフ・ロヨラの創設せる教團を云ふ。法王無謬説、教會神權説を主張し、歐洲にも外國傳道にも一大勢力があ

セツ——セツタ

つた。桃山時代我が邦に傳道すべく渡來した、ザビエーは此一派の人である。

セツシヨニ (Secessionist)

「分離」の意である。藝術用語となつたのは維新で一群の藝術家が、分離派といふ一團を結束したに始まる。其運動の中心となつたのは、建築と工美術であつた。然し後に建築家は團休を去り、主としてモデルネスタイルと呼ばれた。我國でも従來用ゐられて來たのは建築、工美術のみであつたが、近代は繪畫彫刻にも多く用ゐられるやふになつた。

此特色は古典的舊様式から分離し、現代文化生活にかなふ創造をなさんとするので、一定の型があるわけではない。其表現は新、又奇である。特に室内裝飾には著るしい特色を表はした。維新の大劇場、ダルムスタットの大畫堂等はその例である。

セツシヨニスト (Secessionist)

分離派。一般セツシヨニ風の藝術を作る藝術家を云ふ。特に一八九七年ウキナに起つた古典的な舊様式と分離し、反抗して起つた新しい様式を創造せんとした群を云ふ。此名稱は最初この團休に着けられたものである。其中建築家ではワグナー。ホフマン。畫家ではアルト。ヘルマン。クリムト。彫刻家ではカンチアン。シンコウイツツ等がある。後に建築家はこの團休を去つた。

設疑法 (Interrogation)

修辭學上の一法、自明の事を、わざと疑問休にして相手に判断せしめ、文の意を強むる法である。

絕對 (Absolute)

相對に對比した言である。何物にも支配されず、制限されず、獨立的の實在で、他に對立するも

のなき實在を云ふ。例へば宇宙終局の原理、神の如きを云ふ。哲學者は之に種々と名稱を與へた。スピノザは「無限の實体」、ヒフイテは「絕對我」、ヘーゲルは「思想」、シヨーパーペンハウエルは「意志」、セエリングは「自然と精神の同一」又は「無差別」、ハルトマンは「無意識」を呼んで絕對とした。

絕對藝術觀 (Artistic absolutism)

Art for art を主張する藝術觀。(其項參照)

刹那主義 (Momentalism)

刹那々々の極めて短小な時間に、全力を擧げて靈肉を一致せしめ、その間の斷定に由て生活する主義である。即ち實行も觀照も一のものとする文藝上の一主張である。今は故人となつた岩野泡鳴は一時盛んに此説を唱へた。

説理批評 (Rational Criticism)

文藝批評の様式である。印象批評、鑑賞批評

セツ——セロ

が感情に由て、智識或は理性を没するに反し、感ずるのみにあらず、何故善いか、悪いかの判断を、理性に由てなさんとする批評である。米國のサンターヤナの説く合理的鑑賞といふのも之である。

セミス (Themis)

タイタンズの遺子にしてヂュピターの朝に陪し神裁を佐く。

セメリー (Semelle)

ケドマスとハアモニヤとの女、ヂュピターに契りて酒神バツカスを生む。後ちヂュノーの詭計に由て雷死す。(希臘神話)

セリ上げ (劇)

舞臺の下より、人物或は次の場面が浮き上る仕掛けを云ふ。寶曆三年冬、大阪大西芝居にて「傾城天羽衣」大切に仕組みしより初まる。

セロ (Violon Cello)

セツモ——センチ

正しく云へばヴァキオロン・セロといふ。普通は單にセロと稱ばれてゐる。形はヴァキオリンに似てゐるが非常に大きい。奏者は椅子に座て、兩足の中部にセロを挟み、其一端を床につけて奏する。合奏の際は低音奏を奏し重要な地位にある。獨奏樂器としても特殊の趣味を有つてゐる。

世話物

日本劇で用ふる名稱で、近代若しくは現代の狀態を劇に演ずるものを云ふ。

線畫

描線から成立てゐる繪を云ふ。東洋畫の大部分は線畫であるが、特に白描畫(參照)などは、純粹な線畫である。西洋畫では鉛筆畫、チョーク畫、ペン畫等は凡て線畫である。

戦争と平和 (War and Peace)

トルストイが六年の年月を費して完結し、量に

をいでも質にをいでも彼の作中隨一とされてゐる大作である。其の内容はナポレオン侵入前後のロシア社會の大パノラマとも云ふべきもので場所はロシアより中歐にかけ、人物はナポレオン、アレキサンデル一世等歴史上の人物から彼の創造した幾多の人物、小説の筋は平和より戦争へ、戦争より平和へ、此の家族より他の家族へ、事件より事件と縦横に交錯し、其の中に巧みに彼の人生觀戰爭觀を織込ませ、當時の社會會が浮出されてゐる一大歴史小説である。

ゼンダ・アベスタ (Zenda Avesta)

ゾウロシター教の聖典で、「生ける言葉」の意である。前四世紀ガラサスツラ、ガゼタン語で書いた教典である。今はヤクナ。ゼスペレド。エンジンダト。コルダの四篇のみ残してゐる。

センチメンタリズム (Sentimentalism)

拾九世紀初葉、ローマンチズムに伴ふて起た

ものである。著しい二の特徴をあぐれば、一、感情が非常にデリケートで刺戟され易い傾向のある事。二、感情が心の全部を支配し、理性にも勝てゐる傾向ある事。等である。物に感じ易く、涙脆いなど云ふ傾向で、之を歐歌するのが此主義である。

セント・ペテロ (St. Peter)

基督拾二弟子の一人であつた。基督教藝術の題目とされて、鍵、十字架、書籍等をアツリビュートとして描かれてゐる。「ペテロ海上を歩まんとす」「マルカスの耳を斬落すペテロ」「基督を否認するペテロ」等は、彼の生涯中の事件で、最もよく題目とされたものである。

セント・パウロ (St. Paul)

初代基督教の代表的使徒である。彼は屢々基督教藝術の題目となつて、繪畫に描かれた。「ステパノの迫害」「改宗」「殉教」等は彼の生涯中、

セント——センチ

尤も重なる題目である。「改宗」はラファエル。ミケランヂエロに由て描かれた。

セントール (Contour)

半人半馬の動物で、埃及人、エトルリア人、希臘人、羅馬人等が諸種の藝術題材としたものである。殊に薄肉彫にはよく表はされてゐる。

漸層法 (Climax)

修辭學上の一詞法にて、語句の按排を淺きより深きに、弱きより強きに、低きより高きに、一より二、二より三、三より四と順次に高くし、遂に絶頂に導かんとするのである。例へば「我も酔ひ、客も酔ひ、山も天も皆酔へり」の如し。

漸層法 (Anticlimax)

修辭學上の一法である。漸層法の順序を反對にしたもので、強きもの、大なるものを初に置き、次第に弱きもの、小なるものに及ぶ。例へば「天も酔へり、山も酔へり、客も我も又酔へり」と

セオリー—センス

いふが如きである。

セオリー (Theory) 理論。學說。

セコンド・ハンド (Second hand) 中古物。

セコンドハンド・ナレッジ (Second hand Knowledge) 第二の智識。自己の獨創ではなく、人から受た智識。俗に云ふ受賣。

ゼスチュアラー (Gesture) 身振。劇の科「シグサ」を云ふ。

セーリズム (Theism) 有神論。

セックス (Sex) 性。(男女、雌雄)

ゼネレーション (Generation) 時代。子孫。發生。

セプテムバー (September)

九月。

セーラー (Sailor) 水夫。水兵。

セルフ (Self) 自身。自我。

セルフイッシュ (Selfish) 氣儘な。主我的な。自己中心的。

セレクション (Selection) 選擇。

セレモニー (Ceremony) 儀式。祭典。

センシブル (Sensible) 感じ易い。物分りのよい。

センサス (Census) 國勢調査。人口調査。人口統計。

センス (Sense) 感官。官能。

センシヨアル (Sensual) 肉感的の。感覺的の。

センチメント (Sentiment) 情操。感傷。

センチメンタル (Sentimental) 感傷的。泣脆い。

センチュリー (Century) 一世紀。(一世紀は百年間)

センテンス (Sentence) 文章。

ゼントルマン (Gentleman) 紳士。

セントラル (Central) 中心の。中央の。中心的の。

センシ—ゾウゲ

ソ

造形美術 (Bildende Kunst) (獨)

繪畫、彫刻、建築、等専ら視官、觸官にかゝはる藝術で、普通に云ふ美術の事である。

繪畫、彫刻、建築などを詩、音樂、舞蹈の如き音律的藝術に對立せしめて稱する言、造形美術の特色には、一、有形の材料より作らる。二、空間の或一點を占める。三、視覺官能と交渉する點などある。

象牙の塔 (Ivory tower)

詩情の豊かな人が、近代物質文明の作出した無趣味乾燥な社會は、不滿に堪えないから、社會

ソウガ—ゾクガ

より離れて自己一人詩美の郷、即ち象牙の塔に住む。現代社會からのがれた別天地の謂である。綜合藝術

空間及時間を綜合するところの藝術を云ふ。即ち舞踏、演劇等の如し。造句法

和歌の五七五七七、俳句の五七五、新体詩の七五七五……乃至五七五七……等の如く音數で律格を成して居るものを云ふ。

裝飾 (Ornament)
オナメントの項を見よ。
裝飾畫 (Decorative Painting)

自然畫又は寫生畫に對し、自然そのままを描寫せず、一の規則的な變形に描き、裝飾に用ふる畫を云ふ。模様圖案の類である。此等は普通裝飾美術に入るべきものであるが、中には純美術品と見るべきものもある。

裝飾說 (Theory of Decoration)

藝術の起原に關する一説。人間には飾らんとする本能を有してゐる、藝術は其本能より起つたといふ説である。

裝飾美術 (Decorative Art)

裝飾を目的とする美術で、工藝美術、應用美術、小美術は此部類に入る。共に用ゐらるる材は、金工藝、木工藝、陶工藝、塗工藝、彩工藝、織工藝等である。技巧の方より種類を分てば、鍍金、鑄金、透彫、毛彫、象眼、寄木、蒔繪、染織等である。裝飾美術は裝飾を目的とすることは普通であるが、そのみでなく、單獨に鑑賞せられる事もある。

俗樂 (Secular Music)

構成組織の方法極めて嚴格なる寺院樂に反して自由なる内容と形式を持ち、各國民の特性を著す民樂民謡である。常に多くは舞踊叙事詩、

叙情詩、傳説に基く詩歌、等に伴はるべき音樂であつて、樂派的理論もしくは制約などの下にないのでない。頗る自由に發展する一大藝術である。殊に中世紀に於ける舞踊と其音樂は、後世の器樂發達の基礎を成したものであつた。

即興詩 (Impromptu)

即座の詩興を即座に歌ふ詩である。情熱派などに多く此の種の詩を見る。成る事物に情熱が觸れて其のほとぼしる詩想を即興に託して發表したものである。

俗建築 (Secular Architecture)

建築を二分して宗教建築と、非宗教建築とする。其後者を俗建築と云ふ。昔は宗教建築が重なるものであつたが、今は俗建築の時代である。

續句 (Sequentia) (セクエンツ)

(宗教樂參照) 續句はカトリック禮拜上、尤も重要なる讃歌の一種(寺院唱歌)である。九世紀の

ソクキ—ゾムナ

交に起り法王ニコラス一世の確立したものである。其旋律は最初グレゴリ唱歌に胚胎した。當時の會衆が祈禱歌を歌ふに、ラテン語で唱へらるべき部分は、キリイ、エレイズン、ハレルヤ、ア

ーメンであつたが、會衆に満足を與ふるため時間を伸して、キリイの後にトロペス。ハレルヤの後にジュピラスと稱する、短篇の聖書の禮拜的章句を唱つた。それがキリイ、ハレルヤに續くが故に續句と稱へられた。「ジュピラス」は中世に於ける音樂術語の一であつて、母韻を伸長せしめ、旋律的樂章たらしめる、裝飾樂章——Colatura である」

屬性 (Attribute)

或る事物と離す事の出来ない事物、或は性質を云ふ。アツリビュートの項を見よ。

ゾムナムバリスム (Somnambulism)

睡眠歩行、又夢遊病の一種。一種の精神病で睡

ソナー——ソルフ

眠中夢中に歩行したり、制作したりする。

ソナータ (Sonata) (伊)

原意は奏樂さるる曲である。クラシツクな器樂曲中最も重要な形式である。普通三部からなる。一前部 (Exposition) A 前奏曲 (これ無きもある)。

B 第一テーマ。C 接續曲。D 第二テーマ。E コデツタ。二開展部 (Development) 前部に表はれた第一テーマに續いてそれが自由に發展する故に、此部は自由思想曲とも稱せられる。三後部 (Recapitulation) A 第一テーマが再現するか、又は其を變更した曲が現はれ。B 接續曲。C 第二テーマ。D コーダ。即ち前部は問題を表はし、中部は其を解釋し、後部は回答する形である。

ソナチナ (Sonatina)

小ソナタ。

ソネット (Sonnet)

拾四行詩。ロセツチイは此を評して云ふ。「ソネ

ットは利那をとめる碑文」。之は一種の叙情詩で拾四行に緊縮された詩形である。伊太利のダンテ。ペトラルカ。英吉利の沙翁。ミルトン。ブローニング夫人。ロセツチイ。佛蘭西のボウドレール。ヴルレーン。マラルメ等は此詩形で、有名な作を出した。

ゾライズム (Zolaism)

佛蘭西の小説家エミール・ゾラに由て唱へられし、文藝上の主義。詳しくは自然主義を見よ。

ソルファ唱法 (Solfa)

「トニック・ソルファ唱法」の略、聲樂曲の旋律の基音をDとし、D(F)R(レ)M(ミ)F(ファ)S(ソ)L(ラ)T(シ)D(ド)の文字で譜を表はし、どの樂譜も同一の方法で、歌ひ得る唱歌法。半音を示すにはE及Aを用ふ。クローヴァと云ふ日曜學校女教師の考案に成り、カアウエン牧師が弘めたものである。

ソロ (Solo) (伊)

獨唱又は獨奏を云ふ。オーケストラの中で、ヴァイオリンやフルイートなど、其メロディーを奏するをも云ふ。

村落小説 (Dorf-Geschichte) (獨)

拾九世紀前半獨逸に生じた文壇の新現象で、田園生活を描き出したものである。イムメルマンの「オーベルホーフ」が先鋒となり、續いてゴットヘルフ、アウエルバツハ、ステイフテル、ランクなど現はれ、特にアウエルバツハの「黒林地方の村落物語」ステイフテルの短篇集「彩石」は最も有名で、寫實主義の先驅と稱せらる。

ソアン (Son)

息子。

ソウト (Thought)

思考。思想。

ソサイエティー (Society)

ソロ——ソング

社會。協會。會。交際。

ソーシアリズム (Socialism)

社會主義。

ソビエット (Soviet)

露國過激政府。勞農政府。

ソプラノ (Soprano)

音樂上の語にて高音部、最高音、最高調、女聲高音。(アルトは女聲低音)

ソフト (Soft)

柔かなる。溫柔な。

ソール (Soul)

靈魂。精神。

ソロー (Sorrow)

愁傷。悲しみ。

ソング (Song)

歌曲、歌謡。此には物語などを歌ふ民謡と、普通の音樂歌曲がある。

夕

ダイアナ (Diana)

羅馬にもと此名の女神がある、月輪と同体であると云ふ。後アポローと同胞である希臘の神アルテミスの垂跡であるといふ説行はれ、爾來希臘のアルテミスも、ダイアナと稱するに至つた。

ダイオニソス型 (Dionisotipe) (獨)

ニイチエは其著「悲劇の發生」に論じて、藝術家をアポロ型と、ダイオニソス型との二に分け、前者の特色を覺醒的な冷靜にありとすれば、後者は陶醉的な熱烈にありとした。前者に屬する藝術家は希臘の女神、太陽の神、又赫羅たる光

明の神アポロになぞらへて命名されただけに、其特色は眞善美と、明晰な認識にある。後者に屬する藝術家は、美に酔へる主觀を通じて人生を觀るもの、希臘の酒神ダイオニソスが、その擁護者であり獎勵者である。

第一印象 (First Impression)

造形美術等によく用ひられ又重ぜられる言である。時を経ると弱くなり又フレツシユでなくなるが、最初に受けた第一印象のみは、強く且新鮮なる特色を有てゐる。

對位法樂

相互に絶体獨立の二部旋律が同時に進行する時に於て、對位法の完成を見るのである。定律が有量樂にして、對位部に於ける旋律の成立を成せば、從て全然異なる節奏的構造を導くに至るものである。ハックバルドのオルガヌムや、ギドーのヂャホニーは其發端期を示し、遂にこれ

を完成したのは、古佛國樂派である。

對偶法 (Antithesis)

修辭學上の一詞法にて、成べく反對のものを對照して云ふ。例へば「帯に短かし褌に長し」「魚心に水心」等の如し。對句法とも云ふ。

第三者 (Third person)

當事者以外の人を云ふ。例へばAとBが相争ふ時、Cはそれを傍觀して居れば、AとBは當事者で、Cは第三者である。これは當事者に對比して用ふる言である。

第三帝國 (Third Empire)

イブセンの作「皇帝とガリラヤ人」の中に示された靈肉一致の境を云ふ。其中神秘家マキシモスは云ふ「第一帝國は智識の樹を基礎として建てられた。第二帝國は十字架の樹を基礎として建てられた。第三帝國は大なる神秘の帝國である、此帝國は智識の樹と十字架の樹を基礎と

して建てられねばならぬ」即ち第一帝國は靈を外にした肉、智識の世界であり、第二帝國は肉を外にして靈のみの世界であつた。然し來るべき理想は此の靈肉一致の境でなくてはならぬといふのである。

對象法 (Contrast)

修辭學上の一法、相反する事物をならべて對照せしむるもの、例へば「人遠き慮なければ近き憂あり」の如し。

大主觀

小主觀に反し、自己の趣味、人情、小經驗等に囚はれず、省察と經驗を深く弘くする。

第四の壁

近代劇に用ふる言葉で幕のことをいふ。部屋の四の壁は一方を取はづし、室の中の出來事を覗かせやふといふ意から、生じた言である。

タイス (Tuis)

佛蘭西のアナトール・フランスの一八九〇年に作られた傑作である。題材を紀元四世紀頃の埃及砂漠とアレキサンドリヤ府に採り、聖僧パフニユスは女優タイスの靈魂を救はんとして、反つてタイスの美貌に魅せられ、次第に愛慾の懊惱に陥る。一方タイスはパフニユスの導きに依り歡樂の世界を幣履の如く打ち捨て、聖女の生活に入り、清く美しく逝くと云ふ筋。當時アレキサンドリヤ府の思想状態をよく取り入れて有ると云はれて居る。

對照 (Contrast)

コントラストを見よ。

タイタン (Titans)

希臘神話にある巨人の一族。オリンパス諸神の前に、宇宙を統治してゐた。天ウラノス、地ゲエより生れて、クロナス、アモアナス、ハイビオリン、レア等の拾三神より成るものである。

一同は其父を斥け、首領クロナスが天を統治してゐたが、其子ゼウス等父に反きオリンパス山に據て遂に、悉くタイタン族を亡し、宇宙を治めたと云ふ。尙別にタイタン族の子孫にプロメシウス、ラトナ、セレナ等がある。オリンパス諸神に對抗して、タイタン族と稱せられる。

第八藝術 (The Eighth Art)

民衆藝術として最近に勃興した、映畫劇を指すもので、文學、音樂、繪畫、演劇、建築、彫刻、舞踊の、次ぎに位する第八番目の藝術であると云ふ意。

タイプ (Type)

典型。藝術上には一種特色ある形態をいふ。美人のタイプ。樂家のタイプなど云ふが如し。偉大な藝術家の獨創的作品は、群小作家のタイプとなり、其を模倣した作品の出るのが普通である。

太平記

室町時代に圓頂小嶋法師の手に成たもので、當時の錯雜せる戰亂の有様、世態などを記せる物語である。

第六官 (The Sixth Sense)

人間が、視覺、聽覺、鼻覺、味覺、觸覺、の五官に依つて感ずる以外に、不慮の災難とか、神秘、不可思議なことを、直覺する器能を有して居る。この直覺の働きを、第六官の働きと云ふ。

道德劇 (Moral play)

偶意劇の一種で、徳を讚美し惡を戒む、道德的教訓が中心思想となつてゐる。其劇の筋は「有徳」と名くる人物、其他抽象的なもの、擬人化した人物によつて運ばれた。此はヘンリー六世時代に始まり、エリサベツ朝頃までつゞいた。

託摩派

託摩爲成の拓いた一畫派で、藤原時代より鎌倉

タイへ——タダシ

時代にかけて、専ら佛畫を描いた。畫統は巨勢より受けたもので、鎌倉時代中葉に、畫法を宋畫に學び、以前の畫風を失したが、支那畫再興の端を開いた。其著名な畫家は、勝賀、成忍、爲行、榮賀、了尊等である。

竹取物語

九世紀中葉の作。竹取翁が竹の下に稚子を見つけて、カグヤ姫と名けて養育する程に、天女も欺くほどの美姫となつた。世間の男達は吾こそ得んものと騒いだ、姫は遂に二皇子及三公達に難題を持ち出し、其に答へた者に嫁ぐと云つたが、答へ得る者はなかつた。月日を過すうち帝の耳に入り入内の詔を受けた。三年目の八月十五夜、此世のものならぬ姫は月の世界に昇た、といふ物語の筋である。

駄主主義 (Dadaism) (獨)

獨逸に最近起つた藝術上の一派で、普通駄々主

義は小兒の片語を摸倣する文學の一新派と見られ、又美術上にては畫面に檻褸やら道具や切手等を貼り付け打ち付けなどする、最新畫家の一派と見られてゐる。

由來を略記すれば、最初瑞西のチューリヒ市にて獨人リヤルト・ヒュルゼンベツグを中心とし、數名の文士が文藝的一種のクラブを組織し、其名をダダ・クラブと名けた。ダダは佛の片語「お馬」と云ふだけで、別に何等の深い意味もないのであるが、由來を知らない人には一つの謎となり、神秘となり、好奇心を咬り、大きな暗示力を發揮して非常な發展をした。其主張とする處は、ダダ主義の藝術家は同時に活動家、事業家、行爲の人、徹底した現實主義者である。其藝術上の特色に就てヒュルゼンベツグは三の原理をあけてゐる。即ち人生の複雑多様を表はす爲に騒音樂を取り、同時に起つた出來事の中

に人生の急激なる意味を捉へんとして同時性を主張し、又繪畫に於て直接に現實性を與へんとして畫面に砂や毛髪や切手を貼付する。此派の人は又政治運動にも携はり、徹底的共產主義、及私有財産の廢止等を主張してゐる。

疊み句 (Rekranj)

こは全く同一の語句を連續的に疊みてなる句を云ふ。例へば「白珠は人に知られず、知らずともよし、知らずとも我し知らば、知らずともよし」(萬葉)の如く「知る」といふ句を連續的に重復させて、趣致を見出さんとするものである。立稽古 (劇)

役者が新しく上場する芝居を稽古する時、既に書拔を暗誦したる後、書拔を離れて立つて動きをつけて、稽古する事である。但し、立ち廻りの稽古の時だけは、立者の役者は側で見えて、自分の役を立師或は自分の弟子に代つてさせる

のが普通である。

ダビッド・コッパフィールド (David Copperfield)

デイッケンスの傑作小説である。ダビッドと云ふ逆境に育つた少年を主人公として、種々なる困難を通じて成功に至る、といふ筋のものである。

ダブル・エキスポジユア (Double Exposure) (映畫劇)

映畫面中、二重寫しの面を云ふ。即ち一つの場面を撮影して、必要な尺數丈を逆廻轉して、その場面に幻想した人或は幽霊の如きを立たせて再び撮影するのであるが、これは溶明、溶暗、暗、暗、暗を利用して逆回轉の尺數と後の映寫尺數の緻密な計算を要する。

ダブル・パス (Double Pass)

コントラ・パスとも云ふ。合奏には最低音部を奏する。形はセロの一層大きなもので、奏者は起立して奏する。多くは伴奏樂器としてオーケストラの基礎を成すものである。

ダビツ——タラン

タボール (Tabor)

タンボリンのジングルなき様な、小さき太鼓で主に古代用ゐられた。

ダマスキスへ (To Damascus)

ストリンドベルグの最長篇三部戯曲である。愛慾と死に彷徨する一漂泊者が、人生体験の一路を、肉から靈へよめきながら、又執着と愛慾の現世地獄から、厭離と諦念のダマスキスへ辿り行く、作者自身の懺悔録的な、叙事詩劇である。多様の統一 (Unity of multiplicity)

變化の統一とも稱せられる。美學上、形式美の根本原理である。多種多様變化等が、統一されるの謂である。左右均齊(シムメトリー)對照、及他の形式法則は、此原理から演繹された法則である。

タランテラ (Tarantella) (伊)

南伊太利の舞踊で、6/8拍子の急速輕快な舞踊。

多淚的喜劇 (Comedie larmoyante) (佛)

拾八世紀フランスに起た一種の劇である。純喜劇でもなく、眞の悲劇でもない。たゞ民間の俗事を取扱つた不規則な劇である、同時代に英國に起た感傷的喜劇と同種類のものである。作者にラ・シヨールセ、代表的作品にセデーヌの「無智者の哲學」等がある。

斷案 (Decision)

判斷、判定とも云ふ。論理學上にては三段論の第三命題、即ち前提に由て得らるる結論をいふ。例へば「人は死す。Aは人なり」といふ前提より「故に彼は死す」と云ふ斷案を得るが如きである。

丹繪

元祿頃から寶永、正徳年間に行はれた、浮世繪の一種である。墨一色の版畫に、一枚づゝ筆彩色を施したもので、繪具は丹を主とし、それに

草色、黄色等も交せて彩色した。其方法は丹を

草の汁と、木梔の汁とを用ゐる、手早く塗るのである。丹が主色であるため、丹繪といふ名がついたものである。題材は様々である。美人畫、淨瑠璃に關する畫、遊女、豪傑、等で粗末な彩色ではあるが、色の種類が少ないだけに煩雜の厭味がなく、簡單明瞭で愛好に適するものがある。丹繪の筆者は菱川師宣、及其派、鳥居清信、清倍、懷月堂の畫家奥村政信、西村重長、羽川珍重、等の名高い作者がある。

タンゴ・ダンス (Tango dance)

元ユダヤ人種の舞踊。西班牙を経て各地に流行した。

暖色 (Warm colour)

赤、黄が主調となり、強く且つ透明の効果を出す時、其は暖色と稱せられる。此に反して寒色がある(参照)概して色の主調が、生々として輝

いてゐる時、その繪の色彩は暖かである、と云へる。

タンダチールの死 (Le mort de Tintailles) (佛)

メーテルリンク初期の作品で、死又は運命などの問題を中心思想として描いて居る。

耽溺

岩野泡鳴が、國府津のある妓をモデルに使つて、「耽溺」を書いて以來、此の言葉が随分好文者間に用ゐられるやうになつた。酒と女に耽溺れるとの意である。

耽美主義 (Aestheticism)

唯美主義、又は美至上主義とも云ふ。近代の功利唯物思想、物質的時潮を厭ひ、斯る傾向に反抗し、俗衆の生活を避け、「藝術のための藝術」を主張して、美を以て人生の中心とする一派である。耽美派の運動は佛蘭西のボードレール等の、象徴派詩人に感化せられて、四五十年前英國に

タンダー—タンビ

起た。スキンパイン及モリスが其始祖と稱せられ、オスカー・ワイルドは斯派の代表者とされる。

彼等は平凡俗衆の生活を離れ、別に人工的な詩の世界を造り、飽まで強く歡樂を食り、肉感的刺戟と興奮とを貪つて、人生のあらゆる詩的享樂の機會を捕へやうとする。一面に於て享樂主義者である。従て其生活は常軌を外れて一般道徳を無視する。「審美は道徳よりも高い、其は一層靈的な世界に屬すからである。美の鑑識こそ吾人の達し得る最上點で色彩の感覺すら、善惡の觀念よりも遙かに、個性發展の上に重大な意義がある」と云つた、ワイルドの言葉は、此派の主張を云ひ表はしてゐる。彼の傑作「ドリアン・グレイの肖像」は此派の主義を最もよく説明した作である。又其戯曲「サロメ」も彼の特色をよく發揮してゐる。

短篇小説 (Short-story) (英) (Cont) (佛)

短篇小説は古くは、新約聖書中の放蕩息子の比喩 (Parable) に見る。これは取材に於ても、結構に於ても完全なる短篇小説とされて居るが、短篇小説が長篇、中篇と、全く其目的と方式とを異にする一文學的形式であることが明確にわかつて来たのは十九世紀以後のこと、アメリカのエドガア・アラン・ポウは、これを最初に指示した功績者である。その後ポウの説はフランス文壇に影響を與へ、ブランダア・マシウズはポウの説に補足した。後クレイトン・ハミルトンはポウと、マシウズの説を根拠として左の定義を下した。

「短篇小説の目的は、最上の強調法と合致するよう、最大の經濟的手法を用ひて、單一な物語的効果を生ぜしむるにある」

即ち物語的な効果を生ぜしむるには、行爲と、

人物と、背景との三要素を要するのであるが、短篇に於ては、この中何れか一つを強調せしめて、他はほかせばよい、亦短篇は、必要な丈けの人物と事件と、時間、空間を使用すれば足る。これ以外の展開は慎むべきである。併し最上の強調を得ると、思考される場合、換言すれば小説全体の効果が、この無駄をはぶく手法を破つたがために、一層引立つて来る場合には、この限りではない。即ち、

「最上の強調法と合致するよう、最大の經濟的手法を用ひよ」と云ふ意味が會得される。短篇小説家として佛のモウパッサン、英米ではステブソン。ポウ。等が有名で、我國では故木田獨歩は海外短篇作家と伍して遜色のない天才であると云はれて居る。

タンホイゼル (Tannhäuser) (獨)

獨逸のリヒアルト・ワグナーの作に成る、世界

的に有名な代表的歌劇である。此曲はワグナー

がパリより獨逸にかへり、ドレスデンに赴く途中、チューリンゲン溪谷の、ウルトブルヒ古城を訪ひ、タンホイゼルの民謡を聞き、拾三世紀頃其城で行はれた戀愛詩人と騎士詩人の、歌争ひの傳説を綜合して、此作を得たのであつた。三幕の歌劇で、一篇の結構は、一度肉の誘惑に敗けて墮落し、魔窟に陥ちた詩人タンホイゼルが、幸ひに純潔な處女エリサベツとの、靈的な愛の力に由て、地獄の苦より救はれ、悔悟成道したと云ふ物語で、人間心靈上の善惡の争ひといふ事が、象徴的に表はれ、全篇の中心思想を成してゐるのである。

タンボリン (Tambourine) (音)

圓形の輪に皮革を張り、周圍にジンゲルと云ふ鈴の如きものを附け、それを打ち又振る樂器。普通西班牙及南フランス地方で、ダンスの伴奏

タンボ——ターク

に用ゐられる。

タイトル (Title)

題目。表題。書目。位。

タイピカル (Typical)

典型的。代表的。

タイム (Time)

時。時限。時代。音符の歴時。

タイム・スピリット (Time spirit)

時代精神。

ダイアローグ (Dialogue)

對話。問答。料白(セリフ)

タイラント (Tyrant)

暴君。壓制者。

ダーク・サイド (Dark side)

暗黒面。社會の裏面。

ダーク・エーヂ (Dark Age)

暗黒時代。西曆四七六年西羅馬帝國の滅亡より、

ダーク—チウシ

拾一世紀までを暗黒時代と云ふ。
ダーク・チエンチ (Dark (Orange))
劇用語で、場面から場面に移る時を、舞臺を眞暗にしてしまふ。

ダージ (Dirge)

挽歌。哀悼歌。

ターニング・ポイント (Turning Point)

轉向點。方向を轉へる點。

ダール (Dull)

陰鬱なる。物憂き。鈍き。

チ

抽象 (Abstraction)

具象に相對する言葉。個々別々の具象的事實から共通な屬性を抽出し、之を統合する心の作用。即ち或事實から概念を描き來る事で、例へば「Aは憐な人に金を施した。或はAは哀れな孤兒を引取つた」などは、具象的であるが「Aは親切な人だ」と云へば、抽象的の言になる。具象は個性的、抽象は概念的である。

抽象美 (Abstract Beauty)

象を具へない美で、自然現象では鳥の聲、虫の音など、又人為美なども之に屬す。「最も大なる愛」の如きは抽象美として著しきものである。音楽、詩文等之に屬す。

抽象理想説 (Abstract Idealism)

プラトニー等の主唱する美學説で、最高の理想が現實の世界から高く離れて存在する。而してその理想が個々物々に宿り、現實別の世界をなす。故に現實の世界より上に、昇れば昇るほど理想

に近づき最高の處には至高理想がある。美は即ち理想の發現である。

中部伊太利ローマネスの建築 (Itarian Romanesque architecture)

一一〇〇年頃中部伊太利クタスカニー地方から起つたもので、大体の様式は初期基督教建築様式に倣つたが、ビザンチン様式の影響も多かつた。ピサの寺院は其代表的建物である。

智慧文學 (Wisdom Literature)

舊約聖書の一部で、箴言、傳道書等を云ふ。一般に教育的目的を有し、神を信する敬虔なる者には、神より報を受る事を教へてある。

チオ派 (Chio School)

古代希臘時代チオに住でゐた彫刻家の一派である。メラス。アルヤルムス。ブパールス等著名である。

智識説 (Intellectualism)

チユウ—チチ

古代ではアリストテレース、近代では佛のブアロー等の唱へる美學の一説。即ち智をよく働せて形を整へた時に美が成立するといふ説である

智識派

拾九世紀科學の發達著しい頃、英國に於て二派を生じ、一は智識よりも感情に重きをおいて満足を求めんとしたラファエル前派を、一はマツシュー・アーノルドに由り代表されたる智識派で、智識を追及して最後の眞理に到達せんとする一派である。

父 (The Father)

ストリンドベルグの、男女の争闘を主題とせる、劇の中で最も代表的と云はれる作品である。或騎兵大尉とその妻ロウラの仲に出來た子供が、成長するに従ひ、母は娘の愛を獨専しやふとし、正當な手段で夫に勝てないことを知て、妻は陰險な手段をとらふとした。ロウラは娘を不貞の

子だと夫に思はせ、夫を苦しめて發狂者としてしまふ。大尉は妻を、又一切の女性を呪ふて昏倒する。妻と娘は勝利の叫をあげる、と云ふ筋のものである。

地方色 (Local colour)

ローカル・カラー。(同項参照)

小さなアイエルフ (Little Eryth)

イブセン晩年の作に成る戯曲である。愛のない動物的な結婚をした、物質的利己主義者アルメルスと、専ら肉慾の對象としての夫を愛してゐる、情慾の強いリータが、九才になる獨子アイエルフを、彼等のみの快樂に耽て注意を怠り、河に溺れしめる。此事件から目醒めた二人は、生れ變つて結婚生活をやりなをし、二人で貧しい子供等を集めて、そのために力を盡し、犠牲的生活に移つた、と云ふ筋のものである。

長篇小説 (Novel) (英) (Roman) (佛)

小説の中で結構の優大な、内容から云つても量に於ても比較的豊富なるものを云ふ。

ユーゴの「ノートルダム・ド・パリ」、スコットの「ケニル・チース」、トルストイの「戦争と平和」や我國では馬琴の「里見八犬傳」紅葉の「金色夜叉」等は其例である。

着想 (Conception)

藝術家が制作に取かゝる前に、作品の内容を胸中に描く事で、これをコンセプトと云ふ。

チャーチ (Church)

教會。基督教徒の禮拜のために建てられた建物で、西洋建築史上重要なものである。

チャートル (Theatre)

羅馬時代の劇場を云ふ。希臘劇場に似て、形状は半圓形、舞臺から見物席の方に向て次第に傾斜してゐる。又圓形劇場とて見物席が演技場の周圍を、全く繞て圓形をしたものもある。此は

ローマ獨特のものであつた。ヴェロナの圓形劇場、コロシウム劇場(一名アラビアン圓劇場)の如きは此である。

中世 (The middle age)

拾二世紀より拾五世紀末までを中世と云ひ、又暗黒時代とも云ふ。然し藝術上には重要な時期で、ローマネスク、ゴシックの二大様式が、建築を主として幾多の傑作を出した。此時代は宗教全盛期で、藝術は宗教を中心として行はれ、建築なども寺院建築が最も多い。

中世劇 (Play of middle age)

歐洲中世の單純な劇の形式は、その源を宗教に發してゐる。當時は文化の普及もなく、僧侶以外に文字を解するものもなかつた。法談説教等は行はれなかつたから、何等かの方法を以て愚蒙の徒を教誨する必要があつた。斯うした必要から中世劇は生れ、基督の教旨、聖徒の傳記、

チユウ

聖書にある著名な事件、等を僧侶が工夫したものである。伊太利のラブレゼンタチオニ (Rappresentazioni)。西班牙のアウトオス・アロス (Auto de fe)。西のミステール (Mysters 神秘劇)。英國のミステリー (Mystery 神秘劇)。ミラクル・プレー (Miracle play 奇蹟劇)。獨逸のワイナハツシユビイル (Weihnachtspiel 降誕祭劇)。パツシオンシユビイル (Passionspiel 受難劇)等が之である。この宗教劇が正劇の萌芽とも云ふべき教訓劇 (Moral play) となつた。此は善惡と云ふやふな描象的なものを、比喩的人物に作らせて、舞臺で活動させた。此が發達して歴史上の人物——著名な善惡人——を借りて、善惡を代表せしめるやふな、年代記劇 (Chronicle play) となつた。之を史劇の緣起、正劇の端緒であるといふ。この時文藝復興があり、古典劇が多くの研究資料を與へた。斯くして中世劇を、古典劇の模範に由て改善し、

潤色し、發展せしめて、近代劇の誕生を見るに至つたのである。(前記の各劇に就ては各項参照)

中篇小説 (Novelle 英) (Nouvelle 佛)

長篇小説に比して、手法、結構、観方、描き方等は大差ないが、それより少し人物の数が少なく、事件が單純で、分量の短いものを云ふ。現代の如く煩忙な、社會生活を營むやうになつてから、長い、枝葉の多い、散漫な、作品には、時間的にも、鑑賞意識的にも、堪え得られないで、寧ろ、もつと凝縮し、洗煉された、藝術的な、中篇小説が喜ばれるやうになつた。メリメエ、ツルゲエネフ、ステイヴンソン等は其代表的作家であつて、カルメンや我國で加能作次郎の「舊先生」は其例である。

チユウドル式建築 (Tudor Style)

英國にてゴチック建築につゞいて起つた様式の一つである。拾三世紀より拾五世紀頃まで續いたが

用ゐらるる事は拾六世紀中葉までに到つた。ゴシックより變化したもので、復雜豊富な裝飾を有してゐる。主な建物はローヤル・チャペル(王室禮拜堂)ヘンリー七世禮拜堂、聖ジョウジ寺院等である。

チユピター (Jupiter)

希臘にてはゼウス (Zeus) と稱す。後年ローマ人が生命光輝の神と尊崇するに至つて、チユピターと改稱さる。「日の尊父」の義にして、ミルトンなどの詩には「拉典の一名 (Tomus)」に隨ひチヨウヅと呼べり。魔を以て使鳥となし、樅の樹の風に鳴るを神託となす。

「木星」をチユピターと稱す。

チユノー (Juno)

希臘名にてはヘラ (Hera) といふ。ヘラは古語、天の美光を意味す。もとチユピターの妹にして、榮光權威チユピターに次ぎ、女子の運命を護る。

孔雀はその愛禽であるといふ。

直観 (Intuition)

直覺とも云ふ。經驗や觀察推理等の理性の下で、科學的方法で得た智識でなく、自己の心が直接その本體なり意義を感じて知ることである。例へば神を認識するとか、人を一見して如何なる人たるかを感じするが如きである。

直喩法 (Simile)

修辭學上譬喩法の一法で、明かに一事物を他事物に比ぶる法である。「月霜の如し」といふ語に於て月光の白さを霜の白さに比したる如きその例である。此には日本語ならば(譬へば)(恰かも)(如し)英語にては「as」「like」などの言葉を添ふるを普通とす。

チレンマ (Dilemma)

論理學上用ひる言。假言命題と選言命題とを使用した三段論法で、邦語にて兩刀論法といふ。例

チヨク——チエリ

へば「金につけば戀を、戀につけば金を失ふ」と云ふ様な、二の問題に挾つて如何ともすることの出来ない場合に、チレンマに立つたなど云ふ。

沈鐘 (Die verstuken Glocke) (獨)

ハウプトマンの作で、最大と云はるる象徴的な童話劇である。山間の鑄物師ハインリヒ、山寺のために巨鐘を鑄て登山したが、其督教の鐘の音を忌む山の怪物に妨げられ、畢生の力作は轉け落ちて湖に入る。彼は人事不省に陥る。それを美しき怪物ラウテンデラインが助け、遂に相思の仲となり、妻子を捨てて二人は山で鐘を鑄んとする。然し妻子の事を思ひ、遂に愛人を捨て山を下つたが、村人は彼を悪んで殺さうとする。再び山に遁れて歸つたが、ラウテンデラインは既に他に嫁いでゐた。鑄物師は遂に死ぬ。といふ筋のもの。

チエリー (Cherry)

チャペル——ツミト

櫻の實。櫻。チェリーダンスは都踊。

チャペル (Chapel)

禮拜堂。

チャーム (Charm)

魅する。心を迷はす。

チャリティ・コンサート (Charity Concert)

慈善音樂會。

チンゴイズム (Jingoism)

軍國主義の鼓吹運動を云ふ。

ツ

追走曲 (Canon)

一部を歌ひ出して一定の所になると他の一部が

露の文豪ドストイェフスキーの小説で「カラマ
ーゾフの兄弟」と共に代表的作品として最も高
名なものである。敏感鋭才の大學生ラスコーリ
ニコフは社會の矛盾に強い憤りを感じ強慾非道
な高利貸の質屋の婆さんを殺し其の財産を奪つ
て、世を救ふ様な仕事をなさんとす。途中ふ
と居酒屋でマルメラドフと云ふ退職官吏に會ひ
其の一家の悲惨な有様及び娘ソオニヤは其の爲
春を齧いでゐる由を聞き益々感動させられ、遂
に老婆殺を斷行する。其瞬間から心中に非常に
恐ろしい亂動が始つた。ソオニヤは身を汚して
ゐるが心は神々し、まで氣高い女で彼に自首を
歡める。彼は遂にソオニヤの祈に打勝たれて自
白する。彼は西比利亞に送られソオニヤも共に
彼について行く。かくして彼はソオニヤに導か
れて新しい生活に入ると云ふ筋の小説である
冷たい技巧 (Toy artificiality)

ツメター——ツル

歌ひ始め、絶えず同じ旋律を繰返す曲で、轉唱の
一種である。

ツオイロス^ツの劍 (The Sword of Zoisos)

批評の筆の事を云ふ。希臘神話のツオイロスは
文筆の神で、詩聖ホーマーも此神に鼓舞されて
史詩を書いたといふ。それより轉じて酷な批評、
意地悪い批評をする事を、ツオイリズム Zoisilism
と云ふ。

月並 (Tsukuyami)

元來は俳句に用ゐられた言である。天明以來の
俳風を守り、新思想に注意を拂はない舊派を云
たもので、舊派の人々が毎月一回乃至二回と月
並の會合を催すところから、新らしい俳句の勃
興とともに、舊派の句を月並調と云ひ、月並派
と稱へるに至つた。轉じて句又は文章の、古く
平凡で低級なものを月並と云ふ。

罪と罰 (Crime and Punishment)

シモンズがピアズレの藝術を批評して用ゐた言
葉で、着想した時の靈感とか、熱情とかをその
まゝ表現せず、理智的な冷たい技巧で、藝術化
せんとするの技巧を云ふ。

釣合ひ (Balance)

均衡に同じ。(同項参照)

ツール派 (Tour School)

拾五、六世紀、佛蘭西に於て、ミケル・コロム
ブを首領として、ツールに起つた彫刻の一派で
ある。フランコイス二世の墳墓、及其妻女の像、
又ジョウジと龍との浮彫(ルーブル博物館蔵)な
ど著名な作である。

ツキツシエンスピール (Zwischenpiel) (獨)

間奏曲。

ツル (True)

眞實の。正直の。

ツルース (Truth)

ツワイ——テウキ

眞理。

ツワイライト (Twilight)

黄昏。うすあかり。夕暮の微光。曙。

テ

帝國主義 (Imperialism)

國家を中心とし出來得る限り、國土と其權力の範圍を擴張するを目的とする主義。今日では侵略主義と云ふ意味が、多量に含まれてゐる。

低徊趣味

自然主義文學の盛んな頃、切迫詰た文學といふ事がよく云はれた。現實に迫た人生に鋭く觸れた文學の意味である。其に對し漱石、虛子など

餘裕派の人々は、低徊趣味といふことを云た。漱石は「人生には幾多の餘裕がある。茶、花、劇、避暑などの餘裕、それは又文藝の好材料で其をよく描いた小説に低徊趣味がある。名稱の如く、一處に長く佇立する趣味であるから、容易に進行しない。閑人が買物に出かけて、途中で種々な物に遊び、肝心の買物が出來ないやうなものである」と云つた。死、生などの運命のみに趣味をおけば、自然この餘裕はなくなつて、切迫詰つたものになつてしまふ。

提喻法 (Synecdoche)

修辭學上の一法、全体を或一つの特稱にて表現し、又ある特稱のものを全体を以て表はす法。例へばパン、米等特稱の一物を以て食物の義に用ゐる、又花を櫻の義に用ゐる、全稱を特稱の義に用ふる等がそれである。

彫金 (Chasing)

或種の器具、又は裝飾品等の金屬に、浮彫やら筋彫を施すものである。

彫刻 (Sculpture)

空間藝術の一種であり、又同時に造形美術の一種である。大理石、青銅、木材等を材料として、種々の物体を浮彫、丸彫等にするものであるが、最初は粘土で原型を作るのが順序である。

彫刻的見方 (Tectonic Point of View)

觸覺中心の見方、立体的な見方、視覺中心は平面的な見方である。繪畫的見方に對比して云ふ言葉である。

超自然 (Supernatural)

自然を超越するといふ意。神秘とは即ち超自然な事柄を云ふ。如何に科學が進歩しても、宇宙の神秘は、知識が進めば進む程、益々深くなる。偉大なる藝術は此宇宙の神秘を想起せしむる、神秘的要素を有つと稱せられる。

テウコ——テウセ

超人 (Superman)

尋常の人間よりも超越した精力を有する人を云ふ。獨國の哲人ニーチエが特に用ゐた言で、強烈に自我を主張する個人主義的な人で、飽迄も自我の個性を發展せしめ、自我の能力を以て、多くの人を征服し得る強者を云ふ」と云つた。其以來超人とは此意味で用ゐられるのである。

超絶派 (Transcendentalist)

エマソンに感化されて、其下に集つた人々の一派を云ふ。斯派は俗文明文化に超然として、自然を愛慕し靈界の美に憧れ、悲喜哀歡に遠かり瞑想靜思を旨とする、精神的神秘的な傾向を持つてゐる。

朝鮮藝術 (Korean art)

朝鮮藝術は支那藝術の一分枝である。古代日本に支那藝術を輸入する仲介者であつた。時代別にして見ると、一、三國時代。新羅、高句麗、

百濟が鼎立した時代で、紀元前五七年より後六四〇年迄の七百年間を云ふ。最初の四百年間は朝鮮最古の藝術で、後の三百年間は佛教の移入と共に支那の影響が多い。二、新羅統一時代。統一より滅亡迄の間を云ふ。支那の文化藝術を輸入し、又模倣した時代で、佛教の隆盛に伴ひ寺院建築が盛んになり、宮殿建築も發達した。此時代が朝鮮藝術の黄金時代であつた。三、高麗時代。紀元九一八年より一三九二年までの間である。特筆すべきものとしてないが、佛教隆盛と共に大伽藍が多く建立され、高麗燒の製作が始められた。四、朝鮮時代。李成桂が高麗を亡してより現代に至る。最初は支那感化を受け、高麗時代の繼續に過ぎなかつたが、後期には少々見るべき個々の作品が現れるやうになつた。

彫像 (Statue)

人体をモデルとして作られた彫刻作品で、大理

石、青銅、木材等の種別がある。

彫版 (Engraving)

木石金屬等の上に、線を刻みて物象を表はす手法を云ふ。廣義には此技術は凡ての國に行はれたが、今日行はるる彫版とは拾五世紀以後のもので、其初期に粗い木彫版が始めて行はれた。木版、銅版、石版、エッチング等の種類がある。

調和 (Harmony)

美學の形式法則の一種。元來は音樂に用ゐられた言葉で、一オクターヴ違つた二音を、同時に聞けば快い調和の音を發す。それを調和(ハーモニー)と云ふが、轉じて一般藝術にも用ゐられた。それは共通の或要素を相合する事で、形の調和は、曲線ならば曲線のみの曲線型、直線ならば直線形を、調和的と云ふ。色ならば同色のものである。此は又同一物のみに止まらず、反對の調和即ち相反した色、形を用ゐて調和を

保たしめる事をも云ふ。藝術上極めて重要な事柄である。

デカダンス (Decadence)

頹廢期。元來は羅馬の終末期を意味した言葉である。即ち先きの黄金時代に比して、降り坂になつた時代である。拾九世期の末葉より古典的藝術の法則等を、少しも顧慮しない作品を、デカダンス藝術と云ふ様になつた。例へばボードレールの文學を、デカダンス文學と云ひ、ツールズ・ロートレクの繪畫をデカダンス繪畫と云ふ如きである。

デカダン象徴派 (Decadent) (佛)

デカダンとは墮落した人々の意で、最初はローマ文明が爛熟した末期の墮落時代の人々を云つたものであるが、近代拾九世紀の半ば過ぎ、佛蘭西の若き文學者の群を稱する名となつた。一、斯派の藝術は情調を重ずる所の神經の藝術で、

デカダ—テクニ

思想感情の其ではない。二、非常に人工的で自然から飽遠ざかる。三、神秘的である。四、ワンダー(異常、驚異)を求め、等である。五、

派は後年デカダンス派とシンボリスト(象徴派)とに別れた。此等を總稱してデカダンス象徴派と稱す。然し二派とも殆んど同一である。この感化は英、獨、伊等に入り何れの國にも波及した。

テクニク (Technique) 美術上の

技巧。繪畫及彫刻に云ふテクニクは、手先きの技巧熟練、外部的の目や手の手段を云ふ。技巧本位の達腕家を、テクニシヤンと云ふ。

テクニク (Technic) (音)

音樂演奏上の技巧。特に機械的技巧を云ふ。但し獨逸に於ては機械的技巧を、メカニク Mechanic と云ひ、表現上の技巧をテクニクと云ふ。ピアノにては運指、スケール、アルペジオ練習を云ふ。

テツガ—テツテ

哲 學 (Philosophy)

宇宙全体即ち、自然人生を通じて、其根本的原理を研究する學問である。科學はその一部分を研究對象とするが、哲學は其と異つて、萬有全般を對象とする。哲學の取扱ふ問題を理論問題、價值問題の二分とする。前者は宇宙の本休又は實在に關する實在論と、認識を論ずる認識論を含む、後者は宗教藝術、道德研究等を含む。

哲 學 派 (Philosophic school)

英國に歴史派(其項参照)が盛んになると共に一方哲學的傾向を有す作家が現はれた。此派の人は概ね哲學的趣味を帯び、眞理、人間、絶對、罪惡等の題材を取つた。ウォーズウオース。シエリー等は其である。此は後年テヌが英文學史にて稱した名稱である。

哲 人 主 義

田中王堂氏の主唱する所、氏の言を引けば「哲

人主義の可能は、必然に二の要素の併立と協同

とを假定する。一は少數の者は如何なる事業を計畫するにしても、決して多數者の希望を本位におく事を忘れないといふこと、今一は多數の者は、少數者の計畫する事業には、時としては彼等の智力では理解し得ない事があつても、常に少數者の賢明に信頼して行くといふ事である。政治も、法律も、宗教も、道德も、科學も、藝術も悉く凡俗の慾求を基礎として、之れが統一と醇化とを努める哲人の努力より來ると見る」といふ。

徹 底 自 然 主 義 (Konssequenter Naturalismus) (獨)

獨逸に起た自然主義文學の一派で、自然主義の主張を極端までもつて行き、客觀的描寫を極力主張し、現實の世界をありのまま再現しやうとするの主義。獨逸のアルノーホルツがその主唱者である。

疊 音 法 (Refrain)

こは同一若しくは類似の音ある語句を、反覆重疊して文を美しくし、快感を惹かんとする修辭上の一法である例へば「こせ山のつらつら椿つらつらに見つつ思ふなこせの春野を」(萬葉)此には句拍子(其項参照)と疊み句(其項参照)とを含む。

デメテル (Demeter)

希臘神話にある大地の精である。ジュピターの姉で、像は龍車に乗り、麥穗の花冠をつけ松明を携へてゐる。娘ペルセフォネが、冥界の王プルトーに奪ひ去らるるや、怒りて地上の草木に果實を生ぜしめず。後ペルセフォネを取り還したが、冥府の果實を食たため、全く冥界より離るる事出來ず、一年の三分の一は冥界に止まると傳ふ。

デュオ・ドラマ (Duo Drama)

メロドラマの一種、又はオーケストラ伴奏の對

デフオ—デント

話劇を云ふ。

テラ・コッタ (Terra Cotta)

焼きたる土の意。粘土を赭色に焼いたものである。古來彫刻家は、些細な作品をなすに此材料を用ゐた。小像は此で型を脱れ、それから焼かれるのである。

田樂返し (劇)

多く人形芝居に用ゐられる。背景を表裏共に書いて、裏返しをすれば直ぐ次ぎの場に變ずる仕掛である。寛政元年、大阪北堀江で豊竹此太夫芝居(人形芝居)に、「有職鎌倉山」の四ツ目城外と、御殿との道具の早變りに用ゐて、その輕妙さが當時の人に歡迎せられた事から始まつたものである。

傳 統 主 義 (Traditionalism)

長い歴史が作た制度、道德、宗教上の權威を尊重し、其中に自己を見出し生かして行かうとす

アンエーテンマ

る主義である。文藝上にては、國土と其歴史を尊重し、國民的特色の鮮な文學を主張するを云ふ。佛國のモリスは此主義を唱へた代表的人物である。

田園詩 (Pastoral Poem)

元來作者は自己を牧羊者に擬し、田舎の情緒や事件を歌った詩であるが、今は一般に田舎のことを歌った詩を云ふ。

點彩派 (Pointillist)

ポアンチリストを見よ。

テンペラ (Tempera)

西洋畫法の一つで、かなり古くから西洋畫界に用ゐられ、油繪の出る前は此とフレスコ繪とが専ら用ゐられた。繪具は膠、糊、等を混合した不透明なものである。油畫が用ゐられてからは此は頽れたが、近代に至てテンペラの復活を見るやうになり、愛用する畫家も少くない。

天馬 (Pegasus) (ビーガサス)

メヂューサが殺された時、その血化して翼ある天馬となつた。ヘリコン山を蹴つて天界に上り詩人ミューズの愛馬となる。これより詩興を得ること、詩興に遊ぶことを「ビーガサスに乗る」と云ひ、腰折歌を作ること「ビーガサスの頸を折る」と云ふ。

「オギツド」にはアンドロミーダを助くる時バアシュースこの馬に乗つて怪物を蹴殺した事件を歌つてゐる。キングスレーが長詩「アンドロミダ」「希臘古物語」などにかく記されて居る。

デンマーク畫派 (Danish School of Painting)

丁採繪畫の見るべきものを生じたのは、拾九世紀になつてからである。其は勿論他國の影響に由て生じたのであるが、今ではこの國の特性を遺憾なく發揮して、又歐洲畫壇上の一異彩である。ヨーキム・スユウが、アルド新寺院の壁畫

に原始的の妙趣を示し、ウイルヘルム・ハンメルシエーイは、殆んど單色に近い畫風を以つて親密、沈靜な人物、室内畫等を作り、クロアイヤー。ユリウス・ボールセン等は、肖像畫の技巧に長じ、ミヘル・アンヘルは勇健な筆力と、色彩の感覺とを以て、好んで海濱生活を描寫した。ウイリユムセンの新風は、後期印象派諸家と呼應してゐる。

天路歷程 (Peregrinus Progress)

拾七世紀英國清教徒の傳道者、ジョン・バンヤンの宗教的作品である。基督者と稱する一市民が、自らの罪深き生活から解脱して、天國に入らんものと旅立ち、様々の艱難辛苦を経て後、神の恵に由て遂に救濟の門に入ると云ふ筋の寓意的小説である。

デー (Day)

日。時代。晝。

テクローテクラ

テアアテル (Theater) (獨)

劇場。

デイスイリュウジョン (Distillation)

幻滅を参照せよ。

デイスカヴェリー (Discovery)

發見。發見物。

デイスベアー (Despair)

絶望。失望。

デイテール (Detail)

細部。繪畫、彫刻、建築などの細かい仕上部分

デイフエレンス (Difference)

相異。差別。

テキスト (Text)

本文。原文。(特に註釋入りの原文を云ふ)

テクニク (Technic)

學術的。専門的。

テクラメーション (Declamation)

デコレーション

音楽的に詩文等を朗讀する事。

デコレーション (Decoration)

裝飾。最初花柄にて教會を裝飾する意であつた。

デザイン (Design)

圖案。意匠。設計。

デザイアー (Designer)

願望。慾望。要求する。

テースト (Taste)

趣味。鑑識。(文學、美術の)

デストラクション (Destruction)

破壊。滅亡。

デゼネレーション (Degeneration)

退化。悪くなる事。

デフィニション (Definition)

定義。

テーマ (Thema)

樂曲の主題。

テムポ (Tempo) (音) (伊)

樂曲の拍子、タイムを云ふ。

デモクラシー (Democracy)

民本主義。

デューティー (Duty)

義務。職務。

デュエット (Duet)

聲樂の二重唱、又は器樂の二合奏を云ふ。

デリケート (Delicate)

繊細なる。敏感なる。

テール (Tale)

物語 (主として假定の話を云ふ)

テンダー (Tender)

柔な。優しい。

テンパー (Temper)

氣質。性質。

ト

ドイツ畫派 (German School of Painting)

拾四世紀頃からネーデルランド地方の畫風を基礎として起つたものである。ウキリアムは同派最初の大家で、アルブレヒト・デュレルは宗教畫及肖像畫に有名である。拾六世紀に至り獨逸最大の畫家ハンス・ホルバインが出た。其後は不振の有様であつた。

獨逸劇 (German Drama)

獨逸劇も他の諸國と同じく、宗教劇に起原を有し、獨逸宗教劇は拾四世紀頃、劇場が獨逸語を用ゐるやうになつた時に始まる。其をシユピール

ドイツ

ル (Spiel) (所作) と云つた。拾五世紀には宗教劇に對して、世間劇とでも云ふ様なものが發達した。之を謝肉節劇(同項参照)と云ふ。拾六世紀には獨逸劇の父とも云はれるハンス・ザックスが出て、一大發展をして文藝上の價値も高まつた。拾七世紀の劇壇は伊太利、西班牙、英國等の劇に征服された不振時代で、劇と文學の分離された状態を見るに至つた。

拾八世紀には佛蘭西文學を範とする、ライプチヒ學派と、英國文學を取たスキス學派の論争から、スキス學派の勝利となつて、英國劇の感化甚大となつた。此時にレッシングが出て、劇壇は一段の進歩を遂げた。彼は劇壇の改革を成し、其根底を固め、創作に由て劇詩の模範を示し、獨逸文藝に絶大の感化を與えた。これはヌゲルテやシルレルのために、進路を開いたものであつた。彼に由て成された改革は、スツーム・ウ

ンド・ドラング（激動突進時代）に入り、ゲーテ、シルレル等の出るに及んで獨逸劇壇は未曾有の盛大を示したのである。ゲーテは「ファウスト」の大作を、シルレルは「盗賊」「ドン・カルロス」等の大作を出した。ゲーテを天性の抒情詩人であるとすれば、シルレルは劇詩人、特に悲劇詩人と云ひ得る。

浪漫時代になつて、シュレーゲル。クライスト及その後繼者イムメルマン。ハイネ等があり、各々劇詩の作がある。後期革命の影響は文藝思潮にも及び、少年獨逸派となり、此派の劇作家にグッツコウ。モーゼ等がある。此時代にオペラ界の巨人、ワグネルが出たことは注目すべきである。彼に由てオペラは大發展を成し、世界に其感化を及ぼした。（オペラ参照）其後獨逸劇壇に頭角を表はしたのは、フリードリッヒ・ヘッベルと、オットウ・ルードキヒである。この

二劇詩人は寫實主義を標榜し、浪漫派の空想的と、少年獨逸派の現世的に調和せんとした。

最近の獨逸劇壇を見れば、北歐の巨人文豪イブセンの影響に驚くべき勢を以て侵入してゐる。其は間もなくオットー・ブラームの「自由舞臺」となつて表はれ、イブセン劇を盛んに輸入した。此に由て現在の獨逸文壇、劇壇を通じての第一人者、ハウプトマンが現はるに至つた。彼の「日の出前」は嘗に出世作のみならず、獨逸近代劇隨一とされる。有名な作品に「平和祭」「寂しき人々」。社會劇「機械工」。童話劇「ハンネレの昇天」。象徴詩劇「沈鐘」「哀れなハインリヒ」。運命悲劇「馭者ヘンシエル」等がある。其他彼について有名なゾーデルマンの「憂愁夫人」「ソドムの末運」「故郷」等がある。ハウプトマン系の作家には、「青春」を書いたマックス・ハルベがある。

最近獨逸劇壇は自然主義から、新浪漫主義へ、

北歐の影響から南歐の其へ、伯林から維納へと、劇壇の中心が推移して行つた。ハウプトマン。ゾーデルマンから、ウエデキント。シュニッツレル。ヘルマン・パール。ホフマン・スタール。へ即ちボヘミアン藝術家へと轉移して行つた。快奇自然主義の代表者ウエデキントは、「春の目醒め」「地靈」「バンドーラの手篋」等の作品を出して、ミュヘン派藝術を代表し、「若き維納」を代表するものはヘルマン・パール。シュニッツレル。ホフマン・スタール。等である。猶歐洲大戰後に起つた、表現主義の劇（其項参照）は、確かに劇の様式の一轉期をなしたもので、ゲオルグ・カイゼルは表現派劇作家の巨人として知られ、「海戦」「カレの市民」「朝から夜中迄」（各項参照）等は表現派劇の傑作と稱せられて居る。

ドイツ・ゴシック式建築 (German Gothic Architecture)

ゴシック建築時代ドイツに用ゐられた一様式である。フランス・ゴシックの感化を多く受けてゐる。塔を寺院の中央又は兩側に建て、内陣は八角形を半切した如き形で、出入口は南に多く、窓飾は極めて複雑。屋根は多く穹窿であつた。銀細工及ステインド・グラスには立派なものが使用された。ストラスブルグ寺院、コロン寺院等は有名なものである。

獨逸新古典主義 (German neo-classicism)

パウル・エルンスト。キルヘルム・フォン・シヨルツ。等に由て唱へらるる文藝上の一派である。斯主義は外來の自然主義及新浪漫主義を斥け、從來閑却されてゐた國民的要素を高調し、祖國の傳統たる古典主義に歸らんとするにある。在來の文藝は周圍や境遇に支配されて、自由意志を殆んど認めなかつたが、強き意志、自由の

意志を有する偉大な人物を描くところに、偉大な藝術が存すると斯派の人々は説いてゐる。

獨逸彫刻 (German Sculpture)

歐洲に獨逸彫刻が相當名の知られたのは、拾四世紀以來である。拾四世紀には多くの傑作を出し、拾五世紀は獨逸彫刻史の黄金時代とも云ふべく、著名の人々を出した。特にウオルゲムート・ファイ。ストツス。及ファイツシャー一家の人々は、よく知られてゐる。拾五世紀から拾六世紀にかけての傑作も多い。其後不振の状態であつたが、十九世紀に至り、古典様式の感化を受け、相當の大作を見得られる。近代にてはシャドー。キツス。シユワンターレル等が、最もよく知られてゐる人々である。

ドイツ・ルネサンス建築 (German Renaissance Architecture)

ルネサンス建築期、フランス・ルネサンス式に

感化され、ヘンリ四世式が盛んに用ゐられた。其雄大なる建方はエリサベス式に似たところもある。ハイデンベルヒ城。コロン公會堂等は此派の名建築である。

ドイツ・ローマネスク建築 (German Romanesque Architecture)

一〇〇〇年頃伊太利に起たローマネスクの感化を受け、ドイツに起た様式である。北部伊太利ローマネスクに酷似した點が多く、ライン地方に最も發達した。一二六八年頃まで圓形迫持用ゐるが、其後佛國で盛んな穹窿を用ゐた。コロン寺院などは代表的建物である。

頭韻法 (Alliteration)

一行のうち又は二行に涉つて、言葉の頭部に同一文字又は同音字をつける、一種の作詩法である。強い語は一層強い感じを與へ、弱きは一層弱き感じを與へる効力がある。

憧 (Tonging)

何物かに心が誘はれ、思ひそよろに憧れるの心持ちを云ふ。始め情悦と書いたが、樗牛、嘲風等が、此字を改めて用ゐた。

倒裝法 (Hyperbaton)

修辭學上の一法。普通の句を倒さにして文意を強くする法である。例へば「早く行かぬか」といふところを「行かぬか早く」と云ふが如し。

動美 (Active Beauty)

靜美に反し活動せる状態の美で、波濤、風雨、鳥獸等。音樂、劇など之れに屬す。

動物劇 (Animal drama; Animal story)

佛國のロスタンは「シヤントクレエル」を書いて、動物劇の名を成し。英國のヘンリー・ロバートは、動物小説を書いて名を成した。何れも驚くばかり巧妙に、動物の精神を寫實的に描けるものである。

ドウケ——ドクサ

東洋建築 (Oriental Architecture)

東洋建築とは、印度建築、回教建築、支那建築、日本建築等を含むものである。其特色は概して理智的よりも、寧ろ情的であり、裝飾は自由な空想的なものである。

常盤津

豊後節に起原を有つものである。豊後節、初代豊後椽の弟子、文字太夫が一派を起して、關東文字太夫と云ひ、延享四年に常盤津と改稱してから、現今にまで至り、今日に於ても廣く流行してゐる。殊に今日の歌舞伎劇の、所作事音曲としては、飲くことの出来ないものである。主たる歌曲には「關の戸」「山姥」「戻り橋」「釣女」「乗合船」「子寶」等がある。

獨創 (Originality)

作品の上に表はるる、個人的な特徴ある性質である。獨創のないといふ事は、既に型に囚はれ

た類典的作品たるを免れぬ。然し獨創とは單なる風變りを意味するのでない。天才が靈感に由て制作する時、遺憾なく發揮される性質が獨創である。

獨創性 (Originality)

摸倣に相反して、藝術的表現を作者獨特の新意に表はすものを云ふ。

獨白劇 (Mono-Drama)

モノドラマに同じ。(同項参照)

床山 (劇)

歌舞伎芝居に用ゐられる鬘の結び方役をいふのである。床山は鬘に關する、一切の世話をするので、新しい芝居毎に、役者の頭に鬘を當てて拵へる。役者は鬘を頭に鉢巻して、其上に羽二重をつけて頭の格好を堅めてから被るのである。鬘は随分重いものもある、阿古屋の三曲に出る、阿古屋の頭や、助六の揚卷の頭は、二貫

目以上もあるといふ。

土佐派

倭繪の重なる一派である。藤原基光に創められ、盛衰はあつたが今日まで傳つてゐる。四代目藤原經隆の代に、土佐權守となつてより土佐派の名が生れた。鏗倉時代は此派の全盛期で、信實、慶忍、行長、吉光、等有名な畫家を出した。其他春日派から土佐風に移つた長隆、隆兼がある。室町時代は宋風墨繪の全盛期で、此に壓せられて振はず、徳川時代に至て光起の如き大家が出て盛んになつた。今は又餘り振はない。朝廷の繪所を支配したのは、此派と春日派であつた。光長、光信、光起を土佐三筆と云ふ。

トスカ (Tosca)

此はゴオリキーの作で「世界苦」といふ意である。世紀末的、デカダンの傾向の一面を表はした短篇である。チホンと云ふ粉屋の主人が不圖

した事から人生に就て疑を起し、懷疑に捉はれ大ひに煩悶するといふ筋の書である。二葉亭の譯「ふさぎ虫」はこの譯本である。

トスカ (Tosca)

伊太利にて最大と稱せられた歌劇作者、ブッチニの代表的作である。主人公女優トスカがその愛人、警視總監スカルピヤを刺殺すといふ、三幕物の歌劇である。

トライトーン (Tri-ton)

ネブチューンの子、半ばは人にして半ばは海豚の形をなす。貝を吹きて波濤を進退せしむといふ。又下半身を馬の形にも描く、希臘神話の神。

トラピスト派 (The Trappist)

基督教舊教の一僧派である。拾二世紀頃佛國の貴族ベルシユ伯ロトルの創立に由り、拾七世紀ランセーに由て改革され、面目一新するに至

トスカ—トラン

つた。トラピストの稱は、ランセーの居た最初のトラピスト修道院の地名 La Trappe (黒石)より來たものである。

修道院主要の規則は、朝二時に起き、夜七時に退く。日々十一時間を精神的勤行に用ゐる、餘時を勞役に用ゐる。作業中は沈黙を守り、挨拶には「メント、モリ」(記憶せよ、我等は死なざるべからず)を交す。食物は野菜、パン、水等を用ゐる、極端な禁慾生活をなすのである。我邦にては北海道の當別にある。

ドラマチック・ポエツリー (Dramatic Poetry)

劇詩を見よ。

ドラマチック・ミュージック (Dramatic Music)

劇的音樂。標題音樂に同じ。

トランセプト (Transcript)

十字形をなしたゴシック寺院の左右に突出た小さな部分で十字の左右の翼をなすもの。或る寺

トリオ——トロム

院にあつては二個のトランセプトが左右に突出してゐる。

トリオロジー (Triology)

三部曲。三曲をもつて完成する楽曲、或は歌劇で、各曲はそれごとく獨立した性質を有するものを云ふ。

ドリヤ・オーダー (Doric Order)

ドリヤ希臘建築で、イオニヤ、コリントと共に三様式の一である。様式の差は、柱及其の上の小壁や彫形等相違から別れる。此式は最も古く最も簡單である。オリンピックのレーオン殿堂、アクロモポリスのバルテノン殿堂などが代表的のものである。

トルソー (Torso)

肩、胸、胴等を含んだ人体の像を云ふ。此言葉は又、普通頭部と手とを取去つた彫像にも用ゐられる。拾五世紀の末に羅馬で發見され今はヴ

アチカン博物館に保管されてゐる「ベルヴェデーレのトルソー」或は又ナポリにある「ファルネーゼのトルソー」等は、古代彫刻界の最も優れたものである。

ドレスデン派 (Dresden School of Sculpture)

拾九世紀獨逸ドレスデンを中心として起つた彫刻の一派である。リュツチエルは此派の首領で、後年ハツネル。スチリング等著名の作家を出した。

トロムボーン (Trumpbone)

金屬製樂器の中、アルト、テノール、バスの三種に別れ、壯大豪宕な音色を有してゐる。強音を奏し得る事に至ては、管樂中第一である。

トロムベット (Trumpet)

金屬製樂器中、高音部演奏に用ゐられる。形は軍隊喇叭に似て、勇壯活潑な音色で、人を亢奮せしめる所がある。

ドン・キホーテ (Don Quixote)

拾六世紀末、イスパニヤの文士セルヴンテスの作になる小説で、其梗概は或る處に教育のある立派な一紳士があつたが、騎士物語を耽讀して騎士狂となり、自稱騎士となり、ナイト爵名ドンを取て、ドンキホーテと名乗り、騎士修業に出かける。種々の滑稽を演じつゝも、遂に元の人にかへり前非を悔ゆるといふ物語である。

ドン・キホーテ型 (Don Quixote type)

ハムレット型(参照)に對して、之れは何等煩悶もなく、思ふ事をすぐ實行にうつす型の性格を云ふ。ドン・キホーテの項参照。

ドン・ジョヴァンニ (Don Giovanni)

モツァルトの作に成る喜歌劇で、彼の作品中の白眉とされるもので、今に至るまで、滑稽歌劇の模範とされてゐる。ドン・ジョヴァンニが、自分の殺した騎士長の亡靈のために、地獄に連

ドンキ——ドキン

れて行かれるといふ筋である。ゲーテはシルレルに告げて曰く「モツァルトの死後、これと同様の事を豫期するは、空望に屬す」と。

どん底 (The Lower depth)

露國の作家ゴリキーの、四幕物の戯曲である。浮浪者の群男女合せて二十餘名の者が、地下室の木質宿に集つてくる、どん底社會の有様を描寫したものである。其中で意志の強い實行家肌の掏兒ワシカ・ベベルと、寛容な基督教主義を高調する、ルカ老人を出し、ベベルに由て初戀を知つた宿のおかみさんの妹ナターシャと、ベベルに悪縁のあるおかみさんワシリサの間の戀の争闘を中心に、二人を對象して描かれてゐる。其處へ技師上りのサチンが出て、ルカ老人の消極的な無抵抗主義を、サチンの積極的な自我主義と對抗せしめてゐる。

ドキノロヂイ

ドキユ——ドリ

神に奉る讚美歌。教會音樂參照。

ドキユメント (Document)

文書。書類。

ドクトリン (Doctrine)

教義。教旨。教理。主義。

ドグマ (Dogma)

獨斷。教理。

ドグマティスト (Dogmatist)

獨斷家。

トードダンス (Toe-dance)

指先舞踊。足指先で体の平衡を取つて踊る。

トニック (Tonic) (音)

主和絃。主音。

トピック (Topic)

題目。話題。話柄。

ドライ (Dry)

趣味なき。無味乾燥な。酒なき。

トライアングル (Triangle) (音)

拍撃樂器に屬する、三角形の金屬管で、鈴の如き清澄なる音を出す。

トラチデー (Tragedy)

悲劇。劇の筋が、如何に華かで、幸福であつても、其終末が不幸に終つて居るものは、トラチデーである。

ドラマ (Drama)

劇曲。脚本。芝居。

ドラマティック (Dramatic)

劇曲的。お芝居的。

トリオ (Trio) (音)

聲樂の三重唱、樂器の三重奏。

ドリーム (Dream)

夢。幻想。夢想。

ドリーマー (Dreamer)

夢想家。夢見る人。實行する力量なくして、徒

に空想にのみふけて居る人。

トロウメライ (Traumerei) (音)

夢幻曲。

ナ

内容 (Contents)

形式に對比して用ゐられる。或る一事物の内部に含める實質、又は其事物の含める意味を云ふ。藝術品から云へば塑像の鈞合とか、統一とかは形式で、其愛國心、剛健の様、等即ち藝術家が、作品を通じて現はさんとする精神を云ふのである。

内容美 (Inhaltseschön) (獨)

トロウ ナガウ

比例、調和、對照、統一等の形式美に對して用ゐる言で、作品それ自身のもつ感情とか、力など云ふべきものである。

内面描寫 (Inside Description)

人の内的生活、即ち精神狀態、心理狀態、氣分等を描く事。人物の外表面描寫等に對比して用ゐる言である。

長唄

現今最もよく流行する歌曲として、又家庭的唄ひ物として擴く行はれる。流祖初代勘五郎は、寛永元年江戸に出て、中橋廣小路で歌舞伎狂言を興行し、姓を中村と稱んだ。長唄と稱へ出したのは五代目喜三郎からで、その後流行につれて流派も多く分れた。

主なる歌曲として、數ある中にも昔から飽かれぬものに、「勸進帳」「吉原雀」「道成寺」等あるが、時流は次第に華麗な章句や、賑かな合の手

ナ ナ ナボリ

に飽き足らず、意味の一貫した語り物を好むやふになつた。古いものには「西行時雨」「綱曲」「舟辨度」等、新曲では杵屋流の「新曲浦島」「楠公」吉住派の「紀文大盡」「鳥羽の戀塚」等が流行を極めてゐる。現今の長唄名家には、杵屋六左衛門。芳村伊三郎。吉住小三郎。富士田晋藝(以上唄)猿若山左衛門。杵屋六四郎。杵屋藤三郎。(以上三絃)等がある。長唄には御囃子と稱して、太鼓、小鼓、笛を加へて、三絃と共に合奏するを普通とする。

ナ ナ (Nana) (佛)

佛の作家エミール・ゾラの作品中「居酒屋」とともに最も高名なもの。淫蕩な家庭に養てられた美貌の女優ナナが、巴里の上流社會を舞臺として、其の周圍に群り来る種々な人々を奴隸の如く翻弄し金品を捲上げて豪奢な生活の裡に淫亂の限りをつくして一生を送ると云ふ筋を露骨

に描寫した一篇で自然主義作品の代表的なものである。

何もない國 (Where there is nothing)

愛蘭のウィリアム・バツラー・イエーツの、神秘思想劇の代表的作品で、五幕ものの散文劇である。有福なポール・ラツトレツチは、俗習に飽き無一文で、流浪の鎬かけ屋となつて漂泊。途中で「何も無いところに神がある」といふ信仰を抱いて宣傳したが、同宗者に追はれ遂に石で打殺される。

ナボリ畫派 (Napulitan School of Painting)

拾七世紀頃の一畫派である。サンワルド・ローザ、リベツ・ジュゼベ等は其主なる作家で従來の畫風に反し、寫實的な傾向を持てゐた。

ナボリ樂派

カバリ ツエスチーの兩樂家が、ベニス樂風の器樂的理想を繼承して、ナボリ樂派を成すに至

た。元來はそれよりも古く十五世紀頃からあつたが、傑出した樂家を出す程の進歩をしてゐなかつた。主なる樂家としてはアレクサンドロ・スカラチ(一六四九—一七二五)及其の弟子達がある。スカラチ様式と、バレストリナ様式が此派の傑出したものである。

奈落移動舞臺 (The sliding stage in the basement)

日本歌舞伎の「せり上げ、せり下げ」式舞臺装置と同種のもので、舞臺奥行を前、中、後三段に仕切り、何れも自由に上下の出來る構造である。前の舞臺を(又前と中とを合せて)使てゐる間に、後段舞臺を奈落に下し、新裝しておく。幕が下ると同時に、使用済の舞臺裝飾を天井に上げ、残りは奈落に下ける。其後へ豫め新裝した舞臺が上つて、前へ押出されるのである。又前、中、後三段を同時に、離段式に飾つて、建物の背後に層々高まつて行くテラッセなどを見

ナラク ナンブ

せ得る。ブレットシュナイデルは、此を屢々維納の帝室劇場で用ゐた。(Breitshneiders Version Kullme)アメリカのスーチルマツケーの(Elevator stageエレベーター式)アーサー・ホプキンスの(Swingstage廻轉式)といふのも、此と同種のものである。

南蘋派

享保年間に來朝した支那畫家、沈南蘋から傳つた、寫生花鳥畫の一派を云ふ。長崎の譯官熊代繡江は、沈氏最初の門人で、其子斐文、鶴亭、宋紫石、蘭齋、諸葛監等は、盛名をうたはれた。近世の應舉、岸駒、狙仙、若冲等の諸大家も、沈氏の影響を受けてゐる。文晁の如きも寫生に成るものは、南蘋の畫法を研究したと傳えらる。近世花鳥畫に多くの傑作を産したのは、一に南蘋派の巧によると云ひ得る。

南部伊太利ローマネスク建築 (Southern Italian Roman)

ナンブ ナンム

nesque Architecture)

一〇〇年頃から南部伊太利に用ゐられた様式で希臘、亞弗利加に近いだけ其影響も蒙り、又回教寺院の感化もつけた。シチリヤのモンリール寺院は、代表的建物である。

軟文學 (Light literature)

硬文學に對比して云ふ言で、小説、美文等の比較的軟かい感じのする文學を云ふ。

ナイーブ (Naive) (佛)

「天真なる」との意。自然なる、朴素なる、飾りけなき、生れしままにて少しの人爲も加へざる意に用ふ。

ナシヨナリズム (Nationalism)

國家主義と譯す、其項を見よ。

ナシヨナリティー (Nationality)

國體又は國民性を云ふ。

ナツシング (Nothing)

何も無い。非實在。

ナチュラル (Natural)

自然の、自然的。生れながらの、人工を加へざる。ナチュラル・チャイルド (Natural child) は私生兒。

ナチュラリズム (Naturalism)

自然主義と譯す。其項を見よ。

ナレッヂ (Knowledge)

智識。學問。

ナロー (Narrow)

狭い。局限する(意見、議論などを)ナロー・エスケープ (Narrow escape) は「やつと、助かつた」と云ふ様な意。

ナンバー (Number)

數。數字。詩の律格或は律韻。

ニ

ニイベルンゲンの指環 (Der Ring des Nibelungen) (獨)

ワグナーの作に成る歌劇。ニイベルンゲンの歌を骨子としたものである。四段よりなる劇で、
1. ラインの黄金。2. ワルキューレ。3. ジイグフリード。4. 神々の黄昏。に別れてゐる。

ニオベ (Niobe)

希臘神話にある、シーブス王アンフィオンの妻で、拾二人の子供を産んだのを誇り、レトオ女神の祭祀の場に行き「女神は僅かに、アポロ、アルテミスの子を生みしのみ」と罵つた。それ故神怒に觸れて、十二子は殺され其身は石に

ニイベ——ニゲン

化せられた。石になつても猶子を失たことを悲

しみ、涙を流してやまなかつたと傳えられる。

其子供達の悲劇的な運命は、往時美術家の好題材となつた。而して此等の作品中、最も有名なのはスコーバスの作つた、群像彫刻である。

錦畫

江戸に盛んであつた木版刷の浮世繪である。錦の如く色彩が美しいところから錦畫とも云ひ、又江戸畫とも云ふ。濃淡種々の色彩をもつて、武者、俳優、遊女等を描いたものが多い。

肉感派 (Freshly School)

ビュカナン等がロセツタイ一派の P.R.B. に呼んだ名である。此派の詩人殊にスインパアの如きは、その情熱奔放激越といふ調子で中庸を尊ぶ英國の一部の人から非難されて此の名を稱ばれた。

二元論 (Dualism)

ニホン——ニンゲ

宇宙一切の現象を、二個の異つた本体に歸し、二者の關係に由て、凡ての現象を説明せんとする説である。例へば宇宙を精神と物質とに解するが如き、或は善惡の二元より宇宙を説明せんとするが如きを云ふ。一元論に對比するもので此には超然的二元論、内在的二元論、認識論上の二元論、宗教道德上の二元論等の別がある。
日本美術院

明治三十一年、岡倉覺三、橋本雅那等に由て創立された美術研究所である。横山大觀、下村觀山の二人は其中心畫家である。毎年展覽會を催して現在に至る。

鏡ミライ

佛教の儀式に用ひる樂器、鈴の如くで舌は無い。今鉢に混して鏡鉢と稱し相觸れしめて鳴す。

ニユード (Nude)

裸体。人体美を最も有効に、又徹底的に表現せ

んとするものである。又裸体畫、湖像そのものをもニユードと云ふ。(裸體美術參照)

人形の家 (Toll's House)

イブセンの作に成る問題劇である。ノラといふ因習的な夫人が、やがて自己に目醒めて、今まで美しい家庭と思つてゐた家が「人形の家」であると覺り、人間としての完成をしたい目的を以つて家を出るといふ筋である。

人間美 (Human Beauty)

これは人間の外的生活乃至物質生活に表はれる外形の美ではない。其は自然美に屬すべきものである。こゝは人間の内的精神的生活に表はれる、親子の情とか兄弟、友人、男女の關係等に於ける人の純真なる心情等に限るのである。人間の精神美と云ても知識と意志は其自身のみで、美の對象とはならぬから、從て人間美とは、人の感情中に表はれる美であると云ひ得る。此には

悲哀美、可憐美、滑稽美、悲壯美等に別ける事が出来る。

認識論 (Epistemology)

認識の起原、本質、範圍、及其確實性等を研究する、哲學の一分科である。其重なる論は實在論、觀念論である。又經驗論と純理論は認識の起原及其真正に就て研究する。

ニンフ (Nymph)

希臘神話の水の精。薄衣を纏ふた女神として表はされてゐる。往昔から泉はこの女神の禮拜所とされてゐる。

ニツク・ネーム (Nick-name)

綽名。日本にて綽名と云へば多少嘲笑的な意味を含んで居るが、ニツクネームは、親しみの意味を以て、よばれる時に用ゐられるので、例へばジョン(John)をチャツク(Chad)と云ふが如きである。

ニンシ——ヌメ

ニヒリズム (Nihilism)

虛無主義を云ふ。

ニンフォメニヤ (Nymphomania)

婦人の色情狂、慕男狂。

ヌ

ヌウヴェル (Nouvelle) (佛)

中篇小説。(同項參照)

ヌウエリス (Newellise) (佛)

新奇を衒ふ人。新らしいものばかりを、追廻してゐる人を云ふ。

絹ヌイ

極めて光澤のある絹織物で、書畫用が重である。廣くは用ゐられてゐないが、畫の方では文人畫

ヌーボ——ネオロ

風の聲に用ゐられてゐる。

ヌーボ—式 (Nouveaux) (佛)

アール・ヌーボ—。即ち新藝術。アール・ヌーボ—の項参照。

ヌボーリシユ (Nouveaux riches) (佛)

成金。俄富限者。

ネ

オネ・アイデアリズム (Neo-Idealism)

新理想主義。哲學上のそれは普通、オイケンの精神生活の哲學を云ふ。オイケンの新理想主義は、自然主義、主知主義、現實主義に反抗し、精神生活の世界即ち、超感覺的、超個人的、普遍的、必然的價値の世界を實現するのである。

而もオイケンに於て此精神生活の實現は、個人としての個人でなく、人格の自由な活動の産物である。歴史の舞臺に於てのみ可能である。此等の價値の世界と、人格の自由と、歴史との三つは新理想主義の哲學に於て、最も重要な三中心概念である。

ネオ・グリーク (Neo-Greek)

新希臘式。古代希臘の藝術様式と題目とに、近代的情操を注入しやうと試みる、美術家の繪畫の様式である。

ネオ・ローマンチズム (Neo-Romanticism)

新ローマン主義。

拾九世紀後半は物質主義若くは科學的精神が高潮に達し、自然主義文學の全盛時代であつた。然し最近科學は吾等人生の全部を解決するに足ざる事が證せられ、今迄の文學の立場、背景自が破られてしまつた。於此、自然主義に反して

起た、主觀的、主情意的の傾向をおしなべて云

た言である。此は思想界一般の傾向なるも、文學に就て云へば、科學の説明する世界が全部でなく、靈的な、神秘的な世界がある、其に進み其を描かんとする文學で、一言にして云へば靈の覺醒から出發した文學と云へやう。即ち拾九世紀前半の浪漫主義が再現したのであるが、自然主義を通過して來た結果、前の浪漫主義の如く夢のやうなものでなく、現實の世界に根底を置く點が異つて居る。

ネザ—ランド樂派 (The Netherland School)

一四六〇年から一五六〇年間に隆盛を極めた音樂の一派である。此樂派の發展は急速に歐洲全体に普及し、其母校巴里樂派よりも重視されるやうになつた。十五世紀の中葉頃、多數の音樂教師を、伊、佛、獨、西、等の諸國に派遣して學校を建設した。廣く一般民衆を目的としたの

が、此樂派の成功した所以である。

鼠の塔 (Tower of Babel)

獨逸ハーメルンの塔は、鼠の塔として有名である。昔ビスチュラ河畔の、フランクフルト市に澤山の鼠が生じ、猫を食ひ、人をも食ふ有様であつた。その時或笛吹の放浪者が、笛の音で鼠を誘ひ出し、ビスチュラ河に飛こませて殺したといふ、お伽噺から出たものである。英國の詩人ブラウニングの作に、此を題材にしたものがある。

涅槃 (Nirvana)

梵語にては「ニルワナ」。圓寂、寂滅、入滅等の意である。大乘にては迷の道から脱れ、功德を圓成し、不生不滅な法身の眞證に歸する事を云ふ。又小乘にては三界の煩惱を切り放心無爲に歸する事を云ふ。

「來れ、此地の天日にこよなき法の言葉あり、

ネザ——ネハン

ネチーノウガ

親しみ難き炎上の無言に沈め、汝が思かくての後は、濁世の都さして行くもよし、物の七たび涅槃に浸りて澄みし心もて」

ネプチュウン (Neptune)

希臘名ポセイドン (Poseidon) 水の意。三尖の槍を携へ、金毛の白馬に戦車を牽かしてこれに乗り。宮殿はユーペア島海の底にありと信ぜられてゐる。

「海王星」を稱ぶに此名を以てする。

ネガチイヴ (Negative)

否定 (Positive) の反対。

ネーチュア (Nature)

天性。女性。自然。天然。

ノイム記譜法 (Neim method)

記譜法は古來希臘に於ても、中世に至ても、文字記譜法にて、初めはJを除いてA以下十五文字を用ゐたが、ポエシウスが之を改修して、AよりGまでの七文にした。大文字は始めの一八音間の音域を示し、高き一八音間は小文字を用ゐる、更に高音部はa b b e e の如くにして之を示した。これをノイム法といふ。

能樂

散樂の餘流から出たもので、應永の頃、足利將軍時満の時、觀世阿彌の創めたものと傳えられる。最初は神前技であつたが、當時各種の舞法

と音樂を參酌して、後に將軍家の式樂となつた。

囃子には笛、小鼓、大鼓、太鼓を用ふ。之は演劇發達の初歩たる單純な形式で行はれるが、簡古、優雅な趣味を有つと稱せられる。又之に伴ふものは謡で、神話、歌書、軍記等より材料を取り、古句を蒐めたものである。脇能、修羅物、鬼事、神能、狂女物、祝物等に別れ。高砂、八島、安宅、隅田川、狸々等は其名曲である。能樂の家筋として有名なのは觀世、壽生、今春、金剛、喜多等の諸家である。最近我國に於て其劇的價値を認められ、識者の間に研究される様になつたが、既に歐米に於ては、劇として卓越せることを認められ能樂に關する大部な研究書が著述されて居る。

能狂言

能樂の間に行はれる諧謔を主とした狂言である。大藏、鶯、和泉等の諸流がある。

ノウキ—ノカモ

能舞臺

能樂を行ふ舞臺である。普通は三間四方、橋掛五間のもので、仕手柱(仕手が立止り又語り出すところ)、名乗柱(仕手の發言する所)、後見柱(後見或は間の着座する所)、目附柱(仕手の物言ふ時に目標となる柱)等が其中にある。舞臺が主なる部分で、其脇には謡座があり、後に囃座がある。橋掛は芝居の花道に當るもので、其裏に役者の衣裳を取換る鏡の間がある。嚴島神社、西本願寺書院のものなどは有名である。

野鴨 (The Wild Duck)

イブセンの寫實から象徴に移る一轉機となつた象徴劇である。寫眞師ヤルマイル・エクダルの家庭は、其祖父で不幸な老人と、ヤルマイルの妻ギーナ——彼女は豪商ヴェルレルの下女であつたとき、不義な關係をつくつて後この妻になつたのだ——と、ヴェルレルとギーナの間

ノクチーノローベ

出来た可憐な少女ヘドウィヒと、一家の人気物野鴨とから成てゐる。偽でありながら平和の家庭である。其處へ醫師レリングとヴェルレルの息子グレーゲルス——ヤルマールと學友である——が現はれ、前者は卑しい現實主義を、後者は似而理想主義を振廻し、一家の平和を攪き亂して、遂に無邪氣なヘドウィヒを死に到らしめる。といふ寫實的象徴劇である。

ノクマーン (Nocturne)

夜景畫。元來は音楽上の言葉であるが一群の近代畫家は其の描寫した作品に此の名を用ひてゐる。夜景の印象を表現したものである。

ノクターン (Nocturne)

夜曲。幻想的な浪漫的な又感傷的なピアノ曲にフィールドが此名を稱えたに始まる。然し何も定つた形式はない。シヨパンの作には此曲が極めて多くある。

ノートル・ダム (Notre Dame de Paris) (佛)

佛蘭西ゴシック建築の、四大作の一と稱せられるものでパリにある。一一六三年法王アレキサンダー三世によりて礎石が置かれ、拾三世紀に至て完成したものである。ユーゴーの小説に此名を冠したものがあつた。

ノーベル賞金 (Nobel Prize)

スエーデンの發明家で、又慈善家ゼ・ビ・ノーベル (N. F. Nobel, 1833-1896) は、火藥の發明から巨萬の富を積むに至したが、死後其遺言に由て、遺産を世界の學術奨励金に充てられた。毎年その利金に由て、理學、科(化)學、醫學、文學、平和に特別な貢獻をした人に、賞金として各八千磅を與へられる事になつた。文學賞受領者を年代順に記せば「シュリー・ブルトナム(佛)一九〇一年」「デー・ハー・モムゼン(獨)一九〇二年」「ビヨルンソン(諾)一九〇三年」「ミストラル(佛)

エチエガレイ(西)一九〇四年」「シエンギユウイツチ(波)一九〇五年」「カルツツチ(伊)一九〇六年」「キツブリング(英)一九〇七年」「ルドルフ・オイケン(獨)一九〇八年」「ラーゲルレフ(瑞)一九〇九年」「パウル・ハイゼ(獨)一九一〇年」「メーテルリンク(白)一九一一年」「ハンブトマン(獨)一九一二年」「タゴール(ベンガル)一九一三年」

ロマン・ロオラン(佛)一九一五年」「ハイデンスタム(瑞)一九一六年」「トロールスラン(丁)一九一七年」「スピツレル(瑞)一九一九年」「クヌート・ハムスン(諾)一九二〇年」「アナトール・フランス(佛)一九二一年」「ペナヴェンテ(西)一九二二年」「イエーツ(愛)一九二三年」「レイモント(波)一九二四」

ノルマ (Norma)

伊太利の作曲家ベルリニの、代表的作歌劇である。尼僧ノルマが、羅馬の領事と通じて、子供迄

ノルマ——ノヴェ

生んだが捨てられたことを恨み、全部を告白して宗法に従ひ、男と共に火刑に處せられた。

ノルマン建築 (Norman Architecture)

ノルマン人の英國侵入より、拾二世紀末まで英國に用ゐられた建築様式である。戸口及窓は頭圓で、屢々いくつかの裝飾帯で飾られてゐる。アーチは常に圓形である。柱は太く圓形が多角形である。柱頭は重く大きく頭像又は唐草が彫られてある。此様式は大休の感じから云へば、重い陰氣な建物である。それ故か此建築物の大多数は、改修されたり或は破壊された。ロチエスターの本堂、スミスフィールドの聖バルトロメオ教會等は、好適例である。

ノイズ (Noise)

音、騒動。音楽的でない音。雑音。

ノヴェレット (Novella)

中篇小説。(同項参照)

ノーテ——バース

ノーティス (Notice)

注意。揭示。通知。

ノーブル (Noble)

高貴な。貴族。

ノンセンス (Nonsense)

無意味。馬鹿氣たる。非常識。

ノーマル (Normal)

正規な。常態の。

ハ

ハアキユリーズ (Hercules)

希臘の模範的英傑であつて、功績が極めて多い。瑞典のハアキユリーズ。猶太のハアキユリーズ

など稱して、諸國の英傑にしてこの譽ある名稱を得たるものが多い。

バアシユース (Pegasus)

事蹟ハアキユリーズに似てゐるので「アルゴスのハアキユリーズ」と稱せられて、神話中最も有名な一人である。メヂューサの首を得るために三器を授けらる。闇隠れの兜を與へたのはブルトリーの意より出で、鏡はミナアヴ、劍はマアキユリー(又ヴルカン)之れを與へたと云はる。

バラスト (Ballast)

胸像。人体の上部即ち首、肩、胸、肘の邊から上の腕、等を表はした繪畫、彫刻、彫版を云ふ。肖像のバラストは手を除いた身体の上をを表はす。彫刻のバラストで上胸部の裸体にされ、双肩が切捨られたのは、古代風と稱せられて、近代では腕の幾分を表はし、下胸部は外衣で覆れてゐる。

バアセゴード (Passepied) (佛)

三拍子又は六拍子の、古い佛蘭西舞踊。

俳畫

「俳話」「發句」といふ言葉は古くからあつたが「俳句」と稱れたのは近代であると同じく「俳畫」も又近代の名稱である。それは俳句趣味の畫といふ意に用ゐられる。蕪村、月溪等の匆匆たる洒落の畫を、今日では俳畫の好典型としてゐる

排主觀

自己の主觀を排するの意。即ち事物の描寫に自分の感じ、氣分を排し、第三人者の立場から、客觀的に事實の有の儘を描かんとする態度を云ふ。自然主義文學は此排主觀を、特徴の一にしてゐる。

鳥瞰圖 (Bird's eye View)

高處より見下したる如くに物を描した圖。一群の建築物、廣汎な風景等を包含するに、此方

ハアセ——バイン

法を用ふ。視點は諸物件の上にある。

ハイマートクンスト (Heimatkunst) (獨)

郷土藝術と譯すべき獨逸語其の項を見よ。

背景 (Background)

繪畫に於ける背景は、描かれた人物又は事物の後に擴がるスペースを云ふ。背景の扱方に種々ある。バンダイク。タイタン。レムブランド等の如き古代畫家は、たゞスペースとして表はし、暖かい色彩を用ゐた。近代畫家は背景を極めて重要視し、オブセクトと共に精細に描くやうになつた。

バイブル (Bible)

基督教の教典で、希臘語の BIBLOS (書物) より來た語である。舊約、新約の二卷に別れ、舊約はキリスト降世前の、ユダヤ國の教典で三拾九卷より成る。其内容は宇宙創造、歴史詩歌、預言、格言集等である。新約はキリストの傳記(四

ハーイー—ハクフ

福音書)使徒等の書翰黙示等で二拾七卷より成る。舊新兩約六十六卷の記述された最古のものから、最新のものに至る年代は約一千五百年間。これを記述した人は三十六人餘。王侯、豫言者、官吏、牧者、百姓、漁夫等凡百階級の人達である。

ハイ・レリーフ (High relief)

高肉彫。平な彫刻材に殆んど圓刻(其項参照)の如く高く突出してゐる浮彫。バルテノン(メトープ)は其代表的のものである。

法悦 (Ecstasy)

英語のエクスタシーに當る言葉で、信仰の強い人が神に我身の一切を任せて、恍惚と忘我の心境に入る事。即ち信仰より來る心の悦びである。

鏡技

凡てを模倣する原義である。轉じて今日では演

劇上の表現の一にして、凡て身振りを以て現はし、特に音楽に合せて動作するものをいふ。

博愛主義 (Philanthropy)

トルストイ等の主唱した人道主義的な主張で簡人が社會のために犠牲となり、人は他のために生きる、其處に眞の幸福があり、斯くする事に由て地上に天國が現出するといふ。純然たる基督教道徳を信奉する主義である。

博物館 (Museum)

文學、美術、科學、古物の珍品等を蒐集して公衆の觀覽に供する所で、美術館をも其中に含む。世界の重なる博物館を擧ぐれば、伊太利にはヴァチカン博物館。スイスにはウツファイツイ博物館。ナポリ大博物館。ミラノのブレラ博物館等あり。佛國には世界有數の、ルーブル博物館。近代美術品を多く集めたるルクサンブルク博物館。トラカデロ博物館。又フランス歴史畫

に富むヴェルサイユ博物館等がある。獨逸にはドレスデンのツェンガー博物館。ミュヘンのグリプトテーク博物館。ピナコテック博物館等あり。英國にはロンドンに、拾八世紀の設立になる世界最大の「英國博物館」。オックスフォードのアシモレーン博物館。工藝品で有名なサウス・ケンシントン博物館等がある。米國にてはボストンの美術博物館。ワシントンの國立博物館等がある。其他ベトログラード。マドリッド。アゼンズ等にも有名な博物館がある。又埃及カイロには、埃及の遺品を集めた有名な博物館がある。日本にては東京、京都、奈良に帝室博物館がある。

バジリカ (Basilica)

羅馬時代には裁判其他公事用の建物であつたが四世紀後基督教寺院の稱呼となつた。

パストラル (Pastoral)

パジリア—パツア

牧歌。田園詩。牧歌劇。田園より題材を取つた樂曲。田園生活及其景色より題材を取つた背景的なカンタタ、或は之をパストラル・オペラ Pastoral Opera とも稱す。

繪畫

此繪は奈良朝の古様を傳えたもので、河成と畫統を等しくするものであらふと云はれてゐる。後冷泉天皇の治世延久頃、秦致貞なるもの法隆寺に於て、佛畫を作つた。其作品と傳へられる最も有名なものは、聖德太子一代の行狀を、畫殿の壁に描かれたもので、今は屏風に貼り、宮内省に保存せられてゐる。其他法隆寺網封藏中現存の佛畫に同人の筆と見るべきもの多くある

パツア派 (Paznan School)

拾五世紀頃伊太利にて、フランチェスコ・スカールチオネに由て創められたる畫派で、古代大理石彫刻の影響最も顯著なるものがある。

バグパイプ——ハナミ

バグパイプ (Bag pipe)

風笛。東洋に生れ、西歐に發達したもので、特に中世紀に用ゐられた。英國にては今も猶使用されてゐる。此樂器より名を取つた舞踏曲がある。

パッション・アンド・パッションミュージック (Passion and Passion Music)

受難劇及受難樂を参照。

摺り絵小説

明治二十五年頃、一傾向のある小説で、當時硯友社の軟派に對して起つた剛健、義俠、勇壯の男性美を描いた江戸時代の俠客を、當代に復活させたやうな小説である。浪六はその代表的作家である。

パドヴァ畫派 (Paduan School of Painting)

ルネサンス期の一畫派である。ヤコブ・ヘンリニ。アンドレア・マンテナ等が著名なる作家である。

花道 (劇)

我國の劇が、歌舞伎に、歌舞伎が能に、その起原を有つたため、芝居の舞臺も能舞臺を模倣したものである。それ故花道も、能舞臺の「橋がより」から變化したもので、現今のものが用ゐられる様になつたのは、延寶五年以後のことである。花道は日本演劇の、唯一の誇りとも云ふべきもので、使用されてゐる二三の例を示せば、木花道を川と見て、假花道を岸と見た「野崎」の幕切れ。兩花道を吉野川の兩岸と見た「妹背山」の山の段。人物が假道から正面の「歩み」を通じて木花道に掛る間に、舞臺が景色を轉換する技巧(今の「沼津」の場合、「切れ與三」の木更津)等の如く、所謂「幕外の引込み」(この場合は花道だけが一の舞臺を形造る)の巧妙な使用法に至ては、世界何處の劇にも、その類例を見ることの出来ないものである。

パネル畫 (Panel-Painting)

畫布に描いたのでなく、木板又は鏡板(パネル)に描く畫で、古い時代に用ゐられた。色石や硝子の斷片を以て作れる、モザイク畫(参照)に對して用ゐられる名稱である。

壇輪

古代墳墓の周圍に埋められた、人形、獸、鳥等の陶製のもの云ふ。史書に由れば垂仁天皇の御宇、共に葬らるる殉死者を憐み、其風習を廢するやう詔せられ、以來殉死は禁じられた。後その皇后日葉酢媛の薨せらるるや、野見宿彌の獻策を用ゐられ、土偶を作つて殉死者に代へられた。此が壇輪の始で大和、武藏、上野、下野等の諸國より發見される。

パノラマ (Panorama)

中央を觀覽場として、適當な空地を距てた周圍の側壁に、全面一幅の大繪畫を掲げる。觀覽場

パネル——パネル

ハバネラ (Habanera)

キューバ島の民謡であると云ふ、西班牙舞踊の曲に用ゐらる二拍子の舞踏。

ハーブ (Harp)

堅琴。普通のハーブは四十六絃を有し、ペタルがあつて自由に調子を變ずることが出来る。往々オーケストラに用ゐられる。

バベルの塔 (Tower of Babel)

舊約聖書創世記にある記事で、太古ニムロデと稱する大勇士は、天にまで達する塔を建てやうと企てたところ、神怒にふれて塔は破壊され、民は諸地方に散らされ、國語は混亂せしめられ

バーム——バラツ

た。バベルとは「亂れ」の意で、神が民と言語を混亂せしめ給ひしに由て、此名が出たのである。

バーム (Palm)

棕櫚。裝飾美術に用ゐられるものである。勝利の象徴として、戦勝紀念標等には必ず用ゐられる。古典藝術にても、同じく勝利の象徴として、又基督教藝術に於ては、殉教の表徴として用ゐられる。

ハムレット (Hamlet)

沙翁の作で四大悲劇の一である。其梗概は、デンマルク王は其妃と一子ハムレットを残して急死した。妃は二ヶ月も経たぬ間に王弟と結婚した。ハムレットは父の死因を疑ひ、父の亡靈に會て王弟と母とが父を死に至らしめた事を知た。王はハムレットを國外に放逐せんとする。ふとした機會から彼の戀人の父を刺殺し戀人は狂女

となつた。間もなく戀人の兄が歸國して、競技に

かりて父の仇を討たんとする。競技場にゐる母は改悛の餘り、毒杯を飲み、兩競技者も死ぬ計りに傷いた。其時一切の悪計は暴露し、ハムレットは父弟の胸を刺して、共に死ぬのである。

ハーモニー (Harmony)

調和。美學形式法則の一。元來は音から生じた事で、一オクターブをおいて、同じ音を同時に開けば、二音が一緒になつて快よく感ずる。それをハーモニーと云たが、現今では形態、色彩などにも用ゐる。

パラダイス・ロスト (Paradise Lost)

失樂園(同項参照)創世記の人類墮落の記事を題材にした、詩聖ミルトンの一大抒情詩である。

バラッド (Ballad)

元來は物語歌といふ意の文學語であるが、音楽上初めの頃は、樂器を奏して歌ふ、短かい單純

な物語歌を指して云つた。現今は普通の器楽曲の題目に用ゐられてゐる。

ブランヌ (Blanche)

釣合。均衝。(其の項を見よ)

巴里樂派 (Paris School of Music)

ハックバルドのオルガヌムが巴里に移入されて茲に根底を築き非常な隆盛を見るに至つた。ノートルダム寺院の神學士、僧侶養成の課程にはラテン語を以て音楽も課せられた。皆此樂派の人々で、専攻者をも輩出した。

此樂派の發展には大凡四期ある。第一期、一〇〇〇年——一四〇〇年間、専ら音譜及音價を確定するために努力した時代である。主要作家にはレオニンがある。第二期、一四〇〇年——一七〇〇年間、進歩の時代である。ペロチンの寺院唱歌集が盛んに用ゐられ、ノートルダム寺院唱歌長、ロバート・デ・シャピロンに至る。作

モラン——パリス

家としてジェーン・デ・ガアラントがある。第三期、一七〇〇年——一七三〇年間フランコ時代とも云ふ。二人の優秀なる樂家があつた。共にフランコと云ふ。一はFranco of Parisと稱し、今一人はFranco of Prunusと云た。第四期、一七三〇年——一七七〇年間、新音樂時代である。フランコ時代を古樂と稱ぶに對して、新樂Ars Novaと云た。新音譜を用ゐたからである。主要作家にはワイリツプに次で、ジェーン・デ・モリスがある。モリスは音楽上三拍子ある事を唱へた人である。

パリス (Paris)

希臘神話にあるトロイ王プリアムの第二子である。幼時山に棄てられ、或牧者に拾はれて成長した。ミネルバ、ジュノー、ヴェナスの三女神が其美を競ひ、黄金の林檎を争つた時、其審判者となつてヴェナスを勝たしめ、後ヴェナス

バルカー—パル

に伴はれて希臘に行た。スパルタ王メネラウスの歡待を受けたが、去るに臨んで王の後宮ヘレナを盗んで歸つた。此が基因となつて十年に亘るトロイ戦争が起た。此間淫樂に耽り、僅かにアポロ神の力を藉りて、敵將アーキレスを射殺したのみで、落城後重傷を負ふた。捨てられた舊妻イノーネの許に走つたが、斥けられて死んだ。

バルカロール (Barcarole) (音)

船唄。ヴェニススのゴンドラ船の船子が唄ふ歌、ゴンドリヤに同じ。其他この調子に似せて歌ふ、6/8調曲の獨唱、獨奏を云ふ。

バルテノン (Parthenon)

アテネのアクロポリスにある、ドーリヤ式の殿堂でアンナ・バルテノスを祀るために、前五世紀ペリクレスの治世に、イクチヌスの設計に依つて、十年間の歳月を費やして成た大理石の殿堂である。中には金と象牙に由て作られた有名な

バルテノス女神の立像がある。

バルナツシアン (Parnassian)

高踏派。(同項参照)

ハルレ詩社

拾八世紀中葉、獨逸に起た青年詩人の一群でその多數が、ハルレ大學の同窓であるところから此名が出た。

バレエ (舞踊) (Ballet)

舞踊は十六世紀頃、伊太利に起り、西紀一五八〇年にフランスに入り、ミカノオ、ノオブレエ、サン・アンドンの如き多くの名手を出した。舞踊の舞踏と異なる點は、單に音に伴れて動く拍子のみの旋律をもつのみでなく内容のある劇的動作が含まれるのである。

しかしてバレエはオペラの中に默劇 (Pantomime) として挿まれ、今日迄の歴史を有して來た。

バレレスク (Barresque)

元來は佛語で「冗談の」との意なるも、現今米國などにて流行する、下品な諷刺的な、喜歌劇の名稱となつてゐる。

バ・レリーフ (Bas relief)

薄肉彫。平な彫刻材に物の形を浮出して彫たもの、其程度が高肉彫よりは低い。

パレット (Palette) (佛)

調色板。洋畫家の繪具を混交するに用ふもので普通胡桃又は梨の木の薄い板で造られてある。拇指を通す穴があつて、方形橢圓形等の形がある。之れは屢々繪畫のシンボルとされて居る。

バロック建築 (Baroque Architecture)

文藝復興期後に興つたもので、主に拾七世紀に用ゐられた建築様式である。此建築は對照の烈しいものを用ゐる、構造や材料には無關係に形式の變化を求め、幾何學的形式は甚だ複雑したものをを用ゐた。又建物の正面を過度に重要視し、他

とは獨立の構造をとつて盛んな裝飾を施した。

此様式はルネサンスより出たものであるが、如斯異なつてゐる。要するにルネサンスの美と、調和と云ふ點に飽きて、其以上の力を求めると同時に、形式の複雑を望み、却て全体としての價值を低下せしめるやうになつたのである。

バロック裝飾 (Baroque Ornament)

裝飾美術上の一術語で、豊富といふ感じを表すことにのみ留意され、複雑な無意味な裝飾の一種を指す。文藝復興期の衰頹期、即ち十七世紀より十八世紀にかけ最も盛んに用ゐられた。バロック式といふ言葉は又彫刻にも用ゐられる、ミケランジェロの追隨者は、このバロック式に墮ちた。

パン (Pan)

希臘神話の牧人の神である。パン神は牧笛の發明者と傳へられ、髭と角と羊の脚とをもつ人物

パレリ—パン

パンシー—パンタ

で、笛と杖とは其附物である。

パンシイズム (Pantheism)

汎神論。(其の項を見よ)

萬秋樂

舞樂名曲の一である。盤渉調で六人が舞ふ。釋尊寂滅の時、天衆菩薩が奏したと傳へられる。御大葬の時に用ゐられた。

パンテレ派

希臘彫刻の末期に伊太利に起た一派である。斯派の彫刻家は、太古各世紀に創められた希臘藝術の研究模倣に由て、特別なる形式を感得した。ステファアノス、其弟子メネラオス等は代表的作家である。

ハンガリアン・ダンス (Hungarian Dance)

ハンガリー風の舞踊曲。二拍子或は三拍子である。

頌讚哲學 (Scholasticism)

九世紀—拾五世紀、天主教の御用哲學として用ゐられた、哲學一般の稱である。

半獸主義 (Savagepathy)

野蠻殘忍な原始時代人の、單純で強い感情、及意志、生活を研究し、應用せんとする文藝上の一派である。此は一切の複雑な感念を去つて、單純な原始心にかへり、客觀物に對せんとする文藝上の、原始派と同一の態度を取るものである。岩野泡鳴は此主義を高唱した時代があつた。

伴奏 (Accompaniment)

獨唱、獨奏等の場合、更に其効果を多からしめんため附加される調和樂である。此にはピアノの如きを單一に用ゐる、又オーケストラの如く、多くの樂器によりて、或は合唱を以て之に當る事がある。

パンタロン (Pantalon) (佛)

舞踊クワドリールの一種である。

パントマイム (Pantomime)

身振狂言。羅馬帝政時代非常に盛んになつた一種の劇である。四肢の擬態的、肉体の彫塑的運動に由て、活人畫風に劇の筋を物語らんとするものである。主題を主に希臘神話の「ヴァイナスとアドニス」「アポロとダフネ」等の悲劇又は戀愛譚に取るのが多い。現在に於ても演んぜらる。

パンドーラ (Pandora)

希臘神話にあるジュピターが、ヴァルカンに造らせた美女でジュピター最初に生れた婦人である。プロメシウスが天上の火を盗み人間に與へたのを怒り、女を造て人間に下し禍惡を醸さしめた。諸神は此婦人に各一能を賦與した故、これをパンドーラ(萬能)と云ふ。諸の禍惡を盛つた筐を携へて來たが、不注意に筐の蓋を開けたため、諸害散逸して筐底僅かに一つの「希望」を止めたのみと云ふ。(パンドーラの筐參照)

パント—パンフ

パンドーラの筐 (Pandora's Box)

希臘神話にあるパンドーラは人間界に、神が與へた最初の女の名である。彼女が携へて來た筐はジュピター神より授かつたもので——此筐はプロメシウスが、凡ての禍惡を封じこめていたものだといふ——彼女が好奇心から不注意に蓋を開けたため、人生の禍惡は一時に出て、全世界に行渉り、今のやうに人類の頽廢を見るに至るといふ。

ハンネレの昇天 (Hannele's himmelakt) (獨)

獨逸ハウプトマンの、有名な象徴的な二幕ものの童話劇である。繼父に虐待せられた一少女が、冬の嵐の夜、池に投身して死を企てた處を、村の小學校教師に救ひ上げられ、人事不省夢幻の間に天國の幻影を見るといふ物語より成てゐる

反覆法 (Repetition)

修辭學上の一法、同一の語句思想を繰返し、文

マンイー—バツシ

の趣味感興を添ふ法である。例へば「月よし夜よし風もよし」「ひらくひらめく日の御旗」の如し。

萬有照應 (Correspondence)

佛國象徴派詩人の祖ボードレエルが、詩の標語とした言である。森羅萬象の背後に、暗澹默移する神秘的な、意識の流域に觸れて、其まま汲取りて詩に表はさんとするの謂である。

バー (Bar)

酒場。

バトン (Baton) (佛) (音)

指揮杖。合唱或はオーケストラの、指揮者の持つ棒。

ハーヴェスト (Harvest)

收穫。

バガテル (Bagatelle) (佛)

小品曲の意。

バージン (Virgin)

處女。童貞。

バージニティー (Virginty)

處女性。

バース (Birth)

誕生。起源。

パーソナリティー (Personality)

人格。個性。

バック・グラウンド (Back ground)

背景。

パセチック (Pathetic)

哀傷的。哀れつぽい。

パート (Part)

部分。役割。

パトロン (Patron)

保護者。恩人。

パッション (Passion)

情慾、熱情。

パッションネート (Passionate)

情慾的。熱情的。

バプテスマ (Baptism)

洗禮。洗禮式。

パラダイス (Paradise)

樂園。天國。

パラドックス (Paradox)

逆理。逆説。

バリトーン (Bartion) (音)

上低音部。テノールとバスの中間にある男性音を云ふ。

バンド (Band)

樂隊。吹奏樂團。管絃樂團。

パンフレット (Pamphlet)

小冊子。宣傳のために配布する小冊子。

バツシ—ビ

ヒ

美 (Beauty)

一言に云ひ盡す事は極めて困難であり、又今では絶對的な定義といふものもない。然し如何なるものを美といふかならば、その簡性(内包的なもので自身獨特の性質を有し、他の模倣追従を許さぬ特殊な要素、即ちその氣韻を根定とするが如き要素)及普遍性(前者に反して外延的で對照、均齊、比例、變化、統一等の形式的な部分であるから、理性に訴へ客觀的に認め得る要素)と、快感を伴ひ且つ永續性を有するものが美である。

ビアイ—ピガク

悲哀美 (Touching Beauty)

これは悲哀に伴ふ精神的な美である。

ピアノ (Piano Forte)

正しい名稱は「ピアノ・フォルテ」である。ピアノは近代の發明にかゝるもので、今日の如き形を具ふるに至つたのは、拾九世に入ってからである。此はベエトーヴエン以來用ゐられるに至り、非常に精巧な樂器で、其音域は七八オクターブ、八拾五鍵にも達し、強弱表情も自由で、宛然小オーケストラを聞くの感がある。近時ピアノは非常に發達して、シヨパンやリスト等が出てから、その面目を一新した。

美意識 (Consciousness of Beauty)

美に就ての意識。藝術の制作と鑑賞は、主として美意識によりてなされる。美意識は心理學的に見た美學の對照である。又美意識は二つの立場から解釋される。一つは

經驗心理學で云ふ美意識で其は意識の内容が美であり吾人の經驗によりて與へらるるものなりとす感情移入美學が其の立場に立つてゐる。一つは先驗的心理學によるもので美は先驗的に意識の統一によりて産出するとなし純粹感情の美學は此である。

ヒウマニズム (Humanism)

人道主義を見よ。

比較批評 (Comparative Criticism)

文藝作品を多く蒐集し來り、分類比較してその優劣を批評するを云ふ。

美學 (Aesthetics)

審美學とも稱せられる。美の本質を研究し、又美と人生との關係に關する學問で、美の哲學、又は美の科學と云つてよい。古代希臘のプラトール。アリストテレス等にも、美に就ての研究はあつたが、一分科としての美學始祖は、拾八

世の獨逸の哲學者バウムガルテンで、其時よりして美學は哲學上の一科として認められた。拾九世紀の後半より美學は哲學より分離し、經驗的になり、經驗科學、説明科學となつた。そして美がその主なる對象であつたが、其が一般藝術となり、制作と其鑑賞を心理學的に、又其起源と効果を社會的に研究するやふになつた。美學者にはレッシング。カント。ヘーゲル。シヨペンハワー。ハルトマン等の哲學的美學者と、理想派のフイツシャール。カリエール。經驗派のフエヒネル。カストリン。形式派のシンメンマン。感情美學のキルヒマン。美の社會的研究にランゲ等がある。猶最近の美學者に獨逸のリッブス。フォルケルト。デソワ。英國のラスキン。米國のサンタヤーナ。佛國のテイヌ。ギュー等がある。

東山文庫

ヒガシ—ピカレ

京都御所内、乾の皇后御殿内にある御藏である。足利四代將軍義政の創設により、東山時代の書畫、美術品等稀代の逸品のみを蒐めたものであつたが、今は主に古文書、御宸翰等で三萬點餘もあるだらふと云はれてゐる。大正十三年に十三名の取調係が任命され、二年間に整理を行はせらるゝといふ。

ピカレスク式小説 (Picaresque Romanos)

最初スペインに發達したピカロー (Pizarro) 即ち惡漢を題材にした物語に始まる。

この様式は一つ一つ完結した物語が、同一主人公に依つて幾つもが連結され、脈絡を保ち、其中一つ二つを抜き捨てるか、或は位置を換へても、全體の致趣には少しも損傷を與へないものを云ふ。アラビアン・ナイトの如く、西鶴の「好色一代男」「好色一代女」の如く、或はロマン・ローランの「ジャン・クリストフ」の如きは、この

代表的作である。

引抜き襖 (劇)

「傾城楊柳櫻」揚屋の段に、見付の襖、雪降りの柳を描き、此の襖の地面ばかりを引き抜いて、柳の繪を残し、直ぐに道具に使用した、辰岡萬作が始めてこれを工夫した。

悲劇 (Tragedy)

劇の一種で悲壯美を中心目的とするもの。喜劇が滑稽観笑を旨とするに對して、悲劇は其主人公が數奇な運命と、戦ふ葛藤と、最後に其身を滅ぼして運命の窮迫を解脱(死によりて)するか、若しくは此に類した没落の運命に至るを特徴とする。悲劇の葛藤の原因が、其人物の性格にあるを性格悲劇と稱し——沙翁の「マクベス」「オセロ」「リヤ王」等はその例である——悲劇が特殊の境遇にあるを境遇悲劇と云ふ——イブセンの「幽霊」は其例である——。又悲劇の原

因が其主人公の運命に因るものを、運命悲劇といふ。古代希臘悲劇の多くは、此運命悲劇であつた。有名なる「エヂボス王」など好き例である。

ピクチャー (Picture)

自然界に於ける一物を、畫布或はパネル等の上に表現したものを、總稱して繪畫と名く。古代の繪畫は主に壁畫として描かれたが、現代の如く壁にかけて裝飾する手法は、希臘、羅馬の時代に始まると云はれてゐる。

ピクチュアエスク (Picturoesque)

繪畫的。線、形、色等が美しく、繪畫の創作衝動を刺戟するやふな、一切の自然現象をいふ。

ピサの斜塔 (Campanile Pisa)

伊太利のピサ市にある塔で、傾けるが故に斜塔と稱はれてゐる。拾二世紀末ボナムスの建築したものである。建造の半途で地盤が弛み傾斜

したものと傳へられてゐる。

ビザンチン藝術 (Byzantine Art)

東羅馬帝國の首府ビザンチウムに、その源を發せる基督教藝術一般を云ふ。古代希臘、羅馬の傳統的様式に、新たな基督教精神を加へ、亦アラビヤ、ペルシヤ等の東洋的要素を加へた様式である。普通紀元三三〇年、この都が首府になつてから、一四五三年トルコ占領の時までを云ふ。

ビザンチン建築 (Byzantine Architecture)

羅馬帝國東西分離の結果、東に分れた建築様式をビザンチンと云ふ。コンスタンチノポリスを中心として發生し、東洋風の影響を受けて居る。其特徴は穹窿天井で、ロマ風の穹窿天井を一層大規模にしたものである。北部伊太利と、ロシヤに著しい影響を與えた。

ビザンチンの繪畫 (Byzantine Painting)

ビザンチン——コシト

東羅馬の首府ビザンチウムを、中心に發達した繪畫を云ふ。地理的關係上東洋藝術の感化を受けて、その色彩を表はし、一種のビザンチン式を形成した。而して其感化は獨逸、露西亞、佛蘭西等の諸國にまで及んだ。

美術 (Fine Art)

美を表現することを目的とする技術、又其制作を云ふ。普通造形藝術なる建築、彫刻、繪畫を云ふ。

美術解剖學 (Anatomy)

彫刻又は美術にいふ解剖學は、人体の形狀及筋肉運動の研究である。此中最も大切なものは、骨格及筋肉の研究である。

美術の爲の美術 (Art for Art)

純粹の美術の意である。美術を借りて宗教を鼓吹し、道徳を勧め、歴史を説き、小説を物語るが如きは、美術本來の使命ではない。美術は唯

人の美感に訴ふれば足ると云ふ人々の意見に由て「美術の爲の美術」主義が唱道された。拾九世紀後半佛國のエツアール・マネー。英國のマックネール・ホイットラーの如きは、専ら其主義の宣傳者であり、又實行者であつた。而して歐洲繪畫の全体に、非常な影響を與えた。

ヒストリカル・ペインティング (Historical Painting)

歴史畫に同じ其の項を見よ。

悲壯美 (The Tragico)

吾等が偉大な理想目的を持って、現實の世界に臨む時、錯綜した何物かに由りて障害された場合と、猶其主義理想を更へず最後まで奮戦し、遂に死を以て殉ずる、それは悲壯である。十字架上の基督。毒盃を従容として飲んだソクラテースなど悲壯美の好例である。悲壯美は美の最高なるものと云はれて居る。

七 星 (Seven stars)

アリアドニーの他に七星の傳説がある。

ダイアナに仕ふる姉妹七人の妖精があつた。巨神アトラスの女で獵に長じてゐたが、一日森の中で獵夫オリオンに認められ走り逃げ去つたが、オリオンはその美を慕つて追ふた。姉妹聲をあけてダイアナに救を求めたが、姉妹は化して七羽の鶴となり天上し、化して七宿の耀星となる。プレヤデス (Pleiades) 「昂宿」はこれである。

後トロイ大戦の時、七星中の一星トロイ城陥落の状を見んとて星座をすべつて城内に下降した鬚髮氍々として背後に靡き、トロイ城の焼くる猛炎の光に反映し光景物凄くこの一星は彗星と呼ばれ、復た昂宿に歸らなかつた。(希臘神話)

美即眞 (Le beau est le Vrai)

佛蘭西の自然派畫家、フランソワ・ミレーの標榜した言である、眞を寫せば之れ即ち美であるといふのである。

人と超人 (Man and superman)

バアナード・シヨウの代表的作品四幕物の劇である。女主人公アンは、父親に死別れ、沈着な保守家ラムスデンと、革命的なタンナーの二人——後見人——に預けられる。處がアンの意中の人が、タンナー自身であると知ると、急にタンナーは回教の國へと出て行く。途中で山賊に捕はれるが、アンが後から追て来るし、又兵隊が来て助け出した。タンナーはアンに依つて體験せられた、生の力に屈服されて、二人の婚約が成立した。

人の一生 (Life of a man)

露西亞の象徴劇作家アンドレーエフが、一九〇七年に書いた代表的の作品である。人の子が生れて育てられ、青年となり戀を知り結婚をする。子供を生み、金を拵へ、後には零落して老衰し、遂に死で行く人の一生を、五段に分けた五幕物

ヒストリー・ピソク

で、其背後には「運命」の象徴である「鼠色の人」が、一生を操つてゐる。その傍には蠟燭の火が生命を象徴して光てゐる。

否定命題 (Negative proposition)

論理學上の用語。主辭と賓辭が相反する命題である。例へば「彼は悪人にあらず」等の如きを云ふ。

美的印象 (Aesthetic impression)

例へば往來で美しき人に出會つた時、刹那的に快美感が起る、即ち美的印象とは刹那的の快美感覺に基く印象である。

美的快感 (Aesthetical Idea)

美のために生ずる快感。

美的生活論

美を唯一の目的又生命とする生活で、此處では感情又は本能を満足せしめる事をいふ。樗牛の言に「吾人の目的は幸福なるにあり、幸

福とは何ぞや、本能の満足即ち是のみ。本能とは何ぞや、人生本然の要求是なり。此要求を満足せしむるもの、茲に之を美的生活といふ」といふ一節がある。

美的判断 (Aesthetic judgement)

美的印象が美の享受に即し飽まで情的利那的であるに反し、美的判断は批判と同様に智的作用で、幾分かの智的な思慮分別の後に下さるべきものである。吾人の理性は感情の如く動搖常なきものでないから、無暗に變化するものでない故、此を経て来た美は殆んど決定的のものである。

悲人情

夏目漱石の創唱した言葉で、人情から離れると云ふ程の意。可哀相だとか、憤怒とかの如き實際的感情を動かす事なく、軽く面白く、呑気に鑑賞するやふな作品を作ること。又はさうし

た態度で生活すること。低徊趣味に相似た點がある。

日の出前 (Vor Sonnenaufgang) (佛)

ハウプトマンの有名な出世作である。ロートといふ空想的な革命家が炭坑視察に来て、炭坑主クラウゼ家の婿になつてゐる舊友ホフマンに、偶然出會ひ、其紊亂した家庭や社會を見て、盛んに彼の改革思想を説く、遂に友人の妻の妹ヘレーネは、其熱情ある理想家を慕ひ、戀愛が成立する。それを知たロートの昔同志醫師シンメルベンニヒは、一家に纏綿する遺傳の根深い事を話して反省を促す。ロートはヘレーネを捨て、出て行く、とヘレーネは其後失望の餘り自殺すると云ふ筋。

批評 (Criticism)

批評と云へば其意味する範圍は極めて廣い。其對象の相違によりて、文藝批評、美術批評、文

明批評、政治批評、歴史批評等あるが、藝術上に限ると文藝批評、美術批評である。

藝術上の作品を種々な點から説明し、又其價值を定める事である。此には作品に對する批評家の觀察と、撰擇判断の二要素を含む。批評家の取る態度方法によりて、印象批評、鑑賞批評、解釋批評、比較批評、歴史的批評等がある。

(各項參照。文藝批評參照)

批評三原則 (Three laws of Criticism)

科學的批評を唱へた佛人テーヌは、文藝批評に三原則あると主張した。一、著者の屬する種族。二、其環境。三、その時代。此三原則を基として、批評されねばならぬといふ。彼の名著英文學史は、此主張を實行したものである。

百姓 (Famers)

波蘭の作家ラヂスラス・スタコラス・レイモントの作で、「秋」「冬」「春」「夏」の四卷より成

ヒビヤ—ヒヤシ

る小説である。大戰中波蘭が獨逸に占領された時、前獨帝は部下の士卒に命じ、波蘭人の心理を知るがために「百姓」を読ませたと云ふ、此一事から推してレイモントの筆が並ならぬものであると知られる。

百姓の女主人公はヤグナと云ひ、農場の所有と、ヤグナの愛の占有とに對して、ポリナとアンテク(父子)が相争ふ、と云ふ極めて宿命的な、悲劇を骨子としたものである。第一卷「秋」ではヤグナと、ポリナの結婚の所までしか書かれてないが、波瀾重疊の場面は二卷以下である。

ヒヤシンス (Hyacinthus) (ハイヤシンス)

百合科の觀賞用球根植物である。希臘神話に次の傳説がある。

ハイヤシンスは希臘某市の王子であつたが、アポローに愛せられ、圓板投を遊ぶ。或日その圓板のために額を割られて倒れた。アポロー驚

いて扶起したが既に晩く、首は百合の如くうなだれ、白き額二つに裂けて面は紫黒の血汐に染んでゐた。アポロー悔恨かぎりなく直ちに王子を變じて一莖の花と化し、輓歌を作り琴に和して歌つたが、風信子の名忽ち希臘に傳はり、人々は春毎にこの花を愛でたと云ふ。

ビユーア・リテラチュア (Pure literature)
純文學。(其の項を見よ)

ビユーリタン (Puritan)
清教徒。(其項を見よ)

ピラミッド (Pyramid)
古代埃及に於て造られた、石材を以て積錐形に積上げた建築物である。三角形又は多角形の立体となつて頂點が尖てゐる。ナイル河畔には多數現存して居るが、最大のピラミッドは、カイロ附近のギゼイにあるクツ王の造營になつたものである。

ヒーリオス・シリーン及イーオース (Heliös, Silence, Eos)

ヒーリオスとシリーンは日月の車を御する神で、イーオースは朝の女神である。此神を拉典語にてはオーローラと稱す。ゼ・ウインズの母である。

比喩法 (Figure)

例へば「涙雨の如し」といふ文にて「涙下る」といふ思想を強めんため、其滴る様な繁き雨に類似を求め、其繁き様の情を附加せんとする修辭學上の一法である。此には直喩法、隱喩法、提喩法、換喩法、諷喩法、引喩法、聲喩法、字喩法、詞喩法、類喩法、等に別ることが出来る。

ピクニック (Picnic)

遊行。野遊び。

ピース (Peace)

平和。

ピープル (People)

人民。人々。世人。

ヒム (Hymn)

讚美歌。聖歌。宗教上の集會等に用ふる歌。

ビユーア (Pure)

清き。潔白なる。

ヒューマニティー (Humanity)

人道。

ヒューマン (Human)

人間的。

ヒーロー (Hero)

詩歌小説等の主人公(男性)を云ふ。

ヒロイック (Heroic)

雄々しき。英雄的な。

ヒロイン (Heroine)

詩歌小説劇などの主人公(女性)を云ふ。

ヒント (Hint)

ピープ—ファウ

暗示。

フ

ファウスト (Faust) (獨)

ゲーテが畢生の心血を凝いだ傑作で、前後六拾餘年かゝつて完成したと云はれる。材を宗教改革時代の産物なる、煉金者(魔法使)ファウストより取つたものである。哲學者ファウストは、惡魔メフィストに伴はれ、或時は哲學科學の研究に身を任ねて、満足を得ず、快樂に身を任せ、飽き足らず、或時には一世の名聲を一身に集める等、現世のあらゆる物に満足を求めたが、遂に得る所なく、最後に天使に導かれて天國に

ファウーファイナ

入り、其處に戀人を見出して喜ぶと云ふ筋。

ファウスト (Faust)

佛國の作曲家グノーの作に成る有名な歌劇。ゲーテのファウストを、歌劇にしたものである。

ファンタジー (Fantasy)

空想。想像以上に、有り得べからざることを思ひ浮べる事、藝術上特に文學上缺くべからざるものである。

ファンタジイ (Faulstic) (音)

ソナータの如く一定の形式に由らず、作曲者の想像に任せ、樂曲を開展して行くもので、極めて自由な叙情的器樂の一形式である。メンデルスゾーン等によつて用ゐられた。

ファンテージー (Fantaisie) (佛) (繪)

興趣と云ふことである。即ちマチス等の主唱するところで、其主張とするは今迄の繪の手法を脱して、彼等の心に従ふ對象であるやうに表現

を心がけ、色彩と線條とは表現の一切である、明快な對比と調和、驚くべき單純と綜合化を企て、その畫的構成の内に興趣を作らんとするのである。興趣は單なる味でもなく、洒落でもない繪畫の畫らしき要素の全部であると云ふ。

此等の主張の下に描くマチス、ドレゲン、テュ

ファイ、ロオランサン女史、ルシアン・ラフォル

ジユ一派をファンテージストと云ふ。

ファン・ド・セーケル (Fin de Siècle) (佛)

世紀末。(其項を見よ)

ファイガロの結婚 (Le nozze di Figaro) (伊)

獨逸人モツアルトの歌劇で、その代表的作である。ファイガロとスザンナの結婚喜劇、四幕物である。

ファイナレ (Finale) (伊)

樂曲即ちシンフォニーや、ソナータ等の終曲又は、歌劇の結末を云ふ。オペラの結末には普通

コーラス、ソロイストの大合唱をなして、壯大な結末をするものである。

ファイニシヤ及小亞細亞の繪畫

此等の國民は商業的、航海的な國民であつたから、何等獨創的な藝術を生み出さなかつた。美術史上に占むる唯一の地位は、彼等が或時は埃及に、或時はアッスリアに感化された繪畫彫刻を地中海沿岸の西歐民に傳播した點である。其等の繪畫は宗教的、裝飾的で石造若しくは、漆喰の壁の上に、裝飾的に描いたものである。

フィロソフィー (Philosophy)

哲學。(其の項を見よ)

風景畫家 (Landscape Painter)

自然風景を専門に描く畫家。有名な風景畫家に和蘭のレムブラント。佛國のブーサン、ローラン。コロ。ルーソー。クールベ。英國のコンステープル。ターナー等がある。日本では文晁。

フィニー—フェニ

華山。北齋等が有名である。

風俗喜劇 (Comedy of Manner)

同時代の實生活を材料として作らるる喜劇である。

風俗詩 (Allegorical Poem)

一種の叙事詩。一つの物語を詩に歌ひ其中に何かの意味、即ち教訓とか訓戒とかを寓するの詩。又の名を寓意詩とも云ふ。

フェアリー・テール (Fairy tale)

フェアリーは妖精で、愛らしい精、又は仙女等で、フェアリー・テールは、そうした妖精の出て来る、お伽噺の謂である。グリムや、アンデルセンのお伽噺は其代表的なものである。

フェータリズム (Fetters)

宿命論を見よ。

フェミニズム (Feminism)

女人主義。要は婦人の解放にある。(婦人問題、

フェラ——フォル

婦人解放、各項参照)

フェラ派 (Ferrarese School of Painting)

拾五世紀頃伊太利に起つた、コシモ・テュラを祖とした繪畫上の一派で、バツア派によく似てゐる。其の最も名高き畫家はローレンツォ・ユスタとドツソ・ドツシである。

フォク・ドラマ (Folk drama) (賤民劇)

拾九世紀の中葉匈牙利に起つた一種の社會劇である。チグリゲチ賤民階級の生活を描いたもので、人間の暗黒面が表はされ、陰鬱の氣分に満ちてゐる。トート・セブレギーに至つて著しく進歩した。

フォスフォル (Phosphor)

オーローラの子で、曉の明星の本体である。宵の明星の本体はヘスバアといふ。一説には二神を異名同体としてある。

フォスフォリスト運動 (Phosphorist movement)

(曉星派運動)

拾九世紀スエーデンにて、ゴチック詩社と共に浪漫的運動を起し、其中堅となつた文學的團體フォスフォリストの運動を云ふ。一八三〇年ウブサラ大學の學生が起したもので(曙光「Foster」)「スエーデン文學」「詩曆」などの機關誌に由て運動した。此中心人物はアスケレフ、アツテルボムの二人であつた。

フォーゲット・ミー・ナット (Forget me not)

勿忘草(ワスレナグサ)を見よ。

フォーラム (Forum)

古代羅馬に於て公衆のため諸種の設備をされた處で、市場、裁判所、圖書館、殿堂等がある。其中で會議、選舉、其他の公務を執行した。著名なものとしてトラン・フォーラム、ロマナム・フォーラム等がある。

フォルテ (Forte) (伊)

強く歌ひ或は奏するの記號。通常Fにてあらはす、又餘り強くないのは Mezzo forte なる語を用ひ M.F.。又最強は Fortissimus なる語にて F.F. と記す。

フォルチュニー式舞臺照明法 (Fotunny system)

伊太利のフォルチュニーの發明にかゝる、電光應用舞臺照明法で、白熱アーク燈の間接な反射光を、舞臺面へ平等に、柔かに漲らせて自然の外光と同じ効果を收めんとする装置である。光は舞臺の後にある白黄青赤緑の、五色に分けた絹の平板面に當つて反射し、更に下の切穴にもう一つの反射装置があり、上からの反射を再び反射させて、光を平均する、斯くて温い混合色の、情緒的效果を收めやうとするのである。

フォンテンブロー派 (又はバルビゾン派)

拾九世紀初紀英國に於ける風景畫の影響をうけて佛蘭西に多くの風景畫家が現はれ、近代風景畫

フォル——フクオ

の先驅をなした。主なる作家は、繪畫に於ける自然主義の先驅者たりしテオドル・ルソー。カミコ・コロ。主に農民の生活を描いたフランソワ・ミレー。動物畫で有名なコンスタンチン・トロワイヨン等で一八三〇年にフォンテンブローの森を制作の中心として此派を成した。

不可知論 (Agnosticism)

科學的に説明の出來ぬものは、何でも一切不可知である。即ち神とか靈とか、其他物質以上の存在物は一切知ること、解くことも出來ぬといふ説。

復音樂

凡て音を同時に結合した形式に由る。斯る結合法の一形式を Drone Bass と稱し、一部は常に上の變移する旋律を唱謠し、同時に他の一部は低音のみを唱ふるものである。三世紀の頃五度音程の復音法があり、九世紀十世紀の交に至て

フジーン—ブタイ

多数樂人の研究に由て、二部、三部、四部、稀には五部の根底ある復音樂が創設された。
婦人問題 (Woman's problem)

近代婦人が覺醒した結果、婦人も獨立した一人の人であるといふ自覺を有ち、在來婦人の傳習的な道徳に甘じられなくなり、その思想が婦人間は勿論、男子の間にも問題となつて來た。之には少くとも四の主なる問題がある。

- 一、結婚問題、結婚の自由及家庭に於て從來の如き取扱ひを受けないこと。
- 二、職業問題、職業の撰擇、男女平等の主張、婦人の經濟的獨立の主張である。
- 三、教育問題、男子と同等の教育を要求する。
- 四、權利問題、法律上に男子同様の權利を要求し、婦人參政權運動として表はれた。文藝に於ても斯問題は多く描かれて居る。イブセン等はその最なるものであらふ。

婦人解放 (Emancipation of Woman)

從來、婦人の地位は、男子に對して奴隸的、若くは從屬的關係に置れて居たが、かゝる因襲的束縛より脱して、婦人の地位を男子と同等まで向上せしめなければならぬと云ふ意。

舞臺藝術 (Theatre)

廣義に於て演劇と異らないが、戯曲及俳優の演出に對し、特に舞臺の裝置及劇的表現の種々な條件など、舞臺的效果を收めんとするものである。

舞臺照明 (Stage Enlightenment)

舞臺が外にあつて、演技が日光の下で行はれた時代には、勿論「光」は問題にならなかつたが、舞臺が屋内に移され、而も夜間演ぜられるやふになつてから、背景と等しく照明法は、演劇の重要な部分となつた。照明法の進歩したのは最近のことで、人間は一体に明るい物、光つたもの

が好きであるため、從來は無暗に明るくさへすれば良いやふに考へてゐたが、現實の世界では光は一方から來る。それ故舞臺上の現實的な光の第一原則は、光を一方から來る様に見せる事である。恰も戸外なら太陽から、屋内なら燈から、それぞれ人間や、器物に影を投げかける。この原則の適用に由つて、舞臺上の人物に合理的な影を與へ、たゞに合理的といふだけでなく、美しい舞臺の圖案となる事をも發見したのである。

舞臺監督 (Regisseur) (佛)

劇を演出する上に於て、最高主腦者であり、最高の指揮者である。即ち劇の演出に關する一切のものを指導する。脚本の選擇、背景、仕立屋の衣裳の裁縫、舞臺の照明、役者に役の振當て、臺詞の云ひ廻し、役者の動作、等凡ての點に至るまで指導の權限がある。舞臺監督の目的は、

ブタイ—フチハ

之等の劇に必要な部分的のものを綜合し、調和して、立派な舞臺藝術としての生命を吹き込むにある。

HERMES (H.R.R.R.)

世界文明史の概觀を表す符號である。Hは、Hellenism (伯來主義)、Helanism (希臘主義)、四Rは、Renaissance (文藝復興)、Reformation (宗教改革)、Rationalism (合理主義)、Revolution (佛蘭西革命)。

布置法

修辭學上の一法で、反對の句を對照せしめ、同義語を繰返し、又文を轉倒などする。例へば「老幼みな行く」を「老も行き幼きも行く」と改め「彼の人格は偉大なり」を「偉大なるかな彼の人格」の如く改め、一種の趣致を生ぜしめる法である。此を對偶法、漸層法、反覆法、倒裝法、等に別ける。

フツケ—ブタフ

佛敎美術 (Art of Buddhism)

佛敎に關する美術で、印度、支那、朝鮮、日本の美術は、大半は佛敎美術である。又過去の日本美術は九分までが、佛敎美術であつたと云ふも差支へない。

物質主義 (Materialism)

靈、精神、神などいふものは存在するものでない、唯物質のみが實在であるといふ論。哲學にては唯物論と稱す。又普通靈的とか精神的と云ふ事を無視し、物質や肉慾のみに没頭する主義。

舞踏 (Dance)

人体の美的運動に伴ひ、リズムカナルな、歩行踊りよりなるもの、常に音楽と伴ふ。これを大別して、舞(神樂、能、舞)、踊(盆踊の如きもの)、身振舞踊、運動舞踊、西洋舞踊、等となす。西洋舞踊は主として、伊太利及佛蘭西から發達して來た。

舞踏曲 (Dance music)

舞踏の伴奏曲である。有名なるものを左に掲ぐ。スイト(Suite) 組曲でアレマンド、クランテ、サラバンデ、ジグ、ガボット、ブウレ、バスビード、ミヌエツト、が含まれる。ソナタ及シンフォニーの形式は此より發達したものである。

アレマンド(Allemande) 急速な四拍子曲。

クランテ(Courante) フランスから起つた3/2拍子急速な曲。

サラバンデ(Sarabande) 西班牙より起つた緩慢な三拍子曲。

ジグ(Jig) 急速な三拍子曲。

ガボット(Gavotte) フランスより來た稍急速な2/2拍子の曲。

バスビード(Passepied) フランスより來た6/8或は3/8の曲。

ブレー(Bouree) フランス或はスペインより傳はる四拍子、又は二拍子の急速な曲。

ミヌエツト(Minuet) 三拍子の莊重な曲。

スケルツォ(Scherzo) ミヌエツトの變化したもので二拍子の曲。

ワルツ(Waltz) 獨逸から起つた3/4拍子曲。これにはスロー・ジヤーマン・ワルツ(Slow German waltz)オーヂナリー・ワルツ(Ordinary waltz)

ウインナー・ワルツ(Wiener waltz) クイック・ワルツ(Quick waltz)等がある。

マズルカ(Mazurka) ポーランドから來た急速な三拍子の曲。

ボレロ(Tolero) 3/4拍子の輕快な曲。

タランテラ(Tarantella) 急速な6/8拍子の曲で伊太利ナポリより來たもの。

アングレー(Anglaise) 2/4拍子の輕快な曲。

カラタ(Calata) 伊太利の2/4拍子の輕快な曲。

フミエ—ブラグ

ガロツプ(Galop) 二拍子の急速な曲。

リール(Beel) 蘇國に行はるる田舎踊曲。

ポルカ(Polka) ポヘミヤから起つた二拍子の輕快な曲。

スコツチツシ(Schottisen)

コチロン(Cottillon)

カドリール(Quadrille)

ランサー(Lancier)

踏繪

江戸時代、寛永から安政まで、耶蘇教信者でないことを證せしめるために、人民に踏ませた耶蘇の像を云ふ。「聖母マリヤがイエスを抱ける圖」「使徒等の中に立ち給ふイエス」「十字架上のイエス」等を鑄出し、又彫刻したものである。

フエーチャリズム (Futurism)

未來派を見よ。

ブラグマチズム (Pragmatism)

ブラマ——フラン

實用主義を見よ。

ブラマ (梵)

梵語でウパニシャット聖典に出てゐる。宇宙の靈と云ふほどの意。

プラスチック・アート (Plastic Art)

成型美術。(参照)

プラトニック・ラブ (Platonic Love)

元來はプラトニーが其哲學に用ゐた言葉で、現實界を超越せるイデア(理想)を、慕ひ愛すると云ふ哲學的な愛である。此は全く本能とか情とか云ふものと別な、超現實的なもので形而上の理想を愛すると云ふ極めて抽象的な愛である。哲學は此愛がある故に生ずると説く。轉じて肉を離れ、情慾を離れた精神的戀愛といふ意味にも用ゐられる。

フランス劇 (French Drama)

佛劇も他の諸國と等しく神秘劇から始まる。拾

五世には神秘劇が頂點に達した。拾五世紀後半から百年間は、全国的に演劇熱の盛んな時で、「受難劇組合」といふのがあつて、社會のあらゆる階級を網羅し、盛大なものであつた。この他教訓劇、道化劇等もあつた。

拾六世紀には古典劇が翻譯され、舞臺では未だ中世劇が行はれてゐた。此世紀末にバストラル・ドラマ(田園劇)が現はれ、イタリヤ。イスパニアの影響が入つて來た。中世劇は本紀と共に滅びてしまつた。

拾七世紀にはアルデーイが出て、フランス近代劇の創始者となつた。續いてコルネーユ出で、其傑作「シツド」は、フランス劇壇に一大時期を劃した。悲劇の典型を打建たのは此作である。その他「オラース」「シンナ」「ポリウーク」等の悲劇及喜劇「マンツール」を出した。此世紀には不振であつた喜劇が、モリエールに由て大

成された。「ドン・ジヤン」「タルチユーフ」「厭人家」は其代表的作品である。コルネーユと並んでラシーヌが出で「アンドロマック」は、シツドに等しい名聲を得たものである。「ペレニス」「バジャーズ」等の悲劇、其他幾つかの喜劇をも書た。拾八世紀には喜劇作者——モリエール以後の最も勝れた——レニアルが出た。悲喜劇作家の隨一者ヴォルテールが現はれた。此時代から中流社會が繁榮し、王侯貴人を材にしてゐた劇が、中流の日常生活を取入れるやふになり、所謂 *Bourgeois Drama* (市民劇) が生れた。

拾九世紀にはナポレオン時代は古典主義の、煩雜な法則に拘束されて不振であつたが、此期に浪漫主義運動が起て、新生面を開いた。この運動の代表者はデューマ。ヴィニー。及此世紀最大の詩人と稱せられたユーゴーの三人である。特にユーゴーの「エルナニ」は古典派に對して

フラン

浪漫派の勝利を告げる歴史的な作品である。本紀中葉はローマンチズムの反動期で、ボンサールは其代表者である。これは古典劇と、浪漫劇との折衷であつた。此頃に至て歐洲一休、小説のために壓倒されて、バルザックと、スクリープの影響を受けぬ劇作家はなかつた。當時の有名な作家にオーヂエ。小ヂユマ等があつた。

拾九世紀末、フランス劇は愈々衰へんとした時に、北歐にイブセンが現はれた。而してその影響を多く受けた。近代劇はアントアンの「自由劇場」創設(一八八七)に始まり、此を中心に發達して來た。著名な作家には、アンベック。キユレル。ブリユー。エルヴユー。又家庭劇「戀愛」で名高いポルトリーシユ。戀愛作家ラヴダン。戀愛喜劇作家ドネー。批評家として名高いルメートル等がある。

最近イブセン的寫實劇に對し、新浪漫主義の叫

びを上げて一時代を造った作家に、ベルギーのマ
ーテルリンク。フランスのエドモンド・ロスタ
ンがある。マーテルリンクは彼の所謂「静劇」
といふ神秘象徴劇を創め、その代表作に「マレ
ーヌ姫」「アグラヴェエーヌとセリセツト」「モン
ナ・ヴァンナ」「青い鳥」「タンダジールの死」
等がある。

ロスタンは「レ・ロマネスク」を出世作として、
彼を永久にとどめる代表作「シラー」。動物寓意
劇「シヤントクレール」等がある。その他ロマ
ンローランは「民衆劇」を主張し「ダントン」
「七月十四日」等を書いて、その模範を示した。

フランス畫派 (France School of Painting)

初期佛蘭西繪畫は、専ら裝飾的な宗教畫であつ
た。其後伊太利の畫風に影響されてゐたが拾七
世紀に至り一大發展を遂げた。其時には佛蘭西
古典派繪畫の創始者ニコラ・プーサン及風景畫

で名高いローランが出た。次でヴェルサイユ宮
殿を飾たルブランが出た。拾八世紀には所謂ロ
ココ式裝飾的な、趣きある美術が支配し、拾九世
紀のフランス畫界は未曾有の盛觀を呈するに至
た。

始めはダビッドの古典派。繼いでジェリユード
ロクロクの浪漫派と、アングルの新古典派。ド
カンフロマンタンの東洋畫題派。ミレー。コロ
ー。ルソー等の田園風景畫派。等が現はれた。
拾九世紀後半より寫實的傾向が著しく加はり、
ルバージュ等の外光派。マネー。ルノアルの印
象派。となつた。又壁畫の大作を成したシャ
ヴァンヌ。深刻な心理を描寫したカリエール等
の、特性ある畫家が出た。印象派は後にジヨウ
ラー。シニヤツクの點彩派と、セザンヌを宗と
する後期印象派に分れ、特に後者は歐洲畫壇を
風靡するところとなつた。其他最近に至てパリ

ーに、主体主義の運動が起り、一風變つた畫風
を主張してゐる。

フランス・ゴシック式建築 (French Gothic architecture)

ゴシック建築時代フランスに用ゐられた一様式
である。此特徴は間口の廣い事、トランセプト
(其項参照)の突出少なき事、柱身は圓形でクロ
ケットを附したものが盛んに用ゐられ、一般裝
飾には人像彫刻が多かつた。バリー・ノートル
ダム寺院の如きは此様式の最古の名建築である
フランシスク・サルセイ (Francisque Sirey)

フランス彫刻 (French Sculpture)

佛國はかなり古くから彫刻の歴史を有し、ゴシ
ック建築は此國に於て絶頂に達したと稱せら
る。文藝復興期には、發生地伊太利の感化をうけ

た。其時代を代表する彫刻家はジャン・ゲージ
ヨンである。其後拾七世紀にはブユゼー。拾八
世紀には有名なウードンが出で。拾九世紀には
リコード。バリー。カルポー等が有名である。
近代の佛蘭西彫刻界は、立派な作者を多く出し、
技巧も一般に進でると稱せられる。ロダンは
其中で群を抜く大天才である。

フランス・ルイ式 (Louis Style France)

ルイ拾四、拾五、拾六世時代、即ち拾七世紀よ
り拾八世紀にかけての、藝術様式を總括してル
イ式と云ふ。ルイ拾四世當時は、佛蘭西の國威
大いに揚がり、文學美術にも隆盛を極めた時
代である。當時の代表作は、ヴェルサイユ宮殿
で、當時のフランス美術の粹を集めた觀がある。
様式は前代のアカデミックな古典的様式を繼承
したものと見てよい。

ルイ拾五世治世より、前代の硬い様式から、輕快

フラン

優雅なものに移り、一般藝術に柔しみを加へ、感覺的になつた。建築には部分的にロココ式曲線が用ゐられたが、一般的にはクラシックな様式を保つてゐた(フランス・ルネサンス式建築を参照)。

フランス・ルネサンス建築 (French Renaissance Architecture)

ルネサンス建築期に、伊太利ルネサンスを倣つたものに始まる。様式を三大別して拾六世紀のフランシス一世式。拾七世紀前後のヘンリー四世式。拾八世紀後半よりのルイ拾四世式とする。要は従來のゴシック式を重んじてそれにルネサンス式を加味した建方である。前記三様式は各其王の時代に流行した様式で、時代に從てゴシック式より次第にルネサンスを加味するに至つた。シャットド・シャンポルト。ヴェルサイユ宮殿、パンテオン宮殿、ルーヴル宮殿等は代表的建築である。本邦の東宮御所も此式である。

フランス・ローマネスク建築 (French Romanesque Architecture)

一〇〇年頃伊太利に起つたローマネスクの影響を受け、フランスに用ゐられた様式である。特徴としてはなく、古代ローマ建築の焼直しものである。

ブランド (Brand) (劇)

イブセンの代表的作品。北歐の牧師ブランドが自分の信する主義信仰を飽くまで保持し、其爲に母と争ひ、村長と争ひ、遂には村人全部と争ひ、獨り山の奥で深い悲しみをもつて死ぬといふ、悲劇的な作品である。

フランドル畫派 (Flemish School of Painting)

フランドル地方に榮えた一畫派で、其特殊の長所は色彩の豊麗なる點である。三世紀間餘歐洲繪畫界を風靡した。拾五世紀にはヴァン・エイクが其覇を握つてゐた。拾六世紀に入つてはラファエ

ルの影響を受け、甚しく伊太利化されてゐた。拾七世紀に至つて、ベートル、バウル、ルーベンス、アントニス、ヴァンダイク等の天才に由つて再び盛んになつた。

フランホイヤント式 (Flamboyant)

拾五、六世紀のフランス・ゴシック建築の様式を云ふ。其特徴は外形が焰に似た欄干や、窓飾をつける點にある。

フリユー・ストッキング・ソサイエテイ (Blue-Stocking)

青踏派。(其の項を見よ)

フリユート (Flute)

木製管樂器の中最古のもので、横笛に似た形で、尺八の如き音を出す。オーケストラではヴァキオリンと共に最高音部にある。音色は大きくはないが、清澄明快な事に於て、管樂器中その比を見ないものである。

ブルガンデ派

フラン—ブレイ

文藝復興期に佛蘭西に起つた彫刻の一派である。ベゼリイ僧院の本堂前殿廊及オウタムの聖ラザロ教會正面入口の彫刻は有名である。

脂球 (Boule de Saïd) (佛)

脂球と云ふ綽名の媚を賣る女が、遊行中の出來事を書いたモーバツサンの小説である。

プレイアード派 (Pleïade School)

拾六世紀佛蘭西文藝復興期に起つた文學者の群で、此派の運動と主動者とは文學上、昂宿七星 (Pléiade) の名で呼ばれ、最初その群の人が七人あつた。即ちロンサール、ブレレーベロー、バイフ、ドーラ、ジョデール、ボンテユドゥ、テイヤル等である。此派の重要なものは復興期の主たる文學的基調なる古典の研究にあり、而してフランス語及佛文學的形式を高め、希臘古典の古典語に比すべき状態に擧げんと努力した事である。此派の人は斯る主義の下に勝れた詩を作り、

フレエ——フレミ

又劇を書いた近代的浪漫主義の勃興と共に此派の研究が盛んに行はれた。

フレシリイ・スクール (Fleshly School)

肉感派を見よ。

フレスコ (Fresco)

鮮畫。石灰と石膏の生地に描かれる壁畫。此は主に壁や天井の裝飾畫に用ゐられた。随分古くからあつた描方で、伊太利文藝復興期には、再び復活して用ゐられた。其多くの作例が伊太利各地の寺院に残してゐる。近代は畫布に書いたものを、フレエムに入れて壁を飾る様になつてから、フレスコは殆んど用ゐられない。

フレミツシヨ畫派 (Flemish School of Painting)

フレミツシヨ繪畫の最初は、宗教に題材を取つたが、他國の影響を受ける事が少なく、畫法、材料ともに全く獨創的であつた。既に拾五世紀以前から、他國にない油繪具を使用してゐた。斯

繪畫は拾五世紀にヴン、アイク兄弟に由て創められた。彼等はブルーダス派の祖で、寫實的な諸技巧、風景、衣裳、建築の描寫、純眞で情緒的な點は、當代無比の大畫家であつた。其弟子ワイデンはブラバンド派の祖となり、それより此派第一の畫家メムリングが出た。

拾七世紀になつてマシイス、モステルトの二大畫家が現はれ、伊太利風を傳播した。此の世紀はフレミツシヨ繪畫史最大の世紀で、前世紀の伊太利模倣の風を繼承しながら、北方的な特色を發揮した大天才ルーベンスが現はれた。彼の畫は主に宗教畫であるが、精神よりも肉休を重じ華麗な畫を描いた。彼の高弟で肖像畫家ヴン・ダイクも有名である。

拾八世紀は衰退の時代で、肖像畫家エルハーゲンを除いては、記すべき程のものがない。拾九世紀には殆んど佛蘭西に影響された、フランス

尙古派のダキーが、ブラツセルに居を占めて、

忽ち多くの弟子を得、ナヴェーはその主な人物である。此他フランス浪漫派に動かされたワツペルス、その競争者クライト、古代的な畫に巧みなレイス等がある。又クールベの寫實主義に影響をうけたステイブンスは、上流の風俗畫が得意で、色彩に於て近世の大家である。

最近には動物畫家エルボエホワーエン、海洋畫家クレース、風景畫家ボーランゲル、歴史及肖像畫家オーテルス、風俗畫家ベール、等が有名である。

ブレ・ラファエライト (Pre-Raphaelites)

ラファエル前派。(其項を見よ)

ブレリユウド (Preludio)

音楽會、ドラマ、教會禮拜の前にする前奏曲。之は特殊な形式を持つてゐるのではなく、後に來るものの附屬とせられてゐる。教會禮拜前の

ブレラ——ブロッグ

前奏曲は普通、ボルアントリーと稱せられてゐる。

ブレレン・エア・スクール (Plain Air School)

外光派を見よ。

プロクラスチーズ (Procrustes)

今も強めて人を一型に束縛行動せしめんとする事を「プロクラスチーズの床に置く」と云ひ、斯く人を律する者即ち杓子定規を用ふる文藝批評家などを云ふ。(希臘神話)

プログラム・ミュージック (Program music)

標題樂。浪漫的時代の創始に由る。元來器樂は感情を漠然と表はすものであるが、それと同時に或る聯想を引起す事が出來ると考えられ、音楽を以て或場面を描いたり、物語を表はしたものを云ふのである。ベリオーズ、リスト、シュトラウス等は此の有名なる作家である。

プロサー—プロフ

プロサーアピン (Proserpine or Proserpina)

希臘名はバアセフォニー。ヂュピターとシールズの子である。冥府の王プルターに奪はれてその後となる。(希臘神話)

プロミシユース (Promethus)

希臘神話。原始時代より人心の底にありし靈火の權化であるといふ。天文、數學、航海、建築、冶金、農耕等あらゆる知識の淵源である。

プロテユウス (Proteus)

ネプチューンの子(或はオシアナスの子とも云はる)豫言の力あり、屢々魚鳥草木の形に變ずと云はる。希臘神話の神。

プロット (Plot) (文學上の)

小説の結構を意味す。如何なる表現の方法に依つて組立てられる小説であつても、傑れた作品に於ては作者が小説を書き下す以前に既に結構が出来上つて居る。それで讀者をして事件がそ

の究極の結果におちつく因果關係を暗示せしめ

作者に全部を信頼して安心して讀んでゆく事の出来るのは結構の力である。而して作者或は作品の性質に依つて、原因から結果へ推究して行く傾向のものと、結果から原因へと遡行してゆく傾向のものがある。前者を綜合的結構と稱へ普通作者の多く用ゐる手法で、長編小説の多數がこの様式である。後者を解剖的結構と稱へ、モウパッサン、日本で徳田秋聲等がよく用ゐる手法で、探偵小説や、短篇小説に多くこの様式を見る。

プロテスタント (Protestant)

本來の意義は「反抗者」であるが、基督教一派がローマ舊教に反對した事から、新教徒を稱ぶ名となつた。

プロフィール (Profile)

一方の側面から見た物体の表現を指す。繪畫で

「人物のプロファイル」と云へば、側面から見た人間の肖像を云ふ。又斜に横から見た場合、即ち後頭部が前方になり、容貌が半ば額、頬の突起のために隠れてゐる時は「バック・プロファイル」と云ふ。建築上でプロファイルとは、其表面からしては浮出しの具合の分明でない、くもり形及裝飾の突出を、明示するためにした側面圖を云ふ。

プロポーション (Proportion)

權衡。美學形式の一法則で、即ち二以上の部分の比例を云ふ。

プロレタリアット藝術 (Proletariat Art)

民衆藝術に同じ。(參照)

フロレンス畫派 (Florentine School of Painting)

フロレンスは文藝復興期美術の搖籃地であり且此期に於ける最重要なる地位を占むべき畫派である。此派の有名なる人々としては拾五世紀

プロボ—ブガ

に於てマザツチヨ。ファイリツボ・リツピ。ベノツオ・ゴツツオリ。サンドロ・ボツタイムエルリ。拾六世紀に於て、フラ・バルトロメオ。レオナルド・ダ・ヴィンチ。ミケランヂエロ。ロレンツォ・ヂ・クレチ等である。

フロレンス派 (建築)

伊太利ルネサンス建築の一派で、フロレンスを中心に用ゐられた。様式は城砦式建築で一見粗野の趣がある。立派な軒蛇腹は此派によく用ゐられた。此派にブルネルスキ、アルベチーの有名な二大建築家がある。

分氣 (Atmosphere)

アトモスフィアを參照。

文學 (Literature)

言語、文字に由て表現される、人の精神的所作を稱して文學と云ふ。狹義にては空想及感情に訴へられる、藝術的作品を云ふ。普通純文學と

稱へられるのは此である。廣義に云ふ時には、文字に表はされる一切の記録を含む、哲學、歴史等である。

文學の分類 (Classification of literature)

文學。

一、創造文學。

A、叙事文學(ロマンス、ノベル)

B、抒情文學(詩歌)

二、記述文學。

A、自然科學。

B、文化科學。

C、論說。

文化 (Culture)

自然の事實を一定の標準に由て支配、形成しこれに由て人の理想を出來得る限り、實現せんとする過程を文化と云ふ。その過程の産物を文化財と稱し、學問、藝術、道德、宗教、法律、經

濟等である。又その價值を文化價值と云ふ。

文學 (Literature)

文學、美術を總稱して云ふ言葉に普通用ゐらる。藝術よりは狹義で、文學よりは意味が廣い。然し或場合には文學のみを指し、或場合には藝術全体の意味に用ゐらる事もある。

文學科學 (Science of literature)

造形美術の科學的研究を、藝術學と稱するに對して、文學のみを對象とする科學的研究をいふ。普通「文學論」と稱へらるるものであるが、美學上の見地より、又科學的研究方法を用ふる等より、一の獨立した學と見られてゐる。

文學の目的 (The Purpose of literature)

此に就て島村抱月の文を引用すれば

「文學の目的には常に二つの極があつて、互ひに相動搖してゐる。一は快樂で、一は實際的意義である。併し乍ら此を總括して云ふ時は、文學

の歸趨はたゞ美にある事は勿論であらふ。即ち快樂と云ひ、實際的意義と云ふものは、畢竟美の成分として文藝に入る。されば若し斯様な統一目的から離れて、實際的意義のみ傑れた作品があつたら、それは文藝としては價値のないものとなる。道德を説くものであつたら修身書になり、教義を説くものであつたら説教集になるであらふ。之れに反して快樂のみの作であつたら、やがて講談、落語、遊戯、飲食の樂みと徑庭がなくなる。此二つは必ず並存するを要する。

然ばと云つて二つの物が、自然同居したばかりでも藝術とはならぬ。快樂は其講談、落語方面から來り、實際的意義は其修身書、説教集あたりから來る。如斯は往々所謂應用文學の上に見るところであるが、文藝として高價なものではない。兩者は是非とも理解して、一つになつてゐなければならぬ快樂である。然しながらそれ

が他の快樂と違て、一種の意義を含んだものでなくてはならぬ。又實際的意義である。併し、それがそのまま快樂であり、懐かしく忘れ難いものでなくてはならぬ。此の境を吾人は先づ大まかに美と名ける」。

文學批評 (Criticism of literature)

文學藝術の作品及其の作家に對する批評を云ふ而して其作家、作品の品質を明かにし、又その價値の高下を論ずるを目的とす。其種類に印象批評、鑑賞批評、比較批評等がある。

文藝復興 (Renaissance)

ルネッサンスに同じ。(其項参照)

文人畫

文人の筆になつた繪畫を云ふ。然し日本の文人が、支那畫、特に南畫を慕つたため、文人畫即南畫を意味するやうになつた。山陽、竹外等其尤も名高き文人畫家として知られてゐる。

ファンメー—フヘー

文明批評 (Civil criticism)

或民族とか又は時代の有する文明を批評するの
である。日本では樗牛時代から云ひ出された言
葉である。文藝批評、政治批評等よりも普遍的、
根本的な批評で、他の批評はこの文明批評を根
底に置かねばならぬ。

分離派 (Secessionist)

セセツシヨニストを参照。

ファイネ (Fine)

楽曲の終止。

ファース (Farce)

道化芝居。

ファンシー (Fancy)

空想。幻想。

ファンシー・ボール (Fancy Ball)

假装會。

ファンタスマゴリア (Fantasmagoria)

空想郷。

ファンタステイック (Fantastic)

空想的。幻想的。

フェーヴォリット (Favorite)

寵人。愛玩するもの。

フェアリー・ランド (Fairy land)

仙郷。

フォーカス (Focus)

焦點。

フォーク・ソング (Folk song)

國民的民謡、田舎の歌。

フォーマル (Formal)

形式的の。

フォーム (Form)

形体。形式。

フェータリスト (Fetalist)

宿命論を奉ずる人々を云ふ。

ブック・メーカー (Book maker)

粗雑な安っぽい書物の爲めに賣文する者を嘲笑
した言葉で、我國の三文文士といふ格。

フネネラル・マーチ (Funeral march)

葬送進行曲。

プライド (Pride)

自尊心。誇り。

プラクティカル (Practical)

實際的。實用的。

ブラス・バンド (Brass band) (音)

眞鑄製の管楽器のみで編成された樂團。

ブラッド (Blood)

血。骨肉、即ち親子兄弟等。

フリー (Free)

自由。

フリー・シンカー (Free thinker)

自由思想家。

ブック—ブロー

プリズン (Prison)

牢舎。監獄。

プリンシプル (Principle)

原理。主義。

プリント (Print)

印刷。印畫。

ブルジョアジー (Bourgeoisie) (佛)

中流社會、特に商人階級を云ふ。

プレイヤー (Player)

演技者。演奏者。

プレイヤー (Prayer)

祈禱。祈念。

フレッシュ (Fresh)

新鮮なる。潑刺たる。

フレンドシップ (Friendship)

友情。交情。

ブローケン・ハート (Broken heart)

プログ—ヘイケ

斷腸の感ある。氣落ちせる。

プログラム (Program)

番組。次第書。

プロース (Prose)

散文。

プロゼイック (Prosaic)

無趣味。散文的詩的に對して殺風景なもの。

プロセス (Process)

過程。

プロダクト (Product)

産物。成果。

プロバビリチイ (Probability)

蓋然性。

プロフェツショナル (Professional)

専門的。職分的。

プロフェツサー (Professor)

教授。

プロレタリアト (Proletariat)

貧民。無産階級。

プロローグ (Prologue)

序言。劇で云ふ序幕。

ブロンズ (Bronze)

青銅。

ペイガニズム (Paganism) (異教主義)

ヘレニズムに同じ。

平家物語

鎌倉時代の作で、平家を中心として、源平兩家の興亡盛衰を記したものであるが、想像的加筆

が極めて多い。

平治物語

鎌倉時代の作で、平治の亂を記した軍記物語である。

平面描寫

此は田山花袋の主唱に由る。單に作者の主觀を加へないのみならず、客觀の事象に對しても、其内部に立入らず、たゞ見たまゝ聞いたまゝ觸れたまゝの現象を描く、それが平面描寫なのである。故に印象的ならざるを得ないから、此作風は印象的描寫とも云へやふ。

平和祭 (Das Friedensfest) (獨)

獨逸に於て尤も代表的な劇作家、ハウプトマンの現實的な家庭劇である。病的に憎み合ひ迫害し合つた父子三人の一家が、クリスマス前の夜、何年振りかに落合て平和祭をなし、和解の祝をしたのも束の間、平和は直ちに破れるが、此劇

ヘイチ—ヘウゲ

の「平和の天使」である娘イーダの優しい心に育められる光景を描いたものである。

表現主義 (Expressionism)

獨逸に於て大戦後盛んになつた文藝上の一主義である。元來獨國民は理想主義的であつたが、一時物質主義の風靡するところとなり、遂に大戦を捲き起した。然しその惨敗の結果は物質文明の果敢なさを國民に會得させ、再び理想主義を追想せんとして、斯主義が生れた。斯主義は、自然主義も新浪漫主義も、共に外部の印象を取入れる所の、印象主義の藝術であると云つて斥ける。此消極的方面ではなくして、内部より外部へ印象を與へるよりも寧ろ表現し、他を材料としてのみ取入れ自己の内に新らしく創造せんとするのである。人生に對する態度は理想主義的で、藝術は至高の理想の表現であると主張する。此派の人々にヨースト、ゾルゲ、ウンルフ、

ヘウゲ—ヘウシ

バルラハ、ホルトニカス、カイゼル。戯曲にてはハーゼンクレーヴェル等がある。「カレーの市民」を書いたカイゼルは代表作家と云へやう。

表現派 (Expressionism) (繪畫)
最近繪畫に於て、極端な主觀的傾向を有する一派である。形式を無視し、自然の再現を第二として、特に色彩の靈能を主張する。藝術の至高目的としての、内部生命の表現を以て觀者に迫らんとする主義を有する。カンヂスキー一派、後期印象派、立體派の如き非印象主義的藝術はすべて表現主義の中に含まれる。

表現説 (Expression theory)
藝術の起原に關する一説。ヒルン等が唱へた説で、人間には感情を表現せんとする、本能及衝動がある。藝術はその本能の衝動に由て起つたといふのである。

表出法 (Expression)

「満つれば却て虧くるの恐れあり」といふを殊更に思想態度を奇警にして「満つるは虧くるなり」などいふ時の修辭法である。此には警句法、問答法、設疑法、咏嘆法、反語法などに分類をする。

描寫 (Description)
自然及人生の事象を有の儘表はす事を云ふ。此には説明とか批評とかがなく、其儘を再現せんとする、排主觀的なものである。排主觀の傾きは、やがて描寫的傾向を意味する。自然主義には特に重ぜられて來た事である。

標題音樂 (Program music)

近來唱へ出された音樂で、絕對音樂に相對する言である。此は或題目を捉へ、景色、事件の進行を抒情的に描寫し、音樂を以て叙述せんとするもので、所謂「記述音樂 [Descriptive music]」と同意である。

表象 (Idea)

心理學上の術語で從來用ゐられて來た、觀念と同じ意味である。又文學の一部では、象徴と同じ意味にも用ゐられる。(象徴の項を見よ)

壁畫 (Fresque murale) (佛)

壁面に描かれた繪畫で、埃及の祠堂、墳墓の内部。ボンベイの屋内裝飾畫。伊太利のフレスコ等の如きである。日本にて法隆寺の金堂にある壁畫は唯一のものである。

ヘッダ・カアプラー (Hedda Gabbler)

一八九〇年イブセンの書いた性悲劇である。ヘッダ・カアプラーは、ガアブル將軍の忘形見の娘である。彼女は天性烈しい氣性の、負けぬ氣の強い男性的な女で、子供の時から馬に乗つたり、ピストルを弄つて喜びなどしてゐた。彼女は自由に廣い世界に出て、現實の生の幸福と、強い歡樂を享樂して見たい慾求を持てゐた。然し彼女の現在の夫君たる、學士テスマンは、彼

ヘキグ—ベニス

女の尤も嫌がる女性的な心の持主であるから、彼女は夫にも家庭にも興味を失つた。そして何か新らしい刺戟を求めやふとする。其處へつけ込んで來たのは、ブラツクと、リヨウフボルクであつた。リヨウフボルクは彼女の最初の戀人であつた。が然し彼は其時、彼女の舊友テア夫人のものである。彼女は絶望して二人に向ひ挑戦しやうとし、リヨウフボルクがテアの助けに由て成つた名論文を焼き捨て、彼女自らも自殺するといふ筋のものである。

ベニス樂派 (Venetian School of Music)

之を前後の二期に分けて、舊ベニス派と、新ベニス派とする。舊派はネザランド樂派の弟子及後繼者に由て建てられ、壯嚴なる宗教樂に其特徴を有つてゐる。新派は之に反し、情緒的、感情的の進行を採用して發展したものである。兩者共に寺院樂法の二重唱を祖述し、又其點に

發達をした。

ベートーヴェン「第九ジュムフォニー」(或はシムフォニー) (Teethoven Die Neunte Symphonie) (獨)
 ベートーヴェンは自らこれを單に「三短調ジュムフォニー」(Die Symphonie Dmoll)と呼んで居たが、一般には彼がジュムフォニーを成作してから第九番目なるを以て「第九ジュムフォニー」と稱せらる、此の作品の他と特異なる點は、他のジュムフォニーが單に管絃樂にて演奏される純器樂曲なるに反して此曲の終樂章が戲曲的な場面に富んだ獨唱附合唱曲から成り立つて居ることである。併し乍らこの樂曲の有名になつた所以は、彼の技術と精神との最高頂の時に於て作り出されたもので其深刻なる精神的内容と、其巧妙大膽なる純器樂上の技巧とは、當に古典音樂が産した名作たるばかりでなく、實に世界最大の傑作であると云ふにある。

文藝復興期にベニスを中心として、十五世紀の中頃から盛んになつた畫派である。此派はジェンティレ・ペリニ。ジョヴァンニ・ペリニ。の二大家が開祖となり、殊に後者は十五世紀を通じて、同派の中心作家であつた。此派の人々は快活で、明るく生の樂みに充ちた樂天的の畫を描いた。特色は色彩の光彩陸離たるにある。

紅繪

寛保より寶曆頃まで、約廿餘年間行はれた浮世繪の一種である。紅繪の出るまで、筆彩色の繪が可なり長く行はれてゐたが、彫摺技術が進み、色摺版畫の簡單なものが發明された。之が紅繪である。紅繪の起原に就て種々の説があるが、延享元年頃と云ふのが眞に近いであらふ。紅繪の顔料は紅を主とし、黄、草色、藍などを用ゐ、三度乃至四度摺のものであつた。大きさは縦約

一尺、幅五寸位のものが多い。繪には美人、武士、役者、等種々あつて、紅繪賣が手輕な荷を擔いで行商し、僅かな價で買ふことが出来た。作者には鳥居流の清信、清倍、政信、重長、後期には清滿、清廣、北尾重政、鈴木春信等を數へることが出来る。

ペネローペ (Penelope)

希臘神話。その夫ユリシスがトロイ戦争に出征したが、戦後永く歸還しなかつたので、多くの者が彼女に再婚を切りに勧めた。彼女は舅の衣を織り果つた後にせんと肯せず、織つた衣は夜の間復解き、斯くて廿年の年月孤閨を守り、遂に夫に再會するを得たと云ふ。

伯來主義 (Hebraism)

ヘブライズムと同じ。

ヘブライズム (Hebraism) (伯來主義)

(ヘレニズム参照) 古代ヘブル民族に由て、表は

ペネローペ——ベラス

された主義で、現代は基督教に由て代表される思潮である。即ち神を信じ、神に對する服従に重きをおき、靈を尊び、義務を重んじ、現在の享樂的よりも未來を信じて、禁慾的精神的で、宗教本意の思想である。

ヘラクレス (Heracles)

希臘傳説中隨一の勇士である。ゼウス神と人間の女との間に生れた。諸國の惡獸、妖怪などを退治せし事拾二の功業ありと云ふ。彼は力と角力の權化と考えられ、其彫像は何れの競技場にも崇拜された。ギリコンの作にかゝる大理石像は、此神の代表作である。

ベラスギー建築

古代希臘に入て來たベラスギー族の建築。其主なる遺物は城、宮殿、門、墳墓等而就中獅子門は代表作とされて居る。後世の希臘建築は此式に倣ふ處が多くあつた。

ペルシヤ——ペルセ

ペラミア (Pelami) (佛) (美貌の友)

青年主人公デユロイが、獸的生活をたどるのを描いた、モーバツサンモーバツサンの小説で、女の一生と共に最も有名である。

ヘリオトロプ (Heliotropis)

草花の一種で、此名稱の起源は希臘語「太陽に向て廻轉する」の意から來たものである。花は濃紫、淡紫、小豆色の淡いもの、灰色が、つた白等がある。巴且杏か梅によく似た香氣が強い。和名を「コダチルリサウ」と云ふ。歐洲の或所では結婚の花束に、缺くべからざるものとされてゐる。

ベルガモン彫刻派 (Perannum School of Sculpture)

ヘレニステック時代に起つた彫刻の一派で、前二〇〇年より前二〇〇年頃、ベルガモンに於て發達した。アツタラス王がゴール人擊退戰勝紀念のため、ゴール人擊攘の像を造た。其中一瀕死

の劍闘士、及アクロボリスの祭壇周圍」の戰爭の浮彫は最も有名である。

ペルシヤの繪畫 (Persian Painting)

古代ペルシヤの繪畫は、殆んどアツシリヤの感化になつたものである。釉瓦、漆喰畫、等が盛んに描かれたが、此等は皆アツシリヤの模倣であつた。降つて四世紀以後ペルシヤの畫本には、美しい細緻な小畫が挿まれるやうになり、拾六世紀頃此藝術は驚くべき完備の域に達した。釉瓦の繪も此時代のものに、極めて立派な美術的のものが多い。

ペルセウス (Perseus)

希臘傳説中の英雄。ゼウス神と、アルゴス王アクリシウスの女ダナエとの間に生れた。アクリシウスは其子の手にかゝつて死ぬといふ神託を恐れ、ダナエと共に箱に入れて海に流した。其箱はセリファス島に漂着しペルセウスは島の王

宮に養はれた。長じて女怪メヅサ退治の命を受け、ミネルバ神より楯、マキユリー神より翼の履物を授けられ、遂に之を殺す事を得て、首をミネルバに獻じた。歸途アンドロメダを海魔より救ひて妻となす。後誤つて神託の如く父を殺し、アルゴス王となつた。

ヘルメー (Hermes)

頭像又は胸像にて、四角形の上部になる程次第に細くなる柱に立てられた像を云ふ。往古ヘルメスが斯如風姿で現はされたより此名稱が出た

ヘルメス (Hermes)

希臘神話にあるゼウスの子で、常に黄金の翼ある草鞋を穿き、四方に飛歩きて神の使命を傳へる。始めは牧畜の神として崇拜され、後に至て商業交通の保護者と考へられ、旅行者の保護神ともされた。

ベルリン彫刻派 (Berlin School of Sculpture)

ヘルメ——ヘル

拾八世より拾九世に、獨逸ベルリンを中心として起つた彫刻の一派である。スチャツドゥを首領とし、其作風は歴史的で偉人の彫像をよく成し、寫實主義的傾向を有する。長子ラドルフ・スチャツドゥ。ラツシユ・ドラーク等は著名の作家である。

ヘレナ (Helena)

希臘神話にある希臘第一の美人で、多くの勇士が婚を求めたが、遂にメネラウスに許し、將に式を擧げんとする時、トロイの王子パリスに奪はれた。此よりトロイ大戰爭が起つたといふ。戰後再びメネラウスに伴はれて歸國した。

ヘレニステック時代 (Hellenistic Period)

此語は前二九〇年以降、羅馬が希臘を平定するに至つた前二四六年迄、希臘藝術に關して用ゐられた。アレクサンダー大王戰勝の結果、希臘藝術は本國外に擴まり、東方諸君にまで及んだ。

ヘレニー—ペイン

然し希臘藝術の純粹性は失くなり、一種の技巧の勝た形式と變する傾向があつた。本期の藝術はシリヤ島、埃及、シリヤ、小亞細亞、近海諸島に弘まり、苦惱、狂亂、恐怖などの悲劇的彫刻が創出された。ペルガモン浮彫、ラオコーン群象等は著名である。此期に成功したのは、ペルガモン、ロードスの二派である。

ヘレニズム (Hellenism) (希臘主義)

古代世界に著しく相反する性質を示した二國民があつた。一はヘブライ人で唯一神エホバを信じ、神に絶対服従し、禁慾主義を尊び、靈魂を崇め義務を重んじ、現實世界よりも未來に重きをおく神中心の生活を主張し、二はギリシヤ人で、前者の直觀的よりも理智的で知識を愛し、肉体を愛し、現實的、享樂的、人間本位の國民であつた。ヘレニズムは此ギリシヤ國民のとなつた主義を、人生の究極目的に達する理想的方法

であるとするのである。アーノルドが云た如く「此相反する二大思潮の勢力の間に我等の世界が動いてゐる」現在に至るまで、一はキリスト教によりて代表さるるヘブライズム、二は異教主義によりて代表さるる、反宗教的及反キリスト教的思想の二思潮に依て支配されてゐる。

希臘國民に由て始められ、羅馬國民に傳つた此ヘレニズムは、基督教の興ると共に滅びた。然し拾六世紀の文藝復興となりて表はれ、近代拾九世紀の、科學精神に由て起りし自然主義的思想、又は唯物的思想は、此主義の再現と見らる。異教主義 (Paganism) とも云ふ。

ペイン (Pain)

苦痛。困苦。

ペインター (Painter)

畫工。畫家。普通色彩を塗る人といふほどの廣

い意味に用ひらる。

ペーヴァン (Pavani)

伊太利より起つた緩徐な舞踊。

ペーヴメント (Pavement)

舗石。舗道。

ヘヴン (Heaven)

天國。

ペシニズム (Pessimism)

厭世主義。悲觀主義。

ペター・ハーフ (Peter Halt)

愛妻。

ペダル (Pedal)

ピアノ、オルガンの下部にある踏板である。

ペダンティック (Pedantic)

街學的。學者ぶる。

ベツガー (Begger)

乞食。

ペイン—ポアン

ペートロン (Patron) 或はパトロンとも發音す。

保護者。恩人。

ヘドニズム (Hedonism)

快樂説。快樂主義。

ベース (Bass) (音)

低音部。男性音の最低音部である。

ベルソウス (Berceuse) (佛)

子守歌。又子守歌風の器樂曲を云ふ。

ホ

ポアンチリスト (Pointilist)

點彩派。佛國印象派の一分派に與へられた名稱である。色は光から來る故、自然界はブリズム

に由る七原色と、其補色とより成る。故に此原色をもつて光を表現せんとするにある。斯て此派は赤、青、黄の原色をそのまま、微片、また小點として畫布に置き、近よつて見れば小點の集合なるが、或距離を隔てると其原色が、眼の水晶体にて綜合され光と同じ効果を表はす。要は印象派の原理を、論理的に進めて行たものである。斯る技巧にて自然の諸現象を寫さんとするのを、分割主義といふ。又同主義の人を點彩派と云ふ。ミニカック。ゼウラー。リセルベルグ等、新印象派の諸家及シダネー。マルタン等も點彩派である。

ホイロット (Hoyeott)

地主、資本家等に對して、社交上又業務上の關係を絶ち、同盟して反抗する事。不買同盟の義にも用ゐられる。此名稱の起りは、始めて此制裁を受けた愛蘭の地主の名である。

報告的自然主義 (Report Naturalism)

本來自然主義に同じ。(同項参照)

母音の色 (Colours of Vowel)

アルチウル・ラムボオは「母音」と云ふ詩に「Aは黒」「Eは白」「Iは赤」「Oは青」「Uは緑」といふ色を感じてゐる。

ホガース美線 (W. Hogarth line)

古來線の美に論及した者のうち、曲線美に就て最も主要の説をなしたのは「美の分解」の著者、英のホガースであらふ。彼は形式美の原理たる變化の統一を以て、美一切の原理とし、之を一種の曲線に代表せしめた。就中裝飾美術に就て巨細の論をなした。之をホガースの美の線の説といふ。要は、波線又は蛇線を描くに、其二個以上の曲線の連続せるところに、變化の意を尋ねんとするもので、ホガース自らの言に由れば、「最要素たる複雑、葛藤を之れに由て標示せんと

する」ものである。

北畫

北宗畫の略で東洋畫に於ける一大流派なり、南畫に對する名稱にして、支那より來り本邦にては雲谷派、長谷川派、狩野派等は斯派に屬する。

北部伊太利ローマネスク建築 (Northern Romanesque Architecture)

ロンバルデーのミラノで盛んに用ゐられた様式で、其發達はヴェニスに迄及んだ。一名ロンバルデー式とも云ふ。煉瓦を用ゐる。寺院は間口を廣く、上部に圓窓を有ち、入口ポーチの柱の下部は、彫刻された獅子に支持させてあるのが普通である。奇抜で活氣に富み、裝飾彫刻には多く狩獵の繪を用ゐた。ヴェロナのサン・ゼノン寺院は代表的建物である。

保元物語

鎌倉時代の作で、保元の亂を記した軍記物語で

ホクグ—ホシノ

ある。

ポーズ (Pose)

畫に描かれた人物又は彫像の取てゐる姿勢を稱す。又モデルの姿勢をもポーズと云ふ。

ポスト・インプレッションニスト (Post impressionist)

後期印象派の項を見るべし。

牧歌劇 (Pastoral play)

西班牙などで、貴族又王家の人々を楽しませんために、演ぜられたもので、其作者は大抵詩人であつた。

星の世界 (To the Stars)

露西亞最近の象徴劇作家、アンドレーフの代表的作品である。山上の天文臺に世と絶ち離れて、星の世界と神秘的な交通を開かふとしてゐる天文學者、テルノウスキーと、町の窮民のために革命一揆を指揮して、獄に投ぜられた其息ニコライとを對象し、各々の世界を現はさんとする象

徴劇である。ニコライは非道な拷問を受けて白痴になる、人々は此問題を中心にして、平和な然し冷たい自然に就くとか、又悲と苦とはあるが熱のある人間生活に入るとか、に就て論じ合ふ。其處へニコライの戀人が来たが、山上に留まらふとはせず、「人生に歸て行く」と叫ぶ。天文学者は理想の世界、象徴と觀念の世界に住むロシア人の一面を、ニコライと其愛人は現實と幻滅の世界、苦痛と努力の世界に住むロシア人の一面を表はしたものである。

ポットポイラー (Potboiler)

眞の藝術品ではなく、單に俗受けを目的として作られた、似而非藝術品を云ふ。

没理想 (Non-ideal)

理想を没するの謂で、寫實主義の起つた頃、此言はよく用ゐられた。理想主義が理想を表現するを旨とするに對し、寫實主義は其理想を作品の

裏面に没して表はさぬ事を主張した。此を没理想と稱し、自然主義時代に用ゐられたのである。

無理想と異なる點は、それは全く理想なきを意味するが、没理想は此を故意に没して、表現しない謂である。

ポルカ (Polka)

拾九世紀の初め頃、ボヘミヤにて農民舞踊として作られた、活潑なラウンドダンス。調子は2/4である。

ホルン (Horn)

一般に圓形に屈曲せる金屬製の管樂器で、オーケストラ及軍樂合奏に用ふ。

ポロネーズ (Polonaise) (佛)

ポーランドから起つた3/4拍子の舞踏曲。

ポロニヤ畫派 (Polonese School of Painting)

ルネサンス末期に榮えた一畫派である。其特色とする處は學識のあつた點、裝飾的な點に優れ

てゐた。然し非常に折衷的な傾向があつた。アルバニ。ドメニキノ。ギト・レニ等は最も優れた畫家であつた。

ボヴリー夫人 (Madame Bovary)

佛人フローベルの代表的作品で、客觀的自然派の作品としては第一にあけらるべき小説である。ボヴリー夫人とは、シャルルといふ田舎醫者の妻であるが、夫の不能に愛憎をつかし、其後藥劑師レエオンと不義な關係を結び更にルドルフといふ金持ちとも不義をする、その路行きを書いた小説である。

汎神論 (Pantheism)

萬有神論とも譯される。神と萬有とは同一体なりと云ひ、元子論又は超神論に對して、内在的實在を主張する宇宙論である。即ち萬有とは絶体唯一の實在の顯現にして、其以外に何物も存在せず、宇宙萬有は即ち此の唯一實在たる、神

ボヴリー——ボンノ

の實現なりとの説である。

印度思想には古代より汎神論的傾向があり、梵我一如とは此思想である、佛教、波羅門教等の根底は、皆この汎神論と云ふべきである。近世哲學に於て、スピノザ哲學は此主張の代表的なものである。

ボンチ繪 (Parach)

滑稽、諷刺の畫を指す。英國の漫畫雜誌「ボンチ Parach」より此名が出た。

本能 (Instinct)

動物が先天的に持て生れた、そして生後の經驗によらざる性能を云ふ。本來に具有するもので、例へば自己保存の助をなす如き運動が、長く習慣となり、遺傳的に傳つたものなどである。野獸が其子を愛撫する如き、食慾、性慾の如きを云ふ。

本能満足説

ホニャー——ポエツ

本能を満足せしめるのが人生の目的であると主張する。樗牛の美的生活論は即ちこれである。
(美的生活参照)

翻譯 (Translation)

外國の書物を自國語に譯するを云ふ。一字一句を辿て譯したのを、逐字譯又は直譯と云ひ、文意のみを取たものを意譯と云ふ。原書からすぐ譯したのを、原語譯と云ひ、共に對して既に譯された書を、再び自國語に譯するを、重譯と云ふ。例へば原書は希臘語であるが、既に英譯されたのを、英語から自國語に譯する場合の如きである。又一部分のみ引抜いて譯したものを、抄譯と云ふ。

本讀み (劇)

新らしく上演する脚本を朗讀する事である。此時は上演の役者は勿論、衣裳方、道具方まで集て本讀を聞くのであるが、今日最早や知れ切た

古い狂言などは、大抵の場合略して讀まない。衣裳方、道具方の列席も多くは省略される。

本來自然主義 (Naturalism proper)

文藝上の自然主義が二つに別れて、印象派的自然主義と、本來自然主義になつた。一は主として自己の氣分に浸されし印象を描くに努め(印象派参照)一は純客觀的の立場から、科學者のやうに現實を有のまゝ描かんとするのである。或批評家はこれを稱して、報告的自然主義と云つてゐる、ゾラ、モーパッサンは此派に屬する重なる作家である。

ポイント・オブ・ビュー (Point of View)

着眼點。觀察點。見地。見界。

ポエツトリー (Poetry)

詩。

ポエツト (Poet)

詩人。

ポジション (Position)

位置。姿勢。

ポーション (Portion)

部分。分配高。

ポスター (Poster)

一枚刷の廣告繪びら。

ホステス (Hostess)

旅館等の女將。女主人。

ホネー・ムーン (Honey moon)

蜜月。

ポピュラー (Popular)

平民的。通俗的。名高き。

ホープ (Hope)

希望。

ホーム (Home)

家庭。

ホームシック (Home sick)

ホジシ——ホワイ

懷郷病。

ホライゾン (Horizon)

地平線。

ポリシー (Policy)

政策。策略。

ポリスマン (Police man)

警官。

ホール (Hall)

會館。會堂。

ボヘミアン (Bohemian)

ボヘミア人。又放浪生活をする人のことをも云ふ。

ホワイト・スレーヴ (White Slave)

賣笑婦。

マ

マアキユリー (Mercury)

希臘名ヘルメス (Hermes) デュピターの子で能辯多才、琴、鳴管などを創造し、天文數學等の祖神なりと稱せらる。

「水星」を呼ぶに此名を用ふ。

マイカウバリズム (Micauberism)

マイカウバーは、デイケンズの小説ダビッド・コツバフィールドの中に出てゐる人物で、議論好きな空想的な、夢の様な計劃に耽り、幾度か失敗しても、又夢の様な空想で運の來るのを待ち、遂には失敗しきつて國外に出るといふ。さうした生活様式を云ふ。

前舞臺。突出し舞臺 (The Far stage, Apron)

日本の能舞臺式、又は歌舞伎の花道式の舞臺装置である。西洋では沙翁時代の舞臺に用ゐた。最近にも又用ゐられた破格な装置である。

蔭繪

金銀の粉末、金属貝殻等で、漆器に紋章、花鳥、山水等の圖様を施すもので、日本特有の工藝美術品である。寧樂時代からあつたが、徳川時代に名工多く出で、有名になつた。その種類には研出蔭繪。平蔭繪。高蔭繪。螺鈿蔭繪等がある。

幕 (Curtain) (劇)

舞臺と見物席との間に、仕切りを設ける爲めに幕を引く事は、日本の芝居の創始時代にも、西洋にも十六世紀の中頃迄なかつたが、この幕に因つて古代戯曲の表現法と近代戯曲の表現法と異なる點として居る。即ち幕のない時代にあつては舞臺が見物席へ突き出て、役者も舞臺の設備

も、全部見えて居る爲め、芝居の見物に與へる効果は、「動く彫刻」であつて、表現の特質は彫刻的 (Plastic) であつた。それが幕が使用せらるるに到つて額縁にしきられた繪のやうな効果を與へるやうになつた。即ち舞臺の概観が、繪畫的 (Platonic) になつたのである。

この繪畫的手段の主要なる利益は、それが周圍に現實の錯覺を作り出す事である。換言すれば、役者が役を演じてゐる舞臺が、既に現實を暗示してゐるので、劇中の人物それ自身は、もうそれ以上現實的に見せる必要がない。

この幕が使用せらるゝやうになつたのは、斯る理由からである。併して建築、彫刻の盛んであつたアテネ全盛期に於て、彫刻的な劇が殷んであり、繪畫美術に最も偉大なる貢献をなした、伊太利人の手により繪畫的性質を劇に帯びさせた事は注目すべき事である。

マクベ—マクベ

最近世界大戦後歐羅巴の舞臺では幕が廢止された演劇を見る事があるが、ある意味に於て此等は原始時代への復歸であると云ひ得る。

マクベス (Macbeth)

沙翁の作で四大悲劇の一である。其梗概は、蘇國王ダンカンの甥は、バンクオと共に、外國使入軍平定の歸途、三人の妖婆が現はれて彼に「王たるべし」と告げた。彼はそれを信じ、妻と共に謀して王を自家に招いて逆殺した。妖婆の言は實現したが、良心の苛責に堪えられずして、妻は妄想狂となり、自らも又悔恨の日を送る。英國に逃れてゐた先王の王子、一萬の兵を起して遂にマクベスを殺して、父の仇を報じた。

増鏡

後鳥羽天皇より後醍醐天皇までの、史實を記したものであるが、作者は不詳である。

マスコヒズム (Masochism)

マズル—マテル

異性に絶体服従し、其から受ける種々なる苦痛を性的に満足するといふ、病的性慾を云ふのである。獨の性學者エビングが、塊の小説家ツヘル・マズツホの作品に、此の病的性慾描寫が多いから、名けたものである。

マズルカ (Mazurka)

ポーランドの國民的舞踊で、急速な三拍子、三拍子目毎に強いアクセントが用ゐられてゐる。

マーチ (March)

行進曲。人の歩行に適した、リズムを持つ四拍子の樂曲。形式は規則正しい四小節、或は八小節より成立してゐる。

パレード・マーチ Parade march は一分間に七拾五歩餘の歩數。

クキツク・マーチ Quick march は百〇八歩餘りで稍急速。

チャージ・マーチ Charge march は吶喊行進、百

歩餘。

フエネラル・マーチ Funeral march は葬禮行進曲で、歩數遅く壯重で哀調を帯びたものである。マイエルベールの「戴冠式行進曲」、ヴェーナー・ペン及シヨバンの「送葬行進曲」、シユツベルトの「軍隊行進曲」等は最も有名なるものである。

末人

ニイチエの哲學に云へる言葉。超人の反對に自我の爲に生存する事を知らず、習俗迷論に惑されて、他に支配され、力なき生活をなす人である。

マテリアリズム (Materialism)

唯物論。物質主義を見よ。

マテル・ドロロサ (Mater Dolorosa)

悲みの母といふ意。十字架上の基督を仰ぐ聖母に名けられた名。

マドリガル (Madrigal)

聲樂曲の一形式。

マドンナ (Madonna)

繪畫又は彫刻に表はされた聖母マリヤを云ふ。ドレスデンにあるラファエルのマドンナは、世界的名畫である。

魔笛 (Zauberflöte) (獨)

獨逸人モツアルトの傑作たる歌劇である。埃及のタミノ王子が、夜の女王の爲に魔笛を持つて誘はれた、女王の娘パミナを探しに行くといふ、お伽風の歌劇である。

マニユスクリプト (Manuscript)

寫本。ペン又は筆を以て書き寫されたもので印刷の出来ない前に用ゐられた。

マノン (Manon)

佛國の歌劇作者マツスネエの代表的作である。マノンと騎士グリユーの、戀の悲劇である。

マリ—パ—

マリ—ン・ペインター (Marine Painter)

海洋畫家。海、海濱等より種々なる現象を得て、之を専門に表現さす畫家を云ふ。

マルホフ式

最近裝飾上の一様式に用ゐらるる言葉である。もと埃太利の意匠家、マルゴールとホフマン二人の頭字を取つたものである。マルゴールの圖案は色も形も豊富で複雑し、くどい感じを與へるが、ホフマンの方は單純な明快な感じを與へると云はれる。日本で云ふマルホフ式とは、此二人の圖案に倣たものを云ひ、「維納の新らしい藝術」として起つた、セセッション風の様式である。

丸彫

半肉彫、薄肉彫に對して云ふ。全部の形を彫出し、四方から見得る彫刻を云ふ。

マロー派

マンネー—パネリ

拾六世紀佛蘭西の文士クレマン・マローを師として、後に起つて来た文學者の群で、ジュレー・ブロードー、ドーレ等である。

マンネリズム (Mannerism)

藝術上一種の悪傾向を意味する概念である。即ち藝術創作に於て、内面的動機よりも、外面的に習得された技巧が、その内部精神に優し多く表現され、機械的、技巧的になる場合をいふ。

廻り舞臺 (Revolving Stage) (劇)

劇の或る場面から次の場面に移る時、舞臺に幕を下す代りに、舞臺を廻轉する事により時間の短縮乃至は藝術的效果を多からしむる装置である。

この装置は我國で寛政五年(西曆一七九三年)より使用せられたが、ヨーロッパでは一八九六年ミュウヘンの王立劇場主事ラウテンシュレエゲルが使用したのが嚆矢である。それ以來この設

備は全獨逸に擴まり、やがてイギリスからアメリカにまで傳つた。

併し西洋の廻り舞臺は、其用法が多少趣を異にして、多くの場合、日本のやうに幕を上げたまゝ廻されずに、所謂日本の『蔭廻し』である。一つの場面がすむと、幕をおろして、或はダーク・チェンチにする(幕の蔭で舞臺を廻して、すぐ又幕を上げるのである。亦獨逸には『車舞臺』(Wagenbühne)なるものがある。これは幅二メートル長さ四メートル程の臺で、ゴム輪の車輪の上に乗つて居る。これが十箇乃至十二箇用意される時は随分大掛の芝居でも、極めて容易に、殆ど廻り舞臺と同程度の早さで演了される。

亦この車舞臺を一層大規模にしたものに『滑り舞臺』(Schleibühne) (Sliding Stage) がある。これは伯林王立劇場の機械主任ブラアムの發明にかゝり、舞臺一面の大きな車舞臺を丁度

二つ續けた形で、臺は左右に滑らす事が出来る、故に臺の半分が演技に用ひられて居る間に、他の半分は道具を取付ける事が出来る。この設備に因れば、廻り舞臺で出来ない大掛りの道具を連続的に變へる事が出来るが、缺點としては舞臺の左右に、舞臺の廣さ丈の空地を有する劇場でない、この設備が出来ない。

マンドリン (Mandoline)

形は平面か平扁で、半球形であり、四絃を有た樂器である。調絃法はヴァイオリンと同一で、多くイタリヤ、イスパニヤ地方で用ゐられる。

萬葉集

これは奈良朝時代の歌集である。仁徳天皇より淳仁天皇の頃まで、約四百年間の歌を集めたものである。其大部分は天武天皇以後九拾年餘のものである。長歌、百六拾二首、短歌四千百七拾三首、旋頭歌六拾一首、貳拾卷より成る。作者は

マンド—マスター

五百六拾一人で、選者は詳かではないが、家持であるといふ説が眞に近いものであらふ。柿本人麿、山上憶良、山部赤人、大作家持等が、最も代表的な歌人である。萬葉集の思想及形式は、雄渾壯大で典雅なもの多く、よく國民思想を表はしてゐる。これは日本古代文學の代表作であるのみならず、日本文學の粹として恥づるところはない。

マーク (Mark)

記號。商標。

マーケット (Market)

市場。

マスク (Mask)

假面。

マスター (Master)

主人。長官。

マスターワーク (Master-work)

マダム——ミフリ

傑作。

マダム (Madam)

夫人。奥様。

マーチャント (Merchant)

商人。

マッター (Matter)

事件。物質。

マハト (Maieit) (獨)

力。努力。

マーブル (Marble)

大理石。

マントル (Mantle)

外套。

マチネー (Matinee)

晝間特に午後開かるる演劇、演奏會。

マンモニスム (Manumonism)

拜金宗。

III

ミカド劇 (Mikado-Drama)

英國に於ける演劇。材を日本皇室に取り、頗る滑稽な茶番劇であるが、今は國際感情の上から禁示されてゐる。

ミサ (Mass) (彌撒)

加督利教會にて聖餐式の時に用ゐられる讚美歌其音樂の順序は、1. Kyrie 2. Gloria 3. Credo 4. Sanctus 5. Agnus Dey

密畫

凡て緻密に描いた繪を密畫と云ふ。

身振狂言 (Pantomime)

パントマイムを見よ。

ミノドラマ (Mino-drama)

音樂伴奏の無言劇の一種である。

ミュージック・ドラマ (Music Drama)

樂劇。オペラに同じ。(参照)

ムーース (The Muses)

ヂュピターの女で、文藝を司る九神の總稱である。クライオは歴史。ユーターピーは音樂及抒情詩。サライアは喜劇及牧歌。メルボメニーは悲劇。タアブシコリーは舞踊及唱歌。エラトリーは想思の歌と輓歌。ポリヒムニヤは讚歌、抒情詩及修辭。ユーラニヤは天文。カリオピーは雄辯と叙事詩を司るといふ。

英語にて音樂をミュージックと云ふは、此希臘語より來た言葉である。

ミューヘン派

拾九世紀獨逸ミューヘンを中心として起つた彫

ミモド——ミライ

刻の一派である。スヒワントラー。エベルラールド等は代表的作家である。此派の作風には、ローマンチックの傾向を持てるた。

未來派 (Futurism)

最近伊太利に於て、マリネツチに由て始められた藝術上の一新派である。斯派の主張は、一切の過去の傳統に反抗し、藝術の對照として從來の如く靜的のものを撰ばず、専ら動的のものを取る。其故近代社會及文明の生んだ激動的、又動亂的なものを其中心とする。故に斯派の好んで用ふる題目は、激動する大工場、戦争、革命、争闘、等熱狂的であり靜的の一切のものを極度に貶す。斯運動は美術上のみならず、文學、音樂等にも及で居る。

未來派劇 (Drama of Futurist)

未來派が起つたのは最近の事で具體的な理論形式も作家も多く出てゐない。一九一五年「未來

主義の綜合劇場の宣言が、劇革新に關する主張としてマリネツチ。セツチヌリ。ユルラの名で公にされた。其理論を要約すると。

一、舊式作劇術の廢棄。二、潜在意識の世界に於ける發見を舞臺に上せること。三、舞臺上の所作が觀客席と觀客への侵入。四、俳優との親和。五、寄席演劇、にわか、純劇など一切の廢棄、そして共に代へて、自由打撃、同時所作、協同關入、其他生動詩、場景化せる感動、對話化した歡喜などを以て代へることなどである。未來派の中心人物マリネツチの戯曲に「騒ぎの王」「血を流す木乃伊」小品劇「反中立」「同時所作」「月夜に」「電氣人形」等ある。

ミラン畫派 (Milanese School of Painting)

ミランを中心として起つた畫家の群で、其領袖はウインチェンツォ・フォツパであつた。拾六世紀にはダ・ヴィンチの影響を受けたと云はれる。

當時の代表的畫家はルイニ。ペルトラツファイオ。フェラーリ。ソラリオ。等であつた。

見る音楽 (Visible music)

標題音楽を見よ。

民衆藝術 (Volkstümlichkeit) (獨)

一は民本主義及社會主義の思想に促され、一は頽廢せるブルジョア藝術に飽き、一は新興民衆、特にプロレタリアーのために、其プロレタリアーの潑刺たる生氣をもつて、新なる藝術を産んとするものである。眞の藝術とは民衆の悲しみと、歡びと、要求と、信仰とを、個人生活の焦點に集めて燃しむる事であると主張す。ロマン・ローランの如きは其代表的人物である。トルストイも「救は民衆より來る」と叫んで、其先驅をなしてゐる。又民衆藝術を、俗藝術の意に解して、蛇蝎視するものもある。白耳義のローデンバッツクの如きはそれである。

民衆の敵 (The enemy of People)

イブセンの社會劇の一、主人公ストックマンは中年の醫師で聊かの不正をも容赦しない熱烈な理想家である。或溫泉町の市長である兄の世話で其處の浴醫になつたが、間もなく導管の不完全からして有毒物が浴湯に混入してゐることを發見した。當事者は不利益を怖れて其のまゝ秘密にしようとする。彼は市民に訴へんとしたが妨げられてはたさず、遂に路傍で即席の大獅子吼をやる。すると彼等と市民は一團になり彼を民衆の敵として不合理な攻撃と迫害を加ふ。彼は最後まで自己に忠實で自分一人立つものが最も強いと叫ぶ、と云ふ筋の戯曲である。

民情派 (Poetivemik) (露)

一八七〇年頃ロシアに起つた文學の一派で、國民を根底とした文學を主張した。中心人物としてはグレゴリーエフ。ドストエフスキー。スツラ

ホフ等である。

民族性 (Folk Character)

民族の特性を云ふ。個人の場合に稱する個人性に相應じ、此を比較研究する心理學の一部門を、民族心理學と云ふ。

民族精神 (Folk Spirit)

民族性と同意味で、民族の心理的特質を云ふ。

民族詩 (Volkstichtung) (獨)

民族精神より生じたる、神話、傳説、國民的英雄等から、集会的に自然に出來た詩を總稱して斯くいふ。民謡も唱歌的な、民族詩と見得られる。

ホメエーロスのイリヤッド、オデッセイ、ニールンゲン・リード等は、此の名高き例である。

ミンストレル (Minstrel)

往古ギリシヤにて、立琴をもつて歌を唱ひ通路をし、王侯の宴に侍して奏するを職業とする、音楽者の群を稱んだ。中世紀頃歐洲で樂器を提

け、古英雄の傳説、巷間の口碑等の歌謡を歌ひ、諸國を遍歴して放浪の生活を送りし歌謡者の類を稱ぶ。

民謡歌劇 (Ballad-Opera)

主として民謡及物語歌等より成る歌劇を云ふ。

民謡 (Folk Song)

作者不詳の歌で、昔から自然に口傳などで一般人民の中に、一種の節、調子等をもつて歌ひ慣されたもの。フォーク・ソングは農歌、馬子唄、船頭歌などである。

ミス (Miss)

嬢。未婚婦人に用ふ。

ミステーク (Mistake)

誤謬。誤解。

ミステリー (Mystery)

神秘。秘事。不可思議。

ミセス (Mrs)

既婚婦人に用ふる敬語。

ミゼラブル (Miserable)

不幸なる。悲惨なる。

ミソロジー (Mythology)

神語學。神語を比較研究する學問。

ミッソマン (Mission)

使命。宣教。

ミッシヨナリー (Missionary)

宣教師。

ミラクル (Miracle)

奇蹟。

ミリウ (Milieu) (佛)

周圍。環境。

ミレージ (Mirage)

蜃氣樓。

ム

ムーア式 (Moorish)

アラビア人の侵入後、西班牙に輸入された美術上の一様式である。コルドヴァ。及ルハンブラに於けるモスク(回教寺院)は、ムーア式建築の著明なるものである。ムーア式といふ言は、屢々象眼に用ゐらるる空想的な、唐草模様裝飾の様式にも用ゐられる。

無言劇 (Melo-Drama)

気分、情調、背景、添景、表情などによつて劇そのものに如何なる作意が潜んでゐるかといふ事を示す劇を云ふ。

ムーア—ムシン

無言譜 (Tieleter ohne Worte) (獨)

メンデルスゾーンに由て始めて用ゐられた一形式で、歌謡的傾向のある器楽曲である。即ち歌詞を用ゐるに、器樂のみで詩歌の感を出さんとするものである。

無私的快感説

カントが唱へた説で、吾人の生活衣食住等の功用、又利害に全く無關係の快感のみが美であるといふ説である。

無神論 (Atheism)

有神論に反して、神の存在を否定する見解。感覺を以て唯一の認識の源とする感覺論。信念を否定する懷疑論。現象以外の認識を否定する實證論。自然の因果以外實在を否定する自然主義。宇宙を物質の運動と見て、精神的實在を否定する唯物論。之等の立場と結合して成立するのが無神論である。

ムセイ——メエル

無政府主義 (Anarchism)

唯物観に基いた極端なる社會革命主義で、神をも認めず、一切の權威を悉く否定し、政治上にては政府を認めぬ。政治、社會、經濟等の上に、各人は全く自由平等であらねばならぬと主張す。露國ミハイエル・パクニンの主唱に由る。自然科學者クロボトキンに由て理論的基礎が與へられた。

ムード (Mood)

気分、情緒。喜ぶ、怒る等の感情が鮮明でなく、たゞ漠然と快、不快と云ふやふな場合である。背景的感情とも云ふべきもので、人の平生は尤も多くこれに支配されて居る。

ムーヴメント (Movement)

運動。ロマンチック・ムーヴメント (浪漫主義運動)

ムーンライト・ソナータ (Moon light Sonata)

月光の曲。ヴェーナー・ベンの有名な作品。



迷宮 (Labyrinth)

ラビリンスを見よ。

命題 (Proposition)

判断と同義に屢用ゐらる。命題は文學上の文章に相當するものであるが、論理學上一定の主張を言明したものを云ふ。而して、直言命題(彼は甲なり)。選定命題(彼は甲なるか乙なり)。假言命題(彼が甲ならば、某は乙なり)。の三種に分つ。

メエルヘン・ドラマ (Mehelien Drama) (獨)

お伽劇、兒童劇。(即ち子供のためのもの)

明暗 (Chiaroscuro) (伊)

繪畫の色彩又は其調子に、光線の種々なる明暗が結着て、一種デリケートな表現を形造るを云ふ。即ち繪畫上、明暗の配置を云ふのである。レンブラントは此効果に、尤も長じた畫家である。

冥府及冥府の諸神 (Hades and Gods in Hades)

希臘神話「イリヤッド」には地底にありと云ひ、「オヂツシー」には西方の洋中にある低き一島と告てゐる。禍の河、火の河、涙の河の怖ろしき三河めぐつて、幽陰なる邦土である。人死する時は冥府王、嚮導使を派しその靈を迎ふと云ふ。「オヂツシー」にはこの使を飛行神マアキユリーの役とす。大王ブルトールと王妃プロサアピンの應には、マイノス、エアカス、ラダマンサスの三代官が席にひかへ、罪の多少を裁斷し

メデア——メズワ

て責罰の等級を定む。

冥府諸神を左に記せば、

一、三代官神、皆ヂユピターの子である、エアカスは在世の時エジヤイナ島の賢王。マイノスはクリート島の立法者。ラダマンサスはマイノスの弟である。

二、ゼ・フユーリーズ。蛇怪で三個あり、天神ウラノスの血より化成し、プロサアピンに屬する。明界にて悪行ありて罰を免れた者を苛責するを務とする。

三、ヘカチー (Hecate) 夜の女神で、街路及樹園に隠る、深更人なきに犬の吠ゆるは此神の近づくを認めてなりと云ふ。

四、眠の神ヒボノス (Hypnos) 及死の神サナトス (Thanatos)。共にナイトの子、前者は一時の休息を授け、後者は永久の瞑目を促す。

メズワーサ (Medusa)

メチー——メード

希臘神話中の人物で、メズーサは彼女の美髪を自慢し、其美をミネルワに競はんとして嫉まれ、美髪は數多の蛇に化せられた。其首はペルセウスに伐られ、楯の上に置かれたが、それを見た者は誰も皆石に化すると云はれた。

メヂーア (Medea)

コルチス王イーテスの女で、名高きアアゴナウツの勇士、チエーソンの妻となつたが、嫉妬のために多くの人を毒殺し、火龍の車に乗りてアデンスに逃れて來たと云ふ。(希臘神話)

メヌエット (Minuetto) (伊)

三拍子の緩かな舞踏曲である。

メロデー (Melody)

旋律。曲調。高低相異なる音の旋律的並列、即ち曲の基本的リズム。普通の場合はソプラノを云ふ。

メロドラマ (Melodrama)

最初は「音樂劇」即ちオペラの事であつたが、現今では、一、無言劇。二、音樂伴奏の舞臺朗讀を主として、音樂は附隨とせられ、脚色は浪漫的又多少感覺的な劇を云ふ。

メツシヤ (Messiah)

メサイアとも云ふ。救世主イエス・キリストの事。

メス (Mes)

解剖刀。

メスメリズム (Mesmerism)

催眠術。

メソッド (Method)

方法。様式。

メタフィジクス (Metaphysics)

形而上學。(同項参照)

メード (Maid)

處女。少女。

メンタル (Mental)

心の。心的。

メンバー (Member)

會員。社員。

メモリー (Memory)

記憶力。記憶。

メランコリー (Melancholy)

憂鬱。陰氣な事。

モ

摩羅派

日清戦争の終つた頃、日本で帝國文學を中心とした詩人の群が出た。其等の人は露骨直白をさけ

メンタ モサイ

て、典雅流麗の特色を持てゐた。その一派に名けられた稱である。

木炭畫 (Charcoal Drawing)

木炭を以て描いた繪である。鉛筆畫、ペン畫等と同じく墨畫で、換言すれば素描の一種である。鉛筆、ペン等に比して太い強い線が引けるため、大きな幅面のもの、例へば大作の下圖などを描くに用ゐられる。近來西洋の諸繪畫教場では、概ね素描の練習に木炭を用ゐる様になつた。併し又斯る研究的な木炭畫でなく、熟達した素描畫家の手に成れる、一個の畫としての木炭畫もある。其畫風も様々で或は木炭を線的に使ふものもあり、又指などを以て磨擦し、唯明暗のみに由て見せる作法もある。

モザイク (Mosaic)

寄木細工、等と譯す。諸種の色ある毛や、硝子の斷片を集めて一の畫面を作るもので、壁や天

井の裝飾に用ゐられるもの。昔東ローマのビザンチンでは盛んに、此畫が用ゐられた。

模寫論 (Copy theory)

此論はプラトニー及アリストテレスの藝術觀でプラトニーに従へば、美の根元は現實から離れた理想世界にあるので、自然界はその寫であり、藝術は更にその模寫であると説く。アリストテレスに従へば、藝術は自然物の模寫であるが、其模寫が眞に迫るところに美があると説いて居る。

モスク (Mosque)

回教建築の殿堂である。

モチヅ (Motive)

藝術上のモチヅは、資料若しくは意匠と云ふが如き意味である。例へば理想派的の風景畫家が、樹木、家屋、山岳と云ふやふなものを、寄せ集めて一圖を成す場合、其樹木、家屋、山岳

等は皆モチヅと稱せられる。彫刻のモチヅと云ふ時は、人体の姿勢、又は群像の調整を指す。建築上のモチヅは描かれ若しくは彫られた、裝飾の意匠を指すものである。

モデル (Model) (小説)

文壇に此言葉を用ゐる始めたのは、森鷗外である。彼が伯林時代に通たカフエーの女は、彼の作品に多く出てゐる。明治から大正へかけての文士は多く、このモデルを構想の土臺として、小説を書き上げてゐる。よく知られてゐるものでは、紅葉の「金色夜叉」の貫一は巖谷小波と云ふお伽の先生の前身であり。田山花袋の「蒲團」に出る女主人公は、新聞研究所長永代靜雄の夫人。森田草平の「煤煙」では主人公が平塚明子であると云ふ。

モニユメント (Monument)

有名な人物、重大なる事件、等の記憶を永久に

残すための建築物、或は臺架の上に据付られた彫像を云ふ。此紀念物は單なる彫刻のものもあり、表象的な群像のものもあり、又はハイド・パークの「アルバート・メモリアル」の如き精巧な建造物もある。必ずしも記念の爲に作たものでなくも、大建築、大銅像等は其時代の記念物、即ちモニユメントである。

モノグラム (Monogram)

花押。藝術作品の署名のために用ゐられた記號を云ふ。普通は姓名の頭字を組合せて作たが文字以外に、蝶、鳥の如き表號を用ゐ、又君主、王者も屢々このモノグラムを用ゐた。

モノドラマ (Mono-drama)

一人稱の芝居、ニコライ・ニコライウイチ・イエフレークの、最近主張する新しい演劇である。彼の言に據れば、モノドラマの根據は、舞臺上で演ずる人物の生活、經驗が直ちに觀客の

モノグ——モハウ

ものとなる事にある。觀客は俳優に由て演ぜられる、協同的生活經驗を通じて、演技者と異澄同心になる。即ちモノドラマの仕事は、觀客をして登場人物、演技者の如くに感せしめるのである。「彼の「靈魂の綠室」は一名「靈魂の劇場」と稱せられ、人間の体内を舞臺としたもので、其の代表的作品である。

モノローグ (Monologue) (獨白)

劇に用ふる言葉である。ひとり言のことで、ハムレットの「永らふべきか、死ぬべきか」の一節の如く、又詩などにも用ふ。ブrouningはこれをよく詩に用ひて居る。

模倣藝術 (Imitative arts)

題材を自然に取り、多少自然を再現せんとする繪畫、彫刻等の諸藝術の總稱である。

模倣説 (Imitation)

藝術の起原に關する一説で、人間は本來、模倣

モンダ—モンナ

本能といふものがある、この爲に繪畫とか彫刻とかの藝術が出来たといふ説である。

問題小説

社會問題、兩性問題、労働問題、道德宗教などの問題を中心にして作られた小説である。その問題に解決を與へたのもあれば、問題を問題としてただ有の儘、提出したのもある。イブセン、ストリンドベルヒ等は其代表的作家である。

問答法 (Dialogue)

修辭上の一法、作者は第三者の立場から、二人以上の者を點出して、問答せしむる法である。謠曲「羽衣」から一例をとれば「のう其の衣はこなたのにて候。なにしめされ候ぞ」「これは拾ひたる衣にて候ふほどに、取りて歸り候」の如し。

モンナ・ワンナ (Monna Yanna)

マールリンクの代表的な三幕物の史劇。伊太

利のピサはフィレンツェのプリンチヴァルレ將軍のひきゆる軍隊に圍まれ町の運命は旦夕に迫る。しかし將軍は町を陥さうとはしない。彼の本國に彼を誣告するものがあつて凱旋次第裏切の罪に陥れて彼を死罪にしようと計る者があるからである。それよりもピサを助け部下と共にピサの守備軍に加はらふと決心する。其の講和條件にピサの守將ギドーの妻モンナ・ワンナを夜中裸體の上にマント一枚の姿でフィレンツェに送れと告る。ギドーは火の様に怒つたが妻は民衆の爲にと告て出て行く。敵陣に入つて見るとプリンチヴァルレは彼女の幼な友達であつた。モンナ・ワンナは敵將を導いて町へかへり圍はとかる。プリンチヴァルレは俘虜として牢に入れられ牢獄の鍵はモンナがあづかつた。ギドーは妻の貞潔を疑つてゐる。彼女の心は夫から離れ、プリンチヴァルレの捧げる小供の様な

純愛にひかれ彼を助けて逃ようとする、と云ふ筋の戯曲。

モウダン (Moderna)

近世の。近代の。近代人。

モータル (Mortal)

死す。なき。滅ぶ。なき。

モットー (Motto)

標語、格言、題目。

モツブ (Mob)

暴徒。一揆。

モチイヴ (Motive)

動機。

モーション (Motion)

動作。行動。

モノトーン (Monotone)

單調。

モンスター (Monster)

モウダ—ヤマト

怪物。怪獸。

モラリティー (Morality)

道德。倫理。道義。

モラル (Moral)

道德的。

ヤ

倭畫復古派

徳川時代の中葉倭畫は甚だ不振であつたが、文化より維新前後に至るまでに起つた、文學復古と共に倭畫も再興された。或史家は此等の畫家を名けて、倭畫復古派と稱ぶ。

大和繪 (倭畫)

日本繪中、尤も日本的で日本趣味なものを云ふ。支那からの畫風を受けた日本畫に對してそれを區別するために斯く云ふ。

闇の力 (The power of Darkness)

レオ・トルストイの、代表的な戯曲である。片田舎で豪農ペートルの後妻アニシヤは、美貌の若者ニキータと、不義の快樂に耽り、遂に老夫を毒殺してニキータと結婚する。死因を知たニキータは、厭氣がさして不快な目を送る。そのうち今度は、主人の先妻の白痴娘アタリナと通じて子を生ませる。アニシヤは嫉妬を起し、ニキータに生んだ子を殺させて、何喰はぬ顔して娘を嫁がせようとする。其婚禮の席上で、闇の力より目醒め、一切を告白して縛につく、といふ筋のものである。

野郎歌舞伎 (劇)

若衆歌舞伎(同頃参照)の禁止とともに、野郎歌

舞伎が現はれた。即ち美少年の前髪を剃落す事に由て、幾分にも少年の美色を奪去り、男色の弊を除くことが出来ると思はれたのである。

それ故この前髪の跡を掩はんために、頭巾にて頭部を隠し、或は色染の布帛を巻くなど、種々美形を補はふと努力したが、最も普通に行はれたのは置手拭であつた。それは三尺許の色絹を鉢巻のやふに額に當て、その一端を長頭巾の如く後へ下けたものである。承應の末、萬治の始め頃よりは、この置手拭の代りに、前髪へつけ髪をする事が流行するやふになつた。

ヤング (Young)

若き。幼き。

ヤンガー・ゼネレーション (Younger Generation)

若い時代。

ヤンキー (Yankee)

新英州の住人、米人を云ふ。

ヤンキー・ズーツル (Yankee doodle)

拾八世紀に起つたアメリカの名高き歌曲。

ユ

唯心論 (Spiritualism)

形而上學的に、世界の本体を精神的のものと解し、物質的現象もつまり精神的作用に他ならず、精神は終極の實在で、外界は其所造又は發現とする、哲學上の一説である。唯物論とは反對の立場にある見方である。而して宇宙を論理的に考へれば、智的唯心論となり(ヘーゲル等は其代表者) 道德的秩序とするのは意的唯心論となり(ヒプイテ) 藝術的意味に重きを置けば、情的

ヤンキー——ユイブ

唯心論(シエリング)となる。

唯物史觀 (Die materialistische Geschichtsauffassung)

人間の經濟生活を最も重大なる根據として見たる史觀で、人類の歴史を物質方面、即ち經濟的方面若しくは生活的現象で解釋しようとするのである。マルクス及エンゲルスに由て唱へられた此史觀は、人類の歴史を階級闘争——貴族と平民、又は資本家と労働者——に他ならないとする。

唯美主義 (Aestheticism)

耽美派を見るべし。

唯物論 (Materialism)

唯心論と反對に、物質を以て根本實在となし、精神は物質的作用、結果、顯現にして、伴隨現象なるのみとする哲學上の一説である。此説は希臘のデモクリトスに始まり、近世唯物論は拾八世紀より、拾九世紀初葉にかけて、佛國が全

盛地であつた。ホップス。メトリ。シユトラ
ウス。ビユヒネル等は其代表者である。

遊戯説 (Play impulse)

藝術の起原に關する一説。人間は本來遊戯本能
と云ふべき本能がある、藝術は之れより起つた
といふ説である。

有機体 (Organism)

それ／＼異なる部分が、其自身に内在し、一の原
理に由て統一されて、生きた全体をいふ。有機
体は普通、生物と同義に用ゐらるゝが、國家、
歴史、宇宙等をも稱せらる。

遊戯的快感説

シルレルや英のスペンサー等の唱へた説で、美
とは遊戯本能から生れたもので、實生活に無關
係な、即ち生活の餘裕を消費する快感であると
いふ説である。

有神論 (Theism)

廣義に解する時には、神の存在を認めるが、其
は世界と交渉のものとする超然神論。神は世
界に内在して神即自然と見る汎神論。等を含む。
然し普通は狹義の人格神論の意に用ゐられ、神
は人格者にして超越的存在と見るのである。基
督教の神觀は此であり、カントの如きは著しい
人格神論者である。

遊離的快感説

米のサンタヤナの代表する説で、快感が自分の
心に固着してゐる間は、美といふを得ぬ。自己
から遊離した時、即ち客觀視された時、始めて
それが美となる、といふ説である。即ち遊離が
美の主要條件となるのである。

幽霊 (Ghosts)

イブセンの戯曲で、近代悲劇中の最大傑作と稱
せられてゐる。ヘレーネ・アルヴィングは本心
に反いて、愛人牧師を捨て、有福な士官に嫁い

だ。夫は肉慾と飲酒の人であると知つたが、神
に信賴して忍耐し、唯一の息子オスワルドを養
育してゐた。息子が成長すると外國へ留學させ
た。夫は女中と關係をつくつて女の子を生ませ
たが、夫人は實の娘の如くに養つた。間もなく
夫は死んだ。夫人は遺産の全部で、貧兒救養所
を設立した。其處へオスワルドが、父の遺傳性
の恐ろしい秘密を知つて歸國した。そして家に
在た異母の妹と戀に陥る。夫人は遺傳の罪業か
ら救ふことの、絶望であるを知つて筋は終
る。

遊蕩文學

赤木桁平氏等が其の非を唱へたもので、同氏の
言葉を引けば「人間の遊蕩生活に纏絡する事實
と感情とに重きをおき、人情の本能的方面に於
ける放縱、淫逸なる暗黒面を主題し、好んで好
色耽酒の感蕩境を描寫せんとする……慣用する

ユウタ—ユース

藝術的境地は常に酒樓と娼婦に圍繞せられた浮
華狂操の世界であつて……概ね現世的であり主
情的享樂的であり、片面的であり頹廢的である」と
云ふ。

ユートピア (Utopia) (理想郷)

拾九世紀トマス・モアが書いた小説で、共產
主義を實現した理想的な島國をあらはした、想
像的小説である。近代に於ては人類の理想を實
現した想像的に表はし、それをユートピアと稱
してゐる。この様な空想的な理想を持つた人を
ユートピアン「理想郷人」と云ふ。

ユーモリスト (Humorist)

滑稽家、滑稽作家、又怪異な場景、又は空想的
なスケッチなどをなして滑稽味を表はす畫家、
彫刻家等をもユーモリストと云ふ。

ユース (Youth)

青年。

ユーゼー——ヨウキ

ユーゼニックス (Engines)

優生學。人種改良學。イギリスの科學者で人類學者、サア・フランシス・ガルトンに依つて一八八三年に創始され、其學說の要點は、遺傳の原理に基いて、配偶者を選択吟味し、心身共に優良なる子孫を擧ぐるに有ると云ふ。

ユニイテイ (Unity)

統一。

ユニヴァース (Universe)

宇宙。

ユニヴァシテイ (University)

大學。綜合大學。

ユニーク (Unique)

無比の。獨特の。「彼は文壇にユニークの地位を占めてゐる」といふ如し。

ユーモア (Humour)

滑稽。諧謔。

E

餘韻 (余韻)

音を打ち出すと、後になるほど次第に博く低く響くのを餘韻といふ。轉じて一般藝術に於ても表現されてゐないが其中に、云ふべからざる情味の含まれてゐることを斯くいふ。文章に於ても同様である。猶後に残るところから餘情とも云ふ。

用器畫 (用器畫)

自在畫に反して、コンパス、烏口、三角定規等を用ゐて描く圖畫を云ふ。幾何畫法、透視畫法等も之に屬す。

謠曲 (謠曲)

能樂に合せて歌ふもの。單獨に扇子を持ちて歌ふを素謡といふ。足利時代から豊臣時代にかけて大成したものである。作者は多く不明であるが、寶生、觀世、金春、金剛、喜多等の諸流がある。

横畫 (横畫)

堅に比べて横の寸法の長い繪をいふ、如此繪を軸物にして横物とも云ふ。

餘情 (餘情)

餘韻に同じ。(同項参照)

羊皮紙 (Parchment)

パーチメントは羊或は山羊の皮をもつて作られ重に古代寫本又は繪畫に用ゐられた。

讀み合せ (劇)

新らしく芝居を上場する迄に、役者達が作者の指揮の下に、各自の書抜きを讀み合せて、稽古

ヨウキ——ヨウキ

餘裕派 (餘裕派)

をすることである。若し稽古を休む役者がある時は、作者が之に代て讀むのが普通である。

此名は夏目漱石が「鶏頭」の序文に、小説を二種に區別して「餘裕ある小説」と「餘裕なき小説」と書いたのに始まる。當時の自然主義文學が、人生の死活問題を取扱ひ、利迫つまつた文學であるに反し、漱石一派の小説は生死問題を離れた、超自然的な態度で人生を觀やうとするのである。此派の小説は所謂、低徊趣味の豊かな小説である。

ラ

ラオコオン (Laocoön)

ラオコオンはギリシヤの傳説にある人物で、アポロ神の祭司であつたが、神殿を潰せる罪により、其二子と共に大蛇に噛まれて死んだ。其死際の光景を表はす「ラオコン群象」と名付くる彫刻は、一五〇五年にローマに發見せられ、ギリシヤ彫刻の典型とされて名高くなつた。又その彫刻を評した獨の美術批評家レッシング「ラオコン論」は、非常に有名な本である。

樂天主義 (Optimism)

人生に於て種々なる罪惡、又醜き現實を見出すも、我理想は必ず實現するものであるとの確信を有する處に、樂天主義は成立する。即ち人生を絶望的に見る時に、厭世主義となるが、宇宙又人生に何か調和及理想、又目的を見出して、人生を樂觀する思想を云ふ。詩人ブラウニング等は其よき典型である。

ラ・ジオンダ (La Gioconda)

伊太利の代表的作家ダンヌンチオの四幕物悲劇氣の弱い一人の彫刻家が、其の愛らしさは藝術の不思議と云はれたモデル女ジオンダと。限りなき靈の美を有つ妻シルガイアとの間に湧き起る情火の爲に心も肉体もさんさんに焼き爛される有様を書いたものである。彫刻家は自殺せんとするが妻に救はれ又狂氣して彼の大作を壊さんとするが其時も妻によつて保たれた。しかし其時妻は手を碎かれ又夫にも棄てられ廢人として獨り淋しく残さると云ふ筋の悲劇。

裸體美術 (Nude)

裸體美術の本源は希臘美術より發し、その希臘美術の根本は裸體にある。南歐の風暖かな氣候には、女も露はな肉体を輕い羅に包むのみである。亦パンテオンの神前に行はれたオリンピックも、希臘男子筋肉美を誇る市場であつた。其

希臘の土地に裸體美術の發達せるは當然のこと

で、それが羅馬を經、伊太利の中世紀及び復興期の藝術となり、更に近代の歐羅巴全体の繪畫、彫刻の源となつた。故に西洋美術に於ける人体の研究は根本精神となり、風景畫の如きは、極く近世のことで、和蘭やイギリスから起つたのである。

尤も中世紀頃歐羅巴にキリスト教の盛んな時代には、この希臘思想を象徴する裸體畫の排斥されたこともあるが、復興期の諸藝術を經て、近代美術に至つては裸體美術が益々重要な地位をしめ、寧ろ其觀念が原始的な露骨さへ現して居る。宗教的に批難さるべき「肉感」も人間性の本質的要素を表現するものとして許容されて來た。我國に於ては、東洋畫即ち山水を主とする繪畫に見なれて居る限で、裸體美術を批判したため、風教上の問題とされたこともあるが、

ラテン—ラフェ

最近餘程其傾向が薄らいで來た。

ラテン文學 (Latin Literature)

ラテン種族の發達せしめた文學で、ローマ文學とも云ふ。紀元前一二世紀頃に始まり、ギリシヤ文學を加味し、ラテン民族特有の文學を作つた。一世紀を黄金時代とす、而して六七世紀の新興文學起るに及びて止む。

ラビリンス (Labyrinth)

迷宮、又迷途と譯す。我が八幡不知の類で、埃及王家ラビリンスの朝に始めて造營されしを以て此名がある。迷宮は諸國に多くあれども埃及のクリート島のが最も有名なものである。

ラフェロ前派 (Pre-Raphaelites)

最初獨逸の畫家の間に、この名稱を稱へるものがあつたが、通常この名稱を以つて呼ばるる藝術上の運動は、ロセッチ兄弟外五人の組織した美術上の一派であつて、ラフェロ以前の畫匠を

ラフソー—ラツ

宗とする。ラフエロ後の藝術は形式的、又摸倣のみ事として生命なく、活動の氣に缺けてゐる、此に反しそれ以前の藝術は驚異と嘆美の念に満ちてゐるといふにある。題を中世的のものに取り、一種神秘的な傾をもつ。之等は時代の主潮たりし浪漫主義の感化をうけて起りし一現象と見らる。P. R. B. (Pre-Raphaelites Brotherhood) の標語は此派を表はす。

ラプソディ (Rhapsody)

往古希臘ではラプソテエスの歌た叙事詩の部分々々を、ラプソデエスと稱へたが、今では民謡或は古い國民的歌謡より題材をとる、狂想詩曲、幻想曲を云ふ。

ランゲドック派 (Languedoc)

文藝復興期に佛蘭西に起つた彫刻の一派である拾一二世紀が此派の光輝ある時代であつた。

ランソー (Rinceau) (佛)

もと佛語で渦巻形の唐草模様を指した。ランソーは凡ゆる建築様式の、意匠として用ゐられる。

ルネサンス時代のランソーは複雑を極めたもので、壁畫の縁なども時としては、バルムの葉又は他の葉のランソーから出来てゐる。コリント式建築には重にアンツスの葉を用ゐる、ローマネスクの建築にも、此種の裝飾を見出す事が出来る。

ライター (Writer)

記者。作者。

ライト (Light)

光。光明。又は輕き、輕装せる。

ライフ (Life)

人生。生活。生涯。

ライブラリー (Library)

圖書館。文庫。

ラヴ (Love)

愛。愛情。戀愛。

ラシヨナル (Rational)

理性的。合理的。

ラツフ (Rough)

粗硬なる。

ラブ・ソング (Love song)

戀歌。

ラングエージ (Language)

言語。國語。用語。

リ

リアリズム (Realism)

寫實主義。(其の項を見よ)

梨園

ラシヨ—リユレ

俳優社會又は劇界を云ふ。唐の玄宗皇帝が、俗樂を司る教坊の子弟を梨園に置きしとの故事から出たものである。

利己主義 (Egoism)

自我説とも云ふ。廣義に解する時に三様の意味がある。一は哲學上の其で自己以外のものは不可知であるといふ唯我論、又は自我説である。文藝に就て云へば鑑賞の標準は自己の主觀に求むより他なしといふ説である。一は倫理學的の事、一切の行爲の目的は自我に有り、といふ。然し普通は倫理的な狹義に使用されてゐる。又俗に他人の利益を顧ず自己のみの利益に汲々とすることを云ふ。

リゴレット (Rigoletto)

伊太利の作曲家ヴェルディの傑作歌劇。主人公リゴレットは、其娘ジュルダがマントウ公に誘はれたのを恨み、スバラフチレに公の暗殺を頼

む。娘は公を助けんとしたが、遂に及ばず公の身代りとなつて死す、といふ筋のものである。

リサイタル (Recital)

獨奏會、獨唱會。普通、音樂のプログラムが凡て一人の演奏者又は歌手に由て行はれるか或は其プログラムの全部が、同一の作曲家に由て成された時に、リサイタルと云ふ。

リズム (Rhythm)

節奏、韻律、律動等に譯す。人に美的情緒を起さしむべき線、形、色彩、音などの秩序ある運動をリズムと云ふ。

リズムスム (Rhythmism)

現代藝術の著しい一面である。運動を抽象化し原理化する所にリズムのみが残る。現代人のリズムは、現代人の指導哲學であるかも知れない。そこに住む藝術家にカンデンスキー、ヘルツォグ、ヴァウアー、アーキベンコ、等がある。中

にもヴァウアーは、半圓直線のカーヴとその鋭角とを交叉させて、ダイナミズム(動的主義)の輕快なる躍動を示す。そこに未來派の精神が立体化されて現はれる。破壊が形体に律動する。彼の如きは最も新らしい精神を彫刻する藝術家である。

理想 (Ideal)

自己の理性をもつて、想像し望み得る目的。人は高遠なる理想を以て、現在に最善を盡して行かねばならぬ。そこに進歩がある。

理想主義 (Idealism)

文藝上の寫實主義(参照)に對し、これは作者の胸中に蓄ふる或標準をもつて、其題材に取捨按排を加へ、醇化し、理想の表象として表現する主義である。廣義に云へば現實の状態に満足せず、進んで理想を追求める主義を云ふ。

理想化 (Idealize)

物事を理想的に見、解釋すること。繪畫ならば寫實的描寫でなく、自分の理想に従て表現する事である。

理想畫

作家の理想を表はさんとする繪を云ふ。

理想小説 (Ideal Novel)

或る理想を骨子とし、即ち作者の理想を宣傳すべく描かれた小説である。

理性論 (Rationalism)

眞理は理性の純粹思惟によりてのみ達するを得るとの説である。唯理論、主理論、合理論等の譯語がある。認識の起原に關して、經驗論や感覺論と反對に、理性思惟から來るとして、眞の認識を感覺的認識と區別する。デカルト。スピノザ。ライプニッツ。カント。シェリング。ヘーゲル。等の近世哲學は概ね此傾向を持てゐる。宗教上の理性論は、超自然論に反對し理性に由

りて證明さるる以外の、宗教的要素を否認する説を云ふ。

リーダ (Toia)

王チンダラスに嫁して后となる。ヂュピターその美に眷戀し、ヅキナスと謀り、ヅキナスを鷹となし、自らは鷲鳥となり、追はれてリーダの浴場に入る。リーダこれを抱愛し四子を生むと傳ふ。(希臘神話)

利他主義 (Altruism)

愛他主義とも云ふ、自分の利益のためでなく、他人を益する行爲をなす主義で、利己主義の反對。コトンに由て唱へらる。

リタツチ (Retouch)

繪畫ならば修正のための加筆。彫刻ならば削つたりなどして作品調子の強弱をつける事、要するに作品の修正である。

律 格

リットーリツフ

詩の形式である。即ち詩を散文から區別する唯一の條件で、言葉を音樂的に表現する方法である。普通音位、音度、音長、音數の四形式を音樂的に最も美しく組合はせたもので、音度、音長に基いた音性律。音位に基いた音位律。音數に基いた音數律等がある。(各項参照)

律語 (Verse)

音律的に結びつけられた言語。普通、散文 (Prose) に對する韻文 (Verse) を云ふ。

立體派 (Cubism)

最近フランスに起つた一の畫派。セザンヌを祖とし、従来の畫派及近代の寫實派、印象派に反抗して起つた畫派で、在來の繪畫は視覺にのみ捉はれて居るものとし、眞の認識は智覺に由らねばならぬ。而して斯る認識の表現は、從來の如く視覺の世界に捉はれた平面畫にあらずして、立體感を表はす立體畫である、といふ主張の下

に立體畫法を以つて、畫面に立體感を表はさんとする畫家の一派である。

此派の作家は光に對して印象派と相反する觀念を持つた。「光る」とは「物の顯」を意味し「物の顯は、精神を刺戟する」事を意味する。「光り」即ち「物の顯を表すものは色彩である。即ち光の觀念を主觀化したのである」。此の主觀的感應を「造形的意識」と呼んでゐる。繪畫とは印象派の如くに物象を如實に模寫することから離れて、線及び色彩の力により吾々の本能に造形的意識を與へたものである。此の意味に於て立體派は表現主義である。エルバン、グラツク、ロウランサン、メツセンヂー、マテイス、グレイズ、レジエー、ロート、グロウネー等其の主な畫家である。

リツフ・ヴァン・ウインクル (Tijp Van Winkle)

アービングのスケッチブック (Irving's Sketch

Book) 中にある物語で、その筋はリツフ・ヴァン・ウインクルといふ細君の尻下に敷かれてゐる亭主が、キツケル山に迷込み酒に酔つて幾年かを経たといふ。その間に獨立戦争があつて、米國は英國から獨立した。大變化を來した後に彼が歸つて來て、滑稽を演ずるといふ物語である。

リーフ (Leaf)

葉を現はした一種の裝飾圖案。或時には寫實的に現はされ、或場合には硬化して現はされる。線形に用ゐられて其全面を掩ふ事があり、又埃及建築や、希臘建築の如く柱頭裝飾に用ゐられる事もある。裝飾に用ゐらるるリーフは、其を施す所よりも著しく浮出してゐる事があり、又輪廓のみが描かれるやうな事もある。

兩刀論法 (Dilemma)

デレンマに同じ。(同項参照)

リヤ王 (King Lear)

リーフ——リアリ

沙翁の作で四大悲劇の一である。其梗概は、ブリテン國のリヤ王、齡八十を過ぎたが、三王女のみで嗣子なく、遂に三女の愛の深さに由て彼の財産を分與へる事にした。二女は心よりも言葉で以て王の心を待たに反して、末女のコーデリヤは最も孝心深いに拘らず、言葉が拙くて遂に父子の縁を斷たれた。それと見たフランス王は其純潔を知り、コーデリヤを本國に連れて來て妃とした。二女は豫定の如く財産を得たが、其後はリヤ王を虐待した。フランス王は老王の仇を返さんと戦ひを起したが、無慘にも敗北した。コーデリヤは捕はれて殺され、リヤ王は彼女の孝心と死を聞いて、狂者となつて死ぬのである。

リアリスト (Realist)

寫實派の人。現實論者。現實主義者。

リアリスチック (Realistic)

現實的。寫實的。寫實派の。

リアリ—リール

- リアリテイ (Reality) 實在。現實。
- リーグ (League) 同盟。聯盟。
- リーズン (Reason) 理性。道理。
- リテラリー (Literally) 文字通り精細に。
- リテレチュアー (Literature) 文學。
- リート (Lied) (獨) 小唄。小曲。
- リパブリカン (Republican) 共和主義の。共和主義者。
- リファイン (Refine) 精練。上品な。
- リーヴ (Liebe) (獨)

英語の Love に相當する獨逸語で、戀愛、戀人等を意味す。

リベルテ (Liberte) (獨)

自由。自由の權。

リミット (Limit)

制限。範圍。

リリック (Lyric)

叙情詩、獨にてはリリックと云ふ。叙情詩の項を見よ。

リール (Reel)

スコットランド及アイランドに存在するケルト族の、4/4拍子輕快なダンスである。

ル

ルウビンスタイン賞 (Rubinstine Prize)

ルウビンスタイン紀念の、有名な音樂獎勵金で、五年毎に二十歳—二十六歳の、最優秀な作曲家及ピアノリストに、各一名宛與えられる、金額は五千法。

類型 (Type)

個性に相反する語である。天才的藝術家が個性を發揮した作品を出すと、多數の群小作家が其下に集り、其を摸倣して一流派を生じ、同じ様な作品が出来る。それを類型と云ひ、其作品を典型的と云ふ。

ルーゴン・マツカール叢書 (Les Rougon Macquarts) (佛)

佛人エミール・ゾラが、廿八歳の時から五拾四歳の時まで、二拾七年の歳月を費して完成した二拾卷の小説叢書で、藝術を科學に比した彼の主張が、赤裸々に現はれてゐる。

「ルーゴン家の運命」「餌」「バリーの中心」「フラ

ルウビ—ルシア

ツサンの勝利」「僧ムーレの罪」「ユーゼーヌ・ルーゴン閣下」「居酒屋」「ナナ」「戀の一頁」「煮る釜」「婦人の幸福」「人生の悦樂」「ゼ・ルミナル」「作」「土」「夢」「人獸」「錢」「没落」「醫師バスカル」の二拾卷がそれで、此中「居酒屋」「ナナ」等は最も有名である。

ルシアン・パレー (Russian Ballet 英或は Pallet Russe 佛)

ロシア國民の舞踊と云ふ意味で無く、ロシア宮廷舞踊者の一團に、反抗した一群の藝術家が、新に創造した新舞踊を意味する。これはセルジユ・ド・デアギレフの手に創始せられ、革命家舞臺畫家レオン・バクスト、及び天才舞踊家ニジンスキー。ボルム。ミハエル・フォーキン。並に驚嘆すべき女性舞踊家バヴロワ。カルサザイナ等の出現によつて、今日の如き發展をなしたのであるが、先づ彼等一座は、巴里のシャト

ルツカー—ルネツ

レー座に於て演出し、名聲を博して、ロンドンに往き、ニューヨークに現れ、ついに世界的名聲を得るに至つたのである。

ルツカ畫派 (Lucan School of Painting)

伊太利に於て最も古く、畫家が制作に従事したのはルツカであつた。拾二、三世紀に粗雑な因襲的な繪畫が、ルツカで、ジウンタ。ピサー等に由て描かれた。それはチマブエやムジヨット等に依る、古い畫術の復活された以前の事であつた。ルツカ畫派の作品の標本は考古學的興味を除けば、殆んど他に何もない。

ルネツサンス (Renaissance) (文藝復興)

ルネツサンスとは、新生又は復活の意である。中世期の理想とその文明より、近代文明への轉移を産出した運動を云ふ。

此を廣義に解すれば教權、及それに附隨した信仰上、理論上の束縛、傳習等よりの解放運動と

され、「自然人の發見」「個人の解放」等の言葉に示される。此には當時の自然科学上の新發見、ルーテルの宗教改革をも含む。

狹義に解すれば、單に希臘、羅馬の古典文化の復興を意味する。大體の上から古典文化の復興が先づ起り、續いて廣い意味のルネツサンスが起つたとされる。東羅馬帝國の首府コンスタンチノーブルが滅亡したのは一四五三年であつた。其結果として、希臘、古典の古典文學に通達した此國の學者が、伊太利の方に遷れて、古典的文化を傳へた。この文化は教權の束縛を受けない以前の、自由な文化であつた故「自由な自然人の發見」「個人の解放」等の思想に人心を導き、ルネツサンス直接の導因となつた。而して藝術、文學、哲學、科學、政治、行政、社會、宗教に對する人心の態度を、著しく變化せしめた。

此變化を藝術上に就て見れば、拾五、六世紀伊太利を中心として、ルネツサンス期藝術様式を産出した。これは單なる古典藝術の模倣や新生でなく、古典文化の研究に由て産出された新様式である。其藝術様式に特色を與へたものは、凡そ、一、一般的經濟生活の安定と餘裕。二、文化中心となつた都市が、藝術の應用及需用の範圍を擴めた事。三、反宗教的、反基督教的。四、現世的、享樂的、個人尊重。五、自然尊重。等である。ルネツサンス期を、初期、中期、末期に分ち、末期はバロック式に移る過渡期である。

ルネツサンス期の彫刻 (Renaissance Sculpture)

ゴシックの寫實的傾向を受け、文藝復興とともに起つた彫刻である。拾五世紀伊太利のフィレンツェを中心として、ロレンツォ、ドナテロ、

ルネツ

アンドレア等が出で、拾六世紀に至て有名なミケランジェロ、ベンベヌート等が出た。此期には寫實的傾向は理想的傾向に變つて來た。

ルネツサンス建築 (Renaissance Architecture)

拾五世紀の初期伊太利のフィレンツェに勃興した建築様式で、舊來のゴット化せる建築より脱却し、古典的形式手法を復活せしめんとするものである。ゴシック建築は構造を重んじ力の美を表したに對し、ルネツサンス建築は形式を重んじ形の美を表現せんとした。拾六世紀は此建築の高潮時で全歐洲に波及した。伊太利に此建築の三派がある即ちフローレンス派、ローマ派、ヴェニス派は其である。其の他獨逸ルネツサンス、スペイン・ルネツサンス、純イギリス・ルネツサンス、フランス・ルネツサンス等國によりて別がある(各項参照)。斯派が拾七世紀の爛熟期に達した時、ロココ建築なる名稱生ずるに

ルイー—レイノ

いたり、拾八世紀の末期頃、現代クラシツク的の様式を加味せられて居る建築を、ルネツサン建築と云て居る。

ル—イン (Ruin)

荒廢。廢址。

ルシフアー (Traifer)

曉の明星。啓明。

ル—ズ (Loose)

弛き。緩漫なる。放埒なる。

ルビー (Ruby)

紅玉。紅色美はしい寶玉。



レアンデル (Leander)

レイヴェル (Revel de Laine) (佛)

希臘傳説中のアピドスの青年で、ヴィナスに事へる中、女ヘロに戀し、毎夜燈臺の光をたよりに、その戀人の住めるセストスまでヘレスボント海峡を泳いで會ひに行つたが、或夜風雨のため光消え、全く方向を失ひ溺死した。翌朝ヘロが、その屍体の海岸に打上けられたのを見て、悲歎のあまり自らも海に投じてしまった。

靈—感 (Inspiration)

人の直感を通じて與へらるゝ、理性にては普通判断の出來ぬ、靈妙なる力といふ意。

例令ば詩人や藝術家の、卓越した作品を出す時など、人間以上の或る偉大なる精神より、或靈妙な力が加へられる。其與へられる直覺的な能力を靈感(インスピレーション)といふ。基督教の聖書などはこれに由て書かれたといふ。或は又神味とも譯す。

拾九世紀後半、科學の説明する世界のみが全部であるかの如く考へてゐるが、輓近かうした思想に飽足らず、人は肉休と共に靈を持ち、物質の世界以上に神秘的な世界のあることを認めるやうになつた。斯る思想界の傾向を靈の覺醒と云ふ。

歴史派 (Historical School)

英國に於ける浪漫主義作家の群を稱す。即ちスコット。コールリツヂ。ムーア等である。其作品が封建時代のローマンスに題を取り、主に歴史的作品を出したが故に此名がある。

歴史小説 (Historical Novel)

過去の歴史を材料として書いた小説を云ふ。此小説は史實を、正確精細に傳へるのが能でなく、其より得た人物なり時代なりを、生々とした生命あるものに描く事が必要である。

歴史畫 (Historical Painting)

レキシ—レシタ

歴史上の場景、又は史上の人物が現はれる場景を描いた繪畫である。西洋に於ける最初の歴史畫家は、アテネのレスキエー。トロイ戰爭の場景を以て裝飾を施したポリクツタス等である。然しそれは何れを見ても寫實を遠ざかり、裝飾的な、象徴的な繪畫であつて、若し今日まで残存してゐたとしても、歴史畫としての價値は餘り高くない。眞に歴史畫の進歩發達したのは近代のことである。

レシタイウ (Recitative)

宣情調。音樂的に朗讀する聲樂上の一形式である。拾七世紀の初め、ベリ及カツチニがオペラと共に創始したもので、當時は簡単な伴奏でなされたが、其後複雑となり且又、非常に重要な要素となつた。

主としてオペラに用ゐられる。メロデー(旋律)をなさない、朗讀的な曲節であるが、此に樂器の

レセー——レンア

伴奏を附するものと、附せないものとの二種がある。前者を普通レシタテイヴと云ひ、後者をレシタテイヴ・セコオ、又はバルランテと云ふ。レシタテイヴはアリア(同項参照)と、普通朗讀對話との中間に位するもので、リズムカル(節奏的)な朗讀法の一つである。

レセー (Lathie)

原語はギリシヤ語で「忘れやすき」を意味す。ギリシヤ神話にある下界の一河名で、この河水を飲んだ死人の靈は、過去にあつた凡ての事も忘れてしまふと云ふ。

レッド・フラグ (Red flag) (赤旗)

近代各國に於て、赤を習慣的に社會革命運動と見なし、黒旗が無政府主義者の共である如く、赤旗は社會主義の象徴とされてゐる。コンネルの作に係る「赤旗」と題する斯派の歌がある。

レ・ミゼラブル (Les Misérables) (佛)

拾九世紀の有名なる佛人小説家ビクター・ユーゴーの作品中の最大傑作である。ジャン・バルジャンといふ一人の貧しき不運な男の一生を中心として、種々なる場面、性格が描寫された雄大な作品である。

レリーフ (Relief)

浮彫をいふ。ハイレリーフ(高肉彫)、バレリーフ(薄肉彫)等の別がある。

建築では壁畫又は正面の面から突出た線形又は裝飾をレリーフと云ふ。

戀愛 (Love)

人類一般の本能に根ざす異性間の愛情。動物は性慾本能に由てのみ支配されるが、人間に在ては極めて複雑なるものであつて、本能的要素の他に、多くの道徳的精神的な要素を含むてゐる。又時代に由て此觀察も多種多様である。ダンテの新生の中に畫かれた戀愛は、中世紀に於ける

典型的のものとされ、近代的な戀愛觀はシェリーの「エピソードイチヂオン」(Epidichion)ブローニングの「ポルトガル人の拾四行詩」(Sonnets from portuguese) ロサッチーの「生命の家」(House of life) メンヂスの「近代戀愛」等に最もよく表はされてゐる。

戀愛の喜劇 (Love's Comedy)

イブセンの戯曲。主人公フアルクは、ハルムといふ或官吏の未亡人の家に下宿してゐたが、彼は常に戀愛の神聖と至高を主張してゐた。其中に宿の娘シユワンヒルドと戀仲になり、白日の夢に耽つてゐた。處へ年も老けた金持ちの、ゴールドシユタットが求婚者として現れた。結局は眞理に醒めた娘が、金持ちと結婚した。詩人は眞理と、詩と、光明を追ふて孤獨の旅にのほると云ふ筋。

戀愛法庭 (Court of love)

レンア——レウム

拾二世紀頃佛蘭西の南部プロバンス州、ツルウバドル一派の熱情的な、抒情詩人が起つた時分、戀の問題のみを取扱た法庭である。

煉獄 (Purgatory)

羅馬加特利教の教ふところでは、即ち天國と地上の中間に在つて、不完全なる信徒が天國に入る前に、刑罰的淨化の苦痛を受くる處と云ふ。近頃は普通苦痛に遭つて煉へらるることを煉獄と云ふに至つた。

レント (Lent) (大齋期)

キリスト復活節前六週間に渉る斷食の期間、原語は「春」より來る。舊教派の英國教會はこの期節を守つてゐる。

レヴォリウシヤン (Revolution)

革命、改革。

レヴュー (Review)

評論、復習。レヴュー・オブ・レヴューズ(評

レヴェル——レース

論の評論)は有名なる英米の、時事評論雑誌である。

レヴェル (Level)

水平、平面、照準。

レエドワ (Telovva)

ボヘミアより起つた3+4拍子の軽快なダンス。

レガート (Legato)

演奏法の一つ、伊太利語で「つないで」の意である。音と音とが連つて切れざらやう、滑らかに奏する法。スタカットに對して用ふ。

レギュラー (Regular)

正則の、正規の。

レクチャー (Lecture)

原は「讀む」の意より來る。講演、講義等の意。

レコード (Record)

記録。履歷。

レース (Race)

競走 ランレース(走競争)ボートレース(端艇競争)などの如し。

レストーラン (Restaurant) (佛)

料理店。

レツスン (Lesson)

最初は禮拜式に聖書の數行を讀むことを、レツスンを讀むと云つたが、今では一般に教訓課程等の意に用ひらる。

レデイ (Lady)

英國にては貴族の婦女に用ふる尊稱である。然し現代は一般に用ゐられて居る。語原はアングロサクソン語の「パンを捏ねる人」の意である。

レトリック (Rhetoric)

修辭學。

レーヴン (Leven) (獨)

生命。生活。活氣。存在する。



ローカルカラー (Local colour)

其地方特種の情緒、習慣氣分、風俗、地勢等の所謂「地方色」を稱す。郷土色とも云ふ。

ロケーション (Location) (映畫劇)

自然の風物を背景として、その前で映畫を成作する場合に用ゐらる言葉である。

トロイ建築 (Troic Architecture)

伊太利に於て文藝復興末期に、建築裝飾過多になり、柔弱なる曲線を濫用するに至つた。其等の建築を云ふ。

ロゴス (Logos)

ローカ——ロシヤ

言葉との意。希臘哲學時代に於て、宇宙の秩序、諧調、齊一性等の原理、其末期に於ては神と世界との媒介者、即ち世界を超絶せる神は、ロゴスの媒介によりて、世界を創造し支配すると説く。基督教にて三位一体の第二位なる、永遠の神子基督をロゴスとする。

露西亞樂派 (Russian School of Music)

國境に接した諸外國の影響を受けて、民樂の發達を始めとする。然もその調子は極めて、野蠻的な、強い濃厚な歡喜、深刻な憂鬱を表はし、軍樂、祭禮樂、子守歌、農夫の叙情歌等である。殆んど凡てが聲樂で、其聲音部の配列には注意すべきものがあつた。一七三七年伊太利歌劇が一八〇〇年佛國歌劇が移入され、それよりの影響を少からず受けた。十九世紀初葉に露國音樂家が、其國民的音樂を以て露西亞樂派の發展に資するに至り、確乎たる基礎を得た。

ロシア象徴主義 (Russian Symbolism)

最近ロシア 於て、佛蘭西象徴主義等の感化を受け、デカダン藝術より分れ、象徴主義の文藝を主張する一群が起つた。メレジユコフスキー及其夫人、バリモント、ソログープ、ブリユースフ、フミンスキー等である。此派の特徴は、一、神秘的傾向。二、宗教的情調を加味せること。三、空想的傾向。四、詩と音楽との融合等である。

ロシア畫派 (Russian School of Painting)

ロシアの繪畫は拾五、六世紀に於て、ビザンチンの影響をうけた、若干の宗教畫を有するの外は、拾九世紀の初期に至るまで、何等記述すべきものはない。ペーロフルに至て稍々描寫の確實を致し、クラムスコイに革新の端を開き、レピンに至て漸く十九世紀中葉の、近代畫に位する事が出来た。他に血腥い題目を取扱た、悽慘

な歴史畫の作家もあるが、藝術的價值には乏しい。風景畫はクインジルに革新の曙光を認め、レヴィタンに佛國印象派の穩健な影響を見る。レーリフ、ソーモフ等を有する近代のロシア畫壇の未來は多望である。又バクストはロシア舞踊の服飾、背景、圖案家として有名である。

ロシア劇 (Russian Drama)

最初の宗教劇は、拾二世紀頃波蘭より移入されたものである。其後通俗劇が宗教劇と並んで發達した。併しロシア正劇と稱せられるものは、拾八世紀に入つて始まり、スマローコフが近世ロシア劇壇の開祖と云はれる。彼は喜劇よりも悲劇に於て勝れ、彼の後を繼ぐに喜劇方面で、皇后カザリン二世がある。拾九世紀にはプシキンは現はれ、一段の進歩を成した。彼は「ボリス・ゴデュノフ」に由て浪漫劇を入れた。グリボイユドフは、沙翁の翻譯家として知られ、小

説家として有名なゴーゴリーも、又プシキンの拓いた劇の道を歩んだ。「檢察官」は其中最も著名である。

ロシア劇が、歐羅巴近代劇運動と關係を有つたふになつたのは、トルストイの「闇の力」に始まる。間もなくモスクワ藝術座が創設され、ロシア近代劇運動が此を中心に、發展して來た。

此劇場 由てチエーホフの劇は非常な成功を収め、次でツルゲネーフの小品劇、ゴーリキーの下層社會寫實劇及、ドストイエフスキーの小説を、戯曲化する作品等が演出された。然し藝術座を世界的 名高くしたものは、メーテルリンクの「青い鳥」ゴーリキーの「どん底」である。

これに次で演出されたのがアンドレーエフで、彼はチエーホフ、ゴーリキー等以後の、新主流たる頽廢的象徴派を代表するものであり、同時に現代ロシア新作家に、橋掛けをなしたもので

ある。其作に「人の一生」「アナテーマ」「イグニスチ・サナート」「星の世界へ」等がある。

大戰前後からロシア劇は、反藝術座即ち反寫實主義、チエーホフを去てアンドレーエフへ頽廢的象徴派へ向て、道を進んで來た。最近の主な作家に、象徴童話劇「死の勝利」其他を出したソログープ。象徴史劇「パーヴェル一世」の作者メレヂコフスキー。「靈魂の劇場」として不思議な一人稱の芝居(モノドラマ)を出したイエフレイノフ等がある。

又カルメニー劇場は、舞臺藝術上何れの國も成さなない、幾つかの革命的なものを試みてゐる。殊に目下のロシア劇は未來派に向て急進しつつある。

露西亞舞踊 (Russian Ballet)

ルシアン・バレエの項を見よ。

ロスメルスホルム (Rosmersholm)

イブセンが一八八六年に書いた三角争闘の悲劇である。牧師ヨハンネス・ロスマルは品性の高潔な貴族主義者、保守主義者であつたが、何時の間にかロスマル家の傳統に反して、従來の信仰に疑を抱き急進的な民主思想を持つようになる。しかし彼は其の思想にも充分徹底しきれない。其の中にレベツカと云ふ妻の友が家庭に入る。妻は夫とレベツカの仲を疑ひ自殺する。一方二人の愛は益々深くなつたが、兩人共死んだ妻に對し自責の念にたへず苦悶し以前の確信をうしない精神的破産者となる。罪に憫む二人の男女は、遂に橋上から自殺して死ぬと云ふ筋の悲劇である。

ロビンソン・クルソー (Robinson Crusoe)

拾八世紀英國の文士デフォーの代表的作品。作品の主人公ロビンソン・クルソーが單獨遠洋航海に出で、不思議な事件に遇ひ、種々な冒險

を行ふといふ筋の小説である。

羅馬音樂 (Roman Music)

好戰國民なる羅馬人には音樂の發達を計る餘裕がなかつた。強ひて云へば軍樂器の進歩位であつたらふ。希臘音樂を輸入し、羅馬人の趣味である肉感的快樂と共に、舞蹈方面の音樂は幾分發達した。ポムペイ舞蹈の如き肉慾的歡樂を主とするの類である。然し理論上から音樂は沈衰の狀態であつたと云へる。悲劇及叙事詩等に於てのみ、獨立的な發達の痕跡を認める位のものであつた。

ローマ樂派 (Roman School of Music)

ベニス樂派の勃興に伴ひ、此派も又中世以來聖樂教育の中心と認められ、全歐にその光榮を發揮したものである。此派の理論及實技はパレストリナ様式と云はれてゐる。神學士、及僧侶等を養成し、多くの師を歐洲各國に派遣した。伊

太利古典樂派參照。

ローマ派建築 (Roman School of architecture)

伊太利ルネサンス建築の一派で(參照)特徴は正面及中庭にクラシツク式を用ゐ、簡單で而も外觀は壯嚴偉大なるにあつた。此派にはブラマンテを始めベルズイ、サンガロ、ラファエロ等の有名な大家がある。代表的人物はミケランジェロで、世界第一の稱あるサン・ピーター大寺院は、始めブラマンテ設計し、後ラファエロ及ミケランジェロ等の手に由て建てられた。

ローマネスク建築 (Romanesque Architecture)

建築様式の一つ。ローマの建築にその源を發す。羅馬帝國東西に分裂して後、羅馬建築も別れて東西兩派となつた。東をビザンチン建築と稱し、西を初期基督教建築といひ、伊太利より起り四世紀——拾二世紀即ち、ゴチック建築の起るまで歐洲一般に用ひられた基督教建築の謂であつ

て、建築様式としては一定の確固たる典型があるのではない。七世紀頃ローマネスクの名を得た。

ローマ劇 (Roman Drama)

羅馬劇の殆ど全部は、希臘劇の摸倣改作であるが、其起原に溯れば全然外國の借物ではない。宗教上の祭儀、農家の祝祭等に、假面舞蹈や狂言など行つたのが發展して、一種の道化劇を成したものである。之等の一喜劇はその途中で、進歩せる希臘劇の移入に會ひ阻止された。希臘劇最初の移入は、紀元前二十四年奴隸アンドロニカスの、希臘悲劇、喜劇の翻譯に初まる。其に次ではネヴキウス。ユーピデースの改作者エリニウス等は、悲劇作家として名高く、尙今日も傳はる悲劇作家は三拾六人餘、曲目百五拾餘種に上る。喜劇には其主題を希臘にとるものと本國にとるものと二種があつた。希臘にとる

ものは主として、後期喜劇の模倣改作であつた。喜劇作者中に嶄然頭角を抽出したのは、プロキタスとテレンスである。役者としては、喜劇役者のロシアス。悲劇役者のイーリボス等は、最も有名である。

帝政時代には民衆の趣味が墮落して、古い悲喜劇は全く頽れ、古代の道化劇が復活したが其は極めて野卑な、低級なものであつた。此時代には、バントマイム(身振狂言)が非常に流行した。ローマ劇のバントマイムは、近代で云ふものは別物で、四肢の擬態的彫塑的運動に由り、歌唱者又は歌舞團に合せて、劇の筋を物語るものである。最も歎ばれた題は、和かな戀愛譚であつた。

劇場は立派なものであつた。此は爲政者又は富豪が、名聲を獲るために造たもので、人民は無料観覧が許された。非常に贅澤な建物で規模も

大きく、マーセラスの劇場は二萬人餘を、亦帝政時代の圓形劇場は、八萬人餘を容れる事が出来たといふ。

ロードス派 (Rhodian School of Sculpture)

ヘレニスチック時代に起つた彫刻の一派である。前一〇〇年頃ロードス島より起つた。アゲサンデル、ポリドラス、アテノドラス、三人の合作にかゝるラオコーン群象は、此派の最も有名なものである。現今バチカン博物館に保存されてゐる。

ローマの建築 (Roman Architecture)

ギリシャの後を受継いで起つた羅馬は、勢ひ希臘藝術に感化せられた。羅馬の建築はローマ個々の様式と希臘様式の結合に基いて出来たものと見てよい。ロマ風ドーリヤ式、ロマ風イオニヤ式、ロマ風コリント式などを生じたが、一方羅馬人の創造になる獨特の様式もある。穹窿天

井。アーチ形天井。十字形穹窿天井。等がそれで、上部を擴大するの様式を採つた。時期を帝政時代以前と以後の二期に別ける。前期には神殿とか、パジリカ(市場と法庭とを兼ねたる建物)等が主に作られ、後期はローマ美術の全盛期で、前期作の外、宮殿、劇場、浴場、凱旋門等が作られた。テイトウス凱旋門。コンスタンチヌス凱旋門。カラカラ浴場等は其最も有名なるものである。

ローマン主義 (Romanism)

擬古的因襲の反動として、拾八世紀の中頃、ルソアの「自然に歸れ」といふ叫びに始まり、拾九世紀の初期その頂點に達し、歐洲の思想界、文藝界を風靡した思潮である。拾九世紀末、物質主義萬能の期に至り自然主義これにかはる。擬古主義が形式的理智的に流れた反動として起つたもの故、ローマン主義は理智よりも感情に

訴へ、形式よりも内容に重きをおき、現實的よりも理想的、又空想的の傾きをもち、人心の自由なる活動と、思想感情の奔放を標榜す。

ローマン主義 (美術上)

ユーゴー等に由て主唱された文藝上の運動と並んで、一八三〇年に起つた藝術上の運動を云ふ。其特色は所謂古典的因襲よりの開放といふにある。浪漫派の作品は色彩、活動、情熱の表現及詩的情操の描出等に、著しく優れてゐる。此派からは多くの優れた畫家や裝飾家を出した。殊にバリーに於て榮へた、ユーージェニス、ドラクロワなどは、其最初の人と見做す事が出来る。

ローマン主義運動 (Romantic movement)

拾八世紀末葉より拾九世紀末まで、文學の主潮となつた思想運動である。此運動は英、佛、獨に最も著しい。佛蘭西革命の結果、佛國をはじめ歐洲諸國は、一切の束縛よりの解放を叫ぶ

に至つた。文學に於てもこの影響を受け、漸く形式的固定的又理智的になりし擬古主義に反し前記ローマンチズムの主義内容を以つて起つた。

英に於てはホーレスの著「オートランド城」をもつて、斯運動の先鋒となし、スコット。バイロン。セリー。キーツ。に至りて頂點に達し、獨にありてはゲーテ。シルレル。ハイネ等舊運動を覆へし、所謂「馳狂起運動」となり、佛にてはユーゴー此派に最も重く見られ、ロシヤには詩宗プーシキンが表れた。しかし此等の人々の最も偉大なる代表者を求めるならば、それは「若きヴェルテルの悲み」「ウヰルヘルム・マイステル」「ファウスト」等の不朽の名篇を世界文壇に提供した、獨の詩聖ゲーテである。浪漫主義のあらゆる要素、あらゆる特性は彼の名の下に統合され、具體化された観がある。

ローマンス (Romance)

最初はラテン語より出た俗語にて、初代フランス及プロバンス等の言語にて書かれし物語を意味す。近代に到りその意義限定され、多く題は中世紀に取り、空想、冒険、戀愛、の要素加はり謂所近代の傳記小説を云ふに至る。又ローマン主義盛んなるにつれ、斯派に屬するローマンス多く出で、ノーヴル (Novel) の自然主義的な小説であるに對し、理想的、感情的、空想的の傾きを取れる小説を云ふ。

ローマンス講演 (Romance Lecture)

牛津大學に於て毎年開かる、科學及文學に關する講演。創始者 G. H. ローマンス氏よりきたる。

ローマン主義音楽 (Romantic Music)

拾九世紀の初期、音樂に於てもローマン主義の感化を受け、形式的な線上の正確よりも、感情

及想像の音樂的表現に重きをおくやうになり、謂所古典派なるものに更つて起つた音樂の總稱である。然し古典派の時代に於てもローマンチックの精神は屢々表現された。ベートーベン。シューベルト。シウマン。メンデルゾーン。ワグナー等は其の最なるものである。

ローマンチック (Romantic)

ローマン主義的な。中世風文學の、又感情的とか空想的とか、憧憬的とかの時に一般に用ふ。

ロマンチスト (Romanticist)

人生の真相を描かんとする作家にも、態度に二つの異つた派がある。一を傳奇派と云ひ、一を寫實派と云ふ。例へばゾラの小説は寫實派に屬し、スコット、ユーゴーの小説は傳奇派に屬する作家である。寫實派は人生の多くの事實を最も科學的な忠實な方法で描寫し、即ち歸納的表白法に由て眞理を表はさんとし、傳奇派は現實

の事實を多く顧慮することなく、即ち演繹的な表白を取る。一は自然派的な作家で、一はローマン主義な作家とも云へる。

ロイヤル・アカデミー (Royal academy)

有名なる英國の美術協會。一七六八年ジョージ二世の創立にかゝり、美術學生の養成と年々美術展覽會を開く。

ロメオとジュリエット (Romeo and Juliet)

沙翁初期の悲劇。伊太利の豪家モンタギューの息ロメオと、カピュレートの娘ジュリエットの間の、不運な戀物語で、然ゆるが如き青春の戀をうつつして居る。

ロメオとジュリエット (Romeo et Juliette) (佛) (音)

佛國の作曲家グノーの作に成る有名な歌劇、沙翁のロメオとジュリエットを、歌劇にしたものである。

ロンドー (Rondo) (音)

ロンバ——ワカシ

旋轉調。樂典形式の一でその構成は、前部(第一主題、第二主題、第一主題)、中部(對比)、後部(第一主題、第二主題、第一主題)。

ロンバルディア畫派 (Lombard School of Painting)

文藝復興期に榮えた一畫派である。マンツァ・モデナ。及ミラノ畫派などを含む。アンドレア・サラリオ。ベルナルティノ・ルイニ。コレツジオ等は著名なる作家である。

論理 (Logic)

原因、結果の關係を正しくするものを論理といふ。

ロジック (Logic)

論理學を云ふ。

ロスト・ラブ (Lost-love)

失戀。

ロビン・グッド・フエロー (Robin Good fellow)

ふざける事の好きな一種の魔。惡戯鬼。

ローレット (Lorette) (佛)

巴里の曖昧女。

ワ

若きエルテルの悲しみ (Die Leiden des Jungen Werther) (獨)

ゲーテ初期の有名なる抒情的ロマンズである。若きエルテルなる青年が、ロツテといふ美少女を戀ひ、やがて其少女が人妻となつて後も、戀しさに堪へず悶々の極遂に自殺するといふ、極めて感傷的な一篇である。

若衆歌舞伎 (劇)

女歌舞伎(参照)が三代將軍家光に由て禁止せら

れた後、男子のみで組織せられたものを云ふ。元和三年頃勘助といふ者が、京都に男芝居を創めたのを嚆矢とするが、これは當時の社會制度が武を尙び、佛門の法規尙嚴肅な時代で、女色を卑めたため、遊女舞伎の代りに容貌よき少年を集めて、歌舞せしめ當時人心の弱點に乗じたものである。其故技藝とても女歌舞伎と大差なく美女の代りに美童を以てしたまでである。美少年の踊子を主なる優人とし、其他年長の男子がこれに附隨して一座を組織した。其技藝は大別して、歌舞と狂言との二種にする事が出来る。

前者は今日の所作事若しくは、淨瑠璃の源流となり、後者は今日の正劇の原なる地狂言の、基礎をなしたものである。然しこの若衆歌舞伎も漸く盛んになるにつれて、醜聞も甚しかつた爲、承應元年六月、家綱將軍の時に、舞臺に前髪を立てた美少年を禁じて、其前髪を剃去せしめら

ワキキ——ワルツ

れた。

脇狂言

江戸の劇場にて、拾一月の顔見世興業にて演ぜし狂言。

勿忘草 (Forget me not)

ライン川の岸邊にて、或少女の戀人なる青年が、此花を取らんとして川に落ちた。青年は手に花を握りつゝ、「Forget me not 忘れ給ふな」と云ひ残して逝つた。西詩などによく出てゐる花の名は、此傳説より出たものである。英、米、にありては友情又は忠節の象徴とされてゐる。

和樣 (建築)

鎌倉時代に禪宗派の建築様式が、我國に入來つて「唐樣」と稱ぶに對し、從來我國に有り來つた様式を「和樣」と云ふ。

ワルツ (Waltz)

ダンスの一種。廻るの意。此ダンスは普通四分

ワレラーワンデ

ノ三拍子のメロデーが用ひらる。起原は不明であるが、南獨逸及ボヘミア地方より来たものと思像される。拾八世紀頃始まる、優美を缺くとの批難はあつたが、ダンス界を風靡した。

われらの死より醒むる日 (When we dead awaken)

イブセンが最後に書いた劇で、人として又藝術家としての五拾年の生涯の静かな回顧録であり又其の縮圖であると稱せられる戯曲。彫刻家ルベックはイレーネと云ふ處女によつて「復活の日」と云ふ大作を完成した。イレーネは其時肉休と一緒に心も彫刻家に捧けてゐた。しかし男から拒絶され其以後墮落して行く。ルベックは物質的に有福になり、若いマヤと結婚した。マヤは物質に生る本能的な女である。或日某温泉場でルベックはイレーネと再會し、イレーネは失つた靈を彼に見出し、ルベックは失つた愛と憧憬を彼女に見出して、二人は山上で結婚式を

せんと山へ昇る。下の方には肉に生きんとするマヤと其情人が歡喜して山を下る。靈に生きんとする二人は上へ上へと昇り遂に雪崩に會つて死んでしまふと云ふ筋の象徴劇。

ワイ・エム・シー・ハー (Y. M. C. A.)

基督教青年會の略字 (Young man christian association)

ワイ・ダブリウ・シー・ハー (Y. W. G. A.)

基督教女子青年會の略字 (Young woman christian association)

ワンダー (Wonder)

驚嘆、奇怪、不思議。

ワンデリング (Wandering)

流浪、漂泊。

ワンデラー (Wanderer)

流浪者、漂泊者。

藝術家略傳

ア

アイヘンドルフ (Joseph Eichendorff)

(一七八八—一八五七)

獨逸の詩人で「森の詩人」と稱へられ、獨逸浪漫派の重鎮である。作品は可なり多くあるが、有名なものは「のらくら者の生活より」と云ふ小説、神秘的色彩の濃厚な「大理石の像」等である。

アーヴィング (Washington Irving)

(一七八三—一八五九)

米國の作家で、アメリカ散文學の父と稱せられる文學者である。彼は處女作として「ニウヨーク史」を書き、後年米國文學の特色となつたユーモアの境地を拓いた

藝術家略傳

彼は勉學のため、商業のため、再三歐洲に渡つたが、其間に得た追憶記、小話の類を集めて「スケッチ・ブック」として出した。彼の名は此に由つて世界的となつた。殊にその中で「リッパ・ヴァン・ウインクル」は最なるものである。その他「スペイン征略記」「コロンバス傳」「ロシントン傳」「ゴールドスミス傳」等の著作がある。

アーノールド (Matthew Arnold)

(一八二二—一八八八)

英國の詩人。批評家。牛津大學で教育され、主として希臘文學を研究し、詩學の教授などの職にあつた。詩人としては所謂新古典派に屬しワーズワースを尙び、詩形などに其の影響を多分に受けてゐた。「スカラー・シップシイ」、英國五大哀詩の一つなる「タアシス」など其傑作である。批評家として佛のサント・アアヴを師とし鑑賞に基く科學的批評をなした。後文藝批評より文明批評に赴き、特に教育論、宗教論、文學論など獨創的で深遠なる、實に一世の權威として仰がれた。

アリストファネス (Aristophanes)

(前四〇—三八〇)

希臘第一の喜劇詩人である。彼は極めて保守的な人で、新時代の民主政治家、哲學者等を蛇蝎の如く嫌った。故に彼の喜劇は其等の人々に加へた、諷刺諧謔である。「蜂」「蛙」「鳥」「雲」、外に五拾餘篇の喜劇を書いた。

アルツイバーセフ (Mikhail Artzybashev)

(一八七八—)

露西亞の作家である。彼は早くから創作に従事し、處女作「フ・スリヨーズ」を出したのは二十三才の時で、引續き執筆して長篇「サニン」を出すに及び、一躍大家の列に擧られた。其は猛烈な肉慾描寫で、所謂サアニズムの言葉を生むに至つた。彼は最も異色ある作家で、その厭世主義と、虚無的な個人主義とを、最も極端に發揮せる點、又表現の深刻さに於て、比類のない位である。猶有名な作に「最後の線」「勞働者セキリオフ」「ランダの死」等の長篇を始め、「朝の影」「老檢事の記憶」「恐怖」「謀叛」等がある。

アルマ・タデマ (Laurence Alma-Tadema)

(一八三六—一九一三)

英國の畫家。和蘭に生れ、後英國に歸化し、ロンドンに移住した。アンリ・レイスに學び古代風俗の優雅な然も緻密な描寫には卓越なる才能を持つてゐた。「舞臺の後」「鬼ごっこ」「希望と失望の間」「サツホー」等彼の傑作である。

アンジエリコ (Giovanni Angelico)

(一三八七—一四五五)

伊太利の畫家。彼はドメニカン派の僧で、フロレンス派畫家の一人であつた。ジョットの作を研究し大いに其畫風發展に努力した。彼が畫いたのは宗教畫であるが、其の風貌を表すに、さながら彼自身が聖い神秘に打ち浸つてゐるが如く深酷な情緒をもつてしたなど彼に比ぶる者はない。其等は彼の宗教心が純眞であつた故である。彼の傑作としてサン・マルコ寺の「壁畫」「聖母戴冠」「最後の審判」「樂園」などがある。

アンデルセン (Hans Christian Andersen)

(一八〇五—一八七五)

丁抹の作家である。彼の作品は戯曲、ローマンス、紀行文等相當多いが、彼の名を世界的にせしめたのは、童

話であり又藝術家としての偉大も茲にある。「無畫畫帖」お伽喜劇「眞珠」「黄金以上」「我が一生の童話」等、其他紀行文には「ホルム運河アゲル東端間の徒歩旅行」、戯曲には「ニコライ塔上の戀」「アグネーテと海男」其他、物語には「イムアルヒサトル」「唯一の遊人」「即興詩人」等がある。彼は全く少年少女のために、一生を捧げた、天性の童話作者である。

アンドレーエフ (Leonid Andreeff)

(一八七一—一九一九)

露西亞の作家で、寫實主義と現代の象徴主義、神秘主義の中間に立てる作家である。彼の作品は一種氣分藝術とも云ふべきもので、時代、場所を超越し、神秘的な人生の根本に觸れんとするが如きものである。彼の作風を三期に分ける。即ち一期は一八九八—一九〇二頃の、純寫實的作風の時代。二期は其後一九〇五頃まで、寫實主義より離れ、一定の思想によりて人物や事件を描いた時代。三期は其以後晩年まで、技工的若しくは描寫的作風の時代である。開戦後は主として評論に執筆し、「革命の名のために」「ロシアを救へ」等の

イ

文を草して、盛んにホルシエウイキの宣傳に努めた。作品は随分多く「饑饉」「七死刑囚物語」「人の一生」「星へ」「赤い笑」「アナテマ」等を始め、戯曲、小説、論文等約七拾卷程ある。

イエーツ (William Butler Yeats)

(一八五八—)

愛蘭の詩人、劇作家である。愛蘭文藝復興運動の、中堅となつた人である。愛蘭の俚謡や傳説に興味を有ち、神秘的な傾向の多量にある作家で、豊富な空想を優婉な詩句で歌ひ、特に抒情詩は非常に優れたものを出した。劇は愛蘭の傳説を材としたもので、之には「心願の國」「カスリーン伯爵夫人」「道」「何も無い國」「砂時計」等がある。論文集には「善惡の觀察」がある。

一^ハ葉 (樋口夏子 一八七二—一八九六)

彼女は明治五年東京に生れた。明治文壇に短篇作家として、獨歩と共に有名な作家である。彼女の半生は極めて苦難が多かつた。此の様々な経験は、作家として立つ彼女に大きな修養となつた。「埋木」を出した頃から、女流作家として文名を知られ、次で「濁江」「たけくらべ」等の作を発表した。特に「たけくらべ」は其代表的名作である。廿五才で逝去した。

一^ハ蝶 (英一葉 一六五二—一七二四)

徳川時代の畫家。本名を多賀信香と云ふ。幕府の畫師狩野安信に就いて畫法を學ぶ。後其の畫風を變じて一家をなす。又俳句を芭蕉より學び自から曉雲と號してゐた。

將軍を諷刺した畫を作り、忌諱に觸れて三宅島に流され島にあること拾二年、後都に歸り姓名を變じて英一葉と稱し、畫名愈々顯はれた。

一^ハ九 (十返舎一九 一七六六—一八三一)

本姓を重田貞一と云つた。明和三年に生れ、徳川時代の文學史中、唯一の滑稽小説作家である。所々を放浪

は拾七の長篇、二の短篇及旅行記、評論等がある。先年ノーベル賞金を受けた。

イブセン (Henrik Ibsen)

(一八二八—一九〇六)

諾威の劇作家である。シエクスピヤ。モリエール等遊いて以來、拾九世紀の世界文壇に於て、近代文學の父と仰がるる劇作の大家である。彼は貧困のうちに暮し、大層陰氣な少年であつたと云ふ。二十二三才の頃から劇作に従事したが、彼獨特の作風を現はし始めたのは有名な「戀愛の喜劇」を書いた頃からである。彼の名聲の高くなり始めたのは、世間から輕視されて本國に止るを潔しとせずして、故國を離れた頃からである。作品は數多くあるが然し、其力作は三種に大別される。第一は道徳上、人生上の問題を、主題としたもので、「ブランド」「ヒール・ギンド」「人形の家」等である。第二は現實の社會問題を取扱つたもので、「青年結社」「民衆の敵」「社會の支柱」等である。第三は象徵主義的な作品で、「海の夫人」「建築師」「我等死より醒むる時に」等である。

して江戸に來り、文を以て業とした。其著作に「怪物輿論」「吉原談話」「大師巡り」「堀の内詣」「東海道中膝栗毛」等がある。特に「膝栗毛」は畢生の大作で古今獨歩の滑稽小説で、全部八巻を以て終てゐる。

一^ハ茶 (俳諧寺一茶 一七六四—一八二七)

江戸末期の俳人。本姓を小林と云ふ。信濃の一農夫の子に生れ、幼よりして母に別れ、流浪の生活をなし俳諧に慰められて六拾餘年の生涯を送つた詩人。後年郷里に歸つて俳諧の一家をなしたが、前半生の流浪の愁を忘れる事が出来なかつた。雜筆「勸農詞」は彼の主張を、日記「父終焉の記」は一茶の面目を傳へてゐる。「我と來て遊べや親のない雀」は彼の名高い句である。

イバーニユウス (Bianco Iyannus)

(一八六七—)

西班牙の作家、評論家である。世界大戦中に熱烈なる人類愛と世界主義とを基調とした、「黙示録の四騎士」を著し、彼の名は各國に傳へられ、今やバルビュス及ロマン・ローランと共に、世界的となつた。彼は一方政治家として活躍し、共和黨の領袖となつた。作品に

彼が二十七年の放浪生活より、故國に歸つた時には非常な歡迎を受けた。彼の作品は強い個人主義的思想を基調とし、社會の虚偽と不正とを、辛辣に解剖し、痛撃を加へ、近代社會劇、問題劇の典型的なものである。「一切が無か」は彼の標語で、妥協と虚偽に對する、強い反抗の精神は、その一貫せる思想である。

ウ

ウインケルマン (Johann Joachim Winckelmann)

(一七一七—一七六八)

獨逸の美術批評家。プロシアのテンダルに生れた。希臘美術に憧憬し、希臘畫法及希臘彫刻術の模倣に關する意見を發表し、翌年伊太利に赴き古美術を鑑賞し「古代建築觀」次いで、劃時代的な大著「古代美術史」を公にした。近代に於ける希臘精神の復興に最も貢獻

せる人である。
ヴウノオ (Charles François Gounod)

(一八一八——一八九三)
 佛蘭西の歌劇作家。彼は「ファウスト」を出すに及んで、一躍世界的名聲を博するに至つた。此は彼の傑作たるのみならず、現在我々の有する歌劇中最も有名なものの一つである。續いて此につぐ作品「ロメオとジュリエット」「サバの女王」等を發表した。其他宗教樂として高名なものに「贖罪」「死と生」等がある。彼の特徴は、飽くまで洗練された旋律の美と、明快な和聲の美とである。

ウヘベル (Karl Maria Von Weber)

(一七八六——一八二六)
 獨逸の音樂家。モツアルトの大成した獨逸歌劇を繼承し、歌劇界の爲にマイエルマエルと共に盡した人である。彼の代表作傑作歌劇に、彼の最大傑作「自由射手」を始め、「オリアンテ」「オペロン」「アプ・ハッサン」等がある。特に「自由射手」は獨逸歌劇中隨一のもので、此の劇により獨逸人は初めて眞の獨逸國民歌劇を

有するに至つたのである。彼の歌劇は多分の浪漫的風趣を持ち、純獨逸的の性格を以つて熱烈に、無邪氣に、快活に作られてゐる。彼は又ピアノリストとして當時第一流の大家であり、高貴な澤山の作品を遺した。

ウエデキント (Frank Wedekind)

(一八六四——一九一八)
 獨逸の劇作家で、現代劇作家中最も異色ある作家で、好んで人間の性慾を描き、痛烈な諷刺と嘲笑をあびせかけ、近代精神の生んだ一人の畸形的作家である。初め柏林のドイツ座附俳優となり、それと共に劇作にも従事し、處女作「若き世界」を始めとして、「春の目醒め」「地獄」「パンドラの筐」「死と悪魔」「ウエツテルシュタイン城」等を出した。其他小説、詩集、評論等の傑れたものも多くある。

ヴェルディ (Giuseppe Verdi)

伊太利の歌劇作者。「エルナニ」を上演して名聲を高め、傑作「リゴレット」を出すに及んで、第一流の作家に入つた。次いで「イル・トロヴァトーレ」「椿姫」を出すに及んで世界的名聲を博するに至つた。なほ其の成

熟期の傑作に「アイダ」「オセロ」「フオルスタツフ」等がある。彼の最も得意とする所は旋律の美で、彼は實に無盡蔵な旋律の寶庫を有してゐたと評されてゐる

ヴェルレーヌ (Paul Verlaine)

(一八四四——一八九六)
 佛蘭西の詩人である。マラルメと共に象徵派の「一對の柱石」と稱せられる人である。處女作詩集「野の調」を出して、一躍文壇の人となり、續いて「華かな饗宴」「幸ある歌」等の詩集を出した。其頃から耽溺生活をはじめ、アアサンと酒精に没り、或時は少年天才詩人ラジボウと同性愛に陥り、放浪の旅に出で、又或時は入獄の身となつた。遂に半病人となつて死んだ。「智慧」「戀」「君に捧ぐる歌」等の詩集も有名である。

ウエスト (Benjamin West)

(一七三八——一八二〇)
 亞米利加の畫家。スプリングフィールドに生れ、ウイリアムスに就て學び、後伊太利及び英國に渡り、倫敦に居住して多くの名作を出した。彼はゴブレーと共にアメリカ畫派の創設者たる畫家である。彼の名作に「病

者を癒し給ふ基督」「リヤ王」「ラザロの復活」「ウルフ將軍の死」等がある。

ヴェラスケス (Velazquez)

(一五九九——一六六〇)
 伊班牙の畫家。セヴィリヤに生れ、後ハリヴァレス公に請ぜられてマドリッドに行き、同地の宮庭畫家となつた。伊太利に行き、有名な「酒客」を完成して歸つて來た。彼の傑作に「ラス・メニナス」「紡糸工女」「ブレタの降伏」「ヴェルカンの鍛冶場」等がある。彼は近時に至り研究され、世界有数の大畫家として世界的に認められた。そして彼はマネ其他の近代諸家にも大きな感化を與へた。

ウェルズ (H. G. Wells)

(一八六〇——)
 英國の小説家であり、批評家である。幼少より世の辛酸苦痛を嘗め、苦學して大學に入つた。遂には教授となり、轉じて新聞記者となつた。熱火の如き現代精神を抱き、社會、勞働、國際、教育、宗教、兩性の諸問題等、あらゆる近代思潮に觸れ、嚴正な批判と卓越し

藝術家略傳

た識見を有つて、新時代の爲に努力してゐる作家である。空中戦」「世界戦」等の科學小説や、「世界史大系」時論集「文明救助法」等ば有名である。

ウエロツキオ (Andrea Del Verrochio)

(一四三五—一四八八)

伊太利の畫家。彼はヴェニス派の畫家であつた。ダ・ヴィンチ及びクレデーの師として名高い。「キリストの洗禮」は代表作である。彼は又彫刻家を兼ね「エルレオニの騎馬銅像」の如き大作を出した。

ヴェルハーレン (Enrie Verhaeren)

(一八五五—一九一六)

白耳義の詩人。メーテルリンクと共に白耳義の新文學を代表する詩人である。始め現實的傾向の強い作家であつたが、神秘的傾向に向ひ、長い苦悶の後、其厭世觀は漸次光明的な人生觀に向つた。又田園詩人であつた彼は都市の現代生活に深い意義を見出し、豊かな想像と深い冥想をもつて歌つた。其の著作に「フラマン雜詠」「途上雜詠」戯曲「僧院」「黎明」等の作がある。

ウオルフ (Hugo Wolf)

(一八六〇—一九〇三)

奥太利の音樂家。彼の音樂は歌謡曲によつて代表される。そしてシウベルト、シユマン以後の最大なる歌謡作者である。メェリツクの詩に五拾三の曲をつけ、ゲエテの詩に曲をつけて「ゲエテ歌謡集」として發表し其他「西班牙歌謡集」「伊太利歌謡集」等の多數の歌謡曲を出した。彼は自から自分の音樂は、詩が第一の源泉をなすと云つてゐるが、彼ほど深く詩の内容に味致した作曲者は渺ない。

ウオルフーフエラリ (Ermanno Wolf-Ferrari)

(一八七六—)

獨逸の歌劇作者。今までに彼の發表した歌劇の内「穿鑿好きな女」「スザンナの秘密」「マドンナの寶石」の三つが最も傑出してゐる。中にも「マドンナの寶石」はワグネル以後の傑作であると評されてゐる。彼の作曲法などは獨逸風であるが、旋律の美くしいことなど伊太利風である。此兩者を巧に融合した所に彼の特徴がある。此作家は將來の歌劇界にとつて最も囑望されるべき一人と見られてゐる。

歌 塵 (喜田川歌麿 一七五三—一八〇五)

徳川時代に於ける浮世繪の大家。本姓を鳥山豊章と云ふ。諸所を流寓し自から喜田川と稱し、専ら當時の美人畫を畫いた。其の特徴は妖艶な女性を描き、其の點では獨特の筆を有してなつた。そして最も優れてゐたのは肉筆よりも、錦畫であつた。代表作は「吉原年中行事」「百千鳥」「詞の花」「銀世界」「五妻遊」等の繪本である。

運 慶 (一二五〇年頃)

鎌倉時代佛像彫刻の泰斗。東大寺佛師職に在つたが、後鎌倉に下り其の妙腕を揮つた。彼の作として最も著名なるものは、奈良東大寺南大門の仁王(快慶共作)である。仁王の高さ二丈六尺五寸で、雄偉な面貌と剛健の姿體とよく調和し、靈浩の妙を具へた所は他に比類なきものである。

エ

エスキラス (Aeschylus)

(前五二五—四五六)

悲劇の創始者と稱せられる希臘の悲劇詩人である。ソフォクレス、ユーリピデスと共に希臘の三大悲劇詩人の一人である。四拾餘年間の詩作生涯に於て、數多の半羊神劇の他に七拾篇の悲劇を作つたと云ふ。今日残つてゐるものでは「七將テレーベ攻」「プロメシウス」「懇願女」「ペルシヤ人」「アガメンノン」「ユエーフオソ」「ユーマニテース」の七篇に過ぎぬ。

エチエガライ (Jose Echegaray)

(一八三二—一九一六)

西班牙國の産した近代に於ける世界的劇作家である。始め數學者として聞え、次で政治界に入て閣員の一人

となつた事がある。其後その内閣は倒れ共和政府が建つに及び、非常な迫害を蒙つて巴里に亡命し、其處で幾つかの劇を書いて驚かせた。後彼は劇作家として歸國し、第一流の地位を占むるに至つた。彼の著した戯曲は六拾篇餘に上る。就中有名なものに「アリアナ」「ドン・フアンの息子」「狂か聖か」等がある。イブセンの感化を多量に受けた作家である。

エマーソン (Ralph Waldo Emerson)

(一八〇三—一八八二)

米國の思想家である。最も獨創的な深遠な思想家として、北米文壇の第一人者と云はれた人である。彼の根本思想は、萬有神教的自然觀に基いて、個人の向上發展を、宇宙の究意目的とするものである。彼はプラトンの唯心論、獨逸理想派の哲學、スエーデンホルグの神秘思想、東方の宗教等を悉く取入れ、自家の哲學を築き、所謂超絶派なる哲學者一派の中心となつた。著書は「論集」をはじめ、「代表的偉人論」「イギリス氣質」「社交と孤獨」等がある。彼は科學的に事物の理を思索するよりも、直覺を重んじ、其思想は文辭と共に

朦朧として、晦澁の氣味があるが、近代稀に見る思想家とされ、偉大な感化を及ぼしてゐる。

エリオット (George Eliot)

(一八一九—一八八二)

英國の女流小説家である。近代閨秀作家中の最なるもので、本名をメリー・アン・エヴァンスと云ふ。「アダム・ベツト」「ミル・オン・セ・フロツス」「サイラス・マーナー」「ロモラ」等の作品あり。透徹せる心理解剖は、彼女の最も優れてゐる特色である。

エルガア (Edvard Edgard)

(一八五七—)

英國の音楽家。現代に於ける彼國一流の音楽家である。作曲家として最初に認められたのは、神劇「ゲロンテアスの夢」である。續いて神劇「使徒」管絃合奏曲「威儀堂々」グイオリン曲「愛の挨拶」等の名作を残した。

エルンスト (Otto Ernst)

(一八六一—)

獨逸の作家である。彼は貧乏な職工の子に生れ、幼少の頃から辛酸を嘗め、久しく小學校教師をしてゐたが、

悲劇「大罪」を出すに及び名をあげた。次で「今日の青年」を出して喝采を博し、更に觀衆の同情を集めた作品「教育家としてのフラツクスマン」は、性格上又は藝術上彼の特徴を表はしてゐる。其他論文集「假面を脱いで」喜劇「正義」等を著した。彼は又小説家及び抒情詩人として立派な作品を出した。

オ

歐外 (森林太郎 一八六〇—一九二二)

彼は萬延元年石見國津和野に生れた。逍遙、漱石等と共に、明治大正の文壇に最高の地位を占むる人である。獨逸文學に造詣深く、生涯文壇の指導者となり、盡す所が多かつた。アンデルセンの「即興詩人」「フアリスト」等は名高き翻譯である。又「審美綱領」「審美新説」等を公にし、美學の嚆矢となつた。彼は文筆の外に軍

醫總監として要職にあり、又美術にも造詣が深かつた。著作の全部は「歐外全集」拾八卷に收めてある。

應舉 (圓山應舉 一七三三—一七九五)

圓山派の開祖。丹波の或農家に生れ、京都に出で狩野派の畫家石田雨汀に就て學び、後も古今名家の畫に就て其技を練り、在來の畫家が彷彿してゐた模倣の境域を脱し、自然を題材として自在の筆を揮つた。其寫生を基とした作は、早くも當時の畫壇に一大光彩を放ち、多くの畫家を覺醒せしめた。彼は生涯を通じて非常に多く畫いたが、三井寺の「七難七福繪卷」「瀧之圖」金刀比羅宮の「鶴の間」「虎の間」「七賢の間」の襖等は彼が畢生の作と稱せられる。

オエーレンシュレーゲル (Oehlenschläger)

(一七七九—一八五〇)

丁抹の詩人である。獨逸浪漫派文學の感化を受けて、丁抹に於ける浪漫派文學の先驅者となり、同時に其基礎を定めた人である。彼の叙事詩及抒情詩の中、「北人の神々」「ヘルグ」は最も名高く、劇詩「アラディン」は「アラビアン夜話」の一節を詩化した、象徴的な作

藝術家略傳

品である。その他スカンヂナヴィアの古傳説に材を取つた、悲劇數篇がある。

オストロフスキー (Alexander Ostrovsky)

(一八二三—一八八六)

露西亞の劇作家で、ロシア文學史上に演劇の基礎を確立した最初の人である。處女作「家庭の幸福」を出して文學の生涯に入り、後イギリス劇より多く學んだ。其作品は多く五拾餘篇にも上るが、最も有名なものは「貧しき花嫁」「收入の場所」「養女」それから一代の傑作と稱せられる「雷雨」等がある。彼は夙に劇壇刷新を志し、最初は意の如くならなかつたが、晩年に至つて初志を貫き、その生涯を以て露西亞演劇の最盛期と云はれるに至つた。

オルンシュタイン (Leo Ornstein)

(一八九五—)

露西亞の音楽家。南露西亞に生れ米國に渡り、最近世界的になつた若き音楽家である。彼は在來の音楽に反抗して最も特色ある未來派的活動をつづけてゐる一鬼才である。代表的な作品にピアノ曲「蠻人の踊」「テ-

ムス川の印象」「影繪の曲」「三つのムード」「巴里の夜景」奏鳴曲「白耳義曲」音詩「霧」、アンドレエフの戯曲に依つた「人の一生」等である。是等は殆んど氣分の音楽で、從來の和聲の法則等を全然無視してゐる。

カ

カイゼル (Georg Kaiser)

(一八八三—)

獨逸の劇作家である。獨逸表現派の勢力は實に目醒ましく、音楽、繪畫、彫刻、戯曲等あらゆる方面に亘つてゐるが、劇作家中の代表は先づカイゼルである。彼は表現派中最も多作の人であるが、「誘惑」「珊瑚」「カレの市民」「朝から晩まで」「ヨロツバ」「瓦斯」「ユダヤ人の寡婦」等は、著名である。殊に「カレの市民」は、單に表現派の代表的傑作たるのみならず、

最近獨逸劇中の白眉と稱せられる。

金岡 (巨勢金岡 八九〇年頃在世)

平安朝初期の畫家。誰について畫を學んだかは明かでないが、彼は後に所謂巨勢派と稱へられる流派の始祖である。人物、山水、草木、鳥獸を善くし、中にも人物、馬など其の最も妙を得た所のものであつた。

三 (岡倉覺三 一八六二—一九一三)

越前福井の人、東京帝國大學理財科卒業後、フェネロサーに就て美術の研究に従事し、歐洲に出張を命ぜられ、歸朝後東京美術學校の設立に與り、校長となり大いに美術家の養成に力を用ひ、美術學校を去つて日本美術院を設立し、大いに新日本畫の發展に盡力した。彼は明治の美術批評家として、最近日本の古美術及新美術の爲に盡した大恩人である。彼の日本美術に關する有名な著に「The Ideal of the East」(東洋の理想)がある。

カーライル (Thomas Carlyle)

(一七九五—一八八一)

英國の批評家である。文學批評より出立して遂に文明

藝術家略傳

批評家となり、後年には英國文壇の霸王として仰がれ、又エサンバラ大學總長に推された人である。その代表作に「衣裳哲學」「英雄崇拜論」「佛國革命史」「過去及現在」等がある。

カリエール (Eugene Carier)

(一八四九—一九〇六)

佛蘭西の畫家。アルナイ・シュル・スルンに生れ美術學校に入り、カバネル教授に就て學んだ。彼の作品は家庭的な、親子の愛情を描いたものが多く、その畫風は非常に深遠な夢幻的なものである。ルーヴル美術館の「接吻」は彼の傑作である。

カーリダーサ (加利陀婆)

(六世紀頃在世)

印度の劇詩人である。劇作に於ては「印度の沙翁」と稱せられるのみならず、詩人としても無比の天才を發揮した、印度最大の詩人である。詩には「羅俱族史傳」「鳩摩羅軍神の降誕」の二篇と、叙事詩「雲の使」「季節の循環」、他に二の抒情詩がある。印度に於ける傑作と稱せられ、戯曲には「シヤクンタラ姫」「グイクラモ

藝術家略傳

ルヴァシー「マールウイカーとグニメラ」の三大傑作を残した。就中「シヤクンタラ姫」は、勇壯な戀愛悲劇で印度戯曲中の精華たるのみならず、世界的な名作品である。

カルデロン (Calderon)

(一六〇〇—一六八一)

西班牙の劇作家である。西班牙第一の詩人と稱せられ、又ローベ・デ・エガの後を繼いで西班牙國民劇を大成した人である。嚴肅高遠な道義的感情を鼓吹し、神學上の議論等を巧みに詩化して戯曲に用ゐた。劇作家として喜劇よりも悲劇に傑れ、其特色は尤もよく聖餐劇に表はれてゐる。彼の名を不朽ならしめた作品に、哲學的な戯曲「人生は夢なり」、沈痛な悲劇「ザラメア村長」等がある。

カルソウ (Caruso)

(一八七八—一九二二)

伊太利の聲樂家。ナポリに生れ、ラムメルチ及コンコネに就て學んだ。聲樂家としての最初の成功はナポリに於ての出演であつた。次でミランにて出演するに及

が刺戟となつて監獄に改良されたと云ふ。此劇の特色は藝術味の裡にあるのでなく、寧ろそれは鋭い社會批判のうちにあると云はれてゐる。

カルバツチオ (Carracci)

(一四五〇—一五二二)

伊太利の畫家。ヴェニス派の代表的畫家である。メルリニの弟子として學び、肖像畫、風俗畫、歴史畫などに名聲がある。彼の作品は優雅にとぼしかったが力があつた。「處女と基督」「聖ウルスラ物語」等の名作を残した。文藝復興期の先驅者となつた名匠の一人である。

キ

キーツ (John Keats)

(一七九五—一八二一)

英國の詩人。バイロン、シェリーと共に近代英詩壇の

藝術家略傳

び彼はオペラの歌手として拔群の地位を得た。後米國に渡り非常な歡迎を受けた。特にメトロポリタン・オペラに於ける出演により名聲を博した。

ガルシン (Garcin)

(一八五五—一八八八)

露西亞の作家で、其時代の精神的矛盾、不調和を取扱ひ、最も成功した人である。生來深刻、沈痛な厭世詩人で、發狂して癲狂院に入つたが、後高閣上から身を投げ、三十三年の短生涯を終つた。著作は多く短かいもののみで、「四日間」「在郷軍人」「温室」「夜」等がある。就中狂人の心理を描いた「紅い花」が有名である。

ガルスワーチイ (Galsworthy)

(一八六七—)

英國の劇作家であり、詩人、小説家である。彼はショウに次で、最近英文壇の中堅をなす社會劇作家である。「暗き花」「貴族」「島のバリサイ」等は小説として名高く、戯曲には「銀の箱」「正義」「逃亡者」「鳩」「歡喜」等がある。特に「正義」の一篇は最も著名な作で、之

三大詩人の一人と稱せられる天才である。ロンドンの馬丁頭の子に生れたが、幼よりして詩才を現はし、處女作「エンデイミオン」を初め「聖アグネスの夜」「希臘古瓶の賦」等の名篇を出したが、世に認められず、二拾六才にしてローマの客舎にその薄倖な生涯を終つた。夙に唯美主義を奉じ、又その古典雅風の詩ではスキャンパインに先立ち、中古主義では、ロセツチやラファエロ前派の道を開いた。

キツプリング (Kipling)

(一八六五—)

英國の作家であり、同時に詩人である。彼は印度で生れた。最初は新聞記者となり、其地を舞臺として地方色のある空想的な、傳奇的な作品を多く出した。『ありふれた物語』『三兵士』『シヤンガル・アツク』『キム』『消へし光』等を出すに及び、英文壇一流の作家として世界的となつた。彼は又愛國詩人で、特に其詩集「七海」は、故國の榮光を讚美し、その發展と使命とを、宣傳した詩集として有名である。題材の傳奇的なのに、反し、筆致は頗る寫實的で、男性的氣分に溢れてゐる。

藝術家略傳

キングスレー (Charles Kingsley)

(一八一九—一八七六)

英國の詩人。小説家。一牧師の子に生れ劍橋大學に學び、卒業して牧師となり、後同大學の教授となつた。晩年高貴僧となり女皇の侍僧となつた。基督教的社會主義を唱へ、勞働問題を主材とした社會小説「アントン・ロツク」「ハイバシア」「ウエストウオード・ホウ」等の名作及少年小説「水のおかんぼう」等を出した。

ク

グウルモン (Remi de Gourmont)

(一八五八—一九一四)

佛蘭西の作家で、詩人、小説家、討論家、新聞記者でもある。更に哲學及科學に造詣深く何れの方面に於ても、第一流の地位を得た多能多才の人である。作品の

中主なるものは小説「鴉」、「禮拜堂」、論文「愛國主義の玩具」、詩集「薔薇の連禱」等がある。其他「昔の花」「象徴文學」「天國の聖者」「シモン・田園詩」等も有名である。

クーバア (James Fenimore Cooper)

(一七八九—一八五二)

米國の小説家である。アーンガイグと共に、米國文學創設者と云はれる人である。彼は活動的、男性的で、冒險殺伐を愛し、剛直で戦士の氣風を帯び、材を粗豪勇敢な海上生活、森林生活等に取り、荒削りな筆致を以て新しい國民生活を描出した、傳奇作家である。彼は熱烈な愛國者で、又極力奴隸解放運動のために、戦つた人である。この間に小説を書く事拾四篇、就中「水先案内」「開拓者」「曠原」等の五部作は、傑出したものである。

クープリン (Alexandre Kooplin)

(一八七〇—)

露西亞の作家で、現代露國文壇に、材の多方面と、純客觀的態度の寫實家として知られてゐる。有名な傑作は

「決闘」で、此作に由て彼の文名は俄かに高まつた。それは露西亞軍人社會の暗黒面を描いたもので、稀に見る非常な賣行を得た小説である。その他「生活の河」「泥沼」「囁言」「桂の木」「薄春の客」「船暈」等がある。

クライスト (Heinrich Von Kleist)

(一七七七—一八一二)

獨逸の戯曲作家で、シルレル以後の天才的劇詩人と稱せられる人である。後年厭世の極ワグネル湖畔で、三十四才を以て其女友と共に情死を遂げた。彼の傑作には獨逸最大の戯曲と稱せらるる「破産」、婦人の深い心理を描いた「ペンテシレエア」「カツチエン・フォン・ハイルブロン」、武士道的な作品「ヘルマン・シュハト」愛國的熱情を具體化した作品と稱せられる「ハンブルヒ公」等がある。

グライグ (Edward Grieg)

(一八四三—一九〇七)

諾威の音楽家。スカンディナヴィアの音楽を初めて世界に紹介し、其處に立派な國民樂を樹立した人である。彼の作品中最も名あるものは管絃樂として序曲「秋に」

組曲「ピア・ギント」、管絃合奏曲としては「ホルベルグの時から」「哀愁の旋律」歌謡では「我が御身を愛す」「ピンチオの山より」「秋の心」等代表的なものである。其音楽は北歐的の沈痛な氣分と、多分の浪漫的趣味が合一し、其の旋律は頗る郷土的で且つ獨創的である。

グリバルツェル (Franz Grillparzer)

(一七九二—一八七〇)

奧太利の劇作家で、拾九世紀前半奧太利劇壇に於て、最大の人である。獨逸古典派に屬するゲーテ、シルレル等の影響を受け、有名な性格悲劇「サツフォ」は、彼の作品中最も名高きものである。又「海の波、戀の波」は、獨逸戀愛悲劇の隨一と稱せられてゐる。其他夢幻的童話劇「夢の一生」もある。彼は天性非常な情熱家で、愛國心の強い作家であつた。

グリンカ (Mikhail Ivanovich Glinka)

(一八〇三—一八五七)

露西亞の音楽家。露西亞現代樂の先驅者で、「露西亞音樂の父」と稱せられる人である。又彼は國民歌劇の基

藝術家略傳

礎を置いた人である。其の代表作はイヴン・スクヱアニシンの事蹟を材料に取った歌劇「皇帝の爲の生命」である。其他「ルズランとルドミラ」「カマリンスカヤ」等次いで有名なるものである。

グルツク (Christoph Willhalm Gluck)

(一七一四—一七八七)

奥太利の音楽家。彼は歌劇作者として最も知られてゐる。彼は長い間伊太利歌劇の模倣を脱しなかつたが「オルフオイス」を出すに及んで、完全に彼自身の藝術を發表するに至つた。第二の大作は「アルツエルテ」である。又彼は「フイゲニエ・イン・アウリス」を發表して伊太利歌劇の駿將ピツチニ勝を制した。

グレゴ (El Greco)

(一五四八—一六一五)

西班牙の畫家。本名をドメニコ・テオトコプリと云ふ。希臘のクレテ島に生れ、ヴネチヤで畫を學んだ。主に畫いたのは宗教的題材で、少しも型に囚はれた痕なく、意の赴くまゝに自由に描いてゐる。其れに繪模様は裝飾的で、近代の畫風の先驅をなしてゐる。「聖靈降臨」

「三位一體」「聖フランシス」「基督及拾二使徒半身像」「或畫家の像」等の傑作がある。

グレンジヤア (Percy Grainger)

(一八八二—)

英國の音楽家。瀛洲に生れ、後倫敦に渡り、最近世界的に名高くなつた音楽家である。其代表的な作品に、舞踊曲風な絃楽合奏曲「モック・モリス」管絃樂曲「愛蘭デルリイ州の民謡調」「シエフアード・ヘイ」等である。彼の音楽は一體に明快で、如何なる階級の人にも了解される。

クロオデル (Paul Claudel)

(一八六八—)

佛蘭西の詩人である。彼は外交官として有名なるのみでなく、詩人、劇作家としても世界的人物である。象徴派詩人マラルメの門下生として文學的生活に入り、外交官として世界各國に活躍する傍ら、藝術家として幾多の詩集を初め、「東明」と題する散文詩集、戯曲「金髪」「少女ヴァイオレーヌ」「交換」「正午の分配」「人質」「マリールに告げられた啓示」等がある。

ケ

光琳 (尾形光琳 一六六一—一七一六)

光琳派の祖となつた人である。京都に生れ、江戸に出で狩野安信に就て學び、又光悦、宗達の風を慕ふて其の趣を得た。光琳の畫は宗達の風を祖述して此を大成したので必ずしも光琳の創意にかゝるものでないが、其の畫風を大成し傳播したのは彼にあつた。

華山 (渡邊華山 一七七三—一八四一)

徳川時代の文人畫家。名は定靜、通稱は登と云つた。世々三宅土佐守の家臣で華山は其の江戸邸に生れた。家極めて貧しく父母を助くる爲畫を以て衣食の費を得んと谷文晁などの諸家に從つて研究を積み、遂に古法に則つて一家を成した。圖様の奇抜と筆力の勁健とは彼の畫の特徴で、當時の畫壇の一異彩となつた。彼は西洋畫も學んで自ら肖像畫を畫いた。「掃百態」の如きは、彼の特徴を最もよく發揮した畫である。彼は其外民政に意を用ゐる大いに盡す所があつた。

ゲーテ (Johann Wolfgang Goethe)

(一七四九—一八三二)

獨逸の詩人で、ダンテ、シエクスピアと共に世界の三大詩人と稱せられる。彼は富裕な商家に生れ、その天職が何であるかに苦んだほど、多方面に非凡な才能があつた人である。即ち詩人として、科學者として、藝術家として、思想家として、又政治家として、後年ワイマルの總理大臣になつた程、各方面の天才であつた。青年時代に「エルテルの悲しみ」を著し、その文名は世界的になつた。次で叙事詩「ヘルマンとドロテヤ」、戯曲「イフイゲニイ」「タツソオ」、小説「マイステル」「詩と眞實」等を出し、又伊太利旅行を企て、その見聞を収めた「伊太利紀行」を著した。没する前に

藝術家略傳

六十年の長い年月を費して大成したと云はるる、不朽の大作「フアウスト」を完成した。

京傳 (山東京傳 一七六一—一八一六)

本姓を灰川岩湖と云つた。寶曆年間江戸の深川に生れ、最初は畫家を志して北尾政重に學び、後純然たる作家として才に任せ、黄表紙洒落本、滑稽本、讀本等を出した。其中最も名高きものは、卅二歳の時の作「忠臣水滸傳」である。

ケルビニ (Maria Luigi Salvatore Cherubini)

(一七六〇—一八四二)

伊太利の音楽家。彼は最も歌劇作者として知られてゐる。始めはナポリ風の輕快な歌劇を書いてゐたが、後ケルツクの感化を受け嚴肅な作風に變つた。作品の重なるものに「ロドイスカ」「メテア」「氷を運ぶ人」等がある。

ケルレル (Gottfried Keller)

(一八一九—一八八九)

獨逸の作家で、スキスの素朴な田園生活を描いた人である。作品の凡てはスキスの空氣と郷土色の濃厚な點

に、其特色を有つてゐる。「未熟なハインリヒ」「村のロミオとジュリエット」等の名作がある。極めて鋭い藝術的な良心を持た作家で、容易に筆を執らず、一生を貧困の裡に過した人である。

ゲーンズボロー (Thomas Gainsborough)

(一七二七—一七八八)

英國の畫家。サツフオークのサツドベリーに生れ、ヘーマンに就て學び、ロンドンで死んだ。其自由な大きな筆と色彩とに於て又風景畫の先驅者たる點に於て拾八世紀英國畫界の巨頭である。「シツドンス夫人の像」「ベリーの一家」「水かひ場」等其の名作である。

紅葉 (尾崎紅葉 一八六七—一九〇三)

紅葉は慶應三年江戸に生れた。三田英學塾を経て、大

學國文科に入り中途退學、専心創作に没頭した。在學中より眉山、小波、柳浪、露伴等と共に硯友社を創始し、「色懺悔」を公にしたが、以後一作毎に文名は擧り、硯友社一派の棟梁として、當時の文壇を風靡した。著名なのは「金色夜叉」の一篇がある。三十七歳にして「七度生れて文章の爲に盡さん」との言葉を殘して逝つた。

ゴッグワン (Paul Gauguin)

(一八四八—一九〇三)

佛蘭西の畫家。彼はセザンヌ、ゴッホと共に近時幾多の追隨者を有する畫家である。最初アルターニユで製作に従事してゐたが、強靱而も單純な感情を有する原始藝術に強い憧憬を持ち、南太平洋のタヒチ島へ移住し、専ら其處の風物を畫いた。彼のタヒチ島土人の描寫は一異趣を有つてゐる。

ゴッリ (Nikolai Gogol)

(一八〇九—一八五二)

露西亞の作家である。プウツキンに由て基を据へた露西亞國民文學は、ゴッリに由て完成されたと云ふ。

藝術家略傳

彼は露西亞の實生活に向て、始めて寫實的な描寫を試み、露西亞の寫實主義若くは自然主義の祖と云はれてゐる。彼の創作の發達を三期に區分すれば、一期は小ロシアの生活を描いたもので、「古風な地主」「タラス・ブリバ」「ウイー」「結婚」等。二期はメテルスブルグの中産階級生活を描いたもので、「ネトツの大略」「外套」等。三期は地方官吏と地主の生活を、忌憚なく暴露した辛辣な小説「死靈」「檢察官」等の傑作を出した時代である。晩年は頗る神秘的傾向に陥り、精神に異常を來し、幻想に悩まれて此世を去つた。

ゴッホ (Vincent Van Gogh)

(一八五三—一八九〇)

佛蘭西の畫家。後期印象派の巨頭。和蘭のゲルット・ズンデルに生れた。彼の名が相當知られたのは巴里に來てからである。初めてゴッガン及其仲間知られ、ピサロに紹介された。彼獨特の畫風を創出した。彼は「藝術の爲の藝術」を否定し、飽く迄も人類へ幸福を齎らすべき仕事としての藝術に従事した。

ゴッヤ (Francisco Goya)

(一七四六——一八二八)

西班牙の畫家。フオエンテトアスで生れ、ローマに赴き、ダビドに就て學んだ。歴史畫、風俗畫、肖像畫を畫いた。しかし彼は、寧ろ諷刺畫家としてよく知られ、又彼の特徴も其處にあつた。近代イスパニヤ畫界に於いて偉大なる一天才であつた。其傑作に「闘牛」「ユダの反逆」「着衣及裸體のヘマーハ」などがある。

ゴリーキイ (Maxim Gorky)

(一八六八——)

露西亞の作家で、本名をアレキセイ・ビエシコフと云ふ。貧家に生れ、幼時に父母に別れて孤兒となり、爾來轉々と放浪の生涯を送つた。製圖師の徒弟、庭師の助手、汽船のボーイ、行人、人足、踏切番、土方、等となつて放浪生活を續け、具さに人生の辛酸を嘗め、二十五才の時「チユドラ」と云ふ小説を書き、後「チエルクツシユ」によりて、全露に忽ち文名を擧げた。遂に文壇の大立物となり、革命以後勞農政府の人々と共に、今猶新興文壇の爲に活動してゐる。彼の作品は自己の經驗に材を取つたもので、筆致は力強く、虚飾

なした人である。三拾一歳の時悲劇五幕物「ル・ジツド」を出し、一躍大家の列に入つた。此は佛蘭西戯曲「餘計者」「秋の夜」等の短篇を始め、「三人」「フオーマ・ゴルデイエフ」等の長篇、及戯曲「どん底」等の傑作がある。

ゴールドスミス (Oliver Goldsmith)

(一七二八——一七七五)

英國の詩人。小説家。劇作家。田舎牧師の一子に生れダブリン大學に學んだ。牧師、醫者、辯護士となつたがことごとく失敗に終つた。しかし「ウエクファイルドの牧師」を出した頃から文名が高くなり「淋しき村」を出すに及んで非常な好評を得た。其他「好人物」「世界の一市民よりの手紙」「ボウ・ナツシの生涯」等の作がある。

コルネイユ (Pierre Corneille)

(一六〇六——一六八四)

佛蘭西の劇作家で、モリエール、ラシイヌ等の先驅をなした人である。三拾一歳の時悲劇五幕物「ル・ジツド」を出し、一大躍家の列に入つた。此は佛蘭西戯曲

に一期を劃した作品である。其頃嫉妬深き凡庸作家の誹謗に答へるため、彼は更に「オラーヌ」「シンナ」「ボリウクト」の三大傑作を出した。以上の四作は彼の名を不朽ならしめた名著である。殊に「ル・ジツト」は、後年の作「嘘言家」と共に、佛蘭西悲劇及喜劇の、最初の模範的戯曲とされ、彼は佛蘭西劇壇に於ける鼻祖と仰がれたのである。

コロー (Jean Baptist-Camille Corot)

(一七九六——一八七五)

佛蘭西の畫家。巴里に生れミシャロン及びメルタンに學び後羅馬へ行つた。フオンテンアロオの森に隱遁的生活を嘗み、瀟灑な作品を出し、近代の有名な風景畫家となつた。彼の畫は一種銀色の調子を帯び、詩趣に富み、明暗の中に名狀すべからざる感情の横溢するなど、佛畫壇に獨特の地位を保つてゐる。

コロレンコ (Wladimir Korolenko)

(一八五三——一九一〇)

露西亞の作家で、拾九世紀の中葉から現代へ移る過渡期の文學を、最もよく表す作家と云はれる。彼は政治

上の危険人物で、追放から追放へと生活した人である。創作期間は甚だ短かく、一八八〇年代に限られてゐる。「悪い仲間」「盲樂師」「マカールの夢」「森の眩き」「老鐘撞き」「妙な女」等を出し、何れも散文詩とも云はるべき、詩趣横溢の名作である。就中「悪い仲間」は傑作と云はれてゐる。

ゴンクール兄弟 (Brother Goncourts)

(一八二二——一八九六。一八三〇——一八七〇)

佛蘭西の作家で、兄をエドモンド、弟をシュウルと云ひ、少時より相協力して美術及社會史の研究に心を潜めてゐたが、更に小説に志した。彼等は印象的自然主義を創始し、自然主義的態度で、人生の眞を印象的に描寫して立派な藝術品を出した。其著に一代の傑作「ジエルミニイ・ラセルトウ」を始め、「ルネ・モーペッサ」「サロモン」「ジエルエーサー夫人」等がある。弟の没後兄が單獨で、「少女エリザ」「センガ兄弟」「愛兒」「伊太利紀行」等を著はした。彼等兩人は創作の傍ら、美術の研究を繼げ「拾八世紀美術」の如き大著を公にした。死後は遺志に由てゴンクール學士院が建設せら

藝術家略傳

れた。

コンステープル (John Constable)

(一七七六—一八三七)

英國の風景畫家。近世に於ける英佛の寫實的風景畫派の祖である。彼の作品は英國では餘り歡迎されなかつたが、佛蘭西では大いに歡迎され、殊に「虹」「ウイマウス灣」を描いてからは、近代佛蘭西風景畫家に偉大な影響を與へた。其の作品の特徴は自然の微細な變化を描出し、色彩に於ては從來の青色に代ふるに綠及び青の天然色を用ひた點などである。「サリスベリーの大寺」「テッドハム・ミル」「麥畑」「田舎家」等彼の傑作である。

コンチヤロフ (Iwan Foncharoff)

(一八一三—一九〇一)

露西亞の作家である。プウツキン、ゴーゴリー等に動かされ、處女作「平凡人の一生」を公にして好評を博した。彼が一生の著述は極めて少なく、小説としては「オプロモフ」「崖」晩年に出した物語「虛無主義者マク」等を數ふるにすぎぬ。彼は自然主義作家として

忠實な觀察をなし、露西亞國民性をよく描寫し、一代の傑作「オプロモフ」の出づるに至つて、彼の文名は頂點に達した。當時オプロモフ主義と云ふ言葉の、生ずるに至つた程である。其他「彼の自傳」「ベリユスキ」の評傳」等がある。

コンラッド (Joseph Conrad)

(一八五七—一九二四)

英國の小説家。もと波蘭人で長らく海員として航海に従ひ、後主として海上生活に材を取り「大風」「海の鏡」「青年」「影の線」等の名篇を出し、海洋作家として現代英文學の一異彩と稱せらる。其の作品は心理的寫實的傾向を有してゐる。

サ

西鶴 (井原西鶴 一六四二—一六九三)

寛永十九年大阪に生れ、始め俳人として其逸才を表はしたが、師宗因の没後間もなく、長年親んだ俳壇を捨てて、初めて浮世草子に筆を染めた。年四十二歳にして處女作「好色一代男」を著した。浮世草子の嚆矢であると共に、近世文學史上劃時代的作品である。彼は傳統的道德習慣に拘泥せず、寫實的な筆で人生をありのままを描寫したのである。續いて「好色二代男」「好色三代男」「好色一代女」「好色五人女」「本朝不二孝」「男色大鑑」「武道傳來記」「武家義理物語」「懐硯」「日本永代藏」「色里三所帯」等を書いた。

西行法師 (一八一八—一一九〇)

西行は平安末期の歌僧である。俗名を佐藤義清と云つた。一日親友の頓死に遭ひ出家の望を起し、二十三歳の時に一切の愛着を斷つて嵯峨に至り、剃髮して西行と改めた。後諸國を行脚し、悠々自適自然を友として、常に深く月花に心を寄せ折にふれて書き記し佳作を残した。其等著書の中に有名なものは、和歌「新古今」「新勅選」「山家集」等がある。

サツカレ (William Thackeray)

藝術家略傳

(一八一—一八六三)
英國の小説家である。彼は拾九世紀中葉の英國文壇に於て、サツケンスと並び稱せられた偉大な作家で、その作品の殆んど凡てが、鋭利、沈痛、諷刺、諧謔に満ちて居る。上流社會の缺陷を好んで描き、その作風は上品で、温情に富んでゐると云はれる。「虚榮の市」は最も有名で、外に「パンデニス」「エスモンド」「ニウカムス」を合せて、彼の四大作と云ふ。

サルドウ (Victorien Sardou)

(一八三一—一九〇八)

佛蘭西に於て小テユウマ等と、併稱される劇作家である。處女作に「學生飲食店」と題する一幕物を著し、後には一代の人氣作家となつた人である。「モツシユウ・カレット」「祖國」等は、殊に傑出した作として文壇に推奨された。その長所とする所は、鋭利な觀察眼を有し、當時の社會的及政治的缺陷を覘つて、忌憚なく暴露し、諷刺する點にあつた。

サン・サアンス (Janille Saint-Saens)

(一八三五—一九二一)

佛蘭西の音楽家。其の名高き作品に歌劇「サムソンとデリラ」交響樂詩「オムファアルの紡車」「死の舞踏」「ノエル」等がある。彼の音楽は稍個性と深みとを缺くと稱せられるが、豊麗流れるが如き樂想と、さわやかなラテン的精神とは其の特徴である。

サント (George Sand)

(一八〇四—一八七〇)

佛蘭西の女流作家で、本名をオーロル・デュパンと云ふ。拾八歳の時デュパン家に嫁し、後離別して巴里に到り、ジュール・サンドと相識り、始めて「ローズ・エ・ブランシュ」を合作した。其時から彼の名に因んで、シオルシュ・サンドと名乗つた。廿八歳の時出世作「アンティナ」を書き、次いで「ワレンティン」「レリア」「シャック」、一代の傑作と稱せられる「コンシエロ」を書いた。何れも不遇な女を主題とした作である。青春の詩人と云はれたミュッセとの戀愛關係や、有名な音楽家ショパンとの關係は、彼女の名高いローマンスである。作品は百篇に近く、彼女の特色は即興詩風な輕妙な點にあると云はれて居る。

サント・ブーヴ (Charles Augustin-Sainte-Beuve)

(一八〇四—一八六四)

佛蘭西の評論壇に於て、浪漫主義的精神を代表せる、拾九世紀の大批評家である。著作の重なるものに「文學批評及像畫」「現代像畫」「月曜無駄話」及び二十年間を費して脱稿したと云はれる「ポール・ロイヤル史」等である。彼の偉大な功績は、從來のものとは異つた評論法の一體を創造した點にある。即ち所謂印象批評を創めて、批評壇に一新紀元を開いた人である。

三馬 (式亭三馬 一七七五—一八二二)

彼は安政四年江戸の淺草に生れた。少年の頃書肆に小僧奉公を勤め、暇々に店の群書を讀んで後年作家となるの素質を作つた。其傑作は文化三年より前後六年費して完成した「浮世風呂」の四篇、次で第二の傑作「浮世床」二篇を出した。彼の名を不朽ならしめたのは此二書である。

シ

シェークスピア (William Shakespeare)

(一五六四—一六一六)

英國に於ける劇作家である。彼は英國にとつて無上の又永遠の誇りであるのみならず、世界の生んだ最大の詩人、最大の劇作家である。一寒村ストラットホードに生れ、家が貧しかつたため學歴としては殆んどなく青年時代にロンドンに出た。最初は俳優となつたが、後年劇作家となり、驚くべき天才を現はした。有名なる四大悲劇「ハムレット」「リヤ王」「マクベス」「オセロ」その他「ヴェニス商人」「あらし」「眞夏の夜の夢」「冬物語」「ロメオとジュリエット」等、三拾七篇の名作を出した。晩年を故郷に安らかに送り、五十二才を期として永遠の眠についた。

シームス (Henry James)

藝術家略傳

(一八四三—一九一六)

米國の小説家である。彼は國際小説の創始者、又、寫實的な作家として有名である。彼はツルゲネーフに負ふところが多いと云はれてゐる。その著作は小説、論文、批評、傳記等全部で約五拾卷あるが、「ゴレバス年金」「書翰一束」「ヨーロッパ人」「パアパリナ夫人」「國際挿話」「婦人の肖像畫」「鳩の羽」等は、最も有名である。

シエレー (Percy Bysshe Shelley)

(一七九二—一八二二)

英國の詩人。近代英詩壇にバイロン、キーツと共に三大詩人と稱せられる天才である。牛津大學に入つたが「無神論の必要」と云ふ文を書いて學校を追はれた。其の著作に「雲雀」「西風によす」「雲」「アドネエス」「アラスター」等の詩集の外戯曲「チエンチ」「放たれたるプロメシウス」等の名作がある。皆平民主義、自由に對する熱烈な同情の聲である。伊太利に遊び、レブホーン灣を航海中暴風の爲溺死した。年僅かに三拾才であつた。

シエンキーウイツチ (Henryk Sienkiewicz) (一八四六——一九一六)

波蘭に於ける近代作家の第一人者で、歴史小説に最も長じてゐた。始め農民生活を取扱つた短篇を出したが、後歴史小説に轉じ、「クオ・ヴァジス」何處へ行く」を出すに及んで非常な人気を得、數年間に三拾ヶ國語に翻譯されて、忽ち世界的文豪と稱せられるに至つた。其他「火と劍」「パニカ」「榮光の野」等も有名である。彼は又政治的に波蘭獨立の理想を有し、常に其實現に努力した愛國の志士である。

シエンベルグ (Arnold Schönberg)

(一八七四——)

奧太利の音楽家。彼は未來派の音楽の主唱者として知られてゐる。初めは古典的作曲に従つてゐたが、後全然新規なる和聲を用ゐて所謂未來派の音楽なるものを唱道しはじめた。彼の音楽は不協和音に富み、急激な轉調を盛んに用ゐ、聴くものをして茫然たらしめる。初期の作品に「良夜」「驛馬の歌」等がある。

ジオットー (Giotto di Bondone)

(一一六六——一三三七)

伊太利の畫家。建築家。コルレテに生れチマアエの弟子となつたフロレンス派の畫家。傳統的な型を破り、自然其ものを手本とする點で、繪畫界の復興者と呼ばれた人。近代繪畫は實に彼に依つて種を蒔かれたのである。彼の傑作に「ダンテの肖像」「マドンナと天使」「聖フランシス一代記」などがある。

ジオルジオネ (Giorgione)

(一四七八——一五一二)

伊太利の畫家。ヴェニス派四大畫家の一人。ヘルリニに學びチチノアと同門である。諷諭古譚的挿話等を題材とし、其の人物は自然の風物に美しく圍繞されてゐる。音楽的で抒情詩的な畫風は其の特色である。「眠れるヴァイナス」「マドンナ」「田舎作」「合奏」「戀の騎士」「三哲人」「ソロモンの審判」等は彼の傑作である。

子規 (正岡子規 一八六七——一九〇二)

子規は慶應三年伊豫國松山に生れた。大學を中途で退學し、専ら俳句の研究に努力した。又一方小説及隨筆にも力を盡した。その頃「癡祭書屋俳話」を發表し、

俳壇革新の第一聲をあげた。後雑誌「ホトトギス」を發刊した。日清戦争の時は従軍記者となつて戦地に向つたが、病を得て歸國し、以後彼の生涯は病床に送られた。常に病苦と戦ひつゝ、俳句の革新に努め「子規隨筆」「續子規隨筆」「俳人蕪村」等を著し、三十六歳の時「墨汁一滴」「病牀六尺」等の作を最後として逝去した。彼の作品全部はアルスの「子規全集」の中に収められて居る。

シヤヴァンヌ (Pierre Puvis Chavannes)

(一八二四——一八九八)

佛蘭西の畫家。リオンで生れクウチュウルに學び、遂に當時の自然主義の風潮に反抗して立ち、初期文藝復興期の精神を復活せしめんと努め、近代佛蘭西畫に一新紀元を劃した人である。中世の畫家ジオットーに學び立派な壁畫を描いた。彼の畫は、色彩は簡單であるが、美しい諧調がある。其の傑作に諸壁畫の外「貧しき漁夫」「眠」「秋」「戦争」「希望」「平和」等がある。

シヤトープリアン (Auguste Chateaubriand)

(一七六八——一八四八)

佛蘭西の作家で、近代浪漫主義の祖と稱せられ、又革命後の時代病の代表者と目せられる人である。厭世、悲觀、憂悶の情を歌ひ、又新思想の故を以て政府の忌憚に觸れ、國外に放逐された。其著書に「革命論」「アラタ」「キリスト教神髓」「ルネ」等がある。特に「キリスト教神髓」「ルネ」は最も有名である。

シユトラウス (Richard Strauss)

(一八六四——)

獨逸の音楽家。現代獨逸の最大な作曲家でリストやワグナーの後繼者と評されてゐる大家である。彼は後年伯林の宮廷樂長となり、次いで音樂總長になつた。代表的な作品には交響幻想曲「伊太利より」「ドン・ファン」「死の成佛」「ドン・キホオテ」「英雄の生涯」、歌劇では「サロメ」「薔薇の騎士」等がある。其他室樂、歌謠曲等多くの作品があるが、其の最も得意とする所は音詩である。標題音樂として過去現在を通じて彼に及ぶものは一人も無い。

シムン (Robert Schumann)

(一八一〇——一八五四)

獨逸の音楽家。「婦人の愛と生活」「天國とペリ」「メシ
ナの花嫁」「薔薇の巡禮」等の名高き傑作を出した。彼
は作曲者として高名なると同時に、又文藝批評家とし
て名高く「音楽新報」を刊行して音楽の向上につとめ、
「音楽及び音楽者に對する論文集」を出して其の藝術觀
を發表した。

シユウベルト (Franz Schubert)

(一七九七—一八二八)

奥地利の音楽家。若年の頃よりマエトオヴェンを慕ひ
「女性ヴェトオヴェン」と稱せられた人である。「魔王」
「漂流人」を出して名をなし、「ロ短調交響曲」「生活の
暴風」及び其他多くの歌謡曲を作った。彼は多くの作
品を遺してゐるが、最も大なる功績は「歌謡曲」の完成
である。其故に彼は「歌謡曲の王」とよばれる。

シユニツツレル (Arthur Schnitzler)

(一八六二—)

奥地利の作家である。彼はホフマンスタールと共に、
新維納文學を代表する作家である。初め醫者であつた
が、三十一才の時「アナトール」を出し、文名を擧げ

てから専ら文學者としての生活に入つた。其後多くの
作品を出したが、「戀愛三昧」「死」「寂しき道」「遺言」
「ペアトリチエの面紗」「みれん」等が有名である。
殊に「戀愛三昧」は彼の名を世界的にした傑作である。
氣分の描寫に最も長じ、薄暮の情調を思はしむる靜か
な古都ウイーンの生活を取扱ひ、貴族的な主人公の戀
愛と悲哀とを描ける作が最も多い。

シユラーフ (Johannes Schaff)

(一八六二—)

獨逸の作家である。彼はホルツと共に、佛のエンク
ル兄弟の如く、共同制作を續け、新文壇の曙光となつ
た人である。ホルツに魅了されて以來、相互に扶け合
て共同作を出したが(ホルツ参照)、後には單獨に「デ
イングスタにて」「第三帝國」「敵視」等の諸作を出し
た。

春水 (爲永春水 一六四二—一七八九)

爲永春水は寛政元年江戸に生れ、本姓を越後屋長次郎
と云つた。徳川時代の類廢期に、最も喜ばれた讀物は
人情本であるが、諸作家の中最も歡迎されたのは春水

である。彼は文筆に志してから長い間名を成すに至ら
なかつたが、三十九歳の時「梅曆」を出すに及び、一躍
流行兒となり、人情本の大家となつた。次で「辰巳園」
「籠の梅」「春告鳥」を出して人氣を博したが、最も著
名なのは「梅曆」である。

シモウ (Harnerd Show)

(一八五六—)

英國の劇作家である。彼は劇作家として、社會批評家
として、彼の社會主義見地から、縦横の機智、辛辣な
皮肉、豊富な知識、鋭敏な觀察をもつて現はれ、あら
ゆる方面に活動を續けてゐる。始めは小説家であつた
が、劇作に轉じて「ウオーレン婦人の職業」「悪魔の弟
子」「人と超人」「武器と人」「運命の人」「シーザーと
クレオパトラ」等の作を出した。劇に對するに藝術家
の態度でなく、寧ろ社會改良家の態度を有ち、作品は彼
の主義宣傳にもちひられ、説明じみた傾向を持つてゐる。
論文では「イアセン主義の眞髓」が最も有名である。

シヨパン (Frederic Francois Chopin)

(一八〇九—一八四九)

佛蘭西の音楽家。幼よりして樂才を現し、人を驚かし
た彼は拾八才の時よりピアノリストとして世に立ち、忽
ちにして流行兒となつた。
彼の特徴はピアノ曲で特に夜曲、マヅウルカに傑れて
ゐた。彼は何人をも模範とせず彼自からの創意により
獨特の樂風を創立した。其音楽は、飽迄詩的である。
感傷的な可憐なしかも空想的な音楽である。其外一般
に愛好せられるものに「子守唄」「幻想即興曲」がある。

シルレル (Friedrich Schiller)

(一七五九—一八〇五)

獨逸の詩人であり劇作家である。ゲーテと併稱される
劇詩人で、ゲーテを生來の抒情詩人とすれば、シルレ
ルは生來の悲劇詩人であつた。少時から詩才に長じ、
青年時代には革命的思想を、戯曲「群盜」に表はし、
後マンハイムの劇場詩人となり、「フィスコ」「たくみ
と戀」を出した。中年カントの哲學研究に従ひ、又ゲ
ーテとも親しくなつた。以後「マルレンスタイン」「マ
リアスチュアルト」「オルレアンの少女」「メツシーナ
の花嫁」「ウイヘルム・テル」等の戯曲を作り、「デメ

藝術家略傳

トリウス」は完成せずに、肺病のために没した。ゲーテは曰ふ「自由はシルレルの凡ての作に、一貫した思想である。青年時代は肉體上の自由を、後年には精神上の拘束を脱せん事を努めた」と。

シンク (John Milington Synge)

(一八七一—一九〇九)

愛蘭の劇作家である。イエーツ等と共に愛蘭文藝復興運動に携はり、劇の方面には最も卓越した手腕を有ち、其地の素朴な田園生活から、六篇の立派な戯曲を書いた。「谷間の影」「海への騎士」「聖者の泉」「西の世界の鬼小僧」「罎掛屋の婚禮」「悲しみのシーヤダー」が即ちそれである。彼の生涯は僅かに三十八年間であつたが、彼の残した其等の戯曲は、愛蘭劇の寶玉とされてゐる。

ス

スクリアピン (Alexander Scriabin)

(一八七二—一九一五)

露西亞の音楽家。最近露國の生んだ最も天才的な作曲家である。代表的な作品に交響樂「法悦の詩」「プロメセウス」「神秘」等がある。彼は音響と色彩との結合により特殊の藝術的效果を現すことを考へ、又宗教と藝術の融合をはかつた。彼は凡ての藝術は至純な法悦に達することを目的とすべきであると考へ、音詩「神秘」に於ては至高の法悦を現し、神人合一の境地に聽衆を導かんと企てた。

スコーパス (Scopas)

希臘の彫刻家。スコーパスはプラキシテレーヌ、リイシツパスと列んで希臘の前四世紀より三世紀頃の彫刻を代表する作家である。フイジアスの作風に反してスコーパスは其神像等に人間の情感を多く加へた。彼の頭像を見ると兩眼が著しく凹み、眉毛が隆起して憤怒の烈しい、稍々苦痛らしい形相を具へて居る。

祐信 (西川祐信 一六七八—一七五一)

浮世繪西川派の祖となつた畫家、京都の人で、初め狩

野永納に學び後浮世繪師となつた。彼は好んで美人畫を畫題に用ゐ、女でなければ見られない美しさと生氣とを、現代の畫家の企及し得ぬほど巧みに畫いた。

スコット (Walter Scott)

(一七七一—一八三二)

英國の詩人であり又小説家である。彼は英國浪漫派の先驅として、本國及大陸にまで大きな影響を與へた作家である。始め詩人として名聲を得たが、後進の英才バイロンに壓倒されるを看取し、詩壇を去て小説に向ひ、忽ち名を擧げた。其等は浪漫的精神の溢れた歴史小説で、三拾七篇を出した。描くところは主として、蘇格蘭往古の武士生涯である。就中有名なのは「アイヴアンホー」「ケニルウォース」。叙事詩では「湖上の美人」「最後の樂人の歌」等である。

スタエル (Mathame de Staël)

(一七六六—一八一七)

佛蘭西の閨秀作家である。佛蘭西革命時代に出で、シヤトリアアンと共に、當時の破壊と動搖との、不安な時代を代表する作家で、其代表作「テルフィン」は、

藝術家略傳

自己の經驗した結婚生活と、家庭の不和を赤裸々に描いたものである。其他「コリンヌ」等も有名な作品である。ナポレオン皇帝との確執により、再三國外に追はれた。

スタンダール (Henri Beyle Stendhal)

(一七八三—一八四二)

佛蘭西の作家で、本名をアリー・マイルと云ふ。彼の小説は後年の寫實主義、自然主義の先驅となつた。著作は小説の他に評論、傳記、風土記、等で頗る多かつた。「赤と黒」「パレルモの女城主」は最も有名である。

ステヴェンソン (Robert Louis Stevenson)

(一八五〇—一八九四)

英國の詩人。小説家。論文家。特に冒險小説の大家であつた。舞臺を多く南洋又は蘇格蘭等に取り、傳奇的色彩の豊富な作品を多く出したが何れも生彩ある自然描寫にとみ、近代文學中の一異彩である。著作には其代表作「寶島」を始め「新アラビア夜話」「公子オツト」「トラメル・ウイズ・ドンキイ」等がある。

スーデルマン (Herrmann Sudermann)

(一八五七——)

獨逸に於ける近代の代表的作家である「愛慕夫人」を發表して文壇に出で、後戯曲の處女作「名譽」により、劇作家として一躍名を成すに至つた。其特徴は複雑な脚色と、舞臺技巧とに長じ、天才的と云ふよりも通俗作家として世界に名聲を得た人氣者である。好んで用ゐる問題は、新舊思想の衝突、個人と社會の葛藤等である。戯曲には「ソドムの末路」「故郷」「片隅の幸福」「死に献げられし人々」「ヨハネス」政治劇「人生萬歳」「下積の石」「花の舟」「花薔薇」「神なき世」等の作品がある。

ストラヴィンスキー (Igor Stravinsky)

(一八八二——)

露西亞の音楽家。彼は舞踊曲「火の鳥」を發表し一躍世界的名聲を博するに至つた。翌年「ペトルシユカ」を發表し、前にも増した成功を見た。續いて「春の犠牲」歌劇「鶯」歌謡曲「修道院」「露の歌」等出した。彼は不思議なリズムを用ゐる、極めて獨創的なリズムの音楽家である。

ストリンドベルヒ (Johan August Strindberg)

(一八四九——一九一三)

瑞典の作家である。イアセンと並び稱せられた、北歐第一の作家である。貧困のうちに育ち、幼少の頃から人生の暗黒面に觸れ、後年に於ける、彼の人生觀の基を作つた。自然主義を採り、「赤い部屋」「結婚」「父」「エリコ嬢」等を出し、深刻な現實描寫で、婦人問題、两性問題に對して、痛烈な諷刺攻撃を加へた。「地獄」「ダマスカスへ」を出すに到り神秘的傾向を示して來た。其他「倦怠」「パリアス」「強者」「天國の鏡」を始め、五十餘篇の戯曲、「春」「痴人の懺悔」等三拾の小説、其他彼の著作は、歴史及科學上のもの、論文、批評、詩集等驚くべき數に上る。生來の孤立的厭世主義者で、人と和せず、三度婚して三度離婚し、極端な女性憎惡家として知られてゐる。

セ

セザンヌ (Paul Cezanne)

(一八三九——一九〇六)

佛蘭西の畫家。印象派より出でて後期印象派との過渡期を作つた獨創的な畫家。エーヌに生れ法律家たらんとして學校に入つたが、卒業後方針を變じ巴里に行き畫家の生活に入つた。其の研究時代にはクールペー及びマナーの影響を受けた。そして肖像、静物、風景畫に無数の傑作を残した。彼の強い個性、深刻な孤獨な味は彼の何れの作品にも見出される。特に其の静物畫の如き無類の逸品と稱せらる。實に近代の西洋畫は彼に至つて一轉歩をなしたと云ふことが出来る。

雪舟 (二四二〇——一五〇六)

足利時代の畫家。備中赤濱の人で本姓を小田と云ふ。幼時同國寶福寺に入つて僧となつた。天資畫に妙を得、其名周圍に高かつた。應仁元年支那に行き歸朝後は周防山口に雲谷軒を設けて居を定め妙筆を揮つた。彼の畫はどれも生命の溢れた作品であるが、殊に山水は古今獨歩の概あつて、其風格の豪宕と用筆の端正と、其發墨の豊潤とに至つては眞に千古絶倫である。其傑作

藝術家略傳

に「拾六羅漢」「金山寺の育王山」「山水の巻」「破墨山水」等ある。

セルヴンテス (Cervantes Saav. Era)

(一五四七——一六一六)

西班牙第一の大家作家である。其最も代表的作品は有名な「ドン・キホーテ」である。當時流行を極めてゐた騎士物語の、人心に及ぼす悪影響を根絶せしめんとために書いたもので、深刻な一大諷刺小説。世界第一の滑稽小説と稱せられる。他に抒情詩「ガラテヤ」「パルナスの族」「ロスセロス」「ママンシヤ」以下二拾四種の悲劇、及「模倣小説」拾二種と臨終の時に書いた「ペルシンスとシキスムンダの惱み」がある。

ソ

漱石 (夏目金之助 一八六七——一九一六)

彼は慶應三年東京に生れた。大學文科を出て教鞭を
つてゐたが後、英國に留學し、歸朝後帝大文科の講師を
勤め、傍ら創作に従事して大いに文名を現はし、文壇隨
一の覇者となつた。小説「倫敦塔」を出し、續いて「深
虛集」「鴉籠」「我輩は猫である」「虞美人草」「坑夫」
「三四郎」「それから」「門」「坊ちゃん」「彼岸過まで」
「行人」「心」「明暗」等の名作を出した。殊に「吾輩は
猫である」は代表的傑作と稱せられる。

ソフォークレス (Sophocles)

(前四九五—四〇五)

希臘の悲劇詩人である。エスキラスに由て創始せられ
た希臘悲劇は、彼に於て絶頂に達した。二十七歳の時、
劇壇に並ぶ者なき老大家エスキラスと競ひ、月桂冠を
得、後藝技に出て一等賞を受くる事廿四回、二等賞は
僅か一回のみであつたといふ。六拾餘年の詩作生涯に
於て、百拾三篇を創作したが、現存してあるものは最
も著名な代表作「エディポス王」「エディポス・コロナ
ス」「アンチユイーネ」の三篇及「トラキニー」「アジャツク
ス」「エレクトラ」「ファイロクテテス」の七篇である。

ゾラ (Emile Zola)

(一八四〇—一九〇三)

佛蘭西の作家で、自然主義文學の最も代表的な小説家
である。初め或新聞社の文藝評論記者として、彼の自
然主義の主張を振りかざし、次で某出版社と、爾來拾
年間毎年二卷の小説を發行するの約を結び、豫て企圖
せる「ルーゴン・マツカール叢書」二拾卷の著作に従
事した。此は「第二帝政治下に於ける大家族の自然的
及社會的歴史」として著したものであるが、彼は唯
物論を奉じ、其小説は科學的の純客觀的態度を以て、
遺傳・境遇の個人に及ぼす影響を、精細に描寫したも
のである。此外「三部物語」「四福音書」及無數の短篇
や評論を出した。前記叢書中の「居酒屋」「ナナ」は最
もよく、世に知られてゐる。

ゾログロブ (Zoroaster Solov'ev)

(一八六三—)

作家メレジコスキ。バリモント等と共に、露西亞政
黨の代表的詩人である。又小説家として、不思議な
病的心理の描寫に妙を得てゐる。彼は現實の生を呪咀

し、死を讚美し、人生の醜惡を厭ひ、生は既に虚偽で
あると云ひ、死こそ唯一の眞實だと云ふ。故にその作
品には永久の暗黒が覆ふてゐる。そして實生活を厭ふ
の餘り、好んで夢幻の世界を描く。彼は又其反基督教
精神から、惡魔主義の詩人と稱せられる。「小惡魔」「死
の勝利」「影人形」「白い母」等がある。何れも露西亞
文學獨特の作品である。

タ

武者 郎 (有島武者郎 一八七八—一九二三)

彼は明治拾一年東京に生れた。學習院、札幌農學校を
出て米國に學び、歸朝後札幌大學豫科英文學教師とな
つた。又武者小路と共に「白樺」を發刊し、自然主義
に反して新理想主義の叫びを上げ、「カインの末裔」「平
凡人の手紙」等を發表した頃より、一作毎に名聲を高

め、一時は創作界の王者たるの觀があつた。後個人雜
誌「泉」を發刊して自作を發表した。大正十二年六月
波多野秋子と共に、輕井澤の山莊にて縊死を遂げた。

タゴール (ラビンドラナアト)

(一八六〇—)

印度の詩人、思想家である。早くから文才を表はし拾
九才で小説を發表した。其後多數の詩歌、小説、戯曲、
論文を續々と著した。特に「生の實現」の一篇で、古
代東洋思想の近代的解釋をなし、ノーベル賞金を受け
た。其思想は聖典「ウパニシャット」より出で、大自
然との調和に人生の樂土を説いてゐる。彼は現代に於
ける東洋の大詩人、大哲學者、又聖者として普く世界
の注目を集めてゐる。著作には詩集「ギタンジャリ」
「新月」「園丁」「逃避者」、戯曲に「暗室の王」「郵便
局」等が有名である。

ターナー (William Turner)

(一七七五—一八五一)

英國の畫家。英國畫派中最も名高き一人である。初め
佛蘭西のクロオド、アウザン等の畫風を追つてゐたが、

光線、色彩、大氣の觀察に没頭し、遂に彼獨特の畫風を作り上げた。彼は空想的な夢の様な美を寫し人目を眩惑せしむる様な畫を描いた。好んで高山、大河、海濱などを描いた偉大な風景畫家である。霧中の海の日出、「ネルソンの最後」、「老艦テメレーア」等の名作の外、ヴェネチア、アルプス山等の美觀を描ける傑作を多く遺した。

十郎 (市川團十郎 初代一六六〇—一七〇四)

江戸の俳優。初代市川團十郎は元祿時代前期に現れた當時の代表的な俳優である。彼は江戸にて「荒事」と云ふ藝風を始めた。荒事とは怪力勇猛なる武人、または凄く怖ろしき鬼神憑靈の類に扮することで、脚色も科白も極く荒唐無稽な代りに、現實と離れて、豪放雄大な光景又は人物を描き出すのが特色である。其の子孫は代々俳優として世に立ち現在に至る。其等ばかり一流の俳優であつた。特に團十郎二世、四世、五世、七世等各時代の代表的な役者であつた。現存せる團十郎は其の十代目である。

ダンディ (Vincent d'Iny)

(一八五一—)

佛蘭西の音楽家。フランクヤサン・サアンスと共に佛蘭西國民音楽協會を興し、新樂派に非常に貢獻した作家である。彼の作品中最も傑れてゐるものは管絃樂曲で「ワレンシユタイン」交響樂詩「不思議の森」、「山の夏の日」等最も高名である。聲樂曲では「シツドの騎行」、「鐘の歌」等ある。

ダンテ (Dante Alighieri)

(一二六五—一三二一)

伊太利の詩人で、ホーマー、沙翁、ゲーテ、と並んで世界の四聖と呼ばれる。彼の名を不朽ならしめたのは、有名な「神曲」である。此は「天國」、「煉獄」、「地獄」に分たれ、古詩人イリギリウス及戀人ベアトリチエに導かれ、此等の三界を巡る事を描いたもので、中世思想の最も完全に、具體的に表はした名著である。

ダヌンチオ (Gabriel D'Annunzio)

(一八六三—)

伊太利の詩人、創作家、小説家で、現代伊太利文壇の第一人者たるのみならず、南歐文壇の代表的人物である。

チ

チエーホフ (Anton Chehov)

(一八六〇—一九〇四)

露西亞の短篇作家として第一人者である。多年醫師の職にあり、種々なる男女に接し、人生の真相を觀察して、後年作家となつた。「六號室」「決闘」「黒法師」等を出し、彼の文名は一作毎に上るのみであつた。彼の作品には歡樂喜悅等なく、憂鬱の情調と、堪え難い單調さが漲つてゐる。諸作は概ね減び行く智識階級の氣力なき生活を取扱ひ、何れも平凡な日常茶飯事を捉えながら、其處に驚くばかり深刻な人生の一斷面を示した寫實小説である。「イワノフ」「伯父ワニーア」「櫻の國」「鷓」「三人姉妹」等最も高名である。

チチアノ (Vico Tiziano)

(一四七七—一五七六)

る。始め詩人として立ち、次で小説に筆を振ひ、後劇作家ともなり、何れも第一流の地位を占めてゐる。彼は特に古典文學を振興して、伊太利國民劇を作らんと企てた。詩作は「プリモ・ヴェレ」「キメラ」「天國の詩」「ローマ悲歌」、小説には「死の勝利」「巖の處女」「無罪」「であらふか、であるまいか」、劇には「フランテスカ・ダ・クミニ」「シヨコンダ」「死都」「春朝夢」「秋月夢」等がある。

探幽 (狩野探幽 一六〇二—一六七四)

京都に生れ江戸に下り、後幕府の繪師となつた徳川時代初期畫壇の大家である。鍛冶橋門外に屋敷を給はり鍛冶橋狩野の祖となつた。後薙髮し探幽齋と稱す。彼は古今大家の筆蹟を學び、特に其漢畫に於いては各種の特長を一丸となし、整然たる日本の畫畫を大成するに至つた。其の名作には「東照宮緣起」「張良引四皓圖」「源義朝繪傳」「三十六歌仙」等ある。

藝術家略傳

伊太利の畫家。ヴェニス派の代表者で文藝復興期最大畫家の一人である。色彩家として實に古今に獨歩の地位を占める人である。又彼の畫には驚くべき力が籠つて居る。人物畫は彼の最も得意とする所であつたが、其の傑作に「清濁二種の愛」「贖金」「グイナスとアドニス」「花神」「基督の責苦」其他婦人肖像の多くがある。

チツケンス (Charles Dickens)

英國の小説家である。彼はサツカレーと共に拾九世紀中葉に於ける、英國文壇の双壁である。貧窮の裡に人と成り、ロンドンの貧民生活を熟知し、好んで下層社會をその生彩ある寫實と、深奥なる同情とに由て描寫した。彼の作品の特色は滑稽にして温情に富み、悲哀あつて然かも愉ばしく晴やかな點にある。「デビッド・コバーフィールド」「クリスマス・カロール」「兩都物語」「オリヴァー・ツイスト」等は、其代表的な作品である。

チヤイコフスキー (Peter Tchaikovsky)

露西亞の作曲家。彼は郷土的のものに西歐樂を加味し

た折衷的な作曲家である。彼の作中最も傑出したものに第六交響曲「悲愴」序曲としては「千八百拾二年」組曲としては「胡桃割」歌劇としては「ユウセエス・オニエギン」「マセツバ」等である。彼の音楽は一言にして云ふなら悲愴である。併し北方的の暗い悲しさでなく、柔い少女の如き嘆きである。心持よい慰藉に満ちたる悲しさである。

樽牛 (高山林次郎 一八九一—一九〇二)

彼は明治四年山形縣鶴岡に生れ、第二高等學校を経て帝大文科に學んだ。高等學校時代懸賞小説募集に應じて「瀧口入道」を書いた。大學時代に丁酉倫理會を起し「帝國文學」の創刊に努力した。後「太陽」の主筆となり、傍ら帝大で日本美術史、早稻田大學に美學を講じた。廿二年に文學博士の學位を受けた。著作全部は「樽牛全集」五卷に收めてある。

チリコフ (Eugeni Chericoff)

(一八六四—)

露西亞の作家である。マルキシズムの作家として、最も早く文壇に認められた人である。主として地方生活

に題材を取り、諷刺、滑稽味に富む作を出した。「森の中」「タリニヤの幸福」「フアウスト」等の小説「名譽のため」「農夫」等の戯曲がある。

ツ

ツルゲーネフ (Ivan Turgeneff)

(一八一八—一八八三)

露西亞の作家で、露西亞の作家中最も藝術的な、名作を出した人である。彼は獨逸に遊學し、後又外國を歴遊した。然しその大半はパリで暮し、西歐文明の歐歌者であつたが、同時に熱烈なる愛國者であつた。彼が作家として露西亞文壇の雄として知られたのは、「獵人日記」を書いてからである。其後に書かれたものは「ルージン」「貴族の集」「その前夜」「父と子」「煙」「處女地」等の大作がある。その他「春潮」「アシア」「初

藝術家略傳

戀」「不用人の日記」等、及哲學的な散文詩等である。彼の特色は沈痛な厭世思想と、時代及社會に對する批評、及其優美な文章等を數へる事が出来る。トルストイと彼の不和は有名な話で、永い間續いたが、晩年になつてから親密な交りをした。六十餘年の生を了へ巴里の寓居で逝いた。

テ

テニソン (Alfred Tennyson)

(一八〇九—一八九二)

英國の詩人で、ゲキクトリヤ朝の誇と仰がれる有名な桂冠詩宗である。穩健な思想と優美な詩風を有ち、氣韻頗る高く、その形式に至つては、遺憾なきまでに調つてゐる。近世英國に於て最も愛唱された詩人である。「イノック・アーデン」「イン・メモリアム」「藝術の

藝術家略傳

宮殿」「ユリセス」「プリンセス」「輕騎兵進撃」等は、最も有名な作品である。

デフォー (Daniel Defoe)

(一六六一—一七三一)

英國の作家。彼の代表的傑作たる「ロビンソン漂流記」の一篇によつて不朽の名を傳へた作家である。古來此書程英人氣質を端的に描寫せるものは無いと稱せらる。デフォアの「ロビンソン漂流記」でなく「漂流記」のデフォアと云ふべきほどである。彼の副産物的作品に「ロンドン大疫病」「モル・フランダーズ」等がある。

デメール (Richard Dohmel)

(一八六三—一九二〇)

獨逸の哲學者で同時に、最近獨逸第一の詩人と稱せられた人である。哲學、自然科學等を研究し、後或る會社組合の書記をしてゐたが、其間に「解脱」「されど慾は」「生命の葉」等の三詩集を出し、次で詩集「女性と世界」戯曲「同胞」童話、詩集又叙事詩「二人」等の作品を出した。彼は象徴主義をとり、詩壇に新詩風を興した有力者である。

デビュッシー (Claude Debussy)

(一八六二—一九一九)

佛蘭西の音楽家。佛蘭西現代樂派中の最大なる作曲家、並びに印象派の主領と目せられる大家である。歌劇「ペレアスとメリザンド」管弦樂曲として「海」「イゼリア」、ピアノ曲「樂しき鳥」「印象」等代表的なものである。彼の歌謡曲は傑出したもの多く、中にもヴェルレーヌの詩につけた「木立の影」ボオドレールの「薄暮の曲」「戀人の終焉」など世界的な逸品である。彼は精鍊されたラテン音楽の代表的作家であつた。氏の音楽の特徴は、第一に印象的であること、色彩的効果か鮮かで、捉へがたき興味美韻を描出するに成功したこと等であつた。

デューマ・フィス (小デューマ) (Alexandre Dumas fils)

(一八二七—一八九五)

佛蘭西の劇作家で、世間にて普通小デュウマと云はれてゐる。大デュウマの庶子である。最初は詩作に従事し、次で小説に筆を染め「クマンリオ事件」の作を出し、後彼の本領たる劇作に従事し、有名な「格姫」、

「社會の半面」「私生兒」等の名作を出した。其戯曲は主として時事問題に、材を取つたものである。

デューマ (大デューマ) (Alexandre Dumas)

(一八〇六—一八七〇)

佛蘭西浪漫派の代表的作家の一人である。廿三歳で「アシリー三世と其宮庭」を上演し、忽ち文名をあげた。次で戯曲小説等を盛んに書いたが、取わけ「アントニール」は非常な人氣を呼んだ作品である。其他傑作「マドモアスル・ド・ベル・イヌル」「三銃士」「モンテクリスト伯爵」(巖窟王)「マルゴ女王」等がある。何れも通俗的興味のある、複雑な傳奇的な作品である。

デュレル (Arnold Durer)

(一四七一—一五二八)

獨逸の畫家。文藝復興期に於ける獨逸の代表的畫家である。主に宗教上の畫題を取り作品を作つた。其作品には陰鬱な傳説、人生の恐怖と責任等が力強く表されてゐる。獨逸畫界は彼によりて大發展をとげた。彼の傑作には「ポロとマコ」「ヨハネとマテロ」「アダムとイブ」「聖誕」等がある。彼は又銅版畫にも一生面を開

いた。

ト

ドヴォルジヤック (Antonin Dvorzak)

(一八四一—一九〇四)

ボヘミヤの音楽家。郷土的色彩が極めて強いボヘミヤの國民的音楽家である。歌劇「ホワイト・マウンテンの相續人」を發表してボヘミヤ人の注意を引き、さらに「スラウ舞踏曲」を出すに及んで彼の名は一躍世界的になつた。彼の傑作には右の外、交響樂「聖母哀悼」「新らしき世界より」歌劇「デミトリ」神劇「ルドミラ」等が名高い。

藤十郎 (阪田藤十郎 一六四五—一七〇九)

元祿時代の俳優。此の期は文學美術の最も隆盛であつたと共に演劇もそうであつた。そして俳優にも幾多の

藝術家略傳

名人が現れたが、第一の大立者は京都の阪田藤十郎であつた。彼が扮して得意とする所は所謂「傾城買ひ」又は「和事」が上手でユーモアにも長じ、悲哀の表情に秀で且つ辯舌に巧みであつたと云ふ。天品も高雅で文筆の才を兼ね、聰明なる理解力を有し、屢脚本を自作し、又當時既に寫實主義を標榜してゐた。彼は舞臺以外に於ても其の人格と性行とは實に一代の傑物であつたと云ふ。

ドオリエ (Alyonse Dardet)

(一八四〇——一八九七)

佛蘭西に於ける自然主義派文學者の一人で、ゾラと併稱された作家であるが、ゾラが人生の暗黒面に向つたに反し、彼は光明的理想的方面に向ひ、生涯その寫實的態度を變へなかつた。浪漫的色彩を帯びた一味の自然派作家中、最も穩健な調和的な作家である。作品には故郷プロヴァンスの生活を取扱つたものに、「タラスコンのタルタラン」、「粉小屋」があり、巴里の生活を背景としたものに有名な戀愛小説「サフォー」、「フロモンとクスレー」がある。他に二冊の追想録「パリーの三

十年」、「一文士の回顧録」等がある。此外普佛戦争の敗北に愛國的悲憤を感じた一人で、其事件と活劇に材を取つた短篇頗る多く、「ベルリンの包圍」、「最後の教」、「新教師」等何れも愛國的熱情の溢れたものである。

ドガ (Edgar Degas)

(一八三四——一九一七)

佛蘭西の畫家。マネーの畫風を學び印象派の團體に加はつた一人である。彼は好んで近代の巴里生活を描き、特に踊子の生活に關するものは彼の製作中最も重要なものである。其他カフエー、洗濯屋、競馬等も好んで畫いた題目である。彼は人生の寫實的な畫家で、稍々漫畫家の態度を帯びてゐた。日本美術の影響を著しく受けてゐたと云ふ。

ドカン (Alexandre Gairiel Decamps)

(一八〇三——一八六〇)

佛蘭西の畫家。ピュジョールの門に學び南歐東方に遊行し、後佛蘭西東洋畫家中に著名な人となつた。彼はローマンチック派に屬する畫家で、其の畫は東方の神秘と莊嚴とに交ゆるに詩的熱情の溢れた畫家である。

彼は好んで東洋の地方色を取扱つた。

獨歩 (岡木田獨歩 一八七一——一九〇八)

彼は藤村、花袋等と共に、自然主義の先驅者となり、新興文壇の大立物となつた作家である。「酒中日記」、「牛肉と馬鈴薯」、「第三者」、「運命論者」等を始め、「欺かざるの記」、「書翰」等の著作がある。彼の特色は短篇にあつた。

ドストイェフスキ (Fedor Dostoevsky)

(一八二一——一八八二)

露西亞の文豪中、最も深刻な作家として知られてゐる。彼は少壯の時革命的な言動のため、捕縛され流刑を受けてシベリアに送られ、幽囚四年、想像も及ばぬ苦難に堪へ、赦されてからも生涯貧窮と戦ひ、病に悩まされ、一生悲痛な生活を送つた人である。メレジヨスキは彼を評して、「ツルゲーネフのやうに詩的距離を隔てない、又トルストイのやうに説教者として高い位置から見るのでなく、彼は吾人と共通の盃より飲み、吾々と同じく偉大であり、又穢れてゐる」と。傑作には「罪と罰」、「カラマゾフの兄弟」、「白痴」、「虐げられし

人々」、「二重人格」、「死人の家」等がある。彼 深刻な病的心理の解剖者として、稀に見る作家であつた。

ドナテルロ (Donatello)

(一三八六——一四六六)

伊太利フロレンスの彫刻家。幼より羅馬に行き希臘及羅馬の古名作を研究した。彼は率先して彫刻上の自然主義を唱へ、遂かに現代のロダン、ムウニエーに影響を與へてゐる。「聖ジョージの立像」、「ダビデ」、「カツタメラータ」等其の名作である。「ドナテルロ研究」は近代彫刻の一標語となつてゐる。彼の弟子に有名なヴェロッキオがある。

ドニゼツテイ (Gustavo Doizette)

(一七九七——一八四七)

伊太利の歌劇作者。ロツシニの引退に次いで、伊太利及佛蘭西歌劇界に雄飛した人である。其の代表作に彼の最大傑作「ルチアアレイ・ラムメルムリア」を始め「ドン・パスクアアレ」、「戀の藥」、「聯隊の娘」等がある。彼の歌劇は全體で殆んど七拾曲に及んでゐる。

ドニエ (Honore Daunier)

藝術家略傳

(一八〇八—一八七九)

佛蘭西の畫家。石版畫家。彼は久しく一漫畫家として見られてゐたが、近來佛蘭西第一流の畫家の一人に數へらるゝに至つた。彼は寫實的な筆で世態の種々相を畫いた。そしてそをした市井の題目を畫いた小品に驚くべき立派な畫がある。彼は又カザルニと共に當時の石版畫家として勝れてゐた。

ドラクロア (Eugene Delacroix)

(一七八九—一八六三)

佛蘭西の畫家。ゲフランの門下より出で、古典派に反抗して立ち、遂に浪漫派の基礎を置いた、佛蘭西畫界に於ける浪漫派の代表者である。奔放な想像力をもつて「ダントの渡し舟」「シオの虐殺」等を畫き、名聲を博した。

トルストイ (Leo Tolstoy)

(一八一八—一九一〇)

露西亞の作家、宗教家、近代文藝界、思想界に於て、たゞに露西亞のみならず世界的の巨人である。其作品は近代文學の雄篇と稱せられ、非常な影響を與えた。

彼の三大傑作「戦争と平和」「安娜・カレーニア」「復活」を始め、その他長篇短篇數ふるに違なく、量に於ても近代文學第一位の作家である。彼の一生は肉から靈への、求道の苦闘の生涯であつたが、五十才頃人生問題に疑問を起し、一大轉起を作つた。即ち其解決をイエスの福音書に發見し、原始基督教の信仰を表白したのである。「我が懺悔」は此の苦闘の發表で、彼は無抵抗主義、無財産主義、汎労働主義、同胞主義を叫んで、宗教家、又社會改良家として活動した。晩年彼の生活を徹底せしめんため家出し、途中の一驛で逝くなつた。時に八十二才であつた。

ナ

ナドソン (Bernen Nadson)

(一八六二—一八八七)

露西亞の詩人である。一生を薄幸の裡に暮し憂鬱懷疑の詩人で、人生の意義を否定し、沈痛な反抗の叫びを上げた、バイロン、バイネ等に比較される詩人である。其詩には快いメロデーと、優しい言葉と、可憐な情緒に、人を魅するものがある。

建設すべしと云ふのである。著作の代表的なものに「ツアラトウストラ」がある。その他「反キリスト」「道徳の系譜」「黎明」「悲劇の發生」等が最も有名なものである。

ニ

ニイチエ (Friedrich Nietzsche)

(一八四四—一九〇〇)

獨逸の哲學者であり、詩人である。シヨメンハウエル厭世哲學より出で、超人主義を唱へ、近代の詩人的哲學者である。シヨメンハウエルの意志滅滅説より一轉し、權力意志を唱へ、基督教道徳を奴隷道徳となして、君主道徳を唱へ、極端な個人主義哲學を樹立した人である。其根本思想は似而非文明を破壊して、新文明を

ノヴァリス (Novalis)

(一七七一—一八〇一)

獨逸の詩人で、本名をハルデンメルヒと云ふ。獨逸浪漫派の天才詩人である。「ハインリヒ・フォン・オフ・テルディングゲン」と題する傑作小説、拾三篇の「讚美歌」「夜の讚美歌」、未完の長篇小説「ザイスの教子」等、其他多くの抒情詩がある。

藝術家略傳

ハ

ハアデー (Thomas Hardy)

(一八四〇—)

英國の自然主義の大家で、メレテス及セームスと共に近代の三大作家と稱せられる。地方色を寫すに長じ、好んでウエセックスの自然田園生活を描き、人と自然とを分つことの出来ない一つの有機體と見た所に、他の追従を許さぬ點がある。又遺傳と環境の不可抗力を主張し、深刻な運命觀に基く、厭世主義を以て全作を蔽ふ。「テス」「ジュウウド」「人生の小反語」「土人の歸來」等は、最も有名な作品である。

ハイゼ (Paul Heise)

(一八三〇—一九一四)

獨逸の作家である。彼はミュヘン詩社の領袖となり、

多方面に亘つて藝術的才能を有する作家である。とりわけ小説家として有名である。「ララピアツタ」は殊に彼の名を重からしめた作である。長篇「世界の子供」、戯曲「エリザット・シヤロツテ」「バイエル」「マゲダラのマリヤ」等があり、他に詩作も少なくない。一九一〇年ノーベル賞金を贈られた。

ハイドン (Franz Joseph Haydn)

(一七三二—一八〇九)

獨逸の音楽家。下埃太利に生れ、幼よりして音楽の才能を表し、長じて樂長となり歌劇、神劇、シンフォニー、其他の器楽曲などの作曲に従つた。彼は倫敦に至り大歡迎を受けた。神劇「天地創造」「四季」は彼が一代の傑作である。

ハイネ (Heinrich Heine)

(一七九七—一八五六)

獨逸の詩人である。ゲーテに次ぐ天才的抒情詩人で、殊に其詩の感情の甘美、情趣の嬌美なる點 於て、古今稀に見る天才であつた。「小歌集」「インテルメツツオ」「北海の歌」「アツタ・トロル」「ロマンツイロ」等

の諸作がある。彼は多情多恨の詩人で、よく泣きよく嘆息したが、一面機智に富み、皮肉犀利な觀察を有つて居た。又自由を愛し、革命的精神に燃えた詩人で、近代的傾向を多量に有してゐた。其詩は平易眞率で、短かい句の中に人生の哀憂と、戀愛の苦悶をよく歌つてゐる。

バイロン (George Gordon Byron)

(一七八八—一八二四)

英國の詩人である。詩壇に於てはナポレオンにも比すべく、其名聲は一時全歐を風靡して、大きな感化を與へた。革命的な詩人で彼の如き性情、奔馬の如き行動は、文學史上稀に見る所で、彼を呼ぶに「力」と「美」の詩人といふ。自由の念に強く極端な革命思想を有つてゐたので、故國に容れられず、長く他國に流寓してゐた。後希臘獨立運動のため、軍隊に身を投じて戦ひ、總督にまで任ぜられたが、病を得て客死した。「チャイルド・ハロルド」「ドン・ファン」「マンフレッド」「海賊」「ケエン」「カイン」等は、特に著名な作品である。

ハウプトマン (Gerhart Hauptmann)

藝術家略傳

(一八六二—)

獨逸の劇作家で、近代の獨逸文壇を代表する世界的文豪である。當時の自然主義風潮に乗じて、自然主義的戯曲「日の出前」を出したのは、彼が二十七歳の時であつた。それが柏林の自由劇場に上演されると共に、彼の名は獨逸文壇に轟いた。それから「平和祭」「寂しき人々」「職工」等の作品を出し、以後象徴主義に轉じ「ハンネレの昇天」「フロリアン・ガイエル」「沈鐘」等を出してピツハは踊る」等の諸作を出して、遂に劇壇の巨匠と仰がれるに至つた。彼が影響を最もよく受けたのはイアセンで、其後繼者と稱された事のある程である。小説には「踏切番チイル」「使徒」「基督狂」「アトランテイス」等、及感想録「ギリシヤの春」等がある。

馬 (曲亭馬琴 一七六七—一八四八)

姓を瀧澤と稱し明和年間の生である。始め山東京傳の門下で、作家の生涯に入つた。四拾七歳の時有名な長篇「南總里見八犬傳」の第一輯を出し、其後廿八年間を費し、失明後になつて通卷九輯百六冊に及ぶ畢生の大作を完成した。其他の著作に「弓張月」「水滸傳」「美

少年録」等他二百餘種もある。

バザン (ルネ) (Beno Jazan)
(一八五三——)

佛蘭西に於て、田園作家郷土藝術家として第一人者である。彼の特徴とも云ふべきは、穩健なる筆で人情の美を描く點にある。著作の主なるものに、「地方より」「インキのしみ」「青き鴨」「コランチン夫人」「叔母シロン」「ドナチエンヌ」「夢の芽」等がある。

芭蕉 (松尾芭蕉 一六四四——一六九四)

日本の産出した最も偉大な詩人の一人である。幼時藤堂良忠の小姓となつたが、良忠は俳人北村季吟の門人で、號を蟬吟と云つた。幼い彼の詩眼を開いたのは此人であつた。兩人は極めて親密であつたが、間もなく蟬吟は死んだ。蟬吟の死を轉期として、彼は俳人の素因が作られたと云ふ。

江戸深川の芭蕉庵に居を定め、後諸國を遍歴し靜寂の中に多くの名句を作つた。「武藏曲」「野晒紀行」「初懐紙」「春の日」等其の作品である。有名な「古池や蛙とび込む木の音」は「春の日」に收められてある。其他に其

角篇の「虚栗」「續虚栗」「鹿島紀行」「笈の小文」「更科紀行」「曠野」「魚の細足」「幻住庵紀」「嵯峨日記」等がある。

バッハ (Johann Sebastian Bach)
(一六八五——一七五〇)

獨逸の音楽家。アイゼナツハに生れ、幼時より音楽的教養を受け、後アンハルト侯の樂長としてケエテンに行き、又ライツプツヒに行きトマス學校の樂長として終生其職に居た。彼の作品は聲器樂を通じて極めて澤山ある。「馬太受難曲」は聲樂曲として「平均率洋琴曲」「英國風及佛國風スウイト」等其の最も代表的な傑作である。彼の音楽には宗教的熱誠に溢れ、其の感情の深奥にして廣潤なる、聴くものをして感激せしめねばやまない。

パデレウスキイ (Ignaz Jan Paderewsky)
(一八六〇——)

波蘭の音楽家。氏は當代に於ける第一流のピアノリストとして最もよく知られてゐるが、作曲にも數種の名曲を出してゐる。中にも作品第拾四の「ミエツト」、同じく第拾九の「ファンタジイ・ポロネエズ」、歌劇「マン

ル」等代表的なものである。彼は又、此度の大戦の結果波蘭が獨立するに及んで同國の大統領となつた。蓋し波蘭獨立に對する氏の貢獻は著しいものであつたと云ふ。

パピニー (Giovanni Papini)
(一八八一——)

伊太利の作家、批評家である。伊太利批評界に於ける新人として、又未來派の文學者として、現文壇にてダモンチオに繼ぐ文士である。早くから其天才を示し、著作に従事して多數の論文を收めた著書に拾卷餘も出した。彼は詩にも小説にも筆を染めたが、最も得意とする處は、毒舌的の評論である。彼は極端な虛無主義者、無政府主義者、又厭世論者であつたが、最近に有名な「基督の生涯」を著して、基督教への強い信仰を表した。著書の有名なものに「二拾四の心」「或男の生涯」等があるが、彼の名を世界的ならしめたものは「基督の生涯」である。

ハムスン (Knut Hamsun)
(一八六〇——)

藝術家略傳

諾威文壇の代表的作家である。農夫の子に生れ、久しく北米の地に流遇し、具さに人生の辛酸を嘗めた。労働者、新聞記者等になつてゐたが、其日のパンに追はれながら、安下宿屋の一室で、過去の悲惨な生活に材を取り、「飢」と云ふ深刻な作品を出して、彼の文名は忽ちに上つた。續いて長短篇を多く出したが、作品を出す毎に文名は擧がり、一九二〇年にノーベル賞金を贈られた。「皮層地」「牧羊神」「モスライス」「最後の喜び」「時代の子等」「大地の成長」等は、有名な作である。彼の作品は本國よりも、寧ろ露西亞獨逸で愛讀された。

バラキレフ (Mily Alexievich Balakireff)
(一八三六——一九一〇)

露西亞の音楽家。「五人の國民音楽家」と稱せられる一人で、ロシア國民樂の創立に努力した音楽家である。彼は其の音楽の基礎を郷土の民謡、民樂におき、その研究を本として作曲した。代表的な作品に、交響樂詩では「露西亞」「タマアル」ピアノ曲では「イスラメイ」等がある。

藝術家略傳

バルザック (Honore de Balzac)

(一七九九—一八五〇)

佛蘭西の寫實派の祖となつた作家である。青年時代から文學に志し、數篇の小説を書いたが、何れも失敗し再び出版業を始め創作に従事したが、又もや失敗し遂に莫大な負債をつくつた。然し猶も努力を続け、二十餘年の月日を費して、浩翰な一大創作集「人間喜劇」を完成した。その中特に傑作したのは「ベエル・ゴリオ」「ユウゼニニ・グラランド」等である。極めて精細な描寫と忠實な解剖を以て、巴里生活を中心に人間種々の相を描いたものである。

ハルトレーベン (Otto Erich Hartleben)

(一八六四—一九〇五)

獨逸文壇最近の作家である。初期の作に喜劇「アンジエール」がある。(婦人を輕侮せよ)と云ふ句を標語にしたもので、彼の戯曲全部はこれを種々に變化させたものに過ぎないと云ふ。喜劇「ハンナ・ヤーゲルト」「結婚教育」「眞の善人」、悲劇「善後の月曜日」、小説には「挽たげボタンの話」「愛相よき牧師」等の作品が

ある。

ハルツ (Max Halbe)

(一八六五—)

獨逸の劇作家である。ハウプトマン及びズウデルマン以後の獨逸劇壇に、最も頭角を現はした作家である。彼は廿四才の時、悲劇「成金」と題する戯曲を出して文學的生活に入り、四年後、一代の傑作「青春」を著すが、彼の名は忽ちに擧つた。以後多くの作品を著したが、「流」が最も有名である。小説には「メセック夫人」「生命の指環」等がある。自然主義の影響を受けた作家とはいへ、彼の感情は餘りに温かで、抒情的であると云はれてゐる。殊に彼は郷土色を現はすに巧みであつた。

バルマ・ヴェツキオ (Palma Veekio)

(一四八〇—一五二八)

ヴェニススの畫家、ゾオグニ・ペリニを師とし、豊富な女性の形と華麗な衣の描寫は其の畫の特色であつた。拾六世紀のヴェニススの畫は、彼れによつて其の發達の頂點に達した。獨逸ドレスデン畫堂には彼の傑作が多

くある。

パレス (モーリス) (Maurice Paries)

(一八六二—一九二三)

佛蘭西の作家、詩人である。始め極端な個人主義を主張し、懷疑的享樂的思想を有してゐたが、後ち郷國、民族、傳統を尊重し、國家主義者民族主義となり、政治上及文學上にまで其主義を宣傳した。數多の著作中「インキの痕」「パリーのラテン街」「蠻人の眼」「自由の人」「唯我の教理」「血と歡樂と死」「故郷を捨てた人々」等は著名である。

バーン・ジョーンズ (Edward Burne-Jones)

(一八三三—一八九八)

英國の畫家。ロセツチに師事し、又モリス、アラウン、ラスキン等の感化を受けた畫家で、油畫、水彩畫、ステインド・グラス等の作に従事した。ラファエロ前派の畫家としてロセツチと相對し、中世趣味の其作に神秘的匂ひが豊かである。

バーンス (Robert Burns)

(一七五九—一七九六)

藝術家略傳

蘇格蘭の田園詩人である。貧しい農家に生れて、貧困と戦ひ働きつゝ、蘇國の古語を研究し、遂に詩人として名聲を得るに至つた。「タム・オ・シカンター」「野鼠」「さらばメリー」等は、傑作中の有名なものである。彼はスコツチ・ライフを世界に紹介せる詩人として、其作品は普く愛誦せられた。

ハント (ホムヤン) (William Holman Hunt)

(一八二七—一九一〇)

英國の畫家。ロセツチ、ミレーと共にラファエロ前派の中心人物で、自然を重んじ、ラファエロ以前の諸家の質實に復歸しようとした。彼の畫は畫術の自由に乏しいが宗教的熱情の溢れた畫を書いた。彼の名高い名畫「世界の燈」は一代の傑作である。

バンヤン (John Bunyan)

(一六二八—一六八八)

英國の宗教小説家。鑄掛屋の子に生れ、青年時代は恐ろしい無賴漢であつたが、幡然悟るところあつて浸禮教會に改宗し熱烈なる清教徒となつた。彼は異宗徒のかどにより二拾年間も獄に在つた。此間に出來たのが

藝術家略傳

名高い「天路歷程」である。次いで「恩寵あふるるの記」「聖戦」等の宗教的作品を出した。「天路歷程」はミルトンの「失樂園」と相並んで稱せられる拾七世紀宗教文學の二名作である。

ヒ

ピカソ (Pablo Picasso)

(一八八一—)

西班牙の畫家。併し巴里に住んでゐるので巴里の畫家とされてゐる。印象派に就て學んだが自己 歩まんとする道を發見し得ず、又蠻民の藝術を究め、物自體の實質な體積と、其力とを表現する所謂立體主義に傾いた。そして最近單なる自然物の再現を無視し幾何學的になつて來た。彼は立體派の祖と目されてゐる。

ピサロー (Jasaro Camille)

(一八三〇—一九〇三)

佛蘭西の畫家。彼はコロロに私淑し又マネー、モネー

等と相知り、其等の畫家の感化を受けた。彼は好んで種々な田園風景等を取扱つた。「オペラ街」「ルアン寺」「セイメ河」など其名作である。

ビゼエ (Georges Bizet)

(一八三八—一八七五)

佛蘭西の歌劇作者。幼よりして樂才を現はし、羅馬大賞を受け三ヶ年伊太利に留學した。歸國後數種の歌劇を書いたが餘り成功しなかつた。しかし最後に彼の傑作「カルメン」を出すに及んで彼の名は一躍世界的となつた。其後間もなく年僅か三拾七歳で永眠した。

ビヨルソン (Bjornstjerne Bjornson)

(一八三二—一九一〇)

諾威の劇作家で、イアセンと並んで諾威の二大作家と稱せられる人である。然しイアセンが世界のイアセンであるに反し、彼は國民的作家と云はれてゐる。處女作「戦争の相聞」を出して以來、彼の作は可なり多い。「アルネ」「フルダ」「ジゲルド亞王」「社會喜劇」「新夫婦」小説「漁夫の娘」「結婚のマーチ」「社會劇」「破産」「新制度」、晩年の作に「若キ葡萄の花咲く頃」等がある。

る。

ヒルシュフェルト (Georg Hirschfeld)

(一八七三—)

獨逸の劇作家で、自然主義劇作家中、最もよくハウプトマンに似てゐるため、小ハウプトマンとまで稱せられた人である。アリケートな性格で、鋭い感受性と觀察力に富み、抒情的な氣分劇を作るに妙を得てゐた。其出世作は「母親」で、後話劇「光明への道」、又最も成功したと云はれる「同樓」、悲劇「第二の生活」等を出した。戯曲の外に拾數篇の小説を出したが、就中「惡魔クライスト」は有名である。

フ

フィデアス (Phidias)

(前五〇〇—四三三)

藝術學略傳

希臘の彫刻家。古代希臘第一の藝術家。アルゴスのアゲラダスに學びドリス、イオンの兩派の長處を併せ希臘彫刻を大成した。ペリクレスの顧問となつて、アテネの裝飾を掌り、パルテノン殿堂を經營し多くの神像を作り、又晩年オリンピアのセウスの巨像を作つた。希臘黃金時代の美術界の霸王として大きな影響を與へた。

プウシキン (Alexandre Pushkin)

(一七九九—一八三七)

露西亞の作家で、近代露西亞文學の創始者とも云ふべき、國民詩人である。當時フランス文學の模倣を以て満足してゐた露西亞文壇に彼は自己獨特の境地を開き、露西亞文壇の先覺として明星の如く輝いてゐた。韻文小説「オネエギン」叙事詩「ルスランとリュウドミラ」「カツクスの囚人」、小説「大尉の娘」戯曲「ボリス・ゴツツフ」等は有名な著書である。其豊かな天分を以て、國民的感情を表白した。公使某の息と、作中のモデルの事により、決闘を餘義なくされ、其手に斃れた。時に年僅か三拾八歳。

ブルジョエ (Paul Bourget)

(一八五二——一九二二)

佛蘭西の作家、批評家である。初め詩人として立ち、次で散文に進み行き、多くの小説、詩集、論文を出した。文藝批評に「現代心理論集」二冊を出した。これは現代有名な作家の研究である。小説では数多くある中「弟子」の一篇最も名高く、フランス拾九世紀思想史に、一時期を劃したと稱せられる。作品の題材は主として上流社會に取り、分析家、解剖家の態度で描寫したものである。

フオオレ (Gabriel Urbain Fauré)

(一八四五——一九〇五)

佛蘭西の音楽家。其名高き作品に交響樂「魔神の合唱」鎮魂歌「ベエメスの誕生」、ヴェルレエムの詩につけた「よき歌」劇的音樂としてはメエテレルリグの「ペレアとメリサンド」につけたもの等である。其作曲は多方面に亘つてゐるが最も傑出してゐるものは歌謡曲である。象徴的な、夢幻的な中に一種の物悲しさを有し非常に美しい。デビュシイと相並んで現代最高の歌

謡曲の作者である。

フオカツアロ (Antonio Fogazzaro)

(一八四二——一九一一)

伊太利の詩人、小説家である。ダモンチオが極端なる異教主義の代表者たるに對し、彼は極端なヘブライ主義の代表者で、伊太利文壇に於ける理想派の泰斗である。彼は飽まで信仰的で、近代の唯物主義に對抗してゐる。有名な三部作「昔の小世界」「今日の小世界」「聖者」は、彼の名聲を世界的に高めた。他に抒情詩集「ブルソング」、小説「コルチス」「詩人の秘蹟」「レイラ」等がある。

蕪村 (謝蕪村 一七一六——一七八三)

徳川時代に於ける俳諧及文人畫の大家。攝津國に生れ江戸に赴いて、早野巴人に俳諧を學び、後京都に住んで畫と俳諧をもつて世にあらはる。彼は俳諧に於て芭蕉以後の腐敗を一掃し、清新な格調を起し又繪畫に於ては漢畫を興して陳腐な土佐、狩野に顔色なからしめた。

二葉亭四迷 (長谷川辰之助 一八六四——一九〇九)

本姓を長谷川辰之助と云ひ、元治元年江戸に生れた。

外國語學校に入學してロシア文學を研究し、ツルゲーネフ、ゴーリキー、其他の翻譯を公にした。特に「あひびき」「めぐりあひ」は名翻譯と稱せられる。創作は「浮雲」を始め「其面影」「平凡」等の名作を出した。後年ロシアに渡航し、其歸途客死した。創作及翻譯は「二葉亭全集」三卷に收められてゐる。

ブッチニ (Giacomo Puccini)

(一八五八——)

伊太利の歌劇作者。現今彼國に於ける最大の歌劇作者であり、同時に世界に於て獨のシエトラウスと相並んで最大の歌劇作者である。「マノン・レスコー」によりて大喝采を博し、名高い傑作「トスカ」が現はれるに及んで彼の名は一躍世界的となつた。續いて「お蝶夫人」を出し東洋風な音樂を取入れ、エキンテイクの感じを出すことに成功した。彼の音樂は全く伊太利の美に満ち、しかも新味に満ち、感傷的な一種人を引き付ける魅力有してゐる。

ブラアムス (Johannes Brahms)

藝術家略傳

(一八三三——一八九七)

獨逸の音楽家。ベエトヴェン以来、獨逸に於ける最高な作曲家の一人である。傑作「獨逸鎮魂曲」を出して有名になり、聲器樂兩方面に亘つて深山の傑作を出した。四つの交響曲、ピアノ・コンツェルト、其他は最も有名なものである。彼は當時の風潮に反し、嚴格に形式を守つた古典的作家であつた。

ブラウニング (Robert Browning)

(一八一二——一八八九)

英國の詩人。幼よりして詩才を現し廿二才の時處女作「ボウライン」を出したが彼が世に認められたのは其の晩年であつた。一代の大作「指環と書物」は彼の文名を定めた作である。其詩に晦澁の點の多いのは其の特色であるが、又其の思想の深遠なること他の追隨を許されない。外に「男子と女子」其他多くの劇詩がある。

ブラマンテ (Donato Bramante)

(一四四四——一五一四)

伊太利の建築家。復興期の建築家で羅馬派の祖となつた人である。始め繪畫を學んだが後ミラノに行き建築

藝術家略傳

に従事し後羅馬に赴いた。彼の大作は名高いサン・ピエトロ寺の建築で終らずに逝いた。

フランク (Georg August Franck)

(一八二二—一八九〇)

佛蘭西の音楽家。佛蘭西に於ける現代樂の基礎を作つた人である。其作品中最も著名なものは合唱附交響樂詩「福祉」歌劇「ウルダ」神劇「贖罪」ピアノ合奏曲「悪魔」等其の最も高名なものである。其の音楽はパッサカの複音楽を基礎として成立してゐるが、樂風は極めて美しく、且つ神秘的で詩的内容に富んでゐる。

ブランデス (Georg Brandes)

(一八四二—)

丁抹の批評家である。テーム以来の最大なる批評家と云はれ、現代評論界の權威とされる人である。智識の該博、見識の高邁、批評の透徹、文章の優れたる、殊に科學批評と鑑賞批評との、長所を合せた點など、他の追隨を許さぬ所がある。一生の大著は歐洲文學の比較研究たる「十九世紀文學の主潮」六卷で、其他「露國印象記」「波蘭印象記」「沙翁研究」「人物と作品」

「美學研究」「イアセン及ビヨルンソン論」「デンマルクの詩人」「ベルリン」等がある。彼は又非常に露國を愛した人で、其著「露國印象記」は有名なものである。

フランクス (Antole France)

(一八四四—一九二四)

佛蘭西の作家であり批評家である。本名をアナトール・フランソワ・チボルと云ふ。ヴェルレーヌ等と共に高踏派の詩人として文學的生涯を始め、後小説に筆を染め其作は頗る多い。「タイス」「シルベストル・ボナールの罪」「ペドック女王の料理店」「紅百合」「白き石」「ベングイン島」等は最も著名なるものである。其等の作品はすべて彼の古典に對する深い造詣と、縦横の機智と、廣大な想像力とを遺憾なく示してゐる。一九二一年ノーベル賞金を受けた。彼は詩人であり小説家であるとともに、文明批評家であり思想家で、更に熱心な社會主義者である。バルビュスと共にクラテル運動の中心人物として、勇敢な戦士であつた。

ブリユウ (Eugene Briand)

(一八五八—)

現代佛蘭西に於ける代表的な劇作家である。彼は貧しい家に育つたが文筆を志し、二十一歳の時「メルナール・パリツシイ」を出し、三幕喜劇「メナアジユ・ダ

ルチスト」を書いた。自由劇場の主宰者アントアンヌと相識つて、彼を通して今日の名聲を得るに至つた。出世作喜劇「フランシエツト」(三幕物)はアントアンヌの手で上演され、次で「ランゲナルナアジユ」「チエボン家の三人娘」を出して、いよいよその劇的才能を認められ、「ロオア・ルウジ」を出した頃には、早や一流の大家となつてゐた。

プレヴォ (Marceil Prevost)

(一八六二—)

佛蘭西の作家である。アウルジエと同じく心理小説を以て有名である。初めの程は婦人に對して極めて酷な見解を有してゐたが、後年は女性論者となり、婦人間題に筆を向け、精細な觀察を以て女性を解剖した。女性論者としての彼は「フレデリック」「レア」「フランソアーズへの手紙」「モロック夫妻」等に明瞭に現はれてゐる。短篇集「女」「強き女」は代表作で、彼の名を

不朽ならしめた名著である。

ブレーク (William Blake)

(一七五七—一八二七)

英國の詩人、畫家、銅版家を兼ねた神秘思想家である。彼は夢幻を夢みて其を詩及び畫に表はした。其空想と單朴な表現とは彼の特徵であり、又最も重んぜられる所である。生前はほとんど世に認められなかつたが、近代に至り彼の眞價は明かになつた。其の詩は熱烈で且、新清味にみちてゐる。

フロオベル (Gustave Flaubert)

(一八二一—一八八〇)

佛蘭西に於ける自然派小説家の泰斗と稱へられ、其特色を最も鮮かに具有してゐる作家である。冷靜な客觀的態度を持ち、人生の眞を描かんとした。一代の名著「ヴァリー夫人」は、七年の月日を費した作品である。其他「感情的教育」「サラムボオ」「アントアヌの誘惑」「候補者」及「ジュリアン聖者」「ヘロテイアス」「まごころ」の三つの短篇等を出した。一生の間に長短篇合せて拾種には充たないが、何れも一代の名作たるを

藝術家略傳

尖はぬ。彼は一生涯はその眞價を認められず、刺さへ彼の忌憚なき描寫は、道徳上の非難をさへ招いたのであつた。

文 晁 (谷文晁 一七五四—一八四一)

徳川時代の畫家。初め玄對、文麗に就て畫を學び、土佐、狩野の兩風に私淑し又漢畫の大家に就て研究し、遂に和漢を併せ南北を混じて別に一家をなした。其の傑作に「山水」近江石山寺の「石山寺緣起」等ある。



ペーター (Walker Peter)

(一八三九—一八九四)

英國の批評家。青年時代ラスキンの感化を受く。快樂主義的思想を有し、人生の目的は美を追求する快樂にありとし、希臘精神に富める人であつた。伊太利に遊んで美術と人文主義を研究し「文藝復興論」の名作を

出した。外に小説「メリアス・セ・エヒキュリアン」「プラトールとプラトール主義」等の名著あり。印象主義は彼の批評の主義となす所である。其思想は多大な影響を及ぼし、ワイルドなど彼の感化の下に生れた一人である。晩年快樂主義より哲理的基督教主義に移つて行つた。

ベトウヴェン (Ludwig Von Beethoven)

(一七七〇—一八二七)

獨逸の音楽家。幼よりして貧苦の裡に暮したが、飽迄健闘の生涯を送つた意志的な英雄的天才であつた。三拾歳以後全く聾となつたが尙ほ屈せず、幾多の名作を出した。歌劇「フィデアリオ」「熱情ソナータ」「莊嚴彌撒」「第九交響曲」等は彼の作品中最も傑出したものである。其「ピアノ奏鳴樂の中にて名高いのは「月光曲」「ワルドシユタイン」「パアティツク」等の諸曲である。彼は古典音樂の殿將であると同時に浪漫的音樂の最初の人であり、近代音樂の急先鋒と成つたのである。彼以後現代に及ぶ音樂は全く彼の感化の下にあると云ひ得る。實にヴェトウヴェンは獨逸音樂を代表する世界

的音楽家である。

ペテフイ (Alexander Petis)

(一八二三—一八四九)

匈牙利國最大の詩人である。青年時代旅役者として流浪中の詩が、意外の好評を博し、一躍大詩人になつた人で、市民から恰かも王侯の如き禮を以て迎えられると云ふ。彼は政治にも宗教にも囚はれず、彼自らも「果てなき自然の中に生立つた野の花」と云てゐる。革命戦争の時一兵卒として従軍し、自ら「戀のために生きよ、國のために死ねよ」と云つた詞の如く、廿六才を以て此世を去つた。

ベックリン (Arnold Becklin)

(一八二七—一九〇一)

獨逸の畫家。パーセルで生れ、シルマーに就て學んだ。象徴的、空想的な傾向の強いローマンチックな畫家である。其の理想畫は彼自身の内心より來た創造である。「トリトンとネレイド」「波の戯れ」「死の鳥」「樂園」など其の代表作である。又彼の作は文學的意義に富んでゐるので文學者間に愛好される。

ツェル (Friedrich Hebel)

(一八一三—一八六三)

獨逸の詩人であり劇作家である。クライストの後にいで、拾九世紀中葉の、混亂した獨逸劇壇の暗黒時代に、彼獨りば光輝を放つた天才的劇詩人である。その生前は極めて不遇な作家で、晩年漸く認められて來たが、眞價を認められたのは死後、日記及美學的論文の發表せられてからである。そして彼は近代劇の新聞拓者たる事が確證された。處女作「ユーティット」、家庭悲劇「マリヤ・マグナレーナ」「ゲノフエハー」「エルデスとマリアンネ」「アグネス・ベルナウエル」、傳説悲劇「ギイグスと彼の指環」、及北歐傳説を基礎とした大作「ニールンゲン」等がある。人間性の徹底した描寫なる性格劇、熱烈なる性情と想像力は、彼に匹敵する者として、たゞクライストあるのみと云はれてゐる。

ベリンスキー (Vissarion Belinsky)

(一八一〇—一八四八)

露西亞の批評家である。彼は二十四才の時に「拾八世紀以後に於けるロシア文學の考察」を書いて、文壇に

批評家として現はれ、専念露西亞文壇及思想界の先覺者として、誘導に努めた人である。肺病のために三拾八才で此世を去つたが、彼の功績は偉大なるものがあつた。ヘーゲルに私淑し、西歐の思想を説明すると共に、祖國文豪の作品の性質、特徴等を示し、露西亞批評文學に一時期を劃した。アシキン、ゴーゴリー等の眞價を世に示し、ツルゲネーフ、ドストイエフスキー等を紹介したのは彼である。

ベルジノ (Pietro Vannucci Perugino)

(一四四六——一五二四)

伊太利の畫家。ウンブリア派の大家である。有名なラファエロは彼の門より出た。其の作は建築的な結構と豊富な色彩を特徴とする。「處女」「聖兒」「ミハエル」及其の代表作として名高い壁畫「基督マテロに鍵を與ふ」等の作がある。

ベルナルド (Sarah Bernhardt)

(一八四五——)

佛蘭西の女優。巴里に生れ同地で教育され、其の驚くべき天才を發揮した。後英、米、カナダなどに出演し

非常な名聲を博し、一八九九年巴里にてサラ・ベルナルド劇場を開いた。其の最も得意とする割役は「トスカ」「セオドラ」「クレオパトラ」「ハムレット」「エリザベツ女王」「マクベス夫人」等である。晩年リージョン・オヴ・オーナー勳章を受けた。女優として彼の如く成功した人は稀である。ラケル以後の最大なる女優とされ、其の魅力に富んだ人格、驚くべき天才、其の音聲など諸國民の讃辭を吝まない所である。彼女は女優としてより外に畫家、彫刻家として名があり又詩集、小説、戯曲の幾篇かをも出版した。

ベルニニ (Giovanni Lorenzo Bernini)

(一五九八——一六八〇)

伊太利の彫刻家で同時に建築家、畫家を兼ねた多才な美術家である。拾七世紀の伊太利彫刻最大の人で、第二のミケランジェロと崇められてゐた。一生の名作としてローマのサン・マテロ寺院の二重廻廊を残した。

ベルリオズ (Hector Berlioz)

(一八〇三——一八六九)

佛蘭西の音樂家。初め醫學研究の爲大學に入つたが後

音樂學校に轉じ、作曲にて羅馬賞を得、伊太利に留學し、其後巴里に歸り、専ら作曲に従事した。交響曲では「伊太利におけるハロルド」カンタータでは「五月五日」歌劇では「ベンヴェヌット・チエリリニ」合唱附交響曲では「ロメオとジュリエット」「羅馬の謝肉祭」「ファウストの責罰」等其の高名なものである。彼れ自ら叫んで云ふ如く其音樂は熱情の表現、心内の熱火、異常の韻律にして驚異の世界を現はさんとするものである。

ベルリニ (Giovanni Bellini)

(一四二七——一五一六)

伊太利の畫家。ヴェニス派の泰斗である。彼は宗教畫家で其の威嚴と豊麗により宗教畫家中獨特の位地を有する人である。

ベルリニ (Vincenzo Bellini)

(一八〇一——一八三五)

伊太利の歌劇作者。ロッシニ、ドニゼッティと共に伊太利、並びに佛蘭西歌劇に貢献した作曲家である。旋律の美、詩的表現の深奥なる、一種悲哀のこもつた嚴

肅なる気分など其の特徴である。代表作に、彼の最大傑作「ノルマ」を始め「夢遊病者」「清教徒」等ある。
ヘンデル (Georg Friedrich Handel)
(一六八五——一七五九)
獨逸の音樂家。ハルレに生れ、青年時代法律の研究をなしたが、方針を改へ音樂家として立つた。彼は歌劇の製作に従事し、「ネロ」「アルミラ」「エステル」「リナルドオ」等の名作を出した。後英國に移住し、歌劇の製作を中止し、神事劇オットリヤの作曲に全力を傾注するに至つた。そして神事劇によつて不朽の名聲を遺した。「救世主」「アレキサンダー祭」「エジプトに於けるイスラエル」「エフタ」等其の有名なものである。

ホ

ホ — (Edgar Allan Poe)

(一八〇九——一八四九)

米國の詩人であり、小説家で、世界文學史上に最も異色ある天才の一人である。彼は生涯を通じて鬱鬱不遇、情緒の赴くままに放縱無頼の生を送つた詩人で、過度の飲酒と鴉片のため、その上賭博癖で生活は悲惨を極め、遂に一旅舎で最後を遂げた。彼は短篇小説に妙を得「黄金虫」「黒猫」「リウモルグの殺人」「徳利から出た原稿」等の名篇や、詩には「鴉」「アナベル・リイ」散文詩「ユーレカ」等の傑作がある。何れも彼獨特の詩風を有つもので、彼れは佛國のデカタン派、特にポードレエル等に感化を及ぼし、象徴主義、悪魔主義の開祖と云はれてゐる。

ホイットマン (Joris Karl Huysmans)

(一八四八——一九〇九)

佛蘭西の作家である。始めゾラの自然派に屬し、人生の醜惡な暗黒面を忌憚なく描寫してゐたが、間もなく悪魔派の流を追ひ、「逆意」を書き、官能と感覺との一切の慾望を充す人工的天國を夢想し、又其絶望的懷疑的的人生觀は「ラ・バ」其極に達した。後思想上に動搖を

來し、其作を轉期として物質主義より精神的な神秘主義象徴主義に傾き、舊教の信仰に最後の安息所を見出した。前記「ラ・バ」「途上」「大殿堂」は、作中の代表的なもので、其思想の推移を語つてゐる。

ホイットマン (James McNeill Whistler)

(一八三四——一九〇三)

亞米利加の畫家。エラスケス等の影響を受け一種獨特の畫風を拓き近代繪畫に非常に影響を與へた異才である。色彩の巧妙を以つて聞えた「ノクターン」「母の像」「カーライルの肖像」等は其の名作である。其他水彩、パステル、エチング等にもよいものが多い。其著「十時」「造敵術」には彼の講話評論其他が含まれてゐる。

ホイットマン (Walt Whitman)

(一八一九——一八九二)

米國の詩人である。民衆詩人として米國の國民精神を歌ひ、詩壇の一角に獨特の位置を占むべき人である。初め印刷所を兼ねた書店を開き、「草の花」第一輯を自分の手で印刷して發行した。世間では嘲笑したがエマ

ソンは、驚くべき天才だと讃辭を惜まなかつたと云ふ。南北戦争の時二年間餘、看護卒として従軍し、その時の經驗を基礎として「鼓聲」「陣中録」等の傑作を出した。後散文及自傳より成る「自選日記」を書いた。彼は従來の詩形を度外視して、自由に韻律の散文的な詩句を用ゐた。

抱 (酒井抱一 一七四七——一八一四)

光琳派の巨頭として美術史上重要な地位を占むる畫家である。本願寺に入つて剃髮し、抱一上人と稱せらる。

ホエール (Johann Poel)

(一八七二——)

諾威の作家である。彼は青年時代に自活の道を講ぜればならぬ境遇にあつたため、種々なる職業に従事したが、二十三才の頃「母」と云ふ戯曲集と「ヘルカ」と云ふ小説を出して、彼の文壇生活は始まつた。數年を外國に遊び、又放浪生活に時を費したが、一九〇七年以來故國に落着いた。彼の著作には童話集「墓地の門で」「蘆間を渡る風」「白鳥」、戯曲「死の鳥」「大きな飢ゑ」「人生」「世界のおもて」等がある。殊に「大きな飢ゑ」を出して、エンクワル賞を授けられ、今や世界的な名聲を博してゐる。

抱 (月 島村瀧太郎 一八七二——一九一八)

彼は明治四年石見國濱田町に生れた。東京専門學校文科を出て、英獨に學び、歸朝後は同大學の文科主任となり「早稻田文學」を起しなどして、當時勃興して來た自然主義運動のため、甚だ盡す所があつた。彼は又坪内博士が文藝協會を起すや、此爲につとめ、同會解散後は藝術座を創設して、新劇運動のために生涯を捧げた。彼は小説なども書いたが、其本領は文藝批評家として、斯界第一人者たるの觀があつた。著作に「新美辭學」「滯歐文壇」「亂雲集」「近代文藝の研究」を始め泰西近代劇の幾多の翻譯がある。

泡 (岩野泡鳴 一八七三——一九二〇)

彼は明治六年淡路の國洲本に生れた。始め詩作を以て文壇に現はれ、自然主義的表象主義を奉じ「露じも」「夕潮」「悲戀悲歌」「開の杯盤」詩劇「海保技師」等を出し、轉じて小説に走り、「耽溺」「放浪」「發展」「毒藥を飲む女」「斷橋」「馮き物」の五部作を始め、幾多

の短篇を出し、又神秘的半獣主義を唱へて、思想界の一角に雄視した。其他の著作に、論文「神秘的半獣主義」「新自然主義」「悲痛の哲理」、翻譯「表象派の文學運動」「悪魔主義の思想と文藝」等がある。

ホガース (William Hogarth)
(一六九七—一七六四)

英國の畫家。ロンドンに生れ初め彫版師の見習となり、後アカデミーで教育を受けた。最初彫刻家として知られてゐたが、其獨創と當代の因襲的畫風を脱して、眞の英國畫派の開祖として認められるに至つた。彼の最もよくしたのは肖像畫であつた。名高い「當世風の結婚」は彼の作である。

ホーソン (Nathaniel Hawthorne)

(一八〇四—一八六四)

米國の小説家である。清教徒及エマージソン等の、感化を受けること多く、神秘的な人生觀を有つた作家である。彼は永年孤獨の裡に默想の生活を送つた人で、特に人生の暗黒面の眞相に徹し、其巧みな想像力、鋭い心理の解剖、美しい文體と相俟つて、一世に名を成

さしめたのである。その傑作「緋文字」は人生の苦悶を「七破風の家」は罪惡を、「セ・マーブル・ファーン」は絶望を、それ／＼具體的に表はした作とされ、彼の人生に對する根本思想を語る代表作とされてゐる。

ホチチェルリ (Sandro Botticelli)
(一四四七—一五一五)

伊太利の畫家。フロレンス畫派中に在つて最も獨創に富む作家の一人。フィッポ・リッピに學び其畫は熱情と沈鬱とがあり、豊富な又空想的な色彩を其の特色とする。彼は好んで圓形に聖母基督等を畫いたが、其の代表作として「春のアレゴリー」「ヴィナスの誕生」がある。裝飾畫には羅馬法王宮殿シキスト禮拜堂の壁畫が最も名高い。

ボツカチオ (Giovanni Boccaccio)

(一三二三—一三七五)

伊太利の作家で、文藝復興期に於てメトラルカと共に、二大文豪と稱せられた一人である。彼は伊太利に散文の模範を示し、近代小説家の鼻祖となつた人である。數ある著作の中で「デカメロン」が最も名高い。此は

一群の紳士淑女が、交る代る物語る體で、面白い小話百篇を集めたものである。

ポツテル (Paulus Potter)

(一六二五—一六五四)

和蘭の畫家。エンクハウセンに生れ、ウエットに就て學び、後和蘭第一流の動物畫家となつた。特に其の牛は著名である。ヘーグ博物館の牛の畫は世界的な名作である。

ポードレイル (Charles Baudelaire)

(一八二二—一八六六)

佛蘭西の詩壇に於て、ローマン派の殿將であり、惡魔派の創始者である。且つ近代の神秘象徴派の祖と稱せられ、佛蘭西詩人は勿論近代詩人で、彼の感化を蒙らぬものはないと云はれて居る。彼をして一躍大家に列せしめたものは、有名な詩集「惡の華」である。アツシユと鴉片に耽溺し、怪異な幻想に耽り罪惡の中に詩美を求めると、新らしい詩境を拓いたデカダン派の、典型的詩人である。其著作に「惡の華」を始め、「人工的樂園」「散文小詩」「美的異物」及アラン・ポウ

藝術家略傳

の翻譯等がある。殊に「惡の華」は「罪惡の聖書」とまで稱せられ、激烈な反基督教思想、奇異な異國情緒、強い厭世觀と肉感的色彩に充たされ、非常な影響を及ぼした。

ホフマンスタール (Hugovon Hofmannsthal)

(一八七四—)

奧太利の詩人劇作家である。シュニツツレルと共に、「若きウィーン」を代表する作家である。ヘルマン・バルに師事し、象徴主義を奉じてゐたが、後デーメルに呼應して、一派の象徴派兼印象派の代表的詩人となつた。數多の戯曲と詩を著したが、就中「チチヤンの死」「愚人と死」「皇帝と妖姫」「窓の女」「クリステイナ歸國の旅」等は著名である。

ホメーロス (Homer)

(前九〇〇年頃)

希臘の詩人、世界最古の大詩人で、詩人の祖と崇められる。その二大叙事詩「イリアッド」「オデッセイ」は、彼の殘した世界的傑作である。「イリアッド」はトロイ戦争の事蹟を叙し、「オデッセイ」は希臘の勇將、オデ

ツセイの流浪を叙したもので、構想の雄大、事件の複雑、實に驚異すべき内容を持つた、世界最古の文學である。彼は盲者で歌ひつゝ漂泊したと傳へられる。

ホルツ (Hrno Holz)
(一八六五——)

獨逸の詩人であり作家である。彼はシュラーフと共に佛のゴンクール兄弟の如く共同制作を繼げ、新興文壇の曙光となつた人である。初め詩人として立ち、中途藝術學を研究し、徹底自然主義を樹立して、自然派の主張を極端まで遂行し、利那の印象を非常に重んじた。前記シュラーフとの共同作に「ハムレット親爺」「紙で切抜た受難のキリスト」「セーリツチ一家」等がある。後に二人の間に不和を生じてより、各自に單獨の作を出した。

ホルバイン (Hans Holbein)

(一四九八——一五五四)

獨逸の畫家。アウグスブルヒに生れ青年時代兄と共にバーゼルへ行き、町の會堂の壁畫に有名な「髑髏の舞」を畫いた。肖像畫は彼の最も長ずる所で當時最大の肖像畫家であつた。

像畫家であつた。「ノルフオーク侯」「使節」「フミラン公夫人」等はその代表作である。

ボロディン (Alexander Borodin)
(一八三四——一八八七)

露西亞の音樂家。「五人の國民音樂家」の一人として知られてゐる人である。彼の専門は樂學であつたが、音樂家として世界的に名高くなつた。彼の名を世界的にしたのは歌劇「イゴオル公」である。又交響樂詩としては「中央亞細亞の廣野にて」が名高い。

♪

グスタフ・マラー (Gustav Mahler)

(一八六〇——)

奧太利の音樂家。彼の傑れてゐた方面は管絃樂曲である。第一交響樂「タイタン」第二交響樂「夏の朝の夢」

第三交響樂「自然の生活」第五交響樂「巨人交響樂」等其の代表的なものである。其外、獨唱曲「子供の死の歌」「大地の歌」等有名である。其音樂は一種崇高な、清淨な氣に満ちた、併が力強い音樂である。

マイヘルベル (Giacomo Meyerbeer)

(一七九一——一八六四)

獨逸の歌劇作者。初めは伊太利風の歌劇を書いてゐたが、後佛蘭西風の歌劇を書き「惡魔ロバート」を巴里に上演して一躍第一流の作家となつた。「フゲノオト」を出すに及んで彼の名聲は益々高くなつた。其と同時にウイヘルベルム四世より音樂總長に任じられ、伯林に居を定め「預言者」喜歌劇「テイノオラ」等の名作を出した。彼の特徵は結構の壯大なることと卓越せる音樂上の才能と、多様な表現法を有することなどである。

マグダウエル (Edward Macdowell)

(一八六一——一九〇八)

米國の音樂家。彼は今までに亞米利加の生んだ最大の音樂家である。そして其と同時に最近の世界的作曲家

の第一流に位する人である。音詩「ハムレットとオプイリア」組曲「インディアアン・スウィート」ピアノ曲では「森林の寫生」「海の曲」「新英洲の牧歌」奏鳴樂「トラジカ」歌謠曲には「海」「日の出」「美しくき春」等其の作品中代表的なものである。其の音樂の特徵は極めて熱情的で詩美に富み、且つ少しも滯滞せぬ點にある。

マーク・トウェーン (Mark Twain)

(一八三五——一九一〇)

米國の滑稽作家である。本名をサミエル・クレメンズと云ふ。米國に於ける滑稽文學の代表的作家である。彼は其の鋭い觀察眼と、諧謔諷刺に富んだ筆を有ち、「蛙の踊」を始め「赤毛布」「トム・リョアヤ」外多數の作品を出した。彼は社會の偽善を嘲笑し、見聞したあらゆるものを滑稽化し、藝術化する彼の手腕は驚くべきものである。又彼が思索に耽る時、座した事は殆んど稀で、作品は多く歩きながら着想されたと云ふ。

マサッチオ (Tommaso Masciocio)

(一四〇一——一四二八)

伊太利フローレンス派の畫家。拾五世紀繪畫界に一新紀元を劃した大家で、後年畫家に仰がれて近代藝術の父と稱せらるるほどの天才である。殊にラファエロによつて完成された藝術の源は、實に彼の藝術に負ふ所が多い。「樂園を追はるるアダムとイブ」「三位一體」「コンセプション」等彼の傑作である。

正信 (狩野正信)

足利時代の畫家で狩野派の開祖となつた人。伊豆國加茂郡狩野村に住したので、本姓の藤原を狩野と改めた。畫を周文宗湛に學び、天才を發揮し、將軍の近侍となつた。

マスカアニ (Pietro Mascagni)

(一八六三——)

伊太利の歌劇作者。彼が名高くなつたのは、懸賞歌劇の募集に應じて「カザアルレリア・ルステカナ」を書いて當選してからである。彼の名は此により忽ち世界に喧傳され、至る所の都市で此歌劇が上演されるに至つた。其後「友人フリッツ」「イ・ランツアウ」「あやめ」等を發表したが以前の様な成功を見るに至らなかつた。

つた。

マチス (Henri Matisse)

(一八六九——)

佛蘭西の畫家。近代佛畫壇の代表的作家の一人で、後期印象派、表現派の頭領の一人と目されてゐる。彼の繪畫は無心なる原始藝術に還らんとするかの如く、極めて簡約な線條と色彩とを以て描かんとしてゐる。「舞踊」「音楽」等彼の名作である。

マツスネエ (Jules Massenet)

(一八四二——一九一〇)

佛蘭西の歌劇作者。彼が名を知られるに至つたのは宗教的歌劇「マゲダラのマリヤ」「イヅ」である。次いで「エロディアド」「マノン」を出した。「マノン」は其中最も成功したものである。後「タイイス」「ノートル・ダムの手品師」「羅馬」などの名作を残した。彼の音楽は極めて情熱的で、そして旋律、和聲ともに頗る婉美で、感傷的である。

マネー (Edouard Manet)

(一八三三——一八八三)

ミ

ミケランヂロ (Michelangelo)

(一四七五——一五六四)

伊太利の彫刻家。畫家兼建築家。文藝復興期の巨匠たるのみならず、又世界最大の彫刻家である。フローレンスに生れ、初めは畫の研究に従事したが、彼は性質上彫刻に傾いてゐた。「ペテロ像」「モーセ像」「ダビデ像」「奴隸」等の彫刻は威力人を壓せんばかりで、殆んど崇高の域に達し今猶世界の驚異である。繪畫には「最後の審判」其他の名作を遺した。然し彼の本領は彫刻にあつた。なほ建築家として、サン・ピエトロ寺の建築に關り名聲あり、其他詩人としても名高く特に其戀愛を歌へる拾四行詩はダンテ、ペトラルカ等の作と比べらる。彼の藝術はラファエロの優雅に對して剛堅で

マラルメ (Stephane Mallarme)

(一八四二——一八九八)

佛蘭西の畫家。巴里に生れ、グーテュールに就て學び、クールベの寫實主義を繼承し、サロンに拒絶せらるゝこと數回に及んだが、飽くまで健闘し、佛蘭西近代畫界に一大革命を起し印象派の道を開いた。彼は終始人物畫家を以て一貫し「オリンピア」「獅子を獵する人」「ボートの中で」「バルコン」「エヴァ・ゴンザルの像」等の名作を残した。

佛蘭西に於ける象徴派の代表的詩人である。米國の詩人アラン・ポウに感化せられ、ポウの有名な「大鴉」を翻譯出版した。彼が詩人として基礎を固めたのは、此翻譯が與つて大いに力がある。彼は「詩には常に迷語が必要である。名狀することは減すことである。暗示することば創造することである」と語り、其作品に於ては象徴主義の信條を、最もよく嚴守した詩人である。彼の詩は頗る難解とされてゐる。詩集の他に論文集「詩と散文」「彷徨」などの作品がある。

あると稱せらる。

ミユッセ (Alfred de Musset)

(一八一〇—一八五七)

佛蘭西の詩人である。ユウゴオを師とする浪漫派詩人の一人で、「青春の詩人」と稱せられた、眞に天才肌の如く悲痛な雄辯を以て、青春の詠嘆者で、古來彼稀である。小説「世紀兒の告白」「二人の愛人」「白つぐみの話」等、及詩集、戯曲の作品もかなり出した。ジョルジュ・サンドと關係したローマンスを持つた詩人である。

ミルトン (John Milton)

(一六〇八—一六七四)

英國の詩人である。少壯の作に「基督降誕祭の歌」「コーマス」「リシダス」等、立派な作品がある。後年クロムエルの秘書官となつて、清教徒のため大論客として戦つた。その後王政復古して意を得ず、又失明したが彼は時勢の推移を他に、大作「失樂園」拾二巻に心血を注いだ。其思想の雄大、字句の精練せられたる、英

文學史上第一の叙事詩と稱せられ、「神曲」と並んで世界宗教文學の精華と云はれてゐる。六十六才で永眠した。

ミルボウ (Octave Mirbeau)

(一八四八—一九一七)

佛蘭西の作家批評家である。奇警なる批評の筆を振ひ、作家としては辛辣な諷刺の筆を持つた、近代佛文壇の一奇才である。著作の主なるものに戯曲「惡牧童」「滑稽と道徳性」「養育院」、小説「小間使」「神經衰弱者の日記」等がある。

ミレー (Jean Francois Millet)

(一八一四—一八七五)

佛蘭西の畫家。グレザイルに生れ、其生涯の大半をバルビエンの森に送り、其日のパンすら缺く様な赤貧の裡にあつたが、専ら自個身邊の農民の勞働生活を敬虔な感情で描いた。其の作はいづれも文學的興味に豊で光線、色彩、大氣の美に充ち、其の中に單純なしかも眞摯な宗教的感情を躍如たらしめたるどころ、從來の繪畫に見るべからざる一新方面を開き、最も特色ある

畫家とされてゐる。其の傑作に「種蒔く人」「夕の祈禱」「落穂拾ひ」「麥刈る人」等其最も高名なものである。

ミラー (Sir John Everett Millais)

(一八二九—一八九六)

英國の畫家。風景畫、風俗畫、肖像畫、歴史畫等有ゆる方面に長じてゐた畫家である。ロセツチ、ホルマンハントや其他彫刻家詩人等七人と共にラファエロ前派を起した一人である。其運動の及した影響は大きなものである。彼等の標語は「眞實」であつた。其の名高いものに「イサベラ」「オフエリヤ」「安息の處」及カーライル、グラッドストーン、ラスキン、テニソン等の肖像畫である。

ムソルグスキー (Modeste Moussorgsky)

(一八三九—一八八一)

露西亞の音樂家。彼は軍職にあつたが其傍ら音楽を學び、終に國民音樂家の一人となつた。後軍職を辭し、専ら作曲を試みた。彼の名を世界的にならしめた傑作は、歌劇「ボリス・ゴドゥノフ」である。彼は音楽上に於ける自然主義者であつた。其他歌劇「コウエンチナ」「ピアノ曲、合唱曲、歌謡曲」「太陽なくば」「子供部屋」「死人の歌と舞踊」がある。

ムーニエ (Constantin Meunier)

(一八三一—?)

白耳義の彫刻家、畫家。ロダンと並んで拾九世紀の二大彫刻家と稱せられる大家。アリユクセルで生れ、同地の美術學校で學び、後レーエンに教授となつて行き、其地で炭鐵坑夫の生活を見、彼の作に好個の題材を得た。そして坑夫の生活は悉く彼の作品に表現された。其の傑作「勞動」は近代寫實彫刻の記念的製作の一である。彼は最初畫家として立ち、後ロダンの作品に刺戟されて彫刻家となつたのであるが、畫家としても名

ム

聲がある。

紫式部 (一〇〇〇頃)

我國王朝時代の女流作家中最も代表的な人物である。幼少より文才の譽が高かつたが、そのまゝ文學的生涯に入らずして、藤原宣孝に嫁ぎ二女をもうけたが、幸福は長く續かず夫宣孝は、愛妻愛兒を残して長逝した。此に於て此悲歎は積り、「源氏物語」の人生觀となつたのである。此作は其後數年間に成つたものと傳へられる。王朝文學の精華たるのみならず、世界に誇り得る日本文學の名作と云ひ得る。此他彼女の作に「紫式部日記」及和歌等がある。

ムリリヨ (Partlome Esteban Murillo)

(一六一八—一六八〇)

西班牙の畫家。セヴィリアに生れ同地で死んだ。ヴェラスケスに次ぐ、西班牙の大家である。主に宗教畫を畫いた。人爲的な明暗と感情的なる點を以つて、殊に一般の名聲を博した。「清淨受胎」は彼の代表的名畫である。

メーテルリンク (Maurice Maeterlinck)

(一八六二—)

白耳義の詩人、劇作家である。近代神秘主義の代表的思想家で、象徵派の詩人として現はれた。詩集「温室」と戯曲「マレーヌ皇女」を發表したが顧られず、「群盲」「闖入者」を出して漸く文名は高くなつた。後「アラディンとパロミイド」「内部」を書き、有名な「タンダザールの死」「七人の皇女」「ペレアストとメリサンド」「ペアトリス尼」「青髯子」「モンナ・ヴァンナ」「ジョアセル」「マリー・マデレーヌ」「青い鳥」等を出した。彼は外面の事よりも、内部に隠れた真理、宇宙の神秘、抗し難い運命を表はさんとし、所謂静劇、氣分劇の創始者となり、白耳義の沙翁の稱を得るに至つた。此他

一冊の詩集、論文「靈知と運命」「埋れたる宮殿」「貧者の賣」「蜂の生活」等の著作がある。

メリメエ (Prosper Merimee)

(一八〇三—一八七〇)

佛蘭西の作家である。彼は初期浪漫派に屬して、廿一才の時戯曲集「クラブ・ガスールの劇」を出し、文學的生活に入りて後「ラ・シャケリー」「シヤルル九世治世紀」「コロンバ」「マテオ・フアルコン」「二重の錯誤」等を出した。然し彼の名の最も高めたのは「カルメン」の作者としてである。彼の筆の特色は、頗る寫實的な點にある。

メレデイス (George Meredith)

(一八二八—一九〇九)

英國の詩人であり小説家である。鋭利、細密な心理解剖と、奇警、難解な文章を以て聞ゆる、英國近代の最大なる作家である。初めは詩人として立ち、晩年には「近代の戀愛」の如き名篇もあるが、最も力を盡したのは小説で、「エゴイスト」「リチャード・フェヅエラル」「十字街頭のダイアナ」「悲劇的喜劇役者」等は、その

代表的なものである。諷刺譏笑に富み、貴族的風格を帯び、哲學的傾向の顯著な作家である。

メレチニコフスキー (Dmitri Merejukovsky)

(一八六五—)

露西亞の詩人、小説家である。彼は「象徴」「新詩」を出して、詩境に始めて象徵主義を鼓吹し、新機運を作出すに力にあつた人である。彼は又象徵主義を美學的方面のみならず、宗教的見地からも闡明しやふとした。世界的名聲を獲るに至つたのは、「トルストイ及ドストイエフスキー論」及三部小説「神々の死」「背教者ジュリアノ」「神々の復活」「先驅者レオナルド・ダ・ヴィンチ」「反基督」「ピョートルとアレクシス」等の大作のためである。生來神秘的、宗教的傾向の強い作家で、靈肉一致の第三帝國を夢想し、三部小説は其精神を表白したものである。

メンデルゾオン (Felix Mendelssohn)

(一八〇九—一八四七)

獨逸の音楽家。幼よりして驚くべき樂才を現し、晩年には普魯西王國音樂總長となつた獨逸の代表的音楽家

其の傑作に八重奏「眞夏の夜の夢」歌劇「カマヒホオの結婚」「無言歌謡曲」神劇「エリアス」「バウルス」等ある。メンデルソンの樂風は極めて靜穩で貴族的であつた。

モ

モオパッサン (Guy de Maupassant)

(一八五〇—一八九三)

佛蘭西に於て自然派の極致に達したと稱せられる作家である。フロオベルを師とし、三十一歳の時「脂肪の塊」の一篇を書いて、一躍大家の列に加つた。後「女の一生」「美貌の友」「ヒエルとジャン」等の長篇、「ノートル・セール」「イヴエツト」等の短篇、など名作を出し、讀書界の視聽を殆んど一身に集めた。彼は純客觀的な態度で、人生の眞を有のまゝに描き、肉感描寫

をも忌憚なく行つた。文章は簡潔で印象頗る鮮明、特に短篇作家として、稀に見る天才である。
默阿彌 (古河默阿彌 一八一六—一八九三)
彼は文化十三年江戸の日本橋に生れ、通稱吉村新七と云つた。維新前後に於ける劇壇の代表者である。「村井長庵巧破傘」「霜夜鐘十字辻策」「月白浪」等は最も有名な作品である。

モツアルト (Wolfgang Amadeus Mozart)

(一七五六—一七九一)

獨逸の音樂家。幼にして音樂的天才を見せ拾一才にして、歌劇を作り、拾二才にして演奏長に擧げられた。澤山のミサ、絃樂四重奏、交響曲、歌劇等を作り、後年名譽ある帝室作曲家になつた。しかし間もなく僅か三十五才を以て没した。宗教樂として「鎮魂歌」交響曲として「エヒタア・シンフォニー」等其の最も高名な傑作である。

モネー (Claude Monet)

(一八四〇—)

佛蘭西の畫家。印象派の創始者。コロ、ミレー、マ

ネエ等の感化を受け最初は戸外又は屋内の人物畫「カミール」等の如きものを畫いたが、後に専門の風景畫家になつた。彼は全然戸外で仕上げた。而して朝、晝、晩と移り行く光線の現象の再現に其全力を傾注した。そしてセザンヌ、ルノワール等と共に新畫風を立てた。其の傑作に「積葉」「ボブーラ」「テームス川」「ヴェニス諸景」などである。

モリエール (Jean Baptiste Moliere)

(一六二二—一六七三)

佛蘭西の生んだ最大の劇作家たるのみならず彼は、世界劇壇に獨特の地位を占むる偉大な喜劇作家である。初め俳優として立ち、十年間餘り田舎巡りをしてゐたが、後「ル・ツールザー」を書いて好評を博し、「良人學校」「婦人學校」「タルチューフ」、有名な「ドン・ジユアン」を書いた。「厭世家」に至り、彼の天才と精神が充分に發揮されてゐる。他二十一篇の喜劇を書いたが、何れも無比の傑作と賞せられるもので、専ら社會の偽善に對する痛酷な諷刺を主題としてゐる。又最もよく佛蘭西魂を發揮せる作家で、此國の代表的な人で

ある。

師 宣 (菱川師宣)

浮世畫の祖となつた人。安房の人である。幼にして江戸に出で遂に繪師になつた。彼が好んで畫いたのは所謂時世粧で、遊女を寫したものが殊に世人の喝采を博した。當時所謂浮世畫なるものは普通畫家の餘波であつたが、それを劃然たる一派として立てたのは師宣である。彼の傑作に「花街雜劇繪卷」を始め、繪本では「浮世畫すくし」「月次の遊」「和國百女」などである。

門左衛門 (近松門左衛門 一六五三—一七二四)

江戸時代に於ける脚本家の巨擘として、歌舞伎劇の發達に最も功勞のあつた人である。承應二年に長門國の萩に生れ、後京師に上り、當時流行の歌舞伎狂言、淨瑠璃に筆をとつて作者の生活に入つた。始めは歌舞伎芝居都萬太夫座の狂言作者となり、後大阪の竹本座に聘せられて、同座の作者として百數十篇の著作をした。「曾根崎心中」「天の網鳥」「國姓爺合戦」等は最も著名である。

ユ

ユウゴー (Victor Hugo)

(一八〇二—一八八五)

佛蘭西の作家で、近代佛蘭西浪漫主義の最も代表的な人物である。廿八歳の時戯曲「エルニナ」を出し、二百年來佛文壇を領して來た古典主義に挑戦して、近代浪漫主義の勝利を確定し、劇壇に一新紀元を作つた。其後「ノートルダム・デ・パリイ」「レ・ミゼラブル」「九拾三年」等の傑作を出した。彼の名を不朽ならしめた名著は、實に「レ・ミゼラブル」で其結構の雄大、筆力の勁健、文辭の美麗等、たゞに佛文壇のみならず、拾九世紀最大の傑作である。彼は又一方政治界の名士として、共和民主主義の爲に闘ひ、ルイ・ナポレオンのために、國外に放逐された人である。

ユーリピデス (Euripides)

(前四八〇—四〇七)

希臘の悲劇詩人で、エスキラス、ソフォクレスと並び、希臘三大悲劇詩人の一人である。然し彼は他の二者よりも遙かに、思想に於ても、劇に對する見解に於ても進んでゐたと云ふ。彼は時代思潮に先んじて容れられず一生不遇の中に暮した詩人である。其作は九拾二篇ありと傳へられるが、拾七篇のみ残存してゐる。「アンドロマック」「エレクトラ」等の如きは其の著名なものである。

ヨ

ヨークイ (Maurus Tokai)

(一八二五—一九〇四)

匈牙利の作家である。廿一才の時處女作を出し、晩年まで絶えず新作を出して常に讀書界の人氣を一人背

負てゐた人である。幾多の作品中「ハンガリーのナポツプ」「黄金時代」「新地主」「戀の愚者」「黒金剛石」等がある。

ラ

ラゲレフ (Selma Lagerlof)

(一八五八—)

瑞典に於ける近代新浪漫派の、代表的な女流作家である。始め教師であつたが處女作「ゲスタ・ベルリグ」が、雜誌の懸賞小説に當選し、多くの批評家に激賞され、各國語に翻譯せられてより、忽ち世界的作家の列に加つた。其他「エルサレム」「反キリストの奇蹟」「アルネの寶」「ニール河の冒険」「キリストの傳説」等、多くの長篇短篇を出した。何れも浪漫的色彩の著しき作品である。猶彼女がノーベル賞金を得た、唯一の女流作家である。

藝術家略傳

ラシーヌ (Jean Racine)

(一六三九—一六九九)

佛蘭西の劇作家で、コルネーユ、モリエール等と共に、十七世紀佛蘭西劇壇の大立物であつた悲劇作家である。作品には其傑作「アンドロマック」「アリタニクス」等、凡て拾一篇ある。變り易い女の情及慾望などが、彼の得意とする題材であつた。其特色は自然に、忠實に眞を寫した點である。

ラスキン (John Ruskin)

(一八四九—一九〇〇)

英國の美術批評家。牛津大學で繪畫の研究をなし卒業論文として「近代畫家論」第一巻を出し、續いて第五巻を書くに及び完結した。彼は此により繪畫上に於て單に英國のみならず歐洲畫壇に大きな影響を及ぼし新氣運を鼓吹した。彼は繪畫の研究の外別に建築論數篇を出版した。彼は一面詩人であり批評家でありながら更らに一面眞面目な社會改良家として多くの力を傾注した。著作には前記「近代畫家論」を初め「ゴニス」の石「藝術經濟學」「最後のものに」「建築と繪畫」「塵

藝術家略傳

の倫理」等ある。

ラハムニノフ (Sergei Rachmaninoff)

(一八七三—)

露西亞の音楽家。彼の作曲は多方面に涉つてゐるが、其の最も代表的な作品には、管弦楽曲としては幻想曲「巖」交響樂詩「花の鳥」「シプシイ・カブリチオ」歌劇「アレコ」「貪慾なる騎士」等である。彼の音楽は熱情にみち、そして一種の寂しさを持つてゐる。

ラファエロ (Sanzio Raphaello)

(一四八三—一五二〇)

伊太利の畫家。同地文藝復興期に於てダ・ヴィンチ、ミケランジェロと共に三大畫家の一人。初めペルージノ等に就て學び、又ダ・ヴィンチに私淑し多くの影響を受けた。其後彼は多くの天才の作を研究して、其上に自己の偉大な個性を築き上げ、其處に彼の天才を發揮し獨特の畫風を創つた。主として宗教的神話的題材を取扱ひ「聖母の戴冠」「聖母の結婚」「基督の昇天」「サン・シストの聖母像」「復活」其他の傑作を出した。彼は又彫刻家、建築家として幾多の傑作を遺した。

リ

リ | (Jonas Lie)

(一八三三—一九〇八)

諾威の作家である。彼は辯護士として立つた人であるが、その傍ら小説の處女作「幻想家」を出し、彼の文名は始めて擧つた。著作は此外に「ギルエの一家」「水師提督の娘」「トロルド」「追憶録」及詩集等がある。彼は猛烈な女性崇拜家で、その細君諸美は偶像崇拜に近いとまで云はれた。

リスト (Franz Liszt)

(一八一—一八八六)

匈牙利の音楽家。彼は近代ピアノリスト中最も優れた技術を有し、又ペルリオズと共に標題音楽の有力な代表的作家である。彼はピアノリストとして歐洲各地で非常

リユーベンス (Peter Paul Rubens)

(一五七七—一六四〇)

フランドルの畫家。ジューゲンに生れフェーンに就て學び、後其國第一流の畫家となつた。アントハーブ寺院にある「基督降架」は其初期を代表する作品であるが、其後肉感的美と描寫の疾走、色彩の透明華麗と云ふ方へ其の天才は發達して行つた。彼はフランドル畫派に最も大きな影響を與へた畫家の一人である。

ル

ルーソー (Jean J. Rousseau)

(一七一二—一七七八)

佛蘭西の作家であり思想家である。近代の浪漫主義及自然主義の開祖と稱ばれる人で、「自然にかへれ」との叫びを標語とし、文明と共に由て作られた社會の不平

なる喝采を博し天下彼に匹敵するものが一人もなかつた。後ワイマルで宮廷樂師長になり、晩年は修道院長となり宗教樂の作曲に従事した。彼の作品中最も傑れた者は拾二の交響樂詩で、其中最も愛好されるのは「タツソウ」「オルフォイス」「理想」「ダンテ・シンフォニー」等である。

リムスキ・コルサコフ (Nicholas Rimsky-Korsakoff)

(一八四四—一九〇八)

露西亞の音楽家。五人の國民的音楽家の中、最も作品に富み、音楽的才能の潤澤な人である。其傑作に交響樂詩「サドコオ」、歌劇「アスコフの娘」「五月の夜」「雪娘」等ある。彼は多く郷土的材料を用ひて國民的歌劇を作り、ロシア音楽の爲に貢献する所が多かつた。

リリエンクロン (Lilientron)

(一八四四—)

狐逸の詩人で、近代狐逸詩境に一大革命を齎らし、新時代の詩風の基礎を置いた人である。彼は郷土の自然を歌ふ剛健な詩人であつた。叙事詩「ホッケフレンド」詩集「副官騎行」「霜と太陽」、その他小説集がある。

藝術家略傳

等を難じ、因襲に囚はれた我、理性に抑壓された感情を解放して、自然の状態にかへり眞に生ける道を示した、近代文明史上の偉人である。彼の思想は、其著「民約論」に於て自由平等を主張し佛蘭西革命の源をなしてゐた。有名な著書に「村の卜者」「人生不平等論」「新エロイス」、教育小説「エミール」「民約論」「懺悔録」等がある。特に「懺悔録」は最もよく世に知られてゐる。

ルノアル (Auguste Renoir)

(一八四三—一九二〇)

佛蘭西の畫家。リモージュに生れ、幼時より畫を好んで修業を続け、近代佛蘭西畫界の重鎮となつて世界的に認められた人である。彼は印象派中にて人物畫の代表者と目されてゐるが、むしろ外光派の巨頭である。光線と色彩の研究は彼の最も深く積んだ所で、本能的感情の流露する肉の情味を措く事に於て其の特色を有つてゐる。「ガレットの風車」「ボヘミアンズ」「花下の婦人」「グリフホンの浴せる女」等其の著名な傑作である。

ルメイトル (Jules Lemaitre)

(一八五三—一九一四)

佛蘭西の批評家である。彼は詩作にも戯曲にも筆を振つたが、名聲は批評家としての彼にある。アナトール・フランスと同じく、科學批評の形式に囚はれず、獨特の鑑賞眼によつて批評した。著書に「劇の印象」「現代の人々」等がある。殊に後者は鑑賞批評の粹と稱せられる。其他短篇「セレヌス」戯曲「容赦」は作品中の有名なものである。

ルビンシュタイン (Anton Rubinstein)

(一八三〇—一八九五)

露西亞の音樂家。近代ロシアの生んだ最大ピアニストである。ピアニストとして世界を漫遊して多くの喝采を博した。其作品中名高きものは歌劇「悪魔」「マカベエ」等である。神劇としては「パペルの塔」「失樂園」交響曲中では「大洋シンフォニー」等最も傑れてゐる。

ルブラン (Charles Le Brun)

(一六一九—一七九〇)

佛蘭西の畫家。ルイ拾五世の宮廷畫家、ゴブラン工場

長、王立繪畫彫刻學校長などを勤めた當時第一の美術家。ラファエロ、プーサンを崇拜し「歴山王の戦」の如き大作を出した。彼は畫家たるのみならず、室内裝飾家として名高く、ヴェルサイユ宮殿の裝飾をなした。

レ

レオナルド・ダ・ヴィンチ (Leonardo da Vinci)

伊太利の畫家。彫刻家。建築家。ヴィンチに生れ、ヴェロキオの弟子となり、佛蘭西で死んだ。伊太利文藝復興期の精神を代表する、最も偉大な天才で、單に藝術的方面のみならず、科學者、數學者、詩人としても名あり、其の多藝多才は古今に其の類例を見ずと稱せらる。「最後の晩餐」「モナ・リザ」「デ・ジョコンダ」は彼の傑作として又同時に世界で最も偉大な作品の一つとして名高き名畫である。彼の名作は他に「マドン

ナ」「虚榮と謙讓」「復活」「洗禮者ヨハネの首を持つてるサロメ」等がある。

レイノルズ (Sir Joshua Reynolds)

(一七二三—一七七二)

英國の畫家。ハドソンに就て學び後伊太利に遊學した。ロイヤル・アカデミーの創立するや彼は會長となつた。當時の畫壇の頭領となつて立派な肖像畫を出した。

レオンカヴァルロ (Rugiero Leoncavallo)

(一八五八—一九一九)

伊太利の歌劇作者。「道化師」の作者として名高い人である。此は彼の傑作たるのみならず伊太利近代の最も優秀な歌劇の一つである。其後「ラ・ボヘミア」伯林の「ロオラノド」等の作を發表したが「道化師」ほどの成功を見なかつた。

レツシング (Fothold Ephraim Lessing)

(一七二九—一七八一)

獨逸の批評家であり詩人である。獨逸文學をフランス及英國文學の模倣から脱せしめ、獨逸國民文學の基を据へた人である。即ち彼は先づ劇評家として立ち、文

藝術家略傳

壇の傾向を刷新し又他の方面にも權威を持ち、特にかの有名なラオコーン論は、彫刻を論じたる等、批評家としての天才を表はしてゐる。其他獨逸喜劇中の白眉とされる「ミンナ・フォン・バルンヘルム」、純獨逸悲劇の鼻祖とされる「エミリア・カロツチー」及戯曲「賢人ナアタン」等、不朽の光輝を放つてゐる。

レツアラア (Charles Martin Loeffler)

(一八六一—)

佛蘭西の音楽家。アルサスに生れ巴里、柏林に學び、二拾才の時米國に至リヴァイオリン奏者として活動して居たが、今は全く作曲にのみ没頭してゐる。管弦楽曲としては、音詩「タンタザイルの死」、「よき歌」、「惡魔の詩」、「邪教の詩」聲楽曲としては「四種の旋律」、「盧間の風」等代表的な作品である。

レムブランド (Rijn Harmensz Rembrandt)

(一六〇七—一六六九)

和蘭の畫家。彼は和蘭第一の大畫家たるのみならず世界最大の肖像畫家と稱せられる人である。ライデンに生れ、スワネンアルヒ・ラストマン等に學んだ。彼は

明暗を調和する點に於いて驚くべき天才を發揮し、世界美術史に獨特の地位を占めてゐる。又其の感情は表面からでなく、深い内部生命から湧き出たものであつた。彼の名作として「夜番」、「解剖の講義」、「妻サスキアとレンアラント」等である。

レピン (Elias Repine)

(一八四四—)

露西亞の畫家。近代露國畫壇に於て最も重き地位を有する人である。製作の範圍は多方面で歴史、人事、肖像等あらゆる方面に及んでゐる。寫實主義的傾向及び純粹に國民的な點は彼の畫の特徴である。「其子を殺したイヴン兇帝」は其代表的作であるが、トルストイ其他の肖像等に却つて藝術的價値があると云ふ。

レルモントフ (Mikhail Lermontov)

(一八一四—一八四一)

露西亞の詩人、作家である。彼はモスクワの一貴族の子に生れ、陸軍士官となつた。當時既に彼の文名は、その放縱、淫猥な詩によつて知られてゐた。二十三才の時「アウシキンを悼む」と云ふ詩を出したが、それ

に禍ひされて一年餘カウカスに流刑された。其詩の中心は理想對現實の矛盾による歴史的な不満と不安で熱烈の如き感情によつて歌はれたものである。專制治家のロシア人の深刻な叫びである。傑作に「惡魔」、「時代の英雄」悲劇「イスパニヤ人」、「假面舞踏」等がある。作中のモデルの事に關して、決闘をして刺殺された。

ロ

ロオラン (ロマン) (Romain Rolland)

(一八六六—)

佛蘭西の作家、批評家である。現代佛文壇の代表的權威である。所謂新英雄主義を唱へ、思想界の一角に雄視し、平和論者で戦後は内外人より成る「世界主義の勝利を期する聯盟」を組織して、全世界を眞理のため

藝術家略傳

に結合なましめんとの運動を起した、人道的戰將である。彼は作家として名高く、長篇「グルランボオ」、大作「ジヤヌ・クリストファー」を始め、戯曲「ダントン」、論文「民衆劇」、「先驅者」、評傳「ミケランジェロ」、「ミレー」、「ペーロウベン」、「トルストイ」、其他がある。一九一五年ノーベル賞金を受けた。

ロスタン (Edmond Rostand)

(一八六八—一九一八)

佛蘭西の劇作家で、詩想を戯曲に移して成功した人である。其特色は韻文劇にある。有名な「シラノ・ドゥ・ベルジュラツク」は、彼の最大作たるのみならず、拾九世紀に於ける世界の大喜劇と稱せられる。其他「レ・ロマネスク」、「ラ・サマッタン」、「ライグロ」及動物劇「シヤントクレエル」等がある。

ロスメル (Ernst Kosner)

(一八六六—)

獨逸に於て現代文壇の小説家ペーラウと、並稱される女流劇作家である。ハウプトマンの影響を受けて、處女作「我等三人」を出し、續いて「薄明」を著すや、

彼女の文名は忽ちに擧つた。その後童話劇「玉たるべき子供」、ハットマンの「海狸の毛皮」と共に近代喜劇の双壁と稱せられる。「デーラム」、史劇「テミストクレス」、象徴劇「聖母マリア」等がある。彼女はロマンチック情調の豊かな作家である。

ロセツチ (Danle Gabriel Roette)

(一八二八——一八八二)

英國の畫家、詩人。ホルマンハント及びミレーと共にラファエル前派の中心人物。ラファエル以前の伊太利畫家に倣ふべきを説き、中世紀精神の横溢せる畫を出した。油畫水彩畫及墨畫に於ける、色彩空想の豊富は彼獨特の境地である。ダンテに關するものをよく畫題として用ひた。彼は又詩人として拾四行詩に長じ立派な詩を出した。

ロダン (Auguste Rodin)

(一八四〇——一九一七)

佛蘭西の彫刻家。近代のミケランジェロと呼ばれる近代第一の大美術家である。ドナテロ等の影響を受け、自然主義の精神に基く名作を出して、一世を驚かしめ

た。深刻、激烈な感情、奔放なる空想を彫刻に托し、其作り出す物像は常に生き生きして居る。「カレーの市民」「考ふる人」「接吻」「青銅時代」「歩く人」「バルザック像」等いづれも無比の傑作と稱せらる。

ロチ (Henri Toiti)

(一八五〇——一九二二)

佛蘭西の作家である。彼の作ほど廣く讀まれたものは、他の作家に見出さない。彼は海軍々人となりて諸國を航行し、種々な人情風俗を觀察して、彩華な小説を作つた。小説を公にしたのは廿九才の時、多くの作品を出したが特に「守備兵の話」「水鳥の漁夫」「お菊さん」等が有名である。就中「お菊さん」は彼が長崎へ來た時の作で、お菊さんと云ふ婦人の名をそのまゝ冠したものである。

ロツシニ (Giocchino Rossini)

(一七九二——一八六八)

伊太利の歌劇作者。「ダンクレーアイ」を出して樂才の非凡なることを認められ「セヴェリアの理髮師」を上演するに及んで忽ち第一流の作家に入つた。此は伊太利

に於ける最も貴重なる喜歌劇の一つである。其他彼の傑作に「セミライル」「ウイリアム・テル」等がある。

ローデンバッハ (Georges Rodenbach)

(一八五五——一八九八)

白耳義の詩人である。廢都の詩人と稱せられた人で、廢都アルウセに住み、静寂、微光、溜り水、死に行く生命、清き眸、等を好むで詩材に用ゐ、又廢都の中で静寂そのものの如き寺院に興味を持ち、其静かな幽幻さを取入れ、憧憬的氣分を以て歌つた優しい、寂しい詩人である。彼は詩以外に戯曲「ル・ヴォアール」小説「カリイヨメール」、代表的小説と稱ばれる「廢都の鐘」等の著作を出した。

ローペ・デ・ヴェガ (Lope Felix De Vega)

(一五六二——一六三五)

西班牙の劇作家である。カルデロンと共に西班牙國民劇を創設した人である。當代の作家で、彼の残した形式を模倣せぬものはないといふ。早熟な天才で若三の時から劇作に従つた。彼の精力は驚くべきもので、千八百種の正劇、四百種の宗教劇、小説、詩、其他史

傳ソネット數百篇を作つたといふ。現存する劇作品は五百種程である。「外套と劍の劇」が最も有名である。

ロングフエロオ (Henry Wadsworth Longfellow)

(一八〇七——一八八二)

米國の詩人。幼よりして詩才を現はし大學在學中なども詩人たらしむる志望止み難かつたと云ふ。卒業後語學研究の爲歐洲に學び、後ハーバード大學の教授となつた。彼は夙に平民詩人として知られ其の詩風の明快、平淡の中に幽婉な情味がある。著作中、熱烈な少女の愛を歌つた長詩「エヴンセライン」、印度人の傳説を歌つた「ヒアワサ」等最も傑出せるものである。其他「天使のあゆみ」「夜の聲」「港にて歌へる」等も名高い。

ロンドン (Jack London)

(一八七六——一九一六)

米國の小説家である。勞働者より身を起し、社會主義的傾向を帯びた作家で、彼の作品の傾向が、幾分トルストイに似てゐる所から、アメリカン・トルストイと呼ばれてゐる。彼は動物心理の描寫に長じ、世界文壇

に於て彼の右に出づる者なしと云はれてゐる。「娘の子」「野性の呼聲」「アダム以前」「太陽の子」「野の招き」等の特色ある作品を出し、自殺して世を去つた。

ワ

ワイルド (Oscar Wilde)

(一八五四—一九〇〇)

英國の詩人であり又作家である。近代耽美派の代表的人物といはれる。彼の生涯は流石に華やかで、人工的、肉感的、享樂的の傾向を多く有つてゐた。又常に「耽美衣裳」なる華美な服装をして、歩いたと云ふ。彼は美を善惡の批判から超絶せしめ、至上のものとし、非常に矯激した藝術觀、人生觀を有してゐた。男色事件より罪を得て、獄中の人となること二年、その間に書かれた「獄中記」「獄中の歌」は、享樂の徹底境に一つ

の宗教を見たものとして、「第二の聖書」などと稱せられてゐる。所有財産を蕩盡して後は貧に襲はれ、その生涯は、頭痛と、強い酒と、貧と、憔悴の結果、遂にパリーの安下宿屋の二階で、身悶えしながら世を去つた。小説「ドリアン・グレイの肖像畫」、戯曲「サロメ」は代表作として有名なものである。

ワグナー (Richard Wagner)

(一八一三—一八八三)

獨逸の歌劇作者。拾九世紀を通じての最大なる歌劇作者で同時に熱烈な音樂上の革命思想家であり、世界の文藝史は彼にあつて一新時期を劃するに至つた。彼の唱道する綜合藝術は、彼によつて初めて世に現はれ、詩、音樂、繪畫、演技のすべてが彼の手にあつて完全に握手するに至つた。彼の作品は三階段をなしてゐる。一期は浪漫的歌劇、佛歌劇の感化を受けた時代で「リエンチ」などあり、二期は激劇たる生氣に満ちた製作時代で音樂上の形式、和聲等に理論的省察を加へてゐない所謂過渡時代である。「飛びゆく和蘭人」「タンホイザー」「ロオエングリン」等此期の作である。三期は

彼の理想の樂劇が成就した成熟時代で「ニイベルンゲンの指環」「マイステル歌人」「パルシファル」等皆此の時期に屬する。又彼は藝術上の貴重なる論文「藝術と革命」「將來の藝術」「藝術と氣候」「歌劇と正劇」などを發表した。彼の出現後、世界の歌劇は一變し、あらゆる歌劇の作者は悉く彼の影響を受けるに至つた。

ワグナー (Otto Wagner)

(一八四一—)

奧太利の建築家。拾九世紀と廿世紀の過渡期の大家でセセツション美術の開拓者となつた人である。彼は維納にセセツション派が生れんとする時、同市の大停車場を設計し、一躍其派の建築の大家となつた。

ワーズワース (William Wordsworth)

(一七七〇—一八五〇)

英國の詩人である。當時文壇の主張たる擬古派の勢力を一掃し、浪漫主義の新氣運をつくり、引いては自然主義寫實主義の、偉大な先驅をなしたところの、文壇革新詩聖であり、湖畔詩人の代表者である。長い間は不遇と薄倖の歴史であつたが、遂に天才は認められ、

英國文壇最大の名譽を表はす桂冠詩人に擧られた。詩作は随分多いが、畢生の大作としては「逍遙記」「序歌篇」の二篇をあげ得られる。

ワッツ (George Frederick Watts)

(一八一七—一九〇四)

英國の畫家。幼時より肖像と歴史畫に非凡な才能を持つてゐた作家である。彼は又フレスコ畫をよく描いた。後年詩的、象徴的、寓意的な畫題を取扱ひ「信仰」「希望」「愛と人生」「愛と死」及び其の最も價値ありとされる「テニソン像」等の代表作を残した。彼は又英國で裸體畫を描いた殆んど、唯一の畫家である。

ワットー (Antoni Watteau)

(一六八四—一七一七)

佛蘭西の風俗畫家。拾八世紀佛蘭西畫派の代表的作家である。彼の名聲をかち得た作品は清新な、優美な、そして又魅力的な筆をもつて、傳習的な牧夫牧婦や舞踊人や喜劇役者を描いた作である。代表作として「伊太利喜劇役者」「ランディフェラン」「田舎の祭」「愛の島への船出」など著名である。

文藝辭典索引

本索引は文藝辭典の主要語のみの索引で全部
のそれでない。

ア	
アイヴァンホー (Ivanhoe) … 1	アガメンノン (Agamemnon) … ”
アイオ (Io) … ”	アーキレス (Achilles) … ”
アイオニアン畫派 (Ionian Painting school) … ”	悪ノ華 (Des Fleurs du mal) (佛) … ”
アイコノクラスト (Iconoclast) … ”	悪魔派 (Diabolist) … 7
^{アイリス} ^{アウト} 絞 閉 (Iris-out) … 2	悪魔詩派 (Satanic school) … ”
^{アイリス} ^{イン} 絞 閉 (Iris-in) … ”	アクロポリス (Acropolis) … ”
アイーダ (Aida) … ”	アクロチント (Aquatint) … ”
アイル (Aisle) … ”	朝から夜中まで (Uon morgens bis mitternachts) (獨) 8
愛蘭劇 (Irish drama) … 3	アーサー王 (King Arther) … ”
愛蘭音樂 (Irish music) … 4	アシーナ (Athena) … ”
アインフュールング (感情移入 (Einführung) (獨) … ”	校 倉 … 9
青い鳥 (L'Oiseau) (佛) … ”	アダム (Adam) … ”
青い花 (Die blaue blume) (獨) … ”	アタランタ (Atalanta) … ”
アヴェ・マリヤ (Ave Maria) … 5	アチック派 (Attic school) … ”
青騎士派 … ”	アツシシの聖者 (Saint of Assisi) … ”
アカデミー (Academy) … ”	アツシリヤの建築 (Assyrian architecture) … 10
アカデミー・オブ・セント・ルーク (Academy of St. Luke) … ”	アツシリヤの彫刻 (Assyrian sculpture) … ”
アカデミー式建築 (Academic architecture) … ”	アツシリアの繪畫 (Assyrian painting) … ”
アカデミック (Academic) … 6	アツリビユート (Attribute) … ”

アトモスフィア (Atomosphere) 11
 アトロポス (Atoropos) "
 アドニス (Adonis) "
 アドミータス (Admetus) "
 アトラス (Atlas) "
 アナクロニズム (時代錯誤 Anachronism) "
 アナテマ (Anathema) 12
 アネモネ (Anemone) "
 哀れなハインリヒ (Der arme Heinrich) "
 アソルート・ミュージック (絶世音楽 Absolute music) "
 アサント (Absinthe) (佛) "
 油 繪 (Oil painting) 13
 アブリヴェーション (省略記號 Abbreviation) "
 アベ (僧院 Abbey) "
 アポロー (Apollo) "
 アポロ型 (Apollonian) "
 アマチュア (Amateur) "
 アメリカ畫派 (American school of painting) "
 アラビアン・ナイト (Arabian Night) 14
 アラビア裝飾 (Arabian ornament) "
 アラベスク (Arabesque) "
 アリア (Aria) "
 アリアドネ (Ariadne) "
 アリストートルの悲劇に對す

る要求 (Aristotle's requirement for tragedy) 15
 アレクサンドリン (Alexandrine) "
 アルカイツク (Archaic) "
 アルカヂア (Arcadia) "
 アルセスチス (Alcestis) "
 アルファ・オメガ (始・終 Alpha and Omega) "
 アール・ヌーヴォー (新美術 Art Nouveau) (佛) "
 アレゴリー (寓話 Allegory) 16
 暗黒描寫 "
 暗示 (Suggestion) "
 アンセム (聖歌 Anthem) "
 アンドロミーダ (Andromeda) "
 2

イ

イオニヤ・オーダー (Ionian order) 20
 イヴ (Eve) "
 イギリス劇 (English drama) 21
 イギリス畫派 (English school of painting) 23
 イギリス彫刻 (English sculpture) "
 イギリス・ゴシック建築 (English Gothic architecture) 24
 イギリス・ルネサンス建築 (English Renaissance

architecture) "
 イギリス・ロマネスク建築 (English Romanesque architecture) "
 異教主義 (Paganism) 25
 異國情調 (Exotic) "
 イージー・ゴーイング (Easy-going) "
 意識 (Consciousness) "
 イスパニヤ劇 (Spanish drama) "
 イスパニヤ畫派 (Spanish school of painting) 26
 何處へ行く (Quo Vadis) "
 イタリア劇 (Italian drama) "
 イタリア古典樂派 (Italian classic school of music) 28
 イタリアの四詩聖 "
 イタリア・ゴシック建築 (Italian Gothic architecture) "
 イタリア彫刻 (Italian sculpture) "
 異端 (Hetrodox) 29
 一元論 (Monism) "
 一語説 (Single word theory) "
 一人稱 (First person) "
 イツヒ・ドラマ (自己告白劇 Ich-drama) "
 移動舞臺 (Sliding stage) 30
 イブセニズム (Ibsenism) "
 イリアド (Iliad) "
 3

イル・ド・フランス派 (Il de France) "
 色 (Colour) "
 因果 "
 因習 (Convention) 31
 印象 (Impression) "
 印象主義 (Impressionism) "
 印象的自然主義 (Impressive Naturalism) "
 印象の統一 (Unity of impression) 32
 印象描寫 (Impressive description) "
 印象批評 "
 印度劇 (Indian drama) "
 印度希臘式 (India-Greek) 34
 印度建築 (Indian architecture) "
 印度彫刻 (Indian sculpture) "
 引喩法 (Metaphor) 35
 引用法 (Allusion) "
 イワノキツチ (Ivanovitch) "
 4

ウ

ヴァキオリン (Violin) 37
 ヴァリュエ (Value) 38
 ヴァリエーション (變奏曲 Variation) "
 ヴィゴラス (Vigorous) "
 ウエーグアーレー小説叢書 (Warverlay series) "
 ウエーク・フィールドの牧師 (Vicar of Wakefield) 39

ヴェスタ (Vesta) "
 ヴェニス派建築 (Venetian school of architecture) ... "
 ヴェニス畫派 (Venetian school of painting) "
 ヴェニスの商人 (Merchant of Venice)..... "
 ヴォーティシズム (Vorticism) "
 ヴォリュート (Volute) 40
 ウクラニアン畫派 (Ukranian school of painting)..... "
 浮世繪 "
 歌 "
 論 41
 ウパニシアツト(優波尼沙土) "
 海の夫人(Lady from the sea) "
 海への騎士(Riders to the sea) "
 漆 畫 42
 ヴァイオラ (Viola) "
 ヴァキナス (Venus)..... "
 ヴィルヘルム・テル(Wilhelm Tell) "
 ウンブクア畫派 (Unbucan school of painting) 43
 ウンブリヤ畫派 (Unbrian school of painting)..... "

エ

永遠の女性 (Die ewigkeit-weiblich) (獨) 45
 榮華物語 "
 英國樂派 (English school

of music) "
 咏嘆法 (Exclamation) "
 永續的快感説 (Permanential hedonism) "
 埃及音樂 (Egyptian music) .. 46
 埃及の繪畫 (Egyptian painting) "
 埃及彫刻 (Egyptian sculpture)..... "
 埃及建築 (Egyptian architecture)..... 47
 エジューズ (Aegeus) "
 エスキュレーピウス (Aesculapius) "
 エアイボス王 (Edipus the king)..... 48
 繪 所 "
 エトルスクの繪畫 (Etruscan painting) "
 エトルスク彫刻 (Etruscan sculpture) "
 エナメル (Enamel) "
 エピキユリアニズム (Epicurianism) 49
 エピグラム (Epigram)..... "
 エポツク・メーカー (Epock-making) "
 繪 馬 "
 エミール (Emile) (佛) "
 エムメリヤ (Emmelia) 50
 エリサベス式建築 (Elizabethan architecture) "
 エルナニ (Hernani)..... "

エレジイ (輓歌Elegy) "
 演繹法 (Deduction)..... "
 遠近法 (Perspective)..... 51
 演劇的本能 "
 厭世主義 (Pessimism) "

オ

追分繪 53
 オーヴァチュア (Overture) "
 押韻法 54
 オウベルニコ派 "
 オーケストラ (Orchestra) ... "
 嗚呼繪 55
 オスマン建築 (Osman architecture) "
 オセロー (Othello) "
 オーソドツクス (正統派 Orthodox) "
 オーダー (Order) "
 落窪物語 56
 お蝶夫人 (Madame Butterfly) "
 オード (高情曲Ode) "
 オーナメント (裝飾 Ornament) "
 オー・ラップ (二重接續 (Over-lap)) 57
 オブスキュランチズム (非教化主義 Obscurantism)..... "
 オプロモフ (Oblohoff) "
 オペラ (歌劇Opera) "
 オペレッタ (小歌劇 Operetta)..... 58
 オベリスク (方尖塔Obelisk) .. "

オーヴァー (Oboe) "
 大 鏡 "
 黄金時代 (Golden age)..... 59
 黄金律 (Golden rule) "
 黄金率 (Aurea sectio)(拉) ... "
 大津繪 "
 應用美術 (Applied art) "
 オラトリオ (神事劇Oratorio) 60
 オランダ劇 (Dutch drama) ... "
 オランダ畫派 (Dutch school of painting) "
 オリオン (Orion) 61
 オリブ (橄欖樹Olive) "
 オリムパス (Olympus)..... "
 オリンピック・ゲーム (Olympic game) "
 オルガヌム (Organum) "
 オルガン (Organ)..... 62
 オルフオイス (Orpheus)..... "
 オルレアンの少女 "
 オール・コンクール (競争除外 Hors concours) (佛) ... "
 オーレオール (Aureole) "
 オーロラ (Aurora)..... "
 音位律 63
 音 畫 (Klang malerei)(佛) "
 音 樂 (Music) "
 音樂極致論 "
 音 色 (Clang colour)..... 64
 音 數 律 "
 音 性 律 "
 女歌舞伎 "
 音律的藝術 (Rythmical art) 65

温色(Warm colour)..... *
 オアシス(Oasis)..... *
 オカリナ(Ocarina)..... *
カ
 概観(Outline).....66
 外光派(Plain air)..... *
 海戦(Seeschlacht)(獨)..... *
 解剖(Anatomy).....67
 概念(Concept)..... *
 外面描寫..... *
 カヴァルレリア・ルステカナ
 (Cavaleria Rusticana)..... *
 高級象徴(Hoch-symbol)
 (獨).....68
 高級概念(Superordinate
 concept)..... *
 考古學(Archaeology)..... *
 講談社會主義(Socialism of
 chair)..... *
 高踏派(Parnassians).....69
 巧利的藝術觀(Utilitarian
 view of art)..... *
 ・雅歌(Song of Solomon)
 *
 書割(Scene painting)..... *
 樂器(Instruments)..... *
 樂曲の要素及形式.....72
 樂音(Musical tone)..... *
 客觀(Object)..... *
 客觀主義(Objectivism)..... *
 客觀的美學(Objective aes-
 thetics)..... *
 客觀的形式論(Objective for-
 malism).....73
 革新文學(Enlightening litera-
 ture)..... *
 額縁的舞臺..... *
 神樂..... *
 懸詞.....74
 蔭廻し..... *
 春日派..... *
 カセードラル(大伽藍Cath-
 edral)..... *
 カタコーム(Catacomb)..... *
 合唱(Chorus)..... *
 活人畫(Living picture).....75
 カゾラ(髮髮)..... *
 活喩法(Personification)..... *
 家庭小説..... *
 カーツン(下圖Cartoon).....76
 歌舞伎..... *
 狩野派..... *
 カプレット(對句Couplet)..... *
 ガボット(Gavot)..... *
 神の國(Kingdom of God).....77
 假面劇(Mask)..... *
 假面喜劇(Comedy of masks)..... *
 かもめ(The sea gull)..... *
 唐繪..... *
 唐草模様(Foliage).....78
 硝子繪(Glass painting)..... *
 カラマイカ(Kalamaika)..... *
 カラマーゾフの兄弟(Brother
 of Karamazoff)..... *
 カラーリスト(色彩派Colour-

ist)..... *
 カリケチュアー(戲畫
 Caricature).....79
 ガリツク・ベルザアン樂派
 (Gallic Belgian school)..... *
 カルテヤの繪畫(Cardean
 painting)..... *
 カルメン(Carmen)..... *
 カレーの市民(Burger von
 Calais)(獨).....80
 ガロツプ(Galop)..... *
 漢畫..... *
 間劇(Interlude)..... *
 感受性(Sensibility)..... *
 川勝派.....81
 觀照(Contemplation)..... *
 感傷的喜劇(Sentimental
 comedy)..... *
 感傷主義(Sentimentalism)..... *
 鑑賞批評(Appreciative
 criticism).....82
 感情(Feeling)..... *
 感情移入(Einfulhung)(獨)..... *
 感情倒錯(Perversion of
 feeling)..... *
 感情美學(Aesthetics of
 feeling).....83
 カンタータ(Cantata)..... *
 カンタベリー物語(Canterbu-
 ry tales)..... *
 含蓄的(Implicit)..... *
 勸懲小説(Didactic novel)..... *
 觀念小説(Ideal novel)..... *
 鑑別(Discrimination)..... *
 換喩法(Metonymy).....84
キ
 キアロスクリ(Chiaroscuro)
 (伊).....86
 舊約聖書(The old testament)..... *
 機械工(Die weber)(獨).....87
 技巧歌(Art song)..... *
 幾何學的模様(Geometrical
 pattern)..... *
 幾何學派(Geometrist)..... *
 喜歌劇(Comic opera)..... *
 喜劇的舞踊(Comedies bal-
 lets)(佛).....88
 戲曲(Drama)..... *
 記述音樂(Descriptive music)..... *
 記述的科學(Descriptive
 science)..... *
 擬人法(Personification)..... *
 擬聲法(Onomatopoeia)..... *
 奇蹟劇(Miracle play)..... *
 貴族主義(Aristocraticism)..... *
 キター(Guitar).....89
 歸納法(Inductive method)..... *
 規範(Norm)..... *
 羈絆藝術..... *
 氣分象徴(Symbol)..... *
 氣分描寫(Mood).....90
 詭辯派(Sophist)..... *
 ギムナシユーム(Gymnasium)..... *
 狂言..... *
 驚異の復活(Renaissance of

wonder) "

共産主義 (Communism) ... 91

郷土文藝 (Heimatkunst) (獨) "

脚本..... "

キャスト
役割 (Cast) "

キャピタル (柱頭 Capital) "

享樂主義 (Dilletantism) 92

キュービズム (立體主義
Cubism) "

キューピッド (Cupid) "

虛無主義 (Nihilism) "

清元..... "

希臘主義 (Hellenism) 93

希臘音樂 (Greecian music) ... "

希臘繪畫 (Greek painting) ... 94

希臘劇 (Greek drama) 95

希臘建築 (Greek architec-
ture) 96

希臘彫刻 (Greek sculpture) 97

ギルド・ソシアリズム (Guild
socialism) "

均衡 (Balance) 98

近代人 (The modern) "

近代精神 (Modern spirit) ... "

金字塔 (Pyramid) 99

禁慾主義 (Asceticism) "

ク

寓意小説 (Allegorical nov-
el) 100

空間藝術 (Raumkunst) (獨) ... "

偶像破壊 (Iconoclasm) "

具象藝術 101

具象美 (Concrete beauty) "

具象理想説 (Concrete ideal-
ism) "

句讀法 (Punctuation) "

句拘子 "

クライマックス (Climax) "

クラシック (Classic) 102

クラブ・キャリヤー (Club
carrier) "

クリスマス (Christmas) "

グレース (The graces) "

クラリネット (Clarinet) "

クロソー (Clotho) "

クロツキイ (Cloquis) (佛) "

グロテスク (Grotesque) ... 103

懐疑論 (Scepticism) "

廻轉舞臺 (Revolving stage) ... "

過渡期 (Transition period) "

繪畫 (Painting) "

繪畫の起原 (Origin of paint-
ing) 104

繪畫の種類 (Classification
of painting) "

繪畫的見方 (Picturesque
point of view) "

快樂説 (Hedonism) "

皇帝とガリラヤ人 (Emperor
and Galilaean) "

皇帝の爲の生命 (Life for the
Cyzar) 105

科學的批評 (Scientific criti-
cism) "

科學の破産 (Banquieroute de

la science) (佛) "

科學萬能主義 105

回教建築 (Mohamedan archi-
tecture) 106

光琳派 "

化成法 "

官能の交錯 (Transposition of
sense) "

ケ

桂冠詩宗 (Poet Loureate) ... 109

警句法 (Epigram) "

形式法則 (Formal law) "

形式美學 (Formal aesthetics) "

藝術 (Art) "

藝術學 (Kunstwissenschaft)
(獨) 110

藝術活動 (Art activity) "

藝術現象 "

藝術考古學 (Archaeology of
art) "

藝術至上主義 (Art for art) ... "

藝術衝動 (Art impulse) "

藝術即人格 "

藝術的人格 "

藝術の起原 (Origin of art) 111

藝術の製作 (The creation of
art) "

藝術の爲の藝術 (Art for
art) 112

藝術の定義 (Definition of art)
..... "

藝術の轉換 (Transposition of

art) "

藝術的良心 113

藝術の宮 (Palace of art) "

藝術派 (Art for art
school) "

藝術美 (Beauty of art) "

藝術の分類 (Classification of
art) "

藝術本能 (Art impulse) 114

形而下學 (Concrete science) "

形而上學 (Metaphysics) "

輕文學 (Light literature) ... "

教訓劇 (Moral play) "

共産主義 (Communism) "

痙攣派 (Spasmodic) ... 115

劇の起原 (Origin of drama) ... "

劇 (Drama) "

劇場 (Theatre) 117

劇詩 (Dramatic poetry) 118

劇的經濟 (Dramatic econo-
my) "

決定論 (Determinism) "

ケーテンス (Cadence) "

教會音樂 (Sacred music) "

教會劇 (Church drama) ... 119

教訓詩 (Didactic poem) ... "

ケルト文藝復興 (Celtic re-
naissance) 120

鍵盤器 121

言語曖昧説 (Theorie de
jobscorete) (佛) "

言語學 (Philology) "

原始藝術 (Primitive art) "

現在法(Vision) *
 現實感又は現實味(Wirklichk-
 eitssinn) (獨) 122
 現實暴露の悲哀 *
 現寫法(Vision) *
 原色(Primary colour) *
 源平盛衰記 *
 幻想美學(Illusion aesthetics) *
 建築(Architecture) 123
 建築家(Architect) *
 建築畫家(Architectural paint-
 er) *
 建築師ソルネス (Master
 builder Solness) *
 幻滅(Disillusion) 124
 元祿時代 *
 コ
 古アチツク畫派 (Old attic
 school of painting) 125
 工藝美術(Industrial art) *
 後期印象派(Post-impression-
 ist) *
 硬文學 *
 古學派 *
 五經(Pentateuch) 126
 絢彩色 *
 國家社會主義(State social-
 ism) *
 湖上派詩人 (Lake school
 poets) *
 ゴシック結社(Gothic union) *
 ゴシック建築(Gothic archi-
 tecture) 127
 ゴシック彫刻(Gothic sculp-
 ture) *
 個性(Individuality) *
 巨勢派 128
 語族(Family of langu-
 age) *
 古代樂器 (Ancient instru-
 ments) 130
 誇張法(Hyperbole) *
 古典(Classic) 131
 古典主義(Classicism) *
 コーネット(Cornet) *
 古風主義(Archaism) *
 胡粉繪(Distemper) *
 コーマス(Komas) *
 コーラス(合唱 Chorus) *
 コーラン (Koran) 132
 コリント・オーダー
 (Corinthian order) *
 コールド・カラー (寒色 Cold
 colour) *
 ゴルゴンス (Golgones) *
 コレクション(Collection) ... *
 コロタイプ(Colotype) *
 コロツサス(巨像 Colossas) 133
 コロツセウム(Colosseum) ... *
 コンヴェンション(Cnven-
 tion) *
 コンサート(Concert) *
 今昔物語 *
 コントラ・ダンス
 (Contra-dance) *

コントラスト(對照 Contrast) *
 コンポジショナルリズム
 (Compositionalism) *
 サ
 罪惡の聖書(Bible of sins) ... 136
 サイクロローピーズ(Cyclopes) *
 最後の晩餐(The last supper)
 *
 裁斷的批評(Judicial criticism)
 *
 催馬樂 *
 材料美(Material beauty) 137
 サイラーネス (Sirenes) *
 相對(Relativeness) *
 想像(Imagination) *
 創作(Creation) *
 壯美(Sublime) *
 サクラメント(聖晚餐式 Sacra-
 ment) 138
 サクンタラ姫 *
 挿畫(Illustration) *
 サタニスト(惡魔派 Satanist)
 *
 サターン(Saturn) *
 サチルズ(Satyrs) 139
 薩摩琵琶 *
 サディズム(Sadism) *
 里神樂 *
 サニズム (Sanism) *
 サフオイズム (Saphoism) ... *
 サブ・タイトル (字幕 Sub-title)
 140
 三味線 *
 サモス派(Samosian school
 of sculpture) *
 小夜曲(Serenade) *
 サラセン建築(Saracenic ar-
 chitecture) *
 猿樂 *
 サロメ(Salome) *
 觸手ある都會 (Les villes
 tentaculaires) (佛) 141
 三一致(Three unity) *
 三色版 *
 サンタ・クロース (Santa
 Clause) *
 三段論法(Syllogism) ... 142
 サンジカリズム(Syndicalism)
 *
 三人稱(Third person) *
 サン・ピエトロ寺(Basilica di
 S. Pietro) (伊) *
 散文劇(Prose drama) *
 散文詩(Prose poem) 143
 シ
 詩 (Poetry) 145
 詩の起原(Origin of poetry) ... *
 詩の形式(Forms of poetry)
 146
 詩の分類(Classification of
 poetry) *
 シアトリカル (芝居的 The-
 atrical) 147
 自由射手(Der Freischütz)(獨) *

自由藝術(Free art)..... "	ness of nature)..... "
自由劇場(Free theatre)..... "	自然美(Beauty of nature)152
自由詩(Verslibre)(佛).... 148	時代錯誤(Anachronism)..... "
修辭學(Rhetoric)..... "	時代思潮(Current thought)..... "
シイバン・アチツク畫派 (Theban attic school of painting)..... "	時代物..... "
獸的自然主義(Bestial natu- ralism)..... "	室樂(Chamber music)..... "
シエナ畫派(Sienese school of painting)..... "	家驗美學(Experimental aes- thetics)..... 153
シオター (Jota)..... 149	實驗小説..... "
自我實現說(Self-realization) "	實在(Reality)..... "
時間藝術(Leikunst)(獨)..... "	實用主義(Pragmatism)..... "
色音符(Colour note)..... "	失樂園(Paradise lost)..... "
色彩の樂人(Colour mu- sician)..... "	詩と散文(Poem and Prose)154
色彩聽覺(Audition colour)..... "	使徒(Apostle)..... "
シキョーニアン畫派 (Sikyonian school of painting)..... 150	シート・ミュヅク(Sheet- music)..... "
シクロプス(Cecrops)..... "	支那劇(Chinese drama)..... "
自己告白劇(Ich-drama)..... "	支那建築(Chinese architec- ture)..... 155
自己表現本能(Self-exhibit- ing impulse)..... "	死の勝利(Trionfo della morth)(伊)..... "
シーシユース(Theseus)..... "	死の舞踊(Dance of death) 156
シシリアナ(Siciliana)..... "	芝居の幕..... "
シースケープ(Seascape)..... "	シバリチズム(淫樂主義 Syba- ritism)..... "
自然主義(Naturalism)..... "	シムメトリー(左右均齊 (Symmetry)..... "
自然に歸れ..... 151	城廓文明..... "
自然人と倫理人(Natural man and Ethical man)..... "	象形文字(Hierograph)..... "
自然の無關心(Indifferent-	象徴(Symbol)..... "

象徴詩(Symbolical poetry) "	formalism)..... "
象徴的藝術(Symbolic art)..... "	主觀の燃焼..... "
象徴的色彩(Symbolic colour) 160	宿命論(Fatalism)..... "
情操(Sentiment)..... "	受難劇及受難樂(Passion and passion-music)..... "
情熱派(Passionist)..... "	シユライ・ドラマ(叫喚劇 Schurei-drama)(獨)..... 167
薔薇小説..... "	シユレジャ詩社..... "
社會の支柱(Pillar of society) 161	ジユルミニー・ラセルトウ (Germinie Lacerteux)(佛) "
社會主義(Socialism)..... "	シユローブ派詩人..... "
社會連帶主義(Solidalite sociale)(佛)..... 162	シユローメン詩社..... "
ジャコピン式建築(Jacobin architecture)..... "	純イギリス・ルネサンス建築 (Pure english Renaissance architecture)..... 168
ジャコンヌ(Chaconne)..... "	純正藝術..... "
寫實主義(Realism)..... "	純文學..... "
ジャズ・バンド(Jazz band) 163	初期基督教繪畫(Early christ- ian painting)..... "
ジャーナリズム(Journalism) 164	初期基督教建築(Early christ- ian architecture)..... "
謝肉節劇(Fastnachtsspiel)(獨) "	序曲(Overture)..... 169
車輪舞臺(Wagon stage)..... "	抒情詩(Epic)..... "
シャーロック・ホルムス (Adventure of Sherlock Holmes)..... "	叙情詩(Lyric poetry)..... "
ジャン・クリストフ(Jean Cristpher)..... "	女性中心説(Gynaecocentric theory)..... 170
ジャンル(浮世繪Genre)(佛)..... "	シラ(Scylla)..... "
宗教樂(Religious music) 165	白樺派..... "
宗教藝術(Religious art)..... "	眞(Reality)..... "
主觀(Subject)..... "	新アチツク派(Neo-attic school)..... "
主觀主義(Subjectivism) ... 166	新印象派(Neo-impressionist) 171
主觀的形式説(Subjective	

新神納派(Young Wien) "
 新英雄主義(Neo-heroism) ... "
 神 歌..... "
 神 曲(Divine comedia) ... "
 新傾向句172
 シングスピール(Singspiel) 獨"
 人 生 派(Art for life school)
 "
 神 經 描 寫..... "
 人生の爲の藝術(Art for life)173
 人生の断片(Tranches de
 vie) (佛) "
 人道主義(Humanism)..... "
 新日本畫..... "
 審 美 學(Aesthetics) "
 神 秘(Mystery) "
 神秘主義(Mysticism).....174
 神 秘 劇(Mysteries) "
 審美的藝術觀 (Aesthetic
 view of art) "
 シンフォニー(Symphony) ... "
 シンフォニック・ゴーエム
 (詩風交響樂(Symphonic
 poem)175
 シーン・ペインティング(畫割
 (Scene painting) "
 シンボル(象徴Symbol) "
 シンボリズム(Symbolism) ... "
 新約聖書(The new testa-
 ment) "
 新ラファエル前派(Neo-Pre-
 raphaelites) "
 心理學的美學(Psychological
 aesthetics)176
 新理想主義(Neo-idealism) ... "
 心力調和説(Theory of the
 harmony of mental facili-
 ties)..... "
 心理描寫..... "
 森林詩社..... "
 森林の文明..... "
 新羅馬式(Neo-Roman style)
177

ス

圖 案(Design)180
 水 彩 畫(Water colour)..... "
 ス イ ト(Suit) "
 推 理(Reasoning) "
 透 彫(Open work)..... "
 スカンデナヴィアの繪畫
 (Scandinavian painting) ... "
 スカンデナヴィアの劇
 (Scandinavian drama) ...181
 スケール(音階 Scale).....182
 スケッチ(寫生 Sketch)..... "
 スクエアー・ダンス (Square
 dance)..... "
 スケルツォ(Scherzo) "
 スコラチズム(碩頂哲學
 Scholasticism) "
 スタイル(様式 Style) "
 スタチュー(肖像 Statue) ...183
 スタジオ(畫室 Studio)..... "
 ステグマ(聖痕Stigma)..... "
 スチル・ライフ(静物畫 Still-

life) "
 スツールム・ウン・ドラング
 (狂飆勃起 Sturm und
 drang) (獨)..... "
 ステインド・グラス(硝子繪
 Stained glass)..... "
 ステージ・ダンス (Stage
 dance)..... "
 ステール(Stele)184
 ストリング・クワルテット
 (絃樂四部合奏String quar-
 tet) "
 ストール(Stall) "
 砂時計(The hour glass)..... "
 スパイヤー (Spire)185
 スパスマチック派(痙攣派
 (Spasmodic) "
 スパニッシュ・ルネサンス
 建築(Spanish renaissance
 architecture) "
 スフィンクス(Sphinx)..... "
 スペクトラム (Spectrum) ... "
 スペイン・ゴシック建築
 Spanish Gothic architec-
 ture)..... "
 滑り舞臺..... "
 スポークン・タイトル(挿入
 臺詞 Spoken title).....186
 住 吉 派..... "
 ス ラ プ(Slav) "
 スラップ派又はスラップ主義..... "

生活意志(Wille zum leben)
 (獨)..... 183
 世紀の痼疾 (Fin de siecle
 decease) (佛) "
 世 紀 末(Fin de siecle) (佛) "
 世紀末的恐怖(Fin de siecle
 excite) (佛)..... 189
 清 教 徒(Puritan)..... "
 成型美術(Plastic art) "
 静 劇(Static drama) "
 静 止 法(Cadence) "
 政 治 劇(Political drama) 190
 星 叢 派..... "
 聖 書 (Bible) "
 青 踏 派(Blue stocking)..... "
 青年同盟(The league of
 youth)..... "
 正 反 合191
 静 美(Static beauty)..... "
 静 物 畫(Still life) "
 聖 母(Holy mother) "
 西洋建築(Western architec-
 ture) "
 セグイリアの理髮師(Bardiere
 di Seviglia) (伊) "
 小 說(Fiction)..... "
 小説の四期(Four periods of
 the novel)192
 少女小説..... "
 少年ドイツ派 (Junge deuts-
 chland) (獨) "
 小 主 観(Minor subject) ...193
 省 略 法 (Elleipsis) "

セ

世界主義(Cosmopolitanism) (獨) 199
 世界の四大詩聖
 世界の醜化(Verhasslichung der welt) (獨)
 セスイツト派(Jesuit)
 セセツション(Seccession) ...194
 セセツションニスト(分離派 Secessionist).....
 設疑法(Interrogation).....
 絶對(Absolute).....
 絶對藝術觀(Artistic absolutism)195
 刹那主義(Momentalism).....
 説理批評(Rational criticism).....
 セミス(Themis)
 セメリー(Semele).....
 セリ上げ.....
 セロ(Violin cello)
 世話物.....
 線畫196
 戦争と平和(War and peace).....
 センダ・アベスタ(Zenda Avesta)
 センチメンタリズム(感傷主義 Sentimentalism)
 セント・ペテロ(St. Peter) 197
 セント・ポール(St. Paul) ...
 セントール(Centour)
 漸層法(Climax).....
 漸墜法(Anticlimax).....

ソ

造形美術(Bildende kunst) (獨) 199
 象牙の塔(Ivory tower)
 綜合藝術200
 造句法.....
 裝飾(Ornament)
 裝飾畫(Decorative painting)
 裝飾説(Theory of decoration)
 裝飾美術(Decorative art) ...
 俗樂(Secular music) ...
 即興詩(Extempore)201
 俗建築(Secular architecture)
 續句(Sequentia)
 屬性(Attribute).....
 ソムナムバリズム(Somnambulism)
 ソナータ(Sonata)202
 ソナチナ(Sonatina)
 ソネット(拾四行詩 Sonnet).....
 ソライズム(Zolaism)
 ソルフア唱法(Solfa)
 ソロ(獨唱 Solo)203
 村落小説(Dorf-geschichte) (獨)
 ダ
 ダイアナ(Diana).....204
 ダイオニソス型(Dionische) (獨)
 第一印象(First impression).....
 對位法樂.....

對偶法(Antithesis).....205
 第三者(The third person) "
 第三帝國(Third empire) ... "
 對象法(Contrast) "
 大主觀..... "
 第四の壁..... "
 タイス(Thais) "
 對照(Contrast) 206
 タイタン(Titans) "
 第八藝術(The eighth art) ... "
 タイプ(典型 Type) "
 ダビッド・コツパーフィールド(David Copperfield) ... 209
 ダブル・エキスポジユア(Double exposure) "
 ダブル・バス(Double bass) ... "
 タボル(Tabor) "
 ダマスクスへ(To Damascus) "
 多様の統一(Unity of multiplicity)..... "
 タラントラ(Tarantella)(伊) ... "
 多淚的喜劇(Comedie larmoyante) (佛) 210
 斷案 Decision) "
 丹繪..... "
 タンゴ・ダンス(Tango dance)..... "
 暖色(Warm colour)..... "
 タンタダールの死(Le mort de Tintagiles)(佛)..... 211
 耽溺..... "
 耽美主義(Aestheticism) "
 短篇小説(Short-story)..... 212

タンホイセル(Taunhoiser(獨) "
 タンボリン(Taunbourine) 213

チ

抽象(Abstraction)..... 214
 抽象美(Abstract beauty) ... "
 抽象理想説(Abstract idealism) "
 中部伊太利ローマネスク建築(Italian romanesque architecture) 215
 智慧文學(Wisdom literature) "
 チオ派(Chio school) "
 智識説(Intellectualism) ... "
 智識派..... "
 父(The Father)..... "
 地方色(Local colour) ... 216
 小さいアイヨルフ(Little Eyolf) "
 長篇小説(Novel) "
 着想(Conception)..... "
 チャーチ(教會 Church) "
 チャートル(Theatre) "
 中世(The middle age) 217
 中世劇(Play of middle age) "
 中篇小説(Novellet) 218
 チュウドル式建築(Tudor style) "
 チュピター(Jupiter)..... "
 チュノー(Juno)..... "

直観(Intuition)..... 219
直喩法(Simile)..... "
ジレンマ(Dilemma)..... "
沈鐘(Die Versunkene
glocke)(獨)..... "
チェリー(Cherry)..... "

ツ

追走曲(Canon)..... 220
ツオイロスの颯(The swod
of zoilos)..... "
月並..... "
罪と罰(Crime and puni-
chment)..... "
冷たい技巧(Icy artificiali-
ty)..... 221
釣合い(Balance)..... "
ツール派(Tour school)..... "
ツキツシエンスピール(Zwis-
chenspiel)(獨)..... "

テ

帝國主義(Imperialism).... 222
低徊趣味..... "
提喩法(Synecdoche)..... "
彫金(Chasing)..... "
彫刻(Sculpture)..... 223
彫刻的見方(Tectonic point
of view)..... "
超自然(Supernatural)..... "
超人(Superman)..... "
超絶派(Trancendenta-
list)..... "

朝鮮藝術(Korean art)..... "
彫像(Statue)..... 224
彫版(Engraving)..... "
調和(Harmony)..... "
テカダンス(類廢期 Deca-
dance)..... 225
テカダン象徴派(Decadent)
..... "
テクニツク(技巧 Technic).... "
哲學(Philosophy)..... 226
哲學派(Philosophic school) "
哲人主義..... "
徹底自然主義(Konsequenter
naturalismus)(獨)..... "
疊音法(Refrain)..... 227
テメテル(Demeter)..... "
テエオ・ドラマ(對話劇 Duo-
drama)..... "
テラ・コツタ(Terra cotta).... "
田楽返し..... "
傳統主義(Traditionalism).... "
田園詩(pastoral poem)
..... 228
點彩派(Pointillist)..... "
テンペラ(Tempera)..... "
天馬(Pegasus)..... "
デンマーク畫派(Danish
school of painting)..... "
天路歷程(Pirigims progress)
..... 229

ト

ドイツ畫派(Gerrnan school

of painitng)..... 231
ドイツ劇(German drama).... "
ドイツ・ゴシック建築
(German gothic archi-
tecture)..... 233
ドイツ新古典主義(German
neo-classicism)..... "
ドイツ彫刻(German sculp-
ture)..... 234
ドイツ・ルネサンス建築
(German renaissance archi-
tecture)..... "
ドイツ・ロマネスク建築
(German romanesque archi-
tecture)..... "
頭韻法(Alliteration)..... "
憧懐(Longing)..... 235
倒裝法(Hyperlation)..... "
動美(Active beauty)..... "
動物劇, 動物小説(Animal
drama, Animal story)..... "
東洋建築(Oriental archite-
cture)..... "
常盤津..... "
獨創(Original)..... "
獨創性(Originality)..... 236
獨白劇(Mono-drama)..... "
床山..... "
土佐派..... "
トスカ(Tosca)..... "
トライトーン(Triton)..... 237
トラヒスト派修道院(The
Trappist)..... "

ドラマチック・ポエトリ
ー(劇詩 Dramatic poe-
try)..... "
ドラマチック・ミュージッ
ク(劇音楽 Dramatic
music)..... "
トランセプト(Transept)..... "
トリオロジー(三部曲 Triolo-
gy)..... 238
ドリヤ・オーダー(Doric
order)..... "
トルソー(Torso)..... "
ドレスデン派(Dresden scho-
ol of sculpture)..... "
トロンボーン(Trombone).... "
トランペット(Trumpet)..... "
ドン・キホーテ(Don Xi-
potte)..... 239
ドン・キホーテ型(Don
Xipotic type)..... "
ドン・ジョヴァンニ(Don
Giovanni)..... "
どん底(The lower depth
..... 239

ナ

内容(Contents)..... 241
内容美(Inhaltcheschon)
(獨)..... "
内面描寫..... "
長唄..... "
ナナ(Nana)(佛)..... 242
何も無い國(Where there

in nothing)
 ナポリ畫派 (Neaplitan school of painting).....
 ナポリ樂派 (Neaplitan school of music).....
 奈落移動舞臺 (The sliding stage in the basement) .. 243
 南 蕨 派.....
 南部伊太利ローマネスク建築 (Southern Italian romanesque architecture).....
 軟 文 學 (Light literature) 244

ニ

ニイベルンゲンの指環 (Der ring des Nibelungen) ... 245
 ニ オ ベ (Niobe)
 錦 繪.....
 肉 感 派 (Freshly school).....
 二 元 論 (Dualism).....
 日本美術院..... 246
 鏡.....
 ニ ュ ー フ (裸体 Nude)
 人形の家 (Doll's house)
 人 間 美 (Human beauty).....
 認 識 論 (Epistemology)..... 247
 ニ ン フ (Nymph)
 ニツク・ネーム (Nick-name).....
 ニヒリズム (虚無主義 Nihilism).....
 ニンフォメニヤ (Nymphomania).....

ヌ

ヌウベル (中篇小説 Nouvelle) (佛) 247
 ヌウエイリス (Newellise) (佛)
 ヌーボ-式 (Nouveaux) (佛) 248
 ヌボーリシユ (Nouveaux riches) (佛).....

ネ

ネオ・アイデアリズム (新理想主義 Neo-Idealism) ... 248
 ネオ・ギリク (Neo-Greek).....
 ネオ・ローマンチズム (新浪漫主義 Neo-Romanticism).....
 ネザ-ランド樂派 (The Netherlands school) 249
 鼠の塔 (Tower of Rats).....
 涅 槃.....
 ネプチウン (Neptune)..... 250

ノ

ノイム記譜法 (Noim method) 250
 能 樂.....
 能 狂 言..... 251
 能 舞 臺.....
 野 鴨 (The wild duck) ...
 ノクターヌ (夜曲 Nocturn).....
 ノートルダム (Notre Dame

de paris)
 ノーベル賞金 (Nobel prize).....
 ノルマ (Norma) 253
 ノルマン建築 (Norman Architecture).....

ハ

ハアキユリーズ (Hercules) 254
 ハアシユース (Perseus)
 ハアスト (胸像 Bust)
 ハアセピード (Passepied) (佛) 255
 俳 畫.....
 俳 主 観.....
 ハアズ・アイ・ビュー (鳥瞰圖 Birds eye view)
 ハイマアトクンスト (郷土藝術 Heimatkunst) (獨).....
 背 景 (Back ground).....
 バイブル (聖書 Bible)
 ハイ・レリーフ (高肉彫 High relief) 256
 法 悦 (Ecstasy).....
 貌 技.....
 博愛主義 (Philanthropy)
 博 物 館 (Museum).....
 バジリカ (Basilica) 257
 パストラル (Pastoral)
 奏 繪.....
 パヅア派 (Pazuan school) ...
 バツグ・パイプ (Bag pipe)..... 258
 パツジョン・アンド・パツジョン・ミュージック (Passion and passion music).....

花 道.....
 パネル畫 (Panel painting) ... 259
 埴 輪.....
 パノラマ (Panorama)
 ハバネラ (Habanera)
 ハ-プ (堅琴 Harp)
 バベルの塔 (Tower of Babel)
 バ-ム (棕櫚 Palm)..... 260
 ハムレット (Hamlet).....
 ハ-モニー (調和 Harmony) 260
 パラダイス・ロスト (失樂園 Paradise lost)
 パラツド (俗謠 Ballad).....
 バランス (釣合 Blance) ... 261
 巴里樂派 (Paris school of music)
 パリス (Paris)
 バルカロール (船唄 Barcarole) 262
 パルテノン (Parthenon)
 パルナツシアン (高踏派 Parnassian)
 ハルレ詩社.....
 バレ- (Ballet)
 バ-レスク (Burlesque)
 バ・レリーフ (薄肉彫 Bas relief) 263
 バレット (調色板 Palette).....
 バロツク建築 (Baroque Architecture).....
 バロツク裝飾 (Baroque Ornament)
 パ ン (Pan)

パンシーズム(汎利論Panthe-
 ism) 264
 萬秋集..... "
 パンテレ派..... "
 ハンガリアン・ダンス
 (Hungarian dance) "
 煩瑣哲學 (Scholasticism) ... "
 牛獸主義(Savagepathy) "
 伴奏(Accompaniment)..... "
 パンタロン(Pantalon)(佛) ... "
 パントマイム(身振狂言
 Pantomime) 265
 パンドーラ(Pandora) "
 パンドーラの筐(Pandora's
 box) "
 ハンネレの昇天(Hannele's
 himmelfahrt)(獨) "
 反覆法(Repetition) "
 萬有照應(Correspondence) 266

ヒ

美 (Beauty) 267
 悲哀美(Touching beauty) 286
 ヒアノ(Piano forte) "
 美意識(Consciousness of
 beauty) "
 ヒウマニズム(人道主義
 Humanism) "
 比較批評(Comparative critic-
 ism)..... "
 美學(Aesthetics) "
 東山文庫..... 269
 ヒカレスク式小説(Picaresque

romance) "
 引抜き襖 270
 悲劇 (Tragedy) "
 ビクチャー(畫 Picture)..... "
 ビクチュアエスク(繪畫的
 Picturesque) "
 ピサの斜塔(Campanile Pisa) "
 ビザンチン藝術(Byzantine
 art) 271
 ビザンチン建築(Byzantine
 architecture)..... "
 ビザンチン繪畫(Byzantine
 painting) "
 美術(Fine art) "
 美術解剖學(Anatomy)..... "
 美術の爲の美術(Art for art) "
 ヒストリカル・ペインティング
 (歴史畫 Historical paint-
 ing) 272
 悲壯美(Tragic)..... "
 七星(Seven stars)..... "
 美即眞(Le beau c'est le
 vrai)(佛)..... "
 人と超人(Man and super-
 man) 273
 人の一生(Life of a man) ... "
 否定命題(Negative proposi-
 tion) "
 美的印象(Aesthetical impres-
 sion) "
 美的快感 "
 美的生活論 "
 美的判断(Aesthetic judge-

ment) 274
 悲人情..... "
 日の出前(Vor sonnenauf-
 gang)(獨) "
 批評(Criticism) "
 批評三原則(Three laws of
 criticism) 275
 百姓(Farmer) "
 ヒヤシンス(Hyacinthus)..... "
 ビュー・ア・リテラチュア(純
 文學 Pure literature) ... 276
 ビューリタン(清教徒 Puritan)
 "
 ピラミッド(金字塔 Pyramid) "
 ビーリオス・シリーン及イーオ
 ース(Pelios, Selenes, Eos) "
 "
 比喩法(Figure) "
 フ

フアウスト(Faust)(獨) 277
 フアンタジー(空想 Fantasy)
 278
 フアン・ド・セークル(世紀末
 Fin de Si.cle) (佛)..... "
 フィガロの結婚(Le nozze di
 Figaro)(伊)..... "
 フィナーレ(Finale) "
 フィニシヤ及小亞細亞の繪畫
 279
 フィロソフィー(哲學Philoso-
 phy) "
 風景畫家(Landscape painter)

..... "
 風俗喜劇(Comedy of man-
 ner)..... "
 諷喻詩(Allegorical poem) "
 フェアリー・テール(お伽新
 Fairy tales) "
 フェータリズム(宿命論Fatal-
 ism)..... "
 フェミニズム(女人主義
 Feminism) "
 フェララ派(Ferrarese school
 of painting)..... 280
 フォク・ドラマ(賤民劇Folk-
 drama) "
 フォスフォル(Phosphor)..... "
 フォスフォリスト運動(曉星
 運動 Phosphorist move-
 ment) "
 フォーラム(Forum) "
 フォルテ(Forte)(佛) "
 フォルチュニー式舞臺照明法
 Foutuny system)..... 281
 フォンテンプロー派 "
 不可知論(Agnosticism) "
 復音樂 "
 婦人問題(Woman's prob-
 lem) 282
 婦人解放(Emancipation of
 woman) "
 舞臺藝術(Theatre) "
 舞臺照明(Stage enlightening) "
 舞臺監督(Regisseur) (佛) ... 283
 二のHと四のR "

布置法……………^{*}
 佛教美術(Art of Buddhism)
 ……………284
 物質主義(Materialism) ……^{*}
 舞 踏(Dance) ……………^{*}
 舞 踏 曲(Dance music) ……^{*}
 踏 繪 ……………285
 フューチャリズム(未來主義
 Futurism) ……………^{*}
 プラグマチズム(Pragmatism)
 プラマ(梵)……………^{*}
 プラスチック・アート(成型
 藝術(Plastic art) ……………^{*}
 プラトニック・ラブ(聖愛
 Platonic love)……………286
 フランス劇(French drama)^{*}
 フランス畫派(French school
 of painting)……………288
 フランス・ゴシック式建築
 (French gothic architec-
 ture) ……………289
 フランシスク・サルセイ
 (Francisque sarcey)…………^{*}
 フランス彫刻(French sculp-
 ture) ……………^{*}
 フランス・ルイ式(Louis
 style, France) ……………^{*}
 フランス・ルネサンス建築
 (French renaissance ar-
 chitecture)……………290
 フランス・ローマネスク建築
 (French romanesque ar-
 chitecture)……………^{*}
 ブランド(Brand) ……………^{*}
 フランボイヤント式
 (Flamboyant) ……………291
 ブリュエ・ストッキング・
 ソサイエテイ(青踏派Blue-
 stocking) ……………^{*}
 フリュート(Flute) ……………^{*}
 アルカンテ派……………^{*}
 プル・ド・セウイフ
 脂 球(Boule de suif)(佛)
 ……………^{*}
 プレイアード派(Pleiade
 school) ……………^{*}
 フレエシリー・スクール
 (肉感派 Freshly school) 292
 フレスコ鮮畫(Fresco)…………^{*}
 フレミツシ畫派(Flemish
 school of painting)…………^{*}
 プレ・ラファエライト(ラファ
 エロ前派 Pre-Raphaelites)
 ……………293
 プレリユード(前奏曲prelude)
 ……………^{*}
 プレーン・エア・スクール
 (外光派 Plain air school)^{*}
 プロクラースチズ(Procrustes)
 ……………^{*}
 プログラム・ミュージック(標題
 音樂 Program music) ……^{*}
 プロサアピン(Proserpine) 294
 プロミシユース(Prometheus)
 ……………^{*}
 プロテウス(Proteus) ……^{*}
 プロット(結構Plot) ……^{*}

プロテスタント(新教徒
 Protestant)……………^{*}
 プロファイル(Profile)…………^{*}
 プロポーション(權衡Proport-
 ion) ……………295
 プロレタリアット藝術
 (Proletariat art) ……………^{*}
 フローレンス畫派(Florentine
 school of painting)…………^{*}
 雰 圍 氣(Atmosphere)…………^{*}
 文 學(Literature) ……………^{*}
 文學の分類(Classification of
 literature) ……………296
 文 化(Culture) ……………^{*}
 文 藝(Literature) ……………^{*}
 文藝科學(Science of litera-
 ture)……………^{*}
 文藝の目的(Purpose of litera-
 ture)……………^{*}
 文藝批評(Criticism of litera-
 ture)……………297
 文藝復興(Renaissance) ……^{*}
 文 人 畫……………^{*}
 文明批評(Civil criticism)…298
 〰
 ペイガニズム(異教主義Pagan-
 ism) ……………300
 平家物語……………^{*}
 平治物語 ……………301
 平面描寫……………^{*}
 平 和 祭(Das friedensfest
 (獨)……………^{*}
 表現主義(Expressionism) ……^{*}
 表 現 派 ……………302
 表 現 説(Expression theory)
 ……………^{*}
 表 出 法(Expression)…………^{*}
 描 寫(Description)…………^{*}
 標題音樂(Program music)…^{*}
 表 象(Idea)……………^{*}
 壁 畫(Painture murale)
 (佛) ……………303
 ヘツダ・ガアブラー(Hedda
 Gabler) ……………^{*}
 ベニス樂派(Venetian school
 of music) ……………^{*}
 ベートーヴェン第九シムフォ
 ニー(Beethoven, Die neun-
 te symphonie)(獨) ……304
 ベニス畫派(Venetian school
 of painting) ……………^{*}
 紅 繪……………^{*}
 ペネロープ(Penelope) ……305
 ヘブライ主義(Hebraism)…………^{*}
 ヘラクレス(Heracles)…………^{*}
 ベラスギー建築……………^{*}
 ベラミー(美貌の友 Belami) 306
 ヘリオトロープ(Heliotrope)^{*}
 ヘルガモン彫刻派(Pergamum
 school of sculpture) ……^{*}
 ペルシヤの繪畫(Persian
 painting) ……………^{*}
 ヘルセウス(Perseus) ……^{*}
 ヘルメー(Hermae)…………307
 ヘルメスHermes)…………^{*}

ベルリン彫刻派(Berlin school of sculpture)..... " "
 ヘレナ(Helena)..... " "
 ヘレニスティック時代(Hellenistic period)..... " "
 ヘレニズム(希臘主義 Hellenism).....303

ホ

ホアンチリスト(點彩派 Pointillist).....309
 ホイコット(Boycott).....310
 報告的自然主義(Report naturalism)..... " "
 母音の色(Colour of vowels)..... " "
 ホーガス美線(Hogarth line) " "
 北 畫.....311
 北部伊太利亞ローマネスク建築(Northern Romanesque architecture)..... " "
 保元物語..... " "
 ボーズ(Pose)..... " "
 ポスト・インプレッションニスト(Post-impressionist)..... " "
 牧歌劇(Pastoral play)..... " "
 星の世界へ(To the stars) ... " "
 ボットホイラー(Potboiler) 312
 没理想(Non-ideal)..... " "
 ボルカ(Poika)..... " "
 ホルン(Horn)..... " "
 ホロネーズ(Polonaise)(佛).... " "
 ホロニヤ畫派(Bolognese school of painting)..... " "

ボヴァリー夫人(Madame Bovary).....313
 汎神論(Pantheism)..... " "
 ボンチ繪(Punch)..... " "
 本能(Instinct)..... " "
 本能満足説..... " "
 翻譯(Translation).....314
 本讀み..... " "
 本來自然主義(Naturalism proper)..... " "

マ

マアキユリー(Mercury) ...316
 マイカウバリズム(Micawberism)..... " "
 前舞臺, 突出し舞臺(Far stage, Apron)..... " "
 幕 繪..... " "
 幕 (Curtain)..... " "
 マクベス(Macbeth)..... " "
 増 鏡..... " "
 マズツヒズム(Masochism).... " "
 マズルカ(Mazurka).....318
 マーチ(行進曲 March)..... " "
 末 人..... " "
 マテリアリズム(Materialism)..... " "
 マルテ・ドロサ(Mater dolorosa)(拉)..... " "
 マドリガル(Madrigal).....319
 マドンナ(Madonna)..... " "
 魔 笛(Zauberflots)(獨).... " "
 マニユスクリプト

(手寫本 Manuscript)..... " "
 マノン(Manon)..... " "
 マリー・ペインター(海洋畫家 Marine painter)..... " "
 マルホフ式..... " "
 丸 形..... " "
 マロー派..... " "
 マンネリズム(Mannerism) 320
 廻り舞臺(Revolving stage) " "
 マンドリン(Mandolin)..... " "
 萬葉集..... " "

ミ

ミカド劇(Mikado-drama) 322
 ミ サ(Mass)..... " "
 密 畫..... " "
 身振狂言(Pantomime)..... " "
 ミモドラマ(Mimo-drama) 323
 ミュージック・ドラマ(樂劇 Music drama)..... " "
 ミューズ(The Muses)..... " "
 ミューヘン派..... " "
 未來派(Futurism)..... " "
 未來派劇(Drama of futurist) " "
 ミラン畫派(Milanese school of painting).....324
 見る音樂(Visible music)..... " "
 民衆藝術(Volkskunst)(獨).... " "
 民衆の敵(The enemy of people).....325
 民情派(Pochiwennik)(露) " "
 民族性(Fork character).... " "
 民族精神(Fork spirit)..... " "

民族詩(Volksdichtung)(獨)..... " "
 ミンストレル(Minstrel)..... " "
 民謡歌劇(Ballad-opera) ... 326
 民 謡(Folk song)..... " "

ム

ムーア式(Moorish).....327
 無言劇(Melo-drama)..... " "
 無言譜(Lieder ohne worte)(獨)..... " "
 無私的快感..... " "
 無神論(Atheism)..... " "
 無政府主義(Anarchism) ...328
 ムード(氣分 Mood)..... " "
 ムーンライト・ソナタ(Moonlight sonata)..... " "

メ

迷 宮(Rabyrinth).....328
 命 題(Proposition)..... " "
 メエルヘン・ドラマ(Mahelchen drama)(獨).... " "
 明 暗(Chiaroscuro)(伊)329
 冥府及冥府の諸神(Hades and gods in Hades)..... " "
 メズウーサ(Medusa)..... " "
 メデア(Medea).....330
 メヌエツト(Menuetto)(伊).... " "
 メロデー(旋律 Melody)..... " "
 メロドラマ(Melo-drama).... " "

モ

膝 膾 派…………… ”
 木 炭 畫(Charcoal drawing)
 …………… ”
 モザイツク(Mosaic)…………… ”
 模 寫 論(Copy theory) ……332
 モ ス ク(Mosque) …………… ”
 モ ー チ ヅ(Motive)…………… ”
 モ デ ル(Model)…………… ”
 モ ニ ュ メ ン ト(Monument) …… ”
 モ ノ グ ラ ム(Monogram) ……333
 モ ノ ド ラ マ(Mono-drama) …… ”
 モ ノ ロ ー グ(獨白 Monologue)
 …………… ”
 模 倣 藝 術(Imitative arts) …… ”
 模 倣 說(Imitation theory) ”
 問 題 小 説 ……………334
 問 答 法(Dialogue)…………… ”
 モ ン ナ ・ ヲ ン ナ (Monna
 Vanna) …………… ”

ヤ

倭 畫 復 古 派 ……………335
 大 和 繪…………… ”
 闇 の 力(Power of darkness)
 …………… 336
 野 郎 歌 舞 伎…………… ”

ユ

唯 心 論(Spiritualism)…………337
 唯 物 史 觀(Die materialistische
 geschichtsauffassung) …… ”
 唯 美 主 義(Aestheticism) …… ”
 唯 物 論(Materialism) …… ”

遊 戲 說(Play impulse) ……338
 有 機 體(Organism)…………… ”
 遊 戲 的 快 感 說…………… ”
 有 神 論(Theism) …………… ”
 遊 離 的 快 感 說…………… ”
 幽 靈(Ghost) …………… ”
 遊 蕩 文 學 ……………339
 ユ ー ト ピ ア(理想郷Utopia) …… ”
 ユ ー モ リ ス ト(Humorist) …… ”

ヨ

餘 韻 ……………340
 用 器 畫…………… ”
 謠 曲 ……………341
 横 畫…………… ”
 餘 情…………… ”
 羊 皮 紙(Parchment) …… ”
 讀 み 合 せ…………… ”
 餘 韻 派…………… ”

ラ

ラ オ コ オ ン(Laocoon) ……342
 樂 天 主 義(Optimism) …… ”
 ラ ・ ジ オ コ ン ダ(La Gioconda)
 …………… ”
 裸 體 美 術(Nude) …………… ”
 ラ テ ン 文 學(Ratin literature)
 ……………343
 ラ ビ リ ン ス(迷宮Labyrinth) ”
 ラ フ ア エ ロ 前 派
 (Pre-Raphaelites) …… ”
 ラ プ ソ テ イ(Rhapsody) ……344
 ラ ン ゲ ド ツ ク 派(Languedoc) ”

ラ ン ソ ー(Rinceau) (佛) …… ”

リ

リ ー ア リ ズ ム(寫實主義
 (Realism)……………345
 梨 園…………… ”
 利 己 主 義(Egoism)…………… ”
 リ ゴ レ ッ ト(Rigoletto)…………… ”
 リ サ イ タ ル(Recital) ……346
 リ ズ ム(律動 Rhythm) …… ”
 リ ズ ミ ズ ム(Rhythmism) …… ”
 理 想(Ideal)…………… ”
 無 想 主 義(Idealism) …… ”
 理 想 化(Idealize) …… ”
 理 想 畫 ……………347
 理 想 小 説(Ideal novel) …… ”
 理 性 論(Rationalism) …… ”
 リ ー ダ(Leda)…………… ”
 利 他 主 義(Altruism)…………… ”
 リ タ ッ チ(Retouch) …… ”
 律 格…………… ”
 律 語(Verse) ……348
 立 體 派(Cubism) …… ”
 リ ッ プ ・ ヴ ザ ン ・ ウ イ ン ク ル
 (Lip Van Winkle) …… ”
 リ ー フ(Leaf) ……349
 兩 刀 論 法(Dilemma) …… ”
 リ ヤ 王(King Lear) …… ”

ル

ル ウ ビ ン ス タ イ ン 賞
 Rubinstine prize) ……351
 類 典(Type) …… ”

ル ー ゴ ン ・ マ ッ カ ー ル 叢 書
 (Les Rougons Macquart) ”
 ル シ ア ン ・ バ レ ー (Russian
 ballet)…………… ”
 ル ツ カ 畫 派 (Luccan school
 of painting) ……352
 ル ネ サ ン ス(文藝復興
 Renaissance)…………… ”
 ル ネ サ ン ス 期 の 彫 刻
 (Renaissance sculpture) 353
 ル ネ サ ン ス 建 築(Renaissance
 architecture)…………… ”

レ

レ ア ン デ ル (Leander) ……354
 靈 感(Inspiration)…………… ”
 靈 の 覺 醒(Reveil de L'ame)
 (佛)…………… ”
 歴 史 派(Historical school)
 ……355
 歴 史 小 説(Historical novel) ”
 歴 史 畫(Historical Painting)
 …… ”
 レ シ タ チ ヅ(宣情調Recitative)
 レ セ ー(Lethe)……………356
 レ ッ ド ・ フ ラ グ(赤旗 Red
 flag)…………… ”
 レ ・ ミ セ ラ ブ ル(Les miserable)
 (佛)…………… ”
 レ リ ー フ(浮刻 Relief)…………… ”
 戀 愛(Love)…………… ”
 戀 愛 の 喜 劇(Love's comedy) ”
 戀 愛 法 庭(Court of love) …… ”

煉 獄(Purgatory) "

レント(濟期 Lent) "

ロ

ロ-カル・カラー(Local colour) 359

ロケーション(Location)..... "

ロココ建築(Rococo architecture) "

ロゴス(Logos) "

ロシア樂派(Russian school of music) "

ロシア象徴主義(Russian symbolism) 360

ロシア畫派(Russian school of painting) "

ロシア劇(Russian drama)..... "

ロシア舞踊(Russian ballet) 361

ロスメルスホルム(Rosmersholm) "

ロビンソン・クルーソー Robinson Crouse) 362

ロマ音楽(Roman music)..... "

ロマ樂派(Roman school of music) "

ロマ派(Roman school of architecture) 363

ロマネスグ建築(Romanesque architecture)..... "

ロマ劇(Roman drama)..... "

ロ-ドス派 364

ロマの建築(Roman architecture)..... "

ロマン主義(Romanticism) 365

ロマン主義運動(Romantic movement) "

ロマンス(物語Romance) 366

ロマンス講演(Romance lecture) "

ロマン主義音楽(Romantic music)..... "

ロマンチック(Romantic) 367

ロマンチスト 傳奇派(Romantist) "

ロ-ヤル・アカデミー(Royal academy) "

ロメオとジュリエット(Romeo and Juliet)..... "

ロンドー(Rondo)..... "

ロンバルディア畫派(Lomberd school of painting) 368

ワ

若きエルテルの悲み (Die Leiden des Jungen Werther)(獨) 68

若衆歌舞伎 "

脇狂言 369

忽忘草(Forget me not)..... "

和 様 "

ワルツ(Waltz) "

われらの死より醒むる日 (When we dead awaken) 370

(索引 終り)

文藝辭典

正價貳圓五拾錢

版權
所有

大正十四年六月五日印刷
大正十四年十月十日發行
大正十四年六月十五日再發行
大正十四年十二月三日發行
大正十四年六月廿五日發行
大正十四年五月五日發行

編輯者 創元社編輯部

發行者 矢部良策
東京芝區本橋西二丁目

印刷者 井下精一郎
大阪西區阿波中座通二丁目

發兌
賣所

東京芝區
本橋西二丁目
新橋區
新橋銀座

創元
書店

振替東京一五六五番
振替東京四〇四六六番

事和

31

終

